

1. 歴代会長

歴代会長

代	在任期間					氏名	逝去日		
1	1914	～	16	大正	3	～	5	故 古市公威	1934 年 01 月 28 日
2	16	～	17	〃	5	～	6	故 沖野忠雄	1921 年 03 月 26 日
3	17	～	18	〃	6	～	7	故 野村龍太郎	1943 年 09 月 18 日
4	18	～	19	〃	7	～	8	故 石黒五十二	1922 年 01 月 14 日
5	19			〃	8			故 白石直治	1919 年 02 月 17 日
6	19	～	20	〃	8	～	9	故 廣井 勇	1928 年 10 月 01 日
7	20	～	21	〃	9	～	10	故 仙石 貢	1931 年 10 月 30 日
8	21	～	22	〃	10	～	11	故 原田貞介	1937 年 09 月 30 日
9	22	～	23	〃	11	～	12	故 古川阪次郎	1941 年 03 月 02 日
10	23	～	24	〃	12	～	13	故 中原貞三郎	1927 年 12 月 02 日
11	24	～	25	〃	13	～	14	故 中山秀三郎	1936 年 11 月 19 日
12	25			〃	14			故 中島鋭治	1925 年 02 月 17 日
13	25	～	26	〃	14	～	15	故 日下部弁二郎	1934 年 01 月 22 日
14	26	～	27	〃	15	～	昭和 2	故 吉村長策	1928 年 12 月 20 日
15	27	～	28	昭和	2	～	3	故 市瀬恭次郎	1928 年 08 月 15 日
16	28	～	29	〃	3	～	4	故 岡野 昇	1949 年 04 月 28 日
17	29	～	30	〃	4	～	5	故 田辺朔郎	1944 年 09 月 07 日
18	30	～	31	〃	5	～	6	故 中川吉三	1942 年 08 月 01 日
19	31	～	32	〃	6	～	7	故 那波光雄	1960 年 04 月 01 日
20	32	～	33	〃	7	～	8	故 名井九介	1944 年 01 月 23 日
21	33	～	34	〃	8	～	9	故 真田秀吉	1960 年 01 月 20 日
22	34	～	35	〃	9	～	10	故 久保田敬一	1976 年 01 月 27 日
23	35	～	36	〃	10	～	11	故 青山 士	1963 年 03 月 21 日
24	36	～	37	〃	11	～	12	故 井上秀二	1943 年 04 月 04 日
25	37	～	38	〃	12	～	13	故 大河戸宗治	1960 年 01 月 16 日
26	38	～	39	〃	13	～	14	故 辰馬鎌蔵	1959 年 05 月 12 日
27	39	～	40	〃	14	～	15	故 八田嘉明	1964 年 04 月 26 日
28	40	～	41	〃	15	～	16	故 中村謙一	1943 年 02 月 26 日
29	41	～	42	〃	16	～	17	故 谷口三郎	1957 年 08 月 13 日
30	42	～	43	〃	17	～	18	故 草間 偉	1972 年 05 月 12 日
31	43	～	44	〃	18	～	19	故 黒河内四郎	1960 年 06 月 03 日
32	44	～	45	〃	19	～	20	故 鈴木雅次	1987 年 05 月 28 日
33	45	～	46	〃	20	～	21	故 田中 豊	1964 年 08 月 27 日
34	46	～	47	〃	21	～	22	故 鹿島精一	1947 年 02 月 06 日
35	47	～	48	〃	22	～	23	故 岡田信次	1986 年 03 月 22 日
36	48	～	49	〃	23	～	24	故 岩沢忠恭	1965 年 12 月 08 日
37	49	～	50	〃	24	～	25	故 吉田徳次郎	1960 年 09 月 01 日
38	50	～	51	〃	25	～	26	故 三浦義男	1965 年 02 月 08 日
39	51	～	52	〃	26	～	27	故 大西英一	1955 年 12 月 16 日
40	52	～	53	〃	27	～	28	故 稲浦鹿蔵	1978 年 03 月 31 日
41	53	～	54	〃	28	～	29	故 平井喜久松	1971 年 01 月 26 日
42	54	～	55	〃	29	～	30	故 青木楠男	1987 年 03 月 18 日
43	55	～	56	〃	30	～	31	故 菊池 明	1973 年 08 月 29 日
44	56	～	57	〃	31	～	32	故 平山復二郎	1962 年 01 月 19 日

45	57	～	58	〃	32	～	33	故 内海清温	1984 年 03 月 09 日
46	58	～	59	〃	33	～	34	故 米田正文	1984 年 06 月 20 日
47	59	～	60	〃	34	～	35	故 田中茂美	1997 年 07 月 03 日
48	60	～	61	〃	35	～	36	故 沼田政矩	1979 年 05 月 09 日
49	61	～	62	〃	36	～	37	故 永田 年	1981 年 12 月 31 日
50	62	～	63	〃	37	～	38	故 藤井松太郎	1988 年 02 月 14 日
51	63	～	64	〃	38	～	39	故 山本三郎	1997 年 10 月 15 日
52	64	～	65	〃	39	～	40	故 福田武雄	1981 年 01 月 06 日
53	65	～	66	〃	40	～	41	故 岡部三郎	1978 年 04 月 18 日
54	66	～	67	〃	41	～	42	故 篠原武司	2001 年 06 月 30 日
55	67	～	68	〃	42	～	43	故 富樫凱一	1993 年 04 月 21 日
56	68	～	69	〃	43	～	44	故 石原藤次郎	1979 年 10 月 02 日
57	69	～	70	〃	44	～	45	故 柳澤米吉	1995 年 01 月 31 日
58	70	～	71	〃	45	～	46	故 大石重成	1984 年 10 月 25 日
59	71	～	72	〃	46	～	47	故 高野 務	1981 年 08 月 09 日
60	72	～	73	〃	47	～	48	故 岡本舜三	2004 年 04 月 14 日
61	73	～	74	〃	48	～	49	故 飯田房太郎	1975 年 05 月 08 日
62	74	～	75	〃	49	～	50	瀧山養	
63	75	～	76	〃	50	～	51	尾之内由起夫	
64	76	～	77	〃	51	～	52	故 最上武雄	1987 年 12 月 15 日
65	77	～	78	〃	52	～	53	故 水越達雄	1994 年 06 月 12 日
66	78	～	79	〃	53	～	54	仁杉巖	
67	79	～	80	〃	54	～	55	故 國分正胤	2004 年 07 月 07 日
68	80	～	81	〃	55	～	56	高橋國一郎	
69	81	～	82	〃	56	～	57	故 八十島義之助	1998 年 05 月 10 日
70	82	～	83	〃	57	～	58	故 野瀬正儀	2002 年 07 月 17 日
71	83	～	84	〃	58	～	59	高橋浩二	
72	84	～	85	〃	59	～	60	岡部保	
73	85	～	86	〃	60	～	61	菊池三男	
74	86	～	87	〃	61	～	62	故 久保慶三郎	1995 年 05 月 30 日
75	87	～	88	〃	62	～	63	石川六郎	
76	88	～	89	〃	63	～	平成 1	内田隆滋	
77	89	～	90	平成	1	～	2	堀川清司	
78	90	～	91	〃	2	～	3	浅井新一郎	
79	91	～	92	〃	3	～	4	岩佐義朗	
80	92	～	93	〃	4	～	5	故 藤井敏夫	1999 年 01 月 06 日
81	93	～	94	〃	5	～	6	竹内良夫	
82	94	～	95	〃	6	～	7	中村英夫	
83	95	～	96	〃	7	～	8	小坂忠	
84	96	～	97	〃	8	～	9	松尾稔	
85	97	～	98	〃	9	～	10	故 宮崎明	2003 年 09 月 20 日
86	98	～	99	〃	10	～	11	岡田宏	
87	99	～	2000	〃	11	～	12	岡村甫	
88	2000	～	01	〃	12	～	13	鈴木道雄	
89	01	～	02	〃	13	～	14	丹保憲仁	
90	02	～	03	〃	14	～	15	岸 清	
91	03	～	04	〃	15	～	16	御巫清泰	
92	04	～	05	〃	16	～	17	森地茂	

2. J S C E 2000 (抜粋 第1章, 第2章)

第1章 はじめに

現在はあらゆる分野においてパラダイムの歴史的変換期であり、工学系学会においてもその転換に対する対応・改革が強く求められている。特に、土木分野を取り巻く国内外の社会環境は急速に変化しつつあり、21世紀を視座においた土木学会の改革が急務となっている。工学系学会が有すべき重要な機能として

- (1) Society としての会員相互の交流
- (2) 学術・技術の進歩への貢献
- (3) 社会に対する直接的な貢献

があるが、土木学会の改革に際してはこれらの機能が十分に果たしうるような体制を確立する必要がある。

これらの多様化・国際化している土木学会の諸問題を検討し、学会の企画運営を議論するとともに各部門にまたがる事項を審議するために平成8年8月に理事会に企画運営連絡会議が設立され、以下のような課題について検討を開始した。本報告は、平成9年度末までの検討結果の報告であり、今後更に検討を進めるものである。

第2章 土木学会改革の課題

企画運営連絡会議において、当初の議論により土木学会改革のための諸課題が以下のよう

2. 1 学会の将来構想

学会が将来にわたって活力を維持するためには、組織・学会の社会的役割・新分野の開拓などについて中長期的構想を持つことが必要である。そのためには、土木、さらには工学におけるリーディング学会としてのありかたを議論しなければならない。その重要な視点として、中立性の確保、学会構成員の倫理の確立がある。また、政府が科学技術基本計画を策定したことから、学会として科学技術政策の立案と提言を行うべきである。

2. 2 学会の制度

土木学会は急速に肥大化したために、規定類や組織が次々と付け加えられ、その結果極めて制度が錯綜している。そのために、定款や諸規定の見直し、学会役員選出法のありかた、表彰制度のありかた、全国大会のありかた、委員会のありかた、支部のありかたなどを検討しなければならない。特に委員会については、委員会の新設・改廃の基準の策定、統合の推進、委員会の分掌、委員会の時限性・委員会委員の任期制の導入、委員長を選出法の明確化、運営規定の整備、年次計画の策定、活動成果の公

表、自己評価など、数多くの検討課題がある。

2. 3 会員サービス

学会は会員の相互交流の場の提供、情報の提供を積極的に行う必要がある。さらに、未組織の研究者・技術者が新たに会員として入会しやすいような枠組みを提供するべきである。また、会員となるためのインセンティブが働くような学会とすべきである。

2. 4 人材育成

国際化および21世紀に向けた標準教育カリキュラムの策定、資格制度の充実、社会人リカレント教育の場の提供、委員会への若手・地方委員の登用など将来に向けた人材育成策をはかるべきである。

2. 5 学会の評価機能

国家財政が悪化している現在、社会基盤整備や防災施設の適正水準を議論する必要がある。その提言のために中立的立場にある学会が果たすべき役割は大きい。また、頻発する災害に際して、学会が緊急に対応し、中立的立場で原因を解明して国民に説明することは学会としての社会的責務であり、そのための組織を検討するべきである。学術研究や技術の正当な評価は学会が持つ最も重要な機能であり、この機能をさらに強化しなければならない。

これらの学会の社会的活動を社会に還元・普及するために、学会誌・各種出版物・市民行事・マスコミへの情報提供などにより、広報活動を積極的に行う必要がある。

2. 6 出版物

従来、学会出版物数が肥大化し、学会財務の悪化を招いた。学会出版物に関して出版の可否について公正な立場で吟味すべきであり、その後の在庫管理についても適正化を計る必要がある。著作権については、従来の慣習を引きずった形で、これが著者に帰属することになっている。しかしながら、その保護を制度的に保障し、かつ出版物に学会の方針を適切に反映していく柔軟性を付与する意味でも、著作権を欧米並みに学会に帰属させる方向が検討されるべきである。これは海外への窓口である英文論文集、英文広報誌についても共通の課題であろう。現在の5つの英文論文集は、日本の研究内容を広く海外に紹介する意図を持って、それぞれの個別の委員会の自主的な努力で創刊され、今日に至っている。しかしながら学会内の個別の委員会の制約を越えて、より広範な普及を図ることがこれから一層求められる。そのためには和文のオリジナル論文を英訳した著作に積極的な評価を与え、論文の英文化へのインセンティブを高めるとともに、学会員に重きを置いた販売体系ではなく出版を海外の出版社に委託する方策などを積極的に検討し、購読者層の拡大と、出版事業の合理化を進めなければならない。英文広報誌については、現在出版されておらず海外会員の確保・日本の土木技術の紹介のために何らかの方策を考えなければならない。また、情報化社会の到来に向けて、電子図書館構想などについて研究を行うべきである。

2. 7 国際化

国内向け組織として出発した本学会は、国際的に立ち後れている。国際貢献のあり方の検討、資格・規格の世界的組織化への対応、アジアのリーディング学会としての確立策などを早急に打ち出さないと、本学会は、世界のローカルな学会としての地位が確定するであろう。また、学会事務局も国際対応ができる体制を確立しなければならない。

2. 8 学会財務

予算・決算のあり方が前年度踏襲方式になっている。各部門・委員会毎に次年度予算の策定を行い、決算を報告する年次計画制度の導入を検討すべきである。また、予算が硬直しており、緊急に対応すべき事項にたいして予算措置が困難な状況にある。支部会計については、学会が特定公益増進法人が維持されるよう明確化しなければならない。また、各種基金の有効活用がなされるよう再検討を行う必要がある。

学会を経由して研究費補助がなされる方式が導入されつつあり、本学会もこの動きに有効に対応できる体制を導入することを検討すべきである。

2. 9 学会事務局

省力化、情報化を計り、効率の向上を目指す。また、事務分掌を明確化し、国際対応ができる体制の確立を計る必要性がある。

以上の各テーマについて短期・中長期に分けて実施方策を検討するべきである。

2. 10 学会定款・規定の見直し

平成8年9月閣議決定された「公益法人の設立許可及び指導監督基準」及び「公益法人に対する検査等の委託に関する基準」に基づき、評議員会の廃止など定款を改正する必要がある、またそれに伴い規定類の改正等を行う必要がある。

3. JSCE2005 (概要)

1. JSCE2005 検討の背景

土木学会は、土木工学の専門家集団として、土木に対する社会の理解向上の重要性を認識し、従来土木界に不足していると言われてきた情報の開示を積極的に進めてきた。さらには、今日の工学系学会が具備すべき重要な機能を考え、1914 年創立以来の目的「土木工学の進歩および土木事業の発達」に加えて、「土木技術者の資質向上」、「学術文化の進展と社会の発展」を定款に新たに掲げて社会に対する直接的な貢献を重視するとともに、その目的を達成しうる体制を確立するために、1998 年に「JSCE2000－土木学会の改革策－」をとりまとめて、これに基づいて学会倫理規定の制定・公表などを含む学会の改革を進めてきた。

それにもかかわらず、社会の土木学会への現在の評価は芳しからざるものがある。現代社会は、経済成熟期・人口衰退期への変曲点にあり、それに伴う従来システムへの疑問や問題が次々と顕在化してきている。社会が期待しているのは、様々な整備代替案を横断的に評価し、最終案に絞り込む技術と制度であるにも関わらず、それを単一の社会資本の要・不要論や短期的採算性の評価技術を適用すれば事足りると勘違いしている点こそが問題なのではないか。こうした状況下で専門家が求められるものは、一方的な発信ではなく、世の中で生じた問題に耳を傾け、それらへの解決策の提示という形で、社会の疑問や要請に対して回答していくことである。

以上の認識の下、イギリス土木学会の社会や政治とのコミュニケーションを中心とする改革に関する調査を含む検討の結果、今日の土木学会の最大の課題は、その究極のカスタマーである社会とのコミュニケーション機能の確立と、国民的課題となっている土木技術や社会資本のあり方に関する解答機能の確立であるとの認識に至った。また、狭義のカスタマーである会員とのコミュニケーションや学会組織内部の部門間のコミュニケーションも、きわめて不十分な状況にある。この問題意識にもとづき、企画委員会が「社会への貢献と連携機能の充実」を目的とした中間報告を準備し、企画運営連絡会議においてこれを発展させて5年ぶりに、土木学会の改革プランをJSCE2005 としてとりまとめた。

2. これまでの学会改革の動き

土木学会の中・長期の行動計画を策定にするためには、従来の活動を理解したうえで、その方向性や目標および対応策を検討する必要がある。

これまで策定されてきた行動計画を整理し、現状を踏まえたうえで今後の改革の方向性を確認した。

2.1 土木学会改革の動き

土木学会は、1914 年の創立以来、学術・文化を中心とした、いわば学術的活動をその中心に置いてきた。

しかし1986年に至り、高度成長期以後明らかになってきた自然破壊などのひずみ、建設産業の近代化の必要性、土木工学科志望者の減少などの諸問題に対処し、時代の要請に対応する土木学会活動の活性化方策への提案として、「答申書―岐路に立つ土木と土木学会の新たな途―」が取り纏められた。

更にその後、1) 社会資本整備が必ずしも国民に共感を持たれるかたちで進められていないこと、2) 土木技術者の社会的な責任に対する認識が不十分であり、また、社会的評価も不十分なこと、3) 海外の例などに見られるように、土木学会が直接的に社会に働きかけることが必要であること、などの土木を取り巻く課題の解決や要請に応えるため、「JSCE2000―土木学会の改革策(1998年)」を策定し、学会の活動の方向付けと、部門制の創設などの改革を行った。続いて「企画委員会 2000年レポート―土木界の課題とめざすべき方向―(2000年)」では、人材の教育、研究体制、土木技術者の活用に関する具体的検討(現在技術推進機構において、土木技術者資格制度、継続教育制度、技術者登録制度等として事業化)を行ってきた。また、建設界をめぐる不祥事発生を機に、土木技術者が担うべき使命と責任の重大さを再認識し、従来の「土木技術者の信条および実践要綱(1938年)」の改訂を行い、「土木技術者の倫理規定(1999年)」を新たに制定した。さらに、土木技術者の社会資本整備に対する思いを「社会資本と土木技術に関する 2000年仙台宣言―土木技術者の決意―」として公表するなど、様々な努力を積み重ねてきた。

これらの動きに連動して1998年に定款改正が行われている。

また、引き続き会長提言特別委員会で「土木技術者資格制度」、「継続教育制度」等、土木学会の直接取り組むべき事業や「技術開発のあり方に関する提言」を行ってきた。

2.2 JSCE2000以降の改革の位置付け

土木学会は、土木及び土木技術者に対する市民の理解の醸成と、学術をもって社会へ貢献するために、会員及び社会(国民)から提起された問題に対し、これまで以上に積極的に応えることとした。

本レポート(JSCE2005)の主たる趣旨は、社会への直接的貢献と種々の問題解決のための行動計画を策定し、その実行を確実なものとする、JSCE2000以来の学会システムのさらなる改革の推進である。

学会の活動及び改革を検討するにあたり対象は、学会を取り巻く「社会」、学会の構成員である「会員」、学会の機能を確保し学会組織を運営していく「内部運営機関(部門)」の3つに分けることができる。このうち、定款及びその目的に明記されているのは、「社会」・「会員」である。「内部運営機関」は、対象へ効率的に働きかけるための手段ということになる。

土木学会は、JSCE2000発表以後、学会のシステム改革に着手した。委員会を少数の部門に束ね、また、部門間の強力な調整を図るために企画運営連絡会議を創設した。

続いて、土木学会の内部組織として土木技術推進機構を創設した。これは、必ずしも会員全員のメリットとはならないかもしれないが、多くの会員が恩恵を蒙る制度や行事を、受益者負担を原則とする事業として実施する組織として創設されたものである。研究委員会と行事を中心に活動してきた土木学会が、各種事業を実施できる体制になったことは、学会が機動力を備える組織として生まれ変わる契機であったといえる。

一方現下の課題への対応事例として、日本に少子高齢化による人口減少社会が到来して、地球環境問題とは別に、経済活力の減退、経済の低成長が長期に継続することによる、大きな制約が社会資本整備にかかってくることが確実視されるようになったことに対処する趣旨から検討を行った、平成 13 年度の会長特別委員会「人口減少下の社会資本整備のあり方―拡大から縮小への処方箋―」の活動があげられる。

JSCE2000 以後のさらなる改革を確実に推進するためには、JSCE2000 に基づいて実行されてきた各部門の活動を評価し、その後の活動を展開させる管理のサイクル（P D C A : PLAN, DO, CHECK, ACT）を自立的・継続的に動かすシステムを構築しなければならない。

JSCE2005 では、管理のサイクルを 5 年を目途に廻すことを前提に、各部門において JSCE2000 に基づきこれまで実行してきた活動を評価した。

また、評価に基づき 2005 年を目指して新たに中間目標を設定することとした。

3. 問題解決能力を持った学会への転換を目指して

土木技術者は土木技術が有する自然や社会に対する影響力の大きさゆえに、自然観や社会観を含む広い意味の倫理観をもって土木技術のあり方を問いつづける必要がある。

また土木技術者は、その専門性をもって、国土空間の計画に基づく社会資本整備のあり方と国民の生存・生活環境の向上や低下、あるいは公共事業の仕組み等を社会に分かりやすく説明する責任（accountability）を負っている。さらにこれら土木に係わるあらゆる社会の問題に対して、国民がカスタマーであるとの視点をもって、その顧客満足度（customers' satisfaction）を最大にするよう解答（solution）を提供する能力が求められている。

土木学会は、専門家が集まる学術団体として、その会員が社会あるいは国民の問題や要求を的確に把握し、技術的蓄積に基づいて調査研究し、独立かつ公正な視点から、望ましいと思われる解あるいは解の代替案を提案・評価することを支援する責務を負っている。このような社会的要請に応えるためには、公正かつ最先端の技術的判断能力を結集することにより得られる問題解決能力の向上、およびその基盤としての対社会、対会員および学会内部部門相互の円滑なコミュニケーション機能を抜本的に改善する必要がある。

3.1 土木学会の使命と長期目標

土木学会の最終目的は、「学術文化の進展と社会の発展」である。ひいてはその活動が国内外の市民生活の向上に資することにある。このためには、以下の１）～３）の使命（活動の柱）が考えられる。

- １） 学術・技術の進歩への貢献
- ２） 会員の資質と顧客満足度ＣＳ（Customers' Satisfaction）の向上
- ３） 国内・国際社会に対する責任・活動

また、これらを市民生活の向上のために有効に活用するには、あらゆる学会活動の面でコミュニケーション機能の充実が必要である。

土木学会の目的はその定款の表現によれば「土木工学の進歩および土木事業の発達並びに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与すること」である。この目的を達成するための使命（活動の柱）は以下の３つから構成される。

１）学術・技術の進歩への貢献

これは、学術団体として最も基本的な使命であり、既存の学術・技術体系の再構築を基礎に、この使命を達成する上で具備すべき機能としては、a) 学術・技術の先端性、b) 学術・技術の事業への展開性、c) 技術蓄積・移転性、があげられる。

これらが相まって、土木学会の学術水準が国際的に認知されることが必要である。

２）会員資質とＣＳの向上

これは、会員が学会から如何なるサービスを受け、自らも社会にどれだけ貢献するかに係わるものであって、d) 会員教育制度、e) 情報取得機会の拡大、f) 会員の維持・多様性確保、といった機能が求められる。このことによって社会資本整備を享受する最終的なクライアントである国民の満足度（ＣＳ）の向上も図る。

３）国内・国際社会に対する責任・活動

これは、社会に対する直接的働きかけを指すものであって、これを達成するためには、g) 公正・中立な立場からの専門的知見の提供、h) 国際貢献、i) コミュニケーション機能、といった機能が求められる。

これらの機能により、土木学会が社会に貢献する不可欠な存在として認知される必要がある。

これらの使命およびそれを達成する上で必要な機能に基づいて、学会の長期目標を設定した（表Ⅰ－１）。設定に際しては企画委員会が原案を作成し、各部門と現状分析に基づいたコミュニケーションを行い、その結果を長期目標として取りまとめた。

長期目標の設定にあたっては、各使命に対応した現状分析を試み、この現状分析で示された状況を改善するための「長期目標」を機能毎に設定した。

表Ⅰ－１によれば、最初の使命である「１）学術・技術の進歩への貢献」において、長期的視野と時代感覚に基づく自然観、社会観に軸足を置きつつ、社会が必要としている都市

再生・地球環境等の問題に対する専門的なソリューションの提示を可能とする、いわば「マクロ土木工学」といった新しい学問領域の確立を長期目標としている。

次に、「２）会員の資質とＣＳの向上」に関しては、会員に多様性がなく幅広い見解が得られにくいため、継続的な会員教育と参加の動機付けや均質の会員相互が交流しても得られる情報が不十分との考えから、土木技術者以外の人々からの情報・意見も含め、多様な情報取得機会の増大を長期目標としている。

最後の、「３）国内・国際社会に対する責任、活動」においては、高い専門性を基礎とした国内・国際社会への貢献が求められているにもかかわらず、個人の専門的知識が束ねられ社会的ニーズや問題に解を与える形に整備されていない実態が述べられている。このため、都市再生、環境負荷削減技術への貢献をはじめ、国際企画対応等種々の国際的活動を通じて、社会の期待に応える機能を、個人と学会両方に整備すること等を長期目標としている。

土木学会の具備すべき機能は以上のように整理されるが、これらの中で今日の喫緊の課題は、「問題解決能力」とその把握に不可欠な「社会とのコミュニケーション機能」に集約される。

表Ⅰ－１ 土木学会の使命と目標

定款 (学会の目的)	①学会の使命	②学会が具備すべき機能	③現状分析	④長期目標
① 土木工学の進歩 および土木事業 の発達 ② 土木技術者の資 質向上 ③ 学術文化の進展 と社会の発展	1. 学術・技術の 進歩への貢献	a) 学術・技術の先端性	・都市再生、地球環境への専門的回答が出せない	・学術・技術の革新・蓄積・継承 ・社会の構造的変化に対応した学問領域の確立（マクロ土木工学の創設等） ・災害対応技術の確立 ・都市再生に資する技術の確立 ・地球環境持続性に関する技術の確立
		b) 学術・技術の事業への展開性	・社会的ニーズと研究委員会体制のズレ拡大 ・実用に供する技術が少ない ・戦略性（目的、重点分野、システム）の不足	・先端学術領域の調査・研究の推進 ・総合・横断型研究開発の体制確立 ・技術評価制度の確立
		c) 技術蓄積・移転性	・技術の蓄積機能が不十分 ・技術が他国に移転されない	・「土木総合情報プラットフォーム」の構築 ・会員向けサービスの充実
	2. 会員資質とC Sの向上	d) 会員教育制度	・会員の視野の狭さ（自然や社会に対する広い教養と土木に対する深い考察の不足） ・生涯教育の機会不足 ・技術が正當に評価されていない	・継続教育制度の充実 ・土木学会認定技術者資格制度の確立 （資格の階層性定着、技術水準の円滑な展開、浸透、土木技術者地位向上） ・技術者登録制度の充実 ・技術者教育プログラム審査の充実（審査体制、高等教育機関への寄与）
		e) 情報取得機会の拡大	・会員相互、学会と会員の交流不足 ・会員がほしい情報が得られない	・会員資質の向上と会員満足度の向上
		f) 会員の維持・多様性確保	・文系出身者や外国人会員が少ない ・会員がサービスに十分満足していない	・会員の増強 ・会員制度の見直し
	3. 国内・国際社 会に対する責 任・活動	g) 公正・中立な立場からの専門的知見の提供	・土木界内部の閉じこもり ・中立性を社会に認知されていない ・研究者が利用できる技術情報の不足 ・低成長、選別時代に対応した土木システムの不在（計画、事業実施体制） ・個人の専門的知識が社会問題の解を与える形で整備されていない ・研究者と実務者との連携不足、乖離	・土木技術者の社会貢献と地位向上 ・情報の提供 ・適正な世論形成の支援
		h) 国際貢献	・先端技術情報の提供不足 ・ISOにおける技術照会への対応 ・国際認知度の低さ ・技術が他国に移転されない ・技術移転の前の問題として、国内技術情報が海外にほとんど伝わらない ・国際貢献の意義の認識不足	・国際化に対応した技術者の育成と環境作り ・情報の電子化 ・土木界の新しいフロンティアの提示 ・海外共有ネットワークの構築
		i) コミュニケーション機能	・土木の閉塞感 ・認知度の低さ（胡散臭さ） ・海外への発信・連携が不十分 ・夢や問題意識を社会に訴えていない	・社会とのコミュニケーションを密にするためのインターフェース機能の強化

3.2 問題解決能力の向上

土木学会が早急に強化すべき役割として、

- (1) 将来を切り開く問題解決能力の提供
- (2) 公正・中立的な専門家集団としての社会問題・政策への積極的関与
- (3) 持続的国土・都市についての研究開発マネジメントの実施
- (4) 倫理観と時代感覚を兼ね備えた人材の育成と活用
- (5) 国際化への対応
- (6) 社会的要請に応える新しい学問領域の構築

がある。これらを通じて学術の社会化のために必要な学会の「問題解決能力の向上」とそれら能力の「社会および会員への還元機能の強化」を達成する。

土木学会の特徴は、様々な視点から広範な議論や対応が可能である点にこそある。従来から、学会では、委員会活動を中心に学術貢献について展開し、委員を公募するなど透明性の向上に取り組んでいる。また、技術開発は産官学がそれぞれの役割に応じて適宜連携しながら実施しているが、今やより活動を強化して行動する必要がある。

このような観点から、土木学会では、長期的な社会環境の変化（人口・資源・環境など）を予測し、土木工学（もしくは土木技術者）が有する叡智をもって、「解決できる根源的課題」、「解決すべき根源的課題」もしくは「土木工学でなければ解決できない根源的課題」を整理しつつある。その一つが平成 13 年度会長提言特別委員会による「人口減少下の社会資本整備のあり方―拡大から縮小への処方箋―」である。

また、学術的貢献に際しては、従来の技術研究分野における貢献に加え、社会の要請に対応した形の貢献を積極的に行うことも必要である。学会は、社会の要請を敏感に察知し、通常時および災害緊急時を問わず短時間で反応する機能を充実すべきである。このためには、土木学会外の学術団体等との連携強化も重要な課題である。

3.3 社会の信頼を得るコミュニケーション機能の構築

3.3.1 社会に貢献するコミュニケーション機能

今日、土木学会が目標としている社会問題解決能力を持った学会を目指すためには、学会が会員や社会にどのような立場でどのようなコミュニケーションを行うかが、大きなポイントである。

ICE(Institution of Civil Engineers、英国土木学会)などの組織の実態が参考となる。表 I-2 に ICE を含む他学会のコミュニケーション機能を例示する。ICE のホームページは Customer に対するサービスを対象にしている。ここでは、Customer とは the Public（社会構成員）および ICE メンバーと定義されている。この考え方にに基づき、the Public を意識し、電子図書館、求人情報、プロジェクト契約情報、メディア情報要約などを充実させると同時に、シビルエンジニアの社会的役割や立場に常に敏感な姿勢が特徴的である。また PIN(Professional Interest Network)と呼ばれる、公開討論の場が分野毎に設定されて

おり、Web-site の特徴である双方向性を最大限活用している。

表 I - 2 他学会のコミュニケーション機能例

	会員向け情報	一般向け情報	双方向性	その他
土木学会 (JSCE)	・委員会活動 ・行事、募集 ・トピックス ・支部のページ ・学会誌、論文集、図書館等	・学会案内 ・刊行物 ・会員情報 ・学会紹介 ・土木フォーラム ・災害速報 ・入会案内 等	・土木フォーラム (学会誌モニター、皆様の声、メール)	・会員相互、会員学会間のコミュニケーション機能の充実必要 ・メディア情報の受信、発信機能の充実必要
英国土木学会 (ICE)	・ギフトショップ ・メールマガジン ・海外情報 ・特別情報提供	・学会案内 ・図書館、電子図書館 ・各団体意見書紹介 ・技術情報、求人情報 ・プロジェクト契約情報 ・各種メディア情報要約 ・入会情報 ・子供向け情報 ・学生向け、教師向け情報 ・興味ある事業紹介 ・コンペ、行事紹介	・PIN(Professional Interest Network)	・PIN は会員参加型で各分野毎の PIN では、公開討論形式で意見が書き込まれる ・外部からアクセスしても学会内の責任部署がわかり易く、疑問質問が発信しやすい構造 ・新聞情報は 2 名のスタッフが要約版を毎日作成
アメリカ交通学会 (ITE)	・メンバー案内 ・収入調査ワシントン週間情報 ・専門能力調査結果表 ・メンバー特典紹介 ・会議、ディベート案内	・学会案内 ・入会案内 ・技術情報 ・専門能力開発 ・雇用情報 ・コンサルタントやメンバーの紹介 ・行事	・Networking ディスカッショングループ、ミーティング、会議、カウンセルなどへの参加	・会員向情報が充実 ・雇用情報が充実 ・トップページの構成が良く吟味されている
日本建築学会 AIJ フォーラム	・学会員の電子掲示板、 ・委員会ニュース ・委員会議事録の配布		・公開通信審議 ・公開討論	・各委員会で掲示板を作る必要が無く、一つに纏めることにより意見交換が活性化する
内科学会	・患者管理問題集	・講演会情報 ・資格認定制度の案内 ・雑誌、単行本案内		・国家試験の問題集、Web 模擬試験

以上の表は、2001 年 12 月 5 日に、土木学会企画委員会林幹事長が ICE の John Beck (Director International) 氏はじめ担当各氏に面接したメモを参考に作成した。また、上表は土木学会会長特別委員会井上委員および企画委員会中川委員の調査結果に基づき作成した。

ICE の存在価値は、政治的に中立であり営利を目的としない点にあるとしながら、これは政治に無関心であることを意味しない。すなわち、ホームページ以外に、ICE の意見に対す

る国会議員の理解を得るため” Agenda For The Future” を作成・配布するなど、学会としての意見を社会に常に発信する姿勢を同時に保持している。ICE 会員であることが Professional Engineer と同じ意味を持つという、日本の土木学会とは異なる事情があるとはいえ、英国 5500 万人の人口で会員数 8 万人を有する大組織が社会的に大きな影響力を有し、であるからこそ社会とのコミュニケーションに敏感に反応する組織や機能を充実させ、会員だけでなく広く社会に貢献する姿勢が貫かれている。

土木学会の目指す問題解決型の学会となり社会の信頼を得ていくことは、対会員、対社会とのコミュニケーションを通じて実現されるものである。したがって、海外の事例なども参考にしつつ、学会の立場を明確にしたうえで、目的や対象を意識した効果的なコミュニケーション機能の構築を進めていく。

3.3.2 三つの連携

土木学会は下記①～③に示す連携により、はじめてその使命を果たすことが出来る。土木学会および会員は、これらの重要性を認識し常に連携すべきである。

- ① 社会とのコミュニケーション（対社会連携）
- ② 会員とのコミュニケーション（対会員連携）
- ③ 部門間のコミュニケーション（内部組織間連携）

（１）連携の考え方

土木学会に必要なコミュニケーション機能を考える時、コミュニケーションの対象を明確にする必要があろう。土木学会の設立目的、その社会的使命、それを実現するための活動を考えて、図 I-2 に示す様に、土木学会は社会、会員、内部組織が有機的に連携してその使命を果たすべく活動してきたものであり、これら三者をコミュニケーションの対象として、その充実を図らねばならない。

① 社会とのコミュニケーション（対社会連携）

社会から寄せられる土木界や社会資本整備などに対する様々な疑問に分かりやすく応えうる組織、外部へ積極的に話し掛ける組織づくりを通じて、社会との連携を深める。一方、個々の技術者が、国民が欲する技術力を有していることを担保するために、会員のキャリアパスをわかり易く示し、国民が判断できる資格制度や、技術力の維持・向上のための継続教育制度の創設は技術推進機構により実施されている。これを十分に活用し、社会貢献していくことが必要である。

② 会員とのコミュニケーション（対会員連携）

学会の活動を真に学術の社会化に貢献しうるものにするためには、学会のみならず学会を構成する会員を通じての社会との交わりが不可欠である。会員への技術情報や会員相互の交流機会（論文発表・討議・Web 討議の場）の提供などによる技術力の向上に資する組織を構築するとともに、これら会員とのコミュニケーションを通じて、国民の疑問・ニーズを的確に把握する高い感受性を持った組織に変化していくことが必要である。

③ 部門間のコミュニケーション（内部組織間連携）

①・②とは性格を異にするが、社会、会員との連携強化を実効あるものとするためには、学会自身がその業務運営をこの改革の方向と見合うよう改める必要がある。言わば、内部組織間連携は学会の機能として考慮すべき必要不可欠な連携である。

現存する各委員会等の組織の必要性を再検討し、社会の課題解決に不可欠な効率的行動を可能とする組織に改める。効果的な対応を図るには組織間の横のつながりを緊密にし、今日必要とされる横断的技術などを有機的に活用できるように連携強化する。

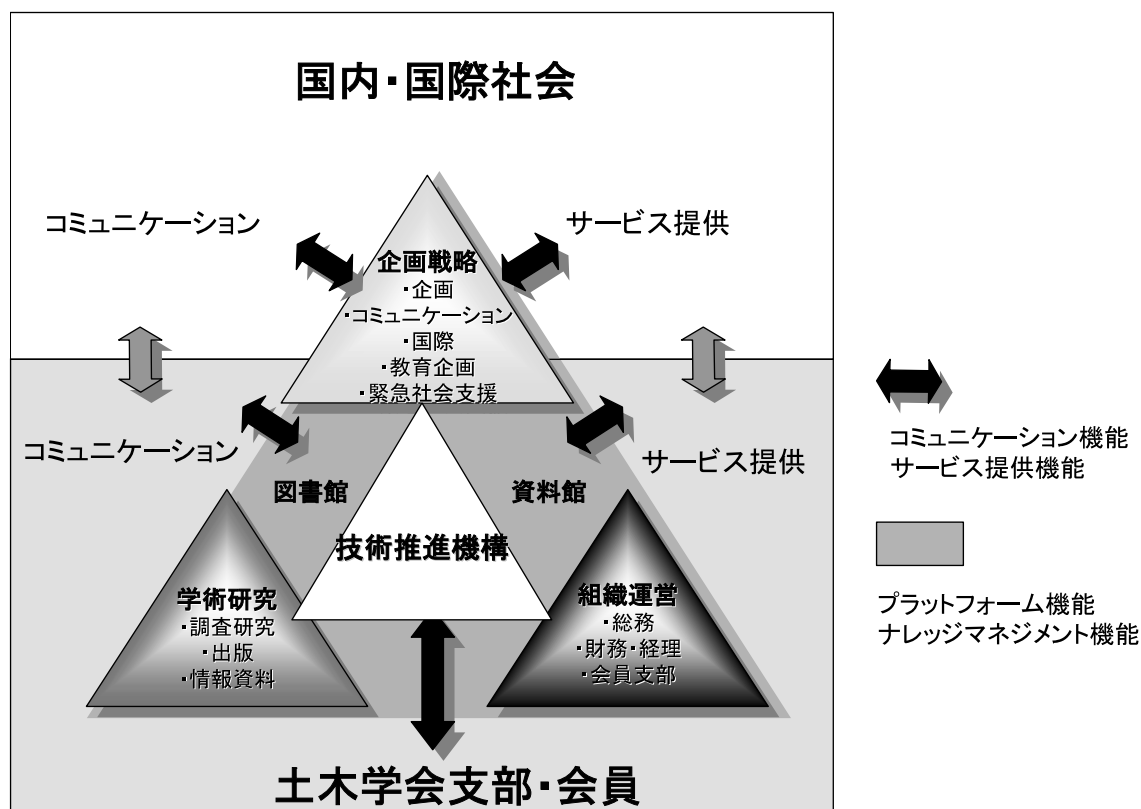


図 I - 2 学会機能のあり方とコミュニケーションのイメージ

(2) 組織変更の必要性

以上のような連携を円滑に実現するためには、対社会、対会員、内部組織間連携の具体的な活動を効率的に行える組織でなければならない。

JSCE2000 による改革以来、10 の部門制の導入や技術推進機構の設立により機動性のある運営が行われるようになった。しかし、①より厳しい社会的環境になっていること、②5 年以上の時間経過により各部門内の委員会のあり方等に見直しが必要なこと、③今回提案しているような学会機能を効率的・効果的に発揮するためには、組織の変更を考える必要がある。

4. 土木学会の新組織と機能

4.1 新しい学会組織

社会と連携し問題解決能力を具備した学会となるために、明確な戦略を打ち出しそれを推進する学会運営を可能とする組織への変更を提案する。

対社会連携の観点から、これまでの広報部門をコミュニケーション部門として再編し、学会としての受発信機能を充実する。また、社会的ニーズに応えるため、会員との連携も含め学会の機能の充実、および部門間の連携を強化する。具体的には、会員や社会から見てわかり易い組織とするために、戦略的な活動のための「企画戦略グループ」と会員の定常的な研究活動の中核としての「学術研究グループ」、学会本部支部の運営中核としての「組織運営グループ」とを合わせた3本柱（グループ）に部門を集約することを提案するものである。この構造を示したのが、図I-3である。

各グループの構成要素は、以下の1) - 3)を基本とする。

- 1) 部門：会務を執行するために必要な機能ごとに設ける。委員会を統括する。
- 2) 委員会：長期的な役割を持つ。
- 3) 小委員会：委員会内部における特定テーマについて期限を限って活動を行う。

また、部門を横断するなど、必要がある場合には次の特別委員会を設ける。

- 4) 特別委員会：会長および理事会の指示で設置される部門横断型の特定テーマを持った委員会と、各部門等での受託事業の遂行のために設置される委員会とがある。原則として期限を限って活動を行う

企画運営連絡会議は、学会の戦略的活動の中核となる組織であり、上記の企画戦略、学術研究および組織運営の3グループの連携の要として機能する。

4.1.1 企画運営連絡会議の活動強化

図I-3の学会機能のあり方とコミュニケーションに示されるように、学会以外の社会との連携を実効あるものにしていくためには、まず学会内部がこの目標に向かって部門間が連携して取り組むことが必要である。特に、市民生活の質の向上に貢献するためには、解の提供ができること、すなわちソリューション型組織であることが必要である。たとえば、災害緊急対応や裁判支援のような社会的問題が学会に持ち込まれ、学会がこれらに積極的にコミットしていくためには、学会内の横断的機能強化が必要になる。

学会内部部門間の連携強化のためには総務・企画部門を中心に、企画運営連絡会議の持つ戦略的機能を活用し、学会全体の活性化を牽引していくことが必要である。

4.1.2 企画戦略グループ

1) 企画部門

時代を超えた高い倫理観をよりどころにしつつ時代に応じて変化する土木の使命を的確に把握し、学会の向かうべき方向を打ち出す。土木事業や社会資本整備の役割の変化を捉えると共に、学会が十分に問題解決型に移行し、学会がその体質を改善して行けるよう、組織改革や企画提案推進の要としての役割を担う。

企画委員会と会長特別委員会より構成される。

2) コミュニケーション部門

対社会、対会員、部門間のコミュニケーションによる連携の要となる。社会における国土都市空間・社会資本や土木事業に関する現実の諸問題について、一般市民や会員が学会にアクセスでき、土木学会が疑問・質問を受け付けるために、学会誌と学会 Web 利用を両輪として、広報・情報提供はもとより、双方向対話・討議機能を開発・維持する役割を担う。

コミュニケーション部門は、社会とのコミュニケーションを担当する社会コミュニケーション委員会、学会誌編集委員会、土木の日実行委員会より構成される。

3) 国際部門

従来と同じ体制であるが、活動の実行性を上げるため、海外分会、国内外の関連学協会との共催・共同事業の活用、会員の協力を得て協定学協会との連携を図ることなどによって体制・予算の有効運用を図る。

4) 教育企画部門

今日の国際社会においては、土木教育は、一般の教育と同様に、高等学校を卒業した 20 歳前後の学生の教育だけではなく、実務の第一線で活躍する技術者が新しい知識体系を習得するために研究大学院に、あるいはマネジメントを学ぶために専門職大学院ビジネススクールなどに再入学して生涯学習を継続し、国際社会で認知される資格を取得して活躍できるカリキュラムや教育システムを提案・支援することを任務とする。更に初等中等教育における社会資本の理解支援などもこれに含まれる。

5) 社会支援部門

土木に係わる諸災害時の緊急支援や、裁判への専門的知の提供支援など、社会のクリティカルな問題の解決への専門的支援を機動的に行うことを任務とする。

社会支援部門は、個別災害緊急対応や、個別裁判支援等の特別委員会からなる。

4.1.3 学術研究グループ

1) 調査研究部門

調査研究部門は、土木学会の調査研究の基本方針と各研究委員会を横断的につないで調整する機能を有する研究企画委員会と、個々の研究委員会からなる。また従来の 30 の研究委員会をいくつかに分類・集約することとする。

2) 出版部門

学会の出版物を担当する部門である。

出版部門は、書籍や講習会テキストなど学会の出版物を出版委員会と、学術論文を出版する論文集編集委員会とからなる。

3) 情報資料部門

情報資料部門は、図書館、学術資料館における書籍、雑誌、電子情報、設計図などの図表を含む学術資料の収集、管理を担当する。

土木図書館委員会、学術情報館委員会（旧施設拡充委員会）、土木技術映像委員会

からなる。

4.1.4 組織運営グループ

1) 総務部門

学会組織運営をつかさどる部門で、表彰、規則・運営の検討、行事企画を担当する。

表彰委員会の下に各種賞選考委員会を擁し、定款委員会、規則等検討委員会、行事企画委員会、90周年記念事業特別委員会からなる。

2) 財務・経理部門

学会の財務経理を担当する。

委員会は置かず、必要に応じて特別委員会を編成する。

3) 会員支部部門

会員申請・登録・名簿管理を担当する。

委員会は置かず、必要に応じて特別委員会を編成する。

4.1.5 支部機能の強化

これからは、地方分権化が進められ、地域の特徴を踏まえた発展が望まれる社会である。この中にあって、地域の中で土木技術者が活躍していくことが望まれるようになる。このために、地域の特徴を理解し、地域の独自性を生かし、地域の必要な発展に貢献するべく、土木学会の支部の機能を強化し、地域で活躍している土木学会員及び土木技術者のコミュニケーションの場を提供することが必要である。

支部の活動は、土木学会の全国各地に散在する会員や地域住民への情報発信としての機能、あるいは目や耳としての機能を有していると言える。今後ますます支部の活動活性化により各地の会員の活動が鼓舞され、また一般市民との交流・信頼関係が構築されると共に、本部活動の活性化につながることを期待される。

支部活動に対する本部による支援の強化策については、コミュニケーション機能のハード・ソフト面での充実に伴い、同時平行的に具体化を図る必要がある。

また学会を構成する組織として、整合のとれたものとするため、引き続き就業規則等の制度の整備を行う。

4.1.6 技術推進機構の発展支援

土木学会に技術推進機構を設立した理由は、「産・官・学が協力でき、かつ中立性が高い」という条件を満たさなければならない。・・・(中略)・・・現行の土木学会の活動は、学術・技術の振興に関する企画、調査研究、各種行事を活動主体としており、上で述べたような諸課題について有効かつ組織的に対応できる体制が整えられていない。・・・(中略)・・・これらの諸課題は特定の技術者個人や団体の利益に深く係わる問題であり、全て一般会費によってまかなうべき性質のものではない。以上のことから、土木学会においてはこれらの各課題への対応を事業化し、事業収入を主体とした活動として展開することが望ましいと考えられる。本機構は、土木学会がこのような国内外の状況に対応するために、学会とし

ての中立性を厳正に確保・保持しつつ、先ず、国際規格対応や技術者資格の国際的相互承認の支援などの社会的、国際的活動を行い、さらに将来に向けて技術評価システムなどのあり方を検討するために設立するものである」となっている。

機構では、現在継続教育および資格制度等を運営しているが、これら事業はいわば創業期・投資期間にあるため財政的に苦しいのが現状である。学会としての支援を継続すると共に、事業実施に当っては原価管理を徹底し、将来展望の元に戦略的経営を目指すことにより機構の体質強化を図り、従来の学会機能では果たすことの出来なかった直接的事業による機能を展開してゆくことが急務である。

4.1.7 内部組織の変更とその構成案

各部門の委員会構成は、表Ⅰ－３のとおりである。

4.1.8 組織変更スケジュール

JSCE2005（2003年版）では、部門再編・再定義と各部門の委員会編成案を作成した。この構成に沿った部門内の実際の委員会編成再編・再定義およびJSCE2005の実行を平成15年度内に行うものとする。

4.1.9 事務局組織の変更

部門構成の変更に対応し、JSCE2005に掲げられた改革を円滑に実行に移すため、以下のような事務局組織の変更を行う。

- ①新しい部門に対応して課・室の所掌を再整理し必要に応じて組織を再編する。
- ②事務の一層の改善により、サービスの向上、業務の効率的・効果的執行を目指し、前例踏襲主義に陥ることなく、事務内容・手続きの改善に努める。
- ③会員数の頭打ち傾向、景気の沈滞等に配慮し、人件費を含む経常的経費の一層の削減を図る。

4.2 経営管理システムの導入

学会の活動は、個々の会員のボランティア活動に負っているところが多い。ボランティアベースの利点は、個人が入れ代わることにより様々な能力を生かすことが可能で組織に停滞が生じにくく活力が維持される点にあるが、その一方で、活動のレベルや質が属人的になりやすい欠点を持っている。

したがって、学会の活動が個人の意欲や業績だけにたよるのではなく、自律的かつ効率的に機能するとともに、所要の改革を継続的に進めることができるようなシステムを準備しておく必要がある。

4.2.1 目標設定と評価機能

学会全体として戦略的目標を明確にし、それに沿って各部門が具体的目標を設定する。

業務運営にあたっては、

目標設定（PLAN）－実施（DO）－評価（CHECK）－改善（ACT）

という経営管理システム（マネジメントサイクル）の導入を目指す。

学会が、大きく変化する時代に対応した役割を的確かつ効率的に果たしていくためには、まず、学会の使命と使命に基づく目標を明確にすることが必要である。このため JSCE2005 では 3.1 において、学会の 3 つの使命とそれを達成するために具備すべき機能を明らかにするとともに、表 3.1 で機能ごとの長期目標を整理した。この目標達成（PLAN）に向けて、多くの部門や委員会、また多数の関係者が活動（DO）することにより、学会全体として大きな針路に沿って効率的に活動することができるものと考えられる。さらに定期的に、JSCE2005 の目標の達成度や方向性の評価（CHECK）を行い、その結果をそれ以降の活動に生かしていくこと（ACT）、即ち PDCA のマネジメントサイクルを常に回していく「経営管理システム」の導入・充実が大切である。

さらに、個々の活動においても、目標それも極力客観性のある数値目標を設定し、その実現に向けて活動を行い、結果については自己評価を行うというシステムを整備していくことが重要である。具体的には、活動の目標、成果、課題、自己評価、今後改善・対応すべき事項等を記載した活動報告書を作成し、目標設定型の業務運営を目指すこととする。

4.2.2 マネジメントサイクルによる改善

学会全体の効率的、効果的運営を図る視点から、評価（C）の結果を学会組織、予算編成方針の見直しに柔軟かつ大胆に反映できるシステムを確立する。

（1）毎年ごとのマネジメントサイクル

マネジメントサイクルの導入は 2001 年より試行導入されて来たが、この経験を踏まえさらに有効なものとして展開して行く必要がある。このために次のようなサイクルを確立する。またこのサイクルでは、各部門のマネジメントと共に、学会全体のマネジメントサイクルも実行される。

すなわち一年度を3期に区分して、

①次年度方針、新規施策検討期（5月から8月）

- ・8月：部門ごとに次年度事業および予算の基本方針提出（新規）

②次年度事業計画および予算作成期（9月から次年1月）

- ・9月上旬：理事会で次年度事業および予算の基本方針決定
- ・11月下旬：各部門からの予算要求提出
- ・1月：予算原案決定

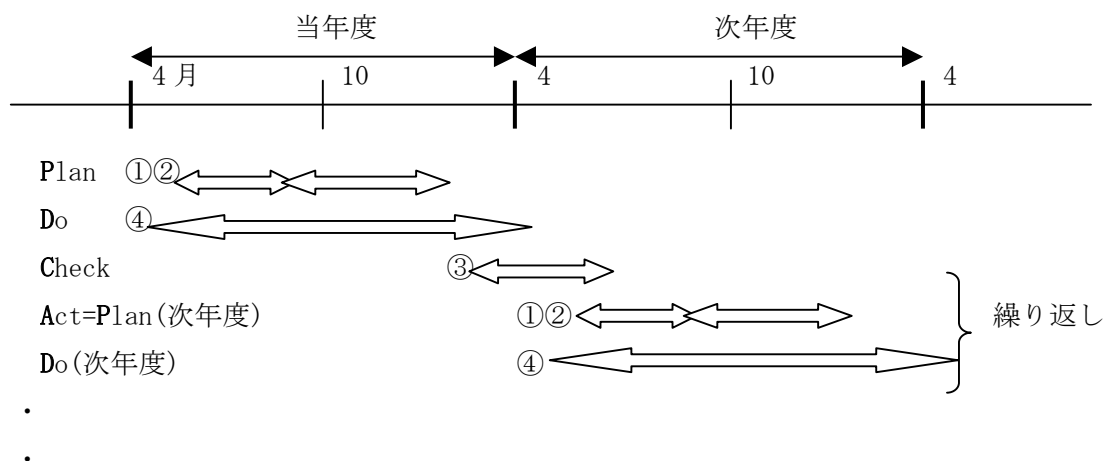
③当年度事業の評価期（2月から6月）

- ・4月上旬：事業報告（総会議案書原稿）提出
- ・4月下旬：事業達成自己評価および方針確認書提出（新規）

④事業実施（4月から翌年3月）

に分けられる。

（注）（新規）と書いたもの以外は現在実施中のものを必要に応じて改善。



（２）マネジメントサイクル

今回 JSCE2000 の改訂作業を行ったように、JSCE2005 も評価、改訂されるべきものである。おおむね5年を目途として1サイクルと考えるが、状況の変化に応じてサイクルの見直しを行うものとする。中間年で遂行状況について予備的な評価を行い、最終年次で JSCE20XX を策定する。

（３）政策予算の確保

JSCE2005 に沿った学会活動目的の達成のためには、土木学会として重点分野に戦略的に配分するための政策予算を確保すると共に、部門にあっても必要に応じて同趣旨の政策予算を確保し、重点配分を行うこととする。

（４）連携、調整の必要性

これらのプロセスに於いて、JSCE2005 の方針を重点事業分野へ反映させること（政策予算の配分決定）、横断的な整合性の確保、新たな事態等に対応する戦略の検討などのために「企画運営連絡会議、同幹事会」および「4部門会議」を有機的に活用する。

なお各部門の自己評価は優劣をつけたり懲罰的に扱うことを目的とするものではなく、自

ら活動の改善を図ることを主たる目的とするものであるという考え方に立つものとする。

4.2.3 カスタマーの視点からの評価

組織の評価は究極的には顧客の立場から行うことが必要であり、学会の評価においても、将来的には、顧客の視点で行うCS（顧客満足度：Customers' Satisfaction）評価を導入すべきである。評価を行うことによって、学会にとっての顧客は誰か、誰のためにどのような機能を果たすべきか、その目標は何か、達成の度合いはどうか などについての意識が高まることが期待できる。また、評価によって学会の存在意義を確認することができるとともに、顧客の満足度を高めるような活動を展開していくことができるものと考えられる。これらの評価は、評価基準とあわせて公表することが必要である。公表することで評価者も評価され、透明性が維持されることとなる。

土木学会の顧客は、会員と最終ユーザーとしての国民が想定される。

当面は、学生会員を含む全国大の会員各層から選んだ内部評価機関がインターネットを用いて各部門の実施結果や自己評価をチェックするシステムの確立が必要である。この運営実績を踏まえつつ、例えば、学会外部の有識者の意見や評価を適正に反映させる仕組みを用意すべきである。

なお、学会の場合には、多くの活動はボランティアで行われているため、その扱いは行政などの評価とは異なるべきである。その意味からまず、自己評価の徹底から始めるのがよいと考えられる。

5. 継続的な改革に向けて

土木学会は市民の生活を支える学術や技術の進歩に貢献し、もって市民生活をより豊かにすることにすることを定款としている。このように本来、市民に最も近い存在であるべき学会・土木技術者が、社会からそれほど期待されていないとの危機感を、どれだけの会員が抱いているであろうか。

我々はこれまでの偉大な先人の努力に加え、これから何をなすべきであろうか。

5.1 問題認識

我々が社会的に評価されない原因として、第一に社会とのコミュニケーションが必要であるとの意識とこれを支援する機能の欠如、第二に技術が特殊で細分化されるほど専門的で価値が高いとの誤解とこれにより生じている統合技術の欠落、にあるのではないかと考えた。両方の問題に共通するのは、このまま放置しておくとな学会全体としては大きな損失であるが、短期的、個人的には損失とは感じない厄介な性質を持っている点である。

5.2 処方箋

我々は何をなすべきか。まずは、土木技術は市民生活を豊かにするという市民と同じ目的を持っていることを再認識し（これには教育システムとの連携も必要であるが）、それを踏まえて社会のニーズに耳を傾け、何が求められているかを相手の立場から理解するこ

とが第一歩であろう。また、少なくとも市民が求めているのは複合的課題の解決であり、そのためには単品の技術ではなく、それらを組み合わせて問題を解決可能な道具にまで高める統合技術が必要であろう。社会とのコミュニケーションの推進（システム改革）と技術の総合と社会化（テーマ改革）の2つが同時に求められていることを個々の会員が意識し、それを受けて学会組織を変更することが求められている。

5.3 マクロ土木工学の提唱

技術の社会化は、20世紀後半に飛躍的に進歩したマイクロ土木工学では対応できない対象である。なぜなら、マイクロ土木工学が、土木構造物を造ることを前提に、それを安全かつ効率的に実現することを目的とし、自然科学に立脚した技術を中心として構成されているからである。21世紀にあつては、我々の科学技術は自然や社会に大きな影響を及ぼして地球環境までも変えるにいたっているし身近な出来事では、市民はなぜ道路やダムなどの社会資本の建設が必要なのかの説明を求め、果たして出来上がった社会資本は人々に幸福をもたらすのかを問う事態に立ち至っているのである。また、既存の社会資本をうまく活用する方法や、中心市街地が生き生きした風格ある都市や美しい郊外の田園風景を取り戻すための処方箋が求められているのである。土木学会には、これらの処方箋を書くための学問体系としてのマクロ土木工学を構築し、これまでのマイクロ土木工学から得られる要素技術の更なる活用を図ることが求められている。

JSCE2005の長期目標として、21世紀初頭に於いてマクロ土木工学の構築を掲げよう。そして、中期計画（アクションプラン）として、すべての部門、すべての委員会において、マクロ土木工学を構築していく仕掛けが組み込まれることが必要である。

5.4 自律的改革

JSCE2005では改革の声を汲み上げ、全体の問題として議論するシステムを提供すると同時に、学会の組織と役割を整理し、社会、会員とのコミュニケーションや部門間連携の円滑化を図った。具体的には学会各部門に対するアンケートにより、学会各部門が抱えている問題意識・改革の方向性を整理して掲載し、同時にJSCE2005完成後の継続的な改革のため、会員・各部門が社会と学会内部を見渡し、必要に応じて組織を継続的に変えていくための改革実行システムを内包させている。

5.5 カスタマーズサティスファクション

技術の存在を世に示すだけでは不十分であり、豊かな市民生活の実現に貢献したという実績によってのみ、われわれの存在が再認識される。我々は専門性の充実と同時に、複数の技術を目的に合わせて使い分けることが出来る技術者をめざすべきである。

変革の原動力は常に市民のニーズであり、市民は我々の顧客なのであるが、現在の市民の声だけでなく、将来を先取りした問題の解を示すことを怠ってはならない。都市・環境・災害リスクなど今日的な問題のほとんどが将来の市民生活の質に関連し、我々はさまざまな制約条件のもとで実行可能な解を提供できる最も優位な立場にあることも事実である。

5.6 改革スケジュール

JSCE2005（2003 年版）では、部門再編・再定義と各部門の委員会編成案を作成した。この構成に沿った部門内の実際の委員会編成再編・再定義および JSCE2005 の実行を平成 15 年度内に行うものとする。

4. 仙台宣言

(社会資本の整備の意義)

1. 「美しい国土」、「安全にして安心できる生活」、「豊かな社会」をつくり、はぐくむために社会資本を建設し、維持・管理、活用する。

(理念-1. 自然との調和、持続可能な発展)

2. 自然を尊重し、現在のみならず将来世代の安全、福祉、健康を増進することを最優先し、持続的発展を目指して自然・地球環境の保全と活用の調和を図る。

(理念-2. 地域の主体性の尊重)

3. 全国画一的な整備方針を転換し、地域の主体性を尊重し、個性ある自律的な地域社会の形成に寄与する。

(理念-3. 歴史的遺産、伝統の尊重)

4. 歴史的遺産、地域固有の文化・風土、伝統を尊重するとともに、新たな文化・文明の創造に努める。

(方策-1. 社会との対話、説明責任の遂行)

5. 社会資本の整備にあたっては、社会から負託された目的を認識し、その必要性を具体的に説明するなど、社会との積極的な対話を通して合意形成に努める。

(方策-2. ビジョン・計画の明確化)

6. 国土づくり、地域づくりの中長期的ビジョンを掲げ、そこへの道筋を明快に示す社会資本の整備の計画を積極的に提案する。

(方策-3. 時間管理概念の導入)

7. 事業の実施にあたっては、予算執行における費用削減努力に加え、計画から運用までの全ての段階において、事業の遅延がもたらす機会損失や時間短縮による社会的便益を勘案した時間管理概念を導入する。

(方策-4. 公正な評価と競争)

8. 技術者資格制度の充実、技術・技能・知的創造の正当な評価のもとでの人材および受注企業の競争選抜の実現、学際的・国際的に競争力ある技術ならびに人材を開発・養成する研究・教育体制の整備に努める。

(方策-5. 社会資本整備のための技術開発)

9. 土木技術者は自ら切磋琢磨し、技術、技能の不断の向上に努める。とりわけ、効率的で環境と調和した社会資本の整備のために、プロジェクトマネジメント能力の向上や、コスト縮減、リサイクルなどの新技術ならびに国際貢献に資する技術の開発に努力を傾注する。

本趣旨を踏まえ、土木学会は、社会資本の整備に関する諸制度の改善に向けての提案、土木技術者の能力向上の支援を積極的に行う。

5. 倫理規定

土木技術者の倫理規定

前文

1. 1938 年（昭和 13 年）3 月，土木学会は「土木技術者の信条および実践要綱」を発表した。
この信条および要綱は 1933 年（昭和 8 年）2 月に提案され，土木学会相互規約調査委員会（委員長：青山士（あおやまあきら），元土木学会会長）によって成文化された。1933 年，わが国は国際連盟の脱退を宣言し，廬溝橋事件を契機に日中戦争，太平洋戦争へ向かっていた。このような時代のさなかに，「土木技術者の信条および実践要綱」を策定した見識は土木学会の誇りである。
2. 土木学会は土木事業を担う技術者，土木工学に関わる研究者等によって構成され，1) 学会としての会員相互の交流，2) 学術・技術進歩への貢献，3) 社会に対する直接的な貢献，を目指して活動している。

土木学会がこのたび，「土木技術者の信条および実践要綱」を改定し，新しく倫理規定を制定したのは，現在および将来の土木技術者が担うべき使命と責任の重大さを認識した発露に他ならない。

基本認識

1. 土木技術は，有史以来今日に至るまで，人々の安全を守り，生活を豊かにする社会資本を建設し，維持・管理するために貢献してきた。とくに技術の大いなる発展に支えられた現代文明は，人類の生活を飛躍的に向上させた。しかし，技術力の拡大と多様化とともに，それが自然および社会に与える影響もまた複雑化し，増大するに至った。土木技術者はその事実を深く認識し，技術の行使にあたって常に自己を律する姿勢を堅持しなければならない。
2. 現代の世代は未来の世代の生存条件を保証する責務があり，自然と人間を共生させる環境の創造と保存は，土木技術者にとって光栄ある使命である。

倫理規定

土木技術者は

1. 「美しい国土」，「安全にして安心できる生活」，「豊かな社会」をつくり，改善し，維持するためにその技術を活用し，品位と名誉を重んじ，知徳をもって社会に貢献する。
2. 自然を尊重し，現在および将来の人々の安全と福祉，健康に対する責任を最優先し，人類の持続的発展を目指して，自然および地球環境の保全と活用を図る。
3. 固有の文化に根ざした伝統技術を尊重し，先端技術の開発研究に努め，国際交流を進展させ，相互の文化を深く理解し，人類の福利高揚と安全を図る。
4. 自己の属する組織にとらわれることなく，専門的知識，技術，経験を踏まえ，総合的見地から土木事業を遂行する。
5. 専門的知識と経験の蓄積に基づき，自己の信念と良心にしたがって報告などの発表，意見の開陳を行う。
6. 長期性，大規模性，不可逆性を有する土木事業を遂行するため，地球の持続的発展や，人々の安全，福祉，健康に関する情報は公開する。
7. 公衆，土木事業の依頼者および自身に対して公平，不偏な態度を保ち，誠実に業務を行う。
8. 技術的業務に関して雇用者，もしくは依頼者の誠実な代理人，あるいは受託者として行動する。
9. 人種，宗教，性，年齢に拘わらず，あらゆる人々を公平に扱う。
10. 法律，条例，規則，契約等に従って業務を行い，不当な対価を直接または間接に，与え，求め，ま

たは受け取らない。

11. 土木施設・構造物の機能、形態、および構造特性を理解し、その計画、設計、建設、維持、あるいは廃棄にあたって、先端技術のみならず伝統技術の活用を図り、生態系の維持および美の構成、ならびに歴史的遺産の保存に留意する。
12. 自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、進んでその結果を学会等に公表し、技術の発展に貢献する。
13. 自己の人格、知識、および経験を活用して人材の育成に努め、それらの人々の専門的能力を向上させるための支援を行う。
14. 自己の業務についてその意義と役割を積極的に説明し、それへの批判に誠実に対応する。さらに必要に応じて、自己および他者の業務を適切に評価し、積極的に見解を表明する。
15. 本会の定める倫理規定に従って行動し、土木技術者の社会的評価の向上に不断の努力を重ねる。とくに土木学会会員は、率先してこの規定を遵守する。

6. 阪神・淡路大震災災害調査団

1) 阪神・淡路大震災震災調査団

第一次震災調査団（7. 1. 18～20）

団長：田村重四郎（耐震工学委員会委員長）

他団員 14 名

幹事 5 名

第二次震災調査団（7. 1. 21～23）

団長：中村英夫（土木学会会長）

副団長：渡邊英一（京都大学教授）

他団員 18 名

幹事 8 名

第三次震災調査団（7. 2. 1～3）

団長：松尾 稔（名古屋大学教授）

他団員 13 名

幹事 2 名

第四次震災調査団（7. 2. 15～17）

団長：高田至郎（神戸大学教授）

他団員 8 名

幹事 2 名

2) 震災調査報告会

兵庫県南部地震震害調査緊急報告会（第一次調査団報告会）（7. 2. 8）

日本都市センター 参加者：約 1,000 名

阪神大震災震災調査第二次報告会（7. 3. 30）

川口総合文化センター 参加者：1,800 名

本部主催，支部共催「震災調査報告会」

- ・北海道支部（7. 3. 23） 北海道厚生年金会館 参加者：約 1,200 名
- ・東北支部（7. 2. 16） 仙台国際センター 参加者：1,325 名
- ・関東支部（7. 3. 2） 読売ホール 参加者：1,004 名
- ・中部支部（7. 2. 27） 名古屋国際会議場 参加者：2,400 名
- ・関西支部（6. 2. 13） 厚生年金会館 参加者：2,300 名
- ・中国四国支部（7. 2. 21 中国会場） 広島市国際会議場 参加者：856 名
（7. 2. 21 四国会場） 香川県教育会館 参加者：530 名
- ・西部支部（7. 2. 22） 大手門会館 参加者：650 名

7. 災害緊急調査団

7. 1. 震災

海外災害調査の派遣実績表

年度 (西暦)	災 害 名	調 査 団 員 数 (名)	学会負担団 員数(名)	費 用(円)	費 用 項 目
11 (1999)	ベネズエラ土砂災害	6 団長:小長井一男(東京大学)	6	5, 000, 000	(財)河川環境管理財団からの補助金
	トルコ・コジャエリ地震	17 濱田政則(早稲田大学)	15	3, 250, 000	学術文化事業指定型
	台湾地震	15(地震 10, コンクリート 5) 町田篤彦(埼玉大学) 濱田政則	15	1, 958, 522	学術文化事業指定型
	ギリシャ地震	2	2	244, 715	学術文化事業指定型
12 (2000)	メコン河洪水氾濫	7 井上和也(京都大学)	7	1, 693, 044	災害緊急調査費
	エルサルバドル地震	9 小長井一男	6	2, 915, 537	災害緊急調査費
	インド西部地震	8 濱田政則	3	2, 464, 280	災害緊急調査費
13 (2001)	ペルー地震	11 小長井一男	2	595, 584	災害緊急調査費
14 (2002)	イラン北西部地震	7 小長井一男	3	1, 143, 130	災害緊急調査費
14 (2002)	2002 ヨーロッパ水害調査	28 砂田憲吾(山梨大学)	13	5, 136, 979 5, 000, 000	災害緊急調査費, (財)河川環境管理財団からの補助金
15 (2003)	トルコ地震	3~5 宮島昌克(金沢大学)	3~5	369,085	災害緊急調査費
15 (2003)	アルジェリア地震調査団(先遣隊含む)	2(先遣隊) 後藤洋三(防災科学研究所) 濱田政則	2(先遣隊)	1,475,701	災害緊急調査費
15 (2003)	イランバム	11 宮島昌克			災害緊急調査費

7. 2. その他の災害（国内災害調査の実績表）

年度 (西暦)	災 害 名	調 査 団 員 数 (名)	学 会 負 担 団 員数(名)	費 用(円)	費 用 項 目
10 (1998)	福島・栃木・茨城水害 関係緊急災害	6 団 長：真 野 明(東北大学)	6	414, 471	特別調査研究費 国内災害緊急調査
11 (1999)	広島県土砂災害	10 福岡捷二(広 島大学)	9	403, 186	〃
12 (2000)	神津島近海地震	5 清野純史(京 都大学)	4	171, 793	〃
	有珠山噴火	4 陶野郁雄(環 境庁)	4	558, 319	〃
	東海豪雨災害	7 辻本哲郎(名 古屋大学)	7	207, 380	〃
	鳥取県西部地震	8 清野純史	8	171, 090	〃
13 (2001)	芸予地震	11 野 田 茂(香 川大学)	11	454, 962	〃
15 (2003)	宮城県沖地震調査団 (2 回分)	21 神 山 眞(東 北学院大学)		272,755	〃
15 (2003)	九州豪雨調査	31 善 功 企(九 州大学)		371,330	〃
15 (2003)	十勝沖地震調査団	26 佐藤浩一(北 海道大学)		85,214	〃
15 (2003)	北海道胆振・日高地方 災害調査	16 長 谷 川 和 義 (北海道大学)			
16 (2004)	北陸豪雨災害調査	18 玉井信行(金 沢大学)			
16 (2004)	四国豪雨・高潮災害調 査	6 村上仁士			

8. 土木学会名誉会員推挙者一覧（1933-2004）

1933 年 1 月	古市公威
1941 年 2 月	野村龍太郎・田辺朔郎・古川阪次郎
1943 年 2 月	丹羽鋤彦・名井九介・那波光雄
1945 年	岡野 昇・真田秀吉・国沢新兵衛
1946 年 5 月	吉町太郎一・牧 彦七・生野団六
1950 年 5 月	安芸杏一・前川貫一・君島八郎・大河戸宗治・青山 土・八田嘉明
1951 年 5 月	G.A.Hathaway・久保田敬一・島 重治・松島寛三郎
1952 年 5 月	草間 偉・丹治経三
1953 年 5 月	J.L.Savage・鶴見一之
1954 年 5 月	辰馬鎌蔵・黒河内四郎・米元普一
1956 年 5 月	谷口三郎・島崎孝彦
1957 年 5 月	平井喜久松・永井専三・小野諒兄
1958 年 5 月	福留並喜・橋本敬之・牧野雅楽之丞・田中 豊
1959 年 5 月	鈴木雅次・黒田武定・吉田徳次郎・平山復二郎・堀越清六・高西敬義
1960 年 5 月	池田嘉六・菊池英彦・斉藤静脩・田中九一・高橋基也・永田民也・村山喜一郎・山田隆二
1961 年 5 月	内田泰郎・内海清温・近藤博夫・田渕寿郎・荻原俊一・花井又太郎・原口忠次郎・藤井真透・山崎匡輔
1962 年 5 月	池辺稻生・岩崎雄治・小野基樹・大蔵公房・寛 斌治・金子源一郎・佐藤忠三郎・高橋三郎・中村廉次・三輪周蔵
1963 年 5 月	阿部一郎・青木楠男・岩沢忠恭・泉谷平次郎・佐伯利吉・鈴木角一郎・鷹部屋福平・富永正義・林 千秋・松尾守治
1964 年 5 月	稲浦鹿蔵・小川敬次郎・岡部三郎・坂上丈三郎・鮫島 茂・高橋嘉一郎・武居高四郎・沼田政矩・星野茂樹・三浦義男・鷺尾蟄龍
1965 年 5 月	A.T.Ippen・菊地 明・久保田豊・近藤泰夫・L.Escande・永田 年 ・野田誠三・岡田信次
1966 年 5 月	大島大郎・田中吉郎・成瀬勝武
1967 年 5 月	内林達一・大坪喜久太郎・福田武雄・宮本 保
1968 年 5 月	大塩政治郎・下間仲都・徳善義光
1969 年 5 月	A.Grzywienski・J.W.Daily・佐々木銑・末森猛雄・西松三好・藤井松太郎・堀 威夫・水谷当起
1970 年 5 月	石田二郎・井関正雄・浦上衛門・田中茂美・當山道三・松本金吾・三池鎮浪・米田正文
1971 年 5 月	富樫凱一・松尾春雄・真井耕象・柳沢米吉
1972 年 5 月	安芸皎一・篠原武司・平井弥之助
1973 年 5 月	伊藤 信・大石 勇・大石重成・加藤伴平・羽田 巖
1974 年 5 月	伊藤令二・飯吉精一・石原藤次郎・大林勇治・叶 磯・今 俊三・杉戸 清・樋浦大三
1975 年 5 月	稲垣茂樹・岩本常次・江口 馨・岡本舜三・高野 務・堀越一三・山本三郎
1976 年 5 月	R.K.Linsley・上戸斌司・上野省二・末松 栄・田中寛二・瀧山 養・藤村久四郎・前田一三
1977 年 3 月	伊藤 剛・上山鉄之助・大野台助・近藤 勇・酒井忠明・立花次郎・西村俊男・本間 仁・渡辺寛治
1978 年 3 月	江藤 智・熊川信之・黒田静夫・高津俊久・中谷茂一・星 治雄・松井達夫・松見三郎・水野高明・村上 正・最上武雄
1979 年 3 月	石田 聖・板倉忠三・河村重俊・鈴木清一・平井 敦・水越達雄
1980 年 3 月	井上幸太郎・太田尾廣治・佐藤寛政・山崎 博・横道英雄・米元卓介

1981 年 3 月	猪瀬寧雄・北村市太郎・高坂紫郎・國分正胤・佐藤 豪・庄司 光・鈴木信孝・友永和夫・仁杉 巖・野瀬正儀・星埜 和
1982 年 3 月	小西一郎・小林嘉道・米谷栄二・坂本貞雄・城塚孝雄・扇田彦一・田代信雄・田中五郎・比田 正・三浦文次郎
1983 年 3 月	安藤道夫・荒木謙一・今岡鶴吉・奥田教朝・尾之内由紀夫・小林二郎・篠原謹爾・好井宏海・吉田 登・渡部時也
1984 年 3 月	石上立夫・小野竹之助・加賀美一二三・片平信貴・河上房義・小池 誉・後藤正司・佐藤 肇・中村 稔・福山眞一郎・藤田博愛・横田周平・渡辺新三
1985 年 3 月	荒井 力・市原松平・大橋康次・奥村敏恵・倉田宗章・佐島秀夫・斎藤義治・坂本信雄・田中 茂・田原保二・谷藤正三・中安米蔵・長谷川盛一・丸安隆和・八十島義之助・山内一郎
1986 年 3 月	市浦 繁・小林重一・高畑政信・村瀬 清
1987 年 3 月	岡本考平・菊池三男・小林元椽・高橋国一郎・竹ヶ原輔之夫・長濱正雄・畑谷正實・村田清逸・柳瀬珠郎・渡辺 豊
1988 年 3 月	足立 力・井口昌平・石川 豊・小田英一・岡部 保・久保慶三郎・後藤幸正・堺 毅・下村 肇・杉尾捨三郎・鈴紀喜久・福岡正巳・南 俊次・M.P.O'Brien
1989 年 3 月	伊藤直行・石井興良・市田 洋・上田 稔・内田一郎・大串満馬・岡田政三・佐々木正久・佐藤 康・田邊義亮・高橋浩二・成岡昌夫・比留間豊・廣瀬可一・森下卓也・吉開正文・吉村虎蔵
1990 年 3 月	内田隆滋・尾崎 晃・大地羊三・大橋健一・岡田光雄・佐藤清一・佐藤 史・豊田栄一・土方大貳・細田和男・三木五三郎
1991 年 3 月	伊藤富雄・石川六郎・岩井重久・岩崎敏夫・神田九思男・北郷 繁・左合正雄・佐久間啓・林 泰三・牧野文雄・山岡 勲・J.W.Johnson
1991 年 5 月	堂垣内尚弘・村上永一
1992 年 3 月	浅井新一郎・栗津清蔵・神谷 洋・近藤和夫・佐用泰司・椿東一郎・戸谷松司・熊町純雄・八田晃夫・前田幸雄・耳野 慎・山門明雄・山内豊聰・山本有三・山家義雄・G.W.Housner
1993 年 3 月	井島武士・井上 孝・岡田 清・片山英吉・吉川秀夫・小松定夫・後藤 績・坂野重信・瀬良 茂・多田尚夫・長尾義三・樋口芳朗・平嶋政治・堀川清司・町田利武・松本順一郎・八木鐵男
1994 年 3 月	安藝恒夫・岩垣雄一・岩佐義朗・勝田悦之・川越達雄・小坪清眞・丹羽義次・沼田 實・濱 健介・藤井敏夫・村山朔郎・森 麟・吉田俊彌
1995 年 3 月	網干壽夫・青木謙三・浅間 隆・伊吹山四郎・井上 孝・鈴木忠義・竹内良夫・谷本喜一・西田正之・林 正道・日永善雄・藤田圭一・村田二郎・村山 保・百島祐信・山田照一・山之内繁夫
1996 年 3 月	栗谷陽一・Robert L. WIEGEL・上田年 比古・大久保喜一・久野悟郎・河野文弘・定井喜明・杉山孝雄・千秋信一・長尾 満・長沢不二男・西村俊夫・花房 保・半谷哲夫・松村恭二・三浦孝雄・三露嘉郎・山内利彦・吉村 恒・渡邊隆二
1997 年 3 月	赤井浩一・大塚勝美・岸 力・小坂 忠・近藤信昭・菅原 操・関 厚・那智俊雄・畑中昭吾・久田安夫・町田美治・村上省一
1998 年 3 月	茨木龍雄・大原資生・岡本成之・角田和夫・佐武正雄・菅原照雄・戸田守二・平岡治郎・藤堂 定・堀井 昇・渡辺 昇
1998 年 5 月	高橋 裕
1999 年 3 月	芦田和男・天野光三・金丸昭治・川本眺万・佐藤敦久・武田 宏・藤田嘉夫・富士野昭典・宮崎 明・森 忠次・八木純一・山田善一
1999 年 5 月	加藤 晃・三谷 健

2000 年 3 月	赤尾親助・井上龍介・上林達郎・大橋雄六・岡田 宏・鎌田文明・加納次郎・金馬昭郎・椎野佐昌・高橋準一・高橋由巳・高秀秀信・竹山 喬・寺坂 勝・中瀬明男・長本隆夫・鍋山 晃・新谷洋二・二宮敏明・野口 功・藤本 廣・星野晴彦・本多 博・Orville Tyler Magoon・三善康平・三輪利英・甕 哲司・門田博知・柳田真司・山根 孟・山本 稔・吉川和広・渡部 基
2000 年 5 月	小林一輔
2001 年 3 月	阿部英彦・伊集院敏・伊藤 學・尾坂芳夫・小野寺駿一・片瀬貴文・木村喜代治・倉西 茂・栗原和夫・James W. Poirot・堤 一・中島重旗・中村英夫・原 欽五・松本嘉司・三浦一郎・吉田正吾・渡邊重幸
2002 年 3 月	荒川利輝・植下 協・内田敏久・金子 晃・北松治男・佐藤幸夫・榎木 亨・柴田 徹・鈴木道雄・永井重光・中川博次・中村五郎・松尾 稔・松山 巖・渡部 威
2002 年 5 月	廣瀬利雄
2003 年 3 月	阿部 壽・五十嵐日出夫・岩橋洋一・奥山文雄・小笹太郎・北野 章・河野 清・小林幸蔵・志水茂明・白石成人・菅原 濟・杉山好信・丹保憲仁・戸田隆志・永尾勝義・西林信藏・野沢太三・黄 鶴周・福本嘸士・藤野慎吾・松浦 聖・吉田喜七郎・芳村 仁
2003 年 5 月	合田良實
2004 年 3 月	赤木俊充・網野定三・石井晃一・大崎本一・岡村甫・岡本堯生・奥村威俊・岸 清・小堀為雄・須田瀨・清野茂次・高棹琢磨・長 尚・土居則夫・橋本龍男・藤井浩・藤本順一・町田富士夫・松村駿一郎・山田清臣・横内利治・渡邊修自
2004 年 5 月	玉光弘明・田村重四郎

9. 土木学会受賞者一覧（敬称略）

年度	賞別	受賞者	題目および作品
1994 (平成6)	功績賞	岡田 清 樋口芳朗	福山大学 東京理科大学
	技術賞	本州四国連絡橋公団 第一建設局	明石海峡大橋基礎の建設
		日本鉄道建設公団 大阪支社 智頭急行(株)	阪神地区と鳥取県東部地区を最高速で結ぶ智頭線，上郡～智頭間の建設
		秋田石油備蓄(株) 鹿島建設(株) 清水建設(株) 大成建設(株) (株)大林組	世界最大容量の地中式原油タンク基地建設
		外務省経済協力局 国際協力事業団 バングラデシュ国交通省道路局 パシフィックコンサルタンツインターナショナル 日本工営(株) (株)大林組	バングラデシュ国最重要幹線道路における最後のフェリー地点の橋梁化－メグナ橋，メグナ・グムティ橋の計画・設計・施工－
		運輸省 第三港湾建設局 和歌山県	自然と共生した新たな海洋空間を創造する和歌山マリーナシティの建設
		関西国際空港(株)	大水深・軟弱地盤上での近代的海上空港，関西国際空港の建設
		首都高速道路公団	首都高速湾岸線（横浜ベイブリッジ～羽田空港間）の建設
	論文賞	竹宮宏和（岡山大学）	地盤と構造物の動的相互作用場の波動論的考察と制振法に関する研究（総合題目）
		楠田哲也（九州大学） 二渡 了（九州大学） 大石京子（九州大学） 古米弘明（茨城大学）	強混合型河川感潮部における物質輸送と水質変換に関する研究（総合題目）
		灘岡和夫（東京工業大学）	新たな非線形分散性波動方程式の開発に基づく一般波動理論の構築（総合題目）
		越智健三（東急建設(株)） 壺内達也（東急建設(株)） 龍岡文夫（東京大学）	堆積軟岩の変形特性に関する研究（総合題目）
		堀江 興（新潟工科大学）	戦後の東京の民間会社による外濠高速道路建設経緯
	論文奨励賞	藤井 浩（名工建設(株)） 奥田 庸（日本鉄道住設公団） 登坂敏雄（日本鉄道住設公団）	洪積層における地表面沈下量を抑止した山岳トンネル工法の開発・適用に関する実験的検証
		堀 宗朗（東京大学）	BOUNDS FOR EFFECTIVE MATERIAL PROPERTIES OF STATISTICALLY NON-HOMOGENEOUS SOLID
		水谷法美（名古屋大学）	没水球体に作用する波力の特性と算定手法に関する研究（総合題目）
		中野正樹（名古屋大学）	観測的方法による透水係数の推定を組込んだプレロード工の予測計算の一試案
		赤松 隆（豊橋技術科学大学）	渋滞ネットワークにおける動的な利用者均衡配分
		森川英典（神戸大学）	既存コンクリート橋の安全性および寿命評価に関する研究（総合題目）

吉田賞 研究業績部門	小林茂雄（新日本製鉄㈱）	構造物の発破解体に関する研究（総合題目）
		※該当なし
	論文部門 趙 唯堅（長岡技術科学大学） 丸山久一（長岡技術科学大学）	鉄筋コンクリートはりの曲げひびわれ幅算定式の再評価
	小澤一雅（東京大学） 坂田 昇（鹿島技術研究所） 岡村 甫（東京大学）	ロート試験を用いたフレッシュコンクリートの自己充填性評価
吉田研究奨励賞	川島一彦（建設省土木研究所） 長谷川金二（在フィリピン大使館）	鉄筋コンクリート橋脚の非線形地震応答解析及びエネルギー一定則の適用性に関する研究
	鎌田敏郎（東京工業大学）	コンクリートの非破壊評価のための超音波減衰特性の解明
委員会が必要と 認めた調査研究 課題	服部篤史（京都大学）	連続繊維棒材のコンクリートとの付着に関する研究
	コンクリート委員会	「阪神・淡路大震災に関する調査研究」（資料の収集と被災した構造物の耐震性の評価とその原因、対策の調査並びに今後の耐震設計への提言等を取りまとめる）
国際研究集会への派遣	池田尚治（横浜国立大学） 山口隆裕（横浜国立大学）	「阪神・淡路大震災に関する調査研究」（鉄筋コンクリート構造物の破壊メカニズム）
		「第30回CEB総会（Commission I）」（1995.9.11～14，ドイツ）
		「Concrete 95 Toward Better Concrete Structures」（1995.9.4.～7，オーストラリア）
		「2nd International Symposium on NON-METALLIC (FRP) REINFORCEMENT FOR CONCRETE STRUCTURES (FRPRCS-2)」（1995.8.23～25，ベルギー）
		「①Fifth International Conference on Fly Ash, Silica Fume, Slag and Natural Pozzolans in Concrete」（1995.6.4～9，アメリカ） 「②Second CANMET/ACI International Symposium on "Advances in Concrete Technology"」（1995.6.11～14，アメリカ）
田中賞 研究業績部門	佐々木道夫（新日本技研㈱）	コンサルタントエンジニアとしての橋梁設計に関する研究業績
論文部門	宮田利雄（横浜国立大学） 北條哲男（新日本製鐵） 山田 均（横浜国立大学）	Experimental study on aerodynamic characteristics of cables with patterned surface
	山村信道（日立造船㈱） 田中 洋（日立造船㈱）	長大橋のフラッターに関する空力安定性の研究（総合題目）
作品部門	一般国道301号 久澄橋〔道路橋〕 愛知県豊田市	形式：単弦ローゼ桁2連，鋼床版箱桁1連，RC床版箱桁1連
	イナコスの橋〔歩道橋〕 大分県別府市	形式：サスペンアーチ式不完全トラス構造橋（床版－石板）
	西湘バイパス小田原ブルーウェイブリッジ〔道路橋〕 神奈川県小田原市	形式：PC3径間連続エクストラードード箱桁橋
	新木津川大橋〔道路橋〕 大阪市住之江区	形式：鋼床版バランスドアーチ橋

1995
(平成7)

技術開発賞

鶴見つばさ橋〔道路橋〕
神奈川県横浜市

形式：3径間連続鋼斜張橋（鋼床版）

バンコク第二高速道路第一期工
事区〔道路橋〕
タイ国バンコク市

最大4径間連結単純PC箱桁橋（プレキャストセグメン
ト），最大10径間連続RC床版橋（一部PC），最大6径間
連結単純PC合成桁橋（プレキャストU桁，I 桁）

善 功企（運輸省港湾技術研究
所）
石山 范（運輸省）
千田宏三（北海道開発局）
蛭川友司（東京湾横断道路㈱）
森 国夫（事前混合処理工法協
会）

液状化対策としての事前混合処理工法の開発

岡村 甫（東京大学）
前川宏一（東京大学）
小澤一雅（東京大学）

自己充填性ハイパフォーマンスコンクリートの開発

新津敬治（首都高速道路公団）
林 紀夫（首都高速道路公団）
松本修一（㈱オリエンタルコン
サルタンツ）
伊佐 秀（大成建設㈱）
桜井節也（大成建設㈱）

沈埋トンネルの新しい最終継手工法（ターミナルブ
ロック工法）の開発・実用化

園田徹士（㈱間組）
中村 稔（新日本製錬㈱）
新井時夫（㈱熊谷組）
宮田弘之介（佐藤工業㈱）
栗原和夫（西松建設㈱）

NOMST (Novel Material Shield-cutable Tunnel wall
System)

出版文化賞

『ハイパフォーマンスコンク
リート』

岡村 甫，前川宏一，小澤一雅・著／技報堂出版㈱
平成5年9月30日

『「都市計画」の誕生～国際比
較からみた日本近代都市計画』

渡辺俊一・著／柏書房㈱ 平成5年9月30日

『移ろいの風景論～五感・こと
ば・天気』

小林 享・著／㈱鹿島出版会 平成5年12月20日

『流水の科学者 岡崎文吉
寄』

浅田英祺・著／北海道大学図書刊行会 平成6年7月20
日

技術功労賞

梅田昌郎（㈱建設技術研究所）

調査・計画・設計・管理

櫻澤 正（（社）日本鉄道施設協
会）

管理・通用・防災・保全

澤田富治（青山製図専門学校）

施工・検査

鈴木金吾（鹿島建設㈱）

施工・検査

安川郁夫（東洋地質調査㈱）

教育・研究・啓発

功績賞

石川六郎

鹿島建設㈱

菊池三男

（財）立体道路維持機構

千秋信一

（財）電力中央研究所

竹内良夫

㈱竹内良夫事務所

技術賞

京都市交通局
佐藤・西松・鴻池・東洋・吉
村・金澤土建JV
中央復建コンサルタンツ㈱

高速鉄道東西線建設工事（御陵東工区）4本超近接回転
移行シールドトンネルの設計・施工

	日本鉄道建設公団 北陸新幹線建設局 佐藤工業(株) 鹿島建設(株) (株)熊谷組 鉄建建設(株)	長大山岳トンネルにおける合理的な施工技術の確立 (北陸新幹線五里ヶ峯トンネルにおける急速施工)
	大阪市交通局 鹿島建設(株) (株)竹中土木 大豊建設(株)	世界初の3連型MFシールドによる地下鉄道駅の建設
	東京ガス(株) 清水建設(株) 鹿島建設(株) (株)大林組 大成建設(株)	大容量LNG地下式貯槽の開発と建設ー東京ガスLNG基地ー
	建設省東北地方建設局 福島工事事務所 福島市	ひと・まち・みちの連携による、活力と魅力にあふれた福島西道路の沿道風景づくり
	北海道開発局 網走開発建設部 紋別市 (株)オホーツク 流水研究所	流水を海中から観測できる世界初の氷海展望塔と日本最大級の氷海の散歩道・親水防波堤の建設ー北海道紋別市流水研究国際都市をめざしてー
	運輸省鉄道局 鉄道施設耐震構造検討委員会 (財)鉄道総合技術研究所 東海旅客鉄道(株) 西日本旅客鉄道(株) 阪神電気鉄道(株) 阪急電鉄(株) 神戸高速鉄道(株) 大阪市交通局 神戸市交通局 山陽電気鉄道(株)	兵庫県南部地震で被災した鉄道高架橋及び開削トンネルの早期復旧工事
	論文賞 宇佐美勉 (名古屋大学) 葛 漢彬 (名古屋大学)	コンクリートを部分的に充填した鋼製橋脚の地震時保有水平耐力照査法の開発に関する研究 (総合題目)
	中辻啓二 (大阪大学) 藤原建紀 (京都大学)	大阪湾におけるエスチュアリー循環機構
	村上 章 (京都大学) 浜口俊雄 (京都大学)	カルマンフィルタによる逆解析法の開発と施工管理への適用に関する研究 (総合題目)
	岡田憲夫 (京都大学) 谷本圭志 (三菱総合研究所)	多目的ダム事業における慣用的費用割振り法の改善のためのゲーム論的考察
論文奨励賞	二羽淳一郎 (名古屋大学)	解析的手法による鉄筋コンクリートはり部材のせん断耐荷機構の解明
	草柳俊二 (大成建設(株))	国際建設プロジェクトのマネジメントに関する研究 (総合題目)
	山本広祐 ((財)電力中央研究所)	ニューラルネットワークによる履歴復元力モデルの精度向上に関する研究 (総合題目)
	沖 大幹 (東京大学)	大気・流域の水収支と地球規模の水循環に関する研究 (総合題目)
	渡部要一 (運輸省 港湾技術研究所)	裏込め荷重を受ける軟弱粘土地盤中の抗基礎の安定性に関する研究 (総合題目)
	Le Dam Hanh (南カリフォルニア大学) 上田孝行 (岐阜大学)	古典的消费者行動理論から見た交通行動モデル (総合題目)
	下村 匠 (長岡技術科学大学)	微視的機構に基づくコンクリートの乾燥収縮モデル (総合題目)

吉田賞 研究業績部門	佐野博昭（石川工業高等専門学校）	石炭火力発電所副産物の路盤材料としての適用性に関する研究（総合題目）
	石橋忠良（東日本旅客鉄道㈱）	鉄道コンクリート構造物の耐震技術に関する研究（総合題目）
	論文部門 田澤栄一（広島大学） 宮澤伸吾（足利工業大学）	セメント系材料の自己収縮に及ぼす結合材および配合の影響
	岸 利治（東京大学） 前川宏一（東京大学）	ポルトランドセメントの複合水和発熱モデル
吉田研究奨励賞	睦好宏史（埼玉大学） 土田一輝（清水建設㈱） 町田篤彦（埼玉大学）	外ケーブルPC部材の曲げ性状および曲げ耐力算定法に関する研究
	西内達雄（（財）電力中央研究所）	ジョイント部の非線形特性を考慮したアーチダムの三次元有限要素解析
	委員会が必要と認めた調査研究課題	※なし
	国際研究集会への派遣	
田中賞 研究業績部門	細川吉晴（北里大学）	第7回建設材料の耐久性に関する国際会議（1996. 5. 19～23, スウェーデン）
	渡辺博志（建設省 土木研究所）	高強度コンクリートに関する国際研究集会（1996. 5. 29～31, フランス）
	鳥居和之（金沢大学）	第10回アルカリ骨材反応に関する国際会議（1996. 8. 19～23, オーストラリア）
	田島二郎（田島構造橋梁研究所）	国鉄、本四公団での橋梁設計技術者としての研究業績と埼玉大学、田島構造橋梁研究所における研究者、コンサルティングエンジニアとしての研究業績
論文部門	長谷川鑑一（㈱横河ブリッジ）	鋼橋の設計・製作の自動化および吊橋補剛桁の逐次剛結工法確立に関する研究業績
	織田博孝（瀧上工業㈱）	鋼骨組構造物の新しい座屈設計法の開発に関する研究（総合題目）
	森 猛（法政大学） 三木千寿（東京工業大学）	すみ肉溶接部に生じる表面疲労亀裂の形状
	作品部門 干支大橋〔道路橋〕 宮崎県東臼杵郡北方町	形式：中路式鋼ブレスドリブ固定アーチ橋（床康Ⅰ形鋼格子床版）
作品部門	潮騒橋〔歩道橋〕 静岡県小笠郡大東町	形式：4径間連続上路式PC吊床版橋
	夢の大橋（選考時の名称「シンボルプロムナード橋（仮称）」）〔歩道橋〕 東京都江東区	形式：3径間連続鋼床版箱桁
	十勝大橋〔道路橋〕 北海道帯広市	形式：3径間連続PC斜張橋
	北陸新幹線 第2千曲川橋梁〔鉄道橋〕 長野県上田市	形式：プレストレストコンクリート斜張橋
作品部門	ホロナイ川橋〔道路橋〕 北海道虻田郡虻田町	形式：鋼2径間連続PC床版2主桁橋
	松の木7号橋〔道路橋〕 秋田県雄勝郡雄勝町	形式：5径間連続波形鋼版ウェブPC箱桁

1996
(平成8)

技術開発賞	田崎和之（新日本製紙(株)） 石原公明（(株)間組） 前 孝一（清水建設(株)） 平井正哉（(株)大林組） 酒井邦登（東急建設(株)）	鋼製地中連続壁工法の開発
	辰巳正明（本州四国連絡橋公団） 廣田昭二（本州四国連絡橋公団） 東 秀樹（本州四国連絡橋公団） 安井成豊（(社)日本建設機械化協会） 秋山和夫（(株)技術開発研究所）	磁石車輪を用いたゴンドラの開発
	蔵持慈男（東京電力(株)） 井上素行（東京電力(株)） 菅沼康男（東京電力(株)） 本間 勉（鉄建建設(株)） 青木義治（鉄建建設(株)）	水路トンネル補修ロボット工法の開発
出版文化賞	『大地の川－蘇れ、日本のふるさとの川』『天空の川－ガンに出会った河川技術者の日々』	関 正和（故人）・著／(株)草思社 平成6年10月28日
	『長大橋を支える海中土木技術』	杉田秀夫（故人）・著／(株)山海堂 平成6年11月15日
	『ラインの文化史－水とヨーロッパ社会』	鯖田豊之・著／(株)刀水書房 平成7年2月15日
	『地盤の支持力』	柴田 徹，関口秀雄・著／(株)鹿島出版会 平成7年3月30日
国際貢献賞	佐藤昭二	国際協力事業団専門家
	玉光弘明	(社)国際建設技術協会理事長
	柳沢幸利	西松建設(株)代表取締役副社長
功績賞	伊吹山四郎	攻玉社工科短期大学
	岩佐義朗	京都大学名誉教授
	長尾義三	京都大学名誉教授
	林 泰造	中央大学名誉教授
技術賞	日本鉄道建設公団 北陸新幹線建設局 東日本旅客鉄道(株) 上信越工事事務所 (財)鉄道総合技術研究所	北陸新幹線高速分岐器（38番）の開発・敷設（分岐側通過速度160km/hの高速分岐器）
	関西電力(株) 佐藤・大成・三井・大豊共同企業体	都心部の地下70mでの急曲線，急勾配シールドー西梅田付近管路新設工事第2工区－
	東日本旅客鉄道(株)東京工事事務所	中央線東京駅付近高架橋の設計と施工
	日本道路公団 東京第一建設局	横浜新道（保土ヶ谷～新保土ヶ谷）拡幅工事におけるトンネル施工
	東京都建設局 河川部 パシフィックコンサルタンツ(株) 鹿島・飛島・戸田・前田・青木共同企業体	東京地下河川の建設－神田川・環状七号線地下調節池工事－

論文賞	大成・熊谷・日本国土・大木・都中協建設共同企業体 清水・西松・フジタ・大日本・日産・三幸建設共同企業体	
	関西高速鉄道㈱ 日本鉄道建設公団 大阪支社 大阪市交通局 西日本旅客鉄道㈱ 京阪電気鉄道㈱ 阪神電気鉄道㈱	大阪都心部を未経験の深さで東西に貫く鉄道幹線「JR東西線」の建設
	電源開発㈱	開放型発電所を目指した奥清津第二発電所（OKKY）新設工事
	白島石油備蓄㈱ 貯蔵船・同泊地等建設工事共同企業体（間組・飛島建設・清水建設・若築建設・東洋建設・日立造船・石川島播磨重工業・三菱重工業）	外洋における防波堤開閉式石油備蓄基地の建設－白島石油備蓄基地－
	水資源開発公団 味噌川ダム管理所	味噌川ダムの建設－厳しい施工環境と恵まれない地質条件を克服－
	中村秀治（（財）電力中央研究所）	鋼製円筒橋脚の動的弾塑性座屈解析
	山田 正（中央大学） 中津川 誠（北海道開発局） 日比野忠史（広島大学）	山地流域における降雨特性の解明と降雨の予測手法の開発（総合題目）
	橋口公一（九州大学）	土の繰返し弾塑性モデルの提案（総合題目）
	小林一郎（熊本大学）	世界初の本格吊橋トウルノン橋の建設について（総合題目）
	前川宏一（東京大学） Ashraf SHAWKY（カイロ大学）	地中鉄筋コンクリート構造の動的非線形解析法の開発（総合題目）
論文奨励賞	大林成行（東京理科大学） 小島尚人（東京理科大学）	衛星マルチスペクトルデータを適用した土地利用構想・計画支援手法の開発（総合題目）
	三村信男（茨城大学） 磯部雅彦（東京大学） 細川恭史（運輸省 港湾技術研究所） 山田和人（パシフィックコンサルタンツ㈱） 町田 聡（パシフィックコンサルタンツ㈱） 筒井純一（（財）電力中央研究所）	海面上昇・気候変動の影響評価に関する研究（総合題目）
	神田 学（東京工業大学）	新しい屋外用温熱感指標の構築と応用（総合題目）
	吉田秀典（千葉工業大学）	マイクロメカニクスに基づく亀裂性岩盤の連続体モデルと地下空洞掘削解析（総合題目）
	多々納裕一（京都大学）	危険回避選好を考慮した2段階離散選択モデルに関する研究（総合題目）
	岸 利治（東京大学）	ポルトランドセメントおよび混合セメントの複合水和発熱モデル（総合題目）
	佐伯竜彦（新潟大学）	非線形連成解析によるコンクリートの中性化およびそれに伴う鉄筋腐食の進行予測に関する研究（総合題目）
	一ノ瀬俊明（国立環境研究所）	細密地理情報にもとづく都市のエネルギー消費と都市熱環境の解析（総合題目）

吉田賞 研究業績部門	論文部門	堀 孝司（北海道開発局） 渡辺 宏（北海道開発局）	※応募・受賞なし
		睦好宏史（埼玉大学） 山口統央（鹿島建設㈱） 徳山清治（鹿島建設㈱）	プレキャストセグメントを用いた外ケーブル式P Cはりの曲げ性状および靱性改善に関する研究
		大矢 孝（東京電力㈱） 魚本健人（東京大学） 堤 知明（東京電力㈱）	ニューラルネットワークを用いたコンクリート製造管理システムに関する研究
		吉田研究奨励賞 小林孝一（京都大学）	高炉スラグ微粉末を用いた鉄筋コンクリート部材の鉄筋腐食に関する研究
	委員会が必要と認めた調査研究課題	加藤佳孝（東京大学）	細骨材の粒度分布が遷移帯および圧縮強度に及ぼす影響に関する研究
		桑野忠生（首都高速道路公団）	炭素繊維シートと鋼板との混合及び合成効果を考慮したRC橋脚の耐震性向上実験
		※なし	※なし
	国際研究集会等への派遣	入矢桂史郎（名古屋工業大学）	建設材料に関する国際会議（1997. 6. 8～11, カナダ）
		鈴木基行（東北大学）	第31回CEB総会（1997. 6. 9～12, スウェーデン）
		ケイバニ・ソメエ・アブドラ（北海道大学）	コンクリートの耐久性に関する第4回CANMET／ACI国際会議（1997. 8. 17～22, オーストラリア）
		※その他国際会議への派遣を予定	
田中賞 研究業績部門	論文部門	大橋昭光（トピー工業㈱）	長径間吊橋における設計施工技術
		市川篤司（（財）鉄道総合技術研究所） 長嶋文雄（東京都立大学） 山田 稔（東日本鉄工㈱）	絶縁性能を付与した摩擦接合継手の静的強度および疲労強度試験
		山口宏樹（埼玉大学） 高野晴夫（首都高速道路公団） 小笠原政文（首都高速道路公団） 下里哲弘（首都高速道路公団） 加藤真志（NKK）	斜張橋振動減衰のエネルギー的評価法と鶴見つばさ橋への適用
	作品部門	四国縦貫自動車道重信高架橋〔道路橋〕 愛媛県伊予市～松山市	形式：内外ケーブル併用プレキャストセグメントラーメン箱桁橋
		東京湾アクアライン橋梁部〔道路橋〕 千葉県木更津市	形式：鋼連続箱桁橋（1－Box），鋼床版
		名取川橋梁〔鉄道橋〕 宮城県仙台市太白区	形式：2径間連続PC斜版橋×4連（大斜版1連＋小斜版3連）
		南風原高架橋〔道路橋〕 沖縄県中頭郡西原町～島尻郡南風原町	形式：上り線：20径連続RCアーチ橋，下り線：21径連続RCアーチ橋
		弁天高架橋〔道路橋〕 兵庫県神戸市	19径間連続立体ラーメン橋

1997
(平成9)

技術開発賞

北陸新幹線「屋代橋りょう」
〔鉄道橋〕
長野県更埴市

屋代南：4径間連続PC斜張橋，屋代北：3径間連続PC斜張橋，屋代中：3径間連続PCラーメン橋

夢吊橋〔歩道橋〕
広島県世羅郡甲山町～府中市
諸毛町

形式：単径間PC吊床版橋

領家邦泰（大成建設㈱）
田村寿夫（大成建設㈱）
ニール・デーメン（アトラス・
コブコ・ロビンス）
デビッド・ケリー（アトラス・
コブコ・ロビンス）

硬岩トンネル自由断面掘削機（MM130R）の開発

宮崎七郎（日本道路公団）
山田憲夫（東京湾横断道路㈱）
赤村重紀（東京電力㈱）
川端僚二（鹿島建設㈱）
穴井秀和（鹿島建設㈱）

高水圧下長距離シールドトンネルの地中接合工法の開発

吉川洋一（東京ガス㈱）
清水善久（東京ガス㈱）
片山恒雄（科学技術庁）
山崎文雄（東京大学）
野田 茂（鳥取大学）

地震時導管網警報システムーSIGNALーの開発

加島 豊（大豊建設㈱）
赤地秀実（大豊建設㈱）
近藤紀夫（大豊建設㈱）
富沢 勉（大豊建設㈱）
井上正巳（大豊建設㈱）

DPLEX（多軸）シールド工法の開発

出版文化賞

『土木と文明』

合田良實・著：㈱鹿島出版会 平成8年3月1日発行

『メコン河～開発と環境』

堀 博・著：古今書院 平成8年3月18日発行

技術功労賞

遠藤剛人（元 宮城県土木部）

調査・計画・施工・検査

小野辰雄（日綜産業㈱）

管理・運用・防災・保全

呉林淳一（㈱鉄公サービス）

用地・補償

広井吉栄（成和コンサルタント
㈱）

管理・運用・防災・保全

星野幸平（㈱昇製作所）

施工・検査

山元 中（宮崎県建設技術セン
ター）

教育・研究・啓発

功績賞

浅井新一郎

新日本製鐵㈱

鈴木忠義

東京工業大学

高橋 裕

東京大学名誉教授

藤井敏夫

（社）日本大ダム会議

技術賞

建設省九州地方建設局 雲仙復
興工事事務所
大成建設㈱

無人化工法によるRCCコンクリートダムの施工ー水無川
1号砂防ダム越流部建設工事ー

日本鉄道建設公団 盛岡支社
東日本旅客鉄道㈱ 東北工事事
務所

新幹線在来線直通化工事における急速施工法の開発
（秋田新幹線ー機械化連続改軌，市街地内高架橋急速
施工）

運輸省 第三港湾建設局
大阪市港湾局

大水深主航路下・軟弱地盤における大断面沈埋トンネ
ルー大阪港咲洲トンネルーの建設

論文賞	建設省中部地方建設局 高山工 事事務所	安房峠道路（安房トンネル）の建設
	日本鉄道建設公団 東日本旅客鉄道(株)	北陸新幹線（高崎・長野間）の建設
	建設省 近畿地方建設局 本州四国連絡橋公団	神戸淡路鳴門自動車道（明石海峡大橋関連区間）の建設
	日本道路公団 東京湾横断道路(株)	東京湾横断道路の建設
	中村 豊（(株)システムアンド データリサーチ）	総合地震防災システムの研究（総合主題）
	佐藤慎司（建設省 土木研究 所）	沿岸域における大規模流れの発達機構の実証的解明 （総合題目）
	福田光治（(財)大阪土質試験 所） 宇野尚雄（岐阜大学）	粒度分布に基づく間隙指標の提案と土質分類法の分析 （総合題目）
	桑原雅夫（東京大学） 赤松 隆（豊橋技術科学大学）	動的ネットワーク交通量配分に関する研究（総合題 目）
	藤原浩巳（日本セメント(株)） 長瀧重義（新潟大学）	高流動コンクリートの特性に関する研究（総合題目）
	宮本幸始（東京電力(株)）	LNG地下タンク鉄筋コンクリート構造設計合理化の研究
論文奨励賞	松岡 譲（京都大学） 水野健太（若築建設(株)）	エネルギー消費関連技術と政策による二酸化炭素排出 量削減効果のモデル解析（総合題目）
	庄司 学（東京工業大学） 阿部雅人（東京大学）	高架道路橋システムにおける地震時損傷配分の最適化 の試み
	立川康人（京都大学）	分布型降雨流出シミュレーションモデルの開発と洪水 予測に関する研究（総合題目）
	神谷浩二（岐阜大学）	砂質土の間隙径分布の計測・推定に基づく間隙評価 （総合題目）
	藤井 聡（京都大学）	個人の生活行動と動的な交通流を考慮した交通需要予 測手法に関する基礎的研究（総合題目）
	林山泰久（東北大学）	ADD指標による社会資本整備の厚生評価（総合題目）
	石田哲也（東京大学）	微視的機構に基づくコンクリートの自己収縮，乾燥収 縮及びその複合に関する解析的検討
	中島典之（東京大学）	紅色非硫黄細菌Rhodobacter sphaeroidesを用いた排水 処理・有価物生産における二酸化炭素の発生および摂 取量の定量
	吉田賞 研究業績部門 小柳 洽（岐阜大学）	破壊力学に基づいたコンクリート構造のひび割れ発生 機構と破壊強度特性に関する先駆的研究（総合題目）
	論文部門 涌井 一（(財)鉄道総合技術研 究所） 奥田広之（(財)鉄道総合技術研 究所）	PCマクラギの限界状態設計法に関する研究
	石井 清（(株)東電設計） 江川顕一郎（(株)東電設計） 堤 知明（東京電力(株)） 野口博章（(株)東電設計）	凍結融解作用を受けるコンクリートの劣化予測に関す る研究
	鈴木基行（東北大学） 秋山充良（東北大学）	構造系の安全性評価手法およびRC橋脚の耐震設計への 適用に関する研究

	山崎康紀（東北大学）	
吉田研究奨励賞	上田隆雄（徳島大学）	高応力で緊張されたPC鋼材の通電による水素脆化に関する研究
	栗原哲彦（岐阜大学）	コンクリートの表面粗さと破壊力学パラメタによる付着性状の評価に関する研究
	岩城一郎（東北大学）	石灰石微粉末の添加が低温養生を行ったコンクリートの強度発現に及ぼす影響
委員会が必要と認めた調査研究課題		「コンクリート構造物の耐震設計法の比較に関する国際セミナー（土木学会）（1999. 4. 20～21）開催のための援助
国際研究集会等への派遣	河野広隆（建設省 土木研究所）	「第2回過酷環境・荷重下におけるコンクリートの挙動に関する国際会議」（1998. 6. 21～24, ノルウェー）
	西澤賢太郎（建設省 土木研究所）	
	河野広隆（建設省 土木研究所）	「21世紀の持続的発展のためのコンクリート技術に関する国際ワークショップ」（1998. 6. 25～28, ノルウェー）
	川上 洵（秋田大学）	「第5回中小スパン橋梁に関する国際会議」（1998. 7. 13～16, カナダ）
	このほか	「第4回CANMET／ACI／JCI国際会議」（1998. 6. 7～11, 徳島市）
		「IABSE' 98 神戸シンポジウム」（1998. 9. 2～4, 神戸市）
		「FRAMCOS 3国際会議」（1998. 10. 12～16, 岐阜市）への派遣を予定
田中賞 研究業績部門	川田忠樹（川田建設㈱）	①長大吊橋施工法の開発研究, ②吊橋を中心とした橋梁文化・技術史の研究
論文部門	後藤芳顕（名古屋工業大学） 藤原英之（トビー工業㈱） 上條 崇（住友金属工業㈱）	繰り返し荷重を受ける鋼製橋脚アンカー部の挙動とモデル化に関する研究
作品部門	明石海峡大橋〔道路橋〕 神戸市垂水区東舞子町～兵庫県津名郡淡路町（明石海峡）	形式：3径間2ヒンジ補剛トラス吊橋
	伊勢湾岸自動車道 名港三大橋（名港トリトン）〔道路橋〕 愛知県東海市新宝町～愛知県海部郡飛島村	形式：3径間連続鋼斜張橋
	牛深ハイヤ大橋〔道路橋〕 熊本県牛深市牛深町, 崎町地内	形式：7径間連続鋼床版曲線箱桁橋
	大芝大橋〔道路橋〕 広島県豊田郡安芸津町	形式：PC3径間連続斜張橋
	Kap Shui Mun Bridge（汲水門大橋）〔道路・鉄道併用橋〕 Ma Wan to Lantau Island, Hong Kong （香港馬湾至大嶼山）	形式：5径間連続複合斜張橋
	くじら橋〔歩道橋〕	形式：PC門形ラーメン橋

1998
(平成10)

技術開発賞

東京都稲城市長峰1丁目（多摩ニュータウン内）

新猪名川大橋（愛称：ビッグハープ）〔道路橋〕
兵庫県川西市小戸3丁目～大阪府池田市木部町

形式：2径間連続PC斜張橋

上田耕平（大成建設㈱）
永野宏雄（大成建設㈱）
池尻一仁（大成建設㈱）

海底パイプライン・リフレッシュ工法の開発・実用化

永井紀彦（運輸省 港湾技術研究所）
橋本典明（運輸省 港湾技術研究所）
田所篤博（（財）沿岸開発技術研究センター）
高橋智晴（（社）海洋調査協会）

全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）の開発・改良

宮本重信（福井県）
室田正雄（福井県）

蓄熱材封入による鋼床版橋路面の凍結抑制

渋山晴夫（運輸省 第三港湾建設局）
中島由貴（運輸省 港湾局）
中村 勇（運輸省 第三港湾建設局）
下石 誠（五洋建設㈱）
吉井一郎（五洋建設㈱）

沈埋函最終継手工法『Vブロック工法』の開発と実用化

松本晃一（日本道路公団）
山本 稔（日本道路公団）
長船寿一（日本道路公団）
水野恵一郎（㈱ブリジストン）
斉藤秀明（㈱ブリジストン）

分岐型遮音壁の開発

出版文化賞

『破壊のシミュレーション～拡張個別要素法で破壊を追う』

伯野元彦・著／森北出版㈱ 平成9年10月24日

国際貢献賞

日本人

菅原 操

（社）海外鉄道技術協力協会

三谷 浩

首都高速道路公団

外国人

篠塚正宣

南カリフォルニア大学

技術功労賞

※平成9年度は募集せず

功績賞

加藤 晃

（財）名古屋都市センター

堀川清司

武蔵工業大学

三谷 健

（社）日本建設機械化協会建設機械化研究所

宮崎 明

鹿島建設㈱

技術賞

北海道開発局
ハザマ・地崎・三井共同企業体

ダム建設と環境保全－札幌内川ダムの建設－

関西電力㈱
西松・大林・前田・奥村共同企業体

世界初の分岐シールド工法によるT形分岐管路の築造－
大阪都心部における電力地中幹線洞道の建設－

帝都高速度交通営団
佐藤・竹中土木建設工事共同企業体

断面对応型シールド機による地下鉄トンネルの建設

埼玉県土木部
住宅都市整備公団埼玉地域支社

トンネル連結方式による自然環境保全型防災調節池の
建設（入間川防災調節池）

		西瀬戸自動車道の長大橋の建設
		安全・環境に配慮した最新鋭LNG基地の建設－東京ガス扇島工場－
		安全でおいしい水の安定供給（村野浄水場高度浄水処理施設の建設）
		超電導磁気浮上式鉄道山梨リニア実験線の建設－世界最高速度550Km/h達成－
論文賞	阿部雅人（東京大学） 名取通弘（宇宙科学研究所） 樋口 健（宇宙科学研究所） 塩竈裕三（（財）電力中央研究所）	宇宙展開膜面構造物の収納時逆折れ挙動の解明とその対策
	大山 巧（清水建設(株) 技術研究所）	鉛直積分型波動方程式をベースにした新しい浮体動揺解析法の開発（総合題目）
	森伸一郎（愛媛大学） 池田悦夫（新宿歴史博物館） 沼田淳紀（飛島建設(株)）	更新統砂層の液状化に関する実証的研究（総合題目）
	松井 寛（名古屋工業大学） 藤田素弘（名古屋工業大学）	人間の知覚に基づく交通渋滞評価とその情報提供方法に関する研究（総合題目）
	丸屋 剛（大成建設(株)） 松岡康訓（大成建設(株)）	コンクリート表層部における塩化物イオンの移動に関するモデル化
	加島 聰（本州四国連絡橋公団） 坂本光重（本州四国連絡橋公団） 鈴木幹啓（本州四国連絡橋公団）	強潮流・大水深下の海中基礎の施工に関する研究（総合題目）
	井村秀文（九州大学） 松本 亨（九州大学） 森下兼年（東和科学(株)）	社会資本整備に係るLCA（ライフサイクルアセスメント）手法の開発と適用（総合題目）
論文奨励賞	北川徹哉（日本大学）	塔状円柱構造物における高風速渦励振の特性と発生機構（総合題目）
	下迫健一郎（運輸省 港湾技術研究所）	変形を許容した混成防波堤の新設計法の提案－期待滑動量を用いた信頼性設計法－
	本多 眞（清水建設(株)）	基礎地盤面の推定と調査ボーリングの最適配置（総合題目）
	北河大次郎（文化庁）	19世紀フランス都市土木計画思想とパリ大改造
	安 雪暉（東電設計(株)）	鉄筋コンクリート部材のせん断破壊と変形性能に関する非線形解析法の開発（総合題目）
	荒木義則（中電技術コンサルタント(株)）	土石流危険渓流における豪雨時の土砂崩壊発生予測に関する研究（総合題目）
	吉田 登（和歌山大学）	産業廃棄物の相互誘発構造からみた処分量抑制と費用分担に関する研究
吉田賞 研究業績部門		※なし
論文部門	星野富夫（東京大学） 魚本健人（東京大学） 小林一輔（千葉工業大学）	15年間の海洋暴露実験を行ったエポキシ樹脂塗装鉄筋コンクリート梁の耐久性と防食効果
吉田研究奨励賞 被授与	阿波 稔（八戸工業大学）	種々の環境下におけるコンクリートの微細ひび割れ特性と耐久性能に関する研究

委員会が必要と認めた調査研究課題		「第2回材料に関する国際会議（土木学会，カナダ土木学会共同主催）」（2001. 8. 16～22）開催のための援助
		「第7回構造工学および施工に関する東アジア太平洋会議（EASEC主催）」（1999. 8. 27～29）開催のための援助
		「コンクリート構造物の耐震設計法の比較に関する国際セミナー（土木学会主催）」（1999. 4. 20～21）開催のための援助
国際研究集会等への派遣	下村 匠（長岡技術科学大学）	「連続繊維シートを用いた既設構造物の補修補強設計に関する研究成果の発表（FRPRCS-4）並びに諸外国における最新の研究動向の調査」（10. 31～11. 5，アメリカ）
田中賞 研究業績部門	前田邦夫（日本鋼管㈱総合エンジニアリング事業部）	都市内における連続高架橋および軟弱地盤上における斜張橋の建設技術
論文部門	勝地 弘（横浜国立大学） 秋山晴樹（本州四国連絡橋公団）	A Study of Mode Coupling in Flutter and Buffeting of the Akashi-Kaikyo Bridge
	林 秀侃（阪神高速道路公団） 堀江佳平（阪神高速道路公団） 溝渕修治（阪神高速道路公団） 上條 崇（住友金属工業㈱） 阿部幸夫（住友金属工業㈱） 小林洋一（住友金属工業㈱）	RC柱・鋼製橋梁による複合橋脚の疑似供用荷重下における挙動
作品部門	阿嘉大橋〔道路橋〕 沖縄県座間味村	バランスドアーチを含む11径間連続PC橋（箱型桁）
	来島海峡大橋〔道路橋〕 愛媛県越智郡吉海町（大島）～愛媛県今治市	形式：（第一）3径間2ヒンジ補剛箱桁吊橋，（第二）2径間2ヒンジ補剛箱桁吊橋，（第三）単径間2ヒンジ補剛箱桁吊橋
	多々羅大橋〔道路橋〕 広島県豊田郡瀬戸田町（生口島）～愛媛県越智郡上浦町（大三島）	形式：3径間連続複合箱桁斜張橋
	青馬大橋〔道路・鉄道併用橋〕 香港・青衣島至 馬湾島	形式：8径間連続トラス補剛吊橋，床版構造：鋼床版
	本谷橋〔道路橋〕 岐阜県郡上郡高鷲村	形式：3径間連続波形鋼板ウェブPCラーメン箱桁橋
	廿六木大橋・大滝大橋〔道路橋〕 埼玉県秩父郡大滝村大字字廿六木～字廿六木向	形式：PC5径間連続ラーメン箱桁橋
	白鳥大橋〔道路橋〕 北海道室蘭市陣屋町～祝津町	形式：3径間2ヒンジ補剛箱桁吊橋
	東静岡駅南北自由通路〔道路橋〕 静岡県静岡市長沼	形式：4径間連続鋼床版箱桁（上屋有り），支承部：高減衰積層ゴム支承
技術開発賞	平山純一（本州四国連絡橋公団） 土山正己（本州四国連絡橋公団） 中尾俊哉（本州四国連絡橋公団） 古賀 昇（本州四国連絡橋公	自動定点保持機能を持つ橋梁架設用台船の開発

1999
(平成11)

功績賞	出版文化賞	団) 大仲茂樹 (三菱重工業株)	
		藤生和也 (建設省 霞ヶ浦湧水 工事事務所) 佐合純造 ((財)先端建設技術セ ンター) 明神知夫 (大成建設株) 藤井茂男 (石川島播磨重工業 株)	セグメント組立同時掘進対応型急速施工シールド工法 の開発・実用化
		小松利光 (九州大学) 安達貴浩 (九州大学・日本学術 振興会) 三石真也 (建設省 川内川工事 事務所) 松岡弘文 (建設省 九州地方建 設局) 大和則夫 (株東京建設コンサル タント)	河川河口部における塩水遡上の人工的制御法の開発
	国際貢献賞		※平成10年度は募集せず
	技術功労賞	加賀美真人 (日本交通技術株)	設計・監理
		工藤 昇 ((財)河川環境管理財 団 北海道事務所)	教育・研究・啓発・調査・計画・設計・監理・用地・ 補償・管理・運用・防災・保全
		佐藤昭典 (日本上下水道設計株 仙台事務所)	調査・計画・設計・監理・施工・検査
		毛利繁春 (東日本旅客鉄道株 東京工事事務所神奈川工事区)	施工・検査・教育・研究・啓発
		吉兼 亨 (大有建設株)	調査・計画・設計・監理・施工・検査
	技術賞	小林一輔 後藤幸正 成岡昌夫 能町純雄 中瀬明男 山根 孟 東京都地下鉄建設株 間・青木・アイサワ・徳倉・伊 藤建設共同企業体 運輸省第三港湾建設局 神戸市港湾整備局	千葉工業大学 東北大学名誉教授 名古屋大学名誉教授 北海道大学名誉教授 株日建設計 東京電力株 世界初の4心円シールド工法による上下二段地下鉄駅の 建設 (都営地下鉄12号線六本木駅シールド工事) 人工島のライフラインを支える「神戸港港島トンネ ル」の建設 ダムにおける新たな土砂管理システムの構築ー奥吉野 発電所：旭ダムバイパス放流設備ー 沖縄やんばる海水揚水発電所の建設 環境を配慮した大都市内鉄道高架橋の建設ー赤羽駅付 近連続立体交差化事業ー 首都圏の物流体系の再編を担う国際流通港湾の建設ー 外洋に面した大水深海域における常陸那珂港の大規模 急速施工ー

環境賞	横浜市下水道局	ゼロエミッションを目指した下水道のトータルシステム
	大成建設(株)	揮発性有機化合物汚染土壌の浄化に関する技術開発と現場への適用
	(財)リバーフロント整備センター 清水建設(株)	自然と共生できるコンクリート技術「エコロクリート」の開発・実用化
	小金井市	自然を守る心を行動で示した市民「水辺の拡大」雨水浸透事業
		太田川「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」
		クウェート国汚染土壌の物理・化学的浄化実証工事
		関西国際空港Ⅰ期事業
		北九州エコタウン事業
	論文賞	
	岡林隆敏（長崎大学） 山森和博（㈱熊谷組）	橋梁振動特性の高精度推定法と可搬型構造同定システムの開発に関する研究（総合題目）
論文奨励賞	松永信博（九州大学） 樋田 操（日本文理大学） 鶴崎賢一（九州大学）	強風下の白波砕波から発生する飛沫量と沿岸域への輸送に関する研究（総合題目）
	風間基樹（東北大学） 柳澤栄司（東北大学）	強震動を受ける軟弱地盤の地震時挙動と液状化予測への適用に関する研究
	谷口栄一（京都大学） 山田忠史（関西大学） 則武通彦（関西大学）	交通混雑・環境を考慮した都市内物流システムの最適化に関する研究（総合題目）
	入矢桂史郎（㈱大林組） 服部達也（日本工営(株)） 梅原秀哲（名古屋工業大学）	若材齢コンクリートのクリープ挙動に関する研究（総合題目）
	奥田 庸（日本鉄道建設公団） 阿部敏夫（日本鉄道建設公団） 進士正人（応用地質(株)）	垂直縫地ボルトによるトンネル地表面沈下抑止効果の実験と新たな逆解析手法による評価
	室野剛隆（(財)鉄道総合研究所）	地震動の位相特性のモデル化（総合題目）
	二瓶泰雄（東京理科大学）	新しい計算手法に基づく混相乱流LESの開発と複雑混相乱流解析への応用（総合題目）
	秦樹一郎（基礎地盤コンサルタ ンツ(株)）	正規圧密粘性土地盤に対するセルフボーリングプレッシャーメータ試験結果の解釈
	浦野真次（清水建設(株)）	可視化実験手法による高流動コンクリートの流動性評価に関する基礎的研究
	金子慎治（(財)地球環境戦略研究機関）	STUDY ON THE WATER DEMAND AND SUPPLY IN CHINA BASED ON BUSINESS AS USUAL SCENARIOS
吉田賞 研究業績部門	田澤榮一（広島大学）	コンクリートの体積変化に関する研究
	論文部門	
	石田哲也（東京大学） 前川宏一（東京大学）	物質・エネルギーの生成・移動と変形・応力場に関する連成解析システム
	綾野克紀（岡山大学） 阪田憲次（岡山大学）	MOISTURE DISTRIBUTION, DIFFUSION COEFFICIENT AND SHRINKAGE OF CEMENT-BASED MATERIALS
吉田研究奨励賞 被授与	宮里心一（東京工業大学）	塩分環境下におけるコンクリート中鉄筋のマクロセル腐食に関する研究

委員会が必要と 認めた調査研究 課題	庄司 学（東京工業大学）	免震支承～RC橋脚系構造物の地震時非線形相互作用に 関する実験的検討
		第2回材料に関する国際会議（土木学会，カナダ土木 学会共同主催）（2001. 8. 16～22）開催のための援助
	国際研究集会等 への派遣	第6回CANMET/ACI主催の国際会議出席 「Superplasticizer and Other Chemical Admixtures in Concrete」（2000. 10. 10～13，フランス）
田中賞 研究業績部門	横溝幸雄（㈱オリエンタルコン サルタンツ）	昭和30年代より建設が始まった高速自動車道路，鉄道 新幹線などの新技術を要する橋梁，構造物の計画，設 計，研究開発，施工管理，および橋梁示方書等の基準 類の作成に関して，建設コンサルタントとしての長年 にわたる総合的業績
	百島祐信（㈱リテックエンジニ アリング）	我が国発展期におけるコンクリート橋の設計，施工， 構造・材料特性の解析，および技術開発，特に長大プ レストレストコンクリート桁橋のカンチレバー架設， コンクリート斜張橋の開発，コンクリート・アーチ橋 のカンチレバー架設等の指導的業績
	論文部門	
	古家和彦（広島県道路公社） 北川 信（本州四国連絡橋公 団） 中村俊一（東海大学） 鈴木恵太（新日本製鐵㈱） 聖生守雄（新日本製鐵㈱）	吊橋ケーブルの腐食機構および新防食法に関する研究 （総合題目）
	吉田好孝（本州四国連絡橋公 団） 藤野陽三（東京大学） 佐藤弘史（建設省） 時田秀往（清水建設㈱） 三浦章三郎（三菱重工業㈱）	東京湾アクアライン橋梁部鋼箱桁橋に発現した渦励振 の振動制御
作品部門	安芸灘大橋〔道路橋〕 広島県豊田郡川尻町～安芸郡 下蒲刈町	形式：3径間2ヒンジ補剛箱桁吊橋（鋼床版）
	池田へそつ湖大橋〔道路橋〕 徳島県三好郡池田町白地～板 野（徳島自動車道）	形式：PC5径間連続逆ラングアーチ橋
	宇品大橋〔道路橋〕 広島市南区仁保沖町～宇品海 岸3丁目	形式：単弦アーチで補剛された3径間連続鋼床版下箱桁
技術開発賞	くしもと大橋〔道路橋〕 和歌山県西牟婁郡串本町大島 地内	形式：中路式鋼2ヒンジアーチ橋（鉄筋コンクリート床 版）
	新港サークルウォーク〔歩道 橋〕 神奈川県横浜市中区新港地区	形式：4径間連続鋼トラス橋（床版構造－鋼床版）
	第2マクタン橋〔道路橋〕 フィリピン共和国マクタン 島・セブ島間	形式：PC3径間連続エクストラードード箱桁橋
	鳴瀬川橋梁〔鉄道橋〕 宮城県桃生郡鳴瀬町	形式：PRC6径間連続フィンバック橋
	保坂 尚（東京ガス㈱） 後藤 徹（清水建設㈱） 高橋郁夫（清水建設㈱） 宮沢和夫（清水建設㈱） 三谷典夫（㈱小松製作所）	F-NAVIシールド工法（掘進・覆工同時施工による高速 施工）の開発・実用化

2000
(平成12)

出版文化賞	土木 勉（（財）下水道新技術推進機構） 鈴木 茂（（財）下水道新技術推進機構） 安本匡剛（戸田建設（株）） 岩井義雄（戸田建設（株）） 小林卓矢（戸田建設（株））	シールド発進立坑用地の省面積化システムの開発
	今田 徹（東京都立大学） 小笠原政文（首都高速道路公団） 篠原 満（戸田建設（株）） 望月 修（大成建設（株）） 真坂武憲（鹿島建設（株））	非開削トンネルの新しい構築工法（MMST工法）の開発・実用化
	『河道計画の技術史』	山本晃一・著：山海堂 平成11年2月20日発行
	『土木造形家百年の仕事－近代土木遺産を訪ねて』	篠原 修／文・三沢博昭／写真：新潮社 平成11年4月15日発行
	国際貢献賞 日本人	
	澁谷 實	（株）パシフィックコンサルタンツインターナショナル
	廣田孝夫	国際協力銀行
	外国人	
	Felipe F. Cruz	F. F. Cruz & Co 社
	技術功労賞	
功績賞	足立征一郎（（株）セイケンエンジニアリング）	施工・検査
	栗田純司（（有）栗田建設）	設計・監理・施工・検査
	石山敏明（大成建設（株））	教育・研究・開発・調査・計画・施工・検査
	佐々木光春（ジェイアール東日本コンサルタンツ（株））	調査・計画・設計・監理・施工・検査
	高野広茂（（株）高知丸高）	教育・研究・開発・施工・検査
	高橋信夫（（株）梨子建設）	施工・検査
	高橋義光（（株）奥村組東京本社）	調査・計画・設計・監理・施工・検査
	鳴海 保（大成建設（株））	調査・計画・施工・検査
	山路弘人（東北大学）	教育・研究・開発・調査・計画
	岡田 宏	（社）海外鉄道技術協力協会
技術賞	小坂 忠	（社）関東建設弘済会
	近藤信昭	近畿コンクリート工業（株）
	長沢不二男	（株）竹中土木
	前田幸雄	大日本コンサルタント（株）
	関西電力（株） 鹿島・三井・青木・清水・戸田 共同企業体 大成・佐藤・間・大豊・フジタ 共同企業体	国内最長の立坑間距離11.5km電力幹線洞道の建設－長距離・高速掘削シールドと地中接合－
	日本鉄道建設公団 盛岡支社 前田建設工業（株） （株）間組 （株）奥村組 鉄建建設（株） 大成建設（株） 鹿島建設（株）	国内有数の膨圧地質を克服した世界最長陸上トンネル（東北新幹線：岩手一戸トンネルの施工）

環境賞	佐藤工業(株)	瀬戸内海に築く環境に配慮した国内最大級石炭火力発電所－橘湾石炭火力発電所の建設－ 都営地下鉄大江戸線環状部整備プロジェクト 最先端技術を用いた尼崎浄水場のリニューアル 大都市交通体系の一翼を担い、均衡ある街づくりを促進する地下方式によるJR連続立体交差化－JR仙石線仙台地区地下化事業－ 大規模浮体構造物の建設－夢舞大橋（旋回式浮体橋）－ 宮ヶ瀬ダムの建設－計画的な周辺環境対策と超大規模ダム設計施工の合理化－ 厳しい空間制約を克服した鉄道線改良技術－東横線複々線化事業－
	(株)間組	河川浄化施設「リバ・フレッシュ」の開発と実用化
	鹿島建設(株)	一般廃棄物最終処分場における遮水工システム
	鹿島建設(株) 月島機械(株)	廃棄物の建設資材へのリサイクル技術開発とエコ商品化
		地中熱利用による路面熱環境制御システムの開発と「道の駅」への適用 地下鉄道トンネル断面を有効利用した日本初の河川浄化導水路事業 バイオテクノロジーによる油汚染土の修復調査事業
	論文賞	塩尻弘雄（日本大学） 上田 稔（中部電力(株)） 宝 馨（京都大学） 三浦哲彦（佐賀大学） 小林潔司（京都大学） 横松宗太（京都大学） 宮川豊章（京都大学） 芦田公伸（電気化学工業(株)） 溝口 茂（高周波熱練） 杉山友康（(財)鉄道総合研究所） 岡田勝也（国土舘大学） 秋山保行（東日本旅客鉄道(株)） 村石 尚（(財)鉄道総合研究所） 奈良利孝（東日本旅客鉄道(株)） 小松利光（九州大学） 岡田知也（国土交通省 国土技術政策総合研究所） 中村由行（(独)港湾空港技術研究所）
		ダム－岩盤－貯水の連成を考慮した重力式ダムの三次元地震応答シミュレーション 水文頻度解析に関する研究（総合題目） 超軟弱沖積粘土の土質特性の解明と地盤対策技術に関する研究（総合題目） カタストロフ・リスクと防災投資の経済評価 プレストレストコンクリート構造物へのデサリネーションの適用に関する研究（総合題目） 鉄道盛土の崩壊限界雨量に及ぼす防護工の効果 波浪エネルギーを利用したダム湖・貯水池の水質改善システムに関する研究（総合題目）
論文奨励賞	比江島慎二（岡山大学）	微小流速攪乱を用いた空力弾性振動制御メカニズムに関する基礎的研究（総合題目）
	日向博文（国土交通省 国土技術政策総合研究所）	黒潮系暖水波及時における冬季東京湾湾口部の流動構造と熱・物質フラックス

吉田賞 研究業績部門	河井克之（神戸大学）	間隙比の影響を考慮した水分特性曲線モデル
	羽藤英二（愛媛大学）	交通情報の提供を受けたドライバーの経路選択行動モデル（総合題目）
	上田隆雄（徳島大学）	デサリネーションがP C部材の力学的挙動に与える影響
	栗栖 太（東京大学） 佐藤弘泰（東京大学）	食用油を添加した高温接触酸化処理法におけるFISH法・キノンプロファイル法・PCR-DGGE法を用いた微生物群集の解析
	岡村 甫（高知工科大学）	自己充填コンクリートの開発
	池田尚治（横浜国立大学）	コンクリート構造物の力学的性能の向上
	論文部門 伊藤 睦（名古屋大学） 二羽淳一郎（東京工業大学） 田辺忠顕（名古屋大学）	格子モデルによる繰り返し荷重を受ける鉄筋コンクリート柱の終局変位の評価
	HAUKE Bernhard (HOCHTIEF IKS) 前川宏一（東京大学）	Three-dimensional modelling of reinforced concrete with multi-directional cracking
	吉田研究奨励賞 被授与 塚原絵万（東京大学）	欠陥を有するコンクリートの耐久性評価
	田所敏弥（北海道大学）	地震時及び地震後におけるRC部材の変形性能の定量化に関する研究
国際研究集会等 への派遣	国枝 稔（岐阜大学）	注入されたRC部材の破壊挙動に基づくひび割れ注入材の性能評価
	岩波光保（（独）港湾空港技術研究所）	非破壊試験技術の併用によるコンクリート構造物の劣化診断システムの構築に関する研究
	スプラティック グプタ（群馬大学）	「Importance of multiple damage model for analysis of reinforced concrete structures について国際会議」における発表と研究討論への参加（2001. 5. 28～6. 2, フランス）
	鎌田敏郎（岐阜大学）	「2001 Second International Conference on Engineering Materials」における論文発表（2001. 8. 16～19, アメリカ）
田中賞 研究業績部門	藤掛一典（防衛大学校）	「国際会議CONSEC' 01 (Concrete under Severe Conditions)」への参加とカナダにおけるコンクリートの動的特性に関する研究の現状調査（2001. 6. 17～23, カナダ）
	成田信之（（社）日本鋼構造協会，鋼管杭協会，（財）土木研究センター）	充腹断面橋桁の非定常空気力特性および長大橋の耐風設計法に関する研究業績，ならびに道路橋の設計法に関する指導的業績
	論文部門 紫桃孝一郎（日本道路公団） 上東 泰（日本道路公団） 長 谷俊彦（日本道路公団） 春日井俊博（㈱横河ブリッジ） 佐々木保隆（㈱横河ブリッジ）	実物大モデルを用いた鋼連続合成桁橋中間支点部のPC床版疲労実験
	岡村美好（山梨大学） 深沢泰晴（山梨大学）	高速列車荷重による鋼箱桁の局部振動に関する一考察
作品部門	宇品橋〔道路橋〕 広島市中区南千田西町～南区宇品西2丁目	形式：4径間連続鋼床版鋼パイプアーチ橋
	土狩大橋〔道路橋〕	形式：PC5径間連続エクストラードード箱桁橋

	北海道河西郡芽室町西士狩	
	都田川橋〔道路橋〕 浜松市都田町大字須部～浜北市大字四大地（第二東名・横浜名古屋線）	形式：PC2径間連続エクストラードード橋
	天翔大橋〔道路橋〕 宮崎県西臼杵郡日之影町大字岩井川～大字七折	形式：鉄筋コンクリート固定アーチ橋
技術開発賞	帆秋利洋（大成建設(株)） 高畑 陽（大成建設(株)） 鈴木朝香（大成建設(株)） 谷口 敦（大成建設(株)） 牧野秀和（大成建設(株)）	石油汚染土壌の微生物による環境修復（バイオレメディエーション）
	熊谷和夫（日本道路公団） 建部俊典（日本道路公団） 鍛冶茂仁（鹿島・東急・不動建設共同企業体所長）	TBM（トンネルボーリングマシン）による山岳トンネルの急速施工システム
	北川修三（日本鉄道建設公団） 弘中義昭（佐藤工業(株)） 伊藤祐二（(株)フジタ） 末永充弘（住鉄コンサルタント(株)） 田村忠昭（リブコンエンジニアリング(株)）	粘性を活用した低はね返り・低粉じん型吹付けコンクリートの開発と実用化
	水谷敏則（(財)先端建設技術センター） 熊谷紳一郎（住友建設(株)） 相良 拓（東亜建設工業(株)） 指田健次（日本国土開発(株)） 近藤二郎（住建コンクリート工業(株)）	プレストレスを導入したシールド工事用セグメント（P&PCセグメント）工法の開発
出版文化賞	『研ぎすませ風景感覚 全2巻』 『ヨーロッパ橋ものがたり』	中村良夫・編著／技報堂出版(株) 平成11年3月1日発行 成瀬輝男（故人）・著／(株)東京堂出版 平成11年9月25日発行
	『雲仙火山災害における防災対策と復興対策－火山工学の確立を目指して』	高橋和雄・著／(財)九州大学出版会 平成12年2月29日発行
国際貢献賞	日本人 足立隼夫	国際協力事業団 国際協力総合研修所
	佐藤 清	(財)全国建設研修センター
	吉松昭夫	(社)海外経済協力会
	外国人 Ben C. Gerwick, Jr	Ben C. Gerwick, Inc.
技術功労賞	井口■雄（ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)） ■：竹（上）六（下）	調査・計画・設計・監理分野・施工・検査
	上原義昭（基礎地盤コンサルタンツ(株)）	教育・研究・啓発・設計・監理・管理・運用・防災・保全
	小野寺雄輝（北海道大学）	教育・研究・啓発
	岡田輝夫（日本工営(株)）	調査・計画・設計・監理・施工・検査
	上甕町壽郎（鹿島建設(株)）	施工・検査
	北原 勇（(社)日本鉄道施設協会）	教育・研究・啓発・調査・計画・設計・監理・施工・検査・管理・運用・防災・保全

2001
(平成13)

功績賞

小岩千代司（ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)）

調査・計画・設計・監理・施工・検査

野口泰義（東鉄工業(株)）

設計・監理・施工・検査

藤田肇司（ケミカルグラウト(株)）

施工・検査

網干壽夫

網干壽夫研究所

天野光三

大阪産業大学

岩崎敏夫

東北および足利工業大学名誉教授

川本朧万

愛知工業大学

岸 力

水工学研究所

吉川秀夫

(財)河川環境管理財団

廣瀬利雄

(株)首都圏建設資源高度化センター

松本順一郎

東北および東京大学名誉教授

松本嘉司

(財)鉄道総合技術研究所

技術賞

日本道路公団 東京建設局
鹿島建設(株)・飛島建設(株)共同企業体
大成建設(株)・戸田建設(株)・佐田建設(株)共同企業体

日本で初めてのNATMによる二階建て超大断面道路トンネルの施工技術ー首都圏中央連絡自動車道青梅トンネルー

大阪市都市環境局
大成・銭高・久本特定建設工事共同企業体

「上向きシールド工法」による流入用マンホールの築造

日本鉄道建設公団 東京支社
佐藤・鴻池・大豊・共同企業体

伸縮スポーク方式によるシールドの挿入式拡張および径の異なる地中接合技術の確立

大林・戸田・東急共同企業体
熊谷・間・フジタ共同企業体

密集市街地における沿線地域の活性化と一体となった新たな鉄道施設の建設ー西武池袋線増連続立体交差事業ー

北九州市紫川マイタウン・マイリバー整備事業ー新しい水景都市をめざしてー

温井ダムの建設ー自然環境と地域社会に調和したアーチダムー

ホームドアのある地下鉄ー営団地下鉄「南北線」

環境賞

鹿島建設(株)

油汚染土浄化技術「気泡連行法」の開発と実用化

(株)間組

海域での食糧増産を目指した人工海底山脈の施工ー産業副産物（石炭灰）の活用ー

大成建設(株)技術センター
立神真珠研究会
三重県科学技術振興センター
三重大学生物資源学部

漁業者と産官学が一体となった英虞湾の環境再生の取組みと資源循環型の干潟・アマモ場の造成技術の開発

九州大学新キャンパス建設における環境保全

独立行政法人北海道開発土木研究所別海資源循環試験施設建設工事

論文賞	渡邊英一（京都大学） 杉浦邦征（京都大学） OYAWA, Walter（ケニア・ジョモ ケニヤッタ農工大学）	鋼角形断面柱の繰り返し挙動に及ぼす水平2方向変位履歴の影響
	栗山善昭（（独）港湾空港技術研究所）	バー型海岸における地形変動特性と水理特性に関する実証的研究（総合題目）
	森 吉昭（東電設計㈱） 内田善久（東京電力㈱） 中野 靖（東電設計㈱） 吉越 洋（東京電力㈱） 石黒 健（前田建設工業㈱） 太田秀樹（東京工業大学）	現場転圧された粗粒材料の高応力下における圧縮性状と材料定数（総合題目）
	北村隆一（京都大学）	調査設計の最適化及び調査標本の母集団代表性に関する研究（総合題目）
	岸 利治（東京大学） 石田哲也（東京大学） 前川宏一（東京大学）	低水セメント比コンクリートの水和発熱速度と空隙内水分平衡との相互依存性
	北川 信（本州四国連絡橋公団） 古家和彦（本州四国連絡橋公団） 中村俊一（東海大学） 鈴木恵太（新日本製鐵㈱）	吊橋ケーブル送気乾燥システムの防食性能に関する研究
	松岡 譲（京都大学） 島田幸司（京都大学） 溝口真吾（京都大学）	地球温暖化対策の副次的効果に関する研究（総合題目）
	論文奨励賞 紺野克昭（芝浦工業大学）	常時微動を用いる地下構造推定方法に関する研究（総合題目）
	川崎浩司（大阪大学）	VOF法に基づく数値波動モデルの構築と連行気泡を伴う砕波波動圧の特性（総合題目）
	金子賢治（東北大学）	非線形均質化理論に基づく粒状体マルチスケール解析法の開発とその応用
吉田賞 研究業績部門	横松宗太（鳥取大学）	分権的防災投資と地域間災害リスク配分
	土屋智史（㈱コムスエンジニアリング）	常時偏心軸力と交番ねじり・曲げ/せん断を複合載荷したRC柱の非線形三次元有限要素立体解析
	日高 平（京都大学）	前凝集・生物膜ろ過反応器による下水の高度処理
	渡辺 明（九州共立大学）	プレストレストコンクリートに関する新技術・新工法の展開
	論文部門 石橋 忠良（JR東日本） 津吉 毅（JR東日本） 小林 薫（JR東日本） 小林将志（JR東日本）	大変形正負交番荷重を受けるRC柱の損傷状況および補修効果に関する実験的研究
	白戸真大（土木研究所） 木村嘉富（土木研究所） 福井次郎（土木研究所）	鉄筋のはらみ出しを考慮した場所打ち杭のモデルと地盤振動が杭基礎に与える影響評価への適用
	吉田研究奨励賞 被授与 上原子晶久（弘前大学）	連続繊維シートで補強された鉄筋コンクリート構造物のじん性評価手法に関する研究
	山口明伸（鹿児島大学）	鉄筋コンクリート構造物の塩害劣化シミュレーションソフトの開発
	谷村 充（太平洋セメント）	高強度コンクリートの収縮低減と構造部材使用性能の向上に関する基礎的研究

国際研究集会等 への派遣		「fib 2002 Osaka Congress」への参加援助（2002年10月13日～10月19日・大阪）
	委員会が必要と 認めた研究	コンクリート標準示方書英訳に対する援助
田中賞 研究業績部門	遠藤武夫（㈱ブリッジ・エンジニアリング）	斜張橋の支間長大化に関する研究業績ならびに海峡連絡長大橋（本四連絡橋）の調査・設計・施工に関する総合的な研究業績
	論文部門 野上邦栄（東京都立大学） 長井正嗣（長岡技術科学大学） 藤野陽三（東京大学） 山口宏樹（埼玉大学）	長大吊形式橋梁の終局強度に着目した安全率の合理化に関する研究（総合題目）
	名取 暢（㈱横河ブリッジ） 西川和廣（国土交通省） 村越 潤（国土交通省） 大野 崇（㈱横河ブリッジ）	鋼橋の腐食事例調査と腐食部材の補強法に関する研究（総合題目）
	作品部門 今別府川橋〔道路橋〕 鹿児島県曽於郡財部町（東九州自動車道末吉IC～国分IC間）	形式：鋼2主桁3径間連続複合ラーメン橋，ヤード製作プレキャストPC床版
	森のわくわく橋〔歩道橋〕 福島県いわき市平上高久地内	形式：外ケーブル併用吊床版橋
	保津橋〔道路橋〕 京都府亀岡市保津町	形式：6径間連続PCエクストラードズド箱桁橋
	日本－エジプト友好橋〔道路橋〕 エジプトアラブ共和国イスマイリア県カンタラ市郊外	形式：3径間連続複合斜張橋（鋼主桁鋼床版＋RC主塔，側径間中間橋脚付き）7径間連続PCラーメン橋
	永宗大橋〔2層式道路・鉄道併用橋〕 大韓民国仁川広域市西区景西洞 至 中区雲北洞（永宗島）	形式：3径間連続自定式三次元ケーブル吊橋，床版構造：鋼床版
	陣ヶ下高架橋〔道路橋〕 神奈川県横浜市保土ヶ谷区川島町	形式：PC中空床版連続ラーメン橋
	巖門園地園路橋〔歩道橋〕 石川県羽咋郡富来町牛下地内	形式：PC曲弦トラス橋
技術開発賞	木曽川橋・揖斐川橋（トゥインクル）〔道路橋〕 三重県桑名郡長島町～三重県桑名市福岡町	形式：木曽川橋：PC・鋼複合5径間連続エクストラードズド橋，揖斐川橋：PC・鋼複合6径間連続エクストラードズド橋
	イルティッシュ河橋〔道路橋〕 カザフスタン共和国セミパラチンスク市	形式：単径間吊橋，鋼床版（側径間はプレキャストコンクリート床版）
	落合英俊 前田良刀 藤木和啓 坂手道明	原位置における地盤の強度・変形試験法の開発と実用化
	舘山 勝 福田厚生 田村幸彦 岡本正広 小島謙一	大径棒状補強材による地山補強土工法の開発
	脇登志夫 西村哲夫 相田浩伸	配水本管非開削布設替工法「プラズマモール工法」

2002
(平成14)

	石井晴夫	
	石橋忠良 清水 満 桑原 清 渡邊明之 斎藤雅春	HEP&JES工法の開発
出版文化賞	『すべての道はローマに通ず (ローマ人の物語X)』	塩野七生・著：(株)新潮社 平成13年12月20日初版発行
国際貢献賞		
日本人	赤塚雄三	東洋大学
	黒田定明	(社)海外鉄道技術協力協会
外国人	浅野 孝	米国カリフォルニア大学デーヴィス校
国際活動奨励賞	秋山芳弘	(社)海外鉄道技術協力協会
	井上美公	日本工営(株)
	大坪正人	鹿島建設(株)海
	大西博文	国土交通省 国土技術政策総合研究所
	乙川牧彦	(株)建設技術研究所
	小藪 仁	東京電力(株)
	柴山知也	横浜国立大学
	辻 清和	(株)大林組
	永井紀彦	(独)港湾空港技術研究所
技術功労賞	阿曾満壽男 (株)レールウェイエ ンジニアリング)	教育・研究・啓発・調査・計画・設計・監理・施工・ 検査
	足立英文 (株)大阪砕石工業所)	設計・監理・施工・検査
	上野 勝 (高知工科大学)	調査・計画・管理・運用・防災・保全
	江藤健次 (鹿島建設(株))	施工・検査
	太田勝也 (戸田建設(株))	施工・検査
	織田政直 (ジェイアール東日本 コンサルタンツ)	設計・監理
	加藤勝美 (佐藤工業(株))	設計・監理・施工・検査
	庄司公男 (大成建設(株))	調査・計画・設計・監理
	花村嘉夫 (東京理科大学)	教育・研究・啓発
	福定一真 (株)フジタ)	施工・検査
	森岡寅始 (鹿島建設(株))	施工・検査
	渡邊昌次 (大成建設(株))	施工・検査
功績賞		
	中川博次	立命館大学
	榎木 亨	大阪産業大学
	鈴木道雄	(財)道路環境研究所
	吉川和広	(財)関西空港調査会

技術賞	飯田隆一	(財)ダム技術センター
	合田良實	横浜国立大学名誉教授
	佐武正雄	東北大学名誉教授
	国土交通省近畿地方整備局 紀南工事事務所 鹿島建設(株)	一般国道42号木ノ川高架橋の設計 (鋼・コンクリート複合トラス橋)
	日本鉄道建設公団 九州新幹線建設局	水砕スラグを用いた透水性路盤による地下水面下しらす地山のトンネル構造および施工方法の確立
	東京急行電鉄(株) 大成建設(株) 鹿島・鉄建・西松建設共同企業体 清水建設(株) (株)東急設計コンサルタント パシフィックコンサルタンツ(株)	鉄道営業線直下における都市NATMトンネルの施工ー東急東横線東白楽～横浜駅間地下化工事ー
	(財)新エネルギー財団 電源開発(株) 北海道電力(株) 清水・三井・鹿島・大成共同企業体	高圧空気8MPaを貯蔵する新しい地下貯蔵技術の開発ーCAES-G/T パイロットプラント圧縮空気地下貯蔵施設の設計・施工・実証ー
		三宅島の火山砂防事業ーよみがえる三宅島を目指してー
		21世紀の新たな物流拠点をめざした高規格コンテナふ頭の建設ー横浜港南本牧ふ頭建設事業MC-1・2ターミナルー
		我が国初の「歴史的ダム保全事業」～日本最古のアースダム・狭山池の大改修と旧堤体の全断面移築・保存～
環境賞		首都圏の新しい鉄道ネットワークを形成するりんかい線の建設
		首都圏外郭放水路事業ー未来へつなげる地下の川ー
		自然環境と調和した世界初の既設アースダムにおけるレベル2対応の耐震強化ー東京都水道局山口貯水池堤体強化工事ー
	大成建設(株)	砂投入が不要な新工法「底泥置換覆砂工法」による水域環境再生技術の開発
		環境に配慮した新しい山岳トンネル掘削方法の取組みー坂上トンネル (上山田側工区) 工事ー
論文賞		尾道糸崎港における浚渫土砂を利用した干潟及び藻場の再生プロジェクト
		環境保全に配慮した鶴ヶ島市新田土地区画整理事業
	大町達夫 (東京工業大学)	震源域における地震動特性及び関連事象に関する研究 (総合題目)
	片田敏孝 (群馬大学)	河川洪水に対する住民の災害情報理解と避難行動に関する総合的研究 (総合題目)
	小峯秀雄 (茨城大学) 緒方信英 (株)シーアールエス)	高レベル放射性廃棄物処分のためのベントナイト系緩衝材・埋戻し材の透水・膨潤特性の簡易評価法 (総合題目)
	桑原雅夫 (東京大学)	動的な限界費用に関する理論的分析
	松井邦人 (東京電機大学)	表面に複数のせん断力が作用する線形多層弾性構造の

論文奨励賞	董 勤喜 (中央大学) 小澤良明 (川田工業㈱)	解析
	小島尚人 (東京理科大学) 大林成行 (国土情報技術研究所) 北村良介 (鹿児島大学)	衛星データを導入したシラス自然斜面の崩壊危険箇所評価支援に関する研究 (総合題目)
	松藤敏彦 (北海道大学) 田中信壽 (北海道大学) 羽原浩史 (復建調査設計㈱)	一般廃棄物処理計画におけるコストと環境負荷の総合評価 (総合題目)
	本田利器 (京都大学)	スペクトル確率有限要素法によるランダム場の波動伝播解析
	松本泰尚 (埼玉大学)	鉛直振動暴露時の人体動的応答特性に関する研究
	竹林洋史 (徳島大学)	自己形成流路の形成過程と形成水理条件
	松島格也 (京都大学)	利他的支払い意思を考慮したバリアフリー施設の経済便益評価とその調査法 (総合題目)
	宮里心一 (金沢工業大学)	モルタルの欠陥部に生じる塩害あるいは中性化による鉄筋腐食の形態と速度
	堀田昌英 (東京大学) 神野由紀 (東京電力㈱)	参画型パブリック・マネジメントの情報基盤CRANESの開発
	高岡昌輝 (京都大学)	硫化ナトリウム添加による飛灰上の塩素化芳香族化合物の生成抑制に関する実験的研究
吉田賞 研究業績部門	長瀧重義 (愛知工業大学)	混和材料によるコンクリートの高性能化に関する研究
論文部門	上田多門 (北海道大学) 佐藤靖彦 (北海道大学) 伊藤常正 (日本鉄道建設公団) 西園勝秀 (国際協力銀行)	Shear Deformation of Reinforced Concrete Beam
	佐伯竜彦 (新潟大学) 植木 聡 (システム計画研究所) 嶋 毅 (住友大阪セメント)	塩害と中性化の複合による塩化物イオンの浸透予測モデルの構築
吉田研究奨励賞 被授与	三木朋広 (東京工業大学)	3次元動的格子モデルによる地震力を受ける鉄筋コンクリート構造物の非線形解析
	長井宏平 (北海道大学)	メソスケール数値解析に基づくコンクリートの劣化評価システムの開発
委員会が必要と 認めた調査研究		コンクリート委員会・アルカリ骨材反応を生じたコンクリート構造物の安全性評価と補修・補強対策に関する委員会活動への援助
田中賞 研究業績部門	沼田昌一郎 ((財)首都高速道路技術センター)	都市内高速道路の長大橋及び高架橋の計画・設計・施工・管理など広範囲にわたる研究及び指導的業績
論文部門	三木千壽 (東京工業大学) 市川篤司 ((財)鉄道総合技術研究所) 坂本拓也 (東日本旅客鉄道㈱) 田辺篤史 (東京工業大学) 時田英夫 (首都高速道路公団) 下里哲弘 (首都高速道路公団)	鋼製箱形断面ラーメン橋脚隅角部の疲労特性
	阿部雅人 (東京大学) 藤野陽三 (東京大学) 長山智則 (イリノイ大学) 池田憲二 (北海道開発土木研究所)	常時微動計測に基づく非比例減衰系の構造同定と長大吊橋への適用例

作品部門	古川高架橋〔道路橋〕 三重県三重郡朝日町，川越町	形式：PC連続箱桁橋
	朧大橋〔道路橋〕 福岡県八女郡上陽町大字下横山	形式：鉄筋コンクリート固定アーチ橋＋連続PC中空床版橋
	日本・パラオ友好橋〔道路橋〕 パラオ共和国コロール・バベルダオブ海峡	形式：3径間連続複合エクストラドーズド橋
	ときめき橋〔歩道橋〕 三重県亀山市布気町亀山サンシャインパーク内	形式：PC自碇式吊床版橋＋RC固定アーチ橋
	五色桜大橋〔道路橋〕 東京都足立区宮城2丁目，江北2丁目	形式：ダブルデッキニールセンローゼ橋（床版構造－鋼床版）
	酒田みらい橋〔歩道橋〕 山形県酒田市亀ヶ崎地内～上本町	形式：単径間PC箱桁橋（外ケーブル）
技術開発賞	松浦將行（東京都下水道局） 高久節夫（東京都下水道局） 山本征彦（㈱建設技術センター） 武田邦夫（㈱大林組） 桐谷祥治（佐藤工業㈱）	コンパクトシールド工法の開発
	杉本雅一（新日本製鐵㈱） 近藤哲己（新日本製鐵㈱） 沖本真之（環境エンジニアリング㈱） 時田英夫（首都高速道路公団） 柴崎 誠（首都高速道路公団）	高耐疲労性能を有する鋼管柱基部構造（U字リブ）の開発
	石橋忠良（東日本旅客鉄道㈱） 藤沢 一（東日本旅客鉄道㈱） 大迫勝彦（東日本旅客鉄道㈱） 松尾伸之（東日本旅客鉄道㈱） 中村 宏（東日本旅客鉄道㈱）	先端プレロード場所打ち杭の開発
	佐藤政季（日本鉄道建設公団） 蓼沼慶正（日本鉄道建設公団） 浅見 均（日本鉄道建設公団） 小泉 啓（㈱企画開発） 中村英夫（(財)運輸政策研究機構）	GISを活用した交通計画支援システム「GRAPE」の開発
	大前延夫（㈱間組） 海老原雄志（㈱間組） 沖 政和（㈱間組） 建山和由（京都大学） 須田清隆（㈱ジオスケープ）	大規模土工事における施工CALSの開発－関西国際空港建設工事への土砂供給事業に適用した精密施工の事例－
	『タウシュベツ大雪山の麓に眠る幻のコンクリートアーチ橋』	西山芳一・著／講談社 平成14年11月7日発行
国際貢献賞	日本人 住吉幸彦	セントラルコンサルタント㈱
	西田幸男	(財)国際臨海開発研究センター
	外国人 金 光鎰	㈱Jreh環境計画研究所
国際活動奨励賞	柏村友彦	鹿島建設㈱
	波多野秀美	大日本土木㈱

2003
(平成15)

技術功労賞

吉川 浩	大成建設(株)
栗城 稔	国土交通省 近畿地方整備局
天野正徳	東京電力(株)
大内 実	日本工営(株)
三木博史	(独)土木研究所
平石哲也	(独)港湾空港技術研究所
土屋紋一郎	清水建設(株)
堀井秀之	東京大学
奥村文直	(財)鉄道総合技術研究所
宮下邦彦 (東鉄工業(株))	施工・検査・管理・運用・防災・保全
平田義弘 (清水建設(株))	施工・検査
浜田敏則 (五洋建設(株))	施工・検査
坂東由己 (大成建設(株))	施工・検査
千綿俊一郎 (株)さとうベネック)	施工・検査
郷内勝栄 (西松建設(株))	調査・計画・設計・監理・施工・検査
加藤 光 (ジェイアール東日本 コンサルタンツ(株))	調査・計画・設計・監理・施工・検査
小合澤辰雄 ((財)ダム技術セン ター)	施工・検査
武内秀木 (五洋建設(株))	教育・研究・啓発
植野功大 (東亜建設工業(株))	教育・研究・啓発・調査・計画・設計・監理
小林眞勝 (東北大学)	教育・研究・啓発
杉山光司 (職業訓練法人静岡県 建設業能力開発協会)	教育・研究・啓発

功績賞

松尾 稔	名古屋大学
白石成人	(社)日本国際学生技術研修協会
森 麟	早稲田大学名誉教授
丹保憲仁	放送大学
須田 熙	八戸工業大学
田村重四郎	東京大学名誉教授
佐藤敦久	東北および八戸工業大学名誉教授
玉光弘明	(社)日本建設機械化協会

技術賞

京都市交通局 鹿島・奥村・大豊・吉村・岡野 共同企業体 中央復建コンサルタンツ(株)	世界初の地下鉄複線断面矩形シールドトンネルの建設 ー縦6.5m×横9.9m矩形断面シールドマシン及び覆工の 設計と施工技術ー
阪神高速道路公団	住宅密集市街地におけるNATMによる道路トンネルの建 設ー阪神高速道路神戸山手線ー

	東日本旅客鉄道(株)	ターミナル駅直下における大規模地下駅建設の施工技術（みなとみらい線・東急東横線横浜地下駅）
		東海道新幹線品川駅新設
		水力発電所再開発（奥只見・大鳥発電所増設）における自然環境保全と技術課題の克服－イヌワシの繁殖活動との共存を目指して－
		最新技術の導入と地域との協調による多摩川上流雨水幹線の建設～わが国初の流域下水道雨水幹線～
		大井コンテナ埠頭再整備事業
環境賞	旭川市環境部 (株)ホーゲン 飛島建設(株)	情報公開と対話による、高性能・大規模廃棄物処分場の建設
	大成建設(株)	自然環境を創造する浮体式防波堤の開発・施工
		地域生態系に配慮した十万原新都市開発
		当間高原リゾートにおける、水辺を主体とした環境の創出
論文賞	高西照彦（九州工業大学） 水田洋司（九州産業大学） 川口周作（新日本製鐵(株)）	水平加振を受ける偏心二重円筒タンク内容液の動的挙動
	道奥康治（神戸大学） 神田 徹（神戸大学）	貯水池の有機汚濁と深水層における逆転水温層・高塩分水塊の消長について
	竜田尚希（前田工繊(株)） 稲垣太浩（日本道路公団） 三嶋信雄（川崎地質(株)） 藤山哲雄（前田建設工業(株)） 石黒 健（前田建設工業(株)） 太田秀樹（東京工業大学）	軟弱地盤上の道路盛土の供用後長期変形挙動予測と性能設計への応用
	藤井 聡（東京工業大学）	土木計画における社会的ジレンマ解消にむけた理論的・実証的研究（総合題目）
	西澤辰男（石川工業高等専門学校） 村田芳樹（セメント協会研究所） 國府勝郎（東京都立大学）	交通荷重に対する薄層ホワイトトッピング構造の動的挙動
	大津宏康（京都大学） 尾ノ井芳樹（電源開発(株)） 大西有三（京都大学）	地盤リスク要因に起因する建設プロジェクトコスト変動の評価および対応に関する研究（総合題目）
	中辻啓二（大阪大学） 韓 銅珍（(株)ハイドロソフト） 山根伸之（(株)建設技術研究所）	大阪湾における汚濁負荷量の総量規制施策が水質保全に与えた効果の科学的評価
論文奨励賞	佐々木栄一（東京工業大学）	鋼製橋脚における地震時脆性破壊防止に必要な鋼材の破壊靱性レベル
	山口里実（港湾技術研究所）	小規模河床波の線形・非線形力学（総合題目）
	山川優樹（長岡技術科学大学）	地盤材料における分岐現象と変形局所化に関する研究（総合題目）
	塚井誠人（広島大学）	社会資本の生産性とスピルオーバー効果
	星野裕司（熊本大学）	明治期に建設された沿岸要塞における砲台配置と眺望景観の関係に関する研究

吉田賞 研究業績部門	牧 剛史（埼玉大学）	鉄筋コンクリート杭－地盤系の非線形応答性状と3次元有限要素解析－（総合題目）
	渡辺幸三（東北大学）	河川底生動物の動態特性に基づくPulse型人為的インパクトからの回復予測（総合題目）
	角田與史雄（北海道大学）	コンクリート系構造物の設計の合理化に関する研究（総合題目）
	論文部門 大友敬三（（財）電力中央研究所） 末広俊夫（東京電力㈱） 河井 正（（財）電力中央研究所） 金谷賢生（関西電力㈱）	強震時における鉄筋コンクリート製地中構造物横断面の塑性変形に関する実証研究
	横関康祐（鹿島建設㈱） 渡邊賢三（鹿島建設㈱） 古澤靖彦（鹿島建設㈱） 大即信明（東京工業大学） 久田 真（（独）土木研究所）	カルシウムイオンの溶出に伴うコンクリートの変質に関する実態調査と解析的評価
	金津 努（（財）電力中央研究所）	一様高温下における鉄筋コンクリート曲げ部材の力学特性
	吉田研究奨励賞 被授与 渡辺 健（東京工業大学）	コンクリート構造物の局所的圧縮破壊特性および寸法効果予測
	半井健一郎（東京大学）	地盤環境に曝されるセメント硬化体の長期変性と環境相互作用に関する研究
	牧 剛史（埼玉大学）	基礎と地盤を含めた鉄筋コンクリート構造物全体系の3次元有限要素解析による耐震性評価
	国際研究集会等 への参加援助 上原子晶久（弘前大学）	「CONSEC' 04における連続シートで補強された既設構造物の性能評価に関する研究成果の発表、並びに海外における最新の研究動向の調査」（2004. 6. 27～6. 30 , 大韓民国）
委員会が必要と 認めた研究		コンクリート委員会・アルカリ骨材反応を生じたコンクリート構造物の安全性評価と補修・補強対策に関する委員会活動への援助
田中賞 研究業績部門	阿部英彦（㈱東京鐵骨橋梁）	新幹線はじめ鋼鉄道橋の計画・設計、維持管理、設計・製作示方書の作成、製作の品質管理・監督および溶接構造、合成構造の導入などに指導的役割を果たした業績、更に約50年にわたり、土木学会はじめ関連学・協会における諸委員会などで広汎にわが国の橋梁技術発展に貢献した業績および種々の国際援助計画における業績など
	論文部門 曾我部正道（（財）鉄道総合技術研究所） 藤野陽三（東京大学工学系研究科） 涌井 一（（財）鉄道総合技術研究所） 松本信之（（財）鉄道総合技術研究所） 金森 真（（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構）	列車の高速化に対応したコンクリート鉄道橋の動的設計法に関する研究（総合題目）
	安川義行（日本道路公団） 稲葉尚文（日本道路公団）	PC床版鋼2主桁橋の合理的設計法に関する研究（総合題目）
	作品部門 千歳橋 大阪市大正区鶴町4丁目～同区北恩加島2丁目	形式：2径間連続鋼床版非対称ブレースドリブアーチ橋

技術開発賞	北上大橋 岩手県東磐井郡川崎村～一関市弥栄	形式：3径間連続ブレースドリブ・バランスド・タイドアーチ橋
	のぞみ橋 岐阜県可児郡御嵩町小和沢～加茂郡八百津町丸山	形式：端部分離型上路式PC吊床版橋
	鵜飼大橋 所在地：岐阜市長良雄総地内（右岸）～岐阜市日野地内（左岸）	形式：鋼6径間連続非合成箱桁橋（RC床版）＋鋼単径間斜張橋（鋼床版）
	芝川高架橋 静岡県富士郡芝川町内房～静岡県静岡市清水宋原地内	形式：PC2径間連続ストラット付ラーメン箱桁橋，PC4径間連続ストラット付箱桁橋，PC5径間連続ストラット付箱桁橋，
	藁科川橋 静岡県静岡市谷津～静岡県静岡市小瀬戸地内	形式：鋼7径間連続2主鈑桁橋1連（長支間場所打ちPC床版），鋼4径間連続2主開断面箱桁橋6連（長支間場所打ちPC床版）
	木ノ川高架橋 和歌山県新宮市	形式：4径間連続鋼・コンクリート複合トラス橋
	松岡 元（名古屋工業大学） 劉 斯宏（名古屋工業大学） 孫 徳安（名古屋工業大学） 工藤アキヒコ（関西電力㈱） 西方卯佐男（関西総合環境センター㈱）	広範な地盤材料を対象とする簡便な原位置一面せん断試験法の開発と実用化
	緒方健治（日本道路公団） 松山裕幸（日本道路公団） 佐藤亜樹男（日本道路公団） 国見 敬（曙ブレーキ工業㈱） 根津正弘（曙ブレーキ工業㈱）	加速度センサーを使用した地盤傾斜計測システムの開発
	宮地陽輔（国土交通省 北海道開発局） 山崎浩之（（独）港湾空港技術研究所） 豊田英男（国土交通省 中国地方整備局） 北村卓也（住友金属工業㈱） 稲垣三喜男（東亜建設工業㈱）	根入れ式鋼板セル防波堤の開発と実用化
	中野正文（東京ガス㈱） 川村佳則（東京ガス㈱） 津田勝利（大成建設㈱） 佐藤健人（㈱大林組） 仙名 宏（㈱大林組）	側壁・底版剛結合構造LNG地下式貯槽の開発
出版文化賞	青木一二三（（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構） 米澤豊司（（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構） 渡邊 修（（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構） 舘山 勝（（財）鉄道総合技術研究所） 龍岡文夫（東京大学）	耐震性（セメント改良補強土）橋台の開発
	『Johannis de Rijke（原著書名日本の川を甦らせた技師デ・レイケ）』 『風景学・実践篇風景を目ききする』	上林好之・原著，Noriko de Vroomen, Pim de Vroomen・共訳：Walburg Pers 2002年4月 中村良夫・著／中央公論新社 2001年5月
国際貢献賞		

	日本人	田中宏昌	東海旅客鉄道(株)
		阿部勝久	(株)建設技研インターナショナル
		染谷昭夫	名古屋港管理組合
	外国人	Dr. Richard N. WRIGHT	米商務省国立標準技術研究所 (NIST)
国際活動奨励賞		関隆一郎	(株)建設技研インターナショナル
		中村 滋	電源開発(株)
		関 茂樹	佐藤工業(株)
		井上清彦	(株)大林組
		田中利明	大成建設(株)
		斎藤芳敬	中部電力(株)
		神長耕二	JICA専門家 (インドネシア共和国派遣)
		上田多門	北海道大学
		高嶋 洋	(株)鴻池組
		高橋信也	日本工営(株)
		平吹 徹	鹿島建設(株)
		藤川浩生	(株)熊谷組
		永井雅彦	東京電力(株)
		大木章央	清水建設(株)
		西田中二郎	(株)フジタ
技術功労賞		丸山幹雄 (北陸パブリックメンテナンス(株))	教育・研究・啓発・調査・計画設計・監理・施工・検査
		中條友義 (日本鋼弦コンクリート(株))	教育・研究・啓発・施工・検査
		石丸 勇 (株)西日本測研社)	施工・検査・管理・運用・防災・保全
		小田奈三喜 (オリエンタル建設(株))	施工・検査・管理・運用・防災・保全
		長谷部清 (向井建設(株))	教育・研究・啓発
		上野直通 (大成建設(株)長)	施工・検査
		近藤敏夫 (五洋建設(株))	施工・検査
		戸出正義 (飛鳥建設(株))	調査・計画設計・監理・施工・検査
		勝吉忠市 (清水建設(株))	施工・検査
		藤田和夫 (九州大学)	教育・研究・啓発
		天本豊子 (元九州大学)	教育・研究・啓発

■ 平成 6 年度



鶴見つばさ橋



新木津川大橋



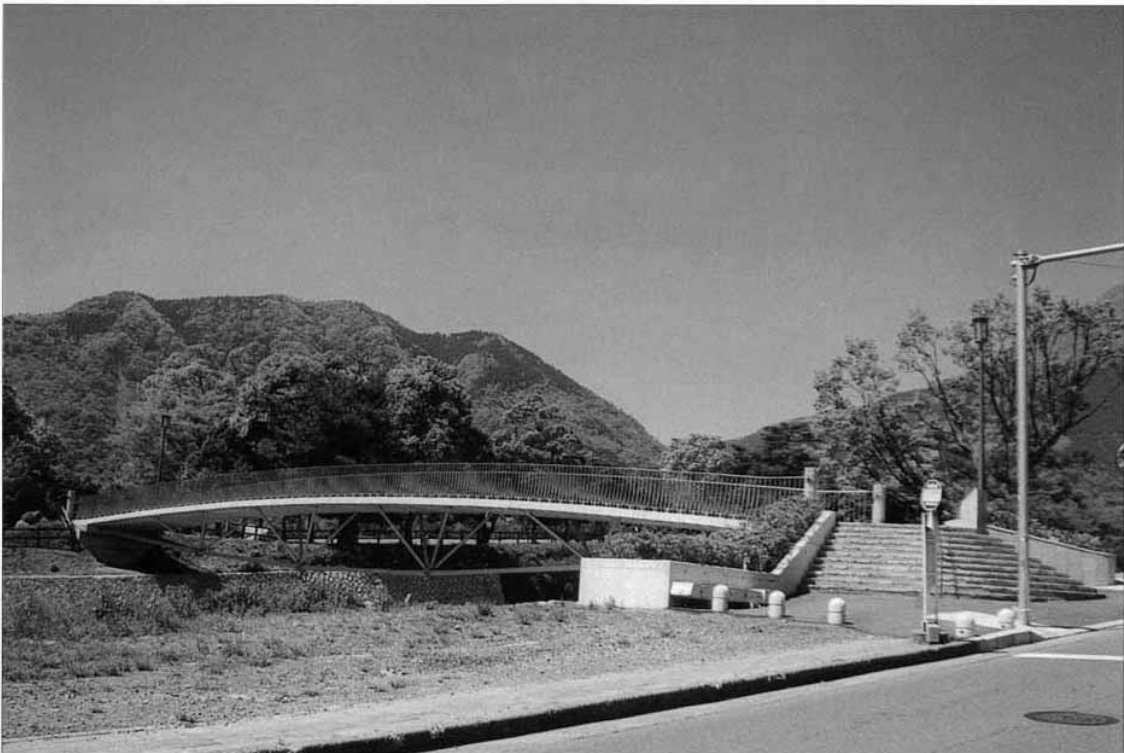
小田原ブルーウェーブブリッジ



久澄橋



バンコク第2高速道路（第1期工区）



イナコスの橋

■ 平成 7 年度



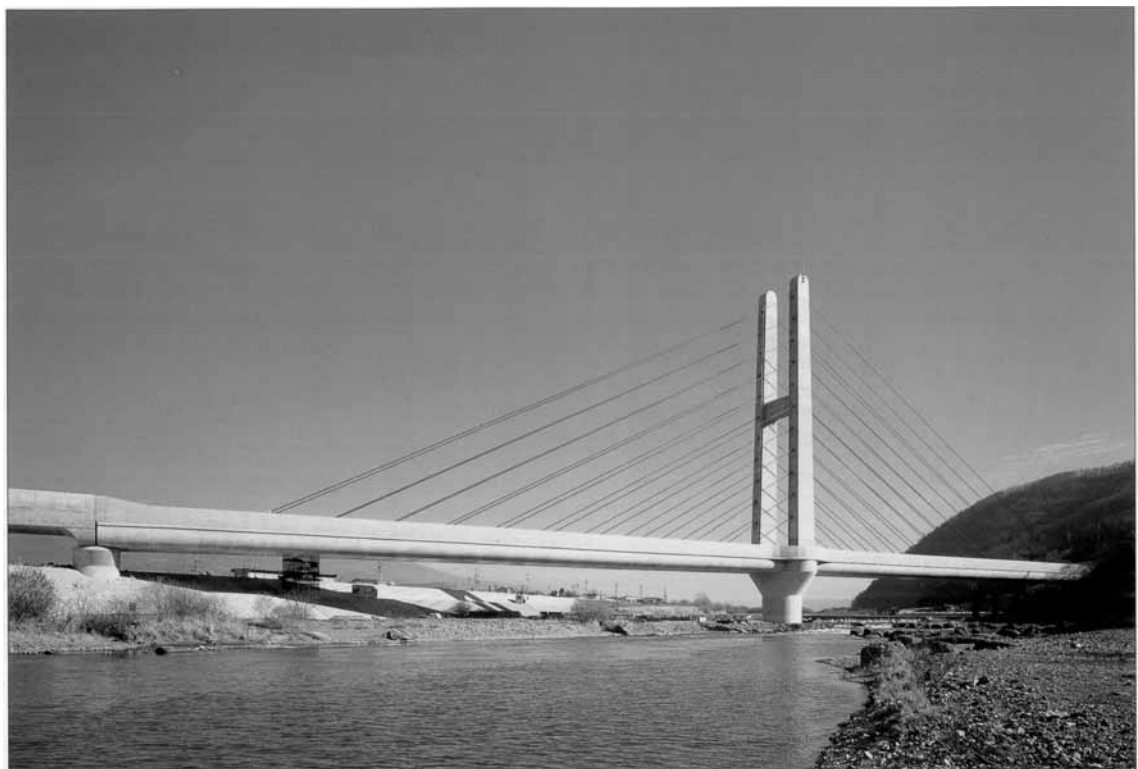
王支大橋



潮騒橋



土勝大橋



北陸新幹線第2千曲川橋梁



ホロナイ川橋



松の木 7 号橋

■ 平成 8 年度



四国縦貫自動車道 重信高架橋



東京湾横断道路橋梁部（仮称）



名取川橋梁



南風原高架橋



弁天高架橋



北陸新幹線 屋代橋りょう



夢吊橋

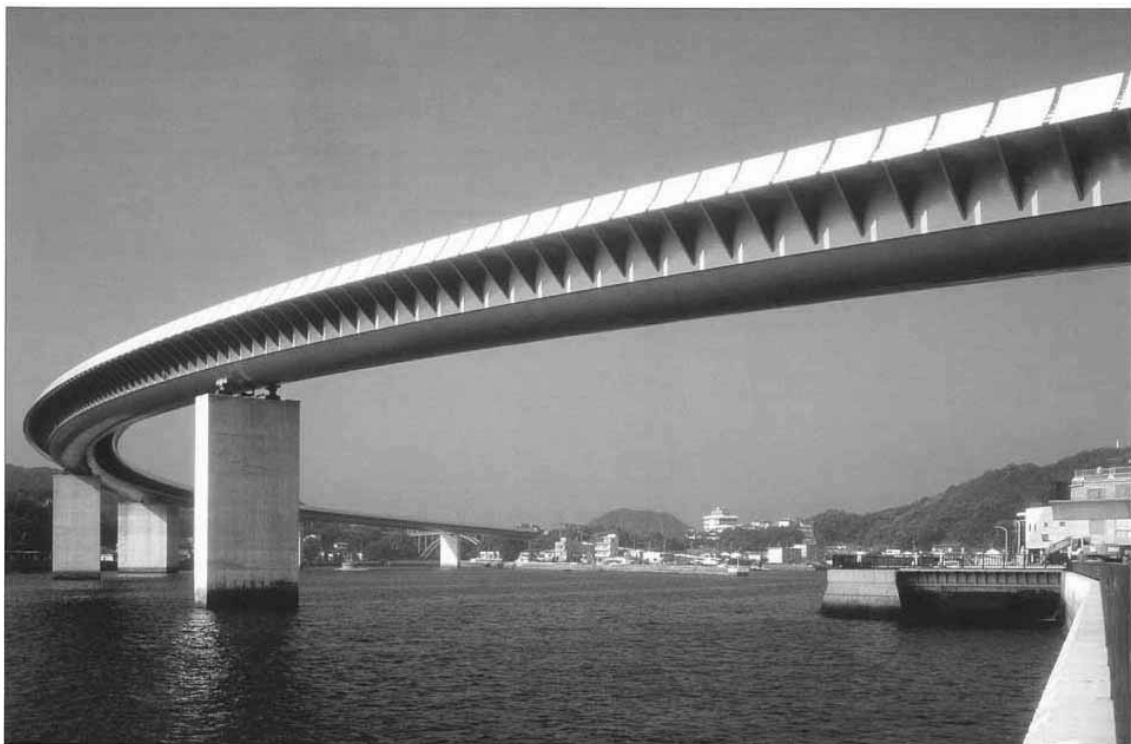
■ 平成 9 年度



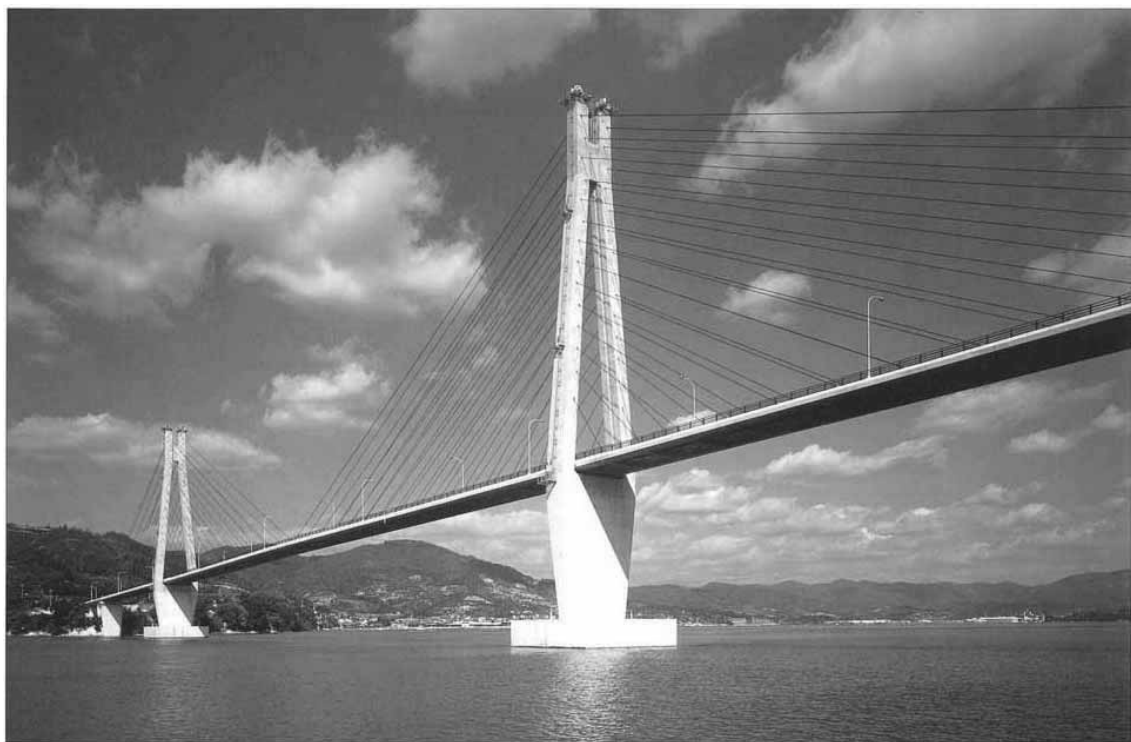
明石海峡大橋



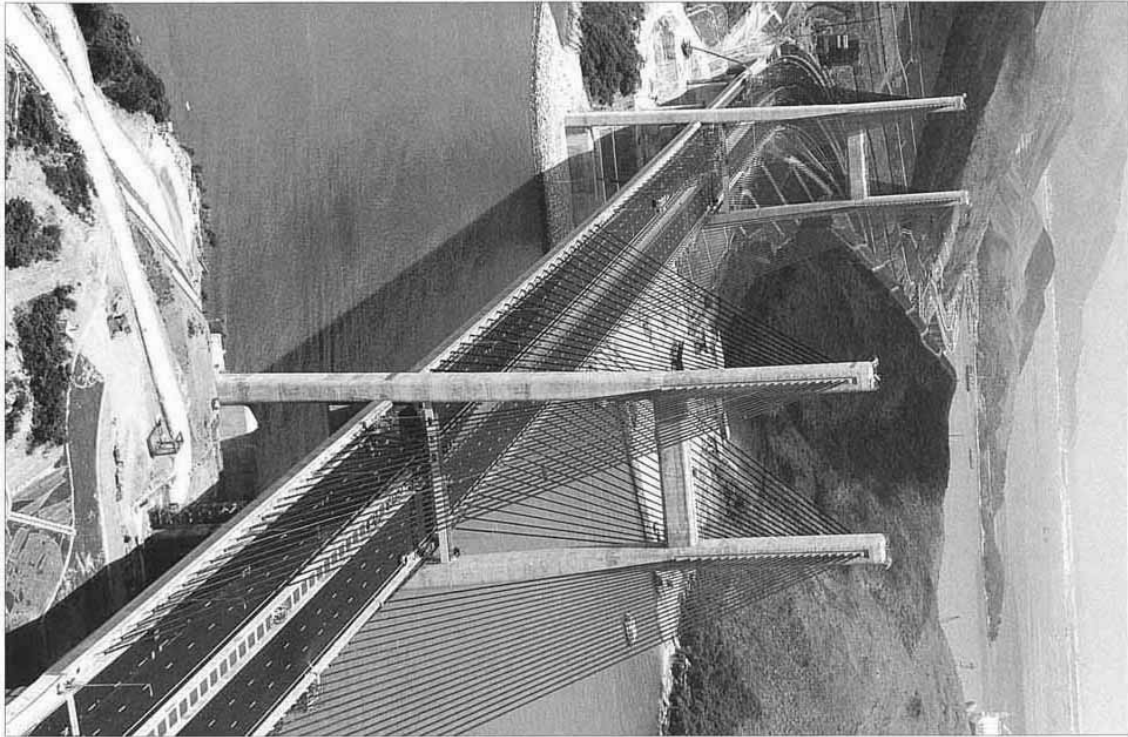
伊勢湾岸自動車道 名港三大橋



牛深ハイヤ大橋



大芝大橋



汲水門大橋



くじら橋



新猪名川大橋

■ 平成 10 年度



阿嘉大橋



来島海峡大橋



多々羅大橋



青馬大橋



本谷橋



雷電 十々六木大橋



白鳥大橋



東静岡駅南北自由通路橋

■ 平成 11 年度



安芸灘大橋



池田へそっ湖大橋



宇品大橋



くしもと大橋



新港サークルウォーク



第2マクタン橋



鳴瀬川橋梁

■ 平成 12 年度



宇品橋

宇品橋



土狩大橋

土狩大橋

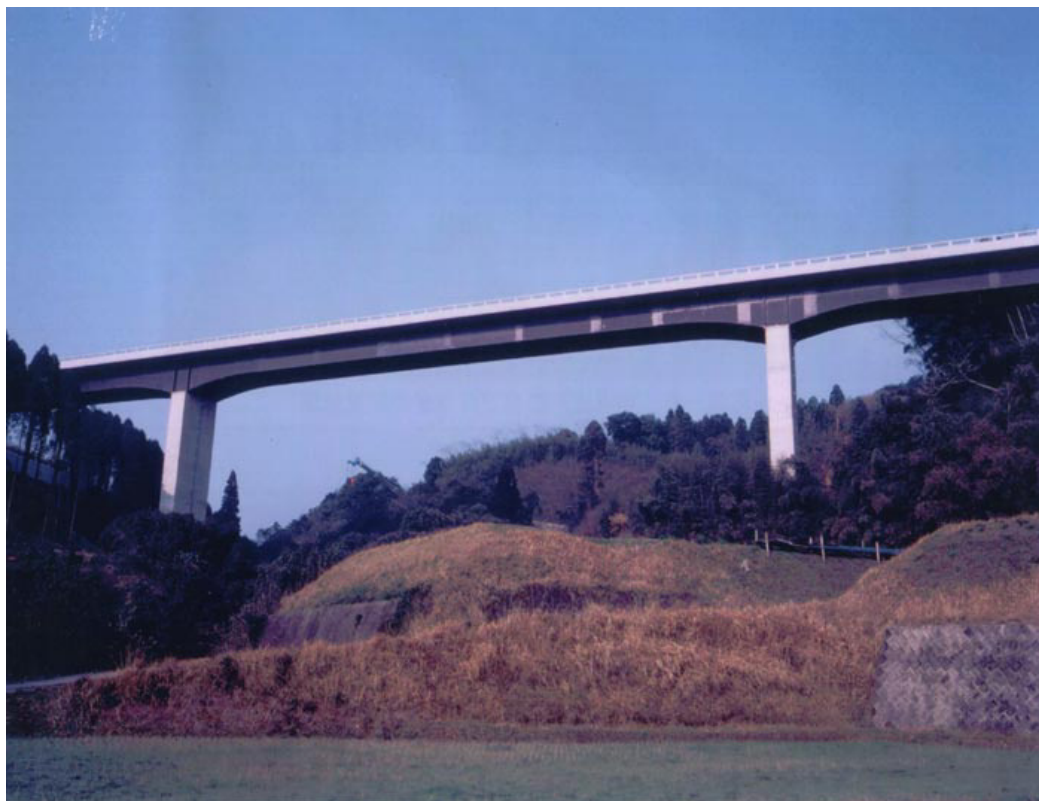


都田川橋



天翔大橋

■ 平成13年度



今別府川橋



森のわくわく橋



保津橋



日本-エジプト友好橋



永宗大橋



陣ヶ下高架橋



巖門園地園路橋



木曽川橋・揖斐川橋（トウインクル）



イルティッシュ河橋

■ 平成 14 年度



古川高架橋



隴大橋



日本・パラオ友好橋

日本・パラオ友好橋



ときめき橋

ときめき橋



五色桜大橋

五色桜大橋



酒田みらい橋

酒田みらい橋

■ 平成 15 年度

千歳橋



千歳橋

北上大橋



北上大橋

のぞみ橋



のぞみ橋

鵜飼い大橋



鵜飼い大橋



芝川高架橋

芝川高架橋



藁科川橋

藁科川橋

木ノ川高架橋



木ノ川高架橋

10. 土木学会映画コンクール入賞作品一覧

回 数	賞 名	タイトル	企 画	制 作
第1回 1964 (S. 39)	最優秀賞	銀座の地下を掘る	帝都高速度交通営団	日本映画新社
	優 秀 賞	羽田海底トンネル	首都高速道路公団	理研科学映画
	〃	横山ダム工事	建設省. 中部地建	C B C テレビ映画
	準優秀賞	大阪環状線-西成編-	国鉄. 大阪工務局	日本映画新社
	〃	外洋にいでむ	鹿島建設	新潟映画
	〃	海を渡る砂	臨海土木	毎日放送映画
32本	佳 作	海へ伸びる大阪(建設編・第二部)	大阪府	毎日放送映画
	〃	名神高速道路の舗装	日本舗道	日本舗道
第2回 1966 (S. 41)	最優秀賞	よみがえる川	群馬県	三井プロ
	優 秀 賞	砂 防	平和国土計画会議	旭映画
	〃	高潮に挑む	建設省. 関東地建	松崎プロ
	準優秀賞	海の新土	建設省. 中部地建	C B C テレビ映画
	〃	えい智の結晶	神奈川県	神奈川ニュース映画
	〃	第三の道路	日本道路公団	電通映画
46本	佳 作	東京の地下に挑む	大成建設	日本映画新社
	〃	摩耶大橋	神戸市	日本シネセル
第3回 1968 (S. 43)	最優秀賞	礎(いしづえ)	東京電力	岩波映画
	優 秀 賞	青函トンネル(第一部)	日本鉄道建設公団	理研映画
	〃	利根川河口堰	水資源公団	松崎プロ
	準優秀賞	梓川開発の記録	鹿島建設	日本技術映画
	〃	江東の地下を掘る	帝都高速度交通営団	日本シネセル
	〃	-東西線シールド工事記録-		
52本	〃	尾道大橋	日本道路公団	山陽映画
	佳 作	五霞村引提工事	建設省. 関東地建	松崎プロ
	〃	P I P 工法	清水建設	岩波映画
第4回 1970 (S. 45)	最優秀賞	東名高速道路	日本道路公団	日本映画新社
	優 秀 賞	北上川	建設省. 東北地建	松崎プロ
	〃	くっさく	帝都高速度交通営団	日本映画新社
	準優秀賞	蛇紋岩トンネル掘さくの記録	日本鉄道建設公団札幌	北海道放送
	〃	青函トンネル(第二部)	日本鉄道建設公団	理研映画
	〃	多摩川をわたる沈埋トンネル	日本鉄道建設公団東京	日本映画新社
62本	佳 作	近代化ヤードの誕生	国鉄. 盛岡工務局	理研映画
	〃	地すべり	建設省. 近畿地建	日本映画新社
	〃	本牧ふ頭(第三部)	運輸省. 第二港湾建設	理研映画
第5回 1972 (S. 47)	最優秀賞	松原・下笠ダム建設記録	建設省. 九州地建	松崎プロ
	優 秀 賞	みんなの下水道	大阪府	N E T 朝日
	〃	土石流	建設省. 北陸地建	松崎プロ
	準優秀賞	水道橋架道橋拡幅	国鉄. 東京第三工務局	理研科学映画
	〃	新しい水底トンネル	鹿島建設	鹿島映画

75本		-多摩川沈埋函工事記録-		
	佳 作	主塔 名古屋港金城埠頭建設記録(第二部)	石川島播磨 運輸省. 第五港湾建設	鹿島映画 理研映画
	〃	新全断面掘削工法	前田建設工業	日本シネセル
	〃	マックス工法	西松建設	綜合映画
第6回	最優秀賞	関門橋	日本道路公団	RKB映画社
1974 (S.49)	優 秀 賞	渡良瀬遊水池	建設省. 関東地建	松崎プロ
	〃	波と闘う人々	建設省. 中国地建	中国弘済会
	準優秀賞	東京港海底トンネル	湾岸線沈埋工事	鹿島映画
	〃	本四架橋の設計調査	本州四国連絡橋公団	日本映画新社
89本	〃	東京地下駅の建設	国鉄. 東京第一工事局	理研科学映画
第7回	最優秀賞	恵那山トンネル	日本道路公団	松崎プロ
1976 (S.51)	優 秀 賞	アルプスの地下にきづく -新高瀬川発電所-	鹿島建設	鹿島映画
	〃	有楽町線 掘進 10900m -池袋銀座1丁目間建設記録-	帝都高速度交通営団	日本映画新社
	準優秀賞	うず潮の海に架ける -大島大橋上部工-	日本道路公団	山陽映画
	〃	世界の都市交通 -政策編-	トヨタ交通環境委員会	鹿島映画
80本	〃	北上大堰の建設	建設省. 東北地建	松崎プロ
	佳 作	東北新幹線 第2・第3阿武隈川橋梁建設の記録	国鉄仙台新幹線工事局	鹿島映画
第8回	最優秀賞	青函トンネル -本州側工事の記録-	鹿島・熊谷・鉄建 JV	鹿島映画
1978 (S.53)	優 秀 賞	都市化が水害を招く	建設省. 関東地建	日映科学映画
	〃	六方沢橋	栃木道路公. 清水. 川田	シー・エー・シー
	準優秀賞	水で掘る -泥水シールド工法-	戸田建設	読売映画
	〃	よみがえる水 -下水処理を中心に-	鹿島建設	鹿島映画
77本	〃	空に伸びる浄水場 -村野階層浄水場建設の記録-	大阪府水道部	読売映画. 大阪
	佳 作	富士山大沢崩れ砂防対策	建設省. 中部地建	CBCテレビ映画
第9回	最優秀賞	川とともに -岩木川水系改良復旧事業-	青森県土木部	日映科学映画
1980 (S.55)	優 秀 賞	大三島橋 -本州四国連絡道路-	本州四国連絡橋公団	岩波映画
	〃	黎明のとき -浮上式鉄道の開発 第2部 -	国鉄. 下関工事局	理研科学映画
	準優秀賞	赤谷川橋りょう-R C逆ランガーアーチ橋-	鉄建公団. 東京新幹線	大峠プロ
	〃	噴泥に挑む	国鉄. 東京第一工事局	理研科学映画
70本	〃	LNG地下タンク	鹿島建設	鹿島映画
第10回	最優秀賞	新たなる挑戦	帝都高速度交通営団	青銅プロ
	優 秀 賞	-超大型泥水シールド工法- 上総掘り	袖ヶ浦町教育委員会	モロオカプロ

1982	〃	斜坑に挑むTBM -下郷発電所・水圧管路工事-	電源開発	鹿島映画
(S. 57)	準優秀賞	雪にいどむー東北新幹線雪対策試験ー	国鉄. 盛岡工事局	春秋映画
	〃	RCD工法 ー島地川ダムー	建設省. 中国地建	中国建設弘済会
65本	〃	変貌する東京駅	国鉄. 東京第一工事局	理研科学映画
	佳作	渇水 ー利根川にみる首都圏の渇水状況ー	建設省. 関東地建	日映科学映画
第11回	最優秀賞	本州四国連絡橋 長大橋の基礎を築く (第三部)	鹿島・間・五洋JV	鹿島映画
	優秀賞	日本の河川ー治水の歴史とその背景ー	建設省. 中部地建	日映科学映画
1984	〃	人工島を築く ー御坊発電所建設工事記録ー	関西電力	毎日映画社
(S. 59)	準優秀賞	ザイールに架ける ー長大吊橋建設記録ー	石川島播磨・三菱・川崎	日本シネセル
	〃	上野地下駅 ー東北新幹線上野地下駅北部工事ー	飛島建設	大峠プロ
78本	〃	軟弱地盤に築く ー霞ヶ浦開発事業の堤防工事ー	水資源開発公団	テレビ朝日映像
第12回	最優秀賞	青函トンネル	日本鉄道建設公団青函	北海道放送映画
	優秀賞	うず潮に架ける -本州四国連絡橋・大鳴門橋-	本州四国連絡橋公団	日本シネセル
1986	〃	川と街ーみんなで考える都市河川ー	日本経済教育センター	鹿島映画
(S. 61)	準優秀賞	田野畑に架けるー思惟大橋の建設ー	建設省. 東北地建	旭映画
	〃	東北新幹線 -上野・大宮間の主な建設工事記録-	国鉄. 東京工事局	理研科学映画
69本	〃	蘇った秋田港	運輸省. 第一港湾建設	秋田テレビ
	佳作	PC卵形消化槽	鹿島建設	鹿島映画
第13回	最優秀賞	本州四国連絡橋 児島・坂出ルート	本州四国連絡橋公団	海洋架橋/山陽映
	優秀賞	木曾三川ー水と人間の歴史ー	建設省. 中部地建	CBCテレビ映画
1988	〃	横浜ベイブリッジの礎 -横浜港横断橋下部工...	鹿島/大林/東亜JV	カジマビジョン
(S. 63)	準優秀賞	黎明のキリマンジャロ	鴻池組	総合映画製作所
	〃	かつしかハープ橋 S字形曲線斜張橋	川崎/櫻田/東京鐵骨橋	カジマビジョン
	〃	ジェット化をめざす青森空港 (飛行場施設編)	青森県土木部空港建設	新芸映画
49本	佳作	架ける-本州四国連絡橋児島・坂出ルート 大ブロック架設工事の記録-	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
第14回	最優秀賞	海中基礎にいどむ -明石海峡大橋ケーソン設置-	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
	優秀賞	時を越えてー名橋・万代橋-	建設省. 北陸地建	『万代橋』委員会
1990	〃	横浜ベイブリッジー21世紀に架けるー	首都高速道路公団	神奈川ニュース映画

(H. 2)	準優秀賞	関西国際空港建設記録 -連絡橋第二工区下部工-	大林組	宝塚映像
50本	〃	京葉都心線 -その新しい技術-	日本鉄道建設公団東京	理研科学映画
	〃	大深度地下に築く駅 -京葉線・東京地下駅の記録-	J R 東日本, 東京工事	理研科学映画
	佳作	玉川ダムの R C D 工法	建設省, 東北地建	日本シネセル
第15回	最優秀賞	ある碑 -巨大吊橋を支える-	明石海峡大橋 I A 下部 J V	山陽映画
1992	優秀賞	郷土の宝 -大河津分水-	建設省, 北陸地建	中央映画
	〃	潮流と洗掘 -明石海峡大橋水理実験-	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
	準優秀賞	朝日小川ダムの建設 -R C D 工法を中心に-	富山県土木部河川開発	カジマビジョン
(H. 4)	〃	若戸大橋新たな技術の確立 -4 車線拡幅工事の記録	日本道路公団, 福岡	R K B 映画社
28本	〃	直上高架切替工法 (S T R U M) -東急東横線大倉山～菊名駅間立体交差 化事業-	横浜市道路局／ 東京急行電鉄	教育映画
	〃	都市を支える下水道 -大田幹線工事記録総集編-	東京都下水道局	日本映画新社
第16回	最優秀賞	該当作品なし		
1994	優秀賞	地下にトンネルを組立てる 井荻立体化事業	東京都建設局	N H K フォーション
	〃	東京湾横断道路 川崎人工島	東京湾横断道路	読売映画社
	〃	阪神高速道路・湾岸線・東神戸大橋	阪神高速道路公団	日本シネセル
(H. 6)	準優秀賞	四谷見附橋今昔物語	住宅・都市整備公団	理研科学映画ほか
83本	〃	東京港に虹を架ける -レインボークリッジの建設工事-	首都高速道路公団	日本シネフィルム研究所
	〃	富士山を測る	大成建設	桜映画社
第17回	最優秀賞	石を架ける -石橋文化を築いた人びと-	文化工房	文化工房
1996	優秀賞	-高速湾岸線-多摩川トンネルの建設	鹿島 J V	カジマビジョン
	〃	ベイエリアの新しいモニュメント 鶴見つばさ橋	首都高速道路公団	日本映画新社
	準優秀賞	阪神大震災による道路の被災と復旧	建設省近畿地方建設局	日本シネセル
(H. 8)	〃	関西国際空港 海上空港の建設	関西国際空港	日本シネセル
98本	〃	来島大橋主塔建設	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
第18回	最優秀賞	未知への旅立ち ～明石海峡大橋上部工～	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
1998	優秀賞	地域の安全を守る ～水無川1号砂防ダムの記録～	建設省九州地方建設局	ナガサキフォトサー ビス
	〃	洪水をなだめた人びと ～治水と水防にみる先人の知恵～		文化工房

(H. 10)	準優秀賞	大地を潤す地下のダム 農用地整備公団福里地下ダム	文化工房	
86本	〃 〃	東京湾横断道路 海底を貫く 横浜港大さん橋の軌跡を求めて	鹿島・間・共和特定工事JV 清水建設・佐藤工業他 横浜市港湾局	カジマビジョン エクシークリエイ トアドバンス ジャパンフィルム
第19回	最優秀賞	ニッポン近代化遺産への旅	大成建設	日本映画新社
	優秀賞	多島海を結ぶ 多々羅大橋の記録	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
2000	〃	環境と景観-来島海峡大橋の建設-	本州四国連絡橋公団	海洋架橋調査会
(H. 12)	準優秀賞	神石高原-地すべり対策の話	神石高原地区	山陽映画
	〃	-神石高原地区農地保全事業-	農地保全事業建設所	
	〃	池田へそつ湖大橋	日本道路公団	カジマビジョン
47本	〃	-PC5径間連続逆ランガーアーチ橋-		
	〃	山口調整池建設の歩み-	水資源開発公団 福岡導水建設所	山陽映画
第20回	最優秀賞	地域と自然との共生をめざす道づくり	日本道路公団四国支社	大成建設
	会長特別賞	四国横断自動車道 鳴門～板野間 日本の近代土木を築いた人びと	徳島工事事務所 大成建設	日本映画新社・日 英企画
2002	優秀賞	水とたたかった戦国の武将たち	全国建設研修センター	虫プロダクション
(H. 14)	〃	荒川放水路物語 ～川がはぐくむ暮らしと文化～	国土交通省関東地方整備局 荒川下流工事事務所	ソラリス
	準優秀賞	21世紀の架け橋	日本道路公団中部支社四日 市工事事務所	カジマビジョン
15本	〃	ー第二名神高速道路木曽橋・揖斐川橋 河川総合開発事業・青森県浅虫ダム	青森県浅虫・駒込ダム建設所	建設技術研究所カ ジマビジョン

11. 選奨土木遺産一覧

平成 13 年度	遺産名	所在地	建設年
北海道地区	函館市の水道施設群 ・元町配水場 ・笹流ダム	北海道函館市 北海道函館市	明治 22 年 大正 12 年
東北地区	大湊第一水源地堰堤	青森県むつ市	明治 43 年
関東地区	丸沼ダム 五ヶ門樋	群馬県片品村 埼玉県庄和町	昭和 12 年 明治 25 年
中部地区	美濃橋 小牧ダム	岐阜県美濃市 富山県庄川町	大正5年 昭和5年
関西地区	琵琶湖疎水の発電施設群 ・蹴上発電所 ・夷川発電所 ・墨染発電所	京都府京都市 京都府京都市 京都府京都市	明治 45 年 大正3年 大正3年
中国地区	惣郷川橋梁	山口県阿武町	昭和7年
四国地区	芸予要塞・小島砲台跡	愛媛県今治市	明治 33 年
西部地区	三角西港	熊本県三角町	明治 20 年
平成 14 年度	遺産名	所在地	竣工年
北海道地区	旭橋 (日本を代表する大型のバランス型のアーチ橋)	北海道旭川市	昭和7年
	石狩川生振捷水路 (わが国を代表する捷水路事業によって生み出された親水空間)	北海道石狩市	昭和6年
東北地区	達曽部川橋梁、宮守川橋梁－釜石線－ (東北地方で最も親しまれている鉄道用 RC アーチ橋) ・達曽部川橋梁 ・宮守川橋梁 安積疎水関連施設	岩手県宮守村 岩手県宮守村	昭和 18 年 昭和 18 年

関東地区	(ファン・ドールンによる安積疏水事業を物語る大型可動堰と水路)		
	・疏水水路	郡山市・猪苗代町	明治 15 年
	・沼上発電所余水路	郡山市	明治 32 年
	・十六福水門	河東町・猪苗代町	大正 3 年
中部地区	・丸守発電所	郡山市	大正 10 年
	万代橋	新潟県新潟市	昭和 4 年
	(技術・意匠とも当時の最高水準で造られた名橋)		
	晩翠橋	栃木県黒磯市・那須町	昭和 7 年
関西地区	(わが国に 2 例しかないブレーストリブ・タイプのバランスト・アーチ)		
	中高武設計の RC ローゼ桁群		
	(中島武技師によって造り出され、戦前戦後を通じて長野県下で量産された RC ローゼ桁の中で現存している戦前の 5 橋)		
	・大手橋	長野県木曽福島町	昭和 11 年
中国地区	・姫川橋	長野県小谷村	昭和 12 年
	・親沢橋	長野県小谷村	昭和 12 年
	・昭和橋	長野県坂城町	昭和 12 年
	・栄橋	長野県佐久町	昭和 13 年
四国地区	南郷洗堰	滋賀県大津市	明治 37 年
	(淀川改良事業の要として造られた戦前最大の煉瓦可動堰)		
	旧神戸外国人居留地下水渠	兵庫県神戸市	明治 5 年
	(外国人居留地特有の卵形煉瓦下水渠が視認できる形で保存・展示)		
四国地区	三滝ダム	鳥取県智頭町	昭和 12 年
	(保存状態の良好な稀少なバットレスダムの一つ)		
	神龍橋一元・紅葉橋一	広島県神石町・東城町	昭和 5 年
	(道路用の単純トラスとしては戦前の最長スパン)		
四国地区	田丸橋	愛媛県内子町	昭和 18 年
	(愛媛特有の屋根付き生活橋の代表的存在)		
	大橋ダム	高知県本川村	昭和 15 年
	(戦前では全国 4 番目、四国では飛び抜けて高いダム)		

西部地区	明正井路一号幹線一号橋 (大正期に建設されたわが国最大規模の水路用石造アーチ橋) 美々津橋 (九州で唯一残存する上路スパンドレル・ブレースト・アーチ橋)	大分県竹田市	大正8年
		宮崎県日向市	昭和9年
平成 15 年度	遺産名	所在地	竣工年
北海道地区	稚内港北防波堤ドーム (海陸の連絡を波飛沫から防護する類例のない設計であり，原形保存復元に徹した復元と補修で次代へと受け継がれるドーム型有覆防波堤) 狩勝峠鉄道施設群 (根室本線の開通時に建造された鉄道施設遺構群。山裾に沿った S 字曲線の大型築堤，隧道，橋梁からなり，北海道の東西連絡と拓殖に寄与した) ・大築堤群 ・新内隧道 ・小笹川橋梁	北海道稚内市 北海道新得町 北海道新得町 北海道新得町	昭和 11 年 ／同 55 年 明治 40 年 明治 40 年 明治 40 年
	上郷温水路群 (鳥海山からの融雪水による冷水害対策として，水路幅を広く，水深を浅くし，落落工を連続させた日本で初めての温水路である) ・長岡温水路 ・大森温水路 ・水岡温水路 ・小滝温水路 ・象潟温水路 最上橋 (最上川に架かる最上橋は，3 連の美しいリブアーチ橋の姿，調和のとれたバルコニーと高欄が歴史を物語る貴重なる土木遺産である)	秋田県象潟町 秋田県象潟町 秋田県象潟町 秋田県象潟町 秋田県象潟町 山形県寒河江市・大江町	昭和2年 昭和4年 昭和 12 年 昭和 18 年 昭和 25 年 昭和 15 年
関東地区	関宿水閘門 (利根川改修事業のシンボリック存在で，数少ない現役の大型水門（8 門）と，船の航行のための閘門) 千葉県水道局千葉高架水槽	茨城県猿島郡・五霞町 千葉県千葉市	昭和2年 昭和 12 年

中部地区	（多角形（正 12 角形）の配水塔は稀であり，屋根は円錐，踊り揚がコーニス風に突出したデザイン） 御勅使川堰堤群 （大正期の砂防堰堤で，当時最大級の高さ，大きさ，及び美しさを持つ，最初期の練積堰堤群） ・源堰堤 ・藤尾堰堤 ・芦安堰堤	山梨県南アルプス市 山梨県南アルプス市 山梨県南アルプス市	大正 9 年 大正 11 年 大正 5 年 ／同 15 年改修
	大井川橋 （橋長 1026. 4m，17 径間のトラス橋で，上下部工ともに当初の優れた姿をよく残し，戦前では同形式として最大級の道路橋） 鬼ヶ城歩道トンネルー木本隧道ー （尾鷲地方の煉瓦トンネル群の一つで，よく整えられたデザインの抗門を備えた，大正期最長の道路用煉瓦トンネル）	静岡県島田市・金谷町	昭和 3 年
		三重県熊野市	大正 14 年
関西地区	柳ヶ瀬隧道 （明治 17 年完成当時日本最長（1352m）で，黎明期の技術進歩に大きく貢献した。今も使用中では 2 番目に古いトンネルである）	福井県敦賀市，滋賀県伊香郡・余呉町	明治 17 年
	友ヶ島砲台群 （フランス式布陣の 5 箇所の砲台かから成り，発電施設など当時の最端科学技術の粋を結集し，それを今に伝える貴重な文化財である）	和歌山県和歌山市	明治 25 年 （第 3 砲台）
			明治 31 年 （第 2 砲台）
中国地区	東西用水酒津樋門 （大正 13 年に完成し，取水樋門・南配水樋門・北配水樋門からなり，現存し今も活用されている水門としては国内最大級のもの）	岡山県倉敷市	大正 13 年
	千本堰堤 （大正 7 年に竣工した山陰初の近代水道施設であり，外観は御影石で覆われた重厚な雄姿を持ち，今も活用されているもの）	島根県松江市	大正 7 年

四国地区	木島灯台 (総御影石造り無塗装の灯台は、完成から 100 年を越えた今も、備讃瀬戸を航行する船舶の安全を見守っている)	香川県高松市	明治 28 年
西部地区	出島橋 (米国から輸入されたトラス橋で、わが国で供用中の鉄製橋梁の中で最も古く、重要な近代化遺産) 東与賀地区大搦堤防 東与賀地区授産社搦堤防 (明治期前半に築かれた最大規模の有明干拓堤防で、現在も道路や二線描堤として機能するとともに、石積みの景観がすばらしい) 鹿児島港旧石積防波堤 (水族館と一体化して整備され、市民の憩いの場所として保存活用されている大規模で美しい曲面を持つ巻石防波堤)	長崎県長崎市 佐賀県／東与賀町 佐賀県／東与賀町 鹿児島県鹿児島市	明治 23 年 明治 4 年 明治 中期 明治 38 年
平成 16 年度	遺産名	所在地	竣工年
北海道地区	函館港改良施設群 船入瀬防波堤 第 1 号乾ドック 北海道港湾修築の嚆矢的構造群で最初期の港湾コンクリート。広井勇設計のコンクリートブロック基礎の船入瀬防波堤やコンクリートブロック造乾ドック 十勝川千代田堰堤 国内有数の農業王国十勝の礎となり、十勝川治水開閉閘期の歴史を伝える大規模固定堰	北海道・函館市 北海道・函館市 北海道・池田町	明治 32 年 明治 36 年 昭和 10 年
東北地区	北上川分流施設群 鵜波締切提洗 鵜波洗堰 脇谷洗堰・閘門 脇谷水門・放水路 福地水門 釜谷水門 月浜第一水門	宮城県・豊里町・津山町 宮城県・豊里町 宮城県・津山町 宮城県・津山町 宮城県・河北町 河北町 北上町	昭和 6 年 昭和 7 年 昭和 7 年 昭和 6 年 昭和 5 年 昭和 3 年 昭和 3 年

関東地区	月浜第二水門 戦前の大規模分水事業、北上川第一期改修工事にて建設された施設。我が国の分水堰技術の黎明記に選定された希少なゲート形式群	北上町	昭和 3 年
	野辺地防雪源林 日本鉄道㈱の防雪対策として植栽された、我が国最初の防雪林。自然資源の有効利用による希少な土木遺産である。	青森県・野辺地	明治 26 年
	十網橋 飯坂温泉街の中心地に位置し、ブレーストリブアーチが美しい現存する最古級の大正期の鋼アーチ橋。歴史を物語る貴重な土木遺産である。	福島県・福島市	大正 4 年
	榛名山麓砂防堰堤群 明治初期にデ・レイケの指導を受けた技術者によって造られた砂防堰堤群。自然石を用いたアーチ形状と、天端の縄たるみ形状が美しい。	群馬県・伊香保町・榛東村・吉岡町・箕郷町	明治 15 年～35 年
	柳原水閘 明治期の造られた樋門で、4 連アーチの大規模な煉瓦造りは美しく、数少ない貴重な構造物	千葉県・松戸市	明治 37 年
	聖徳記念絵画館前通り 東京を代表する道路景観であり、ワービット工法を利用した我が国最古級の車道用アスファルト舗装	東京都・新宿区	大正 15 年
中部地区	甚之助谷砂防堰堤群 近代以降荒廃の著しい白山から下流域を守りつづけたる、日本で最古級の階段式砂防堰堤群	石川県・白峰村	昭和 6 年～14 年
関西地区	三国港エッセル堤 設計エッセル、施工デ・レーケによる粗朶沈床工の防波堤で、水制とともに導流機能も果たした明治初期を代表する港湾施設である。	福井県・三国町	明治 15 年
	梅小路機関車庫 大正 3 年設置以来、日本の近代化と復興・成長を支えて蒸気機関車の歴史を伝え、動態保存された世界最大級の蒸気機関車庫である。	京都府・京都市	大正 3 年
	オランダ堰堤 明治 15 年デ・レーケ指導、田邊義三郎設計とされる切石布積みアーチ式堰堤。関西治水史上重要な淀川水源地田	滋賀県・大津市	明治 22 年

	上砂防施設群の一つ。		
中国地区	若桜橋 鬼ヶ城の山々に映える3連の美しいブールト・アーチ橋 牛島 藤田・西崎の波止 利用者により結成された協同組合の自主施工で、昭和初期まで組合が運営。牛島独特の個人持ちの波止場一帯はよく保存されている。	鳥取県・若桜町 山口県・光市	昭和9年 明治20年頃
四国地区	第二嶺地橋梁 本橋は日本初の鉄道用5径間連続RC開腹アーチ橋だる。太平洋に面する断崖に、大スパンのアーチが力強く架かっている。	高知県・須崎市	昭和13年
西部地区	名島橋(名島橋及び名島川橋梁) 名島橋は、耐震性に優れたアーチ式構造。白く輝く御影石に覆われた優美な姿。名島川橋梁は、大正期の長大RCアーチ橋。アーチを強調する突起等、秀逸な意匠。 山の田浄水場群 佐世保市の水需要を支えてきた施設。敷地内にある様々な構造物は明治期、大正期の建物の様式を残しており、意匠的な工夫が見られる。	福岡県・福岡市 長崎県・佐世保市	昭和8年 大正12年 明治41年 大正15年

12. 重要文化財・登録文化財

所在地		名称	
北海道	小樽市	旧手宮鉄道施設	2001.11.14
宮城	石巻市	石井閘門	2002.5.23
茨城	東町	横利根閘門	2000.5.25
群馬	松井田町	碓氷峠鉄道施設	1993.8.17、1994.12.27 追加
群馬	片品村	丸沼堰堤	2003.12.25
埼玉	深谷市	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設	1997.5.29
東京	千代田区	東京駅丸ノ内本屋	2003.5.30
東京	中央区	日本橋	1999.5.13
神奈川	横浜市西区	旧横浜船渠株式会社第二号船渠(ドック)	1997.12.3
神奈川	横浜市西区	旧横浜船渠株式会社第一号船渠(ドック)	2000.12.4
新潟	新潟市	萬代橋	2004.7.6
富山	富山市	富岩運河水閘施設(中島閘門)	1998.5.1
福井	三国町	三国港(旧阪井港)突堤	2003.12.25
長野	南木曾町	読書発電所施設	1994.12.27
岐阜	美濃市	美濃橋	2003.5.30
岐阜	八百津町	旧八百津発電所施設	1998.5.1
静岡	河津町	天城山隧道	2001.6.15
愛知	立田村	船頭平閘門	2000.5.25
三重	四日市市	四日市旧港港湾施設	1996.12.10
三重	四日市市	末広橋梁(旧四日市港駅鉄道橋)	1998.12.25
京都	舞鶴市	舞鶴旧鎮守府水道施設	2003.12.25
島根	大社町	旧大社駅本屋	2004.7.6
広島	呉市	本庄水源堰堤水道施設	1999.5.13
福岡	大牟田市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱宮原坑施設	1998.5.1
福岡	大川市	旧筑後川橋梁(筑後川昇開橋)	2003.5.30
熊本	八代市	旧郡築新地甲号樋門	2004.7.6
熊本	荒尾市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	1998.5.1
熊本	本渡市	祇園橋	1997.12.3
熊本	三角町	三角旧港(三角西港)施設	2002.12.26
大分	竹田市	白水溜池堰堤水利施設	1999.5.13
大分	野津町	虹澗橋	1999.12.1
沖縄	玉城村	仲村渠樋川	1995.6.27

13. 土木学会役員一覧

13.1 本部役員

1994 年度土木学会役員名簿

会長	中村英夫					
副会長	河野 清	関 厚	中川博次	藤井治芳	芳村 仁	
次期会長	小坂 忠					
専務理事	河野 宏					
理事	網野定三	伊藤達次	大橋雄六	片山恒雄	工藤智明	栗原和夫
	小柳 洽	坂井順行	斎藤 隆	定道成美	鮎川 登	清野茂次
	西村昭三	野池達也	葉山莞児	平野宗夫	北條紘次	松橋數保
	南 旭	山本卓朗	吉越治雄	和里田義雄	渡邊英一	
監事	奥村威俊	松浦先信				
評議員						
北海道	瓜田一郎	尾形 浩	森吉昭博	織田紀雄	小林徳宏	星 清
東北	沼田 淳	澤本正樹	芳賀 肇	加賀田晋成	神部壽行	田崎忠行
関東	加藤太重	木村泰三	北村邦雄	久保田莊一	軍司昭二	須賀 武
	佐藤 陞	進藤昌明	竹内幹雄	根本 洋	野村孝雄	藤林 均
	松郷文人	三木千壽	門司剛司	山崎 淳	山本征彦	渡辺 晃
	磯島茂男	池村雅司	山下清明	浅野光行	青野捷人	井上聡史
	梅園輝彦	岡田勝也	岡田 耕	奥澤靖司	小菅正道	小林正樹
	近藤秀明	塩見 哲	篠原 修	鈴木藤一郎	高瀬三郎	塚本正雄
	土屋 進	中村 靖	野嶋弘孝	藤本貴也	吉越 洋	三澤遼策
	宮川孝仁					
中部	野村志真夫	名川叡介	奥谷 巖	栗林栄一	河合熙久	北浦 勝
	馬場亮介	前橋隆介	鬼頭徳就			
関西	青山俊樹	坂野行雄	山本邦夫	遊川健三		
	竹澤忠義	松村駿一郎	山本第四郎	飯田邦夫	岡村宏一	片瀬貴文
	岩本樹雄	小笹太郎	軽部大蔵	紀陸富信	小林昭一	佐々木茂範
	土岐憲三	吉田喜七郎	早川知夫			
中国/四国	河村正士	新妻俊三	日月俊昭	明神 証	満下直紀	道上正規
	森高伸二	向 正				
西部	旭 勝臣	中井 修	熊谷恒一郎	土屋忠三	甲斐総治郎	武富一三
	梶 太郎	楠田哲也				

1995 年度土木学会役員名簿

会長	小坂 忠					
副会長	石井晃一	河野 清	関 厚	長瀧重義	廣田良輔	
次期会長	松尾 稔					
専務理事	河野 宏					
理事	青木正夫	荒川利輝	伊藤達次	石井 清	井上靖武	栢原英郎
	片山恒雄	小柳 洽	佐伯 浩	斎藤 隆	定道成美	澤本正樹

	清野茂次 松橋數保 奥村威俊	高田至郎 南 旭 増本治夫	西村昭三 村本嘉雄	平野宗夫 室 達朗	古川公毅 吉越治雄	松尾友矩
監事						
評議員						
北海道	尾形 浩	織田紀雄	小林徳宏	松岡健一	水野雄三	三田地利之
東北	稲村 肇	清水浩志郎	千田壽一	加賀田晋成	神部壽行	田崎忠行
関東	山下清明	浅野光行	青野捷人	井上聡史		
	梅園輝彦	岡田勝也	岡田 耕	奥澤靖司	小菅正道	小林正樹
	近藤秀明	塩見 哲	篠原 修	鈴木藤一郎	高瀬三郎	塚本正雄
	土屋 進	中村 靖	野嶋弘孝	藤本貴也	吉越 洋	三澤遼策
	宮川孝仁	青景平章	今井京平	恵谷俊吾	大垣眞一郎	織田直正
	菅野卓治	佐伯 譲	佐々木豊	嶋田三朗	杉 晟	早田修一
	武井上巳	竹林征三	徳江俊秀	箱島千造	星野 満	前田 誠
	山口忠男	横田 協	横溝幸雄	三浦 重		
中部	伊佐治敏	高橋 誠	田辺忠顕	寺田敏春	北浦 勝	前橋隆介
	馬場亮介	長尾正志	渡辺 浩	中山勝正		
関西	市田清弘	井保武壽	山本邦夫	遊川健三	小田義明	金盛 弥
	白石成人	林 潤	森 康男	飯田邦夫	岡村宏一	片瀬貴文
	輪湖健雄	小林昭一	佐々木茂範	土岐憲三	早川知夫	
中国	尾島 勝	日月俊昭	横山良三	満下直紀	道上正規	内田道雄
四国	稲田善紀	森高伸二	椎野佐昌			
西部	藤芳素生	中井 修	熊谷恒一郎	土屋忠三	甲斐総治郎	武富一三
	梶 太郎	楠田哲也				

1996 年度土木学会役員名簿

会長	松尾 稔					
副会長	石井 清	石井晃一	木村 孟	豊田高司	廣田良輔	
次期会長	宮崎 明					
専務理事	河野 宏					
理事	青木正夫	荒川利輝	井上靖武	小野和日児	栢原英郎	河野伊一郎
	佐伯 浩	斎藤 隆	澤本正樹	清野茂次	坂本健次	高田至郎
	辻 勝成	樗木 武	永井重光	平峯 悠	古川公毅	松尾友矩
	三宅文男	村本嘉雄	室 達朗	吉越治雄	吉田禰智	
監事	増本治夫	名川叡助				
評議員						
北海道	九里忠正	高橋耕平	松岡健一	三浦弘志	水野雄三	三田地利之
東北	稲村 肇	清水浩志郎	千田壽一	神部壽行	田崎忠行	
関東	依田照彦	伊藤住吉	石川裕毅	石河信一	稲富隆昌	岩淵喜久三
	魚本健人	小笠原眞理	大島一哉	大町達夫	鹿島 茂	川上俊機
	齋藤 親	酒井和弘	田中正典	富阪国彦	橋間元徳	平井 憲
	毎田敏郎	宮田年耕	望月常好	山田孝治	米山三郎	
	宮川孝仁	青景平章	今井京平	恵谷俊吾	大垣眞一郎	織田直正
	菅野卓治	佐伯 譲	佐々木豊	嶋田三朗	杉 晟	早田修一

	武井上巳	竹林征三	徳江俊秀	箱島千造	星野 満	前田 誠
	山口忠男	横田 協	横溝幸雄	三浦 重		
中部	伊佐治敏	高橋 誠	田辺忠顕	寺田敏春	小尻利治	南部良孝
	宮口友延	長尾正志	渡辺 浩	中山勝正		
関西	市田清弘	井保武壽	小田義明	金盛 弥	白石成人	林 潤
	森 康男	輪湖健雄	足立記紀尚	児島孝之	佐々木伸	佐中育雄
	志道行雄	杉山 功	園田恵一郎	西村伊久夫	村田健史	安田善守
中国	尾島 勝	横山良三	会田忠義	山本 勲	吉谷 進	
四国	稲田善紀	椎野佐昌	宇都宮英彦	新井田有一		
西部	藤芳素生	中井 修	土屋忠三	甲斐総治郎	落合英俊	溝辺 哲
	梶 太郎					

1997 年度土木学会役員名簿

会長	宮崎 明					
副会長	栢原英郎	木村 孟	合田良實	土岐憲三	橋本鋼太郎	
次期会長	岡田 宏					
専務理事	三好逸二					
理事	池淵周一	石井弓夫	伊藤喜栄	稲村 肇	大石久和	小野 薫
	小野和日児	川井 優	工藤智明	河野伊一郎	河本毅一	椎野佐昌
	菅原 濟	田澤栄一	樗木 武	永井重光	濱田政則	平峯 悠
	平山修一	藤田睦博	溝畑靖雄	三宅文男	吉田禰智	
監事	高瀬 元	名川叡助				
評議員						
北海道	大橋 猛	九里忠正	佐藤浩一	高橋耕平	三浦弘志	
東北	池田 尚	岸野佑次	塩井幸武	神部壽行	田崎忠行	
関東	依田照彦	伊藤住吉	石川裕毅	石河信一	稲富隆昌	岩淵喜久三
	魚本健人	小笠原眞理	大島一哉	大町達夫	鹿島 茂	川上俊器
	齋藤 親	酒井和弘	田中正典	富阪国彦	橋間元徳	平井 憲
	毎田敏郎	宮田年耕	望月常好	山田孝治	米山三郎	鹿島遼一
	今泉正次	萩原豊吉	小野武彦	金澤 博	木村泰三	京ヶ島昭彦
	小山幸則	佐々木豊	砂田憲吾	高田邦彦	高橋春成	寺内 潔
	西林聖武	日向敬之	細井 武	丸山眞佐雄	安田 進	山口正記
	吉見憲一	和田紘二	渡部正道			
中部	小尻利治	南部良孝	宮口友延	伊佐治敏	石原勝康	鈴木奎吾
	中村俊六	中山勝正	馬場亮介	横塚尚志	吉澤孝和	
関西	足立記紀尚	児島孝之	佐々木伸	佐中育雄	志道行雄	杉山 功
	園田恵一郎	西村伊久夫	村田健史	安田善守	池尻勝志	小笹太郎
	神田 徹	阪田 晃	西川恭爾	満岡英世	三田村武	頼 千元
中国	会田忠義	山本 勲	吉谷 進	辰巳正明	福岡捷二	
四国	宇都宮英彦	新井田有一	山口政隆			
西部	藤芳素生	落合英俊	甲斐総治郎	溝辺 哲	佐藤 清	中島威夫
	中村良明					

1998 年度土木学会役員名簿

会長	岡田 宏					
副会長	栢原英郎	合田良實	佐藤信彦	土岐憲三	道上正規	
次期会長	岡村 甫					
専務理事	三好逸二					
理事	池淵周一	石井弓夫	伊藤喜栄	稲村 肇	入江洋樹	上原 忠
	大石久和	加賀田晋成	川合 勝	川井 優	川村満紀	河本毅一
	佐々木茂範	椎野佐昌	高橋喜一	田澤栄一	濱田政則	林 潤
	平山修一	藤田睦博	松下博通	溝畑靖雄	森地 茂	
監事	清水正貴	高瀬 元				
評議員						
北海道	金澤義輝	斉藤和夫	佐藤浩一	菅原久広	高橋耕平	
東北	池田 尚	岸野佑次	塩井幸武	神部壽行	北川 明	藤本俊郎
関東	今泉正次	萩原豊吉	小野武彦	金澤 博	木村泰三	京ヶ島昭彦
	小山幸則	砂田憲吾	高田邦彦	高橋春成	寺内 潔	西林聖武
	日向敬之	細井 武	丸山眞佐雄	安田 進	山口正記	吉見憲一
	和田紘二	渡部正道	足立元良	浅川和佑	岡田鉄三	岡村秀樹
	角湯正剛	木村昌司	日下部治	高辻 哲	高橋郁夫	竹内雅之
	為沢長雄	辻 幸和	鶴谷宏一	土井研介	林 康雄	布施谷寛
	藤野陽三	藤本貴也	本床正史	増田陳紀	茗ヶ原義彦	望月常好
	山田 正					
中部	石原勝康	鈴木奎吾	中村俊六	馬場亮介	横塚尚志	吉澤孝和
	太田秀樹	部田哲雄	藤井千代喜	別府康行		
関西	足立紀尚	縣 保佑	塩見靖国	手塚昌信	中島裕之	南部隆秋
	古沢 裕	松井 保	三上市蔵	山本信行	渡邊栄一	横山康夫
	小笹太郎	神田 徹	阪田 晃	西川恭爾	満岡英世	三田村武
	頼 千元					
中国	辰巳正明	福岡捷二	小林英昭	名合宏之	日野裕善	
四国	山口政隆	塩田雄三	井添健介	平尾 潔		
西部	甲斐総治郎	溝辺 哲	佐藤 清	中村良明	深見一男	秋吉 卓
	江崎哲郎	山本雅史				

1999 年度土木学会役員名簿

会長	岡村 甫					
副会長	川合 勝	佐藤信彦	三浦 尚	道上正規	山本卓朗	
次期会長	鈴木道雄					
専務理事	三好逸二					
理事	池田駿介	入江洋樹	上原 忠	内田敏久	梅原利之	瓜生喜久雄
	大塚浩司	嘉門雅史	川嶋康宏	川村満紀	岸 清	齋藤尚久
	佐伯 昇	佐々木茂範	鈴木道雄	高橋喜一	西村宣男	林 潤
	福岡捷二	松下博通	三浦哲彦	森地 茂	渡邊和夫	
監事	梶山 修	清水正貴				

評議員

北海道	金澤義輝	斉藤和夫	高橋耕平	菅原久広		
東北	神部壽行	北川 明	藤本俊郎			
関東	足立元良	浅川和佑	岡田鉄三	岡村秀樹	角湯正剛	木村昌司
	日下部治	高辻 哲	高橋郁夫	竹内雅之	為沢長雄	辻 幸和
	鶴谷宏一	土井研介	林 康雄	布施谷寛	藤野陽三	藤本貴也
	本床正史	増田陳紀	茗ヶ原義彦	望月常好	山田 正	
中部	太田秀樹	部田哲雄	藤井千代喜	別府康行		
関西	足立紀尚	縣 保佑	塩見靖国	手塚昌信	中島裕之	南部隆秋
	古澤 裕	松井 保	三上市蔵	山本信行	渡邊栄一	横山康夫
中国	小林英昭	名合宏之	日野裕善			
四国	井添健介	平尾 潔				
西部	溝辺 哲	秋吉 卓	江崎哲郎	山本雅史		

2000 年度土木学会役員名簿

会長	鈴木道雄					
副会長	岸 清	彦坂 熙	三浦 尚	森地 茂	山本卓朗	
次期会長	丹保憲仁					
専務理事	三好逸二					
理事	池田駿介	内田敏久	梅原利之	瓜生喜久雄	大塚浩司	小澤良夫
	嘉門雅史	河上省吾	川嶋康宏	齋藤尚久	佐藤信秋	高橋喜一
	丹保憲仁	辻 靖三	富岡征一郎	中川浩二	南部邦彦	西村宣男
	西村仁嗣	福岡捷二	藤川寛之	三浦哲彦	渡邊和夫	
監事	梶山 修	部田哲雄				
評議員						

北海道 一條昌幸 加賀屋誠一 金澤義輝 斉藤和夫 高橋耕平 戸谷有一

2001 年度土木学会役員名簿

会長	丹保憲仁					
副会長	青山俊樹	角田與史雄	川嶋康宏	富岡征一郎	彦坂 熙	
次期会長	岸 清					
専務理事	古木守靖					
理事	井上啓一	大林芳久	小澤良夫	尾島 勝	河上省吾	川谷 健
	岸 清	岸野佑次	小森 博	坂本忠彦	佐藤信秋	蛇川雄司
	田村 武	鶴巻栄光	中川浩二	中村興一	南部邦彦	西田繁一
	西村仁嗣	藤川寛之	三木千壽	村上正士	山口一弘	

2002 年度土木学会役員名簿

会長	岸 清				
副会長	角田與史雄	川嶋康宏	田崎忠行	濱田政則	村上仁士
次期会長	御巫清泰				
専務理事	古木守靖				

理事	磯島茂男	井上啓一	魚本健人	大林芳久	奥谷 巖	尾島 勝
	川谷 健	岸野佑次	小松利光	小森 博	坂本忠彦	蛇川雄司
	朴 慶智	田村 武	鶴巻榮光	都丸徳治	中山隆弘	古市尚義
	御巫清泰	三木千壽	百瀬 治	森光康夫	山口一弘	
監事	今木甚一郎	坂本成彦				

2003 年度土木学会役員名簿

会長	御巫清泰					
副会長	伊佐治敏	草柳俊二	田崎忠行	濱田政則	増田光男	
次期会長	森地 茂					
専務理事	古木守靖					
理事	飯田恭敬	磯島茂男	井上啓一	魚本健人	小笠原常資	奥谷 巖
	金子恒夫	川島 毅	川谷充郎	熊谷恒一郎	小松利光	御坊田裕己
	佐藤馨一	朴 慶智	都丸徳治	中山隆弘	名合宏之	橋口誠之
	藤原昭男	堀 正幸	森杉壽芳	森地 茂	森光康夫	
監事	坂本成彦	廣谷彰彦				

2004 年度土木学会役員一覧

会長	森地 茂					
副会長	四俣正俊	田崎忠行	橋口誠之	増田光男	渡邊英一	
次期会長	三谷 浩					
専務理事	古木守靖					
理事	飯田恭敬	伊佐治敏	大島一哉	小笠原常資	金子恒夫	川島 毅
	川谷充郎	日下部治	草柳俊二	熊谷恒一郎	後藤英夫	御坊田裕己
	佐藤馨一	杉恵頼寧	善 功企	龍岡文夫	中洞好博	名合宏之
	古土井光昭	堀 正幸	三谷 浩	森杉壽芳	山田 正	
監事	関口龍一	廣谷彰彦				

14. 土木学会総会講演一覧

講演年月	講演題目	講演者
1994年5月 (平成6)	「事故充填性をもつコンクリートの開発-大学における基礎研究の意義-」	岡村甫（土木学会副会長，東京大学教授）
1995年5月 (平成7)	「公共事業の品質について」	藤井治芳（土木学会副会長，建設省技監）
1996年5月 (平成8)	「コンクリートの高性能化を目指して」	長瀧重義（土木学会副会長，東京工業大学教授）
1997年5月 (平成9)	「新幹線のインフラコストと建設技術の進展」	廣田良輔（土木学会副会長，日本鉄道建設公団副総裁）
1998年5月 (平成10)	「日本社会は変わるか。変わらねばならない。」	木村孟（土木学会副会長，学位授与機構長）
1999年5月 (平成11)	「歴史的文化財を地震火災から守るため」	土岐憲三（土木学会副会長，京都大学教授）
2000年5月 (平成12)	「ふる里の川の文化」	道上正■（土木学会副会長，鳥取大学副学長） ※■は，矢へんに見
2001年5月 (平成13)	「極低温の世界におけるコンクリート構造物」	三浦尚（土木学会副会長，東北大学大学院教授）
2002年5月 (平成14)	「曲がり角に立つ大学土木教育」	彦坂熙（土木学会副会長，九州大学大学院教授）
2003年5月 (平成15)	「コンクリート系構造物の設計法の発展と今後への期待」	角田與史雄（土木学会副会長，北海道大学大学院教授）
2004年5月 (平成16)	「巨大地震災害への対応」	濱田政則（土木学会副会長，早稲田大学理工学部教授）

15. 土木学会出版物一覧

15. 1 本部出版物

書名	発行年
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol.11-1～4	1994.04
ヘドニック・アプローチによる便益計測手法	1994.04
土木施工なんでも相談室－仮設工編－	1994.04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.12-1	1994.05
鋼斜張橋（スライド）	1994.05
プレストレストコンクリート構造の現況と設計方法の動向（C技5）	1994.05
海洋開発論文集 Vol.10	1994.05
建設とマネジメント X II	1994.05
Coastal Engineering in Japan Vol.37-1	1994.06
Concrete Library International No.23	1994.06
セグメントの設計（TL6）	1994.06
第2回地球環境シンポジウム講演集	1994.06
建設マネジメント研究論文集 Vol.2	1994.06
地下空間利用シンポジウム	1994.06
地球環境研究の現状 第2号	1994.06
土木史研究 No.14	1994.06
コンクリート技術の現状と示方書改訂の動向（CL79）	1994.07
第19回土木情報システムシンポジウム講演集	1994.07
第30回水工学に関する夏期研修会講義集	1994.07
火山工学シンポジウム発表論文集－火山工学の確立を目指して－	1994.07
鋼構造物の終局強度と設計（鋼構S6）	1994.07
土木情報システム論文集 Vol.3	1994.07
1994年版 全国土木系教官・教員名簿	1994.08
コンクリートの規準の動向（C技7）	1994.08
コンクリート標準示方書改訂小委員会 舗装部会報告（C技6）	1994.08
山岳トンネルの立坑と斜坑（TL7）	1994.08
第49回年次学術講演会講演概要集	1994.08
環境システム研究 Vol.22	1994.08
第6回新しい材料・工法・機械講習会講演概要	1994.09
宮本武之輔生誕百年記念シンポジウム記録	1994.09
海岸工学論文集 第41巻	1994.10
海岸工学論文集 第41巻	1994.10
マスコンクリート技術の現状と動向（C技8）	1994.10
大規模地下空洞・トンネルの設計から情報化施工まで－現状と課題	1994.10
土木施工技術便覧*	1994.10
日本の海岸とみなと 第2集	1994.10
日本の海岸とみなと 第2集（スライド）	1994.10

風洞実験相似則検討小委員会活動成果報告書	1994. 10
Civil Engineering for Urban Development and Renewal-Issues and Prospects of Technologies in Civil Engineering	1994. 11
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.12-2	1994. 11
TERRA*	1994. 11
第 13 回風工学シンポジウム論文集	1994. 11
第 14 回「施工体験発表会」講演概要	1994. 11
たずねてみよう今・昔 ドラえものの土木とくらし	1994. 11
土木学会の 80 年	1994. 11
トンネル工学研究発表会論文・報告集 第 4 巻	1994. 11
環境工学研究論文集 Vol. 31	1994. 11
都市開発と土木工学ー都市土木技術の課題と展望	1994. 11
土木ミュージアム構想ー社会資本博物館構想委託業務	1994. 11
1993 年釧路沖地震震害調査報告	1994. 12
Coastal Engineering in Japan Vol.37-2	1994. 12
Concrete Library International No.24	1994. 12
第 12 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1994. 12
第 8 回建設コンサルタントシンポジウム資料集	1994. 12
橋 Bridges in Japan 1993-1994	1994. 12
岩盤斜面の安定解析と計測	1994. 12
建設マネジメント原論	1994. 12
水辺づくりにおける地域参加を考える	1994. 12
地域共生型発電所の構想報告書	1994. 12
コンクリート構造物の耐震設計法の動向 (C 技 9)	1995. 01
第 26 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	1995. 01
土木計画学研究・講演集 17	1995. 01
東京湾横断道路の施工技術 (その 2) 佳境に入ったビッグプロジェクト	1995. 01
Preliminary Report on the Great Hanshin Earthquake, January 17, 1995	1995. 02
第 13 回建設用ロボットに関する技術講習会テキスト 近未来の建設を支えるハイテク技術について	1995. 02
最新の施工技術 9	1995. 02
阪神大震災震害調査緊急報告会資料	1995. 02
水工学論文集 Vol. 39	1995. 02
水路トンネルの維持管理支援エキスパートシステム	1995. 02
舗装工学	1995. 02
臨海コンクリート設備の塩害に関する維持管理手引	1995. 02
1995 年欧州洪水調査第一次調査団報告書	1995. 03
21 世紀土木技術者像の研究 調査資料集 (中間報告)	1995. 03
CAI (Computer Aided Instruction) 技術の建設業への適用に関する研究報告書	1995. 03

インフラ整備論 中間報告	1995. 03
碓氷峠旧線鉄道構造物調査中間報告書	1995. 03
下水道の雨水対策の方向性に関する調査	1995. 03
我が国の建設技術の進展への寄与をめざして ー平成 4～6 年度 建設コンサルタント委員会活動報告ー	1995. 03
関東地域における地下水汚染とその対策調査	1995. 03
建設とマネジメント XⅢ	1995. 03
建設現場における技術情報の有効活用に関する研究	1995. 03
建設省ほか編『長良川河口堰に関する技術報告（補遺）』に対する技術評価書	1995. 03
現場土木技術者の教育・人材開発のあり方ー実態調査と考察	1995. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	1995. 03
構造工学論文集 Vol. 41A	1995. 03
港湾歴史文献データベース構築調査報告書	1995. 03
阪神・淡路大震災復興に向けての緊急提言	1995. 03
都市水環境の保全・再生と下水道の役割に関する調査	1995. 03
都市水環境の保全・再生と下水道の役割に関する調査	1995. 03
土木学会阪神大震災震災調査第二次報告会資料	1995. 03
舗装工学	1995. 03
歴史的・文化的土木施設の保存・活用に関する調査・研究業務報告書	1995. 03
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 12-1～4	1995. 04
都市の熱環境に関する学際シンポジウム	1995. 04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 13-1	1995. 05
河川激甚災害対策特別緊急調査委託（6209 号）報告書	1995. 05
海洋開発論文集 Vol. 11	1995. 05
現場マネジメントにおけるマルチメディアの適用に関する研究	1995. 05
鋼構造物の安全性の調査報告ー阪神大震災における鋼構造物の被害報告と今後の耐震設計について	1995. 05
土木学会環境工学委員会 機能性材料の水質変換・制御への応用に関する研究小委員会報告書	1995. 05
非集計行動モデルの理論と実際	1995. 05
非集計行動モデルの理論と実際	1995. 05
「アジェンダ 21／土木学会」の実現に向けてー土木建設業と環境管理システム	1995. 06
Coastal Engineering in Japan Vol. 38-1	1995. 06
Concrete Library International No. 25	1995. 06
第 2 回河道の水理と河川環境シンポジウム論文集	1995. 06
第 3 回地球環境シンポジウム講演集	1995. 06
建設マネジメント研究論文集 Vol. 3	1995. 06
土木計画学ワンデイセミナー 海浜の景観デザインの課題	1995. 06
土木建設業における環境負荷評価（LCA）検討部会平成 6 年度調査研究報告書	1995. 06

土木史研究 No. 15	1995. 06
1995 年 阪神・淡路大震災スライド集	1995. 07
第 20 回土木情報システムシンポジウム講演集	1995. 07
第 31 回水工学に関する夏期研修会講義集	1995. 07
高校土木教育の現状と展望	1995. 07
長良川河口堰にかかわる治水計画の技術評価（1992 年 7 月）、建設省ほか編長良川河口堰に関する技術報告（補遺）に対する技術評価書（1995 年 3 月）	1995. 07
土木学会土木情報システム講習会	1995. 07
土木情報システム論文集 Vol. 4	1995. 07
日本土木史 昭和 41 年～平成 2 年	1995. 07
1995 年版 全国土木系教官・教員名簿	1995. 08
第 3 回振動制御コロキウム 構造物の振動制御（3）	1995. 08
第 50 回年次学術講演会講演概要集	1995. 08
環境システム研究 Vol. 23	1995. 08
建設副産物問題の解決に向けてー建設副産物調査委員会報告	1995. 08
最新の施工技術に関する講習会	1995. 08
人は何を築いてきたかー日本土木史探訪*	1995. 08
土木計画学研究・論文集 12	1995. 08
「海岸海洋構造物基礎地盤の波浪安定性」に関する講習会テキスト	1995. 09
1995 年ヨーロッパ水害調査報告ー概要版ー	1995. 09
都市 NATM とシールド工法との境界領域ー設計法の現状と課題ー（TL8）	1995. 09
火山とつきあう	1995. 09
地下鉄 7 号線市谷駅遺跡展示コーナーの設計に関する受委託業務報告書	1995. 09
土木計画学ワンデイセミナー 大規模都市開発と交通インパクトの評価	1995. 09
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 1	1995. 10
LANDFILL 島構想ー廃棄物等の大規模埋立による新しい空間創造をめざしてー	1995. 10
海岸工学論文集 第 42 巻	1995. 10
コンクリート構造物の維持管理指針（案）（CL81）	1995. 10
シリカフェームを用いたコンクリートの設計・施工指針（案）（CL80）	1995. 10
土木計画学ワンデイセミナー 交通情報システムをとりまく諸問題	1995. 10
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 13-2	1995. 11
コンクリート構造のエスセティックス（CL83）	1995. 11
コンクリート構造物の耐久設計指針（案）（CL82）	1995. 11
第 23 回地震工学研究発表会講演概要	1995. 11
第 3 回合成構造の活用に関するシンポジウム講演論文集	1995. 11
ダムの耐震性に関する評価検討委員会報告書	1995. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 5 巻	1995. 11
平成 7 年 土木学会名簿	1995. 11
環境工学研究論文集 Vol. 32	1995. 11

橋梁交通振動コロキウム論文集	1995. 11
「新しい耐震設計の考え方と文化遺産、景観」シンポジウム資料	1995. 12
Coastal Engineering in Japan Vol.38-2	1995. 12
Concrete Library International No.26	1995. 12
第13回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1995. 12
第3回海外交流・視察団報告書－米国土木学会（ASCE）への参加と米国における建設マネジメントの現状と視察	1995. 12
第4回システム最適化に関するシンポジウム講演論文集	1995. 12
社会基盤の整備システム：日本の経験*	1995. 12
地下空間のデザイン（地下空間と人間4）	1995. 12
地下空間の環境アセスメントと環境設計（地下空間と人間3）	1995. 12
地下空間の計画（地下空間と人間1）	1995. 12
地下空間の新しい建設技術（地下空間と人間2）	1995. 12
土木計画学研究・講演集 18	1995. 12
第27回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	1996. 01
橋 Bridges in Japan 1994-1995	1996. 01
阪神・淡路大震災に関する学術講演会論文集	1996. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第1巻	1996. 01
IS09000s とコンクリート工事に関する報告書（CL84）	1996. 02
第9回建設コンサルタントシンポジウム資料	1996. 02
水工学論文集 Vol. 40	1996. 02
平成8年制定コンクリート標準示方書改訂資料（CL85）	1996. 02
21世紀に向かう土木教育	1996. 03
21世紀に向かう土木教育－明日への課題	1996. 03
インフラ整備におけるマネジメント論	1996. 03
第9回環境システムシンポジウム ライフサイクルアセスメント（LCA）の動向と土木分野への適用	1996. 03
平成8年制定 コンクリート標準示方書 ダム編	1996. 03
碓氷峠旧線鉄道構造物調査報告書	1996. 03
下水道の雨水対策の方向性に関する調査	1996. 03
関東地域における地下水汚染とその対策調査	1996. 03
建設とマネジメント XIV	1996. 03
原子力発電所の立地多様化技術	1996. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	1996. 03
構造工学論文集 Vol. 42A	1996. 03
高流動コンクリートシンポジウム論文報告集（C技10）	1996. 03
国際流通型大規模水力開発に関する調査・検討報告書	1996. 03
神奈川台場土木遺構調査報告書	1996. 03
水力国際協力に関する調査・検討報告書 概要編	1996. 03

地下深部開発に関する調査・試験法の現状と技術的課題 ―小委員会資料―	1996. 03
地下揚水発電技術に関する海外調査報告書	1996. 03
地球ウィンドウズ 土木建設技術者のための地球環境入門*	1996. 03
都市水環境の保全・再生と下水道の役割に関する調査	1996. 03
土壌・地下水汚染の現状と対策	1996. 03
土木技術映像作品リスト	1996. 03
土木技術者の将来像 ―新ヴィジョンを求めて―	1996. 03
分散型小水力開発に関する調査・検討報告書	1996. 03
平成 8 年制定 コンクリート標準示方書 規準編	1996. 03
平成 8 年制定 コンクリート標準示方書 施工編	1996. 03
平成 8 年制定 コンクリート標準示方書 設計編	1996. 03
平成 8 年制定 コンクリート標準示方書 舗装編	1996. 03
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol.13-1, 2	1996. 04
プロジェクト・マネジメント・システム 市販ソフトウェア調査報告書 ―パソコン版 PMS ソフト―	1996. 04
最新の施工技術 10	1996. 04
土木建設業における環境負荷評価 (LCA) 検討部会平成 7 年度調査研究報告書	1996. 04
土木施工なんでも相談室―土工・掘削編―	1996. 04
『土木学会耐震基準等に関する提言集』	1996. 05
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.14-1	1996. 05
これからの防災計画と地域づくり	1996. 05
コンクリート標準示方書をめぐる環境・施工技術の最近の動向・設計施工照査システム (C 技 11)	1996. 05
第 14 回建設用ロボットに関する技術講習会テキスト ビッグプロジェクトと自動化・ロボット化	1996. 05
海洋開発論文集 Vol.12	1996. 05
鋼構造新技術小委員会最終報告書	1996. 05
阪神・淡路大震災における社会基盤施設の復旧・復興に関する調査報告書	1996. 05
土木分野における知的所有権	1996. 05
Coastal Engineering in Japan Vol.39-1	1996. 06
Concrete Library International No.27	1996. 06
The 1995 HYOGOKEN-NANBU Earthquake : Investigation into Damage to Civil Engineering Structures	1996. 06
第 3 回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム講演論文集	1996. 06
第 4 回地球環境シンポジウム講演集	1996. 06
建設マネジメント研究論文集 Vol. 4	1996. 06
高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの施工指針 (CL86)	1996. 06
土木で求められる情報活用	1996. 06
土木史研究 No. 16	1996. 06
風洞実験相似則検討小委員会活動成果報告書 (第 2 期)	1996. 06

第 21 回土木情報システムシンポジウム講演集	1996. 07
第 32 回水工学に関する夏期研修会講義集	1996. 07
第 9 回建設コンサルタントシンポジウム 地球環境と建設コンサルタント	1996. 07
トンネル標準示方書（シールド工法編）・同解説	1996. 07
トンネル標準示方書（開削工法編）・同解説	1996. 07
トンネル標準示方書（山岳工法編）・同解説	1996. 07
なぎさ、生き物の視点から語る ～海の日を記念して～	1996. 07
橋は揺れているかー予測と現実	1996. 07
橋梁のガスト応答に関する調査	1996. 07
阪神淡路大震災被害分析と靱性率評価式（C 技 12）	1996. 07
地球環境研究の現状 第 3 号	1996. 07
地球環境問題に取り組む最近の土木建設業	1996. 07
鉄道連合シンポジウム（J-RAIL '96）講演論文集	1996. 07
土木情報システム論文集 Vol. 5	1996. 07
平成 8 年制定 コンクリート標準示方書 耐震設計編	1996. 07
平成 8 年制定コンクリート標準示方書（耐震設計編）改訂資料（CL87）	1996. 07
「アジェンダ 21／土木学会」の実現に向けてー土木建設業と環境管理システム	1996. 08
1996 年版 全国土木系教官・教員名簿	1996. 08
第 51 回年次学術講演会講演概要集	1996. 08
環境システム研究 Vol. 24	1996. 08
阪神・淡路大震災ーコンクリート構造物を考える	1996. 08
土木学会コンクリート委員会 コンクリート教育研究小委員会報告書（C 技 13）	1996. 08
土木計画学研究・論文集 13	1996. 08
連続繊維補強材を用いたコンクリート構造物の設計・施工指針（案）（CL88）	1996. 08
第 1 回鉄道力学シンポジウム講演論文集	1996. 09
第 1 回鉄道力学シンポジウム講演論文集 車両と構造物の相互作用	1996. 09
新しい構造システム最適化手法ー人工生命技術の応用ー	1996. 09
地質とダム基礎岩盤に関する調査ーダム小委員会研究資料ー	1996. 09
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 2	1996. 10
海岸工学論文集 第 43 巻	1996. 10
鋼橋における劣化現象と損傷の評価（鋼構 S7）	1996. 10
地下揚水発電（UPHS）と土木技術～その現状と技術課題	1996. 10
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 14-2	1996. 11
Trans-Tokyo Bay Highway Project	1996. 11
かんがえてみよう ドラえものの土木としぜん	1996. 11
第 14 回風工学シンポジウム論文集	1996. 11
第 1 回免震・制震コロキウム講演論文集	1996. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 6 巻	1996. 11

環境工学研究論文集 Vol. 33	1996. 11
最新のマスコンクリート技術 (C 技 14)	1996. 11
社会資本整備の総合的評価検討業務報告書	1996. 11
土木計画学ワンデイセミナー 観光交通計画～観光地域の交通問題への対応～	1996. 11
土木計画学研究・講演集 19	1996. 11
東京湾横断道路の施工技術その 3 国内最大規模のシールドトンネル	1996. 11
21 世紀を展望した建設工事における自動化・ロボット化 一人と機械の協調をめざしてー	1996. 12
Coastal Engineering in Japan Vol. 39-2	1996. 12
Concrete Library International No. 28	1996. 12
第 10 回建設コンサルタントシンポジウム エンジニアリング・サービスの創造価値 ー著作権をめぐってー	1996. 12
第 14 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1996. 12
橋 Bridges in Japan 1995-1996	1996. 12
沿岸域のあり方 ー21 世紀に向けた海岸工学の課題	1996. 12
構造工学における計算力学の基礎と応用 (構造 S7)	1996. 12
高流動コンクリートに関する技術の現状と課題 (C 技 15)	1996. 12
吊橋ー技術とその変遷ー (鋼構 S8)	1996. 12
舗装工学論文集 第 1 巻	1996. 12
「土壌・地下水汚染の現状と対策」講習会 講義要旨	1997. 01
第 28 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	1997. 01
第 2 回阪神・淡路大震災に関する学術講演会論文集	1997. 01
第 6 回地域シンポジウム 21 世紀 新首都建設への展望 (人工都市の環境問題) ～筑波研究学園都市 25 年を振り返って	1997. 01
大規模地下空洞の情報化施工	1997. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 2 巻	1997. 01
1993 年北海道南西沖地震震害調査報告 (震害 S3)	1997. 02
1994 年ノースリッジ地震震害調査報告 (震害 S4)	1997. 02
コンクリート構造のせん断設計への新しいアプローチ	1997. 02
コンクリート構造物の品質保証 (C 技 16)	1997. 02
第 15 回「施工体験発表会」講演概要	1997. 02
フォーラム「大震災の教訓を活かすために」 ー阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会研究報告会ー	1997. 02
圧縮空気貯蔵発電システムと土木技術	1997. 02
将来の示方書改訂のための検討課題 (C 技 17)	1997. 02
水工学論文集 Vol. 41	1997. 02
土木材料実験指導書 平成 9 年版	1997. 02
「土木分野の知的財産権」に関する研究報告書	1997. 03
Dynamic Analysis and Earthquake Resistant Design Vol. 1 Strong Motion and Dynamic Properties	1997. 03
インフラ機能分科会 平成 8 年度活動報告書	1997. 03

第 10 回環境システムシンポジウム	1997. 03
安全問題討論会' 97 研究論文集	1997. 03
関東地域における地下水汚染とその対策調査	1997. 03
建設とマネジメント XV	1997. 03
建設現場の生産性向上に寄与する情報化に関する研究	1997. 03
現場マネジメントにおける情報ネットワークの活用に関する研究	1997. 03
現場マネジメントのためのプレゼンテーション技術の活用に関する研究	1997. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	1997. 03
構造工学論文集 Vol. 43A	1997. 03
自然と国土環境・防災の科学公園計画に関する委員会報告書	1997. 03
大学土木教育のフロンティアー教育改革、情報化、国際化ー	1997. 03
大規模岩盤崩壊に関する技術検討委員会報告書	1997. 03
都市水環境の保全・再生と下水道の役割に関する調査	1997. 03
土木学会 ISO 調査検討委員会報告書	1997. 03
土木学会コンクリート委員会示方書小委員会安全性部会報告書	1997. 03
土木学会環境工学委員会流域水質管理システム開発小委員会報告書	1997. 03
土木技術映像作品リスト	1997. 03
土木建設業における環境負荷評価 (LCA) 研究小委員会平成 8 年度調査研究報告書	1997. 03
土木建設業における環境負荷評価 (LCA) 研究小委員会平成 8 年度調査研究報告書	1997. 03
Design Codes for Steel Structures	1997. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol.14-1, 2	1997. 04
第 7 回新しい材料・工法・機械講習会講演概要	1997. 04
わかり易い土木講座 コンクリート工学 (I) 施工 改訂第四版*	1997. 04
阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会報告書ー大震災の教訓を活かすために～実務技術者からの提案～	1997. 04
情報化時代における建設コンサルタントの意識調査報告書	1997. 04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.15-1	1997. 05
コンクリートの寸法効果と引張軟化曲線 (C 技 18)	1997. 05
第 15 回建設用ロボットに関する技術講習会テキスト 社会資本整備における安全性・信頼性の考え方	1997. 05
ヨーロッパのインフラストラクチャーー古代ローマの都市計画からユーロトンネルまで 1,312 件の全ガイドー	1997. 05
欧州トンネル安全施設調査報告書	1997. 05
海洋開発論文集 Vol. 13	1997. 05
建設 CALS 概念分科会研究報告書	1997. 05
鋼構造物設計指針 一般構造物 平成 9 年版 (鋼構 S9A)	1997. 05
鋼製橋脚の非線形数値解析と耐震設計に関する論文集	1997. 05
自己充填コンクリートセミナー論文報告集 (C 技 19)	1997. 05
Concrete Library International No. 29	1997. 06

第3回河道の水理と河川環境シンポジウム論文集	1997.06
第5回地球環境シンポジウム講演集	1997.06
橋脚等の耐震補強の現状と課題～合成構造化による耐震補強	1997.06
建設マネジメント研究論文集 Vol.5	1997.06
土木学会土木CAD小委員会研究報告書	1997.06
土木計画とパブリックインボルブメント	1997.06
土木史研究 No.17	1997.06
舗装工学研究小委員会報告書	1997.06
「耐震補強・補修技術, 耐震診断技術に関するシンポジウム」講演論文集	1997.07
コンクリート構造物の耐震技術ー現状と将来展望ー (C技20)	1997.07
第22回土木情報システムシンポジウム講演集	1997.07
第24回地震工学研究発表会講演論文集	1997.07
第33回水工学に関する夏期研修会講義集	1997.07
構成モデル小委員会 (301) 成果報告書 (C技21)	1997.07
地球環境問題に取り組む最近の土木建設業	1997.07
土木計画学ワンデイセミナー 総合ターミナルとしての駅の整備計画 (1) (2)	1997.07
土木計画学ワンデイセミナー 地域公共交通に明日はあるのか?ー市場・計画・技術の新しいフレームを求めてー	1997.07
土木情報システム論文集 Vol.6	1997.07
『建設業と資格』ースペシャリストを目指す教育内容を考えるー	1997.08
1997年版 全国土木系教官・教員名簿	1997.08
RC・PC構造物の設計に関する現状と今後の展望ーRC・PC部会報告ー (C技22)	1997.08
第52回年次学術講演会講演概要集	1997.08
環境システム研究 Vol.25	1997.08
最新の施工技術 11	1997.08
土木建設業における環境負荷評価 (LCA) 研究小委員会講演要旨集	1997.08
「アジェンダ21/土木学会」の実現に向けてー土木建設業と環境管理システム	1997.09
第2回鉄道力学シンポジウム講演論文集	1997.09
橋 Bridges in Japan 1996-1997	1997.09
鋼構造物設計指針 合成構造物 平成9年版 (鋼構S9B)	1997.09
土木計画学研究・論文集 14	1997.09
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol.3	1997.10
RECOMMENDATION FOR DESIGN AND CONSTRUCTION OF CONCRETE STRUCTURES USING CONTINUOUS FIBER REINFORCING MATERIALS (C技23)	1997.10
海岸工学論文集 第44巻	1997.10
レベル2地震動と設計地震荷重の課題ー地震荷重研究小委員会の活動報告	1997.10
橋梁振動コロキウム'97 論文集	1997.10
鉄筋の自動エンクローズ溶接継手設計施工指針 (案) (CL89)	1997.10
複合構造物設計・施工指針 (案) (CL90)	1997.10

Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.15-2	1997. 11
コンクリートのクリープおよび乾燥収縮 (C 技 24)	1997. 11
コンクリート教育研究小委員会報告集・論文集 (C 技 25)	1997. 11
ジョイントシンポジウム 温暖化防止に向けた技術の可能性～土木界からのアプローチ	1997. 11
第 20 回土木計画学研究発表会市民参加シンポジウム 都市の活性化を支援する都市交通政策	1997. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 7 巻	1997. 11
平成 9 年 土木学会名簿	1997. 11
環境工学研究論文集 Vol. 34	1997. 11
土木計画学研究・講演集 20	1997. 11
「第 15 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」パネルディスカッション	1997. 12
CIVIL ENGINEERING, JSCE Vol. 36	1997. 12
Concrete Library International No. 30	1997. 12
第 15 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1997. 12
第 1 回土木デザインワークショップー土木デザインの行方～著名な作品の批評を通じて	1997. 12
第 2 回鉄道力学シンポジウム講演論文集	1997. 12
第 5 回システム最適化に関するシンポジウム講演論文集	1997. 12
フライアッシュコンクリートシンポジウム論文報告集 (C 技 27)	1997. 12
鉄筋腐食・防食および補修に関する研究の現状と今後の動向 (C 技 26)	1997. 12
土木計画学ワンデイセミナー 福祉のまちづくりの哲学と設計思想	1997. 12
舗装工学論文集 第 2 巻	1997. 12
歴史的鋼橋集覧 (上) (下)	1997. 12
「環境財としての河川ー内湾系のあり方を考える」～三河湾修復の視点	1998. 01
第 1 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	1998. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 3 巻	1998. 01
土木学会定例談話会講演録「公共投資のあり方を考える」	1998. 01
風工学における数値計算の応用と評価研究小委員会 第 3 期 報告書	1998. 01
21 世紀社会に土木技術者はいかに生きるべきかー土木技術者ヴィジョン調査研究報告書	1998. 02
フェロニッケルスラグ細骨材を用いたコンクリートの施工指針 (CL91)	1998. 02
水工学論文集 Vol. 42	1998. 02
地下鉄 12 号線放射部の施工技術	1998. 02
銅スラグ細骨材を用いたコンクリートの施工指針 (CL92)	1998. 02
ISO 対応特別委員会報告書 平成 9 年度	1998. 03
岩盤上の大型構造物基礎	1998. 03
交通ネットワークの均衡分析ー最新の理論と解法ー	1998. 03
第 11 回環境システムシンポジウム 資源・エネルギー循環に関わるシステム技術のまちづくり展開	1998. 03
トンネル耐震設計の方向と基本課題ー「トンネル耐震性研究小委員会報告」	1998. 03

環境共生・循環とエネルギー土木報告書	1998. 03
建設コンサルタント委員会 第5期（平成7年度～平成9年度）活動報告書～環境の変化に対応している建設コンサルタントを目指して	1998. 03
建設とマネジメント XVI	1998. 03
建設プロジェクトにおける新しい建設生産システムの調査研究	1998. 03
建設業と環境マネジメントシステム－ISO14001の導入に向けて*	1998. 03
建設業国際貢献推進事業報告書～「土木施工マニュアル Vol. 1, 2」による技術交流	1998. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	1998. 03
構造工学論文集 Vol. 44A	1998. 03
生態系・緑化保全対策技術－建設産業における応用生態工学と保全対策技術	1998. 03
大規模地下空洞掘削挙動解析手法に関する研究 平成9年度	1998. 03
土木学会環境工学委員会 用水・廃水の高度処理技術に関する研究小委員会研究報告書	1998. 03
土木学会環境工学委員会流域水マネジメント研究小委員会報告書	1998. 03
土木学会土木情報システム委員会衛星データの実利用特別小委員会研究報告書	1998. 03
土木建設システムにおける環境パフォーマンス評価研究小委員会 平成9年度調査研究報告書	1998. 03
土木自然学懇談会講演集	1998. 03
発展途上国における人間活動，環境・社会・経済変化に関する情報収集作業2	1998. 03
姫川支川蒲原沢土石流災害と危機管理に関する調査研究	1998. 03
分野別・地域別のインフラ機能に関する研究	1998. 03
流域管理における下水道のあり方に関する調査	1998. 03
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol. 40-1～4*	1998. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 15-1, 2	1998. 04
コンクリート構造物の補強設計・施工の将来像 一性能照査型補強設計指針（試案）－（C技28）	1998. 04
環境システム－その理念と基礎手法*	1998. 04
環境整備の便益評価	1998. 04
技術者資格と国際相互承認	1998. 04
大震災の教訓を活かすために～実務技術者からの提案～	1998. 04
土木施工なんでも相談室－コンクリート工編－	1998. 04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 16-1	1998. 05
海洋開発論文集 Vol. 14	1998. 05
「生態系・緑化保全対策技術」講習会講義要旨	1998. 06
「地盤に係わる維持・補修・管理技術に関するシンポジウム」論文集	1998. 06
Concrete Library International No. 31	1998. 06
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 4	1998. 06
第4回河道の水理と河川環境シンポジウム論文集	1998. 06
第4回河道の水理と河川環境シンポジウム論文集 新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム	1998. 06

第4回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム論文集	1998.06
応用一般均衡モデルの公共投資評価への適用	1998.06
建設マネジメント研究論文集 Vol.6	1998.06
建設分野における新しい市場の開拓と技術革新 「21 世紀はどうなるのか、われわれは今なにをなすべきか？」	1998.06
設計・施工技術の一体的活用方式の公共工事への適用性に関する研究業務 委員会・幹事会議事録集	1998.06
調査・研究報告書 今後のプロジェクトマネジメントに関する調査・研究	1998.06
土木史研究 No.18	1998.06
土木情報システム委員会情報共有技術小委員会 平成9年度活動報告書	1998.06
第23回土木情報システムシンポジウム講演集	1998.07
第2回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム 講演論文集	1998.07
第34回水工学に関する夏期研修会講義集	1998.07
第6回地球環境シンポジウム講演論文集	1998.07
構造物の診断に関するシンポジウム論文集	1998.07
高流動コンクリート施工指針 (CL93)	1998.07
実務者のための耐震設計入門	1998.07
土木情報システム論文集 Vol.7	1998.07
漂砂環境の創造に向けて	1998.07
『地球環境問題と土木技術』－21世紀を担う土木技術者が地球環境を救う－	1998.08
1998年版 全国土木系教官・教員名簿	1998.08
第1回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集－鋼橋の経済性と長寿命化を目指して	1998.08
第53回年次学術講演会講演概要集	1998.08
応用力学論文集 Vol.1	1998.08
環境システム研究 Vol.26	1998.08
ISO規格と我が国の技術基準	1998.09
橋梁の耐震設計法に関する講習会－海外から見た日本の耐震設計法	1998.09
田邊家資料調査報告書	1998.09
土木計画学研究・論文集 15	1998.09
「ISOへの対応」に関するシンポジウム講演資料集	1998.10
「地域資産としての近代土木遺産」シンポジウム	1998.10
海岸工学論文集 第45巻	1998.10
開削トンネルの耐震設計 (TL9)	1998.10
第11回建設コンサルタントシンポジウム 情報化時代における業務プロセスの変革と展望	1998.10
橋 Bridges in Japan 1997-1998	1998.10
土木工学におけるコンピュータの高度利用技術	1998.10
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.16-2	1998.11
コンクリートと資源の有効利用 (C技29)	1998.11

第 15 回風工学シンポジウム論文集	1998. 11
第 16 回建設用ロボットに関する技術講習会テキスト 建設の自動化・ロボット化最先端技術と環境との調和	1998. 11
第 1 回鋼橋床版シンポジウム講演論文集	1998. 11
第 2 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関する論文集	1998. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 8 巻	1998. 11
ロックシェッドの耐衝撃設計（構造 S8）	1998. 11
環境工学研究論文集 Vol. 35	1998. 11
最新の施工技術 12	1998. 11
地域のための川づくりを目指して	1998. 11
土木計画学研究・講演集 21	1998. 11
土木博物館（仮称）基本構想	1998. 11
「公共構造物の安全性」に関するパネルディスカッション	1998. 12
1998 年南東北・北関東の集中豪雨に伴う水害調査報告書	1998. 12
CIVIL ENGINEERING, JSCE Vol. 37	1998. 12
Concrete Library International No. 32	1998. 12
第 16 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1998. 12
第 2 回土木デザインワークショップ～橋梁デザインの可能性－The Architecture in Bridge Design－	1998. 12
ローカルサイト・エフェクト・シンポジウム論文集 平成 10 年度	1998. 12
確率・統計的意思決定に関するシンポジウム論文集－脱マニュアルの時代を迎えて－	1998. 12
建設事業における確率・統計的意思決定研究小委員会報告書	1998. 12
振動制御セミナー	1998. 12
泥岩の力学モデルと解析～平成 10 年度岩盤力学委員会「研究報告会」	1998. 12
土木製図基準 平成 10 年版	1998. 12
舗装工学論文集 第 3 巻	1998. 12
第 1 回リアルタイム地震防災シンポジウム論文集 維持管理に関連した自動化・ロボット化の現状と展望	1999. 01
第 29 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	1999. 01
第 2 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	1999. 01
建設コンサルタントシンポジウム プロジェクトマネジメントと PFI－土木技術者の役割	1999. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 4 巻	1999. 01
土木学会地下空間研究委員会心理小委員会活動報告	1999. 01
第 16 回施工体験発表会 講演概要	1999. 02
第 1 回地震災害マネジメントセミナー 地震防災情報管理における GIS の活用－防災 GIS の現状を語る	1999. 02
水工学論文集 Vol. 43	1999. 02
土木材料実験指導書 平成 11 年改訂版	1999. 02
土木用語大辞典*	1999. 02

ISO 対応特別委員会報告書 平成 10 年度	1999. 03
ROCEEDINGS OF THE INTERNATIONAL WORKSHOP ON SELF-COMPACTING CONCRETE (C 技 30)	1999. 03
インフラ整備マネジメント論の体系化報告書	1999. 03
シビルネットワークに関する研究報告書	1999. 03
第 12 回環境システムシンポジウム 化学物質利用に伴うリスクと環境システムの接点・課題	1999. 03
第 2 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム報告書	1999. 03
河川環境調査 勝浦川 勝浦郡上勝町～勝浦町	1999. 03
建設とマネジメント XVII	1999. 03
建設業国際貢献推進事業報告書～土木施工マニュアルによる現地における技術交流	1999. 03
原子力発電所の立地多様化技術	1999. 03
現場マネジメントシステム分科会 共同研究報告書	1999. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	1999. 03
構造工学論文集 Vol. 45A	1999. 03
国土防災の適性水準に関する調査・研究 中間報告書	1999. 03
水理講演会 10 年の歩みとこれからの基礎水理学の展開－基礎水理部会	1999. 03
大地震時における構造物等の破壊過程解明のための試験体設計及び解析に関する調査報告書	1999. 03
都市基盤施設の地震防災性向上に関する調査報告書	1999. 03
土木学会環境工学委員会流域水マネジメント研究小委員会報告書	1999. 03
土木建設システムにおける環境パフォーマンス評価研究小委員会調査研究報告書 平成 10 年度	1999. 03
流域管理における下水道のあり方に関する調査	1999. 03
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol. 41-1～4*	1999. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 16-1, 2	1999. 04
フライアッシュを用いたコンクリートの施工指針（案）(CL94)	1999. 04
鋼・コンクリート複合構造の理論と設計 (1) 基礎編：理論編（構造 S9A）	1999. 04
鋼・コンクリート複合構造の理論と設計 (2) 応用編：設計編（構造 S9B）	1999. 04
土木学会応用力学委員会計算力学小委員会最終報告書 第 1 期	1999. 04
土木学会地下空間研究委員会計画小委員会活動報告書	1999. 04
A Comparative Approach to Evaluation of Transportation Infrastructure Development	1999. 05
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 17-1	1999. 05
海洋開発論文集 Vol. 15	1999. 05
橋梁と地下構造物の免震・制震	1999. 05
阪神・淡路大震災における鋼構造物の震災の実態と分析（鋼構 S10）	1999. 05
社会基盤整備における事業評価の意義を考える	1999. 05
土木技術者のための Excel 入門*	1999. 05
「ライフサイクルコスト」に関するワークショップ	1999. 06
Concrete Library International No. 33	1999. 06

河川技術に関する論文集 Vol. 5	1999. 06
建設マネジメント研究論文集 Vol. 7	1999. 06
鉄道力学論文集ーシンポジウム発表論文ー 第 3 号	1999. 06
土木学会地域シンポジウム講演集 共生と循環	1999. 06
土木史研究 No. 19	1999. 06
土木分野における情報化最前線「情報テクノロジーは、ここまで進んでいる」	1999. 06
「レベル 2 設計地震動：現状と展望」シンポジウム講演概要集 レベル 2 地震動研究小委員会の活動報告	1999. 07
第 1 回鋼構造物の維持管理に関するシンポジウム資料集	1999. 07
第 24 回土木情報システムシンポジウム講演集	1999. 07
第 25 回地震工学研究発表会講演論文集	1999. 07
第 35 回水工学に関する夏期研修会講義集	1999. 07
第 3 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム 講演論文集	1999. 07
第 7 回地球環境シンポジウム講演論文集	1999. 07
実務者のための耐震設計入門	1999. 07
鉄道力学論文集 第 3 号	1999. 07
土木情報システム論文集 Vol. 8	1999. 07
1999 年版 全国土木系教官・教員名簿	1999. 08
21 世紀の社会基盤を考える（講演概要）	1999. 08
Proceedings of the First International Summer Symposium	1999. 08
RECOMMENDATION FOR SELF-COMPACTING CONCRETE (C 技 31)	1999. 08
第 2 回構造物の診断に関するシンポジウム論文集	1999. 08
第 2 回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集ー鋼構造の新技术動向	1999. 08
第 54 回年次学術講演会講演概要集	1999. 08
応用力学論文集 Vol. 2	1999. 08
環境システム研究 Vol. 27	1999. 08
杭基礎の耐震設計に関するワークショップ	1999. 08
Bridgesー田中賞の橋*	1999. 09
コンクリート構造物の補強指針（案）(CL95)	1999. 09
コンクリート標準示方書改訂に関する中長期ビジョン（C 技 32）	1999. 09
土木計画学研究・論文集 16	1999. 09
21 世紀における建設技術開発	1999. 10
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 5	1999. 10
海岸工学論文集 第 46 巻	1999. 10
ケーブル・スペース構造の基礎と応用（鋼構 S11）	1999. 10
岩盤斜面の調査と対策	1999. 10
橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会ー耐震設計の現状と今後の展望	1999. 10
鋼構造及び合成構造設計・施工基準の世界の動向と今後の展望に関するシンポジウム	1999. 10

資源有効利用の現状と課題 (CL96)	1999. 10
土木技術者のための Excel 活用*	1999. 10
土木計画学研究・講演集 22	1999. 10
Intelligent Bridge/Structure and Smart Monitoring に関する公開講演会	1999. 11
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.17-2	1999. 11
NATM とシールドの境界領域におけるトンネル荷重に関する研究中間報告会資料ートンネルに作用する荷重の評価	1999. 11
第 17 回建設用ロボットに関する技術講習会 21 世紀の社会資本整備における建設用ロボットの役割	1999. 11
第 2 回「ISO への対応」に関するシンポジウムーISO と CENー講演資料集	1999. 11
第 4 回複合構造の活用に関するシンポジウム講演論文集	1999. 11
第 8 回新しい材料・工法・機械講習会講演概要	1999. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 9 巻	1999. 11
平成 11 年 土木学会名簿	1999. 11
平成 11 年版 コンクリート標準示方書 規準編	1999. 11
わが国のプレゼンスの向上に向けて～特に建設分野における規格基準の整備支援を通して～	1999. 11
環境工学研究論文集 Vol. 36	1999. 11
鋼繊維補強鉄筋コンクリート柱部材の設計指針 (案) (CL97)	1999. 11
水理公式集 平成 11 年版	1999. 11
土木計画学ワンデイセミナー 交通事故分析と ITS による交通事故低減の可能性について	1999. 11
土木計画学ワンデイセミナー 都市物流の新たな展開	1999. 11
「地形と風」に関する調査	1999. 12
Concrete Library International No.34	1999. 12
LNG 地下タンク躯体の構造性能照査指針 (CL98)	1999. 12
第 2 回地震災害マネジメントセミナー 次の大地震で防災計画は機能するか	1999. 12
第 6 回システム最適化に関するシンポジウム講演論文集	1999. 12
橋 Bridges in Japan 1998-1999	1999. 12
建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	1999. 12
構造物の耐風挙動評価と乱れの効果研究小委員会報告書	1999. 12
鉄道技術連合シンポジウム (J-RAIL' 99) 講演論文集	1999. 12
土木学会構造工学委員会 AL (人工生命) 技術の構造システム最適化への応用に関する研究小委員会活動成果報告書	1999. 12
風工学における数値計算の応用と評価研究小委員会成果報告会資料集	1999. 12
舗装工学論文集 第 4 巻	1999. 12
Earthquake Resistant Design Codes in Japan	2000. 01
第 13 回建設コンサルタントシンポジウム 千年紀に考えるコンサルティング・エンジニアー21 世紀社会への良質な資産の創造に向けて	2000. 01
第 30 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	2000. 01

第 3 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関する論文集	2000. 01
第 3 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	2000. 01
平成 11 年版 コンクリート標準示方書 施工編－耐久性照査型－	2000. 01
ランドフィル島構想－廃棄物等を活用した大規模埋立による新しい海域環境創造の実現に向けて－	2000. 01
国際化時代の橋梁デザイン	2000. 01
将来の骨材試験方法改訂のための検討（C 技 33）	2000. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 5 巻	2000. 01
田邊家資料調査報告書	2000. 01
土木計画学ワンデイセミナー ITS－効率的な道路利用に向けて	2000. 01
平成 11 年版 コンクリート標準示方書〔施工編〕－耐久性照査型－ 改訂資料（CL99）	2000. 01
コンクリートのポンプ施工指針〔平成 12 年版〕（CL100）	2000. 02
トンネル安全問題検討会報告書－事故の原因推定と今後の保守管理のあり方－	2000. 02
構造実験指導書 平成 12 年版	2000. 02
最新の施工技術 13 トンネル・シールド技術の最前線	2000. 02
水工学論文集 Vol. 44	2000. 02
「土木における景観・デザイン教育に関するワークショップ」報告書	2000. 03
エスチュアリー・エンジニアリングの体系化に関する研究	2000. 03
コンサルタント委員会 第 6 期（平成 10 年度～平成 11 年度）活動報告書～提言し、行動し、結論を出す真のコンサルタントを目指して～	2000. 03
第 1 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム論文集	2000. 03
レベル 2 地震動研究小委員会の活動成果報告書	2000. 03
仮設構造物の計画と施工 平成 12 年版	2000. 03
河川環境調査 勝浦川 勝浦郡上勝町～勝浦町	2000. 03
環境評価・環境コスト	2000. 03
環境負荷低減型土木技術とその応用のためのガイドライン素案	2000. 03
岩盤力学委員会トンネル・地下空洞小委員会報告書－吹き付けコンクリートおよびロックボルトの作用効果と設計－	2000. 03
建設とマネジメント XVIII	2000. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	2000. 03
構造工学論文集 Vol. 46A	2000. 03
構造物の破壊過程解明に基づく生活基盤の地震防災性向上に関する研究 総合的検討 平成 11 年度報告書	2000. 03
社会経済基盤施設の安全性向上と長寿命化のための性能評価システムと設計・計画法に関する調査報告書	2000. 03
都市代謝システムの再構築における下水道のあり方に関する調査	2000. 03
土木技術広報検討委託報告書 平成 11 年度	2000. 03
報告書 自己充てん型高強度高耐久コンクリートを用いた構造物の設計・施工・維持管理について	2000. 03

21 世紀の社会基盤整備のあり方に関するシンポジウム	2000.04
CIVIL ENGINEERING, JSCE Vol.38	2000.04
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol.42-1～4*	2000.04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol.17-1, 2	2000.04
コンクリート構造物の耐震性能照査 ―検討課題と将来像― (C 技 34)	2000.04
河川・水文・水資源情報のデータベース化と共同利用に関する研究	2000.04
企画委員会 2000 年レポート―土木界の課題と目指すべき方向―	2000.04
橋梁システムの動的解析と耐震性	2000.04
鋼構造物の性能照査型耐震設計法	2000.04
鋼構造物の耐震解析用ベンチマークと耐震設計法の高度化	2000.04
耐震用高機能鋼材とハイダクティリティー構造	2000.04
土木計画における公平論を巡って	2000.04
土木工学における逆問題入門	2000.04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.18-1	2000.05
コンクリート構造物のデザイン (C 技 35)	2000.05
第 2 回リアルタイム地震防災シンポジウム論文集 リアルタイム地震防災の近未来の姿を探る	2000.05
海洋開発論文集 Vol.16	2000.05
湖沼、貯水池の管理に向けた富栄養化現象に関する学術研究の取りまとめ	2000.05
鋼構造物の耐震検討小委員会報告書 (概要集)	2000.05
阪神淡路大震災の被害分析に基づくコンクリート構造物の耐震性能照査方法の検証 ―検討課題と将来像― (C 技 36)	2000.05
Concrete Library International No.35	2000.06
河川技術に関する論文集 Vol.6	2000.06
第 2 回「ライフサイクルコスト」に関するワークショップ資料集	2000.06
第 5 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム論文集	2000.06
プレライニング工法 (TL10)	2000.06
沿岸域における広域環境問題の取り組み	2000.06
契約システム研究小委員会報告書	2000.06
建設マネジメント研究論文集 Vol.8	2000.06
実務者のための耐震設計入門	2000.06
森林の国土・環境保全機能に関する研究 平成 10 年度調査研究報告書	2000.06
鉄道力学論文集―シンポジウム発表論文―第 4 号	2000.06
土木構造物の耐震設計法等に関する第 3 次提言と解説	2000.06
土木史研究 No.20	2000.06
土木情報システム委員会情報共有技術小委員会 平成 10・11 年度活動報告書	2000.06
Proceedings of the Second International Summer Symposium	2000.07
コンクリート構造物におけるコールドジョイントの現状と課題 (CL103)	2000.07
ジョイントシンポジウム「これからの沿岸域」資料集―「沿岸生態系」の持続的利用、その維持と修復に「学」は何をなすべきか―	2000.07

第 14 回コンサルタントシンポジウム 国際化と地震防災～構造技術者の役割と育成～	2000. 07
第 25 回土木情報システムシンポジウム講演集	2000. 07
第 36 回水工学に関する夏期研修会講義集	2000. 07
第 4 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム 講演論文集	2000. 07
第 8 回地球環境シンポジウム講演論文集	2000. 07
トンネルコンクリート施工指針（案）（CL102）	2000. 07
フレッシュコンクリートのコンシステンシー評価に関する技術の現状と課題（C 技 37）	2000. 07
鉄道力学論文集 第 4 号	2000. 07
土木情報システム論文集 Vol. 9	2000. 07
連続繊維シートを用いたコンクリート構造物の補修補強指針（CL101）	2000. 07
2000 年版 全国土木系教官・教員名簿	2000. 08
21 世紀の土木を変革する情報技術（講演概要）	2000. 08
Dynamic Analysis and Earthquake Resistant Design Methods of Dynamic Analysis	2000. 08
第 3 回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集－環境に配慮した鋼構造物	2000. 08
第 55 回年次学術講演会講演概要集	2000. 08
応用力学論文集 Vol. 3	2000. 08
活動成果報告書 国際標準に基づく構造物の設計法	2000. 08
環境システム研究論文集 Vol. 28	2000. 08
近年の豪雨災害を踏まえた新たな洪水対策の展開～ソフト対策による被害軽減策の新しい流れ～	2000. 08
土木工学系高等教育機関における倫理教育に関する講習会	2000. 08
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 6	2000. 09
コンクリート構造の時間依存性変形・ひび割れ評価－現状と今後の課題－（C 技 38）	2000. 09
コンクリート長大アーチ橋の設計・施工技術の現状と将来	2000. 09
高地震力に対する土構造物の耐震設計法に関する研究報告	2000. 09
土木計画学研究・論文集 17	2000. 09
ISO14030－40 の規格化による建設業の環境パフォーマンス評価とライフサイクルアセスメント*	2000. 10
海岸工学論文集 第 47 巻	2000. 10
第 2 回道路橋床版シンポジウム講演論文集	2000. 10
第 3 回橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会	2000. 10
ローカルサイト・エフェクトワークショップ報告書 平成 12 年度	2000. 10
橋梁振動モニタリングのガイドライン（構造 S10）	2000. 10
行動理論と土木計画	2000. 10
絶えまざる建設プロセスの改革へ向けて－IDEF 手法を活用して－	2000. 10
道路橋床版の新技術と性能照査型設計	2000. 10
日本 地震 あれから これから	2000. 10
「ライフサイクルコスト」に関するワークショップ資料集	2000. 11

「環境評価・環境コスト」講習会講義要旨	2000. 11
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.18-2	2000. 11
コンクリートのクリープおよび乾燥収縮Ⅱ（C 技 39）	2000. 11
第 16 回風工学シンポジウム論文集	2000. 11
第 2 回免震・制震コロキウム講演論文集	2000. 11
第 2 回，第 3 回社会資本のメンテナンスに関するシンポジウム資料集	2000. 11
第 3 回「ISO への対応」に関するシンポジウム－ISO 規格と認証制度－講演資料集	2000. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 10 巻	2000. 11
トンネル設計における限界状態設計法の適用について－開削トンネル，NATM，シールド工法－中間報告	2000. 11
海岸施設設計便覧 2000 年版	2000. 11
環境工学研究論文集 Vol. 37	2000. 11
地下鉄 12 号線環状部の施工技術	2000. 11
土木計画学研究・講演集 23	2000. 11
日本技術者教育認定機構 土木分野試行報告会	2000. 11
Concrete Library International No.36	2000. 12
The 1999 JI－JI Earthquake, Taiwan－Investigation into Damage to Civil Engineering Structures	2000. 12
The 1999 Kocaeli Earthquake, Turkey－Investigation into Damage to Civil Engineering Structures	2000. 12
第 18 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	2000. 12
第 18 回建設用ロボットに関する技術講習会 災害復旧における無人化施工	2000. 12
第 3 回土木デザインワークショップ 土木のデザインとコンセプト	2000. 12
橋 Bridges in Japan 1999-2000	2000. 12
メコン河調査団報告 2000 年 3 月	2000. 12
海岸工学用語集 2001 年版	2000. 12
原位置岩盤の試験法の指針－平板載荷試験法－ ーせん断試験法－ ー孔内載荷試験法－	2000. 12
地下防災を考える－特に都市における水害対策への提案－	2000. 12
鉄筋腐食・防食および補修に関する研究の現状と今後の動向（その 2）（C 技 40）	2000. 12
土木計画学ワンデイセミナー 交通事故分析と ITS による交通事故低減の可能性について（2）	2000. 12
舗装工学論文集 第 5 巻	2000. 12
流体力の評価とその応用に関するシンポジウム講演論文集	2000. 12
2000 年 9 月東海豪雨災害に関するミニシンポジウム報告書	2001. 01
2001 年制定 コンクリート標準示方書[維持管理編]制定資料（CL104）	2001. 01
第 15 回コンサルタントシンポジウム 技術者の復権と新展開～21 世紀に輝く技術者とは～	2001. 01
第 1 回 FRP 橋梁に関するシンポジウム論文集	2001. 01
第 31 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	2001. 01

第4回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	2001.01
ベネズエラにおける洪水・土砂災害に関する調査研究－1999年12月災害－	2001.01
作品選集 2001 土木学会	2001.01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第6巻	2001.01
土木技術者と歴史感覚～Antonie Picon 教授招待記念シンポジウム～	2001.01
土木計画学ワンデイセミナー ITS－効率的な道路利用に向けて（2）	2001.01
Japanese Standard for Mountain Tunneling 1996 'The Fifth Edition	2001.02
Japanese Standard for Shield Tunneling 1996 The Third Edition	2001.02
最新の施工技術・14	2001.02
水工学論文集 Vol. 45	2001.02
土木計画学ワンデイセミナー 交通安全対策のフロンティア－道路安全監査システム－	2001.02
土木材料実験指導書 平成13年改訂版	2001.02
Cyclic Loading Test Data of Reinforced Concrete Bridge Piers	2001.03
RECOMMENDATIONS FOR UPGRADING OF CONCRETE STRUCTURES WITH USE OF CONTINUOUS FIBER SHEETS (C技41)	2001.03
第2回ジョイント・シンポジウム 沿岸環境の総合的評価と管理－沿岸環境研究の多角化と総合化 に向けて－	2001.03
第2回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム論文集	2001.03
メコン河洪水氾濫調査 2000年11月	2001.03
レール・車輪断面形状プロジェクト研究会報告書	2001.03
岩盤工学の実務における逆解析報告書（CD-ROM）	2001.03
橋の見方，楽しみ方－東京の橋－ CD-ROM	2001.03
建設とマネジメント XIX	2001.03
現場マネジメント情報化小委員会研究報告書 平成11年度，平成12年度	2001.03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	2001.03
構造工学論文集 Vol. 47A	2001.03
国際化と橋梁デザインコンペ事情調査報告書	2001.03
国内建設産業におけるPMのあり方とヴィジョンの提言 調査研究報告書（日本型建設PMのための 基礎調査）	2001.03
水理実験指導書 平成13年版	2001.03
地震時保有耐力法に基づく橋梁等構造物の耐震設計法の開発－地震時保有耐力法に基づく耐震設 計法の開発に関する研究小委員会研究報告書－	2001.03
都市における地球温暖化の影響とその抑制方策に関する研究	2001.03
都市代謝システムの再構築における下水道のあり方に関する調査	2001.03
土木学会環境工学委員会流域水マネジメント研究小委員会報告書	2001.03
土木計画学ワンデイセミナー 高齢社会の都市基盤整備と交通システム	2001.03
土木施工なんでも相談室－基礎工・地盤改良工編	2001.03
土木博物館（仮称）屋外展示基本計画	2001.03
用水・廃水の高度処理技術に関する研究小委員会研究報告書	2001.03

陸上設置型レーダによる沿岸海洋観測	2001. 03
2001 年制定 環境負荷低減型土木構造物設計ガイドライン	2001. 04
21 世紀に向けたエネルギーに関する住民合意（ソフト面）と新技術（ハード面）のあり方についての一考察	2001. 04
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol. 43-1～4*	2001. 04
Proceedings of the Second Civil Engineering Conference in the Asian Region	2001. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 18-1, 2	2001. 04
土木学会応用力学委員会乱流研究小委員会中間報告書 ー土木における流体解析の現状と問題点ー	2001. 04
土木系専門学校における土木教育に関する調査報告書	2001. 04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 19-1	2001. 05
これからのメンテナンス技術と市場講演会資料	2001. 05
これからの建設システムの枠組み	2001. 05
第 3 回ジョイント・シンポジウム 「有明海の環境・漁業を考える」資料集	2001. 05
海洋開発論文集 Vol. 17	2001. 05
高等専門学校における土木教育の現状と課題 ー土木教育に関する全国調査の結果ー	2001. 05
社会資本整備と技術開発の方向に関する検討委員会報告書	2001. 05
新しい土木教育をめざして ー第 I 期土木教育委員会報告ー	2001. 05
知恵を育てる ナレッジ・マネジメント導入ガイド	2001. 05
21 世紀における建設工事の自動化・ロボット化への展望 建設用ロボットの普及・発展をめざして	2001. 06
Concrete Library International No. 37	2001. 06
河川技術論文集 Vol. 7	2001. 06
第 4 回ジョイント・シンポジウム 宍道湖・中海の今後を考えるー生態系機能評価と環境修復ー	2001. 06
ダム建設における水理地質構造の調査と止水設計	2001. 06
プレキャストコンクリート部材の力学的特性 ー現状と課題ー（C 技 43）	2001. 06
建設技術の評価方法に関する調査研究報告書	2001. 06
自己充てん型高強度高耐久コンクリート構造物設計・施工指針（案）ー新世代交通システム用構造物への試みー（CL105）	2001. 06
性能照査型システムにおけるコンクリート構造物の補強（C 技 42）	2001. 06
鉄道力学論文集ーシンポジウム発表論文ー 第 5 号	2001. 06
土木史研究 No. 21	2001. 06
没後三〇〇年 河村瑞賢 ー国を拓いたその足跡	2001. 06
CIVIL ENGINEERING, JSCE Vol. 39	2001. 07
コンクリート長大アーチ橋の設計・施工技術の技術の現状と将来に関するワークショップ 万県長江大橋視察報告書（CD-ROM）	2001. 07
シールド工事用標準セグメント*	2001. 07
スラック研究会報告書	2001. 07
第 26 回地震工学研究発表会講演論文集	2001. 07

第 26 回土木情報システムシンポジウム講演集	2001. 07
第 37 回水工学に関する夏期研修会講義集	2001. 07
第 5 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム講演論文集	2001. 07
第 9 回地球環境シンポジウム講演論文集	2001. 07
ダム貯水池堆砂・濁水問題への取り組みと課題報告書	2001. 07
高強度フライアッシュ人工骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針(案) (CL106)	2001. 07
鉄道力学論文集 第 5 号	2001. 07
土木計画学ワンデイセミナー 国際シンポジウム“超長期的展望にもとづく持続可能な都市への再生戦略”－目標, 制約と政策－	2001. 07
土木情報システム論文集 Vol.10	2001. 07
木橋技術に関する講習会テキスト・シンポジウム論文報告集	2001. 07
「地層処分と地質環境」概要調査地区選定時に考慮すべき地質環境に関する基本的考え方	2001. 08
2001 年版 全国土木系教官・教員名簿	2001. 08
Proceedings of the Third International Summer Symposium	2001. 08
第 4 回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集－合理化橋梁の最近の動向－	2001. 08
第 56 回年次学術講演会講演概要集	2001. 08
応用力学論文集 Vol. 4	2001. 08
環境システム研究論文集 Vol. 29	2001. 08
土木教育と情報教育をむすぶ GIS 教育（講演概要）	2001. 08
「ISO への対応」に関する第 4 回シンポジウム－設計標準はどこへ行く－【国際標準の最新動向】講演資料集	2001. 09
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol.7	2001. 09
トンネルへの限界状態設計法の適用 (TL11)	2001. 09
杭基礎の耐震設計法に関するシンポジウム論文集・報告書	2001. 09
土木界の目指すべき方向に関する学会の取り組み	2001. 09
土木技術者のための Visual Basic 活用*	2001. 09
土木計画学研究・論文集 18	2001. 09
土木構造物の耐震設計ガイドライン(案)－耐震基準作成のための手引き－耐震基準小委員会活動報告書	2001. 09
海岸工学論文集 第 48 巻	2001. 10
海岸・沿岸域・内湾の利用と環境保全に関する研究 平成 12 年度調査研究報告書	2001. 10
橋梁振動コロキウム' 01 論文集	2001. 10
新しい波浪算定法とこれからの海域施設の設計法－性能設計法の確立に向けて－	2001. 10
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol.19-2	2001. 11
第 16 回コンサルタントシンポジウム メンテナンスの時代	2001. 11
第 19 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	2001. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 11 巻	2001. 11

平成 13 年 土木学会名簿	2001. 11
環境工学研究論文集 Vol. 38	2001. 11
鋼・コンクリート複合橋梁の最近の進歩	2001. 11
実務の先輩たちが書いた 土木構造物の耐震設計入門	2001. 11
実務者のための耐震設計入門 別冊	2001. 11
電気化学的防食工法 設計施工指針(案) (CL107)	2001. 11
土木技術者のための原価管理	2001. 11
土木計画学研究・講演集 24	2001. 11
Concrete Library International No.38	2001. 12
第 19 回建設用ロボットに関する技術講習会 IT 時代の自動化・情報化技術の現状と展望	2001. 12
第 2 回社会資本のメンテナンスに関するシンポジウム資料集	2001. 12
第 7 回システム最適化に関するシンポジウム講演論文集	2001. 12
橋 Bridges in Japan 2000-2001	2001. 12
火山とつきあう Q&A99	2001. 12
参加型計画への集団意思決定手法の応用	2001. 12
土木学会構造工学委員会 AL (人工生命) 技術の構造システム最適化への応用に関する研究小委員会活動成果報告書	2001. 12
舗装工学論文集 第 6 巻	2001. 12
第 4 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関する論文集	2002. 01
第 5 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	2002. 01
減震・免震・制震構造設計法ガイドライン (案)	2002. 01
第 4 回土木デザインワークショップ 機能空間のデザイナーその思想と手法ー	2002. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 7 巻	2002. 01
第 3 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム論文集	2002. 02
建設事業における環境マネジメントシステムへの取り組みの現状と望ましい連携 ー計画者・設計者・施工者の相互理解と新たな連携を目指してー	2002. 02
原子力発電所の津波評価技術	2002. 02
水工学論文集 Vol. 46	2002. 02
地震リスクマネジメントを考える ーその必要性和課題についてー	2002. 02
2002 年制定 コンクリート標準示方書 ダムコンクリート編	2002. 03
2002 年制定 コンクリート標準示方書 規準編	2002. 03
2002 年制定 コンクリート標準示方書 構造性能照査編	2002. 03
2002 年制定 コンクリート標準示方書 施工編	2002. 03
2002 年制定 コンクリート標準示方書 舗装編	2002. 03
2002 年版 コンクリート標準示方書 改訂資料 (CL108)	2002. 03
第 6 回ジョイントシンポジウム ノリ養殖と沿岸環境 資料集	2002. 03
ダム水環境改善事業調査河川環境調査合併調査委託報告書 No. 2 勝浦川 勝浦郡上勝町～勝浦町	2002. 03
沿岸生態系の機能評価と評価指標 ー研究会活動報告ー	2002. 03

技術者教育の外部認定制度の導入に関する調査（土木）	2002. 03
建設とマネジメント XX	2002. 03
研究報告 建設リサイクルの現状と今後	2002. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物界面埋立環境保全調査報告書	2002. 03
構造工学論文集 Vol. 48A	2002. 03
鋼構造の限界強度の評価法に関する研究調査報告書	2002. 03
鋼構造架設設計施工指針 2001 年版	2002. 03
四国地方の土木遺産八十八ヶ所調査研究業務委託報告書 平成 13 年度	2002. 03
穴道湖・中海の水質生態系の評価に関する研究報告書	2002. 03
深地層における軟岩の評価－調査・試験法と力学・水理モデル－ 報告書	2002. 03
水理公式集 例題プログラム集 平成 13 年版	2002. 03
設計・施工一括発注方式に関する検討報告書	2002. 03
都市代謝システムの再構築における下水道のあり方に関する調査	2002. 03
土木計画学ワンデイセミナー ITS 社会にむけた交通安全研究の方向性について	2002. 03
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol. 44-1～4*	2002. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 19-1, 2	2002. 04
温暖化防止に向けた地域エネルギーおよび法制度のあり方について	2002. 04
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 20-1	2002. 05
コンクリートの環境負荷評価（C 技 44）	2002. 05
海洋開発論文集 Vol. 18	2002. 05
環境の評価システムの理論と実践について	2002. 05
原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・同マニュアル	2002. 05
人口減少下の社会資本整備のあり方－拡大から縮小への処方箋－	2002. 05
土木建設技術シンポジウム 2002 論文集（CD-ROM）	2002. 05
「近年の国内外で発生した大地震の記録と課題」シンポジウム論文集	2002. 06
Concrete Library International No. 39 CD-ROM	2002. 06
JABEE による教育プログラムの審査認定と審査員養成のための土木工学分野研修会	2002. 06
河川技術論文集 Vol. 8	2002. 06
第 6 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム論文集	2002. 06
建設マネジメント研究論文集 Vol. 9	2002. 06
土木史研究 No. 22	2002. 06
第 10 回地球環境シンポジウム講演論文集	2002. 07
第 38 回水工学に関する夏期研修会講義集	2002. 07
第 6 回耐震補強・補修技術、耐震診断技術に関するシンポジウム 講演論文集	2002. 07
水辺のコンクリート構造物（C 技 45）	2002. 07
鉄道力学論文集 第 6 号	2002. 07
鉄道力学論文集－シンポジウム発表論文－ 第 6 号	2002. 07
土木学会地下空間研究委員会 平成 11 年度～平成 13 年度 研究成果報告書	2002. 07

浮体橋の設計指針（案）	2002. 07
『21 世紀の社会基盤整備の課題と方向』－21 世紀の土木を考える－（講演概要）	2002. 08
2002 年版 全国土木系教官・教員名簿	2002. 08
Proceedings of the Fourth International Summer Symposium	2002. 08
第 57 回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	2002. 08
第 5 回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集	2002. 08
応用力学論文集 Vol. 5	2002. 08
環境システム研究論文集 Vol. 30	2002. 08
Afganistan Reconstruction Vision	2002. 09
あなたは土木に何を求めますか－社会資本整備のあり方－*（技報堂出版）	2002. 09
インフラ整備を伴う PFI 事業形成のための課題の明確化とその解決策の提言に向けて 中間報告書	2002. 09
山岳トンネル覆工の現状と対策（TL12）	2002. 09
土木計画学研究・論文集 19	2002. 09
土木構造物の維持管理技術と今後の方向性	2002. 09
海岸工学論文集 第 49 巻	2002. 10
第 27 回土木情報システムシンポジウム講演集	2002. 10
第 5 回橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会	2002. 10
鋼構造に関する国際基準調査・分析報告書	2002. 10
土木計画学ワンデイセミナー 効率・環境改善に向けた ITS－現状と課題－	2002. 10
土木情報システム論文集 Vol. 11	2002. 10
複合構造物の性能照査指針（案）（構造 S11）	2002. 10
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 8	2002. 11
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 20-2	2002. 11
第 17 回風工学シンポジウム論文集	2002. 11
第 20 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会 講演集	2002. 11
第 4 回土木学会地震災害マネジメントセミナー 地震リスクマネジメントを考える－その必要性和課題について－	2002. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 12 巻	2002. 11
環境工学研究論文集 Vol. 39	2002. 11
既設構造物の耐震補強に関するシンポジウム論文集	2002. 11
人口減少下の社会資本整備－拡大から縮小への処方箋－	2002. 11
第 20 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会「変革への挑戦～新しい公共工事システムを考える～」 パネルディスカッション「公共工事の透明性／具現化」～出来高部分払方式（プログレス・ペイメント）のわが国への導入の効果と課題～ 参考資料	2002. 11
鉄道技術連合シンポジウム J-RAIL2002 講演論文集	2002. 11
土木計画学ワンデイセミナー 効率的で環境にやさしい物流システム－道路交通を中心とした物流施策ハンドブック策定に向けて－	2002. 11
土木計画学研究・講演集 25, 26 CD-ROM	2002. 11

「建設リサイクル技術」講習会 講義要旨	2002. 12
2002 年ヨーロッパ水害調査報告－中間報告書－	2002. 12
2002 年制定 コンクリート標準示方書 耐震性能照査編	2002. 12
CD-ROM 阪神淡路大震災被害分析小委員会の報告－地盤震動解析プログラム(FDEL)付－コンクリート技術シリーズ 49 を含む	2002. 12
Concrete Library International No. 40 CD-ROM	2002. 12
FWD および小型 FWD 運用の手引き (PL2)	2002. 12
コンクリートの耐久性データベースフォーマットに関する論文集 (C 技 46)	2002. 12
コンクリートの耐久性に関する研究の現状とデータベース構築のためのフォーマットの提案 (CL109)	2002. 12
コンクリート構造物の耐震性能照査技術－現状と将来展望－ (C 技 48)	2002. 12
コンクリート用化学混和剤の性能評価 (C 技 47)	2002. 12
第 20 回建設用ロボットに関する技術講習会 最近の環境問題に関連した自動化・IT 化の現状と展望	2002. 12
阪神淡路大震災の被害分析に基づくコンクリート構造物の耐震性能照査方法の検証－解析手法の適用と比較－ (C 技 49)	2002. 12
舗装工学論文集 第 7 巻 CD-ROM	2002. 12
Advanced Engineering for Long-Life Steel Bridges	2003. 01
The Seminar on Science and Technology The First Japan-Taiwan Academic Exchange Program on Membrane Technology in Environmental Management Proceedings	2003. 01
コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会成果報告書 (C 技 50)	2003. 01
第 32 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	2003. 01
第 5 回土木デザインワークショップ 歴史の創造性	2003. 01
第 6 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	2003. 01
橋 Bridges in Japan 2001-2002	2003. 01
環境工学の新世紀	2003. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 8 巻	2003. 01
流体力の評価とその応用に関する研究論文集 第 2 巻	2003. 01
路面のプロファイリング入門－安全で快適な路面をめざして－ (PL1)	2003. 01
「ISO への対応」に関する第 5 回シンポジウム－動き出したユーロコードと我が国の対応－講演資料集	2003. 02
岩盤斜面防護用吹付けコンクリート－現状と今後の課題－ (C 技 51)	2003. 02
水工学論文集 Vol. 47	2003. 02
土質試験のてびき 改訂版	2003. 02
土木材料実験指導書 平成 15 年改訂版	2003. 02
平成十四年度研究報告 生態系モデルを利用した宍道湖・中海の水質環境改善評価	2003. 02
2002 年ヨーロッパ水害調査－報告書－	2003. 03
Year 2002 Flood Disaster Investigation in Europe Summary Report	2003. 03

オーストラリアおよびニュージーランドにおける技術者資格の二国間相互承認に関する調査報告書	2003. 03
第 4 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム・論文集	2003. 03
第 9 回新しい材料・工法・機械講習会 最近の土留め工法の現状と設計・施工のポイント	2003. 03
ダム水管理環境改善調査河川環境調査合併調査委託報告書 No. 1 勝浦川 勝浦郡上勝町～勝浦町	2003. 03
包括設計コード（案）性能設計概念に基づいた構造物設計コード作成のための原則・指針と用語（第 1 版）	2003. 03
環境に関わる土木学における全包括的思考の体系化 平成 13－14 年度調査研究報告書	2003. 03
橋の動的耐震設計	2003. 03
橋梁の耐風設計－基準と最近の進歩－（構造 S12）	2003. 03
建設とマネジメント XX I	2003. 03
原子力発電所基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価手法の体系化－動的上下動を考慮した地盤安定性評価－	2003. 03
広域最終処分場計画調査 廃棄物海面埋立環境保全調査報告書	2003. 03
構造工学論文集 Vol. 49A	2003. 03
社会資本整備における NPO 研究小委員会（H14 研究成果）	2003. 03
大規模社会基盤施設の計画史的評価	2003. 03
中山間地域等における歴史的砂防施設の保存活用による地域活性化調査報告書	2003. 03
電気炉酸化スラグ骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針（案）（CL110）	2003. 03
土木教育に関する全国調査報告書（第 2 次）	2003. 03
土木計画学ワンデイセミナー ITS 社会にむけた交通安全研究の方向性について 2	2003. 03
土木計画学ワンデイセミナー 規制緩和後のバスサービス－現状と課題－	2003. 03
土木事業における環境経済評価－ステークホルダーを考慮した合意形成の概念－	2003. 03
道路交通需要予測の理論と適用 第 I 編 利用者均衡配分の適用に向けて	2003. 03
Bases for design of structures - Actions from waves and currents 構造物の設計の基本－波・流れの作用	2003. 04
COASTAL ENGINEERING JOURNAL Vol. 45-1～4*	2003. 04
STRUCTURAL ENGINEERING / EARTHQUAKE ENGINEERING Vol. 20-1, 2	2003. 04
橋 Bridges in Japan 2002-2003	2003. 04
鋼構造物の性能照査型設計体系の構築に向けて	2003. 04
CM 方式による環境修復事業について 研究報告書	2003. 05
JABEE 承認研修会 JABEE による教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」受審校研修会	2003. 05
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 21-1	2003. 05
JSCE2005－土木学会の改革策－	2003. 05
コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題（CL111）	2003. 05
海洋開発論文集 Vol. 19	2003. 05

作品選集 2002 土木学会	2003. 05
新しい時代における土木技術者の育成に向けてー第 II 期土木教育委員会報告ー	2003. 05
土木技術者の倫理ー事例分析を中心としてー	2003. 05
土木計画学ワンデイセミナー 土木技術者の新しい地平ー交通バリアフリー実現に向けてー	2003. 05
「ISO への対応」に関する第 5 回シンポジウムー動き出したユーロコードと我が国の対応ー講演資料集	2003. 06
Concrete Library International No. 41 CD-ROM	2003. 06
PC 構造物の現状の問題点とその対策 (C 技 52)	2003. 06
河川技術論文集 Vol. 9	2003. 06
コンクリートの化学的侵食・溶脱に関する研究の現状 (C 技 53)	2003. 06
第 3 回道路橋床版シンポジウム講演論文集	2003. 06
メンテナンス工学連合小委員会報告書	2003. 06
レベル 2 地震動による液状化	2003. 06
合意形成プロデュースーコンサルタントの新しい役割ー	2003. 06
土木史研究 No. 23	2003. 06
平成 14 年度交通基盤情報ビジネス小委員会研究報告書	2003. 06
理解しやすい「自己点検書」作成のポイント JABEE による教育プログラム認定・審査ー自己点検の事例紹介ー	2003. 06
Proceedings of the Fifthe International Summer Symposium	2003. 07
第 11 回地球環境シンポジウム講演論文集	2003. 07
第 17 回コンサルタントシンポジウム 合意形成プロデュースーコンサルタントの新しい役割ー	2003. 07
第 27 回地震工学研究発表会講演論文集 CD-ROM	2003. 07
第 28 回土木情報システムシンポジウム講演集	2003. 07
第 2 回木橋技術に関するシンポジウム論文報告集	2003. 07
第 39 回水工学に関する夏期研修会講義集	2003. 07
土木建設技術シンポジウム論文集 Vol. 12	2003. 07
フレッシュコンクリートのコンシステンシー評価に関する技術の現状と課題(II) (C 技 54)	2003. 07
海洋環境における新しいテーマを求めて	2003. 07
鉄道力学論文集 第 7 号	2003. 07
鉄道力学論文集ーシンポジウム発表論文ー 第 7 号	2003. 07
土木建設技術シンポジウム 2003	2003. 07
アセットマネジメント導入への挑戦ー新たな社会資本マネジメントシステムの構築に向けてー	2003. 08
コンクリート長大アーチ橋ー支間 600m クラスーの設計・施工 (構造 S13)	2003. 08
第 58 回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	2003. 08
応用力学論文集 Vol. 6	2003. 08
環境システム研究論文集 Vol. 31	2003. 08
宮城県沖の地震・アルジェリア地震 被害調査報告会概要集	2003. 08
土木学会建設技術委員会 土構造物耐震技術研究小委員会 研究成果報告書	2003. 08

歩道橋の UNIVERSAL DESIGN に関する WORKSHOP	2003. 08
2003 年版 全国土木系教官・教員名簿	2003. 09
クリープ・収縮研究小委員会報告書 (C 技 56)	2003. 09
コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と規準化が望まれる試験方法の動向 (C 技 55)	2003. 09
石炭灰有効利用技術について－循環型社会を目指して－報告書	2003. 09
トンネルの変状メカニズム	2003. 09
マネジメント技術の評価・活用に関する調査研究報告書	2003. 09
わが国の「土木」拠点をつくる－神戸土木博物館(仮称) の新しい事業プロセス－報告書	2003. 09
第 6 回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集－鋼構造と橋の耐久性－	2003. 09
土木計画学研究・論文集 20	2003. 09
平成 15 年度 実務者のための耐震設計入門 別冊	2003. 09
JOURNAL OF GLOBAL ENVIRONMENT ENGINEERING Vol. 9	2003. 10
海岸工学論文集 第 50 巻	2003. 10
都市 NATM とシールド工法との境界領域－荷重評価の現状と課題－ (TL13)	2003. 10
国際情報フォーラム 2003 (CD-ROM)	2003. 10
Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering Vol. 21-2	2003. 11
エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針[改訂版] (CL112)	2003. 11
コンクリート標準示方書〔維持管理編〕に準拠した維持管理マニュアル(その 1)および関連資料 (C 技 57)	2003. 11
生命環境を守る緑 (叢書 1)	2003. 11
第 21 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集	2003. 11
第 5 回複合構造の活用に関するシンポジウム講演論文集	2003. 11
トンネル工学研究論文・報告集 第 13 巻	2003. 11
平成 15 年 土木学会名簿	2003. 11
環境工学研究論文集 Vol. 40	2003. 11
建設マネジメント研究論文集 Vol. 10	2003. 11
土木計画学研究・講演集 27, 28 CD-ROM	2003. 11
Concrete Library International No. 42 CD-ROM	2003. 12
Structural Health Monitoring and Intelligent Infrastructure Volume 2	2003. 12
安全で経済的な施行計画を行うための講習会－仮説構造物の計画と施行に関する講習会－鋼構造物架設の設計と施行に関する講習会－	2003. 12
環境と ITS	2003. 12
性能設計体系における合意形成・評価手法に関する調査研究小委員会報告書	2003. 12
第 10 回鉄道技術連合シンポジウム J-RAIL2003 講演論文集	2003. 12
第 21 回'建設用ロボットに関する技術講習会 維持管理に関連した自動化・ロボット化の現状と展望	2003. 12
第 8 回設計工学に関するシンポジウム講演論文集	2003. 12

バスサービスの課題と処方箋	2003. 12
建設業国際貢献推進事業報告書～土木施工マニュアルによる現地における技術交流	2003. 12
土木製図基準 平成 15 年小改訂版	2003. 12
舗装工学論文集 第 8 巻	2003. 12
FRP 橋梁 技術とその展望（構造 S14）	2004. 01
構造工学における有限要素法の基礎と応用講習会	2004. 01
第 33 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集	2004. 01
第 7 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集	2004. 01
地下空間シンポジウム論文・報告集 第 9 巻	2004. 01
コンクリートの表面被覆および表面改質に関するシンポジウム論文集（C 技 59）	2004. 02
コンクリートの表面被覆および表面改質に関する技術の現状（C 技 58）	2004. 02
水工学論文集 Vol. 48	2004. 02
CD-ROM 岩盤崩壊の考え方ー現状と将来展望ー実務者の手引き	2004. 03
合意形成論ー総論賛成・各論反対のジレンマー（叢書 2）	2004. 03
衝撃実験・解析の基礎と応用（構造 S15）	2004. 03
第 5 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム論文集	2004. 03
構造工学論文集 Vol. 50A	2004. 03

凡例

*：土木学会編集・監修出版物

CL：コンクリートライブラリー

TL：トンネルライブラリー

構造 S：構造工学シリーズ

鋼構 S：鋼構造シリーズ

PL：舗装工学ライブラリー

C 技：コンクリート技術シリーズ

震害 S：震害調査シリーズ

叢書：土木学会誌叢書

主要シリーズ出版物

●阪神・淡路大震災調査報告（土木・地盤編 12 巻・共通編 3 巻）●

巻	発行年
土木・地盤 1 土木構造物の被害（橋梁）	1996. 12
土木・地盤 2 土木構造物の被害（トンネル・地下構造物）（土構造物）（基礎構造物）	1998. 06
土木・地盤 3 土木構造物の被害（港湾・海岸構造物）（河川・砂防関係施設）	1998. 01
土木・地盤 4 土木構造物の被害原因の分析（コンクリート構造物）（鋼構造物）	1997. 01

土木・地盤 5 土木構造物の被害原因の分析（耐震設計基準の変遷）（構造システムと耐震性）（地中構造物）	1999. 09
土木・地盤 6 土木構造物の被害原因の検討（地盤・土構造物）（港湾・海岸構造物等）	1998. 08
土木・地盤 7 土木構造物の応急復旧，補修，補強（橋梁 トンネル・地下構造物）	1999. 11
土木・地盤 8 土木構造物の応急復旧，補修，補強（地盤・土構造物）（港湾・海岸構造物等）（河川管理施設・砂防施設の復旧と今後の対策）	1998. 06
土木・地盤 9 ライフライン施設の被害と復旧	1997. 09
土木・地盤 10 交通施設と農業施設の被害と復旧	1998. 02
土木・地盤 11 社会経済的影響の分析	1998. 11
土木・地盤 12 復興計画	2000. 02
共通編 1 総集編	2000. 04
共通編 2 地震・地震動 地盤・地質	1998. 03
共通編 3 都市安全システムの機能と体制	1999. 09

15. 2 支部出版物

関東支部

a) 定期刊行物（年 1 回）

- ・年次技術研究発表会（平成 14 年度・2003 から CD-ROM に移行）
第 1 回（昭和 48 年度・1973. 5）～第 31 回（平成 15 年度・2004. 3）
- ・新潟会研究調査発表会（第 9 回まで研究発表会）
第 1 回（1983. 11）～第 21 回（2003. 11）
- ・栃木会技術研究発表会
第 1 回（1999. 3）～第 6 回（2004. 1）

b) 不定期刊行物

書名	刊行年
講習会「第 6 回土木技術者に求められる資質と素養」	1995. 03
第 22 回技術研究発表会講演概要集	1995. 03
講習会「生態系の保護と社会基盤整備」テキスト	1996. 01
講習会「第 7 回土木技術者に求められる資質と素養」	1996. 02
第 23 回技術研究発表会講演概要集	1996. 03
講習会「技術者のためのインターネット活用のヒント」（非売品）	1996. 11
講習会「第 8 回土木技術者に求められる資質と素養」	1997. 02
第 24 回技術研究発表会講演概要集	1997. 03
講習会「第 9 回土木技術者に求められる資質と素養」	1998. 02
第 25 回技術研究発表会講演概要集	1998. 03
講習会「第 10 回土木技術者に求められる資質と素養」	1999. 02
第 26 回技術研究発表会講演概要集	1999. 03
講習会「第 11 回土木技術者に求められる資質と素養」	2000. 02
第 27 回技術研究発表会講演概要集	2000. 03
講習会「第 12 回土木技術者に求められる資質と素養」	2001. 02
第 28 回技術研究発表会講演概要集	2001. 03
講習会「21 世紀の技術者に求められるマネジメント能力」	2001. 08
「21 世紀のより効率的な社会資本整備について」	2001. 11
講習会「第 13 回土木技術者に求められる資質と素養」	2002. 02
第 29 回技術研究発表会講演概要集	2002. 03
講習会「21 世紀の技術者に求められるマネジメント能力」	2002. 08
講習会「第 14 回土木技術者に求められる資質と素養」	2003. 02
第 30 回技術研究発表会講演概要集（CD-ROM 版）	2003. 03
講習会「土木技術者に求められる資質と素養」－技術者倫理の涵用－	2003. 07
講習会「都市再生」	2003. 11
講習会「第 15 回土木技術者に求められる資質と素養」	2004. 02
第 31 回技術研究発表会講演概要集（CD-ROM 版）	2004. 03

中部支部

書名	刊行年
土木構造物の維持・管理・耐久性	1994. 12
都市交通シンポジウムー高齢者・障害者のモビリティ確保と都市行政ー	1995. 02
平成 6 年度研究発表会講演概要集	1995. 03
土木と労働安全	1995. 10
コンクリート構造のエッセティックス	1995. 11
阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計ー橋梁構造物ー	1996. 01
平成 7 年度研究発表会講演概要集	1996. 03
コンクリート標準示方書制定に伴う講習会	1996. 05
平成 8 年度第 1 回講演会	1996. 05
「トンネル標準示方書（山岳工法編）・同解説」改訂の趣旨説明講習会	1996. 08
「コンクリート標準示方書耐震設計編」講習会	1996. 08
「トンネル標準示方書（シールド工法編）及び（開削工法編）・同解説」改訂の趣旨説明講習会	1996. 09
平成 8 年度第 2 回講演会	1996. 12
中部新空港の現状と今後の課題	1997. 01
平成 8 年度研究発表会講演概要集	1997. 03
平成 9 年度第 1 回講演会	1997. 05
タンカー事故に伴う重油流出事故の教訓と課題	1997. 09
21 世紀の環伊勢湾圏を拓くー環伊勢湾圏の大プロジェクトー	1997. 10
土木構造物の耐震・免震技術の現状と将来の展望	1997. 12
新春特別講演会「技術者資格の認定と国際的相互承認について」	1998. 01
環境マネジメント	1998. 02
平成 9 年度研究発表会講演概要集	1998. 03
山から海にいたる河川水系の総合管理の技術	1998. 06
高流動コンクリート施工指針等に関する講習会	1998. 09
限界状態設計法を用いた合成・複合の設計と将来展望	1998. 12
土木構造物の耐震設計ー技術者のための基礎講座ー	1999. 01
土木構造物の耐震設計ー技術者のための基礎講座ー	1999. 01
土木構造物の耐震設計ー技術者のための基礎講座ー	1999. 01
土木構造物の耐震設計ー技術者のための基礎講座ー	1999. 02
これからの土木技術者に求められる姿 ～技術士取得のために～	1999. 03
平成 10 年度土木学会中部支部調査研究委員会 海上への重油流出に対する環境保全技術の開発に関する委員会成果報告書	1999. 03
土木学会中部支部 60 周年記念誌ー中部支部 20 年の足跡ー	1999. 03
平成 10 年度研究発表会講演概要集	1999. 03
自然環境と調和する技術に関する講座	1999. 06

土木構造物の耐震設計（短期集中講座）	1999. 08
交通ネットワークの分析と応用	1999. 10
水理公式集の改訂に伴う講習会	1999. 12
これからの土木技術者に求められる姿 ～技術士取得のために～	2000. 02
平成 11 年度研究発表会講演概要集	2000. 03
環境負荷低減型土木技術とその応用のためのガイドライン素案	2000. 03
仮設構造物の計画と施工[平成 12 年度版]	2000. 06
渋滞と環境を中心とした欧州の交通政策の最新情報	2000. 11
土木構造物の耐震設計	2000. 12
土木構造物の維持・管理、補修・補強	2001. 01
平成 12 年度研究発表会講演概要集	2001. 03
環境負荷低減のための土木構造物設計ガイドライン講習会	2001. 04
仮設構造物の計画と施工[平成 12 年度版]に関する講習会	2001. 06
平成 13 年度継続教育制度創設記念講習会「これからの技術者像と地域の安全・安心を考える」	2001. 09
豪雨災害 都市はどう対応すべきか	2001. 11
土木技術者に求められる姿ー技術士取得のためにー	2002. 01
平成 13 年度研究発表会講演概要集	2002. 03
土木をとりまく最新のシュミレーションとビジュアル評価	2002. 07
中部地方の土木プロジェクトと新たな土木のパラダイム	2003. 02
平成 14 年度研究発表会講演概要集	2003. 03
「地震防災に関する技術講座シリーズ」ー（1）地震動と被害予測・防災計画	2003. 04
「地震防災に関する技術講座シリーズ」ー（2）耐震診断と補強	2003. 05
「土木技術者に求められる姿」ー技術士取得のためにー	2004. 02
平成 15 年度研究発表会講演概要集	2004. 03
道路構造物の維持管理を考える	2004. 04
「環境に関する技術講座シリーズ」ー(1) 建設リサイクルと土壤汚染対策	2004. 05
「環境に関する技術講座シリーズ」ー(2) 地球温暖化と自然再生	2004. 06

関西支部

a) 定期刊行物（年 1 回）

- ・年次学術講演会講演概要
平成 7 年度(1995. 5)～平成 15 年度(2003. 5)
- ・施工技術報告会講演概要
平成 5 年度(1994. 1)～平成 15 年度(2004. 1)
- ・支部だより
No. 45(1994. 7)～No. 56(1999. 12) （年 2 回）
No. 57(2000. 7)～No. 60(2003. 7) （年 1 回）

b) 不定期刊行物

書 名	刊行年
FCC ブックレット No. 6 第 3 回 FCC「土木の広報」	1993. 07
同上・No. 7 「TALK IN 国際化」	1993. 08
同上・No. 8 「土木文化考」 ～多面体としての環境～ ～土木の道を歩いて～	1993. 09
講習会 T・鋼構造設計法の総合化と将来展望	1993. 09
FCC ブックレット No. 9 第 4 回 FCC「土木の個性化」	1993. 12
同上・No. 10 第 5 回 FCC「人材の確保」	1993. 12
同上・No. 11 第 6 回 FCC「土木の国際化」	1994. 03
同上・No. 12 平成 5 年度「土木の日」特別講演会 ～テクノパワー～	1994. 05
講習会 T・関西における地下空間の活用と技術	1994. 08
どぼく・とおく	1994. 10
講習会 T・21 世紀の沿岸都市域の水災害と水環境の展望と問題点	1994. 11
FCC ブックレット No. 13 第 7 回 FCC「土木の個性化」 ～環境と景観～	1994. 12
ブルーバックス 地盤の科学 地面の下をのぞいてみると…… （関西支部編 講談社発行）	1995. 09
講習会 T・都市部におけるトンネルの合理的設計・施工	1995. 10
FCC ブックレット No. 14 第 8 回 FCC「土木の人材」 ～土木と女性労働者～	1995. 10
講習会 T・耐震・地震防災の基礎	1995. 12
報告会 T・阪神・淡路大震災調査研究委員会 中間報告会講演集	1996. 09
講習会 T・新しい競争の時代における建設プロジェクトマネジメント方法	1996. 10
講習・研究討論会 T・人と風土に根づいたまちづくり	1996. 11
FCC ブックレット No. 15 第 9 回 FCC「但空（たんくう）井戸端会議」 「徹底討論（男のロマン？ 女のフマン!）」	1996. 12
同上・No. 16 「どぼく・とおく IV in ロサンジェルス」	1996. 12
同上・No. 17 FCC 国際化分科会フォーラム「国際化に向けて」 ～関空の外国企業 JV に学ぶ～	1997. 02
同上・No. 18 FCC の集い「ウッソー、ヤッパシ？」 ～阪神・淡路大震災から半年 土木家の昨日・今日・明日～	1997. 03
同上・No. 19 第 10 回 FCC「土木って何？」 ～社会人 VS 学生～	1997. 04
土木学会関西支部名簿 ー1997 年 創立 70 周年記念事業ー	1997. 07
講習会 T・道路橋の補修・補強 ー環境劣化・荷重変更・震災を踏まえてー	1997. 08
講習・研究討論会 T・比抵抗高密度探査に基づく地盤評価	1997. 09
同上・比抵抗高密度探査に基づく地盤評価 ポスターセッション集	1997. 09
コンクリート構造の設計・施工の基本 ～設計編，施工編～ 第 2 次改訂版	1997. 10
「みつけよう歴史の足跡」調査隊報告集 ～歴史に見る生活の中の土木～	1997. 12
ブルーバックス 川のなんでも小事典 川をめぐる自然・生活・技術 （関西支部編 講談社発行）	1998. 02
関西支部創立 70 周年記念事業記念誌『関西支部会員海外派遣研修援助制度』の歩み	1998. 03
FCC ブックレット No. 20 アジアで活動する各国企業の国際化意識に関する調査・研究団	1998. 04

土木学会関西支部創立 70 周年記念誌	1998. 05
創立 70 周年記念出版 大震災に学ぶ ー阪神・淡路大震災調査研究委員会報告書ー 第Ⅰ巻, 第Ⅱ巻	1998. 06
FCC ブックレット別冊 秀吉と土木 ～神話に思いを馳せ、中世・秀吉の偉業を振り返り、そして現在の土木を考える～	1999. 03
同上・No. 21 「21 世紀の土木へ」 ～土木の DNA を解読する～ 「土木の先達と語る会」	1999. 03
講習会 T・直下型地震による地盤災害	1999. 06
大震災に学ぶ 第 1 巻第 2 編抜粋	1999. 06
講習会 T・橋梁架設の工法選定と安全管理の総合型システム	1999. 07
同上・高齢者・障害者に配慮した交通整備 新たな世紀へのアプローチ ーその考え方と実例ー	1999. 07
FCC ブックレット No. 22 「21 世紀の土木へ」 ～土木の DNA 突然変異の予感～	2000. 03
同上・No. 23 「21 世紀の土木へ」 ～私ならこうする・社会資本整備～	2000. 03
同上・No. 24 「21 世紀の土木へ」 ～黒部の太陽は今も輝いているか～	2000. 04
講習会 T・トンネル切羽前方探査に関するシンポジウム・講演会 講演論文集	2000. 05
講習・研究討論会 T・これからの社会資本整備	2000. 11
講習会 T・緩衝型落橋防止システムに関する調査研究	2001. 07
同上・シールドトンネルの合理的耐震設計法 ガイドライン (案)	2001. 09
FCC ブックレット No. 25 「土木とところ」	2001. 12
同上・No. 26 「FCC10 周年」 ～21 世紀の土木のあり方を考える～	2002. 01
継続教育制度創設記念講習会「これからの技術者像と地域の安全・安心を考える」	2002. 02
講習・研究討論会 T・地下水制御が地盤環境に及ぼす影響評価	2002. 09
講習会 T・LRT による都市づくり	2002. 10
第 2 回継続教育制度講習会「これからの社会資本整備と技術者像」	2003. 01
FCC ブックレット No. 27 「土木構造改革に臨む」 ～考えるべきこと、考えてはならないこと～	2003. 03
講習会 T・浅層大断面トンネル工法 ー多連石造アーチ橋に学ぶ, 都市再生のためのトンネル最新技術ー	2003. 06
同上・交通需要マネジメントを活用した持続可能な交通システム	2003. 09
FCC ブックレット No. 28 「どないすんねん！コミュニケーション！」 ～伝えることと学ぶこと～	2003. 10
コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本 ～設計編, 施工・維持管理編～	2003. 11
土の不思議	2004. 03

中国支部

定期刊行物 (年 1 回)

支部研究発表会講演概要集

平成 7 年度 (第 47 回・1995. 6) ～平成 16 年度 (第 56 回・2004. 5)

不定期刊行物

書 名	刊行年
土木フォトコンテスト 橋のある風景 ※中国四国支部編	1995. 03
土木に対する認識調査報告書～「土木」のイメージ形成におけるマスメディアの影響力～	1996. 03
工事報告会報告書	1996. 11
平成 8 年度感性工学手法に基づく土木構造物の評価・設計システムに関する研究（中国地方における土木の今後のあり方に関する調査研究）報告書	1997. 03
工事報告会報告書	1997. 11
平成 9 年度感性工学手法に基づく土木構造物の評価・設計システムに関する研究（中国地方における土木の今後のあり方に関する調査研究）報告書	1998. 03
「ISO9000S の概説および認証取得から今後の問題点について」	1999. 01
感性工学手法に基づく土木構造物の評価・設計システムに関する研究（中国地方における土木の今後のあり方に関する研究）報告書	1999. 03
平成 11 年度工事報告・講演会～中国地方の地形・地盤特性と土木事業について～	1999. 11
平成 11 年度 フォーラム「土砂災害と広島」	2000. 01
21 世紀の地術者像と地域の安全に向けて ※中国支部・技術推進機構共済	2002. 02
平成 14 年度工事報告会「島根県における社会資本整備の現状とその未来」	2002. 01
降雨および地震により斜面災害の防止と軽減	2003. 01
水系環境の保全と創造をめざして－環境に関する技術－	2003. 09
平成 15 年度工事報告会「鳥取県における社会資本整備の現状とその未来」	2003. 11

16. 行事一覧

16. 1 全国大会および年次学術講演会

・ 平成6年度全国大会

6.9.15～17 北海道大学

- 1) 特別講演 (6.9.16) 北海道大学：教養部 参加者：551 名
「地域格差とその是正への方策」 中村英夫（土木学会会長）
「釧路湿原と賢明な利用」 新庄久志（釧路市立図書館学芸専門員）
 - 2) 研究討論会 (6.9.15) 北海道大学：教養部 参加者：1,344 名 テーマ数：14 題
 - 3) 第49回年次学術講演会 北海道大学：教養部 講演数：3,961 題
参加者受付総数：6,917 名
 - 4) 見学会
1 日コース (6.9.16) 参加者数：42 名
小樽 1 日コース (6.9.17) 参加者数：25 名
1 泊 2 日コース (6.9.17～18) 参加者数：15 名
 - 5) 映画会 (6.9.15～17) 北海道大学教養部 S 棟 参加者数：1,050 名
 - 6) 懇親会 (6.9.16) 京王プラザホテル札幌 参加者数：約 590 名
 - 7) 学生懇談会 (6.9.15) 札幌ビール園 参加者：471 名
 - 8) 市民参加行事
 - ・ コンサート (6.9.15) 道新ホール 参加者：730 名
 - ・ 映画会 (6.9.15) 道新ホール 参加者：550 名
 - ・ 土木プロジェクトパネル展 JR 札幌駅 参加者：延 1,300 名
-

・ 平成7年度全国大会

7.9.19～21 愛媛大学

- 1) 特別講演 (7.9.20) 愛媛県県民文化会館 参加者：2,000 名
「日本における治水の歩みと展望」 小坂 忠（土木学会会長）
「鳥や鯨から見た地球規模での環境の変貌」 立川 涼（高知大学学長）
- 2) 研究討論会 (7.9.19) 愛媛大学：城北地区 参加者：1,602 名 テーマ数：15 題
- 3) 第50回年次学術講演会 愛媛大学：城北地区 講演数：3,801 題
参加者受付総数 参加者：7,039 名
優秀講演者の表彰 表彰者数：266 名
- 4) 阪神・淡路大震災復興対策シンポジウム (7.9.20) 参加者：2,000 名
テーマ：阪神・淡路大震災－その教訓と復興対策－
基調講演：阪神・淡路地区の復興と課題 溜水義久（兵庫県副知事）
コーディネーター 片山恒雄（東京大学生産技術研究所）
話題提供者：松井 保（大阪大学教授）
三木干壽（東京工業大学教授）
岡村 甫（東京大学教授）
高田至郎（神戸大学教授）
河田恵昭（京都大学教授）
- 5) 見学会
A コース：半日（松山市内）コース (7.9.19) 参加者：26 名

- Bコース：1日（西瀬戸大橋）コース（7.9.20） 参加者：78名
- 6）映画会（7.9.19～21） 愛媛大学学生会館 参加者：延 470名
- 第1日目 四国の地域紹介
- 第2日目 阪神・淡路大震災特集
- 第3日目 全国の工事記録
- （28本のビデオと日本建築学会・土木学会綱スライド集を使用）
- 7）懇親会（7.9.20） 愛媛県県民文化会館 参加者：650名
- 8）学生懇談会（7.9.19） 愛媛大学城北キャンパス内（学生会館） 参加者：409名
- 9）市民参加行事（7.9.16～20）
- ・講演会（7.9.19） 松山市総合コミュニティセンター 参加者：1,013名
 - 第一部：演題：阪神大震災に学ぶ 亀田弘行（京都大学教授）
 - 第二部：演題：地球に優しい国際感覚 宮崎 緑（ジャーナリスト・国立環境研究所客員研究員）
 - ・映画会（7.9.19） 松山市総合コミュニティセンター 参加者：336名
 - 上映映画：1.瀬戸大橋
 - 2.西国際空港
 - ・阪神・淡路大震災パネル等展示会（7.9.19～21） 参加者：2,974名
 - ・展示会（7.9.16～20） 松山市総合コミュニティセンター 参加者：6,260名
 - ・起震車の体験乗車（7.9.19） 松山市総合コミュニティセンター 参加者：58名
-

・ 平成8年度全国大会

- 8.9.17～19 名城大学：天白キャンパス
- 1）特別講演（8.9.18） 愛知芸術文化センター 参加者：1,200名
- 「歴史的転換期の渦中にある工学」 松尾 稔（土木学会会長）
- 「モノ創りと数学」 四方義啓（名古屋大学教授）
- 2）研究討論会（8.9.17） 名城大学 参加者：1,602名 テーマ教：15題
- 3）第51回年次学術講演会 名城大学：天白キャンパス 講演数：3,949題
- 参加者受付総数 参加者：7,553名
- 優秀講演者の表彰 表彰音数：265名
- 4）見学会
- Aコース（長良川河口堰，木曽三川公園）：（8.9.18） 参加者：40名
- Bコース（伊勢湾岸道路，名古屋港水族館，長良川河口堰）：（8.9.19） 参加者：42名
- Cコース（東海北陸自動車道，安房トンネル，乗鞍岳ほか）：（8.9.19） 参加者：37名
- 5）映画会（8.9.17） 名城大学天白キャンパス 参加者：延 1,067名
- 6）懇親会（8.9.18） 名古屋観光ホテル 参加者：700名
- 7）学生懇談会（8.9.17） 名城大学天白キャンパス食堂 参加者：200名
- 8）市民参加行事（8.9.13～20）
- ・講演会（8.9.16） 名古屋教育センター 参加者：750名
 - 開会あいさつ 井上靖武（実行委員長）
 - 第一部：講演：北野 大（淑徳大学教授：タレント）
 - 題目：マー兄ちゃんが考えた土木と環境との調和
 - 第二部：パネルディスカッション
 - パネラー：北野 大

林 良嗣（名古屋大学）
夢堂由里子（人形作家）
李 富生（岐阜大学留学生）
井上靖武（実行委員長）

コーディネータ：天野鎮雄（俳優）

第三部：アトラクション

名古屋フィルハーモニー交響楽団金管奏者による金管五重奏

- 9) 市民民見学会（8.9.16） 伊勢湾道路，名港中央大橋など 参加者：250 名
10) パネル・写真展（8.9.13）栄セントラルパーク地下街 参加者：一般市民多数
- ・中部三大プロジェクト（中部新国際空港，リニア中央新幹線，第二東名・名神）の紹介
 - ・古くからの土木施設写真（前名古屋大学馬場教授提供）
 - ・関係各機関から提供パネル展を実施

・平成9年度全国大会

9.9.10～12 中央大学：多摩キャンパス

- 1) 特別講演（9.9.11） 中央大学クレセントホール 参加者：600 名
「安全な生活,強い産業を支える社会資本整備」 宮崎 明（土木学会会長）
「土木的時間と空間の拡張」 鈴木隆介（中央大学理工学部長）
- 2) 研究討論会（9.9.10） 中央大学 参加者：1,721 名 テーマ数：19 題
- 3) 第 52 回年次学術講演会 中央大学：多摩キャンパス 講演数：3,518 題
参加者受付総数 参加者：6,545 名
優秀講演者の表彰 表彰音数：241 名
- 4) 見学会
A コース（東京港ウォーターフロント・荒川放水路）：（9.9.10） 参加者：14 名
B コース（東京湾アクアライン）：（9.9.11） 参加者：95 名
C コース（山梨リニアモーター実験線）：（9.9.12） 参加者：44 名
- 5) 映画会（9.9.10～12） 中央大学クレセントホール
・「黒部の太陽」ノーカット版上映 参加者：760 名
・大会テーマ関連のビデオ 40 本上映 参加者：704 名
- 6) 交流会（9.9.11） 京王プラザホテル 参加者：500 名
- 7) 学生交流会（9.9.10）中央大学ヒルトップ 78 参加者：200 名
- 8) 土木技術パネル展示会（9.9.10～12） 中央大学 参加者：2,000 名
- 9) 市民参加行事（9.9.6～12）
- ・講演会（9.9.6） パルテノン多摩大ホール 参加者：1,200 名
開会あいさつ 藤井友竝（実行委員長）
第一部：講演「まちづくりは人づくり」
講師：ケント・ギルバート（ニュースパーソナリティー）
第二部：パネルディスカッション
パネラー：ケント・ギルバート（ニュースパーソナリティー），
依田和夫（慶応義塾大学教授）
大久保恭子（週刊住宅情報編集長）
篠原 修（東京大学教授）

渡辺豊博（三島ゆうすい会事務局長）

コーディネーター：斎藤宏保（NHK 解説委員）

テーマ：「都市と環境」～人と自然と風土をいかしたまちづくり～

- ・市民映画会（9.9.6） パルテノン多摩 参加者総数：150 名
- ・「土木の世紀」他ビデオ上映
- ・土木写真展 東京駅丸の内北口ドーム 延べ参加者：30,000 名
- ・「技術造形家の仕事を訪ねて」

・ 平成 10 年度全国大会

10.10.4～6 神戸大学

- 1) 特別講演（10.10.5） 神戸ポートピアホール 参加者：792 名

「プロジェクトの評価」 岡田 宏（土木学会会長）

「激動する日本と公共投資の行方」小浜維人（元 NHK 解説委員長）

- 2) 研究討論会（10.10.4） 神戸大学 参加者：1,449 名 テーマ数：15 題

- 3) 第 53 回年次学術講演会 神戸大学 講演数：4,087 題

参加者受付総数 参加者：6,910 名

優秀講演者の表彰 参加者：257 名

- 4) 見学会

A コース（明石海峡大橋見学）：（10.10.4） 参加者：45 名

B コース（神戸港震災復興見学）：（10.10.5） 参加者：25 名

C コース（神戸震災復興と明石海峡大橋見学）：（10.10.6） 参加者：35 名

- 5) 映画会（10.10.4～6） 神戸大学国際文化学部

「マグニチュード」, 「地球が動いた日」, 「忘れたらあかん Day」, 大会テーマ関連のビデオ 31 本上映 参加者：292 名

- 6) 交流会（10.10.5） 神戸ポートピアホテル 参加者：568 名

- 7) 学生交流会（10.10.5） 神戸大学国際文化学部食堂 参加者：79 名

- 8) 市民参加行事（10.9.15～10.17）

- ・映画会（10.10.4）上記 5）と共通

- ・パネル展示（10.9.27～10.11）〔震災・土木技術関連〕 JR 神戸, 三宮, 六甲道, JR 神戸

JR 三宮

JR 六甲道

JR 北新地

JR 大阪天満宮 の各駅

- ・明石海峡大橋関連のビデオ上映（10.9.25～26） あい・ビジョン大阪

- ・見学会（10.10.17） 神戸市営地下鉄海岸線工事現場

・ 平成 11 年度全国大会

11.9.22～23 広島大学：東広島キャンパス

- 1) 特別講演（11.9.23） 広島国際会議場 参加者：604 名

「次世代の設計技術」 岡付 甫（土木学会会長）

「産学官共同体制について」 水野博之（広島県産業科学技術研究所所長）

- 2) 研究討論会 (11. 9. 22) 広島大学 参加者：1, 323 名 テーマ数：16 題
 - 3) 第 54 回年次学術講演会 広島大学：東広島キャンパス 講演数：2, 434 題
参加者受付総数 参加者：5, 544 名
優秀講演者の表彰 表彰指数：150 名
 - 4) 見学会：温井ダム (11. 9. 22) 参加者：28 名
 - 5) 報告会：トルコ地震調査 (11. 9. 23) 参加者：253 名
 - 6) 交流会 (11. 9. 23) 広島国際会議場 参加者：297 名
 - 7) 学生交流会 (11. 9. 22) 広島大学東複利会館 参加者：60 名
 - 8) 市民参加行事 (11. 9. 17～24)
 - ・橋梁技術展 (しまなみ海道展) (11. 9. 17～24) 広島駅新幹線口コンコース
 - ・みる・きく・ふれる建設技術フェア (11. 9. 17～19) 中央公園自由広場
-

・ 平成12年度全国大会

12. 9. 21～23 東北大学：川内北キャンパス

- 1) 特別講演会 (12. 9. 22) 仙台国際センター 参加者：880名
「社会資本整備の課題と土木学会の役割」 鈴木道雄 (土木学会会長)
「公共と市民 ～都市について考える～」 樋口陽一 (早稲田大学教授)
 - 2) 特別討論会・市民参加行事 (12. 9. 22) 仙台国際センター 参加者：987名
「社会資本と土木技術に関する2000年仙台宣言 (案) ～土木技術者の決意～」
 - 3) 研究討論会 (12. 9. 21～22) 東北大学 参加者：2, 326名 討論会題：21題
 - 4) 第55回年次学術講演会 東北大学：川内北キャンパス 講演数：3, 890題
参加者受付総数 参加者：18, 685名
優秀講演者の表彰 表彰者数：227名
 - 5) 交流会 (12. 9. 22) 仙台国際センター 参加者：382名
 - 6) 学生交流会 (12. 9. 21) 東北大学厚生会館内食堂 参加者：70名
-

・ 平成13年度全国大会

13. 10. 2～4 熊本大学：黒髪キャンパス

- 1) 特別講演会 (13. 10. 3) 熊本市市民会館 参加者：1, 650名
「そしてユニバーサルデザイン」 潮谷義子 (熊本県知事)
「地球環境制約の時代をむかえて近代の卒業のために」 丹保憲仁 (土木学会会長)
- 2) 全体討論会 (13. 10. 3) 熊本市市民会館 参加者：1, 650名
「あなたは土木に何を求めますか？」－21世紀の社会資本整備のあり方，地方中核都市“熊本”からの発言－
座長：吉原 進 (鹿児島大学教授)
話題提供者：本間義人 (法政大学教授)
舩添要一 (舩添政治経済研究所所長)
宮崎 緑 (千葉商科大学助教授)
- 3) 研究討論会 (13. 10. 2) 熊本大学 参加者：1, 295名 討論会題：17題
- 4) 第56回年次学術講演会 熊本大学 講演数：3, 743題
参加者受付総数 参加者：20, 231名
優秀講演者の表彰 表彰者数：219名

- 5) 交流会 (13. 10. 3) 熊本ホテルキャッスル 参加者 : 373名
6) 学生交流会 (13. 10. 2) 熊本大学北地区学生会館食堂 参加者 : 101名
-

• 平成 14 年度全国大会

14. 9. 25～27 北海道大学

- 1) 特別講演会 (14. 9. 26) 札幌市民会館 参加者 : 1, 550 名
基調講演 : 「土木界をより知ってもらうために—土木学会の情報発信改革—」
岸 清 (土木学会会長)
パネルディスカッション : 「土木技術の社会性と土木学会の変革—21 世紀を創る土木界に求められるもの—」
コーディネーター : 川嶋康宏 (土木学会副会長・企画委員会委員長)
パネリスト : 長坂寿久 (拓殖大学国際開発学部教授)
横島庄治 (高崎経済大学地域政策学部教授)
林 良嗣 (土木学会企画委員会幹事長)
- 2) 全体討論会 (14. 9. 26) 札幌市民会館 参加者 : 1, 550 名
テーマ : 「自然環境共生インフラグローバルに考えローカルからの行動を—」
コーディネーター : 佐伯 浩 (北海道大学大学院工学研究科長・工学部長)
パネリスト : 川口孝太郎 (北海道栗山町長)
倉阪秀史 (千葉大学法経学部助教授)
高野文彰 (ランドスケープアーキテクト)
星野知子 (女優)
- 3) 研究討論会 (14. 9. 25) 北海道大学 参加者 : 1, 645 名 討論会題 : 22 題
- 4) 第 57 回年次学術講演会 北海道大学 講演数 : 4, 326 題
参加者受付総数 参加者 : 23, 501 名
優秀講演者の表彰 表彰者数 : 254 名
- 5) 交流会 (14. 9. 26) ホテルニューオータニ札幌 参加者 : 544 名
- 6) 学生交流会 (14. 9. 25) 北海道大学内レストラン「はるたれ」 参加者 : 111 名
-

• 平成 15 年度全国大会

15. 9. 24～26 徳島大学 : 常三島キャンパス

- 1) 特別講演会 (15. 9. 25) 徳島市立文化センター 参加者 : 1, 400 名
基調講演 : 「土木技術者の気概の高揚を目指して！」 御巫清泰 (土木学会会長)
- 2) 特別討論会 (15. 9. 25) 徳島市立文化センター 参加者 : 1, 400 名
テーマ : 「地震防災と社会基盤整備」安全・安心な社会基盤の構築に向け土木学会は何ができるか、一何をなすべきか—
コーディネーター : 山上拓男 (徳島大学工学部教授)
村上仁士 (徳島大学大学院工学研究科教授)
澤田 勉 (徳島大学工学部教授)
パネリスト : 伊藤和明 (NPO 法人・防災情報機構会長)
入倉孝次郎 (京都大学防災研究所教授)
河田恵昭 (京都大学防災研究所教授)
五軒家憲次 (徳島県海南町長)

重川希志依（富士常葉大学環境防災学部教授）

土岐憲三（立命館大学理工学部教授）

古田光弘（（社）徳島新聞社論説委員会論説委員）

安田 進（東京電機大学理工学部教授）

3）研究討論会（15.9.26） 徳島大学 参加者：1,294名 討論会題：20題

4）第58回年次学術講演会 徳島大学：常三島キャンパス 講演数：4,011題

参加者受付総数 参加者：20,057名

優秀後援者の表彰 参加者：255名

5）交流会（15.9.25） ホテルクレメント徳島 参加者：364名

6）学生交流会（15.9.24） 徳島大学：常三島キャンパス 参加者：72名

16. 2 講習会, 講演会, シンポジウム, 見学会等一覧

1994(H6 年)	・ 講演会, 研究発表会, シンポジウム, 討論会		
1)6.4.13	定例映画会	土木図書館講堂	12 名
2)6.5.17	構造工学講演会		42 名
3)6.6.9~10	第 14 回土木史研究発表会	日本大学会館	120 名
4)6.6.9~10	都市域急流河川の河床変動の数値解析に関するシンポジウム	北海道開発局開発土木研究所	99 名
5)6.6.13~14	第 19 回海洋開発シンポジウム	土木図書館講堂	263 名
6)6.6.27~28	地下空間利用シンポジウム 1994	コクヨホール	280 名
7)6.6.29	第 4 回環境水理部会研究討論会	電力中央研究所我孫子研究所	37 名
8)6.7.1	ノースリッジ地震日米合同ワークショップ	土木会館 AB 会議室	50 名
9)6.6.30~7.1	第 2 回地球環境シンポジウム	中央大学駿河台記念館	295 名
10)6.7.21	火山工学シンポジウム	コクヨホール	97 名
11)6.8.25~31	第 24 回国際海岸工学会議	神戸国際会議場	外国 292 名 国内 335 名
12)6.8.25	コンクリート標準示方書(舗装編)に関するワークショップ	日本都市センター	229 名
13)6.8.25~26	第 22 回環境システム研究論文発表会	中央大学駿河台記念館	210 名
14)6.10.28	第 28 回土木計画学シンポジウム	中央大学駿河台記念館	120 名
15)6.10.20	「第 16 回土木学会映画・ビデオコンクール」表彰式	野口英世記念館	50 名
16)6.10.28	H 6 年度第 1 回岩盤力学委員会研究報告会	土木図書館講堂	63 名
17)6.11.1~2	第 19 回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	191 名
18)6.11.10~11	第 4 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	250 名
19)6.11.15	構造工学委員会風洞実験相似則検討小委員会研究報告会	土木図書館講堂	103 名
20)6.11.18	環境システム委員会第 4 回地域シンポジウム	仙台国際センター	120 名
21)6.11.22	第 14 回施工体験発表会	中央大学駿河台記念館	183 名
22)6.11.29~12.1	第 41 回海岸工学講演会	中央大学駿河台記念館	532 名
23)6.12.8	第 8 回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	120 名
24)6.12.9	第 1 回講演と懇談の会	徳島厚生年金会館	(講演会 150 名, 懇 親 会 62 名)
25)6.12.15~17	第 31 回環境工学研究フォーラム	帝京大学研修ハウス	224 名
26)6.12.13~14	第 12 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	中央大学駿河台記念館	382 名
27)6.12.14	定例映画会	土木図書館講堂	11 名
28)6.12.16	第 1 回土木学会定例談話会	土木会館 AB 会議室	54 名
29)7.1.9~11	第 17 回土木計画学研究発表会	栃木県総合文化センター	780 名

30)7.1.10	応用力学フォーラム(関西地区)	京大会館	28 名
31)7.1.13	第 2 回土木学会定例談話会	土木会館 AB 会議室	72 名
32)7.1.17	定例映画会	土木図書館講堂	10 名
33)7.1.18	第 2 回講演と懇談の会	建設交流会館	阪神・淡 路大震災 の発生に より急遽 中止
34)7.1.19～20	第 26 回岩盤力学に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	230 名
35)7.2.8	定例映画会	土木会館 AB 会議室	8 名
36)7.2.10	第 3 回土木学会定例談話会	土木会館 AB 会議室	35 名
37)7.2.28	エネルギー土木施設の維持管理技術に関する研究報告会	野口英世記念館	167 名
38)7.2.10	第 4 回土木学会定例談話会	土木会館 AB 会議室	61 名
39)7.2.13	応用力学フォーラム(北海道地区)	札幌市民会館	40 名
40)7.3.8	定例映画会	土木会館 AB 会議室	10 名
41)7.3.10	第 8 回環境システムシンポジウム	土木会館 AB 会議室	75 名
42)7.3.13	応用力学フォーラム(東北地区)	勾当台会館	15 名
43)7.3.15	応用力学フォーラム(九州地区)	自治会館	124 名
44)7.3.17	応用力学フォーラム(関東地区)	東海大学工学部	10 名
45)7.3.23	応用力学フォーラム(中国・四国地区)	岡山大学	27 名
46)7.3.26	第 7 回アゲールシンポジウム	中央大学駿河台記念館	50 名
47)7.3.27～28	第 39 回水理講演会 ・講習会, 研修会	中央大学駿河台記念館	321 名
1)6.4.11	美しい橋のデザインマニュアル第 2 集	栄ガスホール	89 名
2)6.4.21	土木計画学ワンディーセミナーシリーズ 2	土木会館 AB 会議室	60 名
3)6.5.11	「トンネル標準示方書(開削編)・同解説に基づいた仮設構造物の設計計算例」講習講習会	コクヨホール	248 名
4)6.5.19	美しい橋のデザインマニュアル第 2 集	沖縄建設労働者研修福祉センター	50 名
5)6.5.25	「プレストレストコンクリート構造の現況と設計方法の動向」技術講習会	津田ホール	282 名
6)6.6.29	土木計画学国際セミナー	土木会館 AB 会議室	40 名
7)6.7.5	「プレストレストコンクリート構造の現況と設計方法の動向」コンクリートセミナー	社会文化会館	372 名
8)6.7.27	変わりゆく社会環境と技術革新	津田ホール	282 名
9)6.7.31～8.2	1994 年度水工学に関する夏期研修会 A コース B コース	大阪大学	120 名 106 名
10)6.8.29	コンクリートの基準の動向に関する講習会	野口英世記念館	150 名
11)6.8.22～23	第 28 回夏期講習会・見学会	なにわ会館	60 名

12)6.8.29	美しい橋のデザインマニュアル第2集	群馬建設会館	74名
13)6.8.31	鋼構造物の終局強度と設計に関する講習会(東京会場)	野口英世記念館	163名
14)6.9.2	鋼構造物の終局強度と設計に関する講習会(大阪会場)	建設交流館	112名
15)6.9.19	舗装工学セミナー	北海道大学	70名
16)6.9.22	第6回新しい材料・工法・機械講習会	中央大学駿河台記念館	253名
17)6.9.27	美しい橋のデザインマニュアル第2集	福岡県教育会館	80名
18)6.9.30	美しい橋のデザインマニュアル第2集	建設交流会館	83名
19)6.9.30	美しい橋のデザインマニュアル第2集	八丁堀シャンテ	82名
20)6.10.19	土木自然学懇談会第1回セミナー	土木会館 AB 会議室	17名
21)6.10.26	マスコンクリート技術の現状に関するコンクリートセミナー	土木図書館講堂	96名
22)6.11.9	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	39名
23)6.11.9	マスコンクリート技術の現状に関するコンクリートセミナー	愛知県中小企業センター	50名
24)6.11.22	マスコンクリート技術の現状に関するコンクリートセミナー	八丁堀シャンテ	115名
25)6.12.2	土木計画学ワンディーセミナーシリーズ3	土木会館 AB 会議室	40名
26)6.12.8	土木計画学ワンディーセミナーシリーズ4	土木会館 AB 会議室	90名
27)6.12.9	火山工学セミナー	鹿児島大学	90名
28)6.12.14	電子図書館の計画と実現セミナー	土木会館 AB 会議室	45名
29)6.12.15	「岩盤斜面の安定解析と計測」発刊に伴う講習会	津田ホール	240名
30)6.12.16	セグメントの設計講習会	コクヨホール	183名
31)7.1.13	土木自然学懇談会第2回セミナー	ホテル京阪	23名
32)7.1.19	コンクリート構造物の耐震設計に関する講習会	土木図書館講堂	109名
33)7.1.27	東京湾横断道路の施工技術(その2講習会	中央大学駿河台記念館	179名
34)7.2.10	建設マネジメント原論講習会	コクヨホール	155名
35)7.2.16	第13回建設用ロボットに関する技術講習会	日本薬学会長井記念ホール	122名
36)7.2.22	最新の施工技術 1995.2	中央大学駿河台記念館	119名
37)7.3.22	土木自然学懇談会第3回セミナー	土木会館 AB 会議室	10名

1995(H7 年)	・講演会，研究発表会，シンポジウム，討論会		
1)7.4.5～6	第 41 回構造工学シンポジウム	日本学術会議	440 名
2)7.4.12	定例映画会	土木図書館講堂	6 名
3)7.4.14	第 5 回定例談話会「津波をどう防ぐか」	土木会館 AB 会議室	32 名
4)7.4.20	都市熱環境に関する学際シンポジウム	土木会館 AB 会議室	75 名
5)7.4.27	ミティゲーションパネル講演会	土木図書館講堂	122 名
6)7.4.28	Prof.E.C.AifAntis 特別講演会	土木会館 B 会議室	16 名
7)7.5.10	定例映画会及び選定映画・ビデオ審査会		10 名
8)7.5.12	第 6 回定例談話会「地震／防災／土木技術」	土木会館 AB 会議室	41 名
9)7.6.8～9	河道の水理と河川環境シンポジウム	建設省土木研究所	143 名
10)7.6.8～10	第 15 回土木史研究発表会	長崎大学	160 名
11)7.6.14	定例映画会	土木図書館講堂	3 名
12)7.6.21	土木計画学ワンディセミナーシリーズ 5	土木会館 AB 会議室	70 名
13)7.6.22～23	第 20 回海洋開発シンポジウム	土木図書館講堂	236 名
14)7.6.28	応用力学フォーラム	名古屋工業大学	43 名
15)7.7.7～8	第 3 回地球環境シンポジウム	京大会館	194 名
16)7.7.12	第 8 回定例談話会「テレビは阪神大震災をどう伝えたか」	土木会館 AB 会議室	44 名
17)7.7.12	定例映画会	土木図書館講堂	6 名
18)7.7.14	第 5 回環境水理部会研究討論会	立命館大学	51 名
19)7.7.14	応用力学フォーラム(乱流フォーラム)	名古屋工業大学	30 名
20)7.7.18	応用力学フォーラム	東北大学	18 名
21)7.7.27～29	第 23 回地震工学研究発表会	東京都立大学	328 名
22)7.7.28	舗装に関する学術研究講演会	土木図書館講堂	60 名
23)7.8.7～8	第 3 回振動制御に関するコロキウム	土木図書館講堂	92 名
24)7.8.8	第 9 回定例談話会「阪神大震災；断層破壊のメカニズム」	土木会館 AB 会議室	57 名
25)7.8.23～25	第 23 回環境システム研究論文発表会	立命館大学	300 名
26)7.8.29	応用力学フォーラム	北海道大学学術交流 会館	51 名
27)7.9.13	定例映画会	土木図書館講堂	9 名
28)7.9.18	アゲールフォーラム' 95「自然・倫理・価値」	愛媛大学	25 名
29)7.9.26	火山工学フォーラム	コクヨホール	50 名
30)7.10.5	ランドフィルフォーラム	銀座ガスホール	70 名
31)7.10.11	定例映画会	土木図書館講堂	4 名
32)7.10.18	第 11 回定例談話会「阪神大震災；自治体エンジニアの対 応と課題」	土木会館 AB 会議室	53 名
33)7.10.21	応用力学フォーラム(乱流フォーラム)	京大会館	40 名
34)7.10.24～25	第 20 回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念 館	170 名
35)7.11.8	定例映画会	土木図書館講堂	5 名

36)7.11.8	第5回地域シンポジウム	山口県セミナーパーク	240名
37)7.11.9～10	第3回合成構造の活用に関するシンポジウム	愛知県厚生年金会館	221名
38)7.11.10	第12回定例談話会「阪神大震災と建築」	土木会館 AB 会議室	30名
39)7.11.14	公開フォーラム「海岸工学はエスチュアリー環境を救えるか」	中国工業技術研究所	60名
40)7.11.15～17	第42回海岸工学講演会	広島国際会議場	450名
41)7.11.21～22	第5回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	330名
42)7.11.30～12.1	橋梁交通振動に関するコロキウム	土木図書館講堂	121名
43)7.12.6～7	地下空間シンポジウム	土木学会	140名
44)7.12.7～9	環境工学研究フォーラム	北海道大学学術交流会館	210名
45)7.12.8	第13回定例談話会「地盤工学の誕生と明日への課題」	土木会館 AB 会議室	44名
46)7.12.11～12	第4回システム最適化に関するシンポジウム	土木図書館講堂	95名
47)7.12.13	定例映画会	土木図書館講堂	4名
48)7.12.13～14	第13回建設マネジメント問題に関する研究発表討論会	中央大学駿河台記念館	401名
49)8.1.10	定例映画会	土木図書館講堂	8名
50)8.1.19	第14回定例談話会「阪神・淡路大震災に対する土木学会第二次提言の考え方」	土木会館 AB 会議室	51名
51)8.1.25～26	阪神・淡路大震災に関する学術講演会	中央大学駿河台記念館	1,071名
52)8.2.1	第9回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	111名
53)8.2.1～2	第27回岩盤力学に関するシンポジウム	東医健保会館	288名
54)8.2.7	応用力学フォーラム(北海道地区)	函館市民会館	60名
55)8.2.14	定例映画会	土木図書館講堂	4名
56)8.3.11	第9回環境システムシンポジウム	土木図書館講堂	120名
57)8.3.13～14	高流動コンクリートシンポジウム	JA ビル	237名
58)8.3.15	H7年度岩盤力学委員会研究報告会	土木図書館講堂	80名
59)8.3.17	第8回アゲールシンポジウム	土木図書館講堂	75名
60)8.3.18～19	第40回水理講演会	中央大学駿河台記念館	375名
61)8.3.20	応用力学フォーラム(九州地区)	長崎大学	101名
62)8.3.26	応用力学フォーラム(中部地区)	名古屋工業大学	16名
	・講習会, 研修会		
1)7.5.26	舗装工学講習会	コクヨホール	143名
2)7.6.8	舗装工学講習会	北海道大学学術交流会館	96名
3)7.6.30	舗装工学講習会	福岡自治会館	133名

4)7.7.3	土木情報システム講習会	関西大学百周年記念館	119 名
5)7.7.7	舗装工学講習会	大阪科学技術センター	105 名
6)7.7.25～27	第 31 回水工学に関する夏期研修会 A コース B コース	北見工業大学	114 名 86 名
7)7.8.21～22	第 29 回夏期講習会	土木会館 AB 会議室	50 名
8)7.8.25	土木建設業における環境管理・監査(ISO14000 への対応)講習会	土木図書館講堂	109 名
9)7.9.7	海岸海洋構造物基礎地盤の波浪安定性講習会	土木図書館講堂	120 名
10)7.9.7	舗装工学講習会	匂当台会館	166 名
11)7.9.13	土木建設業における環境管理・監査(ISO14000 への対応)講習会	大阪建設交流館	20 名
12)7.10.5	シリカフュームを用いたコンクリートの設計施工指針(案)講習会	野口英世記念会館	128 名
13)7.10.6	舗装工学講習会	愛知厚生年金会館	94 名
14)7.10.19	シリカフュームを用いたコンクリートの設計施工指針(案)講習会	建設交流館	98 名
15)7.10.27	シリカフュームを用いたコンクリートの設計施工指針(案)講習会	福岡県自治会館	79 名
16)7.10.30	コンクリート構造物の維持管理指針(案)講習会	早稲田大学国際会議場	205 名
17)7.11.8	コンクリート構造のエスセティックス講習会	発明会館	86 名
18)7.11.13	衛星データの実利用研修会(1 回)	土木会館 AB 会議室	39 名
19)7.11.15	コンクリート構造物の耐久設計指針(案)講習会	コクヨホール	133 名
20)7.11.20	衛星データの実利用研修会(2 回)	土木会館 AB 会議室	37 名
21)7.11.21	コンクリート構造物の維持管理指針(案)講習会	建設交流館	179 名
22)7.12.4	衛星データの実利用研修会(3 回)	土木会館 AB 会議室	39 名
23)7.12.6～8	第 18 回土木計画学研究発表会	北九州国際会議場	600 名
24)7.12.13	衛星データの実利用研修会(4 回)	土木会館 AB 会議室	40 名
25)8.1.12	「地下空間と人間」シリーズ出版記念講習会(東京)	発明会館	184 名
26)8.1.17	「地下空間と人間」シリーズ出版記念講習会(札幌)	北海道建設会館	129 名
27)8.1.17	衛星データの実利用研修会(5 回)	土木会館 AB 会議室	86 名
28)8.1.23	コンクリート構造のエスセティックス講習会	建設交流館	82 名
29)8.1.31	衛星データの実利用研修会(6 回)	土木会館 AB 会議室	29 名
30)8.2.7	「地下空間と人間」シリーズ出版記念講習会(大阪)	建設交流館	106 名
31)8.2.19	衛星データの実利用研修会(7 回)	土木会館 AB 会議室	23 名
32)8.2.20	舗装工学講習会(新潟)	新潟大学	186 名
33)8.2.23	都市 NATM とシールド工法～設計法の現状と課題講習会	野口英世記念館	160 名

34)8.2.28	衛星データの実利用研修会(8回)	土木会館 AB 会議室	28 名
35)8.3.4	衛星データの実利用研修会(9回)	土木会館 AB 会議室	27 名
36)8.3.7～8	コンクリート標準示方書(H8年版)制定に伴う講習会	日比谷公会堂	966 名
37)8.3.27	衛星データの実利用研修会(10回)	土木会館 AB 会議室	22 名
38)8.3.27～28	コンクリート標準示方書(H8年版)制定に伴う講習会	大阪厚生年金会館	526 名

1996(H8 年)	・講演会，研究発表会，シンポジウム，討論会		
1)8.4.5	第 17 回定例談話会「就職市場として見た土木と建設産業」	土木会館 AB 会議室	22 名
2)8.4.10～11	第 42 回構造工学シンポジウム	京大会館	319 名
3)8.4.25	応用力学フォーラム(関西地区)	京都大学	28 名
4)8.5.9	第 18 回定例談話会「首都移転の意味するもの」	土木会館 AB 会議室	50 名
5)8.5.24	第 2 回応用力学フォーラム(中国・四国地区)	広島工業大学	
6)8.5.31	「これからの防災計画と地域づくり」シンポジウム	神戸市産業振興センター	251 名
7)8.6.6～7	第 16 回土木史研究発表会	秋田大学	159 名
8)8.6.6～7	第 3 回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム	土木図書館講堂	194 名
9)8.6.7	第 19 回定例談話会「日本のトンネル技術」	土木会館 AB 会議室	47 名
10)8.6.7	応用力学フォーラム(乱流フォーラム)	九州大学	58 名
11)8.6.27	非線形力学小委員会及び応用力学フォーラム(中部地区)		36 名
12)8.7.3～5	第 4 回地球環境シンポジウム	中央大学駿河台記念館	239 名
13)8.7.4～5	第 23 回海洋開発シンポジウム	日本大学会館	220 名
14)8.7.11	第 20 回定例談話会「新しい(第 5 次)全国総合開発計画の議論」	土木会館 AB 会議室	53 名
15)8.7.11～12	第 1 回水シンポジウム	鳥取県民文化会館	450 名
16)8.7.12	風洞実験相似則検討小委員会研究報告会	土木図書館講堂	134 名
17)8.7.12～13	第 3 回鉄道連合シンポジウム' 96	コクヨホール	414 名
18)8.7.16	建設マネジメント委員会 B・D 小委員会有識者フォーラム	土木会館 AB 会議室	24 名
19)8.7.20	なぎさ観察会	葉山海岸	70 名 (親子 20 組)
20)8.7.22	海の日記念講演会	横浜港大棧橋国際旅客ターミナル	106 名
21)8.8.2	第 21 回定例談話会「活断層と地震予測」	土木会館 AB 会議室	33 名
22)8.8.3	一般公開シンポジウム「地球環境問題に取り組む最近の土木建設業」	中央大学駿河台記念館	314 名
23)8.9.6	第 22 回定例談話会「超高解像度衛星データの利用」	土木会館 AB 会議室	37 名
24)8.9.13	鉄道力学シンポジウム	土木会館 AB 会議室	70 名
25)8.10.3	応用力学フォーラム(乱流フォーラム)	土木図書館講堂	22 名
26)8.10.8	第 23 回定例談話会	土木会館 AB 会議室	72 名
27)8.10.11	第 2 回土木技術映像の一般公開	東京日比谷公園	出席者 : 山下・高橋
28)8.10.22～23	第 30 回土木計画学シンポジウム	コクヨホール	181 名
29)8.10.30	第 24 回環境システム研究論文発表会	中央大学駿河台記念館	250 名
30)8.11.1	第 24 回定例談話会「大深度地下空間開発技術の現状につ	土木会館 AB 会議室	33 名

	いて」		
31)8.11.2～4	第 19 回土木計画学研究発表会	室蘭工業大学	807 名
32)8.11.7～8	第 1 回免震・制震コロキウム	土木図書館講堂	260 名
33)8.11.12	第 5 回セミナー「土木自然学懇談会」	土木会館 A 会議室	12 名
34)8.11.12	最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー	土木図書館講堂	103 名
35)8.11.13～15	第 43 回海岸工学講演会	和歌山県民文化会館	550 名
36)8.11.19	「第 17 回土木学会映画・ビデオコンクール」表形式	文京シビックホール	34 名
37)8.11.19～20	第 21 回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	300 名
38)8.11.20	最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー	大阪科学技術センター	78 名
39)8.11.21	第 6 回トンネル工学研究発表会	東医健保会館	273 名
40)8.11.22	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	61 名
41)8.11.26	土木計画ワンディセミナーシリーズ 8	土木図書館講堂	94 名
42)8.11.30	第 3 回土木技術映像の一般公開	攻玉社工科短期大学	約 40 名
43)8.12.2	文化財の登録制度と近代土木遺産の保存・活用シンポジウム	土木図書館講堂	80 名
44)8.12.3	最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー	生コン会館	99 名
45)8.12.6	第 25 回定例談話会「社会資本を考える視点」	土木学会 AB 会議室	45 名
46)8.12.6	火山工学研究会(火山地域の防災)	土木図書館講堂	45 名
47)8.12.9	第 10 回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	131 名
48)8.12.12～13	第 14 回建設マネジメント問題に関する研究発表会・討論会	中央大学駿河台記念館	330 名
49)8.12.13	舗装工学研究小委員会	土木図書館講堂	182 名
50)8.12.12～14	第 33 回環境工学研究フォーラム	金沢大学秀峰会館	275 名
51)9.1.10	応用力学「乱流フォーラム」	大阪大学工業会館	
52)9.1.10	鋼構造の新技术に関する講習会	電通労働会館	264 名
53)9.1.10	第 26 回定例談話会「地方からみた公共投資」	土木会館 AB 会議室	27 名
54)9.1.17	環境システム委員会「地域シンポジウム」	つくば研究交流センター	90 名
55)9.1.17	第 2 回地下空間シンポジウム	発明会館	219 名
56)9.1.22	フォーラム「大震災の教訓を活かすために」(東京会場)	中央大学駿河台記念館	370 名
57)9.1.23～24	阪神・淡路大震災に関する学術講演会	中央大学駿河台記念館	544 名
58)9.1.27	環境システム委員会「地域シンポジウム」	つくば研究交流センター	90 名
59)9.1.30～31	第 28 回岩盤力学に関するシンポジウム	総評会館	286 名

60)9.2.5	応用力学フォーラム(北海道地区)	札幌市民会館	76 名
61)9.2.7	第 27 回定例談話会	土木会館 AB 会議室	34 名
62)9.2.13	フォーラム「大震災の教訓を活かすために」	建設交流館	237 名
63)9.2.18	第 15 回施工体験発表会	中央大学駿河台記念館	124 名
64)9.3.7	第 28 回定例談話会	土木会館 AB 会議室	30 名
65)9.3.13	安全問題討論会' 97	中央大学駿河台記念館	357 名
66)9.3.20	応用力学フォーラム(九州地区)	福岡大学	60 名
67)9.3.24	第 10 回環境システムシンポジウム	土木図書館講堂	129 名
68)9.3.26	岩盤力学研究発表会 ・講習会, 研修会	弘済会館	76 名
1)8.4.17	第 10 回最新の施工技術 1996.4 講習会	中央大学駿河台記念館	150 名
2)8.5.15	第 14 回建設ロボットに関する技術講習会	長井記念ホール	194 名
3)8.5.22	土木分野における知的所有権講習会	土木図書館講堂	52 名
4)8.5.23	コンクリート標準示方書をめぐる環境・施工技術の最新の 動向・性能照査型示方書試案講習会	コクヨホール	252 名
5)8.6.28	高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの施工指針講習 会	土木図書館講堂	96 名
6)8.7.11	トンネル標準示方言(シールド・開削工法編)講習会	草月ホール	492 名
7)8.7.12	トンネル標準示方書(山岳工法編)講習会	草月ホール	447 名
8)8.7.18~20	第 32 回水工学夏期研修会(A コース)	ときわ湖水ホール	81 名
9)8.7.22~24	第 32 回水工学夏期研修会(B コース)	ときわ湖水ホール	94 名
10)8.7.23	コンクリート標準示方書(耐震設計編)講習会	日比谷公会堂	1,325 名
11)8.8.5~6	第 30 回夏期講習会・見学会	舞子ビラ	講習会 67 名 見学会 51 名
12)8.8.28	建設業における環境管理システム講習会	コクヨホール	250 名
13)8.10.29	連続繊維補強材を用いた設計・施工指針, 品質規格, 試験 方法講習会(東京)	野口英世記念会館	198 名
14)8.11.27	東京湾横断道路の施工技術その 3 講習会	銀座ガスホール	124 名
15)8.11.28	連続繊維補強材を用いた設計・施工指針, 品質規格, 試験 方法講習会(大阪)	建設交流館	96 名
16)8.12.13	計算力学の実務への適用とその評価講習会	日本電子計算ホール	56 名
17)8.12.18	原子力発電所の立地多様化技術講習会	土木図書館講堂	81 名
18)8.12.20	計算力学の実務への適用とその評価講習会	土木図書館講堂	128 名
19)9.1.23	土壌・地下水汚染の現状と対策講習会	弘済会館	143 名
20)9.3.17~19	環境バイオテクノロジーのための遺伝子操作技術講習会	大阪大学	8 名

1997(H9 年)	・講演会，研究発表会，シンポジウム，討論会		
1)9.4.3～4	第 43 回構造工学シンポジウム	日本学術会議	304 名
2)9.4.10	第 29 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－公共工 事コスト縮減に関する取組み－」	土木会館 AB 会議室	43 名
3)9.5.1	コンクリートの寸法効果と引張軟化曲線講演会	土木図書館講堂	82 名
4)9.5.8	第 30 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－東京の 自治体からみた公共事業－」	土木会館 AB 会議室	34 名
5)9.5.14～15	第 1 回鋼製橋脚の非線形数値解析と耐震設計への応用に 関するシンポジウム	武蔵工業大学	208 名
6)9.5.20	「工学教育」連合講演会	土木図書館講堂	100 名
7)9.5.20	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	67 名
8)9.6.6	第 31 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－経済学 からみた公共投資－」	土木会館 AB 会議室	35 名
9)9.6.6	応用力学フォーラム(第 7 回乱流フォーラム)	岐阜大学柳戸会館	30 名
10)9.6.10～11	第 3 回河道の水理と河川環境に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	650 名
11)9.6.12～13	第 17 回土木史研究発表会	日本大学	170 名
12)9.6.20	海洋環境講演会	土木会館 AB 会議室	35 名
13)9.6.25～27	第 22 回海洋開発シンポジウム	(網走セントラルホテ ル，網走建設業会館)	400 名
14)9.6.27	土木計画学ワンディセミナーシリーズ 9	土木図書館講堂	139 名
15)9.7.2	土木計画学ワンディセミナーシリーズ 10	大阪市交通科学博物館	115 名
16)9.7.3	第 5 回地球環境シンポジウム	中央大学駿河台記念館	250 名
17)9.7.3	一般公開シンポジウム(土木学会地球環境委員会)	中央大学駿河台記念館	225 名
18)9.7.4	第 32 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－社会資 本の整備を見直す視点－」	土木会館 AB 会議室	35 名
19)9.7.17～18	第 2 回水シンポジウム	神戸国際会議場	700 名
20)9.7.22	土木計画学ワンディセミナーシリーズ 11	東京大学山上会館	170 名
21)9.7.24～26	第 24 回地震工学研究発表会	神戸国際会議場	578 名
22)9.7.30～31	第 1 回耐震補強・補修技術，耐震診断に関するシンポジウ ム	野口記念館	174 名
23)9.8.4～5	第 5 回水資源に関するシンポジウム	日本学術会議	600 名
24)9.8.22	土木建設業における環境管理と環境負荷評価講習会	長井記念館	185 名
25)9.8.8・28	産業技術歴史展「テクノフェスタ' 21」	パシフィコ横浜	51,018 名
26)9.9.4～5	第 32 回土木計画学シンポジウム	神戸市産業振興センタ ー	443 名
27)9.9.5	第 33 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－大競争 時代における国土づくり－」	土木会館 AB 会議室	37 名
28)9.10.1	応用力学フォーラム(第 8 回乱流フォーラム)	土木図書館講堂	35 名
29)9.10.3	第 34 回定例談話会「公共投資のあり方を考える－欧州の	土木会館 AB 会議室	31 名

	評価システムー」		
30)9.10.17	応用力学フォーラム(北海道地区)	北海道大学	60 名
31)9.10.22～23	第 25 回環境システム研究論文発表会	中央大学駿河台記念館	223 名
32)9.10.27	コンクリートのクリープ・収縮に関するワークショップ	土木図書館講堂	93 名
33)9.10.28～29	第 22 回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	265 名
34)9.10.29	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	75 名
35)9.10.30～31	橋梁振動コロキウム' 97	金沢大学	121 名
36)9.11.1～3	第 20 回土木計画学研究発表会	長岡技術科学大学	843 名
37)9.11.10	ESTUARINE ENGINEERING 第 3 回公開フォーラム	岐阜大学	59 名
38)9.11.12	第 35 回定例談話会「公共投資のあり方を考えるーテーマの総括ー」	土木会館 AB 会議室	46 名
39)9.11.11～13	第 44 回海岸工学講演会	長良川国際会議場	610 名
40)9.11.13～14	第 7 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	351 名
41)9.11.14～15	ジョイントシンポジウム「温暖化防止に向けた技術の可能性」	京都市北文化会館	359 名
42)9.11.17	第 33 回土木計画学シンポジウム	文京シビックセンター	196 名
43)9.11.21	コンクリート教育に関するシンポジウム	京都パストラル	98 名
44)9.11.25	原子力土木委員会新立地部会講演会	土木会館 AB 会議室	60 名
45)9.11.26～28	第 34 回環境工学研究フォーラム	郡山市	300 名
46)9.12.9	土木計画ワンディセミナーシリーズ 12	中部大学	52 名
47)9.12.11	フライアッシュコンクリートシンポジウム	JA ビル	206 名
48)9.12.11～12	第 5 回システム最適化に関するシンポジウム	土木図書館講堂	74 名
49)9.12.11～12	第 15 回建設マネジメント問題に関する研究発表討論会	中央大学駿河台記念館	340 名
50)9.12.16	第 2 回鉄道力学シンポジウム	土木会館 AB 会議室	51 名
51)9.12.19	第 2 回舗装工学講演会	土木図書館講堂	119 名
52)10.1.7	水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ	宇宙開発事業団・地球環境観測データ解析データ解析研究センター	70 名
53)10.1.9	応用力学フォーラム(第 9 回乱流フォーラム)	京大会館	25 名
54)10.1.13～14	第 3 回地下空間シンポジウム・見学会	早稲田大学国際会議場	シンポジウム 220 名 見学会 34 名
55)10.1.26～27	第 1 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム		300 名
56)10.1.28	第 36 回定例談話会「新技術の創造と新産業の育成」	土木学会 AB 会議室	26 名
57)10.1.28	第 11 回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	102 名
58)10.2.6	応用力学フォーラム(北海道地区)	室蘭工業大学	83 名
59)10.2.12	第 37 回定例談話会「民間資本参加による社会資本整備の	土木学会 AB 会議室	45 名

	理想と現実」		
60)10.3.12	応用力学フォーラム(八戸)	八戸工業大学	30 名
61)10.3.13	第 38 回定例談話会「社会基盤としての GTS」	土木会館 AB 会議室	37 名
62)10.3.20	第 11 回環境システムシンポジウム	土木図書館講堂	96 名
63)10.3.23	応用力学フォーラム(九州地区)	熊本大学	17 名
64)10.3.31	土木計画ワンディセミナーシリーズ 13 ・講習会, 研修会	東京大学	85 名
1)9.4.18	第 7 回新しい材料・工法・機械講習会	中央大学駿河台記念館	150 名
2)9.5.15	第 15 回建設用ロボットに関する技術講習会	中央大学駿河台記念館	160 名
3)9.5.21	大規模地下空洞の情報化施工講習会	コクヨホール	144 名
4)9.5.23	自己充填コンクリートセミナー	コクヨホール	226 名
5)9.6.5	橋脚の耐震補強の現状と今後の動向	日本大学会館	134 名
6)9.6.6	原子力発電所の立地多様化技術	福岡東映ホテル	40 名
7)9.7.9	コンクリート構造の耐震設計に関する講習会	発明会館	279 名
8)9.7.24～26	第 33 回水工学に関する夏期研修会	徳島厚生年金会館	294 名
9)9.8.21～22	第 31 回夏期講習会・見学会	土木学会 AB 会議室	講演会 66 名 見学会 46 名
10)9.8.29	第 11 回最新の施工技術講習会	中央大学駿河台記念館	120 名
11)9.10.22	レベル 2 地震動と設計地震荷重の課題	建設交流館	193 名
12)9.10.30	複合構造設計施工指針(案)と最新の複合構造の技術に関する講習会		234 名
13)9.11.11	レベル 2 地震動と設計地震荷重の課題	土木図書館講堂	140 名
14)9.11.13	複合構造設計施工指針(案)と最新の複合構造の技術に関する講習会	建設交流館	137 名
15)9.12.2	コンクリート構造物の腐食・防食および補修に関する講習会		207 名
16)9.12.16	RC・PC 構造物の設計に関する現状と今後の展望	土木図書館講堂	134 名
17)10.2.10	地下鉄 12 号線放射部の施工技術講習会	東京都互助会館	160 名
18)10.2.24	鋼スラグ細骨材コンクリートの新規指針とフェロニック スラグ細骨材コンクリートの改訂指針に関する講習会	土木学会 AB 会議室	38 名

1998(H10 年) ・講演会, 研究発表会, シンポジウム, 討論会

1)10.4.1	応用力学フォーラム(関西地区)	京大会館	10 名
2)10.4.2～4	第 42 回水理講演会	鳥取県民文化会館	440 名
3)10.4.3～4	第 44 回構造工学シンポジウム	日本学術会議	304 名
4)10.4.6	応用力学フォーラム(計算力学の最前線)	中央大学駿河台記念館	90 名
5)10.4.9	第 39 回定例談話会「新たな環境影響評価制度」	土木会館 AB 会議室	39 名
6)10.4.23～24	コンクリート構造物の補強設計に関するシンポジウム	札幌ガーデンパレス	167 名
7)10.5.15	第 40 回定例談話会「これからの海洋空間利用とメガフロート」	土木会館 AB 会議室	37 名
8)10.5.15	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	74 名
9)10.6.9～10	第 23 回海洋開発シンポジウム	日本大学会館	300 名
10)10.6.11	第 41 回定例談話会「地球温暖化対策と技術への期待」	土木会館 AB 会議室	39 名
11)10.6.11～12	第 18 回土木史研究発表会	熊本大学	180 名
12)10.6.11～12	第 4 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム	土木図書館講堂	141 名
13)10.6.18～19	第 4 回河道の水理と河川環境に関するシンポジウム	中央大学多摩キャンパス	356 名
14)10.6.24	地盤に係わる維持・補修・管理技術に関するシンポジウム	土木図書館講堂	91 名
15)10.7.9～10	第 6 回地球環境シンポジウム	大阪科学技術センター	250 名
16)10.7.10	第 42 回定例談話会「ITS の環状展望」	土木会館 AB 会議室	50 名
17)10.7.14～15	第 3 回水シンポジウム	郡山市民文化センター	817 名
18)10.7.20	第 3 回なぎさ観察会	鹿島建設葉山研修センター	60 名
19)10.7.28～29	構造物の診断に関するシンポジウム		221 名
20)10.7.31	第 2 回耐震補強・補修技術, 耐震診断に関するシンポジウム	野口英世記念館	221 名
21)10.8.26	応用力学フォーラム(中国・四国地区)	徳島大学工業開館	36 名
22)10.8.27	第 1 回鋼構造と橋に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	235 名
23)10.8.23～26	自己充填コンクリートに関する国際ワークショップ	高知工科大学	120 名
24)10.9.3	ISO への対応に関するシンポジウム	コクヨホール	251 名
25)10.9.4	「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」	大阪工業大学記念講堂	98 名
26)10.9.11	第 43 回定例談話会「新・全総 21 世紀のグランドデザイン」	土木会館 AB 会議室	26 名
27)10.9.14	「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」	福岡県教育会館	54 名
28)10.9.21	「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」	野口英世記念館	66 名
29)10.10.7	第 1 回応用力学シンポジウム	神戸大学	146 名
30)10.10.9	第 44 回定例談話会「建設副産物リサイクルの推進」	土木会館 AB 会議室	25 名
31)10.10.13	地域資産としての近代土木遺産シンポジウム	日本大学会館	218 名

32)10.10.22～23	第 26 回環境システム研究論文発表会	大阪大学	290 名
33)10.10.27～28	第 23 回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	200 名
34)10.10.29	最近のコンピュータの有効利用に関するシンポジウム	土木図書館講堂	79 名
35)10.11.5	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	83 名
36)10.11.6	限界状態設計法を用いた合成・複合構造物の設計法と将来展望	土木図書館講堂	92 名
37)10.11.9	MECS/LOICZ ジョイントシンポジウム	秋田市文化会館	60 名
38)10.11.10～12	第 45 回海岸工学講演会	秋田市文化会館	590 名
39)10.11.13	第 45 回定例談話会「リモートセンシングと国土管理」	土木会館 AB 会議室	39 名
40)10.11.13～14	第 2 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム	名古屋国際会議場	176 名
41)10.11.20	第 8 回地域シンポジウム「地域のための川づくりを目指して」	山口市	250 名
42)10.11.20	「第 18 回映画・ビデオコンクール」入賞作品発表会・表彰式	野口英世記念館	35 名
43)10.11.21～23	第 21 回土木計画学研究発表会	立命館大学	899 名
44)10.11.24	コンクリート資源の有効利用シンポジウム	早稲田大学国際会議場	189 名
45)10.11.24	コンクリート資源の有効利用シンポジウム	早稲田大学国際会議場	189 名
46)10.11.25～26	第 34 回土木計画学シンポジウム	鉄道弘済会館	103 名
47)10.11.26～27	鋼橋床版シンポジウム	ホテルエドモント	192 名
48)10.11.26～27	第 8 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	300 名
49)10.11.24～26	第 35 回環境工学研究フォーラム	京都市	314 名
50)10.12.7	公共構造物の安全性に関するパネルディスカッション	土木図書館講堂	22 名
51)10.12.8	「確率・統計的意思決定に関するシンポジウム」	土木図書館講堂	48 名
52)10.12.9～10	第 16 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	中央大学駿河台記念館	248 名
53)10.12.10～11	第 2 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計法に関するシンポジウム	土木図書館講堂	300 名
54)10.12.11	第 46 回定例談話会「中部国際空港の建設」	土木会館 AB 会議室	29 名
55)10.12.11	土木デザインワークショップ	東京都学士会館	115 名
56)10.12.11	応用力学フォーラム(第 11 回非線形力学フォーラム)	東京大学	22 名
57)10.12.11	H10 年度岩盤力学委員会研究報告会	中央大学駿河台記念館	37 名
58)10.12.14	ローカルサイト・エフェクトに関するシンポジウム	土木図書館講堂	150 名
59)10.12.18	第 3 回舗装工学講演会	土木図書館講堂	129 名
60)11.1.7	水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ	宇宙開発事業団・地球環境観測データ解析データ解析研究センター	70 名
61)11.1.8	第 47 回定例談話会「世界の長大橋建設の動向と日本の建設技術の世界展開への課題」	土木会館 AB 会議室	31 名
62)11.1.13～14	第 4 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議場	237 名
63)11.1.22	第 1 回リアルタイム地震防災シンポジウム	土木図書館講堂	98 名

64)11.1.28～29	第 29 回岩盤力学に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	200 名
65)11.1.29	第 12 回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	109 名
66)11.2.12	第 48 回定例談話会「公共事業のアカウントビリティ向上 行動」	土木会館 AB 会議室	43 名
67)11.2.19	環境共生・循環とエネルギー土木シンポジウム	中央大学駿河台記念館	156 名
68)11.3.3	応用力学フォーラム(第 10 回乱流フォーラム)	土木図書館講堂	30 名
69)11.3.5	第 49 回定例談話会「リニアモーターカーの開発」	土木会館 AB 会議室	11 名
70)11.3.12	安全問題討論会' 99	中央大学駿河台記念館	90 名
71)11.3.12	応用力学フォーラム(九州地区)	九州工業大学	18 名
72)11.3.15～17	第 43 回水理講演会	立命館大学	400 名
73)11.3.29	第 12 回環境システムシンポジウム	土木図書館講堂	112 名
74)11.4.6～7	第 45 回構造工学シンポジウム ・講習会, 研修会		305 名
1)10.6.15～16	土木計画学ワンディーカーセミナーシリーズ 15	東京大学	107 名
2)10.6.18	岩盤上の大型構造物基礎講習会	土木図書館講堂	104 名
3)10.6.23	生態系・緑化保全対策技術講習会	東医健保開館	137 名
4)10.7.23	高流動コンクリート施工指針等に関する講習会	野口英世記念館	191 名
5)10.7.27～29	H10 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門サ マーマナー	土木図書館講堂	65 名
6)10.7.28～30	第 34 回水工学に関する夏期研修会	名古屋大学	291 名
7)10.8.18～19	交通ネットワーク講習会	野口英世記念館	122 名
8)10.8.20～21	第 32 回夏期講習会・見学会	大阪市環境学習センタ ー	49 名
9)10.8.31	トンネル耐震設計の方向と基本課題	土木図書館講堂	134 名
10)10.9.10	建設分野における衛星リモートセンシングデータの実利 用に関する講習会	土木会館 AB 会議室	50 名
11)10.9.11	橋梁の耐震設計法に関する講習会	飯田橋レインボービル	278 名
12)10.10.21	「開削トンネルの耐震設計方法ー設計方法と設計例ー」	発明会館	180 名
13)10.11.6	最新の施工技術 1998.11 講習会	家の光開館	125 名
14)10.11.11	高流動コンクリート施工指針等に関する講習会	建設交流館	107 名
15)10.11.18	第 16 回建設用ロボットに関する技術講習会	中央大学駿河台記念館	83 名
16)10.12.1	振動制御セミナー	土木図書館講堂	71 名
17)10.12.17	ロックシェットの耐衝撃設計に関する講習会		80 名
18)11.2.16	第 16 回施工体験発表会・講習会	家の光コンベンション ホール	121 名
19)11.2.26	地震災害マネジメントセミナー	中央大学駿河台記念館	150 名

1999(H11 年)	・講演会，研究発表会，シンポジウム，討論会		
1)11.4.30	環境システムシンポジウム	運輸省港湾技術研究所	74 名
2)11.5.14	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	62 名
3)11.5.19～20	第 24 回海洋開発シンポジウム	みやざき会館	275 名
4)11.5.20～21	社会基盤整備における事業評価の意義に関する国内・国際シンポジウム	国際連合大学	国 内 330 名・国外 142 名
5)11.6.3～4	「共生と循環ー環境共生のまちづくり社会は循環をめざす」	(3 日：長崎ブリックホール，4 日：ハウステンボス)	350 名
6)11.6.10～11	第 5 回河道の水理と河川環境に関するシンポジウム	中央大学多摩キャンパス	210 名
7)11.6.15	第 3 回鉄道力学シンポジウム	土木図書館講堂	77 名
8)11.6.15～16	河村瑞賢没後 300 年記念フォーラム・シンポジウム	建長寺(シンポジウムは铸倉市中央公民館)	275 名
9)11.6.10～11	第 19 回土木史研究発表会	関西大学百周年記念会館	127 名
10)11.7.6～7	第 7 回地球環境シンポジウム	中央大学駿河台記念館	202 名
11)11.7.8	「レベル 2 設計地震動」シンポジウム	土木図書館講堂	122 名
12)11.7.16	応用力学フォーラム(第 11 回乱流フォーラム)	京大会館	35 名
13)11.7.21	第 3 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム	野口英世記念会館	220 名
14)11.7.29～31	第 25 回地震工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	461 名
15)11.7.30	第 1 回鋼構造物の維持管理に関するシンポジウム	土木図書館講堂	160 名
16)11.8.25～27	第 2 回構造物の診断に関するシンポジウム	東北大学青葉記念会館	123 名
17)11.8.27	杭基礎の耐震設計に関するワークショップ	土木図書館講堂	114 名
18)11.8.31	第 2 回鋼構造と橋に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	289 名
19)11.9.21	第 2 回応用力学シンポジウム	RCC 文化センター	100 名
20)11.9.28	コンクリート標準示方書改定に関する中長期ビジョン	土木図書館講堂	120 名
21)11.10.18～19	交通まちづくりと TDM	野口英世記念会館	205 名
22)11.10.22	「アメリカ環境政策の動向から見た日本の環境保全の将来」	東京大学本郷キャンパス	80 名
23)11.10.22	鋼構造及び合成構造設計・施工基準の世界の動向と今後の展望に関するシンポジウム	土木図書館講堂	108 名

24)11.10.26～27	第 24 回土木情報システムシンポジウム	土木図書館講堂	168 名
25)11.10.30～31	第 27 回環境システム研究論文発表会	東北大学川内キャンパス	226 名
26)11.10.30 ～ 11.1	第 22 回土木計画学研究発表会	熊本大学	915 名
27)11.11.8	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	48 名
28)11.11.10	NATM とシールドの境界領域におけるトンネル荷重に関する研究中間報告会	土木図書館講堂	80 名
29)11.11.11～12	第 4 回複合構造の活用に関するシンポジウム	マルエイカーネーションセンター	137 名
30)11.11.15	海岸工学講演会前日シンポジウム	米子コンベンションセンター	210 名
31)11.11.16～18	第 46 回海岸工学講演会	米子コンベンションセンター	610 名
32)11.11.17	「ISO への対応」に関する第 2 回シンポジウム	コクヨホール	201 名
33)11.11.17	応用力学フォーラム(第 12 回乱流フォーラム)	名古屋工業大学	25 名
34)11.11.18	講演と懇談の会(四国支部共催)	香川県民ホール	200 名
35)11.11.25～26	第 9 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	225 名
36)11.11.26	Intelligent Bridge/Structure and Smart Monitoring に関する公開講演会	土木図書館講堂	47 名
37)11.12.1～3	第 36 回環境工学研究フォーラム	岡山大学	223 名
38)11.12.2	第 3 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム	土木図書館講堂	160 名
39)11.12.7～8	第 6 回システム最適化に関するシンポジウム	土木図書館講堂	41 名
40)11.12.8	応用力学フォーラム(関東)	宇都宮大学	10 名
41)11.12.9	ライフサイクルコストに関するワークショップ	中央大学駿河台記念館	94 名
42)11.12.9～10	第 17 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	(9 日：大林組東京本社 10 日：土木学会)	215 名
43)11.12.14	橋梁の空力振動を抑える研究報告会	土木図書館講堂	86 名
44)11.12.15	Bridge Aerodynamics への CFD 研究報告会	土木図書館講堂	59 名
45)11.12.22	第 4 回舗装工学講演会	中央大学駿河台記念館	101 名
46)12.1.14	第 5 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議場	248 名
47)12.1.14	国際化時代の橋梁デザインシンポジウム	鹿島 KI ビル	257 名
48)12.1.26～27	第 30 回岩盤力学に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	200 名
49)12.1.27	第 13 回建設コンサルタントシンポジウム	土木図書館講堂	123 名

50)12.2.5	応用力学フォーラム(北海道支部)	北見工業大学	51 名
51)12.3.1	応用力学フォーラム(第 13 回乱流フォーラム)	土木図書館講堂	14 名
52)12.3.10	応用力学フォーラム(西部支部)	第一工業大学	30 名
53)12.3.15～17	第 44 回水理講演会	日本大学	400 名
54)12.3.22	土木における景観・デザイン教育に関するワークショップ	土木図書館講堂	95 名
55)12.3.27	第 1 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム	東京国際フォーラム	200 名
	・講習会, 研修会		
1)11.4.20～21	コンクリート構造物の耐震設計法の国際比較に関する国際セミナー	大東京火災新宿ビル	185 名
2)11.4.28	フライアッシュを用いたコンクリートの施工指針(案)講習会	コクヨホール	147 名
3)11.5.19	フライアッシュを用いたコンクリートの施工指針(案)講習会	建設交流館	76 名
4)11.5.20～21	橋梁と地下構造物の免責・制震講習会	土木図書館講堂	86 名
5)11.7.14	H11 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門セミナー	早稲田大学	64 名
6)11.7.28～30	1999 年度(第 35 回)水工学に関する夏期講習会 A・B コース	北九州国際会議場	A コース 172 名
7)11.8.1～3	テクノパワー体験 SUMMER SCHOOL'99	北海道大学	34 名
8)11.8.3	水工学における計算機利用の講習会	京都大学	133 名
9)11.8.18～19	高校土木第 33 回夏期講習会・見学会「21 世紀の社会基盤を考える」	土木学会新館 AB 会議室	18 日 43 名 19 日 39 名
10)11.10.5	コンクリート構造物の補強指針(案)に関する講習会	日本薬学会長井記念ホール	134 名
11)11.10.5～6	橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会	中央大学駿河台記念館	288 名
12)11.10.13～14	H11 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門(札幌セミナー)	JR 研修センター	52 名
13)11.10.21	原子力発電所の立地多様化技術の講習会	土木図書館講堂	72 名
14)11.10.28	資源有効利用の現状と課題の講習会	早稲田大学国際会議場井深大記念ホール	88 名
15)11.11.12	ワンデイセミナー16「都市内物流の新たな展開」	土木学会図書館	95 名
16)11.11.15	資源有効利用の現状と課題講習会	建設交流館	68 名
17)11.11.25	第 17 回建設用ロボットに関する技術講習会	土木図書館講堂	93 名
18)11.11.26	ワンデイセミナー17「交通事故分析と ITS による交通事故低減の可能性について」	野口英世記念会館	116 名
19)11.11.30	第 8 回新しい材料・工法・機械講習会	中央大学駿河台記念館	171 名
20)	「水理公式集改訂版」に関する講習会		

	11.12.3	千代田生命ホール	108 名
	11.12.9	砂防会館	158 名
	11.12.10	平安会館	112 名
	11.12.10	アクロス福岡	130 名
	11.12.13	八丁堀シャンテ	212 名
21)11.12.9	コンクリート構造物の性能設計に関する講習会	発明会館	193 名
22)11.12.10	第 2 回地震災害マネジメントセミナー	静岡県地震防災センター	80 名
23)11.1.10	ワンデイセミナー18「ITS－効率的な道路利用に向けて－」	野口英世記念会館	150 名
24)12.1.25	H11 年度版コンクリート標準示方書〔施工編〕講習会	日本青年館大ホール	838 名
25)12.2.9～10	コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会	野口英世記念会館	164 名
26)12.2.22	最新の施工技術 2000.2 講習会	中央大学駿河合記念館	147 名
27)12.3.22	コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会	建設交流会館	84 名
28)12.3.28	鋼繊維補強コンクリート柱部材の設計指針(案)講習会	野口英世記念会館	84 名

2000(H12 年)	・講演会，研究発表会，シンポジウム，討論会		
1)12.4.4～5	第 46 回構造工学シンポジウム	日本学術会議	476 名
2)12.4.18	21 世紀における社会基盤整備のあり方に関するシンポジウム	都市センターホテル	332 名
3)12.4.20～21	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 19	土木図書館講堂	95 名
4)12.5.8	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	43 名
5)12.5.12	計算力学フォーラム	中央大学駿河台記念館	62 名
6)12.5.18～19	第 2 回リアルタイム地震防災シンポジウム	土木図書館講堂	136 名
7)12.5.18	研究報告会「コンクリート構造物の」	大成建設	143 名
8)12.6.1	第 2 回ライフサイクルコストに関するワークショップ	中央大学駿河台記念館	107 名
9)12.6.8～9	第 5 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム	土木図書館講堂	106 名
10)12.6.8～9	2000 年度新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム	芝浦工業大学	306 名
11)12.6.9～10	環境まちづくり交流会 in 京都	京都アスニー	延 900 名
12)12.6.10～11	第 20 回土木史研究発表会	東京大学	132 名
13)12.6.15～16	第 25 回海洋開発シンポジウム	弘済会館	247 名
14)12.6.29	舗装工学研究小委員会講演会	中央大学	48 名
15)12.6.30	応用力学フォーラム(第 14 回乱流フォーラム)	大阪大学工業会館	20 名
16)12.6.30	環境システムシンポジウム 2000	土木図書館講堂	50 名
17)12.7.6～7	第 8 回地球環境シンポジウム	中央大学駿河台記念館	232 名
18)12.7.12	第 14 回コンサルタントシンポジウム	中央大学駿河台記念館	99 名
19)12.7.15	土木計画学シンポジウム	土木図書館講堂	98 名
20)12.7.19	フレッシュコンクリートのコンシステンシー評価指標に関するシンポジウム	土木図書館講堂	114 名
21)12.7.28	第 4 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム	野口英世記念館	258 名
22)12.7.28	The Second International Summer Symposium	東京工業大学	153 名
23)12.8.8～9	第 5 回水シンポジウム 2000in くまもと	熊本市産業文化会館	700 名
24)12.8.22～23	第 34 回夏期講習会・見学会	建設交流館	63 名
25)12.8.28	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 20	土木学会	66 名
26)12.8.30	第 3 回鋼構造と橋に関するシンポジウム	法政大学	154 名
27)12.9.1	コンクリート長大アーチ橋の設計・施工技術の現状と将来に関するワークショップ	構造計画研究所	124 名
28)12.9.12	「コンクリート構造の時間依存変形・ひび割れ評価」に関する報告会	野口英世記念館	212 名

29)12.9.20	第3回応用力学シンポジウム	仙台市民会館	109 名
30)12.9.28	高地震力に対する土構造物の耐震設計法に関する研究報告会	中央大学駿河台記念館	171 名
31)12.10.5～6	「日本、地震、あれから、これから」	中央大学駿河台記念館	約 400 名
32)12.10.11～13	H12 年度「土木学会による実務者のための耐震設計入門」(福岡セミナー)	福岡ガーデンパレス	45 名
33)12.10.11～12	「第2回道路橋床版シンポジウム」および「鋼橋床版の調査研究小委員会活動成果報告会」	東京ガーデンパレス	182 名
34)12.10.13	ローカルサイトエフェクト(地震動の地盤内増幅)の耐震設計への導入に関するワークショップ	中央大学駿河台記念館	46 名
35)12.10.24～25	第25回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	221 名
36)12.10.26～27	第28回環境システム研究論文発表会	名古屋大学	283 名
37)12.11.6	コンクリートのクリープ・乾燥収縮に関する研究成果報告会	建設交流館	95 名
38)12.11.7～9	第47回海岸工学講演会	神戸国際会議場	640 名
39)12.11.13	構造工学委員会講演会	土木図書館講堂	53 名
40)12.11.16	第2回免震・制震コロキウム	東京大学地震研究所	141 名
41)12.11.17	社会資本のメンテナンスに関するシンポジウム	野口英世記念会館	141 名
42)12.11.20	H12 年度土木の日特別行事「公開座談会」	東京国際フォーラム	147 名
43)12.11.23～25	第23回土木計画学研究発表会	足利工業大学	921 名
44)12.11.27～28	日本技術者教育認定機構・土木工学分野の説明会	中央大学駿河台記念館 大阪国際交流センター	118 名 81 名
45)12.11.28	「都営地下鉄12号線(大江戸線)環状部の施工技術」講習会	田町交通ビル	151 名
46)12.11.29	トンネルの設計における限界状態設計法の適用についての中間報告会	土木図書館講堂	89 名
47)12.11.29	「ISO への対応」に関する第3回シンポジウム	中央大学駿河台記念館	159 名
48)12.11.30	応用力学フォーラム(第15回乱流フォーラム)	名古屋工業大学	46 名
49)12.11.29～30	第37回環境工学研究フォーラム	仙台市戦災復興記念館	238 名
50)12.11.30	ライフサイクルコストに関するワークショップ	中央大学駿河台記念館	43 名
51)12.11.30～12.1	第10回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	230 名
52)12.12.5	「第19回土木学会映画・ビデオコンクール」入賞作品発表会・表彰式	土木図書館講堂	32 名

53)12.12.6	土木のデザインとコンセプト	東京工業大学百年記念館	104 名
54)12.12.7～8	第 18 回建設マネジメント問題に関する研究発表会	清水建設	176 名
55)12.12.8	第 4 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	197 名
56)12.12.22	流体力の評価とその応用に関するシンポジウム	芝浦工業大学	100 名
57)13.1.9	「土木技術者と歴史感覚」	大成建設	78 名
58)13.1.10	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 23	野口英世記念館	156 名
59)13.1.12	第 6 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議場	233 名
60)13.1.17	「原位置岩盤試験法の指針」改訂版発行に伴う主旨説明講習会	土木図書館講堂	80 名
61)13.1.23	第 1 回 FRP 橋梁に関するシンポジウム	東京大学山上会館	95 名
62)13.1.25～26	第 31 回岩盤力学に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	190 名
63)	第 15 回コンサルタントシンポジウム土木図書館講堂		65 名
64)13.2.23	「最新の土木技術 14」講習会	中央大学駿河台記念館	149 名
65)13.3.14	第 2 回ジョイントシンポジウム	東京工業大学	150 名
66)13.3.15～17	第 45 回水理講習会	東京工業大学	440 名
67)13.3.15	第 13 回アゲールシンポジウム	東京工業大学	70 名
68)13.3.15	河川災害に関するシンポジウム	東京工業大学	90 名
69)13.3.23	安全問題討論会' 01	大阪科学技術センター	100 名
・講習会，研修会			
1)12.4.20	「コンクリート構造物の耐震性能照査－検査課題と将来像－」に関する講習会	野口英世記念会館	263 名
2)12.5.9・16	ケーブル・スペース構造の基礎と応用に関する講習会 (9 日：土木図書館講堂 60 名) (16 日：大阪国際交流センター 41 名)		
3)12.5.12	「土木工学における逆問題入門」講習会	土木図書館講堂	36 名
4)12.5.19	「阪神淡路大震災の被害分析に基づくコンクリート構造物の耐震性能照査方法の検証－検討課題と将来像－」に関する講習会	コクヨホール	170 名
5)12.6.21～23	H12 年度「土木学会による実務者のための耐震設計入門」(東京セミナー)	土木会館 AB 会議室	64 名
6)12.6.29	土木情報システム関西セミナー 2000	関西大学百周年記念館	156 名
7)12.7.27	連続繊維シートを用いたコンクリート構造物の補修補強指針に関する講習会	コクヨホール	164 名

8)12.8.1～3	2000 年度(第 36 回)水工学に関する夏期講習会 A コース 名 B コース	早稲田大学	138 名 98 名
9)12.8.1・3	「国際標準(ISO)に基づく構造物の設計法」講習会 (1 日：中央大学駿河台記念館 61 名) (3 日：大阪市立大文化交流センター 52 名)		
10)12.8.3・9・25	トンネルコンクリート施工指針およびコンクリート構造物のコールドジョイント問題と対策に関する講習会 (3 日：コクヨホール 291 名) (9 日：建設交流館 179 名) (25 日：福岡県自治会館 216 名)		
11)12.8.8	土木工学系高等教育機関における倫理教育に関する講習会	土木会館 AB 会議室	29 名
12)12.10.20	橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会	中央大学駿河台記念館	341 名
13)12.10.27	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 21	京都大学芝蘭会館	109 名
14)12.11.2	鋼構造物の性能照査型耐震設計と耐震用高機能鋼材に関するセミナー	中央大学駿河台記念館	122 名
15)12.11.7	橋梁振動モニタリングのガイドラインに関する講習会	土木図書館講堂	72 名
16)12.11.10	「環境評価・環境コスト」講習会	土木図書館講堂	90 名
17)12.12.5	コンクリート構造物の腐食・防食および維持管理に関する講習会	野口英世記念会館	269 名
18)12.12.6	第 18 回建設用ロボットに関する技術講習会	中央大学駿河台記念館	116 名
19)12.12.7	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 22	野口英世記念会館	58 名
20)12.12.9	コンクリート標準示方書(維持管理編)に関する講習会	日本青年館	661 名
21)13.2.1・8	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 24 (1 日：中央大学駿河台記念館 64 名) (8 日：名古屋都市センター 61 名)		
22)13.3.14	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 25	飯田橋セントラルプラザ	51 名
23)13.2.5	第 1 回土木海岸・海洋環境学講演会	土木会館 AB 会議室	72 名

2001(H13 年)	・講演会, 研究発表会, シンポジウム, 討論会		
1)13.4.3～4	インテリジェント材料とスマートストラクチャー	日本学会議	430 名
2)13.4.26	土木海岸・海洋環境学第2回講演会	弘済会館	53 名
3)13.5.8	構造工学講演会	弘済会館	75 名
4)13.5.8	第37回土木計画学シンポジウム	つくば国際会議場	221 名
5)13.5.15	これからのメンテナンス技術と市場	中央大学駿河台記念館	
6)13.5.18	応用力学フォーラム(第16回乱流フォーラム)	弘済会館	20 名
7)13.5.26	第3回ジョイントシンポジウム「有明海の環境と漁業」	東京水産大学	360 名
8)13.6.1	性能照査型システムにおけるコンクリート構造物の補強に関する報告会ならびにシンポジウム	日本薬学会長井記念ホール	152 名
9)13.6.2～3	第21回土木史研究発表会	金沢大学	118 名
10)13.6.7～8	第7回河川技術に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	362 名
11)13.6.12	土木海岸・海洋環境学第3回講演会	土木学会 AB 会議室	40 名
12)13.6.14	第26回海洋開発シンポジウム	鳥取県立県民文化会館	280 名
13)13.6.19	第5回鉄道力学シンポジウム	土木学会 AB 会議室	57 名
14)13.6.21	プレキャストコンクリート部材の力学的特性に関するシンポジウム	鹿島 KI ビル	131 名
15)13.6.23	第4回ジョイントシンポジウム	島根県くにびきメッセ	350 名
16)13.7.17	第5回耐震補強・補修技術・耐震診断技術に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	250 名
17)13.7.18～19	第9回地球環境シンポジウム	北九州国際会議場	239 名
18)13.7.23	応用力学フォーラム	土木学会 AB 会議室	22 名
19)13.8.1	第26回地震工学研究発表会	北海道大学	600 名
20)13.8.7	第6回水シンポジウム in とやま	富山国際会議場	700 名
21)13.8.8	第3回 International Summer Symposium	東京大学	165 名
22)13.8.29	第4回鋼構造と橋に関するシンポジウム	法政大学	186 名
23)13.9.6	「ISO への対応」に関する第4回シンポジウム	中央大学駿河台記念館	
24)13.9.6～7	杭基礎の耐震設計法に関するシンポジウム	田町交通ビル	150 名
25)13.9.10	第38回土木計画学シンポジウム	野口英世記念会館	242 名
26)13.9.20	土木海岸海洋環境学第4回講演会	弘済会館	29 名
27)13.10.1	第4回応用力学シンポジウム	熊本大学	143 名
28)13.10.26	応用力学フォーラム(第2回)	名古屋工業大学	30 名
29)13.10.26～27	橋梁振動コロキウム	金沢大学秀峯会館	80 名
30)13.10.30～31	第26回土木情報システムシンポジウム	中央大学駿河台記念館	200 名

31)13.11.1～2	第 29 回環境システム研究論文発表会	館 国立オリンピック記念青少年総合センター	261 名
32)13.11.12	海岸工学講演会前日シンポジウム	メルパルク熊本	170 名
33)13.11.13	第 48 回海岸工学講演会	メルパルク熊本	715 名
34)13.11.14	第 16 回コンサルタントシンポジウム	中央大学駿河台記念館	109 名
35)13.11.17	公開シンポジウム「よみがえれ砂浜」	清水日の出センター	106 名
36)13.11.22	新しい複合橋梁に関するシンポジウム	野口英世記念会館	140 名
37)13.11.23～25	第 24 回土木計画学研究発表会	高知工科大学	920 名
38)13.11.26	応用力学フォーラム(第 17 回乱流フォーラム)	神戸大学百年記念館	20 名
39)13.11.28～29	第 19 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会 1 日目：清水建設 2 日目：弘済会館		236 名
40)13.11.28～29	第 38 回環境工学研究フォーラム	長岡産業交流会館	186 名
41)13.11.29～30	第 11 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	240 名
42)13.12.6～7	第 7 回システム最適化に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	43 名
43)13.12.11	地震工学委員会数物小委員会講演会	参加 SCS 局(東京大学局, 京都大学局, 筑波大学局, 東京工業大学局, 愛媛大学局, 鳥取大学局, 岐阜大学局)	
44)13.12.14	「第 2 回社会資本のメンテナンスに関するシンポジウム」	野口英世記念館	150 名
45)13.12.21	第 6 回舗装工学講演会	中央大学市ヶ谷キャンパス	77 名
46)14.1.11～12	第 4 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム	大阪大学コンベンションセンター	78 名
47)14.1.17	応用力学フォーラム(第 3 回固体の破壊現象フォーラム)	京都大学	29 名
48)14.1.18	第 7 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議場	257 名
49)14.1.19～21	第 2 回高専・短大・専門学校土木教育シンポジウム	修成建設専門学校青垣研修センター	70 名
50)14.1.21	土木デザインワークショップ 2002	東京工業大学百年記念館	110 名
51)14.1.25	第 5 回地震時保有耐力法に基づく橋梁構造の耐震設計に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	161 名
52)14.1.25	第 48 回風に関するシンポジウム	九州大学	50 名

53)14.2.8	応用力学フォーラム(関西／中国・四国地方)	兵庫県民会館	28 名
54)14.2.28～3.1	第 3 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム	早稲田大学総合学術情報センター国際会議場	
55)14.3.8	応用力学フォーラム(西部支部)	佐賀大学	12 名
56)14.3.11	「人口減少下の社会資本の在り方」ワークショップ	土木学会 EF 会議室	16 名
57)14.3.18～20	第 46 回水理講演会	名古屋工業大学	500 名
58)14.3.18	地震工学委員会数物小委員会講演会 参加 SCS 局(東京工業大学局，東京大学 2 局，京都大学局，筑波大学局，愛媛大学局，鳥取大学局，九州大学局，岐阜大学局，群馬工業校等専門学校局，東北大学局) ・講習会，研修会		
1)13.4.2	第 1 回計算力学小講習会	土木学会 AB 会議室	50 名
2)13.4.10	海洋施設設計便覧講習会(大阪)	大阪市立大学文化交流センター	
3)13.4.13	海洋施設設計便覧講習会(東京)	中央大学駿河台記念館	
4)13.6.8	環境負荷低減のための土木構造物設計ガイドライン講習会	中央大学駿河台記念館	243 名
5)13.6.26	自己充てん型高強度高耐久コンクリート構造物の設計・施工指針(案)に関する講習会	野口英世記念会館	274 名
6)13.7.6	「ダム建設における水理地質構造の調査と止水設計」講習会	中央大学駿河台記念館	70 名
7)13.7.17	自己充てん型高強度耐久コンクリート構造物の設計・施工指針(案)に関する講習会	建設交流館	138 名
8)13.7.25～26	第 1 回「木橋技術に関する講習会ならびにシンポジウム」	弘済会館	150 名
9)13.7.30	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 26	名古屋大学	100 名
10)13.8.3	高強度フライアッシュ人工骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針(案)に関する講習会	主婦会館プラザエフ	132 名
11)13.8.20	地層処分と地質環境に関する講習会	内幸町ホール	152 名
12)13.8.23～24	第 35 回夏期講習会・見学会	中央工学校	25 名
13)13.10.22～23	第 4 回橋梁構造物等の耐震設計法に関する講習会	中央大学駿河台記念館	362 名
14)13.11.8～9	H13 年度「土木学会による実務者のための耐震設計入門」(東京セミナー)	土木会館 AB 会議室	37 名
15)13.11.16	土木構造物の耐震設計ガイドラインに関する講習会	早稲田大学	
16)13.11.26	電気化学的防食工法設計・施工指針(案)に関する講習会	野口英世記念会館	202 名
17)13.12.4～5	H13 年度「土木学会による実務者のための耐震設計入門」(大阪セミナー)	エル・おおさか	31 名
18)13.12.4	土木計画ワンデーセミナーシリーズ 27	野口英世記念会館	101 名

19)13.12.10	電気化学的防食工法設計・施工指針(案)に関する講習会	建設交流会館	133 名
20)13.12.11	講習会「土木 ISO 定期セミナー」	土木会館 AB 会議室	
21)13.12.14	第 19 回建設用ロボットに関する技術講習会	中央大学駿河台記念館	115 名
22)14.1.16	「減震・免震・制震構造設計ガイドライン」セミナー	東京大学地震研究所	124 名
23)14.1.21	第 2 回計算力学講習会	中央大学	57 名
24)14.2.1	「原子力発電所の津波評価技術」に関する講習会	TFT ビル	77 名
25)14.2.26	第 3 回地震災害マネジメントセミナー	中央大学駿河台記念館	121 名
26)14.3.5	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 28	建設会館ホール	127 名
27)14.3.5～6	2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会(東京)	日本青年館	751 名
28)14.3.12～13	2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会(大阪)		393 名
29)14.3.15	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 29	野口英世記念会館	140 名

2002(H14 年)	・講演会, シンポジウム, 研究発表会		
1)14.4.2～3	第 48 回構造工学シンポジウム	京大会館	240 名
2)14.4.17	深地層における軟岩の評価研究報告会	中央大学駿河台記念館	50 名
3)14.4.21	公開シンポジウムー明日の仙台海岸を考えるー	仙台市戦災復興記念館	50 名
4)14.5.16	第 4 回固体の破壊現象フォーラム	東京大学地震研究所	16 名
5)14.5.23	土木建設技術シンポジウム 2002	中央大学駿河台記念館	222 名
6)14.5.23	環境システムシンポジウム	国土技術政策総合研究所	46 名
7)14.5.28	構造工学委員会講演会	土木学会講堂	60 名
8)14.5.29	George Gazetas 教授講演会	土木会館講堂	30 名
9)14.6.5～7	第 25 回土木計画学研究発表会(春大会)	名古屋大学	624 名
10)14.6.6～7	第 27 回海洋開発シンポジウム	海峡メッセ下関	400 名
11)14.6.7	近年の国内で発生した大地震の記録と課題シンポジウム	土木会館講堂	100 名
12)14.6.13～14	第 8 回河川技術に関するシンポジウム	芝浦工業大学	460 名
13)14.6.21～22	第 22 回土木史研究発表会	北見芸術文化ホール	86 名
14)14.7.3	水辺のコンクリート構造物研究小委員会委員会報告とシンポジウム	土木学会講堂	107 名
15)14.7.4～5	第 6 回構造物の衝突問題に関するシンポジウム	土木学会講堂	101 名
16)14.7.16～17	第 10 回地球環境シンポジウム	国立オリンピック記念青少年総合センター	179 名
17)14.7.16	第 6 回鉄道力学シンポジウム	土木学会講堂	90 名
18)14.7.19	第 18 回乱流フォーラム	早稲田大学	18 名
19)14.7.23	浮体橋の性能照査型に関するシンポジウム	土木学会講堂	92 名
20)14.7.25	第 6 回耐震補強・補修技術・耐震診断に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	176 名
21)14.8.3～4	第 4 回 International Summer Symposium	京都大学	130 名
22)14.8.9	地震考古学の話題提供と地震痕跡学見学会	東京大学	30 名
23)14.8.19～20	第 7 回水シンポジウム	かでる 2・7	700 名
24)14.8.27	第 5 回固体の破壊現象フォーラム	名古屋工業大学	24 名
25)14.8.30	第 5 回鋼構造と橋に関するシンポジウム	法政大学スカイホール	175 名
26)14.9.3～4	第 38 回水工学に関する夏期研修会	はるるプラザ京都	263 名
27)14.9.14	公開シンポジウム「新潟海岸の砂浜再生ーその方策と課題ー」	新潟市万代市民会館	72 名
28)14.9.24	第 5 回応用力学シンポジウム	北海道大学	191 名

29)14.10.23～25	第 49 回海岸工学講演会	釧路市観光国際交流センター	780 名
30)14.10.26～27	第 30 回環境システム研究論文発表会	山梨大学	193 名
31)14.10.29～30	第 27 回土木情報システムシンポジウム	土木学会	150 名
32)14.11.2～4	第 26 回土木計画学研究発表会	岩手大学	757 名
33)14.11.8	既設構造物の耐震補強に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	250 名
34)14.11.14～15	第 39 回環境工学研究フォーラム	高知工科大学	223 名
35)14.11.26～27	第 20 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	土木学会	176 名
36)14.11.27～29	鉄道技術連合シンポジウム	神戸市産業振興センター	378 名
37)14.11.28～29	第 12 回トンネル工学研究発表会	中央大学駿河台記念館	270 名
38)14.12.3	第 2 回地震防災技術懇話会	土木会館 AB 会議室	30 名
39)14.12.3	応用力学フォーラム(東北地区)	東北大学青葉記念会館	34 名
40)14.12.5	「コンクリート耐久性データベースフォーマット」に関する委員会報告とシンポジウム	土木学会	96 名
41)14.12.19	「アフガニスタン国土復興ビジョン検討懇談会」報告会	土木学会講堂	72 名
42)14.12.20	第 7 回舗装工学講演会	中央大学	116 名
43)15.1.15～16	第 2 回流体力の評価とその応用に関するシンポジウム	土木学会講堂	105 名
44)15.1.15	土木デザインワークショップ 2003	東京工業大学百年記念館	78 名
45)15.1.17	コンクリート構造物の非線形解析技術に関する研究成果報告会	土木学会講堂	138 名
46)15.1.17	第 8 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議場	270 名
47)15.1.17	計算力学フォーラム	中央大学	58 名
48)15.1.17	第 6 回固体の破壊現象フォーラム	東京大学地震研究所	17 名
49)15.1.20	第 1 回日本－台湾国際シンポジウム	土木会館講堂	50 名
50)15.1.23～24	第 6 回地震時保有耐力法に基づく橋梁構造等のシンポジウム	土木学会	168 名
51)15.1.23～24	第 32 回岩盤力学に関するシンポジウム	中央大学駿河台記念館	152 名
52)15.1.24～25	環境工学委員会 40 周年記念シンポジウム	東京大学先端科学技術研究センター	102 名
53)15.2.21	地球環境委員会シンポジウム	土木会館講堂	30 名
54)15.2.24	「ISO への対応」に関する第 5 回シンポジウム	土木学会講堂	51 名
55)15.3.6～7	第 4 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム	土木学会講堂	200 名

56)15.3.11～13	第 47 回水理講演会	土木学会講堂・早稲田大学大久保キャンパス	500 名
57)15.3.13	地震工学委員会数物小委員会講演会	参加 SCS 局	
58)15.3.17	歴史的鉄橋の保存・利活に関する講演会	土木会館講堂	37 名
59)15.3.18	計算力学フォーラム	広島大学学士会館	56 名
60)15.3.26	応用力学フォーラム(関東地区) ・講習会，セミナー	東京大学地震研究所	16 名
1)14.5.14	コンクリートの環境負荷評価に関する講習会ならびにシンポジウム	野口英世記念会館	118 名
2)14.5.20	「鉄筋コンクリート製地中構造物の耐震性能照査技術」に関する講習会	発明会館	114 名
3)14.8.6	第 36 回夏期講習会	神戸市総合教育センター	104 名
4)14.9.10	水理公式集例題プログラム集講習会(東京会場)	土木学会講堂	73 名
5)14.9.12～13	H14 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門(東京セミナー)土木会館 AB 会議室	土木会館 AB 会議室	41 名
6)14.9.13	第 3 回計算力学講習会	土木学会講堂	64 名
7)14.9.13	水理公式集例題プログラム集講習会(福岡)	九州大学	85 名
8)14.9.19	水理公式集例題プログラム集講習会(大阪)	千里阪急ホテル	143 名
9)14.10.10～11	H14 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門(仙台セミナー)	ハーネル仙台	23 名
10)14.10.18	第 5 回橋梁構造等の耐震設計に関する講習会	中央大学駿河台記念館	176 名
11)14.10.25	「山岳トンネル覆工の現状と対策」講習会	土木学会	103 名
12)14.10.25	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 30	野口英世記念会館	105 名
13)14.11.15	第 4 回地震災害マネジメントセミナー(神戸)	神戸市産業振興センター	47 名
14)14.11.29	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 31	土木学会講堂	87 名
15)14.12.2	複合構造物の性能照査指針(案)に関する講習会	土木学会講堂	92 名
16)14.12.4	「建設リサイクル技術」講習会	土木会館講堂	97 名
17)14.12.6	「化学混和剤の性能評価」に関する講習会ならびにシンポジウム	土木学会講堂	95 名
18)14.12.12	第 20 回建設用ロボットに関する技術講習会	土木学会講堂	77 名
19)14.12.12	2002 年制定コンクリート標準示方書〔耐震性能照査編〕の発刊ならびに「阪神・淡路大震災の被害分析」に関する講習会	日本教育会館 一ツ橋ホール	310 名
20)15.1.30	2002 年制定コンクリート標準示方書〔耐震性能照査編〕の発刊ならびに「阪神・淡路大震災の被害分析」に関する講習会(大阪)	建設交流館 グリーンホール	156 名

21)15.2.4	「岩盤斜面防護用吹付けコンクリート」に関する講習会	土木学会講堂	68 名
22)15.3.13	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 32	土木学会講堂	32 名
23)15.3.14	第 9 回新しい材料・工法・機械講習会	土木学会講堂	134 名
24)15.3.19	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 33	土木学会講堂	110 名
25)15.3.20	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 34	土木学会講堂	96 名

2003(H15 年)	・講演会, シンポジウム, 研究発表会		
1)15.4.3～4	第 49 回構造工学シンポジウム	日本学術会議	233 名
2)15.4.7	第 1 回土木学会トークサロン	土木学会講堂	110 名
3)15.4.16	鋼構造物の性能照査型設計体系に関するシンポジウム	土木学会講堂	139 名
4)15.4.22	第 3 回地震防災技術懇話会	土木学会講堂	31 名
5)15.5.14	第 16 回環境システムシンポジウム	土木学会講堂	23 名
6)15.6.3～4	2003 年度河川技術に関するシンポジウム	東京大学	354 名
7)15.6.5～6	第 3 回道路橋床版シンポジウム	東京ガーデンパレス	172 名
8)15.6.6～8	第 27 回土木計画学研究発表会(春大会)	東京大学	606 名
9)15.6.10	第 4 回地震防災技術懇話会	土木学会講堂	34 名
10)15.6.11	波浪荷重に関する講演会	土木学会講堂	80 名
11)15.6.12	「PC 構造物の現状の問題点とその対策」に関するシンポジウム	土木学会講堂	175 名
12)15.6.17～18	レベル 2 地震動による液状化に関するシンポジウム	土木学会講堂	160 名
13)15.6.18～19	第 23 回土木史研究発表会	兵庫県民会館	160 名
14)15.6.20	「コンクリートの化学的侵食・溶脱」に関するシンポジウム	土木学会講堂	130 名
15)15.6.27	第 2 回土木学会トークサロン	土木学会 AB 会議室	30 名
16)15.7.15	第 7 回鉄道力学シンポジウム	土木学会講堂	67 名
17)15.7.16～17	第 28 回海洋開発シンポジウム	石川県厚生年金会館	434 名
18)15.7.17	第 17 回コンサルタントシンポジウム	土木学会講堂	118 名
19)15.7.22～23	第 11 回地球環境シンポジウム	大宮ソニックシティ	143 名
20)15.7.23～24	第 8 回水シンポジウム	愛媛県県民文化会館	680 名
21)15.7.25	土木建設技術シンポジウム 2003	中央大学駿河台記念館	160 名
22)15.7.25	「フレッシュコンクリートのコンシステンシー評価指標」に関するシンポジウム	土木学会講堂	73 名
23)15.7.26	第 5 回インターナショナルサマーシンポジウム	土木学会	128 名
24)15.7.29	第 2 回木橋技術に関するシンポジウム	土木学会講堂	85 名
25)15.8.6	社会資本へのアセットマネジメントの適用に関するワークショップ	土木学会講堂	97 名
26)15.8.21	宮城県沖の地震・アルジェリア地震被害調査報告会	土木学会講堂	100 名
27)15.9.1～2	橋梁震動コロキウム' 03	北見工業大学	66 名
28)15.9.2	第 6 回鋼構造と橋に関するシンポジウム	法政大学	190 名
29)15.9.12	応用力学フォーラム	九州大学	30 名
30)15.9.23	第 6 回応用力学シンポジウム	徳島大学	229 名
31)15.9.29	土木学会トークサロン	土木学会	28 名
32)15.10.14	ISO23469 に関する公開討論会	土木学会講堂	36 名
33)15.10.16～17	建設マネジメント国際シンポジウム	土木学会講堂	73 名

34)15.10.23	環境システム地域シンポジウム	北九州国際会議場	250 名
35)15.10.24	第 8 回固体の破壊現象フォーラム	名古屋大学	23 名
36)15.10.24～25	第 31 回環境システム研究論文発表会	北九州学術研究都市 産学連携センター	239 名
37)15.10.28～29	第 28 回情報利用技術シンポジウム	土木学会講堂	150 名
38)15.11.6～7	第 5 回複合構造の活用に関するシンポジウム	土木学会	140 名
39)15.11.10～15	第 2 回日中舗装技術に関する国際ワークショップ	中央大学	100 名
40)15.11.13～15	第 1 回「構造ヘルスマニタリング及び知的インフラストラ クチャ」に関する国際会議	土木学会	277 名
41)15.11.14～15	第 40 回環境工学研究フォーラム	和歌山大学	280 名
42)15.11.17	第 50 回海岸工学講演会記念シンポジウム	中央大学駿河台記念 館	307 名
43)15.11.18～20	第 50 回海岸工学講演会	中央大学駿河台記念 館	800 名
44)15.11.25	十勝沖地震被害調査報告会	ホテルモントレ札幌	100 名
45)15.11.25～26	第 21 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	北海道大学学術交流 会館	396 名
46)15.11.26	応用力学フォーラム(東北地区)	東北大学青葉記念会 館	60 名
47)15.11.27～28	第 13 回トンネル工学研究発表会	土木学会	240 名
48)15.11.27～29	第 28 回土木計画学研究発表会	豊橋技術科学大学	785 名
49)15.12.1	第 5 回地震防災技術懇話会	土木会館講堂	35 名
50)15.12.4～5	第 8 回設計工学に関するシンポジウム	土木学会講堂	29 名
51)15.12.6～7	第 3 回高専・短大・専門学校土木教育シンポジウム	神戸市立工業高等専 門学校	51 名
52)15.12.8	応用力学フォーラム(第 19 回乱流フォーラム)	神戸大学工学部創造 工学スタジオ	20 名
53)15.12.9～12	第 27 回地震工学研究発表会	大阪国際交流センタ ー	450 名
54)15.12.19	第 8 回舗装工学講演会	土木会館	109 名
55)16.1.19	第 9 回地下空間シンポジウム	早稲田大学国際会議 場	261 名
56)16.1.19	土木デザインワークショップ 2004	東京工業大学百年記 念館	75 名
57)16.1.26～27	第 7 回地震時保有耐力法に基づく橋梁構造等の耐震設計 法に関するシンポジウム	土木学会	150 名
58)16.1.29～30	第 33 回岩盤力学に関するシンポジウム	土木学会	195 名
59)16.1.30	重点研究課題「環境共生型エネルギーの持続可能社会への 適用に関する研究」シンポジウム	東京大学弥生講堂一 条ホール	52 名
60)16.2.12	「コンクリートの表面被覆および表面改質」に関するシン	土木学会講堂	147 名

	ポジウム		
61)16.2.16	第4回土木学会トークサロン	土木学会	40名
62)16.2.19	第17回環境システムシンポジウム	土木学会講堂	61名
63)16.2.24	応用力学フォーラム(中国地区)	岡山大学	15名
64)16.3.4～5	第5回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム	土木学会講堂	180名
65)16.3.12	第5回地震災害マネジメントセミナー	中央大学駿河台記念館	94名
66)16.3.12	土木学会安全問題討論会'04	土木学会講堂	120名
67)16.3.16～18	第48回水工学講演会	熊本大学	712名
68)16.3.19	計算力学フォーラム	京都大学学術情報メディアセンター	36名
69)16.3.24	第9回個体の破壊現象フォーラム ・講習会, セミナー	東京大学地震研究所	14名
1)15.5.16	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ35	土木学会講堂	115名
2)15.5.27	デザイン賞受賞式	土木学会講堂	100名
3)15.6.11	「波浪荷重」に関するISO基準WGの報告書原案説明会	土木学会講堂	80名
4)15.6.13	「社会基盤メンテナンス工学」講習会	土木学会講堂	154名
5)15.6.27	橋の動的耐震設計に関する講習会(東京会場)	土木学会講堂	150名
6)15.6.27	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ36	大阪府互助会多目的ホール	23名
7)15.7.5～6	第7回JABEE審査員研修会	新日本製鐵幕張研修センター	30名
8)15.7.7	「電気炉酸化スラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針(案)」に関する講習会	愛知県生コンクリート工業組合	127名
9)15.7.12～13	第8回JABEE審査員研修会	コスモスクエア国際交流センター大阪	11名
10)15.8.1	第37回夏期講習会	土木学会講堂	33名
11)15.8.6～7	第39回水工学に関する夏期研修会 Aコース Bコース	岡山コンベンションセンターままかりフォーラム	302名 274名
12)15.8.9～10	第9回JABEE審査員研修会	新日本製鐵幕張研修センター	17名
13)15.9.9	「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と規準化が望まれる試験方法の動向」および「コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題」に関する講習会	日本薬学会会長井記念ホール	185名
14)15.9.9～10	H15年度土木学会による実務者のための耐震設計入門(東京セミナー)	土木学会講堂	53名
15)15.9.11	「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会	土木学会	136名

16)15.9.12	第9回新しい材料・工法・機械講習会	名古屋市工業研究所	86名
17)15.9.14～15	第10回 JABEE 審査員研修会	新日本製鐵幕張研修センター	13名
18)15.10.2～3	H15 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門(名古屋セミナー)	名古屋工業大学	40名
19)15.10.9	「土木技術者の倫理」講習会	土木学会 AB 会議室	31名
20)15.10.10	「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会	北大学術交流館	102名
21)15.10.31	「都市 NATM とシールド工法の境界領域」講習会	土木学会講堂	110名
22)15.11.7	「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会	建設交流館	107人
23)15.11.10	「コンクリート標準示方書〔維持管理編〕に準拠した維持管理マニュアル(その1)および関連資料の発刊」ならびに「エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針の改訂」に関する講習会	野口英世記念会館	259名
24)15.11.10	第4回計算力学講習会	土木学会講堂	81名
25)15.11.12	橋梁の耐風設計に関する講習会	土木学会 A 会議室	50名
26)15.11.28	これからの舗装評価方法に関する講習会(新潟)	興和ビル	80名
27)15.12.2	第21回建設用ロボットに関する技術講習会	土木学会講堂	102名
28)15.12.2	「水理公式集例題プログラム集」講習会	北海道開発土木研究所	70名
29)15.12.2	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 37	SYD ホール	53名
30)15.12.4	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 38	シビックセンター	99名
31)15.12.5	これからの舗装評価方法に関する講習会(大阪)	大阪科学技術センター	56名
32)15.12.5	「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会	ガーデンパレス	103人
33)15.12.9～10	安全で経済的な施工計画を行うための講習会	土木学会講堂	124名
34)16.1.16	「土木技術者の倫理」講習会	土木学会 AB 会議室	33名
35)16.1.20	「FRP 橋梁－技術とその展望」に関する講習会	土木学会講堂	90名
36)16.1.22～23	H15 年度構造工学における有限要素法の基礎と応用講習会	土木学会講堂	56名
37)16.1.26	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 39	浜離宮朝日ホール	133名
38)16.3.12	安全問題研究討論会'04	土木学会講堂	120名
39)16.3.16	土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 40	メルパルク大阪	32名
40)16.3.19	第9回新しい材料・工法・機械講習会	札幌市教育文化会館	108名

17. その他

17.1 本会と関係機関および学協会

1. 概要

本会の源流である日本工学会には、現在 99 の学協会が加盟しており、それぞれ情報の交換、役職員の交流、共催行事などを行っている。一方、学問・技術の進展はますます細分化を促進し、土木工学関係の新しい学協会、任意団体の設立があり、主要分野は専門の団体をもち、その数も 60 を超える。特に岩盤、土質、トンネル、鉄道、道路、上下水道、港湾、都市計画、コンクリート、電力士土木、農業土木など多くの会員を擁しており、本会との共通会員も多い。以下に、本会と関連が深い機関（海外を含む）、団体の動き、共催行事、本会会員とのかかわり等を略述する。

1.1 日本学術会議と会員

日本学術会議は、1948 年 7 月「日本学術会議法」に基づき「我が国の科学者の内外に対する代表機関」として設置された内閣府（旧総理府）所管の機関であり、学者の国会と呼ばれている。第 13 期からは、学協会を基盤とする会員推薦制度となり、被推薦母体である学協会の責任は、非常に重要となった。土木学会は、土木工学（従来は災害工学）および基礎工学研究連絡委員会へ会員を推薦している。会員の定数は、第 1 部（文学）31 名、第 2 部（法律学）・第 3 部（経済学）各 26 名、第 4 部（理学）31 名、第 5 部（工学）33 名、第 6 部（農学）30 名、第 7 部（医学）34 名、計 210 名である。第 5 部 33 名のうち土木工学は 4 名である。参考のため 16 期～19 期までの土木工学会員の任期および氏名をしめす。（一覧参照）

また、各種の研究連絡委員会（研連）を設け、それぞれ調査研究ならびに講演会、シンポジウム等を開催している。土木に関係ある委員会は以下のようなものがあり、本会からも委員が選出されている。メカニクス・構造研連（理論・応用力学、構造工学、水力学・水理学、地震工学、計算力学専門委員会）、社会環境工学研連（都市地域計画、自然災害工学、地盤環境工学、環境工学、水資源学、計画工学専門委員会）、エネルギー・資源工学研連（地球・資源システム工学、リサイクル工学専門委員会）、工学教育、工学国際団体、人間と工学（安全工学専門委員会）、人工物設計・生産（接合工学専門委員会）研究連絡委員会がある。

なお、最近の日本学術会議の動きにつき少し触れると、2003 年 2 月 26 日に、総合科学技術会議から意見具申された「日本学術会議の在り方について」を踏まえ、今後の日本学術会議法の一部を改正する法律案の概要の骨子は以下のようです。

[会員制度の改革]

- ・会員選考方法を登録学術研究団体を基礎とした推薦制から、日本学術会議が会員候補者を選考する
- ・70 歳定年制、再任を禁止

[内部組織の改革]

- ・現行の 7 部制を「人文科学、生命科学、理学及び工学の 3 部制に改組
- ・会員と連携して日本学術会議の職務の一部を行う連携会員の新設など

[内閣府への移管]

- ・内閣総理大臣の下、総合科学技術会議と連携して我が国の科学技術の推進に寄与など、2005 年 10 月施工を予定している。

第 15 期会員 任期：1991. 7. 22. ～1994. 7. 21

天野 光三	(計画)	(京都大学)
伊藤 学	(構造・材料)	(東京大学)
松尾 稔	(地盤)	(名古屋大学)
松本順一郎	(環境・防災)	(東北大学)

第 16 期会員 任期：1994. 7. 22. ～1997. 7. 21

伊藤 学	(構造・材料)	(東京大学)
尾坂 芳夫	(構造・材料)	(東北大学)
榎木 亨	(水工)	(大阪大学)
松尾 稔	(地盤)	(名古屋大学)

第 17 期会員 任期：1997. 7. 22. ～2000. 7. 21

岡村 甫	(構造・材料)	(東京大学)
榎木 亨	(水工)	(大阪大学)
丹保 憲仁	(環境・防災)	(北海道大学)
松尾 稔	(地盤)	(名古屋大学)

第 18 期会員 任期：2000. 7. 22. ～2003. 7. 21

岡村 甫	(構造・材料)	(東京大学)
木村 孟	(地盤)	(東京大学)
丹保 憲仁	(環境・防災)	(北海道大学)
道上 正規	(水工)	(鳥取大学)

第 19 期会員 任期：2003. 7. 22. ～

池田 駿介	(水工)	(東京工業大学)
木村 孟	(地盤)	(大学評価・学位授与機構)
楠田 哲也	(環境・防災)	(九州大学)
中村 英夫	(計画)	(武蔵工業大学)

1. 2 土木関連分野の学協会

学 協 会	創立年月	沿 革
1. 日本工学会	1879.11	工部大学校第 1 回卒業生により組織、各学協会の源流
2. 日本地質学会	1893.11	1934 年まで東京地質学会
3. 日本港湾協会	1922.11	
4. 農業土木学会	1929.5	耕地整理研究会(1907)が前身
5. 日本水道協会	1932.5	上水協議会(1904)が前身
6. 全国治水砂防協会	1935.1	
7. 電力土木技術協会	1938	水力協会として発足、1952 年発電水力協会、77 年に現在名に改称
8. 日本河川協会	1940.11	内務省河川課編「水利と土木(雑誌)」(第 1 号 1928.2)が源流
9. 震災予防協会	1941.5	
10. 日本道路建設業協会	1945.11	
11. 都市計画協会	1946.9	(社)都市研究会(1917)が前身
12. 日本セメント技術協会	1946.9	日本ポルトランドセメント業協会(1900)が前身
12. 全日本建設技術協会	1946.12	内務省系の技術者団体「興士会」(1941)が前身
14. 日本鉄道技術協会	1947.2	
15. 日本道路協会	1947.6	(社)道路改良会(1919.3) 日本道路技術協会(1938.12)が合併
16. 砂防学会	1947.6	
17. 日本交通協会	1947.11	帝国鉄道協会(1898)、帝国交通協会(1944)が前身
18. 鋼材倶楽部	1947.12	
19. 全国建設業協会	1948.3	日本土木組合(1899)、日本建築業組合(1911) 以下 5 回にわたり改組統合
20. 鉄骨橋梁協会	1948.3	
21. セメント協会	1948.4	
22. 土木工業協会	1948.5	日本土木組合(1899)、土木業協会(1936)などが前身
23. 水門鉄管協会	1949.1	
24. 日本建設機械化協会	1949.3	
25. 土質工学会	1949.1	日本土質工学基礎委員会として創立、1954 年、1994 年に改称
26. 日本測量協会	1951.1	
27. 日本都市計画学会	1951.1	
28. 日本材料学会	1952	日本材料試験協会を 1963 年に改称
29. 日本大ダム会議	1953.1	大堰提国際委員会 日本国内委員会(1931)を土木学会、日本動力協会、電気協会で組織したのが前身
30. 日本鉄道施設協	1953.5	日本保線協会を 1962 年に改称
31. 日本測地学会	1954.4	
32. 全国防災協会	1954.4	
33. 国際建設技術協会	1955.9	
34. プレストレストコンクリート工業協会	1955.1	
35. 河川水温調査会	1956.8	

36.日本ダム協会	1957.1	東海振興会(1943)、天竜川水系総合開発協会(1952)、952 改称
37.プレストレストコンクリート技術協会	1958.2	
38.日本工業用水協会	1958.1	
39.日本応用地質学会	1960.1	
40.全国測量業協会	1961.8	全国測量協会(任意団体)を改称
41.日本埋立浚渫協会	1961.8	水曜会(1931)、埋立協会(1951)、1972 年に改組改称
42.日本写真測量学会	1962.1	1950 年に任意団体として発足、1953 年から日本測地学会内で活動していたが 1962 年に独立
43.建設コンサルタンツ協会	1963.3	
44.地すべり学会	1963.3	
45.日本下水道協会	1964.4	全国下水道促進会議(1951)が前身、5.日本水道協会から独立
46.日本橋梁建設協会	1964.6	21.鉄骨橋梁協会(1948)から独立
47.鉄道建設業協会	1965.2	親和会を改組
48.日本鋼構造協会	1965.3	
49.日本コンクリート工学協会	1965.7	日本コンクリート工学会議(1964)を改称
50.海外鉄道技術協力協会	1965.9	
51.岩の力学連合会	1968.4	土木、土質、材料、資源素材の 4 学会で連合委を組織、1979 年に改称
52.日本流体力学会	1968.1	
53.日本水環境学会	1971.1	日本水質汚濁研究会議として発足、1991.6 に改称
54.大阪市土木技術協会	1971.1	財団法人
55.国際交通安全学会	1974.9	財団法人
56.日本トンネル技術協会	1975.8	
57.鹿島学術振興財団	1976.4	財団法人
58.海洋架橋調査会	1978.4	財団法人
59.可視化情報学会	1981.3	流れの可視化学会として発足、1990.2 社団となり改称
60.日本リモートセンシング学会	1981.3	
61.日本自然災害学会	1981	
62.日本ロボット学会	1983.1	
63.日本混相流学会	1987.7	
64.環境科学会	1987.11	1993.5 社団
65.水文・水資源学会	1998.3	
66.廃棄物学会	1990.3	
67.日本地震工学会	2001.1	

注:土木学会の 80 年、土木学会 15 年度名簿等より作成

17. 2 本会会員の日本学士院会員

1906 年	古市 公威	本会第 1 代会長
1934 年	中山秀三郎	本会第 11 代会長
1949 年	田中 豊	本会第 33 代会長
1950 年	吉田徳次郎	本会第 37 代会長
1966 年	青木 楠男	本会第 42 代会長
1975 年	武藤 清	日本建築学会名誉会員
1987 年	岡本 舜三	本会第 60 代会長

17.3 本会会員の文化勲章・文化功労者

1968 年度推挙	文化勲章受章 鈴木 雅次 本会第 32 代会長
1972 年度推挙	文化勲章受賞 赤木 正雄 会員
1972 年度推挙	文化勲章受章 内田 祥三 本会会員
1983 年度推挙	文化勲章受章 武藤 清 本会会員
1988 年度推挙	富樫 凱一 本会名誉会員
1990 年度推挙	岡本 舜三 本会第 60 代会長
1996 年度推挙	山本 三郎 本会第 51 代会長
1999 年度推挙	堀川 清司 本会第 77 代会長

17. 4 本会会員の国際学会会長経験者（1990 年以降）

- ・ 国際写真測量・リモートセンシング学会

ISPRS : International Society of Photogrammetry and Remote Sensing

村井 俊治 1992～1996

- ・ 国際水学会

IWA : International Water Association

丹保 憲仁 2001～2003

- ・ 国際水理学会 (1935 International Association for Hydraulic Research (略称 IAHR) の会長・副会長あるいは理事として活躍した本会員の方々（但し、1990 年以降）

和田 明 : 1990～1992 理事

1992～1995 副会長

玉井 信行 : 2003～ 副会長

17. 5 大臣経験者

氏 名	職 名	就任年月
泉 信也	経済産業省副大臣	2003. 9
	総括政務次官	2000. 12
野沢太三	法務大臣	2003. 9
陣内孝雄	法務大臣	1999. 3
衆議院	石井啓一・渡部具能・松下忠洋	
参議院	岩井國臣・杳掛哲男・松井 洋・陣内孝雄・ 脇 雅史・野沢太三・泉 信也・坂野重信・ 松谷宏一郎・上野公成・増岡康治・井上章平・ 桜井 新	

17.6 長官・総裁・理事長等経験者

小森 博	日本鉄道建設公団	2003. 3
	運輸・鉄道機構機構長	2004. 4
黒田 晃	北海道開発公団事務次官	
泉堅二郎	エチオピア大使	2003. 9
佐藤光生	アジア開発銀行総裁	2002. 1
藤井浩芳	建設省技監、事務次官	
青山俊樹	建設省技監	2002. 7
	国土交通省事務次官	2003. 1
	水資源開発機構機構長	2004. 5
佐藤信彦	阪神道路公団総裁	2001. 1
豊田 実	日本鉄道公団総裁	
近藤 徹	水資源開発公団総裁	1996. 1
川本正和	水資源開発公団総裁	
藤川寛之	本州四国連絡橋公団総裁	2002. 4
鈴木道雄	日本道路公団総裁	1990. 8
藤井浩芳	日本道路公団総裁	
三谷 浩	首都高速道路公団	
橋本鋼太郎	首都高速道路公団	
桜井 新	環境庁長官	1994. 7

17.7 知事・政令指定都市首長経験者

高秀 秀信	横浜市長	1990～2002
西尾 武喜	名古屋市長	1985～1997
笹山 幸俊	神戸市長	1989～2001

17.8 事務次官経験者

建設省（国土交通省）	藤井浩芳・青山俊樹
------------	-----------

17.9 学長経験者

17.9.1 国立大学

丹保 憲仁	北海道大学
	放送大学
松尾 稔	名古屋大学
道上 正規	鳥取大学
崎元 哲郎	熊本大学
河野伊一郎	岡山大学
原 潔	神戸商船大学
椎貝 博美	山梨大学
福田 正	宮城大学
吉田 弥智	名古屋工業大学
高田 弘	佐賀大学
加藤 晃	岐阜大学
木村 孟	東京工業大学
徳田 弘	秋田大学

17.9.2 私立大学

天野 光三	大阪産業大学
室田 明	大阪産業大学
桜井 春輔	広島工業大学
堀川 清司	武蔵工業大学
中村 英夫	武蔵工業大学
松尾 友矩	東洋大学
岡村 甫	高知工科大学
川口 直能	国土舘大学
進士五十八	東京農業大学
桜井 政経	道都大学
上床 隆彦	東和大学
坂本 正史	西日本工業大学
坂田 弘	西日本工業大学
伊吹山四郎	攻玉社工科
伯野 元彦	同上

17. 10 高専校長経験者（※：現職 2004.7 現）

小川 正二	長岡工業高専※
高木 不折	豊田工業高専※
柳沢 栄司	八戸工業高専※
岩松 幸雄	福島工業高専
白石 成人	舞鶴工業高専
田中 茂利	福井工業高専
村尾 正信	神戸市立工業高専
松木 良夫	神戸市立工業高専
高橋 幹二	松江工業高専

17. 11 土木学会事務局

1994年以降の本部事務局長及び次長一覧

事務局長	事務局次長	任 期
石塚 建		1992. 6～1996. 5
	河村 忠男	1996. 6～1997. 5
五老海 正和		1997. 6～2000. 2
	鈴木 勝芳	1997. 5～1997. 5
	阿部 登喜男	1997. 6～1999. 10
松尾 全士		2000. 3～
	永井 進	2001. 4～2003. 4
	鈴木 幹啓	2003. 5～ (出向)

1994年以降の本部事務職員一覧

石塚 健 1957～1996	大川 幸子 1978～2004	佐々木 淳 1993～
大手寿美子 1969～1999	保坂美紀子 1988～	山村 照人 1995～
藤井 肇男 1971～2002	山口 智子 1990～1995	二瓶 貞洋 1995～
相沢 賢一 1973～	黛 巖 1960～1997	河西 貴至 1994～2002
中村 雅昭 1975～	松尾 全士 1972～2004	小野寺顕太郎 1994～
竹田 廣 1980～	飯田 克子 1975～2004	村木 敏晴 1994～
横山 昭郎 1987～1994	為国 孝敏 1983～1996	磯崎ひろ子 1996～
阿部登喜男 1958～1999	今村 玲子 1991～	石郷岡 猛 1996～
鈴木 勝芳 1962～1997	和志武 等 1981～	保科 涼子 1997～
林 幹博 1972～2004	熊谷 直幸 1993～	丸畑 明子 1998～
鎌田 良子 1975～	小川 智宏 1992～1995	橋本 剛志 2003～
沖 いづみ 1982～	野村 勇 1994～1998	片山 功三 2001～
増永 克也 1984～	小林 保隆 1992～1995	坂本 真至 2003～
葛生 弘美 1987～1997	富田 俊行 1992～	佐藤 雅泰 2003～
飯野 実 1990～	工藤 修裕 1991～	川島 一哲 2004～
河村 忠男 1963～1997	岩西 伸介 1993～	斎藤由紀子 2004～
五老海正和 1963～2000	中田 春介 1992～1994	加藤 麻紀 2004～
永井 進 1966～2003	松沼 岳 1993～	
岡部 俊子 1973～	柳川 博之 1992～	

最近 10 年間の各課・室・機構別管理職 (2004.7)

総務課	永井 進 ※	五老海正和 〈兼〉※	松尾全士	林 幹博	竹田 廣	
経理課	野村 勇 ※	相沢賢一				
会員課	松尾全士	河村忠男 ※	林 幹博	松尾全士 (兼)	竹田 廣	磯崎ひろ子
編集課	阿部登喜男 ※	中村雅昭				
研究事業	鈴木勝芳 ※	永井 進 ※	鈴木幹啓 (出向)			
出版事業	五老海正和 ※	鈴木勝芳 ※	五老海正和 〈兼〉 ※	阿部登喜男 ※	中村雅昭	
企画広報室	河村忠男 ※	松尾全士	比奈地信雄 (出向)※	永井 進 〈兼〉※	鈴木幹啓 (出向)	
国際室	城 好彦 (出向)※	吉川潤一 (出向)※	鈴木幹啓 (出向・兼)	西村茂夫 (出向)		
情報システム室	鈴木俊胤 (出向・嘱託)					
技術推進機構						
企画部	片山功三					
技術推進部	鈴木幹啓 (出向)					

※退職

情報システム室 (1996. 3) 国際室 (1998. 6) 技術推進機構 (1999. 6) 設置

土木学会ビジュアル年表 1995～2004

◎土木学会誌 土木学会創立90周年記念特集号より
写真提供＝：毎日新聞社／：読売新聞社

年	歴代会長	学会の動き	土木関連の出来事	社会の動き
1914 【大正3年】	初代 古市公威	9.15 ●土木学会設立	12 ●東京駅開業	1 ●桜島大噴火 7 ●第一次世界大戦勃発 8 ●パナマ運河開通
1994 【平成6年】	第82代 中村 英夫	全国大会テーマ ひと・ゆめ・土木 豊かな社会 北海道大学	6 ●建設省「不正行為に対する監督処分の基準」を公表 7 ●公正取引委員会「公共入札ガイドライン」(通称)を公表 8 ●広島新交通システム「アストムライン」開通 9 ●関西国際空港開港 12 ●首都高湾岸線「横浜ベイブリッジ」ー「羽田空港」間開通 12 ●「華嚴の滝」崩落防止工事	6 ●松本サリン事件 6 ●村山内閣発足 7 ●向井千秋、日本人初の女性宇宙飛行士 10 ●大江健三郎ノーベル文学賞受賞 2 ●リレハンメル五輪開催 5 ●南アフリカ大統領にネルソン・マンデラ氏就任 7 ●金日成死去 9 ●ロシア軍、チェチェン侵攻 11 ●ユーロトンネル開通
1995 【平成7年】	第83代 小坂 忠	自然・人・土木 ……災害に強い社会 の構築をめざして 愛媛大学	1 ●建設産業政策大綱原案公表 2 ●小田急線の高架化差し止め訴訟 5 ●耐震基準等基本問題検討会議、耐震基準を提言 5 ●長良川河口堰ゲート下ろす 7 ●道路公害訴訟(西淀川、国道43号)で相次いで国が敗訴 7 ●建設白書「防災対策」強化を提言(95年度版)	1 ●阪神・淡路大震災発生(M7.2) 2 ●大蔵省 公共事業費の5%を震災復興財源として確保 3 ●地下鉄サリン事件 1 ●世界貿易機構(WTO)発足 5 ●フランス、シラク大統領核実験再開を表明 8 ●マイクロソフト社がWindows95発売
1996 【平成8年】	第84代 松尾 稔	9 ●学会HPの開設 人と地球の共存をめざして 名城大学	2 ●「豊浜トンネル」崩落で死者 5 ●道路審議会基本政策部会「キックオフレポート」本格的PI開始…… 9 ●阪神高速道路が全面復旧(深江-武庫川) 10 ●道路橋示方書の耐震設計編を改定 12 ●長野県小谷村の蒲原沢で大規模土石流発生	1 ●橋本内閣発足 6 ●文化財保護法改定により登録文化財制度発足 7 ●病原性大腸菌O-157による食中毒、堺市で起こる 1 ●パレスチナ自治政府議長にアラファト氏当選 8 ●アトランタ五輪開催…… 12 ●ペルー日本大使館人質事件
1997 【平成9年】	第85代 宮崎 明	1 ●学会誌A4版になる 7 ●ISO対応特別委員会設置 みつめよう 土木の原点とフロンティア技術 中央大学	3 ●羽田空港C滑走路供用開始 3 ●秋田新幹線「こまち」開業 4 ●政府、公共工事コスト縮減対策に関する行動指針を制定 5 ●河川法改定。環境の整備と保全を河川法の目的に追加 6 ●建設省2004年までに全直轄工事を電子化 7 ●北海道「時のアセスメント」対応6事業を公表 8 ●第2白糸トンネル崩落事故 8 ●建設省18のダム事業中止・休止 10 ●横浜のドック(旧横浜船渠株式会社 第二号船渠)が重要文化財に…… 10 ●長野新幹線高崎駅～長野駅間開業 11 ●政府、社会資本整備に民間資金を導入 12 ●東京湾アクアライン開通……	2 ●神戸連続児童殺傷事件(酒鬼薔薇事件) 4 ●消費税5%へ引き上げ 7 ●不況に突入、リストラ旋風吹く 4 ●農水省、諫早湾の堤防締め切る…… 6 ●環境影響評価法制定 11 ●北海道拓植銀行破綻・山一証券自主廃業 7 ●中国に香港返還 7 ●クローン羊の誕生 11 ●ダイアナ妃葬儀…… 12 ●地球温暖化防止京都会議(COP3)で京都議定書採択
1998 【平成10年】	●JSCE2000 土木学会の改革策 第86代 岡田 宏	安心と活力ある まち創り・くに創り 神戸大学	1 ●建設業で貸し渋り倒産増加 3 ●五全総閣議決定 4 ●明石海峡大橋開通(橋長3911m)…… 4 ●建設業の倒産5000件超える。負債額過去最高 5 ●21世紀環境委員会が「無駄な公共事業100選」を発表 6 ●来島大橋で仮設の橋桁落下 8 ●矢作川河川堰の建設休止	3 ●NPO法成立 4 ●政府、温暖化防止「京都議定書」に署名 5 ●家電リサイクル法成立 7 ●小渕内閣発足 7 ●和歌山カレー毒物混入事件 8・10 ●集中豪雨(新潟県で河川堤決壊)と台風被害甚大 10 ●日本長期信用銀行を国有化 2 ●長野五輪開催…… 2 ●韓国大統領に金大中就任 5 ●インド・パキスタンが核実験 7 ●タイ通貨暴落、アジア経済危機、世界へ波及
1999 【平成11年】	●土木学会技術推進機構設立 5 ●土木技術者の倫理規定制定 11 ●JABEE設立総会 第87代 岡村 甫	土木の再発見、再構築、新展開 広島大学	5 ●海岸法改定。防護に加えて環境と利用を目的とする 5 ●「瀬戸しまなみ海道」開通 6 ●山陽新幹線「福岡トンネル」内で覆工コンクリート剥落、列車に損傷…… 7 ●首都高速道路で室内標識の鉄製ポールが落下 7 ●阪神高速道路から鋼板が落下 10 ●住宅・都市整備公団を都市基盤整備公団に改組 10 ●山陽新幹線「北九州トンネル」内でコンクリート塊が剥離、落下 11 ●JR室蘭線「礼文浜トンネル」で覆工コンクリートが剥落	1 ●地域振興の商品券配布 2 ●日銀ゼロ金利政策を実施 5 ●情報公開法・ガイドライン関連法成立 7 ●中央省庁改革関連法、地方分権一括法成立 8 ●国家公務員倫理法、国旗・国歌法、通信傍受法、改正住民基本台帳法成立 8 ●人事院、戦後初の国家公務員の給与引き下げ 9 ●茨城県東海村で臨界事故発生 12 ●コンピュータ2000年問題で警戒体制 1 ●欧州で単一通貨ユーロ発行…… 1 ●東ティモールがインドネシアからの独立決定 4 ●コソボ自治州における和平交渉が決裂、NATOがユーゴスラビアを空爆 8 ●トルコ西部で地震発生 9 ●台湾中部・ギリシャ(M5.8)、メキシコ(M7.5)の地震発生 12 ●マカオ、中国に返還

2000
【平成12年】

第88代
鈴木道雄

地域・人・技術
……時代を創り地域をはぐくむ
土木技術
東北大学

3 ●学会ロゴマーク決定

4 ●社会資本と土木技術に関する2000年仙台宣言

1 ●尼崎公害訴訟で管理者責任を認め、汚染物質の一部排出を差し止

3 ●技術士制度の改正、閣議決定(2001年4月施行)

3 ●北海道川上支庁での官製談合を発端に各自治体で入札改革相次ぐ

5 ●建設省直轄工事の一部でISOを入札条件に

5 ●交通バリアフリー法(通称)成立

7 ●愛媛県大洲市と徳島市を結ぶ四国縦貫自動車道全線開通

8 ●与党公共事業中止勧告相次ぐ
吉野川可動堰は白紙へ

9 ●公共工事コスト縮減に関する行動指針を発表

2 ●国の阪神・淡路復興対策本部解散

3 ●国がPFI事業実施の基本方針を告示

3 ●日比谷線・中目黒駅構内で脱線・衝突事故発生

4 ●森内閣発足

4 ●北海道有珠山23年ぶりの噴火

5 ●循環型社会形成推進基本法成立

6 ●リサイクル関連法成立

6 ●雪印集団食中毒事件発生

6 ●児童虐待・少年犯罪・ストーカー・DVの深刻化

7 ●2千円紙幣発行／九州・沖縄サミット開催

8 ●三宅島で最大級の噴火、9月全島非難

9 ●東海豪雨で多大な被害

10 ●鳥取県西部地震(M7.3)の地震発生

5 ●ロシア大統領にプーチン就任

6 ●朝鮮半島の分断後55年で初の南北首脳会談

7 ●コンコルド墜落事故

9 ●シドニー五輪開催

第88代
鈴木道雄

地域・人・技術
……時代を創り地域をはぐくむ
土木技術
東北大学

2001
【平成13年】

第89代
丹保憲仁

21世紀の土木技術を求めて
熊本大学

4 ●土木技術者登録制度承認

4 ●土木技術者資格認定制度承認

●土木学会継続教育制度

1 ●建設省、運輸省、国土庁、北海道開発庁を統合し国土交通省発足

2 ●公共事業のグリーン調達が決定的

2 ●長野県知事 脱ダム宣言

3 ●芸予地震M6.4の地震発生、山陽新幹線高架橋に被害

3 ●雲仙・普賢岳の土石流から住民を守る水無川導流堤完成

4 ●入札・契約適正化法が施行／建設CALSが実用段階に

6 ●国交省公共事業(ダム、高速道路等)の見直し案まとめる

10 ●アーチ式ダムとして国内第二の堤高を誇る温井ダム完成

11 ●政府道路4公団の民営化方針を決定

12 ●明石の人工海浜で陥没事故発生

12 ●建設産業からの離職者の再就職支援が本格化

2 ●ハワイ沖でえひめ丸が米海軍の原子力潜水艦と衝突して沈没

4 ●小泉内閣発足

6 ●大阪池田小学児童殺傷事件、8人が死亡

7 ●明石歩道橋で圧死事故発生

9 ●日本国内初の狂牛病(BSE)感染牛が発見される

9 ●歌舞伎町ビル火災発生で44人死亡

第89代
丹保憲仁

21世紀の土木技術を求めて
熊本大学

2002
【平成14年】

第90代
岸清

21世紀のクオリティ・オブ・ライフをめざして
北海道大学

5 ●新土木図書館・会館完成

2 ●「道路関係四公団民営化推進委員会」設置法案を閣議決定

3 ●第二名神「揖斐川橋・木曾川橋」完成

4 ●道路橋示方書改定(性能規定化と耐久性向上を重視)

4 ●首都高タイル180枚が落下

4 ●建設投資16年ぶり60兆円割れ

5 ●国交省、15の社会資本整備長期計画の進捗度を公表

6 ●都市再生特別措置法制定

8 ●次期道路5カ年計画は投資総額が25%減

9 ●国交省各地方整備局に施行体制Gメン設置

10 ●予定価格を大幅に下回り落札するダンピング受注が全国で問題に

12 ●東北新幹線盛岡駅〜八戸駅間延長開業

3-8 ●鈴木宗男、辻本清美、田中真紀子など、有名政治家の逮捕や辞職が続出

3 ●建設大手の倒産と経営統合が相次ぐ

4 ●成田空港暫定滑走路の供用開始

4 ●諫早湾水門一時開門

5 ●日本経団連発足(会長奥田碩)

8 ●東電、原発トラブル隠し発覚

8 ●住民基本台帳ネットワークシステム施行

10 ●小柴昌俊、田中耕一ノーベル賞受賞

1 ●EU圏内でユーロ紙幣とユーロコイン統一

1 ●アフガン復興支援会議東京で開催

5 ●日韓共催サッカーワールドカップ開催

9 ●小泉首相訪朝、金正日総書記と会談

10 ●拉致被害者5名、北朝鮮より帰国

第90代
岸清

21世紀のクオリティ・オブ・ライフをめざして
北海道大学

2003
【平成15年】

第91代
御巫清泰

安全・安心な生活、個性ある地域社会の実現を目指して
徳島大学

5 ●JSEC2005 公表

1 ●三峡ダム第3期工事に着手、2009年完成に向け最終段階

1 ●官製談合防止法が施行

3 ●アルカリ骨材反応による鉄筋の破断が問題化

3 ●世界水フォーラム琵琶湖周辺で開催

7 ●能登空港開港

7 ●国交省「美しい国づくり政策大綱」・「観光立国行動計画」発表

8 ●沖縄に戦後初の鉄道・ゆいレール開業

8 ●長野県、浅川・砥川・蓼科・清川の4ダムの建設中止決定

10 ●東海道新幹線品川駅開業

4 ●六本木ヒルズオープン

5 ●三陸南地震(M7.0)

6 ●戦後はじめて有事関連法が成立

6 ●りそな銀行に公的資金注入

7 ●宮城県北部地震(M6.2)

9 ●北海道十勝沖地震(M8.0)

9 ●阪神タイガース18年ぶりリーグ優勝

11 ●イラクで外務省職員が襲撃を受け死亡

11 ●足利銀行を一時国有化

2 ●韓国大統領に盧武鉉就任

2 ●スペースシャトル「コロンビア号」着陸前に空中分解

3 ●米英によるイラク侵攻作戦開始

3 ●新型肺炎SARSが世界的に流行

12 ●米軍などがサッダーム・フセイン元大統領を拘束

第91代
御巫清泰

安全・安心な生活、個性ある地域社会の実現を目指して
徳島大学

2004
【平成16年】

第92代
森地茂

土木事業への市民参加
愛知工業大学

2 ●みなとみらい線開通

3 ●九州新幹線新八代駅〜鹿児島中央駅間開業

3 ●錦帯橋リニューアル

4 ●営団地下鉄が民営化されて東京地下鉄に

5 ●道路公団民営化法可決

6 ●景観法制定

1 ●鳥インフルエンザ発生

2 ●陸上自衛隊本隊第一陣がイラクのサマーワに入る

4 ●イラク日本人人質事件発生

4 ●政治家の年金未納問題が相次いで発覚

7 ●新潟・福島、福井で大水害

8 ●四国で大水害

10 ●東京・静岡で水害

6 ●イラク暫定政府に主権移譲

8 ●アテネ五輪開催

9 ●ロシアで小学校占拠テロ

第92代
森地茂

土木事業への市民参加
愛知工業大学

19. 土木年表・学会年表

1994（平成6）年

会長 中村 英夫 副会長 河野 清, 関 厚, 中川 博次, 藤井 治芳, 芳村 仁

会員数 35,502 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.27 会費を正会員(正会員である個人)12000 円, 学生会員 6000 円に改訂を決定, 1994 年 4 月より実施 (10 年ぶり), 新規入会者から入会金 1000 円を徴収 1.28 論文集購読料を I 部門 4000 円 (据置), II-VI 部門 4000 円に改訂, 4 月より実施 1.28 選定映画制度等に関する規程を一部改正, ビデオ作品も選定対象とし「土木学会映画・ビデオコンクール」と改称することに決定 1.28 全国大会参加費を 2000 円(現行 1000 円)に改訂, 投稿料は据置きと決定 3.18 会議, 委員会等の旅費規程を改訂, 近地交通費を廃止 4.一 学会誌 1994 年 5 月別冊増刊号に土木学会地球環境行動計画「一アジェンダ 21」を掲載 5.30 定款および規則を一部変更し文部省に申請, フェロー制度に関する規程承認 5.30 NHK テクノパワープロジェクトを特別表彰 (1993.5~8・5 回放映の功績) 6.24 「衛生工学委員会」を「環境工学委員会」に名称変更 6.24 第 16 期日本学術会議会員の推薦承認 9.30 土木学会 AGENDA 21/JSCE に関連する研究に対する寄付の申し入れについて受け入れることを承認 9.30 「第 2 回 ITS 世界会議' 95 横浜」セッション・スポンサーについて学術的後援をすることを承認 11.18 第 1 回フェローの承認	1.28 「高流動コンクリートの材料、配合、施工方法に関する研究」「未利用エネルギー活用に係わるライフサイクルエネルギー評価研究」「歴史的・文化的土木施設の保存・活用手法に関する調査研究」の 3 受託研究承認 3.18 「碓氷峠鉄道施設の現状調査について」の受託承認 4.22 「応用力学委員会」「地下空間研究委員会」の 2 委員会設立承認 4.22 ミシシッピー川洪水調査報告 5.13 第 23 回土木技術者のための海外研修実施承認 7.22 「遺跡展示コーナーの設計プラン作成」「社会資本博物館構想策定業務」(西部支部) の 2 受託承認 9.30 「変革期における建設マネジメント手法に関する調査・研究」「関東地域における地下水汚染とその対策に関する研究」(関東支部) の 2 受託承認 11.18 「土木博物館基本計画策定委託業務」「道路の安全施設に関する調査研究」「国際貢献業務に係る技術紹介資料作成業務」の 3 受託承認 「市ヶ谷駅遺跡展示コーナー設計特別展示会の設置」(営団委託)	1.10~14 「大水深波浪制御技術」(Wave Barriers1994)国際ワークショップ(運輸省港湾技研) 1.24 眞柄泰基がタイ・チエンマイ大学より名誉博士号授与 2- カナダ土木学会 L.G.Jaeger 会長ら表敬訪問 2.15 韓国土木学会「日本技術視察団」(株)北一開発代表理事宋汝隻氏ほか 20 名, 土木学会表敬訪問 4.22~24 大韓土木学会総会への参加 (訪問者: 堤 一副会長, 井上頼輝会員) 4.29 北郷 繁, 久保 越, 竹内良夫が勲 2 等瑞宝章を受賞 5.25 英国土木学会会長の来会 6.2 米国高速道路情報調査団の来会 6.6 角屋 睦が 1994 年度日本学士院賞に推挙 6.9 山本三郎, 「第 1 回前田工学賞」受賞 6.11 土木学会創立 80 周年記念式典およびシンポジウム等に係わる英国土木学会会長ほか関係者来日 6.21 高橋 裕, 「第 20 回明治村賞」受賞 (土木初) 7.1 ノースリッジ地震日米合同ワークショップ (東京都) 9.20~10.1 第 23 回土木施工技術者のための海外調査団 (香港・ベトナム・インドネシア・オーストラリア) 10.9~14 米国土木学会「1994 年度全国大会」への招請参加 (訪問者: 中村英夫会長, 木村 孟国際委員会第 2 部会長, 富永真生委員, 古池弘隆幹事) 10.12 篠塚正宣, ASCE の Theodor von Karman Medal 受賞 10.31 「社会基盤整備制度の変遷」研究のための日韓両土木学会の調整会議 (派遣者: 赤塚雄三) 11.17~20 CONET' 94 建設機械フォトコンテスト (共催) (千葉県) 12.2 英国 OSTEMS 調査団の来会

1994（平成6）年

行事・集会（本部）

- 1.20～21 第9回岩の力学国内シンポジウム（共催）（講演131題）
- 1.21 美しい橋のデザインマニュアル第2集－刊行記念講習会（仙台会場，講演8題）
- 1.21 落石等による衝撃問題に関する講習会（講演11題）
- 1.25 第12回建設用ロボットに関する技術講習会（講演9題）
- 1.28 コンクリート用フェロニッケルスラグ細骨材に関する講習会（宮崎会場，講演4題）
- 1.31 コンクリート用フェロニッケルスラグ細骨材に関する講習会（福知山会場，講演4題）
- 2.1 コンクリート用フェロニッケルスラグ細骨材に関する講習会（東京会場，講演4題）
- 2.3 コンクリート用フェロニッケルスラグ細骨材に関する講習会（八戸会場，講演4題）
- 2.8 鉄筋のアモルファス接合継手設計指針(案)講習会－アモルファス接合のデモ－（講演6題）
- 3.18 第6回アゲールシンポジウム（講演3題）
- 3.18～19 第38回水理講演会（講演139題）
- 3.24 途上国の経済開発と環境保全研究セミナー
- 3.25 第7回環境システムシンポジウム－環境基本法時代の展望－（講演6題）
- 4.6～7 第40回構造工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 4.13 定例「映画会」（上映映画数5本）
- 4.11 「美しい橋のデザインマニュアル第2集－」（講演4題）
- 4.21 シリーズ土木計画学ワンディセミナー「シリーズ2.－ヘドニック・アプローチによる便益計測手法」（講演4題）
- 5.11 「トンネル標準示方書（開削編）・同解説に基づいた仮説構造物の設計計算例」講習講演会（講演9題）
- 5.17 構造工学講演会（講演3題）
- 5.19 「美しい橋のデザインマニュアル第2集－」（講演4題）
- 5.25 技術講習会「プレストレストコンクリート構造の現況と設計方法の動向」（講演19題）
- 6.9～10 第14回土木史研究発表会（シンポジウム1題，一般講演16題）
- 6.9～10 都市域急流河川の河床変動の数値解析に関するシンポジウム（講演25題）
- 6.13～14 海洋開発シンポジウム（講演63題）
- 6.27～28 地下空間利用シンポジウム1994 一人，自然との調和する地下空間利用－（講演20題，特別講演3題，PD1題）
- 6.29 第4回環境水理部会（講演8題，特別講演1題）
- 6.29 土木計画学国際セミナー「パーボ・ベルッキオ氏」
- 6.30～7.1 第2回地球環境シンポジウム（常置委員会9題，一般講演47題）
- 7.1 ノースリッジ地震日米合同ワークショップ
- 7.5 コンクリートセミナー「プレストレストコンクリート構造の現況と設計方法の動向」
- 7.6～7 第24回安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 7.13～15 第13回混相流シンポジウム'94（共催）（つくば市）
- 7.21 火山工学シンポジウム－火山工学の確立を目指して－（講演12題，特別講演2題，シンポジウム1題）
- 7.27 講習会「変わりゆく社会環境と技術革新」（講演5題，特別講演1題）
- 7.31～8.2 1994年度「水工学に関する夏期研修会」（講演18題）
- 8.22～23 第28回夏期講習会・見学会（講演5題）
- 8.25～31 第24回国際海岸工学会議（ICCE）（論文299題）
- 8.25 コンクリート標準示方書「舗装編」に関するワークショップ（講演10題，PD1題）
- 8.25～26 第22回環境システム研究論文発表会（講演74題，特別講演1題，PS16題）
- 8.25～31 第19回国際理論・応用力学会議（共催）（京都市）
- 8.29 コンクリートの基準の動向に関する講習会（講演6題）
- 8.29 「美しい橋のデザインマニュアル第2集－」（講演4題）
- 8.31 鋼構造物の終局強度と設計に関する講習会（講演13題）（東京会場）
- 9.2 鋼構造物の終局強度と設計に関する講習会（講演13題）（東京会場）
- 9.2 鋼構造物の終局強度と設計に関する講習会（講演13題）（大阪会場）
- 9.12～13 第38回日本学術会議材料研究連合会講演会（共催）（京都市）
- 9.15～17 第49回年次学術講演会（北海道大学，講演3792題）
- 9.19 舗装工学セミナー（講演6題）
- 9.21 「工学教育」連合講演会
- 9.22 第6回新しい材料・工法・機械講習会－最新の杭工法の現状と設計・施工ポイント」（講演9題）
- 9.27 「美しい橋のデザインマニュアル第2集－」（講演4題）
- 9.30 「美しい橋のデザインマニュアル第2集－」（講演4題）
- 10.19 「土木自然学懇談会」第1回セミナー（講演1題）
- 10.26 マスコンクリート技術の現状に関するコンクリートセミナー（講演7題）
- 10.28 第28回土木計画学シンポジウム－社会基盤としての都市内物流システム－（PD1題，講演6題）

1994（平成6）年

行事・集会（本部）

11.1～2 第19回土木情報システムシンポジウム（講演41題，特別講演1題，展示5社，表彰7）
11.9 構造工学委員会講演会（講演3題）
11.9 マスコンクリート技術の現状に関するコンクリートセミナー（講演7題）
11.10～11 第4回トンネル工学研究発表会（論文21題，報告47題）
11.15 構造工学委員会風洞実験相似則検討小委員会研究報告会（講演14題）
11.18 環境システム委員会第4回地域シンポジウムー広瀬川清流保全条例制定20周年記念ー「都市と清流そして市民」（基調講演1題，PD1題）
11.22 第14回「施工体験発表会」ー厳しい施工条件下における工事例ー（講演8題）
11.23～27 CITY' 94（Civil Engineering-Innovation & Technology,Yokohama'94）（共催）（横浜市）
11.29～12.1 第41回海岸工学講演会（講演240題）
11.30～12.2 第13回風工学シンポジウム（共催）（東京都）
12.2 土木計画学ワンディセミナー「シリーズ3 水辺づくりの計画プロセスを考える」（講演7題）
12.8 土木計画学ワンディセミナー「シリーズ4 交通ネットワークの分析手法」（講演5題）
12.8 第8回建設コンサルタントシンポジウム（講演2題，PD1題）
12.9 第1回「講演と懇談の会」（講演2題）
12.9 火山工学セミナー（講演7題）
12.12～14 第9回日本地震工学シンポジウム（共催）（東京都）
12.14 セミナー「電子図書館の計画と実現ー将来の土木図書館の姿を求めてー」（講演9題）
12.15 「岩盤斜面の安定解析と計測」発刊に伴う講習会（講演7題）
12.15～17 第31回環境工学研究フォーラム
12.13～14 第12回建設マネジメント問題に関する研究発表会（講演39題，特別講演2題，PD1題）
12.14 定例「映画会」（上映数4本）
12.16 第1回土木学会定例談話会（講演1題）
12.16 「セグメントの設計」講習会（講演6題）
12.19 第41回風に関するシンポジウム（共催）（東京都）

1994（平成6）年

支部の動き

北海道支部
7.2.14～15 年次技術研究発表会
●「土木の日」行事
10.2 「土木の日」および「くらしと土木の週間」（見学会（一般市民）砂川遊水池他3か所）
10.29 「土木の日」および「くらしと土木の週間」（見学会（小中高教諭）砂川遊水池他3か所）
11.18～20 「小学生の土木の絵」図画コンクール展
11.18 パネルディスカッション「明日をつくるシンポジウム PartIV」
11.18 映画会

東北支部
3.14 技術研究発表会 発表論文数247題
11.27 土木学会創立80周年記念事業講演会
●「土木の日」行事
10.19 「見学会」（名取川ー土湯道路改良事業ー十六橋水門）
10.22～23 「フェスティバル」（模擬実験，観察実験，模型，パネル展及びビデオ放映，土木PR用パソコンゲーム）
11.21 「土木の日フォーラム」東北地方の社会資本整備に関わった人物像と足跡

関東支部
3.17 研究発表会
5.19 支部総会
7.18 見学会「首都高速道路・鶴見航路橋の見学および講習」
10.4 鶴見航路横断橋梁技術講習会
10.ー 第4回「研究所見学会」（土木の日行事）

1994（平成 6）年

支部の動き

- 11.23 関東支部創立 30 周年記念シンポジウム「21 世紀のアジアの建設事業－社会基盤施設と管理運営の課題－」
11.30 見学会「東京湾横断道路見学会」

中部支部

- 4.17 支部通常総会
5.24 第 1 回講演会「静岡県における土木事業概要について」
5.25 見学会「いず縦貫自動車道他」
7.6 留学生交換会「小里川ダム・大里城大橋・和紙のふるさと見学」
8.10 第 1 回技術講座「コンクリート技術の現状と示方書改訂の方向」
10.4 講習会「海岸波動」と「地球温暖化の沿岸影響」
12.7 第 2 回技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」
12.12 第 1 回特別講演会シンポジウム「国土基盤整備と空港システム」

関西支部

- 5.12 第 67 回通常総会
5.11～6.2 平成 6 年度 学生映画会
5.15 平成 6 年度 関西支部年次学術講演会
5.30 Madsen 教授および El-Sabh 教授講演会
9.15 土木の日 南港・リゾート博コース
10.8 けいはんな・学研都市コース
10.14 浪速の橋梁 80 年史見学会
10.21 奈良地方講演会
11.7 高専学生対象講演会
11.20 土木学会創立 80 周年記念事業イベント ミステリアスクールジング
11.21 Vukan R. Vuchic

中国四国支部

- 5.11 支部通常総会
5.11 支部総会に伴う特別講演会「世界一成功した地域開発の例について」
5.28 研究発表会に伴う特別講演会「都市と農山村－中山間地域の果たす役割－」
5.28～29 支部研究発表会 発表数 364 題
8.31 講習会「土木構造物と生物環境－河川を中心として－」
9.8 講演会「地盤工学と施工技術」
10.7 見学会「広島県加計町、温井ダム、温井大橋」
10.28 見学会「高知県、高知新港、鏡川橋他」
11.10 土木学会創立 80 周年記念支部共同イベント「瀬戸内クルーズと記念講演会」
11.25 見学会「香川県、三頭トンネル国営讃岐まんのう公園」
●「土木の日」行事
11.18 「土木の日」開始式 記念講演会、アニメビデオ上映、第 3 回土木絵画コンクール表彰式
（中国地区）
10.30, 11.6 地区行事：「環境保全に大きな役割をはたす土木の PR」
11.9 広島県：工事見学会（便坂トンネル）
11.18 岡山県：シビックデザインセミナー
11.18 山口県：土木施設見学会
11.18 島根県：工事見学会（詰坂 BP トンネル）課外学習会
11.12～13 鳥取県：くらしと土木展
（四国地区）
10.31, 11.25, 12.7 高知県：工事見学会（坂本ダム、南の谷樋門改築工事、高知自動車道川橋工事など）
11.12, 13 愛媛大学：土木講演会、小学生土木絵画展
11.18 高知県：「土木の日」道路清掃
11.18 地区行事：土木の日開会式・記念講演会
11.18 香川県：工事見学会（坂出駅付近連続立体交差事業など）
11.18～25 高松市役所：くらしと土木のパネル展
11.18 徳島県：工事見学会（マリニピア沖州、赤石トンネルなど）

1994（平成6）年

支部の動き

11.20～27 徳島市シビックセンター：小学生土木絵画展
11.22、24 愛媛県：施設見学会

西部支部

4.6 支部通常総会

5.24 講演会：「全ては基本から」

9.21～10.31 見学会：高校生の現場見学（佐賀県内のバイパス・ダム・空港・庁舎等）

7.3.16 講演会：「燃える石の研究－天然白リンの発見－」

●「土木の日」行事

福岡地区

11.17～19 「ハートフル土木」（博多駅）

北九州地区

11.23 「土木フェア in 北九州'94」（小倉北区勝山公園）

佐賀地区

9.21 「高校生の現場見学会」

11.12 「親子でふれあいバスツアー」

11.19～23 「土木フェア in SAGA」（佐賀市嘉瀬川河川敷）

11.12～13 「土木の日展示会」

11.18 「地域還元事業」

長崎地区

11.19～20 「パネル・模型展」《わがまち～過去・現在・そして未来～》

11.20 「土木見学会」

7.1.18 講演会：21世紀の土木と宇宙開発

熊本地区

11.12 「親子で遊ぼう土木ツアー」

11.20 「パネル展示」

7.1.18 「熊本のくらしと土木のゼミナール」

大分地区

11.1～24 「パネル展」

11.18 「女性と土木のふれあい見学会」

宮崎地区

11.3 串間市（市民秋祭りと連動して開催、パネル展示）

11.4～18 宮崎市（パネル展示、バザー、建設機械や測量機器の展示）

11.12 日南市（パネル展示、バザー、建設機械や測量機器の展示、吹奏楽（中学生）、造園教室）

11.12 都築市（パネル展示、作業服ファッションショー、バザー、建設機械試乗、園児のマーチング）

11.12 小林市（パネル展、土木災害の記録映画、加久藤トンネル見学、クイズ）

11.12 高岡町（瓜生ダム見学、パネル展示、建設機械試乗、クイズ）

11.12～18 西都市（パネル展示、ドッジボール大会、盆栽コンテスト、土木の日カレンダー配布、建設機械サッカー）

11.12 高鍋町（パネル展示、出店、インラインスケートショー、クイズ）

11.12～14 日向市（講演会、パネル展、建設機械操作コンテスト、測量実演会、なんでも相談、クイズ）

10.29～11.17 延岡市（のさぼるフェスタ'94と連動して開催、パネル展示、建設機械展示、土木施設見学）

11.12 西臼杵郡（国見トンネルと青葉大橋見学、パネル展示、重機展示、綱引き大会、子供工作教室、特産品販売、中千階）

鹿児島地区

11.12 鹿児島市（土木体験バスツアー、ウォーターフロントクルージング、建設機械などの展示、周辺市町村物産展時、小中高生によるマーチングバンド）

11.19 鹿屋市「94土木フェスティバル」（建設機械の展示、物産展、ロボットコンテスト、パネル展、卵のつかみ取り、アトラクション、高校生のブラスバンド演奏）

沖縄地区

11.14～18 那覇市「土木の日パネル展」（土木施設および土木技術の変遷の紹介）

11.18 「土木の日」献血キャンペーン（街頭献血、パネル展、健康相談）

11.1 「現場見学会」（南風原高架橋、那覇港防波堤、那覇新都心開発）

11.18 「第3回沖縄の道写真コンテスト表彰式」

11.20 「ダム湖の自然と親しむつどい」（ダム湖の自然観察、小学生の相互の交流会）

11.18～23 「とよみ大橋図画（絵画）作品展示展」（『とよみ大橋』を題材にした図画、写真コンテストの表彰式および作品の展示会）

11.17 「沖縄県土木建築部研究発表会」

1994（平成6）年

土木一般	社会一般
1.17 閣議、1993年のゼネコン贈賄事件の拡大を踏まえ公共事業の入札・契約手続きの内容改善を決定。一般競争入札制度を推進 1.25 労働省、トンネル内での可燃性ガス爆発防止を目的に労働安全規則一部改正を公示 2.7 東京西部の6区、環状8号線に地下鉄を併設するエイトライナー促進協議会を設置。羽田空港～北赤羽駅間41km 実現を協議 2ー 建設省、土木学会に対し土木遺産調査を委任。土木学会、歴史的・文化的土木遺産特別調査委員会（委員長：鈴木忠義）を組織1999年度中に全国調査を実施 3.4 公正取引委員会、公共的な入札にかかわる事業者および事業者団体の活動に対する独占禁止法の指針を公表 3.11 ゼネコン収賄容疑で中村喜四郎元建設相を逮捕 3.17 道路公団、徳島自動車道・徳島市～愛媛県川之江市間96kmのうち32.1km 開通 3.18 九州電力、玄海火力発電所3号機118万kW 運転開始 3.25 中央建設業審議会、建設業法の見直しを求め協議 3.30 道路公団、東京外環自動車道・大泉IC～和光IC間2.9km 開通、関越自動車道と接続 3ー 建設省土木研究所、ここ15年間で砂礫海岸の総延長9500km中、14%1320km、平均幅35km が削られていると発表 4.2 阪神高速湾岸線・六甲アイランド北～中島間および泉大津～りんくうJCT間が開通。関西国際空港と連絡。2層鋼斜張橋の東神戸大橋、200+485+200(m)および鋼床版2層アーチで支間長217mの六甲アイランド橋 4.20 首都公団、東京湾岸線の多摩川トンネル1.55km（総延長2.17km）および川崎航路トンネル1887km（総延長1954km）開通 4.28 茨城県水府村の竜神ダム湖上に歩行者専用の竜神大吊橋完成、総延長375km、幅3mは日本最大級 4ー 建設省、2000年までに建設廃棄物処分量を半減する建設副産物対策行動計画を発表 4ー 水資源公団、埼玉合口2期工事、延長76km 完成 5.6 英仏海峡にユーロトンネル（海底部38km）開通、上下2本、延長50.498km、直径7.6m、工期7年、工費1兆6000億円、11台のトンネルボーリングマシン中4台は日本製 5.10 改正道路交通法施行、過積載防止に厳しい対策。6ヶ月後、過積載トラックは半数近くに減少 5.ー 米国開拓局D.ピアード総裁、ブルガリアで開催された国際灌漑排水委員会で、米国はダム開発事業から撤退すると講演、各国からの反響大 6.22 政府、建設業法を改正。不良業者を排除し、技術と経営に優れた建設会社が高い評価を得るように配慮 6.25 道路公団、別府～阿蘇道路52.4kmの償却に伴う無料化を実施 6.ー 東京電力、栃木県の塩原に混合揚水式90万kWの塩原発電所完成 7.5 兵庫県西宮市の甲子園浜と沖合埋立地の整備が完了、甲子園浜海浜公園55ha 開場 7.5 公正取引委員会、公共入札指針を公表 7.8 青森県西部の鶴田町・廻堰大溜池(1960)に日本最大級の木造歩道橋300mの鶴の舞橋 7.16 和歌山県、下津港沖合に65ha、500万m³の和歌山マリーナシティを建設 7.26 青森港にPC斜張橋、支間240mの青森ベイブリッジ2線目。滋賀県に3径間連続箱桁支間140mの琵琶湖大橋2線目	1.17 米国カリフォルニア州南部にM6.8の直下型ノースリッジ地震、高速道路、家屋倒壊、崖崩れなど死者61人、負傷者9200人、被害総額3兆円以上、5.12 サンタモニカ・フリーウェイ復旧 1.25 川崎公害訴訟に判決、川崎市南部の原告102人に4億6300万円の支払いを12企業に命令、国と首都公団の道路被害は未認定 2.4 国産技術100%の大型ロケットH2の1号機（開発10年、予算2500億円）種子島宇宙センターで打上げに成功、2衛星が軌道にのる。 2.7 佐賀県の柚比本村遺跡から吉野ヶ里をしのぐ弥生時代の最大級の建物が出土と発表 2.8 政府、景気刺激の総合経済政策15兆2500億円を決定（減税5兆8000億円） 2ー マレーシア・クアラルンプールに88階建て、高さ450mのクアラルンプールセンターを建設 3.10 和歌山市沖の人工島・マリーナシティで世界リゾート博覧会開催（～9.25） 3.23 岡山地裁、倉敷市水島コンビナート訴訟で川崎製鉄、三菱石油など8社の責任を認め53人に1億8000万円の支払いを命令 4.12 日本物理学会など3学会、子供の理科離れの増加傾向に異例の憂慮を共同宣言、数学系4学会も授業増を要望 4.26 台北発中華航空140便エアバス、名古屋空港に着陸失敗、死者264人（日本人158人）生存者7人 4ー 日本緑化センター、巨木・名木の戸籍調査（緑の文化財調査）を実施 5.1 上海に塔高460mのテレビ塔完成、工費96億円、トロント553.5m、モスクワのオスタンキの533.3mに次ぐ高さ 5.22 建設大臣、長良川河口堰は必要と発表 6.27 松本市住宅街で有毒ガス（のちにサリンと判明）死者7人、負傷者260人余、松本サリン事件としてオウム真理教が実行 7.10 京都景観論争を呼んだ京都市中京区の京都ホテル建替え工事終了、地上16階、地下4階、同市内60m以上の第1号 7.15 上越新幹線に全2階建ての列車Maxを導入 7.16 青森市の三内丸山遺跡から巨大な木柱建物跡、土器、道路など国内最大級の縄文遺跡を発掘、1996年、公園として復元 7.20 水資源公団に対し長良川可動堰中止を提訴していた住民側20人敗訴 8.29 農水省、猛暑と水不足による農作物被害は597億円と発表 8ー 深刻な水不足のため給水制限を記録した総人口は40都道府県1250万人に及び、1923年（1070万人）を上回る規模となる。 8ー 秋田港に海の展示館および高さ143.6mの秋田ポートタワー完成 8ー 山梨リニア実験線42.8kmのうち高川トンネル3.96km 完成 9.2 気象庁、6～8月は1875年（明治8年）の気象庁発足以来、最も暑い夏と発表 9.28 フィンランド沖のバルト海でエストニアのフェリーが沈没、死者・行方不明者900人以上 10.4 北海道東方沖地震M7.9発生、釧路・厚岸で震度6、道路損壊62箇所、負傷者288人、ロシア領にも被害

1994（平成 6）年

土木一般	社会一般
7.ー 中部電力、木曽川水系に純揚水式 150 万 kW の奥美濃水力発電所完成 7.ー 東京電力、五井火力発電所 188.6 万 kW へ増設完成 8.11 東京電力、柏崎刈羽原子力発電所 4 号機 110 万 kW 運転開始 8.20 広島高速鉄道アストラムライン、本通～広域公園間 18.4km 開通 9.4 関西国際空港第 1 期工事完成。滑走路 3500m、2 層の併用橋スカイゲート橋 3750m でりんくうタウンの泉佐野市と連絡 9.20 建設省・運輸省、高速道路料金の値上げを認め、1993.11 施行命令のおりた高速道路 1184km のうち 9 割にあたる 1065km の車線数を減らし暫定施工を決定。第 2 東名・名神も 6 車線を 4 車線で施工。総事業費 7 兆 2000 億円 9ー 九州縦貫自動車道、えびの市に 6.213km の加久藤トンネル開通 10.7 閣議 1995 年から 10 年間で 630 兆円の公共投資基本計画を決定、1991～2000 年度の 430 兆円を見直し 10.21 韓国ソウル市の漢江で鋼ゲルバートラスの聖水大橋落橋、死者・行方不明者 48 人 10.27 1976.9.8 破堤した安八町、墨俣町の長良川の住民 1500 人が国家賠償を求めている裁判で住民敗訴 10.28 首都圏新都市鉄道、東京秋葉原～茨城つくば市間 58km を結ぶ常磐新線起工式 10ー 札幌市営地下鉄東豊線・栄町～福住間 13.6km 全通 11.10 道路審議会、21 世紀に向けた新しい道路指針のあり方を答申 11.20 山梨県、雁坂トンネル 3.9km、甲府精進湖 12.6km の両有料道路を償却により無料化決定 11.30 和歌山地方裁判所、和歌山県が和歌浦に 1991 年に建設した 80m のあしべ橋は江戸末期の石橋不老橋の歴史的景観を害するとし公金支出の差止めを求めた住民 13 人の請求を棄却。景観論争に一石を投じる。 11ー 石油公団、鹿児島県串木野地区の地下に 150kl の水封式地下備蓄タンク石油注入完了 12.3 智頭急行（第 3 セクター）・上郡～智頭間 56.1km 全通、総工費 442 億円、鳥取～大阪間 2 時間 30 分に短縮 12.15 四国電力伊方原子力発電所 3 号機 89 万 kW 運転開始、合計 202 万 kW で事業完了 12.21 首都高速湾岸線、羽田空港～横浜ベイブリッジ間開通、この間に逆 Y 字型鋼斜張橋・鶴見つばさ橋 255+510+255（m） 12ー 西武鉄道西武有楽町線・練馬～小竹向原間全通、池袋線と相互乗り入れ。 12.ー 東北電力、能代火力発電所(石炭)120 万 kW 完成 【その他】 大阪市、大阪南港地区 23ha を整備、魚釣り園・野鳥園・遊泳場などを設置 ●関西電力、福井県大飯火力発電所 4 号機完成、総出力 471 万 kW 完了 ●東名高速、大井松田～御殿場間 25.3km に 19.6km の別線増築完成、トンネル 9、橋 17 橋	10.8 東京渋谷区のビール工場跡地に複合施設「恵比寿ガーデンプレイス」10ha 開場 10.12 大分県九重連山の硫黄山（1580m）、257 年ぶりに噴火 10.13 大江健三郎、ノーベル文学賞を受賞 11.2 年金改革法が成立、厚生年金の満額支給開始年齢を 65 歳に遅らせることに決定 11.3 第 56 回文化勲章、朝比奈隆、梅棹忠夫、島 秀雄ら 5 人が受賞 11.6 アジア太平洋経済協力会議（APEC）大阪会議開催 11.29 北九州市・新日鉄八幡製鉄所が東田第 1 高炉（1901）永久保存に同意 12.6 世界遺産調査会、古都京都の文化財（京都市・宇治市・大津市の寺と城）を世界文化遺産に登録 12.20 愛媛県の旧別子銅山元従業者と遺族 85 人、削岩機などによる振動被害を提訴、1 億 9000 万円の支払いで 17 年ぶりに和解 12.26 東京地裁、第 1 次厚木基地騒音公害訴訟に判決。住民 69 人に 1 億 600 万円の支払いを国に命令。提訴以来 19 年目 12.28 東北北部に M7.5 の三陸はるか沖地震、八戸市で震度 6、道路・橋・漁港・港湾で被害、死者 2 人、負傷者 285 人、1995.1.7 八戸・盛岡で震度 5 の余震、負傷者 29 人

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編纂した。

1995（平成 7）年

会長 小坂 忠 副会長 石井 晃一 河野 清, 関 厚, 長瀧 重義, 廣田 良輔

会員数 35,502 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.18～2.17 阪神淡路大震災地震調査団派遣（第一次～第四次） 2.2 土木学会役員候補者選考内規の変更について承認 2.2 土木学会・会議・委員会等の旅費規程の変更について承認 2.2 事務局関係規程の変更を承認 2.2 学会用地購入について全会一致で承認, 定款により臨時評議委員会にはかることを決定 2.2 阪神・淡路大震災に対する学会対応として, 調査団の派遣, 緊急報告会の開催, 特別委員会の設置, 被災会員の会費減免を承認 3.24 土木学会第 7 部門の創設を承認 3.24 土木学会学術文化基金の設置について承認 4.21 土木学会経理規程の一部変更について承認 4.21 土木学会学術文化基金の使用内規について承認 5.16 土木学会規則の一部変更について承認 5.16 土木学会受託研究取扱規程の変更について承認 5.16 コンクリート試験方法 JIS 改正案の審議方お願いの件について, 学会として引き受け, コンクリート委員会で担当することを承認 7.28 職員就業規則及び事務局分掌規程の改正が承認される. 9.29 阪神大震災対応特別研究委員会が設置 9.29 吉田博士記念事業基金株の一部売却 9.29 科学技術庁「大型三次元振動実験施設整備に係る協力」が承認される 11.22 土木学術資料館（仮称）の新築について承認 11.22 土木学会学術文化基金の審査について承認 11.22 鹿島学術振興財団平成 7 年度研究助成候補者の 7 件を推薦することが承認 11.22 第 2 回フェロー 353 名を認定することが承認	2.8 兵庫県南部地震震害調査緊急報告会 3.24 阪神・淡路大震災調査報告書編集委員会の設置が承認, 委員長に片山恒雄理事 3.24 土木学会による「耐震基準等基本問題検討会議」の設置が承認, 座長に田村重四郎耐震工学委員会委員長 3.24 「欧州洪水被災調査」の受託承認 3.24 「廣井勇博士文献資料調査」の受託承認 3.24 「海外における歴史的土木施設の保存・活用に関する文献等の収集整理調査」の受託承認 4.21 「鋼構造の安全性の調査」の受託承認 6.22 「VE（バリューエンジニアリング）の公共事業への適用性に関する研究」の受託承認 7.28 「平成 7 年度四国地方の地震防災に関する研究」の受託承認 7.28 「21 世紀初頭に向けた土木施設整備のあり方に関する調査研究」の受託承認 9.29 「神奈川台場土木遺構調査」の受託承認 9.29 「鉄筋自動溶接継手工法」の受託承認 9.29 「人工島式原子力発電所の立地技術の体系化に関する研究」の受託承認 11.22 「建設業国際貢献推進事業」の受託承認	2.26 大韓土木学会「阪神・淡路大震災調査団の来日と来会」 3.21～30 第 1 次「欧州洪水調査団」の派遣（受託）（団長：四俣正俊 他 5 名）（視察国：オランダ, ドイツ, フランス） 3.24～31 海外における歴史的土木施設の保存・活用調査視察団（団長：馬場俊介 他 2 名）（視察国：イタリア, フランス, イギリス等） 4.3 第 2 回 混相流国際会議（共催） 6.4～15 第 2 次欧州洪水調査団（4 カ国） 6.13 米国商務省訪日調査団の来会 7.7 「アンサンブルシビル」英国土木学会講演（団長・団員 14 名） 7.25～27 東アジア構造およびマネージメントに関する第 5 回国際会議 8.16 カナダ国土木学会 Jules Houde 会長の来会 9.30～10.14 スタディーツワーグラウンド「Mr.Daltn 氏」来日 10.19 小坂会長「韓国土木学会」招請訪問 10.25～29 小坂会長「米国土木学会全国大会」全国大会招請訪問

1995（平成 7）年

行事・集会（本部）

- 1.9～11 第 17 回土木計画学研究発表会（特別講演 3 題，一般講演 292 題）
- 1.10 応用力学フォーラム（関西地区）（講演 3 題，パネルディスカッション 1 題）
- 1.13 第 2 回土木学会定例談話会（講演 1 題）
- 1.13 「土木自然学懇談会」第 2 回セミナー
- 1.17 定例「映画会」（上映数 5 本）
- 1.18 第 2 回「講演と懇談の会」（講演 2 題）
- 1.19～20 第 26 回岩盤力学に関するシンポジウム（講演 118 題，パネルディスカッション 1 題）
- 1.19 コンクリート構造物の耐震設計に関する講習会（講演 9 題）
- 1.27 「東京湾横断道路の施工技術（その 2）」講習会（講演 8 題，映画上映）
- 1.30～2.1 第 44 回応用力学連合講演会（共催）（東京都）
- 2.8 定例「映画会」（上映数 2 本）
- 2.10 建設マネジメント原論講習会（講演 10 題，フリーディスカッション）
- 2.10 第 3 回土木学会定例談話会（講演 1 題）
- 2.10 第 4 回土木学会定例談話会
- 2.13 応用力学フォーラム（北海道地区）（講演 3 題）
- 2.15 第 33 回原子力総合シンポジウム（共催）（東京都）
- 2.16 第 13 回建設用ロボットに関する技術講習会「近未来の建設を支えるハイテク技術について」（講演 5 題）
- 2.22 「最新の施工技術-1995.2」（講演 7 題，特別講演 1 題）
- 2.28 エネルギー土木施設の維持管理技術に関する研究報告会（講演 2 題）
- 3.8 定例「映画会」（上映数 5 本）
- 3.10 第 8 回環境システムシンポジウム「環境基本法時代の施策」（話題数 2 題）
- 3.13 応用力学フォーラム（東北地区）（講演 3 題）
- 3.15 応用力学フォーラム（九州地区）（講演 4 題）
- 3.17 応用力学フォーラム（関東地区）（講演 3 題）
- 3.22 「土木自然学懇談会」第 3 回セミナー
- 3.23 応用力学フォーラム（中国・四国地区）（講演 3 題）
- 3.26 第 7 回アゲールシンポジウム（講演 3 題）
- 3.27～28 第 39 回水理講演会（講演 144 題）
- 4.5～6 第 41 回構造工学シンポジウム（特別講演 2 題，論文発表数：土木部門 148 題，建築部門 75 題）
- 4.20 都市環境に関する国際シンポジウム（講演数 4 題）
- 4.27 「ミティゲーションパネル」講演会（講演数 2 題，パネルディスカッション 1 題）
- 4.28 Prof.E.C.Aifantis 特別講演会「スケール不変則；組織を持つ単一すべりに基づく塑性構成式の導入」
- 5.20 平成 7 年度 熱流体フォーラム講演会（共催）
- 5.26 「舗装工学」講習会（講演数 7 題）
- 6.8 「舗装工学」講習会（講演数 7 題）
- 6.8～9 河道の水理と河川環境シンポジウム（セッション 4，課題 20 題，ポスターセッション 1 題）
- 6.21 土木計画学ワンデイセミナー・シリーズ 5（講演数 6 題）
- 6.22～23 第 20 回海洋開発シンポジウム（講演数 68 題）
- 6.26～28 第 25 回安全工学シンポジウム（共催）
- 6.28 応用力学フォーラム（講演数 4 題）
- 6.30 「舗装工学」講習会（講演数 7 題）
- 7.3 土木情報システム講習会（講演数 6 題）
- 7.7 「舗装工学」講習会（講演数 7 題）
- 7.7～8 第 3 回地球環境シンポジウム（講演数 49 題）
- 7.13～14 第 14 回 混相流シンポジウム' 95（共催）
- 7.14 第 5 回環境水理部会研究討論会（特別講演 1 題，発表論文 6 題）
- 7.14 応用力学フォーラム（講演数 3 題）
- 7.18 応用力学フォーラム（講演数 3 題）
- 7.25～27 第 31 回水工学に関する夏期研修会（A コース，B コース）
- 7.27～29 第 23 回地震工学研究発表会（発表論文数 206 題）
- 7.28 舗装に関する学術研究講演会（講演数 3 題）
- 8.7～8 第 3 回振動制御に関するコロキウム（特別講演 1 題，一般講演 34 題）
- 8.21～22 第 29 回夏期講習会（特別講演 1 題，講演 3 題）
- 8.23～25 第 23 回環境システム研究論文発表会（講演数 105 題）
- 8.25 「土木建設業における環境管理・監査（ISO 1400 への対応）」講習会

1995（平成 7）年

行事・集会（本部）

8.29 応用力学フォーラム（講演数 3 題）
9.7 「海岸海洋構造物基礎地盤の波浪安定性」講習会（特別講演 1 題，一般講演 3 題）
9.7 「舗装工学」講習会（講演数 7 題）
9.13 「土木建設業における環境管理・監査（ISO 1400 への対応）」講習会
9.18「アゲールフォーラム' 95 自然・論理・価値」（講演数 3 題）
9.19～21 平成 7 年度全国大会（特別講演・研究討論会 15 題）
9.20 阪神・淡路大震災復興対策シンポジウム（基調講演：阪神・淡路地区の復興と課題）
9.25～29 第 8 回国際岩の力学会議（共催）
9.26 火山工学フォーラム（講演数 6 題）
10.5 ランドフィルフォーラム（講演数 4 題）
10.5 「シリカヒュームを用いたコンクリートの設計施行針（案）」講習会（講演数 6 題）
10.6 「舗装工学」講習会（講演数 6 題）
10.19 「シリカヒュームを用いたコンクリートの設計施行針（案）」講習会（講演数 6 題）
10.21 応用力学フォーラム（乱流フォーラム）（講演数 3 題）
10.24～25 第 20 回土木情報システムシンポジウム（発表数 60 題）
10.27 「シリカヒュームを用いたコンクリートの設計施行針（案）」講習会（講演数 6 題）
10.30 「コンクリート構造物の維持管理指針（案）」講習会
11.8 第 5 回地域シンポジウム「中山間地域の振興と環境管理」（講演数 17 題）
11.8 「コンクリート構造物のエスティックス」講習会（講演数 8 題）
11.9～10 第 3 回合成構造の活用に関するシンポジウム（講演数 47 題）
11.13 衛星データの実利用研修会「人工衛星を用いた地球環境調査の歴史的経緯と近未来の動向」
11.14 公開フォーラム「海岸工学はエスチュアリー環境を救えるか」（講演数 5 題，パネルディスカッション 1 題）
11.15 「コンクリート構造物の耐久設計指針（案）」講習会（講演数 8 題）
11.15～17 第 42 回海岸工学講演会（論文発表会 257 題）
11.16 「鉄道技術展」（共催）
11.20 衛星データの実利用研修会「宇宙から地球環境がモニタリングできる理由」
11.21 「コンクリート構造物の維持管理指針（案）」講習会（講演数 12 題）
11.21～22 第 5 回トンネル工学研究発表会（論文発表数 14 題，報告発表数 55 題）
11.30～12.1 橋梁交通振動に関するコロキウム（講演数 20 題）
12.1 日本工学会「公開講演会」（共催）
12.1～2 第 8 回キャピテーションに関するシンポジウム（共催）
12.4 衛星データの実利用研修会「衛星データの処理／解析を前提としたソフトウェア」
12.6～7 地下空間シンポジウム（特別講演 1 題，論文発表（審査付 6 題）（一般 9 題），ポスターセッション 12 件）
12.6～8 第 18 回土木計画学発表会（講演数 320 題）
12.7～9 環境工学研究フォーラム（講演数 88 題）
12.11～12 第 4 回システム最適化に関するシンポジウム（講演数 35 題）
12.13 衛星データの実利用研修会「衛星データの種類と具体的な応用分野および利用上の問題点」
12.13～14 第 13 回建設マネジメント問題に関する研究発表討論会（特別講演 2 題，パネルディスカッション 1 題，論文発表 45 題）
12.13～15 鉄道技術連合シンポジウム（共催）

1995（平成 7）年

支部の動き

北海道支部
1.25 コンクリート技術の現状と示方書改訂の動向 講演数 8 題
2.14～15 年次技術発表会 発表数 238 題
6.8 講習会「舗装工学」（講演数 5 題）
8.18 第 6 回「講演と懇談の会」
1.17 講習会「地下空間と人間」（講演数 7 題）
2.8～9 年次技術研究発表会（発表数 285 題，函館市）
●「土木の日」行事
9.17 見学会（一般市民）白鳥大橋他 2 ヶ所
10.28 見学会（小中高教諭）千歳川改修他 2 ヶ所
11.17～22 「小中学生の土木の絵」図画コンクール展

1995（平成 7）年

支部の動き

- 11.17 講演会「先端技術と建設システム」
- 10.17 映画会（上映数 3 本,北見市）
- 11.17 映画会（上映数 1 本,札幌市）

東北支部

- 4.11 第 3 回講演と懇談の会「阪神大震災の社会面への影響」,「阪神大震災による構造物の被害」
- 6.28 阪神・淡路大震災第 2 回報告会「破壊のメカニズムと復旧方法」
- 10.12～22 中国黄河・長江（三峡ダム）調査団
- 11.17 技術講座と映画の会「福島空港の滑走路長 2500m 拡張工事」,「磐越道技術的特色と開通効果」,「土木の語源と歴史」
- 「土木の日」行事
- 10.15 「市民見学会」東北・山形自動車道,月山工務所,寒河江管理事務所
- 10.20～22 「土木の日フェスティバル' 95」
- 11.21 講演会（いま,土木を考える）「地震防災と土木」（講演数 5 題）

関東支部

- 2.8 講習会「地球温暖化の影響」講演題目 4 題
- 3.2 講演会「阪神大震災速報講演会」講演題目 6 題
- 3.9 講習会「土木技術者に求められる資質と素養－技術士を目指されている方々のために－」講演数 6 題
- 3.17～18 第 22 回技術研究発表会 発表数 314 題 特別講演 5 題
- 7.13～14 映画会
- 9.2 土木系学生によるコンクリートカー大会
- ＊ 第 1 回「KANTO シビックサークル」（建設工事における自然との共生について）
- ＊ 第 2 回「KANTO シビックサークル」（土木とはなに？これからの土木についての意見交換会）
- 「土木の日」行事
- 10～11 第 5 回「研究所見学会」
- 11.8 「東京湾横断道路シールドトンネル見学会」

中部支部

- 2.9～10 講演会「高齢者・障害のモビリティ確保と都市行政」
- 2.27 第 2 回特別講演会「阪神大震災震災速報講演会」
- 4.25 特別講演会「阪神大震災震災調査第 2 次報告会」
- 5.10 第 1 回講演会「三重県における土木事業概要について」
- 5.11 見学会「三滝川ふるさとの川整備事業」（三重県）
- 6.30 留学生交歓会「伊勢湾岸道路名港三橋」
- 10.25 講習会「土木と労働安全」
- 11.29 第 1 回技術講座「コンクリート構造のエッセティックス」
- 「土木の日」行事
- 11.14 開始式
- 11.17 市民見学会「水と緑の回廊,能登島を訪ねて」（石川県）
- 11.18 市民見学会「伊豆半島に展開される土木施設を訪ねて」（静岡県）
- 11.18 市民見学会「豊・潤・速（レクリエーション時代の土木に触れる）」（愛知県）

関西支部

- 1.18 新春講演会・会員懇談会
- 2.13 兵庫県南部地震震災調査緊急報告会
- 4.11 阪神大震災調査第 2 次報告会
- 5.20 平成 7 年度関西支部年次学術講演会（一般講演 432 題）
- 5.10～6.15 平成 7 年度学生映画会（映画 2 編）
- 6.14 高専学生対象講演会
- 10.3 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会打合せ会 第一部 設計技術者対象研修会
- 10.4 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会打合せ会 第二部 施工技術者対象研修会
- 10.18 都市部におけるトンネルの合理的施工方法に関する講習会
- 12.8 「耐震・地震防災の基礎」講習会
- 12.12 南河内の歴史と土木見学会（狭山池ダム工事現場,国道 309 号線水越トンネル工事現場,竹の内街道歴史資料館）

1995（平成 7）年

支部の動き

●「土木の日」行事

11.19 神戸復興コンベンション「みんなで学ぼう震災復興，確かめよう！復興拝見ウォーク,考えよう！復興トーク&クイズ」

中国支部

1.26 講習会「コンクリート技術の現状と示方書改訂の動向」

4.28 阪神・淡路大震災第二次調査報告会

5.19 支部総会に伴う特別講演会「これからの土木」

9.15～27 第 1 回調査（ブラジル,アルゼンチン,アメリカ）

9.22 講習会「舗装工学」

9.30～10.12 第 2 回調査（アメリカ）

10.6 講演と懇談の会「河川・よもやばなし」,「関東大震災,戦災,そして阪神大震災-その被害と復興」

11.21 「工事見学会」（中国横断自動車道上竹橋他）

11.30 「工事報告会」

●「土木の日」行事

11.18～19 鳥取県米子しんまち天満屋「夢・交差点」展示コーナー未来の土木ファッションショー,土木クイズ他

10.下旬～11.下旬 鳥取県各地 土木工事見学会,土木事業写真展

10.21 山口県 公共事業の見学会及び「ザ・けんせつフェスティバル山口」

10.28 福山大学,広島こども文化科学館「こどもミニ土木博」

11.17 岡山県 95 シビックデザインセミナー

11.8 広島県 広島呉道路工事見学会,小学生を対象とした現場見学会

四国支部

5.27 年次技術研究発表会（発表数 196 題,香川大学）

6.2 「阪神・淡路大震災第 2 回報告会」

6.16 「技術意見検討会」

10.14 「人にやさしい橋梁に関するシンポジウム」

11.11 「貴方を襲う災害・災害から身を守る秘訣を教えます」

●「土木の日」行事

11.20～24 「市民ふれあい土木展」

11.27 「土木の日」および「くらしと土木の週間」記念講演会

西部支部

1.18 講演会「21 世紀の土木と宇宙開発」「ここがおもしろいぞ宇宙開発」

3.16 講演会「燃える石の研究－天然白リンの発見－」

5.11 阪神大震災・震災第 2 次報告会

5.19 「小規模下水処理場の経済性と環境影響評価」

5.24 「福祉のまちづくり」

10.16 土木学会員の現場見学（雲仙普賢岳火山噴火対策事業）

11.5～12 海外研修（ベトナム・香港）

11.29 講演会「河川のよもや話」

11.29 講演会「土木構造物の新たな表情」

●「土木の日」行事

11.18 「面白い話・世界不思議発見裏話」

福岡地区

11.17 見学会（福岡市西部水処理センター,海の中道公園,マリンワールド）

11.21 シンポジウム「都市の防災とまちづくり」

北九州地区

11.23 「土木フェア in 北九州' 95」

佐賀地区

佐賀市

9.19～10.26 「現場見学会」（工業高校生を対象）

11.11 「親子のふれあい建設バスツアー」

11.12 「土木の日展示会」

11.19 「六角川ありがとう」

11.22～26 「土木フェア in Saga'95」

1995（平成 7）年

支部の動き

唐津市
11.18 「文化活動」
長崎地区
長崎市
11.18～19 「パネル展」
11.19 「現場見学会」 不動山トンネル～嬉野総合公園,島原深江道路～水無川導流堤～島原城～千本木被災状況～百花台,城山台稲佐町線～飽の浦トンネル～中尾ダム
熊本地区
熊本市
11.11 「親子で遊ぼう土木ツアー」
11.19 「土木体験ツアー」
大分地区
大分市
11.1～24 「パネル展」
11.13～26 「建設現場見学会」
11.16 「土木映画会」
11.17 「女性と土木のふれあい見学会」
11.17～26 「道路情報版による PR および横断幕等の掲載」
佐伯市
9.28～29 「現場見学」 桑原トンネル
11.8～21 「土木事業 PR およびビデオ鑑賞会」
11.12 「小冊子配布」
11.13～20 「パネル展」
宮崎地区
宮崎市
11.9～25 パネル展,現場見学会,子供参加のイベント
串間市
11.3 土木の日アンケート実施,バザー,ポップコーン,綿菓子無料の配布,ミニ盆栽店,子供絵画展,ミニ動物園,大声コンテスト,距離当てコンテスト,ゴルフゲーム
都築市
11.11 写真パネル展,建設機械展示,試乗,建設機械との大綱引き,測量クイズ,園児のマーチング,熱気球の体験試乗,魚の放流,うなぎのつかみ取り大会,お楽しみ抽選会,地場産品店
小林市
11.11 土木工事写真,パネル展,建設機械展示,始動,測量器具展示,距離当て,ラジコンヘリの実演飛行,中学・高等学校対抗クイズ大会,カレンダーとリフレットの配布
高岡市
11.11 小学生・中学生を対象に道路工事の説明会,建設機械の試乗,絵画の募集・展示・表彰,発泡スチロールによる橋梁組立,土木に関するクイズ大会
西都市
11.7,19 現地見学会,ドッジボール大会,目測距離当て,建設機械を用いたボーリング,盆栽コンテスト,バザー,花の苗無料配布,パネル展,ミニスポーツ大会,土木建設機械の展示と模範演技,お楽しみ抽選会,焼肉大会
高鍋市
11.4,7,8,11 花の種,リーフレットの配布,建設機械展示および試乗,測量機器展示および距離当て,土木写真展示,ミニ盆栽教室,出店,チャリティーバザー
日向市
11.11 パネル展,重機操作コンテスト,ちびっ子綱引き大会,子供絵画展,ビデオ上映,植木市,植木相談会,各市町村の物産展,バザー,出店
延岡市
10.21～11.22 パネル展,土木機械展示,PR 活動,工業高校生の土木施設見学,測量実習
西臼杵郡
11.12 現場見学会,パネル展,測量機器展示,距離当てクイズ,高千穂小学校による吹奏楽,子供絵画,習字展,ストリートバスケット大会,子供広場,特産品販売,プレゼント抽選会
鹿児島地区
鹿児島市
11.18 「95 土木フェスタ in Kagoshima」 建設機械展,建設資材展,測量設計機器展,出店機関 60 秒 PR,出店機関クイズ,お楽しみ抽選会,ミュタントタートルズショー,高専ロボット競技,ウォーターフロントクルージング,バターゴルフゲームコーナー,ビデオコーナ

1995（平成 7）年

支部の動き

鹿屋市
11.18 「' 95 土木フェスティバル in KANOYA」建設機械展,建設資材展,測量設計機器展,降雨体験機,風力発電機,安全器具展,作業服展,物産展,緑化展,写真パネル展,ゲーム&プレイ（卵のつかみどり,綱引き,抽選会,フライングディスク,建設機械オペレーターコンテスト,測量競技大会,力くらべ）,アトラクション（吹奏楽演奏など,鹿屋青龍太鼓,新城鎌手踊り）
沖縄地区
11.1 「水を考える小学生の集い」
11.4～6 「八重山の産業まつりでの広報活動」
11.15 「沖縄の道写真コンテスト表彰式」
11.15 「沖縄県土木建築部研究発表会」
11.18 「漢那ダム自然体験学習会」
11.18 「現場見学会」南風原アーチ橋
11.20～24 「土木の日パネル展」
11.25～26 「宮古の産業まつりでの広報活動」
12.4 「渇水対策講演会」

1995（平成 7）年

土木一般	社会一般
1.12 大阪市営地下鉄長堀鶴見線に世界初の 3 連MFシールド機が登場	1.9 日本海で低気圧発達,北日本で暴風雨と大雪で交通混乱,死者・行方不明者 7 人
1.17 阪神・淡路大震災により交通ライフライン,建造物倒壊,火災をはじめ神戸港・人工島に破壊的な被害,明石海峡大橋の淡路側橋台 1.1m ずれ,中央支間 1991m となる. 名神高速,阪神高速湾岸線,神戸西宮線 635m にわたる 1 本足橋脚の倒壊は,首都高速の橋脚補強を促進. 建設省 2.27 高速道路などの復旧仕様書を関係機関に通達	1.17 5 時 46 分,活断層のずれにより兵庫県南部地震が発生. 淡路島北部の深さ 14 km を震源に M7.2 の直下型で 2.14 以来,阪神・淡路大震災と改称. 倒壊家屋 19 万 2706 棟（兵庫県）焼失面積 65 万 2402 m ² ,焼失家屋 7608 棟,避難生活者 20 万人以上,死者 6308 人（1995.12）,被害総額 10 兆 2121 億円と推定
1.19 西武鉄道新宿線,上石神井へ西武新宿間 12.8 km の地下複線化計画を実質上中止	1.18 政府,地震対策閣僚会議を開催,自衛隊 1 万 3,000 人,警察 2 万 7000 人の派遣など 86 項目の緊急対策を決定し激甚特区に認定
2.10 和歌山県,紀淡連絡道路橋予定地の海上ボーリングを実施（～2.16）	1.18 広島県三原市の三丸遺跡から日本最古級の製鉄炉跡が出土と発表
2.11 長野県安曇村中ノ湯の国道 158 号,安房峠トンネル現場で水蒸気噴出,死者 4 人	1.ー 1～2 月にかけライン川中下流部のドイツ,オランダ,ベルギー,フランスなどに第 2 次世界大戦後最大級の水害,オランダでは 25 万人が避難
2.ー 石油公団,愛媛県菊間地区地下に水封式石油地下備蓄タンクに 150kl の石油注入完了	2.16 奈良県桜井市の著墓古墳（墳丘長 278m）の築造は出土品の分析から 280 年前後と推定,日本最古の前方後円墳説は後退
3.2 運輸省,山形県酒田市で波力発電 30kW の開発に成功	2.28 7.20 を海の日とする国民祝日法改正案が成立
3.4 電源開発・四国電力,橘湾火力発電所（石炭）用地 119ha 造成,出力 280 万 kW 着工,2000.12 工事完了	3.2 大阪市西淀川区の西淀川公害訴訟で,公害病認定患者遺族 600 人が関西電力など企業 10 社と国・阪神公団を訴えた裁判で約 40 億円の和解勧告が成立,住民側の勝訴だが国・公団の責任は認めず.
3.7 鉄道公団,北陸鉄道ほくほく線（第 3 セクター）の軟弱地盤に 9.1km の鍋立山トンネル完成	3.18 北海道中央部の空知炭鉱廃山,残りは太平洋炭鉱（釧路）,三井三池（福岡）,松島池島（長崎）のみ
3.10 道路公団,九州横断道のうち,日田～玖珠間 24.7 km 開通,長崎～大分間 188 km が全通	3.18 宇宙開発事業団,種子島宇宙開発センターから国産大型ロケット H II 3 号機打上げに成功,気象衛星ひまわり 5 号と命名
3.13 沖縄県宮古島～末開島を結ぶ農道橋・末開大橋県営一般道 4 km の一部 1.69 km 開通	3.20 東京地下鉄霞ヶ関駅を通る日比谷・千代田・丸の内線 5 本の電車内にオウム真理教がサリンを散布,死者 11 人,重軽傷 5500 人の地下鉄サリン事件,関連事件で起訴者 100 人以上.
3.15 南関東地震に備え横浜新港埠頭に防災岸壁,ヘリポートなどの防災基地が完成	3.24 無人深海探査機かいこうマリアナ海溝 1 万 911m に到着
3.31 大阪の寝屋川流域に平野川調節池第 2 期工事完成,1・2 期合計 34 万 m ³ を貯留	3.31 琵琶湖観光の目玉として大津港の沖合に長さ 440m の噴水完成
4.1 阪神・淡路大震災で不通となった JR 東海道本線,75 日ぶりに営業再開	4.1 新潟県南部を震源とする M6.0 の直下型地震発生,停電・新幹線運転中止など 504 棟に被害,重軽傷者 42 人
4.8 山陽新幹線・大阪～姫路間 91.7 km 営業再開,6.12 阪急,6.26 阪神電鉄など全線再開	4.11 環境庁,日本の自然海岸が 10 年間で 293 km 減少と発表
4.19 建設省,1995 年度の建設投資見通しを前年度比 1.7% 増の 82 兆 2000 億円と発表	4.23 北九州市小倉区の紫川に木造歩道橋の常磐橋

1995（平成 7）年

土木一般	社会一般
4.20 九州電力、玄海原子力発電所 4 号機 118 万 kW 完成、1997.7、総出力 347 万 8000kW 運転開始で全事業終了	4.28 韓国大邱市の地下鉄現場でガス爆発、死者 101 人、負傷者 107 人
4.21 労働省、建設現場安全管理指針をまとめゼネコン 4 固体に周知を要請	5.22 文化庁、国宝や重要文化財の耐震補強強化を検討する協力者会議を設置、指針作成開始
4.24 運輸省、地震に強い港湾のあり方について検討調査委員会を設置（委員長：中村英夫東京大学教授）、8 月中旬に中間報告にまとめ第 9 次港湾整備 5 ヶ年計画（1996～2000 年）に反映	5.ー 1995 年度 1 次補正予算が成立、1 兆 4300 万円が阪神・淡路大震災後復旧費と決定
4.26 北海道唯一の炭鉱、釧路の太平洋炭鉱で海面下 600m 延長 6.625 km の坑道運用開始	5.ー 環境庁、南西諸島のサンゴ礁がここ 15 年間で 1500ha 消滅と発表
4.26 千葉市～富津市間の館山有料道路 57 km のうち 18 km、7.18 に木更津南 17 km が開通	5.31 東京都、1996 年に東京臨海副都心で開催予定の臨界都市万博会の中止を決定、副都心計画の本格的な見直しが始まり 1000 億円の被害と推定
4.29 福井県、400 年前の城下町・一乗谷朝倉遺跡の町並みを 6000 m ² にわたり整備	5.28 ロシア・サハリン州北部に M7.5 の地震、石油パイプラインに被害、死者 1841 人、負傷者 107 人
4.30 神戸港埠頭公社、ポートアイランドと六甲アイランドのコンテナ擁壁 6 パースを暫定復旧と発表	6.6 オウム真理教の麻原彰晃代表らを起訴
4.ー 建設省河川局・都市局などの若手技術者、従来の河川政策を反省し河川の未来像を報告書にまとめ発表	6.15 東京高等検察庁、日本下水道事業団発注の下水処理場の電気設備をめぐる電機メーカー 9 社と事業団の元工務部長を独占禁止法違反で逮捕。中本至理理事長解任
5.19 中部縦貫自動車道・安房峠道路の高熱地区安房トンネル 4.3 km 本坑貫通（開通 1997.8）	6.16 大阪市の池上曽根遺跡から弥生最古級と見られる高床式建物跡を出土と発表
5.23 長良川可動堰の本格運用をめぐる住民側建設省側が円卓会体 4 回開催（3.2）、合意が得られず水資源公団が運用開始と発展	6.ー 建築基準法一部改正、地下室の容積率緩和により地下室つきマンション続出
5.25 北陸新幹線・高崎～長野間の五里ヶ峰トンネル 15.175 km 貫通	6.ー 大分県臼杵市の臼木石仏（4 群 59 体）国宝に指定
5.29 鉄道公団、東北新幹線・盛岡～八戸間 96.6 km の起工式を盛岡で開催	6.23 沖縄県、摩文仁の平和記念公園（糸満市）で沖縄戦没者追悼式、戦没者 23 万人の氏名を刻んだ平和の礎除幕式。8.2 天皇・皇后が訪問
5.31 鉄道公団、JR 熊本駅で九州新幹線・熊本～鹿児島間整備事業着工	6.27 文化庁、広島県の実験ドームなど 7 件を史跡指定
6.8 建設省 建設産業の構造改善に関する支援策を策定	6.28 大館市の花岡鉱山で 1945.6 強制労働中国人労働者が蜂起し 420 人が軍により殺害された花岡事件の生存者 11 人が当時の鹿島組に対して損害賠償を告訴、和解が成立
6.27 環境庁、香川県小豆島土庄町豊島周辺の産業廃棄物によるダイオキシン汚染調査を 2 週間実施、因果関係を立証	6.29 韓国ソウル市の三豊百貨店（地上 5 階、地下 4 階）の建物半分が倒壊、死者・行方不明者 500 人弱、負傷者 900 人以上
6.ー 関西電力、兵庫県に地下揚水式の大河内水力発電所 128 万 kW 完成	6.29 近畿・中四国九州で大雨（～7.9）、崖崩れ 798 ヶ所、床上・床下浸水 7266 棟、死者 2 人
6.ー 今治市、瀬戸内海環境保全特別措置違反とする住民訴訟に勝訴した自然海浜・織田ヶ浜の埋立て終了	7.7 最高裁、国道 43 号線・阪神高速道路の沿道住民 131 人による騒音・排ガス公害告訴で国・公団の責任を認め 2 億 3000 万円の支払いを命じた大阪高裁の判決を支持。11 月、国道 43 号・阪神高速神戸線環境対策連絡会議が敗訴による中間報告を作成、今後の具体的な改善策を発表
7.1 阪神公団、復旧中の湾岸線 1.3 km 開通	7.11 北陸・信越に集中豪雨、大糸線不通など新潟・長野に被害
7.2 東京駅中央線快速電車ホーム 303m を高架に改築	7.11 神戸市、10 ヶ年計画の神戸市復興計画を決定
7.6 三重県の長良川可動堰の運用を開始。反対運動激化の中で可動部 551m、ローラーゲート 12 門（1978.9～）	7.20 7.20 を海の日とする国民祝日法改正案成立
7.13 埼玉高速鉄道（第 3 セクター）、川口市で起工式、営団地下鉄赤羽岩淵～浦和美園間 14.6 km、総工費 2591 億円、2001.3 開業し営団地下鉄へ乗入れ。	8.1 群馬・福島・新潟 3 県、共同で尾瀬保存財団を設立。基本財産 13 億 5000 万円
7.18 政府、新防災基本政策を策定	8.4 兵庫県、阪神・淡路大震災の被災各市町の復旧計画を集成し 660 事業を盛り込んだ、ひょうごフェニックス計画を決定
7.27 道路公団、人吉～えびの間 22.3 km 開通により九州自動車道 428 km 全通、青森～宮崎・鹿児島間 2150 km が一本化	8.22 東京の真夏日、連続 31 日の新記録
7.28 東北電力、女川原子力発電所 2 号機 82.5 万 kW 完成（2002.1）、3 号機の総出力 217 万 4000kW で事業終了	8.23 桜島南岳 1040m の噴火活発化、25 日までに爆発 15 回、九州自動車道一部通行中止
7.29 名神高速・尼崎～西宮間が復旧し 6 ヶ月ぶりに名神と中国道が連結	8.24 京都の広隆寺、国宝の仏壇台座に耐震装置を取付け
7.31 神戸市のボートライナー、三宮～中公園間 2.8 km 復旧	9.6 警視庁・神奈川県警、オウム真理教実行幹部らの供述に基づき坂本弁護士一家 3 人の遺体を発見
7.ー 秋田石油備蓄基地、船川港付近に東西 2 基地 454 万 kl の石油注入完了	9.20 政府、経済対策閣僚会議を開催、総額 14 兆 2200 億円の対策費を決定
8.2 道路公団、磐越自動車道・いわき～郡山間 71.4 km が開通。常磐自動車道と接続、いわき～新潟間 213 km のうち 155.4 km 開通	9.29 伊豆半島東岸の汐吹崎付丘で 146 回の有感地震

1995（平成7）年

土木一般	社会一般
8.9 道路公団、徳島自動車道・徳島市～愛媛県川之江市間 9.1km 開通、総延長 41.2 km となる。 8.17 建設省・富士市、海岸の浸食防止に使用した富士川河口の砂採取跡地の幅 80m、奥行き 60m を海水浴場に整備 8.20 厚生省、水道施設の耐震化について報告書を作成 8.24 第9次港湾整備5ヶ年計画（1995～1999）を策定 8.29 動燃事業団、高速増殖原型炉もんじゅ（敦賀市、出力 28 万 kW）の発電・送電開始。12.8 液化ナトリウム漏れ事故で運転停止 9.14 建設省、建設技術開発5ヶ年計画を策定 10.6 川崎市、市内発生のゴミを JR 貨物線で臨海部の焼却場まで1日 300 t の輸送開始 10.26 建設省、神奈川県内の多目的重力式・宮が瀬ダム 1 億 8300 万 m³ の貯水を開始。ダムは 2001.3 完成 10.27 青森～黒石間の国道 394 号バイパス内に国内 1 位の RC アーチ、支間 255m の城ヶ倉大橋 10.27 関西電力、7 月の集中豪雨で湛水した里部川の出し平ダムの土砂 190 万 m³ を排出したが河口汚染が問題化 11.1 東京の新橋～有明間をレインボーブリッジで結ぶ新交通システムゆりかもめ 11.9 km 開通 11.7 道路公団、上信越自動車道・群馬県伊勢崎市～新潟県上越市間の一部開通。1998.2 長野における冬期オリンピックへの準備 11.10 道路公団、秋田自動車道 123 km のうち横手市～岩手県湯田町間 20.3 km 開通。全体の 30% が橋とトンネル 11.17 東京国分寺の鉄道学園跡地の住宅公用団地造成中、奈良時代の官道・東山道と見られる遺構を発見、設計変更して遺構を保存。標識を設置（1996.2） 11.一 中部電力、木曽川に純揚水式の奥美濃発電所 150 万 kW 完成 12.1 東京都、現行処分場の南側にゴミの埋立場 480ha の埋立て許可を運輸省に申請。事業費 8400 億円で 1996 年完成予定 12.21 首都高速湾岸線、羽田空港～横浜ベイブリッジ 16.4 km 開通。逆 Y 字型鋼斜張橋・鶴見つばさ橋（1984m）255+510+255 12.24 政府、住宅・下水道・公園・空港など 1996～2000 年の 5 ヶ年計画の事業計画を決定。下水道 23 兆 7000 億円。都市公園 7 兆 2,000 億円、港湾 7 兆 4900 億円、空港 3 兆 6000 億円、海岸 1 兆 7700 億円 12.27 道路公団、藤沢～茅ヶ崎海岸間 8.7km の新湘南バイパス開通 〔その他〕 フランスのセヌ川河口に 3 径間復合斜張橋、支間 856m のノルマンディ橋	10.1 伊豆半島東方沖の群発地震が活発化 10.12 大分県九重連山の硫黄山 1580m、257 年ぶりに噴火、噴煙 700m に達する 10.18 奄美地方に地震、喜界ヶ島で震度 5、19 日以降 11 月までに群発地震 960 回を記録 10.23 第 23 回世界湖沼会議、つくば市と水戸市で開催。78 ヶ国、8200 人が参加、霞ヶ浦宣言を採択 10.28 アゼルバイジャンのバクー地下鉄で火災。死者 289 人、負傷者 270 人 10.28 水俣病被害者および新潟水俣病被害者、それぞれチッソと昭和電工の補償金支払いで和解、事件発生より 40 年間の長期裁判 11.3 第 53 回文化勲章、遠藤周作ら 5 人が受賞 11.28 JR 東日本・東京都など、建設省より JR 中央線の三鷹～立川間 13.11 km の高架化工式の免許を取得、18 ヶ所の踏切り解消をねらう 11.22 環境庁、1994 年度の全国地盤沈下地域は猛暑と地下水汲上げで 4cm 以上 113 k m²、沈下体積 6790 万 m³ と発表 12.3 厚生省、阪神・淡路大震災の死者 5488 人の死因を分析、犠牲者の 80% が家屋倒壊による窒息・圧死、高齢者とくに女性の死が男性の 1.5 倍と発表 12.4 択捉島付近で M7.2 の地震、北海道にも影響 12.6 世界遺産委員会、岐阜県北西部の白川郷・五箇山の合掌造り集落を世界遺産に登録 12.20 住友金属鉱山旧別子銅山の元従業員ら 85 人、削岩機使用による労働病として提訴、1 億 1000 万円の支払いで和解、提訴から 17 年目

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

1996（平成 8）年

会長 松尾 稔 副会長 石井 清, 石井 晃一, 木村 孟, 豊田 高司, 廣田 良輔

会員数 32,228 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.26 支部交付金の基本額 200 万円から 230 万円改訂案が承認される 1.26 次長ポストの設置に伴い土木学会運営に関する規程および職員就業規則・事務分掌規程・事務局国内出張旅費を一部変更 1.26 土木学会定例映画会を観客数の減少により中止することが承認 1.26 棚卸図書に係わる評価替の承認 1.26 論文集第 7 部門刊行承認 1.26 関西支部不動産取得の報告 3.22 特定公益増進法人更新承認 3.22 事務局の組織体制の見直しに合わせて「情報システム室」の新設が承認 3.22 科学技術基本計画への提言報告 4.26 国際委員会の「第一部会」を「学術交流基金管理委員会」と、「第二部会」を「国際委員会」とする提案を承認 5.10 英文論文集に関する連絡会議設置について承認 6.28 企画運営連絡会議設置及び災害緊急対応部門の新設承認 7.26 吉野川第十堰建設事業審議会への専門学者推薦承認 9.27 表彰規定の一部変更 9.27 常置委員会の名称変更 11.22 東南アジア土木技術者会議(仮称)共催に承認 11.22 第 3 回フェローに認定(163 名) 11.22 土木学会学術文化募金の助成 一般型 1 件(996 千円), 特別型 1 件(790 千円), 指定型 2 件(計 4,200 千円)の助成を承認 11.22 公益法人会計への移行	1.26 第 2 回世界構造制御会議(2WCSC)共同開催の承認 1.26 建設材料に関する国際会議の承認 3.22 「社会資本整備の総合研究」「大規模岩盤崩落に関する技術的検討について」「フェロニッケルスラグ[®] 細骨材コンクリート施工指針案の改正及び鋼スラグ[®] は細骨材コンクリート施工指針案の作成」の 3 受託承認 4.26 「土木技術者に地球環境問題の知識を普及する活動方法研究」の受託承認 5.10 「土木関連 ISO(国際規格)の展望に関する研究」の受託承認 6.28 「建設施工現場における安全管理技術指針策定調査研究」の受託承認 6.28 「自然と国土防災の科学公園の計画」の受託承認 6.28 「21 世紀初頭に向けた四国地方の土木施設整備のあり方に関する調査研究」の受託承認 6.28 「四国地方の地震防災に関する研究」の受託承認 6.28 「満濃池築造の歴史に関する調査研究」の受託承認 6.28 トンネル荷重に関する調査研究部会の設置承認 7.26 「玉川上水保存管理指針策定に関する調査研究」の受託承認 7.26 「中国地方における土木の今後のあり方に関する研究」の受託承認 9.27 「地質とダム基礎岩盤に関する調査」の受託承認 10.一 開削トンネル耐震設計法検討部会の設置承認 11.22 景観・デザイン委員会の設置承認 11.22 「わが国における断層の活動履歴の研究」の受託承認 11.22 「わが国における断層活動履歴の評価法の体系化に関する研究」の受託承認 11.22 「分布モデルを中心とした洪水流出解析手法の高度化に関する研究」の受託承認 11.22 「的確な氾濫原管理を可能とする流域データベース構築手法の研究」の受託承認 11.22 「河岸の侵食過程の予測技術の開発」の受託承認 11.22 「物質トレーサによる水循環調査の新たな手法の開発」の受託承認 11.22 「河道の水質浄化機構に関する研究」の受託承認 11.22 「水循環を中心とした河川の国際間比較」の受託承認	4.22 オーストラリア工学会一行の土木学会表敬訪問 5.24 大韓土木学会韓会長来日, 第 28 回通常総会において来賓挨拶 6.13 大韓土木学会事務局長来会 9.9 CERF 打合会「ローファースト氏」来日 11.3 スタディーツアーズアグランド(国際交流日本招聘助成) 11.3~16 Bernard Brule 氏来日 11.8~18 「ASCE 全国大会」 11.20~23 CONET'96 「INTERNATIONAL EXHIBITION for CONSTRUCTION EQUIPMENT & TECHNOLOGY」(共催)(千葉市)

1996（平成8）年

行事・集会（本部）

- 1.12 「地下空間と人間」シリーズ出版記念講演会（基調講演 1 題，特別講演 1 題，講演 4 題）
- 1.17 「地下空間と人間」シリーズ出版記念講演会（講演数 7 題）
- 1.17 衛星データの実利用研修会「超解像度衛星データの性質と習得方法および国際的な動向」
- 1.23 「コンクリート構造のエスティックス」講習会
- 1.25～26 阪神・淡路大震災に関する学術講演会（論文発表 116 題）
- 1.31 衛星データの実利用研修会「衛星データを用いた土地被覆分類図の作成法，利用法について」
- 2.1 第 9 回建設コンサルタントシンポジウム（特別講演 1 題，一般講演 2 題，パネル 1 題）
- 2.1～2 第 27 回岩盤力学に関するシンポジウム（論文発表数 83 題，パネルディスカッション 2 件）
- 2.7 応用力学フォーラム（講演数 5 題）
- 2.7 「地下空間の人間」シリーズ出版記念講習会（基調講演 1 題，講演 4 題）
- 2.14 第 34 回 原子力総合シンポジウム（共催）
- 2.19 衛星データの実利用研修会「衛星データを用いた土地分級評価の手法および方法について」
- 2.20 舗装工学講習会（講演 8 題）
- 2.23 「都市 NATM とシールド工法～設計法と現状と課題」講習会（講演数 7 題）
- 2.28 衛星データの実利用研修会「斜面の安定性評価」
- 3.4 衛星データの実利用研修会「衛星データを用いた地形図作成方法と問題点について」
- 3.7～8 コンクリート標準示方書（平成 8 年版）制定に伴う講習会（講演数 9 題）
- 3.11 第 9 回環境システムシンポジウム（講演数 6 題）
- 3.13～14 高流動コンクリートシンポジウム
- 3.15 平成 7 年度「岩盤力学委員会研究報告会」「地下深部開発に関する調査・試験法の現状と技術的課題」（報告数 6 題）
- 3.17 第 8 回アゲルシンポジウム（講演数 3 題）
- 3.18～19 第 40 回水理講演会（講演数 188 題）
- 3.19 平成 7 年度 溶接シンポジウム（共催）
- 3.20 応用力学フォーラム（九州地区）
- 3.26 応用力学フォーラム（中部地区）
- 3.27 衛星データの実利用研修会「SAR データ（マイクロ派データ）の性質と利用方法」
- 3.27～28 コンクリート標準示方書（平成 8 年版）制定に伴う講習会（講演数 9 題）
- 4.5 第 17 回定例談話会（課題：就職市場としてみた「土木と建設産業」）
- 4.10～11 第 42 回構造工学シンポジウム（一般講演 151 題，特別講演 1 題，パネルディスカッション 1 題）
- 4.17 「第 10 回最新の施工技術－1996.4」講習会（課題：最新の施工技術について）
- 4.25 応用力学フォーラム（関西地区） 一波動現象の基礎知識－
- 5.9 第 18 回定例談話会（課題：首都移転の意味するもの）
- 5.15 第 14 回建設ロボットに関する技術講習会（講演数 4 題，パネルディスカッション 1 題）
- 5.17 1996 年「工学教育」連合講演会（共催）（東京都）
- 5.22 「土木分野における知的所有権」講習会（講演数 2 題，報告数 1 題）
- 5.23 「コンクリート標準示方書をめぐる環境・施工技術の最近の動向・性能照査型示方書試案」講習会（講演数 4 題）
- 5.24 第 2 回応用力学フォーラム（講演数 4 題）
- 5.31 シンポジウム「これからの防災計画と地域づくり」（講演数 5 題）
- 6.6～7 第 16 回土木史研究発表会（講演数 75 題）
- 6.6～7 第 3 回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム（講演数 54 題）
- 6.7 第 19 回定例談話会（課題：日本のトンネル技術－その耐震の考え方－）
- 6.7 応用力学フォーラム（乱流フォーラム）（課題：大気中の構造物空力学特性 他 1 題）
- 6.27 非線形力学小委員会及び応用力学フォーラム（中部地区）（課題：飽和土の進行性破壊における土～水連性の効果～ 他 2 題）
- 6.－ 英文ライブラリーインターナショナル No.27 および No.28 を編集
- 6.28 「高炉スラグ微粉末を用いたコンクリート施工指針」講習会（講演数 4 題）
- 7.3 鉄道力学シンポジウム
- 7.3～5 第 4 回地球環境シンポジウム（講演数 36 題）
- 7.3～5 第 23 回海洋開発シンポジウム（講演数 88 題）
- 7.11 第 20 回定例談話会（課題：新しい（第 5 次）全国総合開発計画の議論）
- 7.11 トンネル標準示方書（シールド・開削工法編）講習会（講演数：シールド編 5 題，開削 5 題）（東京都）
- 7.11～12 第 1 回水シンポジウム（基調講演 2 題）（鳥取市）
- 7.12 トンネル標準示方書（山岳工法編）講習会（講演数 6 題）（東京都）
- 7.12 風洞実験相似則検討小委員会研究報告会（講演数 12 題）
- 7.12～13 第 3 回鉄道連合シンポジウム（J-RAIL'96）（講演数 169 題）
- 7.16 建設マネジメント委員会 B.D 小委員会 有識者フォーラム
- 7.17～18 第 41 回水理講演会を開催し，論文集（第 41 巻）を編集
- 7.18～20 第 32 回水工学夏季講習会（A コース）（講演数 18 題）
- 7.20 なぎさ観察会（参加者数 70 名（親子 20 組））
- 7.22 海の日記念講演会（課題：なぎさ，生き物の視点から語る）

1996（平成8）年

行事・集会（本部）

7.22～24 第32回水工学夏季研修会（Bコース）（講演数18題）
7.23 「コンクリート標準示方書耐震設計編」講習会（講演数9題）（東京都）
7.24～26 第24回地震工学研究発表会（東京都）
7.29～31 第15回混相流シンポジウム'96（共催）（福井市）
8.2 第21回定例談話会（課題：活断層と地震予測）
8.3 一般公開シンポジウム（地球環境問題に取り組む最近の土木建設業）
8.5～6 第30回夏期講習会・見学会（講演数4題）
8.8～28 産業技術歴史展テクノフェスタ21（パシフィコ横浜）
8.28 「建設業における環境管理システム」講習会（講演数4題）
9.6 第22回定例談話会（課題：超高解像度衛星データの利用）
9.13 鉄道力学シンポジウム（講演数3題）
9.16 市民見学会（伊勢崎湾道路、名港中央大橋など）
9.17～19 第51回年次学術講演会（研究討論会15題）（共通セッション188題）
9.19～20 第40回 材料研究連合講演会（共催）（東京都）
10.3 応用力学フォーラム（乱流フォーラム）（課題：LESの最新の動向、乱流モデルの改良）
10.8～9 第26回安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
10.8 第23回定例談話会
10.11 第2回土木技術映像の一般公開
10.22～23 土木計画学シンポジウム
10.23～25 忠別・滝里の両ダムおよび滝里発電所（北海道開発局、北海道電力）の見学会
10.29 「連続繊維補強材を用いた設計・施工指針、品質規格、試験方法」講習会（講演数10題）（東京都）
10.30 第24回環境システム研究論文発表会
10.30～31 第24回環境システム研究論文発表会（東京都）
11.1 第24回定例談話会（課題：大深度地下空間開発技術の現状について）
11.1 CONET'96 建設機械フォットコンテスト（共催）（千葉県）
11.2～4 第19回土木計画学研究発表会（講演数379題）
11.7～8 第1回免震・制震コロキウム（発表数57）
11.12 第5回セミナー「土木自然学懇談会」（課題：土木と自然－ケルンを中心として）
11.12 最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー（講演数10題）
11.12～13 岩手トンネル（東北新幹線）の見学会
11.13 「土木の日」及び「くらしと土木の週間」
11.13～15 第43回海岸工学講演会（講演数263題）（和歌山市）
11.19 第17回土木学映画・ビデオコンクール表彰式（入賞作品発表・表彰6件）
11.19～20 第21回土木情報システムシンポジウム（発表数80題）
11.20 最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー（講演数10題）（大阪府）
11.21 第6回トンネル工学研究発表会（論文数9題、報告数59題）
11.22 構造工学委員会講演会（講演数2題、報告数1題）
11.26 土木計画ワンデイセミナー シリーズ8（講演数11題）
11.27 東京湾横断道路の施工技術その3講習会（講演数9題）
11.28 「連続繊維補強材を用いた設計・施工指針、品質規格、試験方法」講習会（講演数9題）（大阪府）
11.30 第3回土木技術映像の一般公開（上映作品5編）
12.2 「文化財の登録制度と近代土木遺産の保存・活用」シンポジウム（講演数7題）
12.3 最新のマスコンクリート技術に関するコンクリートセミナー（講演数10題）（愛知県）
12.4～6 第14回 風工学シンポジウム（共催）（東京都）
12.6 第25回定例談話会（課題：社会資本を考える視点）
12.6 火山工学研究会（火山地域の防災）（講演数3題）
12.9 第10回建設コンサルタントシンポジウム（講演数3題）
12.12～13 第14回建設マネジメント問題に関する研究発表会・討論会（講演数6題、研究発表数43題）
12.12～14 第33回環境工学研究フォーラム（金沢市）
12.13 「計算力学の実務への適用とその評価」講習会（講演数7題）
12.13 舗装工学研究小委員会（講演数34題）
12.18 「原子力発電所の立地多様化技術」講習会（講演数7題）
12.20 「計算力学の実務への適用とその評価」講習会（講演数7題）（東京都）

1996（平成 8）年

支部の動き

北海道支部

- 6.19 講習会「コンクリート標準示方書（平成 8 年版）制定」講演 10 題
- 9.26 講習会「トンネル標準示方書（山岳工法編）・同解説」講演 10 題
- 10.21 講習会「コンクリート標準示方書耐震設計編」講演 9 題
- 12.20 講習会「連続繊維補強材を用いたコンクリート構造物の設計・施工指針」講演 6 題
- 「土木の日」行事
- 9.29 見学会（一般市民対象）地下鉄東西線延長琴似地区施工工事現場 他 3 か所
- 10.26 見学会（小・中・高教諭対象）砂川遊水地（管理棟,排水門,管理橋等） 他 1 か所
- 11.18～24 「小学生の土木の絵」図画コンクリート展 展示数：76（特別賞・入選）応募数 984 題
- 11.18 パネルディスカッション「明日をつくるシンポジウム PART V」講演 1 題
- 11.18 映画会「鳥がよみがえった水辺」

東北支部

- 1.8 海外調査団報告会
- 3.14 技術研究発表会（発表数 364 題,秋田大学）
- 5.24 「コンクリート標準示方書改訂講習会」4 編
- 7.30 支部編集委員会
- 10.25 第 3 回講演と懇談の会「適正な防災水準に対する社会的合意—その重要性と学会の役割」講演 1 題
- 10.10～20 海外調査「ヨーロッパ長大橋梁調査団」訪問先：ノルウェー,デンマーク,イギリス,フランス
- 10.31 「コンクリート標準示方書改訂（耐震設計編）講習会」
- 11.13 「トンネル標準示方書改訂講習会」
- 「土木の日」行事
- 8.24～25 「ランドアート'96」
- 10.6 学園参加型 秋田大学鉱山学部開放事業
- 10.18～20 「土木の日フィスティバル'96」
- 11.17 「三春ダム貯水池湛水区域除草奉仕活動」
- 11.18 記念講演会「豊浜トンネル事故に学ぶこと」
- 10.19 福島建設フェア,写真館,市民会議「近代土木遺産を訪ねて」
- 10.20 現場見学会（大館能代空港,アクセス道路,北欧の森公園等）
- 10.23～30 写真展「近代土木遺産を訪ねて」
- 10.27 市民見学会「仙台の水と電気と道」
- 11.19 土木の日フォーラム「いま,土木を考える」,「東北の未来像」

関東支部

- 1.26 「生態系の保護と社会基盤整備」（講演数 3 題）
- 3.5 「土木技術に求められる資質と素養-技術士を目指している方々のために-」（第 7 回）（講演数 6 題）
- 3.12～13 第 23 回技術研究発表会（発表 372 題）7.9～11 映画会「バイエリアの新しいモニュメント」等
- 7.10 中学校記者取材講習会
- 8.31 コンクリートカヌー大会
- 10.16～18 新技術フェア関東'96 講演 2 題
- 12.4 講習会「技術者のためのインターネット活用のヒント」
- 12.10 KANTO シビックサークル 「土木における設計と施工—あなたは考える？」
- 「土木の日」行事
- 11.13 「土木の日」開会式
- 10～11 新技術研究所見学会 鹿島研究所他
- 11.23 都営地下鉄 12 号線環状部工事見学会

中部支部

- 1.28 第 2 回技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計・橋梁構造物」
- 3.7 研究発表会（発表数 368 題）4.16 講演会「土木学会中部支部特別講演会」講演 1 題
- 5.8 講習会「土木学会中部支部第 1 回講習会」（コンクリート標準示方書制定に伴う講習会）講演 8 題
- 5.16 講演会「土木学会中部支部第 1 回講演会」講演 2 題
- 5.17 見学会「白馬村ジャンプ台,五輪スタジアム建設現場の見学」
- 7.2 見学会・懇親会「土木学会中部支部留学生交歓会」
- 8.29 講習会「土木学会中部支部第 2 回講習会」（トンネル標準示方書・同解説）講演 10 題

1996（平成 8）年

支部の動き

- 8.30 講習会「土木学会中部支部第 2 回講習会」（トンネル標準示方書・同解説）講演 6 題
- 9.6 講習会「土木学会中部支部第 3 回講習会」（コンクリート標準示方書制定に伴う講習会）講演 9 題
- 「土木の日」行事
- 11.18 見学会「土木学会中部支部学生見学会」
- 11.19 見学会「市民見学会（岐阜県）」
- 11.20 見学会「市民見学会（富山県）」
- 11.20 「パネル・写真展」市民対象
- 11.23 見学会「市民見学会（名古屋市）」
- 関西支部
- 1.31 新春講演会・会員懇親会
- 2.16 滋賀地方講演会
- 5.15 支部年次学術講演会 講演 494 件
- 5.20～6.20 学生映画会（土木関連記録映画）
- 5～6 海外派遣報告会 講演 5 題
- 8.6～7 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会 講演 12 題
- 9.5～6 阪神・淡路大震災調査研究委員会中間報告会 講演 35 題
- 10.30 新しい競争の時代における建設プロジェクト方法に関する講習会 講演 6 題
- 11.27 「人と風土に根づいた都市・地域づくり」講習会・研究討論会 講演 10 題
- 11.6 和歌山地方講演会 講演 3 題
- 11.15 高専学生対象講演会 講演 2 題
- 「土木の日」行事
- 8.23 小中高校生対象見学会「大滝ダム・学べる建設ステーション」
- 12.1 市民対象見学会「住んでる町の土木、発見」
- 11.24 地方見学会（京都府）「文化の薫り高い 21 世紀のモデル都市建設」
- 1.6 土木文化講座・講演会「土木技術が支えた歴史文化」 講演 1 題
- 1.30 土木文化講座「大規模な環境問題」 講演 1 題
- 2.20 土木文化講座「都市防災をどうする」 講演 1 題
- 11.17 「土木の日」関連事業 夢の架け橋・明石海峡大橋体験
- 12.18 第 11 回 FCC「秀吉と土木 - 神話に思い出せ,中世・秀吉の偉業を振り返り,そして現在の土木を考える - 」 講演 3 題
- 中国支部
- 5.25～26 平成 8 年度支部研究発表会 講演 309 題
- 5.9 通常総会特別講演会 講演 1 題
- 5.25 研究発表会における特別講演会 講演 1 題
- 6.14 米国カルフォニア大学教授,広島大学教授による講演会 講演 2 題
- 9.3 講演と懇談の会における講演会 講演 2 題
- 10.29 山口県,佐波川堤防耐震補強工事見学
- 11.10 明石海峡大橋見学
- 「土木の日」行事
- 10.27 ひろしまミニ土木展
- 10.26～27 ミニ土木展「知ってる？どぼく」（模型・パネル展示,工作コンテスト他）
- 11.3 ミニ土木展「知ってる？どぼく」（洪水シュミレーション,クイズ,工作コンテスト他）
- 11.2～3 ミニ土木展「知ってる？どぼく」（橋の模型展示・工作コンテスト,パネル展示他）
- 11.16～17 くらしと土木展'96「のぞいてみよう土木夢発見」（パネル展示,工作コンテスト他）
- 11.18 '96 シビックデザインセミナー
- 11.19 瀬戸大橋技術者見学会
- 11.18～24 あのまち,このまち「土木の日」
- 四国支部
- 2.6 映画会「土木工事現場の状況紹介(記録映画)」
- 2.27 見学会「香川県東讃地区」
- 6.10 コンクリート標準示方書
- 6.17 高流動コンクリートについて
- 6.27 構造設計の基礎

1996（平成8）年

支部の動き

9.13 土地地質の基礎
9.20 土の強度の考え方
9.26 地盤災害のメカニズムと対策
9.30 斜面安定解析法の基礎論理
10.15 東欧の最近の土木技術
7.31 あんぜん四国検討委員会報告会
8.2 講演と見学の会
9.26 コンクリート示方書講習会
8.30 技術意見検討論会
●「土木の日」行事
11.19 記念講演会 講演2題
10.24～12.12 県政バス（土木施設建設現場見学）
10.22～11.8 明石海峡大橋他現場見学会
10.29～31 くらしと土木のパネル展
2.4～25 小学生土木絵画コンクール
11.9～10 科学フェスティバル
11.8～30 水力発電所施設見学会他
11 中旬 ふれあい土木展

西部支部

2.15 技術発表会（講演数6題）
3.20 西部支部活動検討委員会の報告会（検討内容報告と意見交換）
3.21 西部支部研究発表会（発表数471題）
3.21 「日本の文化・長崎の心」
5.22 講演会「人間魅力学 - 出来る男になる為に -」講演1題
5.31 「コンクリート標準示方書（平成8年版）」制定に伴う講習会
10.3 「トンネル標準示方書（山岳工法・シールド工法・開削工法各編）」
10.15 見学会「白鳥石油備蓄基地建設工事」
10.25 「コンクリート標準示方書耐震設計編」講習会
10.27～11.2 第8回土木学会西部支部「海外研修」
●「土木の日」行事
（福岡地区）
11.18～19 「パネル展示会」（土木のロマン紀行～近代土木遺産を訪ねて～）
11.18 「見学会」（西鉄福岡駅再開発事業）
11.28 「見学会」（福岡導水山口調節池,福岡油田山牧業）
（北九州市）
11.18～12.13 「学校訪問」（高校生との懇談）
11.13～26 「遠賀川についての勉強会」（小学生対象）
11.23～24 「土木フェア in 北九州'96」（絵画コンクール,パネル展示,縁日広場他）
（佐賀地区）
11.17 「六角川フェスタ」
11.20～24 「土木フェア in SAGA'96」（土木パネル展,土木ふれあい体験他）
11.20～24 「バルーンフェスタ」（パネル,模型展示他）
（大分地区）
10.14 西椎屋橋
10.30 上尾トンネル
11.29 西椎屋橋,上尾トンネル
11.9 高速道路ウォーキング,九州電力火力発電所,大在公共埠頭,別大拡張
10.2～11.28 耶馬溪ダム
11.15 「映画館」（海峡,レインボーブリッジ）
「ロマン The 土木フェスタ'96 in 佐伯」（スライド上映,スペシャルトークライブ,パネルディスカッション,パネル展示）
11.18 「土木事業講演会」
（長崎地区）
11.16～18 「土木の日フェスタ・イン・ナガサキ'96」

1996（平成 8）年

支部の動き

（熊本地区）
11.19 「親子でふれあう土木バスツアー」
11.11～15 「写真展」（近代土木遺産を訪ねて）
11.14 「土木とくらしのゼミナール ～清正公さんの残した熊本の城と土木遺産～」基調講演 2 題
11.17 「（土木）2 Touch The Doboku フェアール」（公開実験,パネル展示,重機試乗,チャレンジゲーム,スタンプラリー）
（宮崎地区）
※『土木いきいきふれあいマップ』カレンダー配布
※「図書寄贈」
※「各地区別行事」
11.17～23 パネル展,クイズ,見学会,習字コンクール
（日南地区）
11.17～23 ミニ四駆大会,ビンゴ大会,盆栽作成
（串間地区）
11.3 パネル展示,バザー,アートギャラリー
（都城地区）
11.16 トンネル工事見学会
（小林地区）
11.23 パネル展,建設および測量機器展示
（高岡地区）
11.18 河川の環境整備
（西都地区）
11.23 '96 in SAITO,街頭 PR,見学会,クイズ,建設機械展示,距離当てコンテスト
（高鍋地区）
11.23 パネル展,チャリティバザー,ミニ四駆コンテスト
（日向地区）
※パネル展,子供絵画展,ビデオ上映など
（延岡地区）
11.11～18 「土木の日」in のぼりざるフェスタ,パネル展,見学会
（西臼杵地区）
11.17 見学会,パネル展,建設機械展示,絵画・習字コンクール
（鹿児島地区）
11.16 「'96 土木フェスタ in KAGOSHIMA ～親子で楽しい一日を土木フェスタで～」
「'96 土木フェスタ in KANOYA」
11.2～24 「'96 土木フェスタ in 北薩」
（沖縄地区）
10.18 「やんばるの産業まつり（土木建築展）」
「写真・パネル展」
11.2～3 八重山の産業まつり
11.18～22 パネル・模型展示
11.23～24 宮古の産業まつり
12.9～13 近代土木遺産を訪ねて
11.6 「ダム施工体験会」
11.15 「土木建築部研究発表会」
11.17 「漢那ダム自然体験ツアーおよび写生大会」
「図面・写真コンテスト」
11.18～22 第 5 回 『沖縄の道』写真コンテスト
11.18～24 南風原道路区間図面・写真コンテスト
11.22 「シンポジウム『沖縄の土木技術を世界に発信しよう』」
12.3 「総合シンポジウム『沖縄の振興開発と土木技術』」

1996（平成 8）年

土木一般	社会一般
1.6 1995.7 の集中豪雨で不通となっていた新潟県小滝～長野県南小谷間 21.7km の道路が復旧 1.11 運輸省・JR 信越本線、北陸新幹線と併行する信越本線・横川～軽井沢間 11.2km を廃線、バスに切替え 2.2 埼玉県、寄居町の玉淀ダム、仮設ゲートの一部破損、338 万 m³ が流出、240 万 m³ は下流の荒川調整池などへ流入 2.6 岩手県競馬組合、盛岡市内に日本最大面積 123ha の新盛岡競馬場を開場、工費 409 億円 2.10 北海道余市町～古平町の境、国道 229 号の豊浜トンネル（延長 1.086km）で高さ 70m、幅 50m、暑さ 13m の岩盤 5 万 t が崩落、路線バス 1 台が下敷きとなり、死者 20 人、弱体化した岩盤が 45cm 厚の覆工を押し潰す。建設・運輸の両省、1 万 3500 か所（道路 7000、鉄道 4500 か所）の全国点検を通過、3.1 再発防止のため検討委員会を設置 2.15 環境庁、香川県小豆島土庄町の豊島周辺で 50 万 t の農業廃棄物により海水や海底土からダイオキシンを検出と発表。住民 237 人が処理業者を告発し勝訴 3.9 建設省、栃木県藤岡町の渡良瀬遊水池第 1 貯水池 80ha でヨシを利用した水質浄化施設に着工、第 2 貯水池 70ha も計画中 3.24 東京都、臨海副都心お披露目パーティを開催 3.26 道路公団、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）・東京青葉～埼玉鶴ヶ島間 19.8km 開通。都心から半径 40～60km を結ぶ延長 270km の環状道路の一部として初開通。 3.26 滋賀県、琵琶湖の水質保全のため環境基本条例、生活排水条例、排水規制改正条例が可決成立 3.26 営団地下鉄南北線・駒込～四ツ谷間 7.1km 開通 3.28 道路公団、佐賀県鳥栖市～大分市間 135km の大分自動車道のうち玖珠町～湯布院間 21.8km 開通、11.18 大分市内 7.8km が完成し大分自動車道全通 3.29 大阪市港区と住吉区を結ぶ併用海底型、延長 1.1km の大阪南港トンネル完成 3.29 横浜市、金沢区に横浜ベイサイドマリーナ第 1 期工事完成。1038 隻のボートを海上係留可能な国内最大級施設 3.30 東京臨海高速鉄道りんかい線・新木場～東京テレポート間 4.9km 開通。2000 年、新木場～大崎間 12.2km 全通 3.一 JR 東海、2002 年度開業を目標に東海道新幹線品川駅着工 4.1 運輸省、建設市場の国際化に備え港湾工事で共通仕様書改正 4.2 北海道開発局、アイヌ民族が聖地と主張。建設反対の中で日高管内の二風谷ダム（総貯水量 3150 万 t）試験湛水開始 4.15 神戸市ポートアイランド、コンテナ船用大水深岸壁、延長 700m、最大水深 15m が完成 4.27 千葉県の東葉高速鉄道（第 3 セクター）、東葉勝田台～西船橋間 16.2km 全通、西船橋で営団地下鉄車両線と直通乗入れ 4.一 運輸省港湾局、東京港湾内 6 港（東京・横浜・川崎・千葉・横須賀・木更津）を対象とし 2010 年を目標に港内機能を再構築することを提唱 4.一 運輸省港湾局、初の技術開発 5 か年計画（1996～2000）を公表。建設費の削減、リサイクル材料の実用化、岸壁の耐震化など 5.20 埼玉県、川口市新芝川に芝川マリーナ完成。敷地面積 1 万 2000 m²、105 隻のボート係留可能。防災用水路としても活用 5.21 建設省、第 2 東名・名神高速道路のトンネル断面縮小と発表、断面 233.1 m² が 191.9 m² に、212.7 m² が 175.2 m² に変更	1.8 北日本に強い冬型気圧配置、大雪で交通機関混乱（～1.11） 1.17 阪神・淡路大震災犠牲者追悼会で 6433 人（1.8 確認）に鎮魂の祈り、皇太子夫妻ほか出席者多数。仮設住宅に 9 万人、避難所には 759 人が生活 1.31 スリランカのコロンボで爆発テロ事件、死者 120 人、負傷者 1500 人以上 2.3 中国雲南省北西部に M7 の地震。全壊家屋 41 万棟、半壊家屋 38 万棟を記録。死者・行方不明者 300 人以上、負傷者 1 万 6000 人 2.17 インドネシアのニューギニア島北部、ビアク市沖で M7 の地震、7m の津波。3000 棟以上倒壊し、死者 166 人、負傷者 600 人 2.21 四川省の重慶市、北京・上海・天津に次ぐ第 4 の直轄都市にすると発表、合併で 3000 万都市を目指す 2.25 イスラエル・エルサレムの市内およびアシュケロン郊外において連続爆破テロ。死傷者 100 人以上 3.3 エルサレム、テルアビブで自爆テロ。死者 20 人、負傷者 150 人以上 3.5 北海道駒ヶ岳で小規模の噴火 1942 年以来 54 年ぶり 3.9 和歌山県、南紀白浜空港開港、滑走路 1800m 3.11 1950 年代後半から 30 年間各地のトンネル工事現場で働きじん肺となった高知県仁淀村のじん肺患者 9 人、企業側 23 社が 1 億 5200 万円の支払いで和解成立。以後、徳島・高知・愛媛の四国じん肺訴訟すべて和解成立 3.12 茨城県北茨城市の旧常磐炭鉱、じん肺病患者 92 人に対し企業側が 3 億 5424 万円の支払いで和解成立 3.18 青森市、約 4300 年前の三内丸山遺跡を公園化、長さ 32m、幅 9.8m、高さ 7.5m の建物を復元。高さ 14.7m のクリ材を用いた堀立式櫓を復元 3.26 第 6 回ラムサール条約締結国会議で新潟市と巻町の佐潟、徳島県吉野川河口、千葉県習志野市の谷津干潟が渡り島を守る保護区に指定 3.28 エクアドルの山岳地帯に M5.2 の地震。家屋 1000 戸倒壊、死者 23 人、負傷者 500 人 3.30 JR 東日本、在来線を拡幅する新幹線こまち工事のため大曲～盛岡間の田沢湖線を全面運転中止 4.25 環境庁、緑の国勢調査の結果、約 7 万 2700ha の自然林が開発などで草地、人工林に変わっていると発表 5.10 大阪府、東大阪市に府立図書館開館。床面積 3 万 7700 m²、蔵書数 130 万冊（最大 350 万冊）は自治体図書館として最大級。 5.10 インド東部ホラサン州で M7.1 の地震、死者 1560 人、負傷者 2810 人 5.12 栃木県、旧足尾銅山周辺の荒廃を救うため植樹による緑化を開始 5.13 イランのマシャドとトルクメニスタンのタジャンを結ぶ 300km の鉄道開通式がイランのサクラスで開催。中国からトルコまで一本化 5.15 奈良県橿原市の藤原宮跡（694～710）で西京極とみられる道路遺跡、7.26 東京極と見られる東十条大路が出土。平城京や平安京をしのぐ面積であったことを確認 5.22 熊本で水俣病損害賠償事件 16 年ぶりに和解成立

1996（平成 8）年

土木一般	社会一般
5.24 高知県，四万十川の自然環境保護と流域振興のため利水ダムの建設制御を明記した四万十川総合プランを公表 5.31 自動車の排気ガスによる大気汚染が原因で気管支炎，ぜんそくにかかったとした患者ら 102 人，国，東京都，首都公団，自動車メーカー 7 社に汚染物質の排出抑制と総額 20 億 6000 万円の損害賠償を求め提訴 5.一 関西電力，姫路第 1 火力発電所（LNG）144 万 kW 完成 6.7 東京都，臨海副都心の事業規模を縮小，開発の進行を 2015 年に延期．就業人口を 10 万 6000 人から 7 万人，定住人口を 6 万 3000 人から 4 万人に縮小 6.12 建設省，土木構造物の生産性向上とコストダウンのため設計ガイドラインをまとめる（1995.3～） 6.一 東京電力，千葉・五井・姉崎・袖ヶ浦・富津の 5 火力発電所間を LNG 導管で連結 6.一 電源開発，信濃川に純揚水式・奥津津第 2 発電所 60 万 kW 完成 7.1 JR 東海・鉄道総合技術研究所，山梨県都留市にリニア実験センターを開設 7.18 JR 九州，宮崎県・日南線田吉～宮崎空港間 1.4km 開通．日豊本線の宮崎と連絡 7.一 建設省，6 月末から 7 月にかけての集中豪雨と台風 5 号の影響で全国 6861 か所の土木構造物被害総額は 710 億円と発表 7.一 建設省，公共事業の効率的実施についての検討委員会が中間報告を発表，投資を広くから集中型への転換を指示 7.26 建設省，高度情報通信社会の実現のため情報通信インフラ整備の考え方や取り組み方をまとめ，30 万 km の光ファイバー網の設置目標を中間報告書として発表．公共施設管理用の光ファイバー網は現在 8000km，道路・河川・下水道空間を利用し 2000 年 4 万 km，2010 年 30 万 km という計画 8.8 建設省，秋田県雄勝町～宮城県鳴子町の国道 108 号鬼首道路 13.7km が開通，動物保護対策を実施 8.9 建設省，北海道豊浜トンネル岩盤崩落事故（2.10）をうけて実施した全国緊急点検の結果 3054 ヶ所のうち廃道を含め 546 か所が対策を必要と判定 8.20 農水省，中海干拓の工事再開を見送り 8.23 建設省，1995 年度末時点の下水道普及率は全国平均で 54%（1994 年度 51%）と発表．第 8 次下水道整備 5 年計画（1996～1999）までに普及率を 66%に高める予定 8.一 建設・運輸・農水の 3 省，公共事業の実施に関する 3 省連絡会議を設け 13 項目で連携 8.一 中部電力，知多火力発電所（LNG・原重油）396.6 万 kW 完成 8.一 中国電力，鳥取県に純揚水式の俣野川発電所 120 万 kW 完成 9.18 本四公団，明石海峡大橋の橋桁閉合式．1998.4 開通 8.28 水資源公団，木曽川の最上流部に建設を進めていた多目的ロックフィル式の味噌川ダム完成．堤高 140m，堤頂高 446.9m，堤体積 6100 万 m³，総工事費 1610 億円 8.30 建設省・道路公団，広島呉道路 6.4km 開通により全長 15.9km が開通 8.27 阪神・淡路大震災で延長 2km にわたり最大 3m が陥没した淀川西島の堤防復旧工事完了．120 万 m³の地盤改良と 6 か所の階段護岸で親水性を高める	6.12 2005 年の万国博覧会，愛知県瀬戸市で開催決定 6.13 福岡空港でガルーダ航空の DC10 型機が離陸に失敗炎上，死者 3 人，負傷者 99 人 6.27 長野市で 350 万 m³の土砂崩壊で死者 26 人を出した地附山地すべり災害（1985.7）で長野県に 5 億 474 万円の支払いを命令 6.28 日本原子力発電，東海原子力発電所 16.6 万 kW を 1998.3 までに廃止と公表 6.15 霧の対馬海峡で貨物船同士が衝突．1 隻沈没，行方不明者 26 人 6.25 サウジアラビア東部のダーラン近郊にある米国空軍基地で爆破テロ．死者 19 人，負傷者 359 人 7.4 スリランカ・コロンボ北部ジャナフで自爆テロ，死者 21 人，負傷者 50 人 7.8 建設・運輸・通産・郵政・警察の 5 省庁，高度道路交通システム（ITS）を積極的に推進するため機能，今後 20 年間の開発目標など全計画を発表．道路の情報化にはインフラの整備を積極化し，国際的な開発を行うことの重要性を指摘 7.15 茨城県下館市で風速 50～60m の竜巻発生．家屋倒壊 200 棟 7.17 ニューヨーク発パリ行きの米国トランスワールド航空のボーイング 747 ジャンボ機がケネディ国際空港離陸後 30 分で大西洋に墜落．死者 228 人 7.19 米国アトランタで第 26 回夏季オリンピック大会（～8.4）日本・金 3，銀 6，銅 5 を獲得．27 日，市内中心でテロによる爆発事故，死者 1 人，負傷者 110 人 7.17 台風 6 号が九州を縦断，関東から西日本一帯で大雨．住宅被害 2400 棟，浸水家屋 900 棟，道路破壊 600 か所，農林水産被害 787 億円（～7.21） 8.11 宮城県北部と秋田県南部で M5.9 の地震，宮城県栗駒町で震度 5 を記録，鳴子町鬼首地区で道路陥没や民家崩壊 250 棟など 8.23 ラムサール条約締結国会議で新潟の佐潟が登録湿地に決定 8.26 秋雨前線で東北から九州まで豪雨，浸水家屋 1360 戸，崖崩れ 160 か所（～8.31） 9.1 北京～九竜間，2381km・202 駅の京九鉄道が深圳まで開通，北京西駅が開場（1997.7 以降は香港に乗り入れ） 9.1 環境管理・監査の国際規格 ISO14000 シリーズが発効 9.20 台風 17 号により関東～北日本で暴風と大雨．住宅被害 900 棟，浸水家屋 8600 棟，道路破壊 600 か所，堤防決壊 300 か所，船舶被害 60 隻，死者・行方不明者 11 人，農林水産被害 176 億円（～9.23） 9.27 台風 21 号により南西諸島南部で農水産物被害 1 億円（～10.1） 10.1 気象庁，震度 0～7 の震度段階のうち震度 5 と 6 をそれぞれ強・弱に 2 分割し，合計 10 段階とすることを公表 10.2 運輸省，宮崎港に 5 万トン級接岸可能な国際観光船埠頭を完成 10.4 東京新宿駅南口に複合商業施設タカシマヤ・タイムズスクエアが開場．14 階建ての本館と別館．総床面積は 17 万 5000 m²，新宿南口が様相を一変 11.3 欧州海岸考古学研究所，アレキサンドリア沖で 2000 年前の女王クレオパトラの王宮を含むエジプト・プトレマイオス朝の王宮跡を発見

1996（平成 8）年

土木一般	社会一般
8.31 北九州港に貯蔵船方式の白島石油備蓄基地完成 9.30 阪神高速神戸西宮線の深江～武庫川間 9.3km が 1 年 8 か月ぶりに復旧。月見山～武庫川間 27.7km が全通。東灘高架区間が 625m にわたり倒壊、首都高速など 1 本足橋脚の補強を促進。総工費は 2200 億円 9.30 大阪港広域臨海環境整備センター、六甲アイランド沖に 88ha、1500 万 m³ の廃棄物処分場の計画を発表 10.4 農水省、岩手県の北上川水系滝名川の山王海アースダム（1952.5）をロックフィル式に改装するため、堤高を 20m かさ上げ 61.5m の定礎式。完成 2001 年 10.17 道路公団、磐越自動車道・会津坂下 IC～西会津 IC 間 11.4km 開通。延長 167.6km となり福島側すべて完成 10.ー 神岡鉄道（第 3 セクター）・猪谷～奥飛弾温泉口間 19.9km 全通 10.ー 東海北陸自動車道・飛騨トンネル 10.7km 着工（恵那山トンネルに続く第 2 位） 11.1 建設省、道路橋示方書の耐震設計編を改訂 12.17 北海道開発局、2.10 崩落した豊浜トンネルを迂回する新豊浜トンネルを着工、完成は 2000 年度 12.6 長野県小谷村の蒲原沢で土石流発生。1995.7 の集中豪雨で大量の土砂が流入、砂防など復旧工事に当たっていた作業員 14 人が行方不明。労働省、危険予想箇所の立入り検査を実施。1997.1.27、1220 現場中 114 現場に改善命令 12.13 運輸省、第 7 次空港整備 5 か年計画、第 9 次港湾整備 5 か年計画（それぞれ 1996～2000）を決定 12.13 山梨県大月市の東京電力葛野川発電所ダム工事現場で土砂が崩落。死者 2 人 12.27 国土開発幹線自動車道審議会、全長 1 万 1520km の高速道路のうち 77% の整備計画区間を見直し、一部は昇格見送り 12.ー 文化庁、歴史的文化財登録制度第 1 回登録物件を決定。建築物・土木構造物・工作物を合わせ 119 件、土木構造物は旧舟木橋（三重県 1905）、旧国鉄佐賀線筑後川橋梁（福岡～佐賀 1935）、明治岡本井路（大分県 1921）、若宮井路笹無田石アーチ橋（大分県 1917）、今後年 1 回登録制度を実施、文化財指定により制限が緩やかで建造物を活用しながら保存可能 12.ー 北海道開発局、帯広市～音更町間の十勝川に PC 斜張橋の十勝大橋。24.1+251+24.1（m） 12.ー 沖縄開発庁、那覇空港自動車道に RC21 支間、支間長 39m の南風原高架橋 〔その他〕 ・全米ネットワーク自動車網インターステートハイウェイ 7 万 4000km 全通	11.12 インド・ニューデリー南西上空でサウジアラビア航空のボーイング 747 とカザフスタン航空のイリュージン 76 貨物機が衝突、両機の死者 350 人 11.23 エチオピア航空のボーイング 767 機がアジス・アベバで離陸後に乗っ取られ、インド洋コモロ沿岸の海上に墜落、死者 126 人 11.25 東急世田谷線、三軒茶屋駅に隣接し 26 階建てのキャロットタワー完成 12.1 東京都、23 区内の事業系ゴミを全面有料化、119 億円の収入と 14 万 t のごみ減量を予定 12.3 バリ地下鉄のポールロワイヤル駅でテロにより電車で仕掛けられた爆弾が爆発。死者 2 人、重軽傷 93 人 12.6 世界遺産委員会で広島原爆ドームと厳島神社が世界遺産に登録。原爆ドームに対し中国は態度保留、米国は黙認 12.6 長野県小谷村で降雨と雪解け水で自衛隊も出動した大規模な土石流が発生。死者・行方不明者 14 人 12.25 川崎市内の排気ガスと工場の排煙による大気汚染で健康被害を受けた川崎市内の公害病認定患者と遺族 401 人が、国・首都公団・東京電力・NKK など 14 企業・団体に汚染物質の差止め、損害賠償を求めた川崎公害訴訟（第 1～第 4）で原告住民側への謝罪と総額 30 億 9000 万円の支払い、公害対策を取ることで和解が成立 12.26 岡山県倉敷市の水島コンビナート付近に住む公害病認定患者 183 人が川崎製鉄など企業 8 社に対し、損害賠償と大気汚染物質の排出差止めを求めた倉敷公害訴訟で、企業側が総額 13 億 9000 万円の支払いと公害防止に協力することで和解が成立

1997（平成9）年

会長 宮崎 明 副会長 木村 孟, 栢原 英郎, 合田 良實, 土岐 憲三, 橋本 鋼太郎

会員数 33,502 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.24 全国大会参加費の改正, 2000 円から 3000 円の値上げに承認 1.24 日本学術会議第 17 期会員候補者の推薦, 災害工学研究連絡委員会では, 岡村甫 (東京大学), 榎木 亨 (大阪産業大学), 丹保 憲仁 (北海道大学), 松尾 稔 (名古屋大学), 基礎工学研究連絡委員会では, 尾坂 芳夫 (東北学院大学), 楠田 哲也 (九州大学) 1.24 土木学会学術文化募金からの助成 【特別型】国際委員会: 100 万円 【特別型】専務理事: 200 万円 【指定型】水理委員会: 80 万円 1.24 フィリピン土木学会 (PICE) との協力協定承認 3.21 「情報化検討特別委員会 (仮称)」 「土木構造物の耐震設計法特別委員会 (仮称)」について設置期間を 2 年間とすることで承認 3.21 経理規定及び役員候補者選考委員会内規の一部改正 3.21 就業規則の新設 (介護休暇制度) 4.25 土木学会学術文化事業規定の改正 4.25 社会資本問題研究委員会の解消 5.09 土木学会規則の一部改正 6.24 土木学会学術文化事業寄付受入承認 指定型 2 件 (計 869 万円) 9.26 土木学会学術文化事業への寄付金の受け入れについて承認 指定型 1 件 13,200,000 円 9.26 「定款改正委員会」を設置することを承認 9.26 機構創設検討委員会の設置承認 9.26 土木学会委員会規程の一部改正について承認 11.27 フェローの認定及び「土木学会フェロー制度に関する規定」の改定を承認	1.24 「土木博物館基本計画策定」の受託承認 1.24 蒲原沢土石流災害調査特別委員会の設置 1.ー プレライニング設計法検討部会の設置承認 3.21 「大規模地下空洞掘削挙動解析手法に関する研究」の受託承認 3.21 「シビルネットワークに関する研究」の受託承認 3.ー 限界状態設計法検討部会の設置承認 4.25 「四国地方の地震防災に関する研究」の受託承認 5.09 「四国における社会資本整備の進め方に関する調査研究」の受託承認 6.24 「高レベル廃棄物処分における処分技術の体系化に関する研究」の受託承認 6.24 「LNG 地下式貯槽耐震性能照査手法の適用性評価に関する研究」の受託承認 6.24 「建設施工現場における安全管理技術指針策定調査研究」の受託承認 6.24 「四国の高速道路の整備効果に関する研究」の受託承認 7.25 「「設計・施工技術の一体的活用方式」の公共工事への適用性に関する研究」の受託承認 7.25 「シールド工工事用標準セグメント」の第 3 回改正内容検討の受託承認 7.25 「中国地方における土木の今後のあり方に関する研究」の受託承認 7.25 ISO 対応特別委員会 (仮称) の設置承認 9.26 「ダム流入土砂の分級過程とそれに対応した効率的除去手法の研究」の受託承認 9.26 「リモートセンシングによる河道調査技術の検討」の受託承認 9.26 「扇状地河川における氾濫被害に関する研究」の受託承認 9.26 「土木建設システムの環境負荷削減の効果とその評価に関する研究」の受託承認 9.26 「SFRC を用いた RC 柱部材の設計方法の研究」の受託承認 9.26 「建設業国際貢献推進事業に係わる途上国現地交流実施」の受託承認 9.26 「流域管理における下水道のあり方に関する調査」の受託承認 11.27 「原子力発電所鉄筋コンクリート製地中構造物の耐震性能照査法の高度化研究」の受託承認	1.14～16 「東南アジア土木技術者会議」 2.3 「東南アジア土木技術者会議」東京準備会議 (ASCE4 名/PICE6 名/JSCE10 名) 2.3 フィリピン土木学会との協力協定締結 4.13～18 第 16 回海洋工学及び極地工学に関する国際会議 (共催) (横浜市) 4.25 次期会長のカナダ出張 5.24 大韓土木学会 金副会長 第 83 回通常総会に來会 9.11 大韓土木学会 柳 福暴会長 平成 9 年度全国大会に來会 10.6～8 「ASCE 全国大会」に宮崎会長, 三好専務理事, 石井理事, 富永, 花村, 日下部の各国際委員会委員を派遣 (アメリカ・ミネアポリス) 10.9 「第 1 回 アジア土木技術国際会議」実行委員会に石井理事, 三好専務理事, 富永, 日下部の各国際委員会委員を派遣 (アメリカ・ミネアポリス) 10.16～18 KSCE 大会 会長, 専務理事他, 挨拶 12.12 大韓土木学会建設マネジメント委員会委員 李 泰植, 來会講演

1997（平成9）年

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
	11.27 「アジア地域における人間活動、環境変化、社会・経済事象に関する調査研究」の受託を承認 11.27「海岸工学英文論文集（C E J）」の海外出版社との契約を承認	

1997（平成9）年

行事・集会（本部）

1.10 応用力学「乱流フォーラム」（講演数2題） 1.10 鋼構造の新技术に関する講演会（講演数5題）（東京都） 1.10 第26回定例談話会（課題：地方から見た公共投資） 1.17 地域シンポジウムー21世紀新首都建設への展望ー（つくば市） 1.17 第2回地下空間シンポジウム（講演数23題） 1.21～22 第12回環境工学連合講演会（共催）東京都 1.22 フォーラム「大震災の教訓を活かすために」（講演数4題，パネルディスカッション8名） 1.23 土壌・地下水汚染の現状と対策講習会（講演数9題） 1.23～24 阪神・淡路大震災に関する学術講演会（講演数86題） 1.27 環境システム委員会「地域シンポジウム」（21世紀新首都建設への展望） 1.27～29 第46回応用力学連合講演会（共催）東京都 1.30 風に関するシンポジウム（共催）東京都 1.30～31 第28回岩盤力学に関するシンポジウム（論文数11題，自由投稿67題）（東京都） 2.5 応用力学フォーラム（課題：予知技術の最前線） 2.7 第27回定例談話会 2.13 フォーラム「大震災の教訓を活かすために」（講演数4題，パネルディスカッション8名） 2.17 第35回原子力総合シンポジウム（共催）東京都 2.18 第15回施工体験発表会（発表数9題） 3.7 第28回定例談話会 3.13 安全問題研究委員会「安全問題討論会'97」（課題17題） 3.17～19 「環境バイオテクノロジーのための遺伝子操作技術」講習会 3.19 第9回アゲールシンポジウム（中央大学） 3.20 応用力学フォーラム（九州地区）（課題：防災と力学） 3.24 第10回環境システムシンポジウムー廃棄物を切り口とした環境システムー（東京都） 3.26 岩盤力学研究発表会（課題4題） 4.3～4 第43回構造工学シンポジウム（講演175題）（東京都） 4.10 第29回「定例懇話会」 4.18 「第7回新しい材料・工法・機械講習会（講演数6題）（東京都） 5.1 「コンクリートの寸法効果と引っ張り軟化曲線」講演会（講演7題） 5.8 第30回「定例懇話会」（課題 公共投資のあり方を考えるー東京の自治体から見た公共事業） 5.14～15 第1回鋼製橋脚の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム（講演数51題） 5.15 「第15回建設用ロボットに関する技術講習会（講演数6題）（東京都） 5.16 「工学教育」連合講演会 5.20 構造工学委員会講演会（講演数2題） 5.21 大規模地下空洞の情報化施工講習会（講演数8題） 5.23 自己充填コンクリートセミナー（東京都） 6.5 講習会「橋脚の耐震補強の現状と今後の動向」（講演数9題） 6.6 第33回「定例講演会」（課題 公共投資のあり方を考えるー経済学から見た公共投資） 6.6 応用力学フォーラム（第7回乱流フォーラム）（講演数2題） 6.6 「原子力発電所の立地多様化技術」講習会（講演数8題） 6.10～11 第3回河川の水利と河川環境に関するシンポジウム（講演数38題） 6.12～13 第17回土木史研究発表会（講演数63題） 6.20 海洋環境講演会 6.25～27 第22回海洋開発シンポジウム（講演数158題） 6.27 土木計画学ワンデイセミナー シリーズ9 「土木計画とパブリックインボルブメント」（講演数8題）

1997（平成9）年

行事・集会（本部）

- 7.2 土木計画学ワンデイセミナー シリーズ 10 「総合ターミナルとしての駅の整備計画」（講演数 7 題）
- 7.3 第 5 回地球環境シンポジウム（講演数 40 題）
- 7.3 一般公開シンポジウム（土木学会地球環境委員会）（講演数 5 題）
- 7.3～4 第 27 回 安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 7.3～4 混相流シンポジウム'97（共催）（北海道）
- 7.4 第 32 回「定例懇話会」（課題 公共投資のあり方—社会資本の整備を見直す視点）
- 7.9 「コンクリート構造の耐震設計」に関する講習会（講演数 8 題）（東京都）
- 7.15～16 第 6 回建設ロボットシンポジウム（共催）
- 7.17～18 「第 2 回水シンポジウム」（講演数 27 題）（神戸市）
- 7.20 なぎさ観察会（葉山海岸）を開催
- 7.22 土木計画学ワンデイセミナー シリーズ 11 「地域公共交通に明日はあるのか？—市場・計画・技術の新しいフレームを求めて—」（講演数 11 題）
- 7.24～26 第 33 回水工学に関する夏期研修会
- 7.24～26 「第 24 回地震工学研究発表会」（講演数 360 題）
- 7.28～30 サマースクールの実施（中学生対象東京大学）
- 7.28～30 鉄道技術連合シンポジウム J—RAIL'97（共催）
- 7.30～31 第 1 回耐震補強・補強技術、耐震診断に関するシンポジウム（講演数 31 題）
- 8.1 構成モデル小委員会報告会（東京都）を実施
- 8.4～5 第 5 回水資源に関するシンポジウム（共催）（特別講演 2 題，基調講演 6 題，一般講演 126 題）
- 8.8～28 産業技術歴史展テクノフェスタ 21
- 8.21～22 第 31 回夏期講習会・見学会
- 8.22 「土木建設業における環境管理と環境負荷評価」—ISO 14000S 導入に向けて—講習会
- 8.29 第 11 回最新施工技術講演会（講演数 9 題）（東京都）
- 9.4～5 第 32 回土木計画学シンポジウム「阪神・淡路大震災に学ぶ — 土木計画学からのアプローチ —」（特別講演 1 題，基調講演 1 題，一般講演 103 題）
- 9.5 第 33 回「定例懇話会」（課題 公共投資のあり方を考える—大競争時代における国土づくり）
- 9.10～12 第 52 回年次学術講演会（講演 3518 題）
- 10.1 応用力学フォーラム（第 8 回乱流フォーラム）（講演数 2 題）
- 10.3 見学会「滝里発電所 TBM 工事（北海道電力）」実施
- 10.3 第 34 回「定例懇話会」（課題 公共投資のあり方を考える—欧州の評価システム）
- 10.17 応用力学フォーラム（北海道地区）（課題 2 題）
- 10.22 レベル 2 地震動と設計地震荷重の課題 —地震荷重研究小委員会の活動報告—
- 10.22～23 第 25 回環境システム環境論文発表会（講演数 41 題 アブストラクト 56 件）
- 10.27 コンクリートのクリープ収縮に関するワークショップ（講演数 5 題）（東京都）
- 10.27 第 4 回 界面シンポジウム（共催）
- 10.28～29 第 22 回土木情報システムシンポジウム（講演数 87 題）
- 10.29 構造工学委員会講演会（講演数 2 題）
- 10.30 複合構造設計施工指針（案）と最新の複合構造の技術に関する講習会（講演数 8 題）
- 10.30～31 橋梁振動コロキウム' 97（講演数 34 題）
- 10.30～31 見学会「温井ダム建設工事現場（建設省中国地方建設局）見学と現地委員会
- 10.30～31 キャビテーションに関するシンポジウム（第 9 回）（共催）
- 11.1～3 第 20 回土木計画学研究発表会（講演数 357 題）
- 11.6～7 見学会「温井ダム（中部地方建設局）」実施
- 11.6～7 見学会「温井ダム建設工事現場（建設省中国地方建設局）見学と現地委員会
- 11.6～7 見学会「山王トンネル建設現場」を実施
- 11.10 ESTUARINE ENGINEERING 第 3 回公開フォーラム（講演数 5 題）
- 11.11 レベル 2 地震動と設計地震荷重の課題
- 11.11～13 第 44 回海岸工学講演会（講演数 260 題）
- 11.12 第 35 回「定例懇話会」（課題 公共投資のあり方を考える—テーマ総括）
- 11.13 複合構造設計施工指針（案）と最新の複合構造の技術に関する講習会（講演数 8 題）
- 11.13～14 第 7 回トンネル工学研究発表会（講演数 75 題）
- 11.14 日本工学会 公開講演会（共催）
- 11.14～15 ジョイントシンポジウム（講演数 13 題）
- 11.17 第 33 回土木計画学シンポジウム「レールと共に歩んできた日本の都市，そしてその明日は?!」（講演数 11 題）
- 11.21 コンクリート教育に関するシンポジウム（委員会報告 3 題，一般講演数 14 題）

1997（平成9）年

行事・集会（本部）

- 11.25 原子力土木委員会 新立地部会講演会（講演数 1 題）
- 11.26～28 第 34 回環境工学研究フォーラム（講演数 43 題）
- 12.2 「コンクリート構造物の腐食・防食および補修」に関する講習会（講演数 12 題）
- 12.9 土木計画ワンデイセミナー シリーズ 12「福祉のまちづくりの哲学と設計思想」（講演数 6 題）
- 12.11 フライアッシュコンクリートシンポジウム（一般講演数 18, 報告 3 題）
- 12.11～12 第 5 回システム最適化に関する研究発表討論会（講演数 43 題）
- 12.16 第 2 回鉄道力学シンポジウム（講演数 11 題）
- 12.16 RC・PC 構造物の設計に関する現状と今後の展望 ―RC・PC 部会報告会―（講演数 15 題）
- 12.19 第 2 回舗装工学講演会（講演数 32 題）

1997（平成9）年

支部の動き

北海道支部

- 11.18 支部創立 60 周年記念事業「記念式典」「記念講演会」（岩盤の破壊現象とその予知）
- 12.11 講習会「複合構造設計施工指針（案）と最新の複合構造物の技術」（講演数 8 題）
- 「土木の日」行事
- 10.25 見学会（小・中・高教諭対象）（樽前山火山砂防施工現場他 1 ヶ所）
- 10.28 見学会（一般市民対象）（二風谷ダム他 1 ヶ所）
- 11.18～24 「小学生の土木の絵」図画コンクール展（展示数 76 点, 応募数 879 点）
- 11.18 講演会（支部 60 周年記念事業と併せて開催）
- 11.18 映画会（支部 60 周年記念事業と併せて開催）

東北支部

- 1.14 支部運営会議
- 3.14 平成 8 年度技術研究発表会
- 11.10 土木学会東北支部設立 60 周年記念事業「記念式典」, 「記念講演会」, 「功労者表彰」
- 12.8 コンクリートライブラリー複合構造設計指針（案）講習会
- 「土木の日」行事
- 8.23～24 ランドアート' 97
- 9.7 市民見学会（JR 仙石線地下化工事, 国際ゆめ交流博覧会一建設ドーム）
- 10.25～26 土木の日フェスティバル' 97
- 10.13 「土木の日講演会」「橋」あれこれ
- 10.21 高速道路の交通安全シンポジウム 記念講演「中島流, 交通安全のすすめ」, 基調講演「高速道路の交通安全」, パネルディスカッション「高速道路における道路交通安全を目指して」
- 11.27 高速利活用シンポジウム「東北ハイウェイ新時代への期待」～地域づくりと高速道路～ 基調講演「高速道路の役割」, パネルディスカッション「東北ハイウェイ時代」

関東支部

- 2.25 講習会 第 8 回「土木技術者に求められる素質と素養」
- 3.12～13 第 24 回 技術研究発表会
- 3.12 懇親会
- 3.13 講演会「大谷石採石場跡地の陥没について」講演 2 題
- 7.8 第 1 回映画会「来島大橋主塔建設」, 「21 世紀の公園をめざして」
- 8.30 第 3 回土木系学生によるコンクリートカヌー大会
- 10.14～16 新技術フェア関東' 97
- 「土木の日」行事
- 10 月～12 月 第 1 回見学会（研究所見学会（各企業体と共催））
- 11.20 第 2 回見学会（山梨リニア実験線, 一般国道 140 号線雁坂トンネル）

中部支部

- 1.20 技術講座「土木学会中部支部第 1 回技術講座」講演 6 題
- 3.7 発表会「土木学会中部支部研究発表会」講演 421 題
- 5.14 第 1 回講演会（講演数 2 題）

1997（平成9）年

支部の動き

- 5.15 見学会「能越自動車道建設事業,千里浜渚ドライブウェイ,金沢西部土地区画整理事業」
- 6.2 留学生交歓会（訪問先：HSST 実験線,名港三大橋 懇親会：KKR 名古屋三の丸）
- 9.1 第1回技術講座「タンカー事故に伴う重油流出事故の教訓と課題」（講演数6題）
- 9.2 第1回特別講演会「北京市の交通問題について」（講演数1題）
- 10.20 第2回技術講座「21世紀の環伊勢湾圏を拓く」ー環伊勢湾圏の大プロジェクトー（講演数6題）
- 12.2 第3回技術講座「土木構造物の耐震・免震技術の現状と将来の展望」（講演数6題）
- 12.4 第2回特別講演会「地すべり津波の実態と発生機構について」（講演数1題）
- 12.16 第2回講演会（講演と懇談の会）
- 12.22 講習会「複合構造設計施工指針（案）と最新の複合構造の技術」
- 「土木の日」行事
- 11.18 「パネル写真展」
- 11.22 市民見学会（コース1:オリンピックを迎える舞台を見よう,コース2:山から海までの公共施設を求めて,コース3:愛知万博・文化の地・21世紀の地を訪ねて）
- 11.22 地震を体験してみよう

関西支部

- 1.17 新春講演会 講演4題
- 3.4 会員対象見学会 講演1題
- 5.24 支部年次学術講演会（発表数531題）
- 5.19～6.19 学生映画会（土木関連記録映画）（上映数2本）
- 5.21 海外派遣報告会
- 6.21 古代ミュージカル（天日槍）
- 8.29 道路橋の補修・補強に関する講習会（講演数12題）
- 9.20 70周年記念シンポジウム「わが町の防災はこう変わった」
- 9.30 比抵抗高密度探査に基づく地盤評価に関する講習会（講演数10題）
- 10.7. 8 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会（講演数14題）
- 11.19 高専学生対象講演会（講演数2題）
- 「土木の日」行事
- 8.22 小中高生対象見学会「いろいろな橋を訪ね,土木の世界をのぞいてみよう！」
- 10.26 地方見学会（福井県）「美しいたくましい福井」を目指す土木事業ウォッチング！（小和清水トンネル建設工事,勝山橋架替工事,九頭竜川鳴鹿大堰建設,福井駅立体交差事業）
- 11.8 市民対象見学会「我が町の土木発見」
- 11.15 土木の日開始式「忘れないであの時のこと」～震災の体験を通じて学ぶ生活と土木～（講演数1題）
- 12.14 土木の日特別行事「見つけよう歴史の足跡」～歴史に見る生活の中の土木～土木遺産調査隊コンテスト～（講演32題）

中国支部

- 1.27 環境と耐震に関する新技術講演会 講演2題
- 5.31～6.1 平成9年度支部研究発表会（講演数370題）
- 5.31 研究発表会における特別講演会（講演数1題）
- 8.7 現地見学会
- 8.9 親子見学会
- 10.11 一般向け講習会「環境保全とクリーンエネルギー開発への取り組み」
- 10.14 工事見学会
- 12.10 土木フォーラム「21世紀の橋梁技術の課題」
- 「土木の日」行事
- 10.1～11.28 土木ふれあい見学会他
- 10.23～25 みる・きく・ふれる建設技術フェア
- 10.25～26 子供ミニ土木博（福山大学）
- 11.2～3 よりよい生活環境を創造する「どぼく」
- 11.2 のぞいてみよう土木夢発見
- 11.2 子供ミニ土木博（広島大学）
- 11.8 土木と触れ合おう（安芸灘大橋親子見学）
- 11.9 子供ミニ土木博（広島工業大学）

1997（平成9）年

支部の動き

四国支部

1.20 講演と懇談の会

1.22 工事見学会

5.24 第3回技術研究発表会（一般発表190題,フォーラム2件）

6.2 第1回技術報告会「名橋の誕生と維持管理－三好川・穴吹橋・吉野川橋架橋から70年－」

6.12 大型ブロック積み擁壁の設計法と開発の現状

6.26 土のせん断特性と強度定数

7.8 土圧と地盤の変形

7.11 第2回技術報告会「公共土木デザインにおけるコラボレーション－水辺の環境デザインから－」

8.8 四国の地震防災に関するシンポジウム

8.22 四国の地震防災に関するシンポジウム「四国の地震と活断層」,「四国に被害をもたらした地震・津波」,「地震動予測と橋梁の被害」,「四国の都市域の液状化被害予測」,「四国の地震防災計画の概要」

8.24 第1回一般市民対象講演会「淡路のまちづくりを考えるシンポジウム－震災・復興・そして未来－」

8.29 技術交流会

9.19 河川水理学

9.26 河川の機能－治水,利水,環境－

10.24 工事見学会

10.28 学術講演会「愛媛県の砂防事業について」,「松山市役所前地下駐車場の整備について」,「JH 日本道路公団の事業概要ならびに最近の技術的話題について」

11.5 構造力学の基礎

11.8 最新の土木技術に関するセミナー「人工衛星による地球環境観測,橋梁の歴史と最新技術」

11.12 水理学・河川工学の基礎

11.19 土木材料学の基礎

11.26 土質力学の基礎

11.29 第3回技術報告会「橋湾発電所建設現場見学と講演会」

12.3 都市・交通計画の基礎

12.10 衛生工学の基礎

6月,7月,9月,11月 土木設計のための基礎理論講習会

西部支部

1.20 「連続繊維補強材を用いたコンクリート構造物の設計・施工指針（安）」

2.14 技術発表会 講演6題

3.21 研究発表会 講演521題

3.21 講演会「南半球から見た逆さまな日本」講演1題

5.13 特別講演会（講演数1題）

7.30 講演と懇談の会（講演数2題）

8.7 現場見学会（香椎パークポート,アイランドシティ）

10.7 現場見学会（玄海原子力発電所他）

10.23～31 第9回土木学会西部支部「海外研修」

11.18 現場見学会（鳴淵ダム,猪野ダム）

11.27 複合設計施工指針（案）と最新の複合構造の技術

12.12 「コンクリート構造物の品質保証」講習会

●「土木の日」行事

福岡地区

11.23 親子で博多湾クルージング（博多湾1周（香椎パークポート,海の中道,百道地区他））

11.18～19 パネル展（全国および福岡地区の土木プロジェクトの紹介）

北九州地区

11.18 土木に関する勉強会（小学生）

11.23 土木フェア in 北九州'97（建設機械展示,パネル展,土木に関するゲーム）

佐賀地区

10.25 低平地防災市民フォーラム（佐賀・低平地の災害と防災を考える）

11.15～24 土木フェア in SAGA タッチ・ザ・土木館（ふれてごらん土木のパワーと優しさに...）

11.15 バルーンフェスタ（熱気球世界選手権）

1997（平成9）年

支部の動き

長崎地区

11.15～16 浜町パネル展（出島資料展示,パネル・模型展示,ビデオ放映,NBC ラジオ実況中継）

11.15 長崎港クルージング（観光船「ぐらばあ」に乗って,女神大橋建設現場を含む長崎港内のクルージング）

11.16 長崎県内土木見学会（・県内各地の土木現場を見学 ・長崎港では,外輪船「ワーペン・ファン・フォールン」でのクルージング）

熊本地区

＊小学生による土木の絵コンクール

11.13 親子でふれあう土木バスツアー（A コース：のぞいてみよう熊本の土木とくらし B コース：熊本県の土木遺構めぐり）

11.13 土木とくらしのゼミナール（熊本の災害と防災－災害対策の在り方を問う－）（基調講演 2 題,パネルディスカッション）

11.15 （土・木）2 Touch the DOBOKU フェア（・熊本の災害と防災－その時あなたははどうする－ ・災害と防災に関するテーマ別展示 ・重機試乗,重機との綱引き,パフォーマンス）

大分地区

10.9 道路工事現場研修（R10 号波津久橋,犬飼バイパス）

10.31 道路工事現場研修（R10 号波津久橋,犬飼バイパス,桑の原トンネル）

11.1～2 土木施設の重要性や建設省事業の PR（第 5 回九州かつぱサミット関連行事）

11.9 山国川憩いの川めぐり

11.12 ダム・堰見学会

11.15 土木映画会「黒部の太陽」上映

11.16 女性（親子）と土木のふれあい見学会（米良 IC～スポーツ公園～九州電力大分発電所～新日鐵大分製鉄所～田ノ浦海岸）

11.18 河川工事と自然環境の学習会

11.26 公共事業見学会（大野川防災ステーション,宮河内 IC）

宮崎地区

11.17～22 パネル展（災害写真と復旧施工写真を展示）

11.18 街頭 PR,テレビとラジオによる広報

11.22 現場見学会（建設機械展示と土木に関するクイズ）

日南地区

9.24 絵画の募集（小学校,中学校児童を対象とした絵画を募集）

11.1～30 土木工事写真パネル展（土木工事の流れを紹介する写真パネル展）

11.16 土木ふれあい祭り（募集した絵画の表彰並びに展示,バザービンゴ大会,盆栽作成）

串間地区

11.2 パネル展,バザー,アートギャラリー（土木の日パネル展示（災害危険箇所,災害状況写真）,バザー,ミニ盆栽等）

都城地区

11.8 現場見学会（ウェルネス浄化センター）

11.4～12.2 パネル写真展（・道路工事や河川工事等で使用する建設機械の紹介をする ・建設機械のいろいろ）

小林地区

11.23 「土木の日」イベント（管内土木施設パネル展,建設および測量機器展示,盆栽教室）

高岡地区

11.8 建設機械展示,パネル展示（建設機械の展示及び実演,構造物および災害状況写真の展示等）

西都地区

11.18 街頭 PR（PR パンプ,花の苗配布）

11.22 土木の日' 97 in SAITO （パネル展,スポーツ少年団対抗ドッジボール大会）

高鍋地区

11.17～20 街頭 PR（花の種やリーフパンフレットを配布）

11.22 ふれあい土木広場（パネル展示,チャリティーバザー,建設機械展示試乗会等）

日向地区

11.18 土木の日イベント（日向地区全体の合同セレモニーを開催し,ダンプカーによる街頭パレードを行う.リーフレット,ふれあいマップを配布した PR 活動.寿屋前,ホームワイド前）

延岡地区

10.25～26 「土木の日」 in のぼりざるフェスタ（PR 活動,北五ヶ瀬川河川敷）

11.12～18 パネル展（市役所ロビーでのパネル展示,延岡工業高校他）

11.9 土木施設見学会（延岡工業高校教師,生徒による土木施設見学）

西臼杵地区

11.16 土木の日フェスティバル（現場見学会,パネル展,子供絵画,習字展等）

1997（平成9）年

支部の動き

鹿児島地区
10.30 現場見学会（工業系高校生,一般）
11.18～23 パネル展示
11.21 現場見学会（工業系高校生,一般）南九州西回り自走車道・鹿児島港新港区橋梁工事現場見学
11.26 記念講演会「雲仙災害の教訓と公共事業のあり方」,「薩摩義士と土木の心」
11.30 '97 土木フェスタ in Kagoshima（建設機械展示コーナー,出展団体テントコーナー,ステージイベント,各種アトラクション）
11.30 現場見学会（工業系高校生,一般）南九州西回り自走車道工事現場・川内原子力発電所見学
11.30 行事開催記録誌の発行
大隈地区
11.18 '97 土木フェスタ in Kanoya（展示,ゲーム,アトラクション）
沖縄地区
10.17～19 やんばるの産業まつり（土木建築展）（官公庁コーナーにパネルを出展し,ダム事業・水資源開発,道路行政事業および公園整備事業に関する PR 活動を実施）
10.31 ダム建設を知る小学生の集い（ダム模型作り,赤土土砂沈降実験,自然観察,現場見学）
11.17～21 パネル展（土木に関するパネル・模型の PR 展示）
11.22 「南風原道路」見学会
11.23 建設フェア'97（公共コーナーにおいて,パネル・模型・ビデオの展示等で「土木の日」の PR を実施）
12.3 シンポジウム「沖縄の土木技術を世界に発信しよう」講演「沖縄の石造文化と技術」,「沖縄における建設技術の向上と産業の振興」 パネルディスカッション「沖縄振興における建設技術の役割」

1997（平成9）年

土木一般	社会一般
1ー 建設省, 1997 年度のダム事業のうち 4 ダム（直轄 2, 補助 2）を中止, 1996 年度までの投入額 56 億円	1.2 島根県沖の日本海でロシアのタンカーが沈没. 250km にわたり重油流出, 県内外から 4 万 1000 人が参加し油の除去に協力. 以後日本海沿岸各地に被害
2.13 建設省, 渡良瀬遊水池総合開発事業 2 期工事, 一時凍結を決定	1.4 インドの西ベンガル州の地下水ヒ素汚染で 44 万人を超す住民がヒ素で汚染された地下水を使い 20 万人余りが発病
2.21 道路公団四国縦貫松山自動車道・川内～伊予間 21.9km 開通, 大洲市～徳島市 223km の同道は 61%が開通(1988.5～)	1.9 ナイル川の水で砂漠を緑化するニューバレー運河事業計画がアスワンハイダム上流トシュカで起工式
2.3 東京新橋の旧国鉄汐留跡地 3723 億円で落札	1.13 韓国済州島沖で長崎市の漁船とパナマ船籍の貨物船が衝突沈没, 行方不明 10 人
3.8 関西文化学術研究都市と神戸, 三田方面を結ぶ JR 東西線の京都～尼崎間 12.5km 開通	2.4 イラン北東部に M6.8 の地震.倒壊家屋 5000 棟, 死者 88 人, 負傷者 2000 人.
3.15 道路公団, 中国横断自動車道・岡山総社 ICー北房 JCT 間 40.6km 開通, 岡山県内の横断道が全通. 鳥取県, 高知県が瀬戸大橋をへて一本の高速道路で連結	2.17 三井石炭鉱業三池鉱業所, 3.30 閉山と決定
3.22 新潟県西部の信越本線・犀潟～上越線・六日町間 59.5km を結ぶ北越急行ほくほく線(第 3 セクター)全通. 越後湯沢で上越新幹線と連絡	2.24 大阪市など, 大阪市西区に建設中の大阪ドームが開場. 天井高さ 72m, 収容人員 5 万 5000 人は国内最大
3.22 在来線を拡幅し秋田新幹線こまち開業. 3 時間 49 分で東京～秋田間 663km を連絡	2.28 イラン北西部で M6.1 の地震. 倒壊家屋 1 万 5000 棟, 死者 965 人, 負傷者 2600 人
3.27 東京国際空港の新滑走路 3000m 完成. 供用開始	2.28 パキスタンで M7.3 の地震. シビ市などで死者 60 人以上, 負傷者 200 人
3.28 神戸市・運輸省, 阪神・淡路大震災で被災した神戸港 170 公共岸壁の修復工事完了. 事業費 5700 億円	3.3 伊豆半島東方沖で群発地震 440 回（～3.10）
4.1 雲仙普賢岳の噴火災害で一部普通となっていた島原鉄道 78.5km が 4 年ぶりに全線開通	3.12 名古屋市東区に国内 4 番目の屋根つきスタジアム・ナゴヤドーム開場
4.3 宮崎から移転した山梨リニア実験線・都留市～大月市間 18.4km が開通	3.16 愛知県東部で M5.6 の地震. 東海道新幹線の三島～京都間の上下 20 本が運休, 東名高速・静岡～豊田間も一時通行止め.
4.4 政府, 公共工事コストを 1997 年度から 3 年間で 10%以上軽減, 6 月には 1998 年度を前年比 7%以上軽減することを決定	3.26 鹿児島県北西部に M6.2 の地震. 阿久根市, 川内市で震度 5, 落石など重軽傷者 22 人
4.11 厚生省, 1156 施設のゴミ焼却施設の排出基準を公表.72 カ所から基準を越えるダイオキシンを発見	4.1 政府, 消費税を 3%から 5%に引上げ.
	4.1 高知県, 第 3 セクターの私立高知工科大学を土佐山田町に設立.
	4, 3 鹿児島県北西部に M5.5 の地震, 崖崩れ 24 カ所, 道路損壊 7 カ所

1997（平成9）年

土木一般	社会一般
4.14 農水省，長崎県諫早湾干拓工事で潮受け堤防 7km のうち開口部 1.2km を締め切り．塔奥は 70 日で洪水化．3000ha の干拓と生物が消滅 4.21 道路公団，川崎市～木更津市間 15.1km の東京湾横断道路のうち川崎側のシールドトンネル部分 6.9km 直径 13.9m の貫通式 4.29 建設省，品質管理・保証の国際基準 ISO9000 シリーズを直轄土木工事 11 件で新たに導入することを決定 5ー 香港チェクラブコップ空港暫定開港．ランタオ島の空港と香港島間は 2 層併用道路・鉄道橋で連結．滑走路 3800m 5ー 韓国の仁川に金浦空港の代替えとしてソウル・メトロポリタン空港開港．滑走路 4000m 6.3 京都市営地下鉄烏丸線・国際会館～竹田間 13.7km 全通．竹田で近鉄京都線と相互乗り入れ． 6.9 建設工事が環境に与える影響を事前に調べる環境アセスメント法が成立．従末の 11 対象のほか林道，鉄道，発電所を加える．1983 年に廃案後復活 7.1 建設省，栃木・群馬・茨城・埼玉にまたがる渡良瀬遊水池第 3 調整池建設完了．総貯水量 1 億 8000 万 t となる 7.2 東京電力，柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 35 万 6000kW 完成し全事業完了．総出力 821 万 2000kW は世界最大出力 7.10 建設省 8 地方建設局，地域特性を反映したコスト削減の具体策を発表 7.15 千葉県，土壤汚染防止の観点から建設残土を規制する残土条例を 1998.1 より施行 7.15 道路公団，12 月開通の東京湾横断道路の通行料金 5050 円を当初 5 年間は 4000 円とする方針，本四公団も本四道路 2 ルートを予定より 20%程度値下げの予定 7.23 道路公団，秋田自動車道・酒田～北上西間 21.6km 開通，秋田市が東北自動車道と接続．東北 6 県の県庁所在地と東京が高速道路で結ばれる． 7.25 九州電力，玄海原子力発電所 4 号機 118 万 kW 完成，出力合計 347 万 8000kW で完了 7ー 東急目黒線目黒地下鉄駅完成(1992～)，乗入れ工事続行 7ー 北京西～九竜間 2381km の京九鉄道，香港に乘入れ． 7ー 電源開発・九州電力，長崎県に海外石炭専用の松浦火力発電所 270 万 kW で完了（九州電力 70 万 kW） 8.10 北海道静内町の道道静内中札内線で建設中の 11 号橋の橋桁が落下，死者 1 名，重軽傷 3 人 8.25 北海道開発局発注，北海道島牧村の国道 229 号第 2 白糸トンネルの南側抗口付近で崖の岩盤 2 万 m³ が崩れ延長 100m にわたり岩塊・土砂が堆積．28 日，3800m が崩落 8.26 建設省，全国 379 のダム事業を総点検，6 カ所を中止，12 カ所を休止することを決定．投資予算は両者で 207 億円 8.26 大阪市営地下鉄長堀～鶴見緑地・大正～門真間 15.1km 全通 10.1 長野新幹線・高崎～長野間 125.7km 開通，信越本線・横川～軽井沢間廃線．軽井沢～篠ノ井間は第 3 セクターしなの鉄道． 10.1 高知県中村市と宿毛市を結ぶ（第 3 セクター）土佐くろしお鉄道宿毛線 23.6km 開通 10.1 道路公団，磐越自動車道・西会津～津川間 22.4 km 開通．福島県いわき市～新潟市間 213km 全通 10.12 京都市営地下鉄東西線・二条～醍醐間 12.7km 開通．工費は高騰し 4658 億円（1990.1～）醍醐～六地藏間は 2004.4.11 全通． 10.16 道路公団，上越自動車道・信州中野～中郷間 38km 全通．全長 203km のうち 90%開通	4.14 動燃事業団，3.11 東海事業所の火災による爆発事故に続き，敦賀の新型転送原子炉ふげんで放射能もれ 5.10 イラン東部に M7.3 の地震．断層ずれの幅は 2m で，死者 2400 人，負傷者 6000 人 5.13 鹿児島県北西部に M6.2 の地震．住宅 4847 棟に被害，負傷者 43 人．ダム，河川に亀裂，崖崩れなど 5.21 大阪市中央区に国内最大級の地下街・クリスタ長堀開場 5.26 鹿児島県国分寺市の上野原遺跡から縄文早期最古級の集落跡を発見と発表 6.25 山口県北部に M6.1 の地震，島根県益田市で震度 5 6.27 長野地裁，1985.7 の長野市地附山地滑り被害で老人ホーム生活者 26 人が死亡した事件で長野県に対し総額 5 億円の支払いを命令． 7.1 香港，150 年ぶり英国から中国に対する返還式開催 7.3 活断な梅雨前線により北海道～九州で豪雨，浸水家屋 7700 棟，道路損壊 500 カ所，崖崩れ 800 カ所，死者 25 人（～7.19） 7.9 ベネズエラの沿岸で M6.9 の地震．クマナ市などで死者 76 人 7.10 鹿児島県出水市の針原川で 15 万 m³ の土石流が流出．針原部落 16 世帯 41 人のうち死者 21 人．10.25 まで 45 世帯 125 人が避難生活 7.12 JR 西日本など美観論争を呼んだ京都駅ビル竣工．高さ 60m，幅 400m．ホテル・劇場・デパートなどを併設，総工費 1500 億円 7.21 宮城県の仙台空港に新ターミナルビル開場 7.25 台風 9 号により東北南部より九州で強風と雨．浸水家屋 800 棟，道路損壊 600 カ所，堤防決壊 200 カ所など．（～7.31） 7.29 熊本県，41 年ぶりに水俣港の安全を宣言し 21 年ぶり漁場が復活 8.6 ソウル発グアム島行きの大韓航空ボーイング 747，グアム島の丘陵に墜落，254 人の乗客のうち 27 人を救出 8.20 カラコルム山脈で神奈川ヒマラヤ登山隊が雪崩で遭難，死者 5 人，負傷者 5 人 9.5 2004 年夏期オリンピック大会，108 年ぶりにアテネ開催に決定 9.12 近畿より九州に台風 19 号豪雨．浸水家屋 1 万 6000 戸，道路損壊 1400 カ所，崖崩れ 400 カ所，堤防決壊 100 カ所．死者 12 人，農林水産被害 403 億円 9.26 イタリア中部のアッシジ・ペルージャ付近で M5.5，M5.9 の地震．2 つの地震で倒壊家屋 5000 棟，死者 10 人 9.26 インドネシア・スマトラ島北部メダン付近でガルーダ航空 A300 が墜落，死者 234 人 10.1 盛岡市，国史跡の志波城(803)の外郭南門と築地塀など城柵の復元工事が完成．政庁跡など全体完成は 2003 年の予定 10.1 千葉県，千葉市美浜区に幕張メッセ新館を開場，総展示面積 7 万 2000 m² となる． 10.1 福岡市中央区天神の西日本鉄道福岡駅ターミナルビルに福岡三越 3 万 8000 m² 開場 10.17 文化財保護審議会，構造物 8 件(1 件は国宝)を重要文化財に指定するよう答申．土木構造物では，旧横浜船渠会社第 2 号ドック（1896，MM 2 1 内），熊本県本渡市の石桁橋・祇園橋(1832)の 2 件．その他，86 件の建造物を登録文化財とするよう答申，土木構造物は 5 件 10.28 中国河南省の洛陽付近の黄河の小浪底ダム(高さ 158m，最大幅 1667km)建設のため黄河が初めて堰き止められる．

1997（平成9）年

土木一般	社会一般
10.30 道路公団，東北横断自動車道酒田線・庄内あさひ～酒田間 31.3km 開通。158km のうち庄内あさひ～寒河江間を残すのみ。 10.一 運輸省，港湾施設の耐震基準を改正。1998 年に港湾設計の技術上の設計の基準の改定を予定 11.1 中部電力，三重県に日本最大火力の川越火力発電所(LNG) 480 万 2000kW 完成 11.3 道路公団，秋田自動車道・秋田南～男鹿半島間 25.7km 開通。秋田市～岩手県北上市間 133km 全通 11.10 道路公団，東海北陸自動車道・郡上八幡～白鳥間 16.6km 開通 11.27 熊本県阿浦町と牛深市にまたがる 140ha の国営羊角湾干拓事業，28 年ぶりに事実上の中止 12.1 河川法の改正に伴い，河川施工法，河川管理施設等構造令が改正，施行。樹林帯の設置，魚道の位置付けなど明確化。 12.3 行政改革会議，現在の 1 府 21 省を 1 府 12 省に再編する案を答申，建設・運輸・国土・北海道開発の省が合併して国土交通省，環境庁が省に昇格。2001 年実施 12.3 道路公団，旧四国横断自動車道（徳島自動車道）脇町～美馬間 11.5km 開通。延長 95km のうち 52.7km 開通 12.5 農水省，公共事業の再評価システムを検討，農林ダム 15 カ所，干拓 2 カ所を中止，運輸省は 8 カ所の地方港湾工事を中止。 12.6 建設省・道路公団，中部横断自動車の安房トンネル 4.37km を完成 12.10 道路公団，神戸～山口間の山陽自動車道 419km，23 年ぶりに全通 12.15 建設省，道路公団に対し高速道路 23 区間 14 路線，合計 333km の施工命令，総工費 2 兆 4500 億円 12.18 東京湾横断道路会社，川崎市～木更津市間 15.1km をトンネル，人工島，連絡橋で結ぶアクアライン開通。延長 9.54km，上下 4 車線の自動車海底トンネルは世界最長。総事業費 1 兆 4823 億円。運用は道路公団 12.18 熊本県，天草の牛深漁港内に橋長 883m の連続鋼床版橋・牛深ハイヤ橋（設計：R.ピアノ）	11.1 建築家・安藤忠雄，大学の専門教育を受けていない異例の人物として，東大工学部建築学科教授に就任 11.3 第 59 回文化勲章に小柴昌俊，宇沢弘文ら 5 人受賞 11.8 三峡ダム工事で長江が堰き止められる。 11.8 チベット高原で M7.9 の地震，規模は大きいが無人数地帯のため被害なし。 11.17 エジプト南部のルクソールでイスラム過激派のテロ。日本人観光客を含め死者 10 人 12.1 地球温暖化防止京都会議開催，参加 161 カ国の 1 万人が参加，12.11 京都議定書採択 12.5 カムチャッカ半島付近で M7.6 の地震 12.24 JR 東海リニアモーターカー，都留～大月間の実験走行で世界新記録 550km を達成(無人)

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

1998（平成 10）年

会長 岡田 宏 副会長 栢原 英郎, 合田 良實, 土岐 憲三, 橋本 鋼太郎, 道上 正規

会員数 33,218 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.23 土木学会学術振興基金規程について承認 1.23 「アジア土木技術国際会議」に対する寄付金受け入れについて承認 3.20 土木学会「学術文化事業特別会計」への寄付金受け入れを承認 3.20 定款の改正について文部省との相談を開始することを承認 3.20 海外活動委員会の解散を承認 3.20 学会規則等改正検討特別委員会の設置を承認 3.20 中部支部からの募金に関する依頼について承認 4.24 理事会技術推進部門の創設案を承認 4.24 企画調整委員会を企画委員会に名称変更することを承認 4.24 大学土木教育委員会,安全問題研究会,地震工学委員会の各内規変更を承認 4.24 土木図書館フィルムライブラリー「フィルム貸出規程」改正について承認 4.24 土木学会学術文化事業の助成について承認 5.8 技術推進部門の構成と関連委員会の設置について承認 5.8 土木学会倫理規定制定委員会の設置について承認,合わせて委員長を高橋裕東京大学名誉教授に委嘱することを承認 5.8 事務局「国際室」設置と関連規程の改正(案)について承認 5.8 「JSCE～土木学会改革策～1998 年版」報告書を会員への周知のために,学会誌,学会ホームページ等に掲載することを企画運営連絡会議で検討 6.26 学術文化事業「水理委員会(水理学英文論文集)」(40 万円)および「水理委員会(国際水理会議)」(60 万円)への指定型助成金が承認 7.31 新規受託研究の承認に際し,技術推進部門に委員会を設置 9.25 学会規則等の改正について承認 9.25 予算編成の経費節減を図る事項について,前年比マイナス 10%シーリングで予算案を作成 9.25 学術文化事業の助成「合計金額 620 万円」の承認 11.27 各委員会の内規の改正について承認 公益信託大成建設自然・歴史環境基金助成金 100 万円は,土木学会田辺家 文献資料調査委員会へ贈呈することが決定	5.8 「ダムによる河川環境変化の総合的調査研究」の受託承認 5.8 「連続繊維シートによるコンクリート構造物の補修・補強設計施工指針案の作成」の受託承認 5.8 「社会資本整備の効果策定手法についての研究」の受託承認 6.26 「四国における社会資本整備の進め方に関する調査研究」,「四国の高速道路の整備効果に関する研究(その 2)」の受託承認 7.31 「基準等移転促進事業に係る調査研究」の受託承認 9.25 「都市基盤施設の地震防災性向上に関する調査」,「大地震時における構造物等の破壊過程解明のための試験体設計及び解析に関する調査」,「中国地方における土木の今後の在り方に関する研究」の受託承認 11.27 「道路交通安全性に関する調査研究」の受託承認 * 水理公式集改定編集小委員会の設置 * シールド工事標準セグメント研究部会の設置	1.14～16 東アジア構造及び施工マネージメントに関する第 6 回国際会議(共催)(台湾・台北) 1.25 「ECCE(ヨーロッパ土木技術者評議会)」との協力協定調印 岡田会長,日下部国際委員会委員 2.19～20 第一回アジア土木技術国際会議(JSCE,ASCE,PICE 共同主催)(共催)(フィリピン・マニラ) 3.11 スウェーデン ウルリカ・ジャメソン来会 3.19 世界四長大橋国際シンポジウム(共催) 3.20 土木学会創立 80 周年記念出版として刊行した「ヨーロッパのインフラストラクチャー」が交通図書賞を受賞 3.20 土木学会の災害緊急対応のシステムについて吉田担当理事が「毎日新聞」紙上に紹介 7.2 カナダ土木学会 ビエール・ラボジェール教授一行 表敬訪問 10.4～6 フィリピン土木学会フィリップ・クルス会長,米国土木学会パトリシア・ギャロウェイ国際担当部長,アジア土木技術国際会議プレミエーティングおよび平成 10 年度全国大会に来会挨拶 10.10～25 スタディーツアーグラント助成により来日した土木技術者の対応(Mr.Jerome.J.Argue 来日) 10.18 「ASCE」全国大会,岡田会長,三好専務理事,石井理事,花村,川島,富永の各国際委員会委員,藤野テクニカルセッションプレゼンター 10.18～21 アジア土木技術国際会議第 1 回実行委員会 10.20 「アジア土木技術国際会議ミーティング」岡田会長,三好専務理事,石井理事,花村,川島,富永の各国際委員会委員 11.1 メキシコ土木学会フランシスコ・ハメイ・ヒメネス会長一行協力協定仮調印 11.19 米国土木学会アルフレッド・アング国際担当理事,表敬訪問

1998（平成 10）年

行事・集会

- 1.7 水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ（発表論文数 17 編）
- 1.9 応用力学フォーラム（第 9 回乱流フォーラム）（講演数 2 題）
- 1.13～14 第 3 回地下空間利用シンポジウム・見学会（特別講演数 2 題，論文発表数 41 題）（東京都）
- 1.20～21 第 13 回 環境工学連合講演会（共催）（東京都）
- 1.22～23 第 10 回岩の力学国内シンポジウム（共催）（大阪市）
- 1.26～27 第 1 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム（講演数 80 題）
- 1.27～29 第 47 回応用力学連合講演会（共催）（東京都）
- 1.28 第 11 回建設コンサルタントシンポジウム
- 1.28 第 36 回「定例談話会」（課題 新技術の創造と新産業の育成）
- 2.6 応用力学フォーラム（北海道地区）（講演数 3 題）
- 2.9 第 36 回原子力総合シンポジウム（共催）（東京都）
- 2.12 第 37 回「定例懇話会」（課題 民間資本参加による資本整備の理想と現実）
- 2.10 地下鉄 12 号線放射部の施工技術講習会（講演数 7 題）（東京都）
- 2.24 鋼スラグ細骨材コンクリート新規指針とフェロニッケルスラグ細骨材コンクリートの改正指針に関する講習会
- 3.9 フェロニッケルスラグ細骨材に関する説明会（宮津市）
- 3.12 応用力学フォーラム in 八戸（講演数 5 題）
- 3.13 フェロニッケルスラグ細骨材に関する説明会（宮崎市）
- 3.13 第 38 回「定例懇話会」（課題 社会基盤としての GTS）
- 3.20 第 11 回環境システムシンポジウム（テーマ 資源エネルギー環境に関わる システム技術のまちづくり展開）（基調講演 1 題，講演 5 題）
- 3.23 応用力学フォーラム（九州地区）（話題提供 2 題）
- 3.23 フェロニッケルスラグ細骨材に関する説明会（八戸市）
- 3.31 土木計画ワンデイセミナー シリーズ 13 「効果的な TDM の定着を目指して」（講演数 6 題）
- 4.1 応用力学フォーラム関西地区（講演 2 題）
- 4.2～4 第 42 回水理講演会（講演 197 題）
- 4.3～4 第 44 回構造工学シンポジウム（講演 175 題）
- 4.6 応用力学フォーラム「計算力学の最前線」（特別講演 1 題，発表 5 件）
- 4.9 第 39 回「定例談話会」（課題 新たな環境影響評価制度）
- 4.23～24 「コンクリート構造物の補強設計に関するシンポジウム」（委員会報告 6 件，一般講演 20 題）
- 4.24 鋼スラグ細骨材に関する説明会（共催）（大分市）
- 5.8 鋼スラグ細骨材に関する説明会（共催）（岡山市）
- 5.9 平成 10 年度「工学教育」連絡講演会（共催）（東京都）
- 5.15 第 40 回「定例談話会」（課題 これからの海洋空間利用とメガフロート）
- 5.15 構造工学委員会講演会（講演 2 題）
- 5.22 鋼スラグ細骨材に関する説明会（共催）（松山市）
- 5.29 鋼スラグ細骨材に関する説明会（共催）（高松市）
- 6.5 鋼スラグ細骨材に関する説明会（共催）（いわき市）
- 6.9～10 第 23 回海洋開発シンポジウム（講演 92 題）
- 6.11 第 41 回「定例談話会」
- 6.11～12 第 4 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム（講演 52 題）
- 6.11～12 第 18 回土木史研究発表会（講演 64 題）
- 6.11～12 第 4 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム（講演 52 題）
- 6.15～16 土木計画学ワンデーセミナーシリーズ 15（応用一般均衡モデルの公共投資評価への摘要）
- 6.18～19 第 4 回河道の水理と河川環境に関するシンポジウム（講演 31 題，ポスターセッション 25 編）
- 6.18 「岩盤上の大型構造物基礎」講習会（講演 10 題）
- 6.23 生態系・緑化保全対策技術講習会（講演 7 題）
- 6.24 地盤に係わる維持・補修・管理技術に関するシンポジウム（講演 9 題）
- 7.2～3 第 28 回安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 7.9～10 第 6 回地球環境シンポジウム（講演 46 題）
- 7.10 第 42 回「定例談話会」（課題 ITS の環状展望）
- 7.14～15 「第 3 回水シンポジウム」（郡山市）
- 7.14～15 第 7 回建設ロボットシンポジウム（共催）（東京都）
- 7.20 第 3 回なぎさ観察会（葉山海岸）
- 7.23 「高流動コンクリート施工指針等に関する講習会」（東京都，講演 10 題）
- 7.23～24 混相流シンポジウム' 98（第 17 回）（共催）（東京都）
- 7.24～26 第 24 回地震工学研究発表会（神戸市）
- 7.27～29 平成 10 年度サマーセミナー「土木学会による実務者のための耐震設計入門」（セッション数 10 件）
- 7.28～29 構造物の診断に関するシンポジウム（東京都，講演 54 題）
- 7.28～30 第 34 回水工学に関する夏期研修会（名古屋市，講演 18 題）
- 7.31 第 2 回耐震補強・補修技術，耐震診断に関するシンポジウム（講演 7 題）

1998（平成 10）年

行事・集会

- 8.18～19 交通ネットワーク講習会（講演 11 題）
8.20～21 第 32 回夏期講習会・見学会－地球環境と土木技術－（講演 4 題）
8.23～26 自己充填コンクリートに関する国際ワークショップ（高知県，講演 34 題）
8.26 応用力学フォーラム（中国・四国地区，講演 3 題）
8.27 第 1 回鋼構造と橋に関するシンポジウム（東京都，講演 11 題）
8.31 トンネル耐震設計の方向と基本課題（講演 12 題）
9.3 「ISO への対応」に関するシンポジウム（講演 7 題）
9.3～4 第 42 回材料研究連合講演会（共催）（東京都）
9.4 講演会「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」（大阪府，講演 11 題）
9.10 建設分野における衛星リモートセンシングデータの実利用に関する講習会（講演 5 題）
9.11 第 43 回「定例談話会」（課題 新・全総 21 世紀のグランドデザイン）
9.11 橋梁の耐震設計法に関する講習会（講演 9 題）
9.14 講演会「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」（福岡県，講演 11 題）
9.21 講演会「コンクリート構造物の補強設計－性能照査型設計に向けて－」（東京都，講演 11 題）
10.7 第 1 回応用力学シンポジウム（特別講演 1 題，発表論文 82 編）
10.4～6 第 53 回年次学術講演会（神戸大学，講演 4,087 題）
10.9 第 44 回「定例談話会」（課題 建設副産物リサイクルの推進）
10.13 「地域資産としての土木遺産」シンポジウム（講演 8 題）
10.16 シンポジウム「世紀末の都市計画・20 世紀都市計画を検証する」（共催）（東京都）
10.21 「開削トンネルの耐震設計－設計方法と設計例－」講習会（講演 9 題）
10.22～23 第 26 回環境システム研究論文発表会（講演 95 題）
10.27～28 第 23 回土木情報システムシンポジウム（講演 82 題）
10.29 「最近のコンピュータの有効利用」に関するシンポジウム（講演 7 題）
11.5 構造工学委員会講演会（講演 2 題）
11.6 「限界状態設計法を用いた合成・複合構造物の設計法と将来展望」（講演 9 題）
11.6 最新の施工技術－1998.11 講習会（講演 10 題）
11.4～5 ダム小委員会の現地見学会実施「建設省大滝ダム建設工事」
11.6 「限界状態設計法を用いた合成・複合構造物の設計法と将来展望」（講演 9 題）
11.9 MECS/LOICZ ジョイントシンポジウム（講演 7 題，パネル討論）
11.10～12 第 45 回海岸工学講演会（秋田市，講演 257 題）
11.11 高流動コンクリート施工指針等に関する講習会（講演 10 題）
11.13 第 45 回「定例談話会」（課題 リモートセンシングと国土管理）
11.13～14 第 2 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム（名古屋市，講演 41 題）
11.18 第 16 回建設用ロボットに関する技術講習会（講演 6 題）
11.20 日本学術会議シンポジウム「農村と都市の共生は可能か」（共催）（東京都）
11.20 第 8 回地域シンポジウム「地域のための河づくりを目指して」（山口市，講演 4 題）
11.20 第 18 回映画・ビデオコンクール入賞作品発表会・表彰式（上映 3 題）
11.21～23 第 21 回土木計画学研究発表会（講演 381 題）
11.24 シンポジウム「コンクリート資源の有効利用」（東京都，委員会報告 2 題，一般講演 27 題）
11.24～26 第 35 回環境工学研究フォーラム（京都市，講演 118 題）
11.25～26 第 34 回土木計画学シンポジウム－地域間交流活性化と観光 分析・計画手法と政策課題－（講演 12 題）
11.25～27 第 5 回鉄道技術連合シンポジウム（J-RAIL' 98）（共催）（東京都）
11.26～27 鋼橋床版シンポジウム（講演 52 題）
11.26～27 第 8 回トンネル工学研究発表会（論文 12 題，報告 59 題）
12.1 振動制御セミナー－地震による橋梁の動的応答と設計・制御－（講演 3 題）
12.2～4 第 15 回風工学シンポジウム（共催）（東京都）
12.7 「公共構造物の安全性」に関するパネルディスカッション（講演 1 題）
12.8 確率・統計的意思決定に関するシンポジウム－脱マニュアルの時代を迎えて－（東京都，講演 16 題）
12.9～10 第 16 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会（講演 52 題）
12.10～11 第 2 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計法に関するシンポジウム（講演 85 題）
12.11 第 46 回「定例談話会」（課題 中部国際空港の建設）
12.11 「土木デザインワークショップ」－橋梁デザインの可能性－（講演 7 題）
12.11 応用力学フォーラム（第 11 回非線形力学フォーラム）（講演 3 題）
12.11 岩盤力学委員会研究報告会「泥岩の力学モデルと解析」（基調講演 1 題，講演 4 題）
12.14 ローカルサイト・エフェクトに関するシンポジウム（講演 24 題）
12.16 第 3 回感性工学シンポジウム（共催）（習志野市）
12.17 「ロックシエッドの対衝撃設計」に関する講習会（講演 6 題）
12.18 第 3 回舗装工学講演会（講演 31 題）
12.22 第 45 回風に関するシンポジウム（共催）（東京都）
* 「土木の日」，「くらしと土木の週間」実施

1998（平成 10）年

支部の動き

北海道支部

- 1.29 講習会「コンクリート構造物の性能照査型設計法および鉄筋の腐食・防食に関する最新の技術」（講演数 6 題）
- 2.7～8 年次学術研究発表会（発表数 278 題）
- 10.23 第 1 回講習会「限界状態設計法を用いた合成・複合構造物の設計法の現状と将来展望」
- 「土木の日」行事
- 10.4 見学会（一般市民（親子）対象）[札幌駅北口総合整備事業,他]
- 10.24 見学会（高校教諭対象）[札幌市北 1 条地下駐車場,他]
- 11.18～24 「小学生の土木の絵」図画コンクール展
- 11.18 講演会 1 題,パネルディスカッション 1 題
- 12.4 土木の日「講演会」

東北支部

- 3.13 平成 9 年度技術研究発表会（発表数 411 題）
- 5.21 支部通常総会
- 7.2～3 「写真展」（宮城県沖地震 20 年シンポジウム併催行事）
- 9.13～23 海外調査団「南ヨーロッパ都市計画調査」訪問先：ポルトガル,スペイン,イタリア
- 「土木の日」行事
- 6.13 宮城県沖地震 20 年シンポジウム～都市型地震を考える（基調講演 1 題,シンポジウム 2 題）
- 8.1～2 「ランドアート' 97」（秋田県建設業協会主催）
- 9.20 市民見学会「野蒜築港 120 年の夢と近代土木の姿を訪ねて」
- 10.17～18 「土木の日フェスティバル' 98」学園祭と併催による研究実験施設の公開
- 11.16 「土木の日記念講演会」

関東支部

- 2.24 「土木技術者に求められる資質と素養—技術士を目指している方々のために—第 9 回」
- 3.3 第 4 回 KANTO シビックサークル「社会基盤整備の環境保護」
- 3.10～11 第 35 回技術研究発表会（発表数 540 題）
- 5.11 支部通常総会
- 5.11 支部総会に伴う懇談会
- 6.30～7.1 第 1 回映画会
- 8.29 第 4 回土木系学生によるコンクリートカヌー大会
- 10.一 第 1 回見学会研究所見学会
- 「土木の日」行事
- 11.14 第 2 回見学会 「東京における近代化土木遺産」見学会
- 11.18 第 3 回見学会 第 2 東名工事見学会
- 11.18 「土木の日」記念講演（群馬工業高等専門学校）
- 11.18 「土木の日」イベント「記念講演会」（講演題数 2 題）
- 11.20～25 土木フェア展示会
- 11.28 「土木の日」の行事県中央水質浄化センター,北関東自動車道工場現場 土木フェア in Gunma

中部支部

- 1.12 新春特別講演会「技術者資格の認定と国際的相互承認について」
- 2.9 第 4 回技術講座「環境マネジメント」（講演数 4 題）
- 3.6 支部研究発表会（発表件数 424 題）
- 4.14 支部通常総会
- 5.19 第 1 回講演会（講演数 2 題）
- 5.20 見学会「極楽橋・立山カルデラ砂防博物館・立山黒部アルペンルート」
- 9.18 第 1 回講習会「高流動コンクリート施工指針等に関する講習会」
- 10.22 現場見学（訪問先・五条川左岸流域下水道ほか）
- 12.11 第 2 回講習会「限界状態設計法を用いた合成・複合の設計と将来展望」
- 「土木の日」行事
- 10.23～24 「建設技術 in フェア—in' 98 中部」
- 11.13 公開シンポジウム「トンネル空間が変わる—人に優しい地下空間デザインを目指して—」
- 11.14 市民見学会「コース 1：都市を支える基幹施設をたずねて」「たずねてみよう,夢の舞台づくりの現場から生活関連施設まで」「金沢城跡から 21 世紀の副都心をたずねて」

1998（平成 10）年

支部の動き

11.20 土木学会中部支部 60 周年記念事業 記念式典,記念シンポジウム,祝賀会

関西支部

- 1.22 土木文化講座・講演会「土木・・・それは国づくりの歴史・文化」（講演 1 題）
- 2.4 土木文化講座・一般講座「最近の水環境問題」（講演 1 題）
- 2.23 第 13 回 FCC「21 世紀の土木へ」～土木の DNA を解説する～
- 2.26 地方講演会（講演数 3 題）
- 3.21 第 12 回 FCC「秀吉と土木 Part 2 - 中世の秀吉の偉業えお振り返り,そして現在の土木を考える」
- 3.26 土木の日コア行事「明石海峡大橋橋上見学会」1.19 新春講演会（講演数 2 題）
- 4.3 平成 10 年度役員選挙
- 5.7 支部通常総会
- 5.20～6.17 平成 10 年度学生映画会（映画 2 編）
- 5.23 支部年次学術講演会（一般講演数 516 題）
- 5.23 平成 10 年度関西支部年次学術講演会講演概要
- 6.9～10 「阪神・淡路大震災から学んだこと」
- 8.20 小中高校生対象見学会「電話のとおり道をたずねて,土木の世界をのぞいてみよう！」
- 8.24 第 I 部：設計技術対象研修会
- 8.25 第 II 部：施工技術対象研修会
- 10.16 講演会等 高専学生対象講演会
- 10.17 市民対象見学会「安心と活力のあるまち創り・くに創り」
- 11.10 兵庫地方講演会
- 11.25 「限界状態設計法を用いた合成・複合建造物の設計法の現状と将来」
- 「土木の日」行事
- 11.14 体験 土の科学～あつと驚く土の性質～
- 11.21～22 近畿未来遺産

中国支部

- 1.30 技術者向け講演会「社会基盤整備とパブリックインボルブメント」（講演数 4 題）
- 4.24 支部通常総会
- 6.5～6 支部研究発表会 発表件数 397 件：特別講演 1 題：学生フォーラム 1 題：学生交流会 1 件
- 10.7 「最近の橋梁技術・地盤工学における観測的手法」
- 10.9 学生工事見学会（場所：本州四国連絡橋尾道・今治ルート）
- 10.30 技術者向け工事見学会（場所：中国横断道三刀屋～松江間等の現地見学）
- 11.3 親子見学会（場所：岩国市）
- 11.13 「場所打ちコンクリート杭の急速載荷試験」
- 11.14 「これまでの環境問題かれからの環境共生」
- 「土木の日」行事
- 10.24 こどもミニ土木博「コンクリートで何か作ってみませんか」コンテスト
- 11.1 こどもミニ土木博「模型水路実験,きき水パネル展示等」
- 11.3 「錦帯橋の見学および構造経緯の説明」
- 11.7～8 21 世紀の土木と環境デザイン展（パネル展示,C G 研究室紹介等）
- 11.14～15 暮らしと土木展（主催：鳥取県）建設機械体験,クイズ,橋工作コンテスト
- 11.18 こどもミニ土木博「パネル展示」
- 11.20～22 みる・きく・ふれる建設フェア「展示（パネル,ビデオ等）体験コーナ」
- 11.21 親子現場見学会 建設現場見学会（主催：広島市）

四国支部

- 1.9 題 2 回一般市民講演会「公共事業における住民参加（パブリックインボルブメント）」
- 2.10 現場技術者による最新の施工技術の紹介「阪神淡路大震災の教訓・実務技術者からの提案」,「石油タンク・高速道路盛土の液化対策工法の有効性に関する実験・解析事例紹介」,「遠心載荷装置による地中構造物の振動実験」
- 5.22 支部通常総会
- 5.23 第 4 回技術研究発表会（一般発表 235 編,フォーラム 2 件,優秀発表者 20 題）
- 6.12,26,9.10,25 土木計画のための基礎理論講習会
- 6.25,30,7.7 第 1 回基礎技術講習会「環境生態学の基礎」
- 7.10 第 1 回技術報告会「まちづくりにおけるコラボレーション」

1998（平成 10）年

支部の動き

8.24 小学生との魚類生息環境調査
8.29,9.26,10.8,11.28 岩手県技術者のための土木技術講習会（実施回数 4 回）
9.8 工事見学会（場所：船の科学館,北淡町震災講演他）
11.10,12,12.1,8 第 2 回基礎技術講習会「土質力学の基礎」
11.14 市民向け講演会「環境教育フォーラム 地域づくりの視点から環境教育を考える」
11.28 市民向け講演会「平成 6 年溺水を振り返る」
12.8 講演と懇談の会（講演題数 2 題）
●「土木の日」行事
11.18 土木の日特別講演会（講演題数 2 題）
11.18 「土木の日」および「くらしと土木の週間」土木の日を中心にして,一般国民に対する普及啓蒙活動に取り組む
西部支部
2.13 技術発表会（講演数 6 題）
3.24 研究発表会（発表数 562 題）
3.24 国際交流特別講演会（講演数 1 題）
5.25 支部通常総会 第 60 回
5.25 特別講演会（講演数 1 題）
8.5 九州新幹線トンネル現場等の見学
10.14 九州電力玄海原子力発電所等の見学（一般市民）
10.25 海外研修 フィリピン,その他アジア諸国の現場見学会等
11.18 地下鉄 3 号線,都市高速道路等の見学
11.18 高校生への P R 県下の高校へビデオテープ「明石海峡大橋」60 高校
11.26 土木学会西部支部 60 周年記念式典並びに「記念講演会」
12.4 「限界状態設計法を用いた合成・複合構造物の設計法の現状と将来展望」講習会
●「土木の日」行事
11.16 テレビとラジオ等による広報 NHKくらしのチャンネル他出演,宮崎県報,宮崎市報
11.18 街頭 P R 「土木ふれあい」マップ,リーフレットを配布
11.28 特別講演会「森（くに）と川（環境）とまち（都市）」をテーマ
ー.ー 県下の高校へビデオテープ「明石海峡大橋」60 高校,冊子「土木モニュメント見歩き」を寄贈 27 図書館

1998（平成 10）年

土木一般	社会一般
1.30 建設省,建設業の経営改善対策を発表.資金繰り,財務・経営基盤,受注環境など 27 項目を支援	1.10 中国河北省,張家口北西で M5.9 の地震,倒壊家屋 13 万棟,死者 50 人,負傷者 1 万人
2.19 建設省,長崎県の雲仙・普賢岳のふもと水無川に建設中の水無川 1 号砂防ダム,堤長 870m が完成. 1990.11 の災害対策,	1.17 阪神・淡路大震災 3 周年,名簿に記載された犠牲者 6418 人. 3.26 兵庫県内の仮設住宅で孤独死 200 人
4.26 より 1km の登山道再開	2.2 フィリピンのミンダナオ島でセブパシフィック航空の旅客機墜落,死者 30 人以上
2.20 香川県坂出市の四国電力聖通寺山送電鉄塔,高さ 70m 重さ 40t が倒壊.瀬戸中央自動車道が一時通行止めおよび停電 1 万 7000 棟	2.4 アフガニスタン北部で M6.1 の地震.死者 4000 人以上
3.8 京都府,京都縦貫自動車道・綾部～舞鶴大江間 12.1km が開通.中国・舞鶴両自動車道が連結	2.7 第 18 回冬季オリンピック大会を長野で開催（～22）.金 5・銀 1・銅 4 個のメダルを獲得
3.20 道路公団,高知自動車道・南国～伊野間 17.9km 開通.同じく鳥取県と島根県を結ぶ山陰道 12.8km 開通	2.16 台北で中華航空 676 便が着陸に失敗し墜落,死者 202 人
3.21 鉄道公団,九州新幹線鹿児島ルート・船小屋～新八代間 85.5km 着工	3.1 横浜市,港北区に 6 万 4000 m ² ,集客人数 7 万人の横浜国際総合競技場を開場.総工費 600 億円. 7.5 都筑区に横浜国際プール,ウォーターアリーナ 3 万 5800 m ² も開場
3.23 高知市,総面積 3900m ² ,延長 250m の新はりまや橋公園が完成.人工河川 3～8m	3.7 群馬県子持村の浅田遺跡から 5 世紀後半の円墳・埴輪を含む墳丘の全体がほぼ完全な形で出土
3.26 閣議,2010～2015 年目標の 5 全総を決定.タイトルは 21 世紀の国土のデザイナー地域促進と美しい国土の創造.国土構造の二軸化のため東京湾,伊勢湾,紀淡連絡,豊予海峡,関門海峡などのプロジェクトを構想	3.20 東京国際空港,台湾の中華航空が使用する国際線ターミナル完成
	3.25 南極大陸バレー諸島の近海で M8 の地震
	3.31 日本原子力発電所東海発電所,30 年間運転を続けたガス冷却黒鉛減速炉 16 万 6000kW を廃炉

土木一般	社会一般
3.26 道路公団，高知自動車道・津田東～さぬき三木 IC 間 13.3km，および鹿児島市～熊本県八代市間 140 km を結ぶ南九州自動車道（西回り）初の開通区間として伊集院～鹿児島県西間 10.2km 開通 3.26 仙台空港，東北初の 3000m 滑走路完成 3.30 道路公団，第 2 東名名古屋南 IC～東海 IC 間 5.1km 開通．伊勢湾岸自動車道と呼称．鋼斜張橋の名港東大橋（700m，中央支間 410m），名港中央大橋（1170m，中央支間 590m），名港西大橋（750m，中央支間 405m）の名港 3 大橋（名港トリトン）が連続 3.30 山陰自動車道・18.8km 開通し，鳥取～島根が連結 3.31 青森県の弘南鉄道黒石線・川辺～黒石間 6.2km 廃線 3.一 公正取引委員会，石川・愛知・宮崎で公共工事を受注した建設業や関係団体に対し，独占禁止法違反で排除勧告を行う（石川 265 社，愛知 62 社と 1 団体，宮崎 19 社） 3.一 建設省・運輸省・農水省・北海道開発庁・沖縄開発庁は 1998 年度より公共事業の再評価システムを導入と決定．評価は一般公開 3.一 北九州都市モノレール，JR 小倉駅 4 階に乗入れ． 4.2 阪神高速，北神線 2 区間，池田線 1 区間が開通．神戸市北部と中心部，川西市と大阪中心部が直結 4.5 本四公団，神戸鳴門自動車道 89km 全通．世界最長吊橋の明石海峡大橋．960+1991+96（m）および 2 層併用吊橋，大鳴門橋．330+876+330（m） 4.18 建設省，満濃町に四国初の国営公園・讃岐まんのう公園 350ha の一部開場．2003 年までに 160ha を開場予定 4.23 山梨県三富村～埼玉県大滝村を結ぶ国道 140 号線雁坂トンネル 6.625km が 20 年ぶりに開通．甲府市と秩父市が中央自動車道より短縮連絡 5.18 首都高速埼玉大宮線・美女木 JCT～与野間 8km 開通． 5.29 第 12 次道路整備 5 ヵ年計画（1998～2002）を決定．事業費は過去最高の 78 兆円．他の計画に比較し道路事業が突出． 6.4 建設省，災害復旧にも多自然型を認める指針を地方自治体に通達．自然石や木材などの利用拡大で河川事業，河川復旧が変革 6.7 道路公団，第 2 名神高速の栗東トンネル 3.8km の導坑でトンネルボーリングマシンが発進．12 月，先進導坑貫通 6.10 本四公団，西瀬戸自動車道の来島大橋の橋桁が落下．死者 7 人 6.13 北海道開発局，室蘭港湾口に国道 37 号・白鳥新道 7km に北海道最長吊橋・白鳥大橋．330+720+330（m） 6.17 公正取引委員会，関西地区の公共事業談合疑惑でゼネコン 31 社に 4 項目の是正を求める警告 6.25 中国電力，島根県に三隅火力発電所（石炭）100 万 kW 完成 7.1 北九州市，八幡西地区にゴミ処理工場完成．ゴミ処理能力 1 日 810t．最大出力 3 万 6300kW の発電能力を保有 7.2 香港国際新空港がチェックラップコップ島で開港式．敷地面積 1248ha，滑走路 3800m2 本，香港島とは 2 層道路で結ばれ啓徳空港は閉鎖 7.10 建設省，総合的な土石流対策の推進について（1982）を改訂．点検・予知・避難などを強化 7.18 秋田県鷹巣町に滑走路 2000m の大館能代空港開港 7.28 佐賀県川副町に滑走路 2000m の佐賀空港開港	4.2 阪神・淡路大震災の震源である淡路島の野島断層保存館，長さ 140m，最大幅 8m，深さ 3m をドームで被覆．4.21 に天然記念物に指定 4.20 伊豆半島東沖を震源とする群発地震．伊東市，熱海市で 887 回の有感地震，JR 伊東線，東海道新幹線も一時不通．5.9 終息 4.24 政府，追加の景気浮揚対策として事業規模 16 兆円を決定．公共事業は情報通信の高度化，環境対策などに配慮した 7 兆 7000 億円 4.29 盛岡地方気象台，岩手山 2038m の火山性地震の回数が増加．土砂崩れなどの注意するよう報告 5.30 アフガニスタン・タカール州に M6.9 の地震．壊滅した村は 81 ヶ村，死者・行方不明者 4000 人以上 6.3 ドイツの新幹線 ICE が初の事故．北部のザクセン州エシェデで脱線し陸橋に激突．死者 95 人以上 6.9 2001 年 1 月を目標とする中央省庁改革基本法が成立． 7.1 京王帝都電鉄，京王電鉄と社名変更 7.1 パプア・ニューギニアに M7.1 の地震と津波．津波の高さ 10m．死者 1200 人余り． 7.29 西淀川公害訴訟の控訴審が 20 年ぶりに和解．大気汚染公害訴訟で国が和解に初めて応ずる． 8.3 梅雨前線の影響から新潟県で集中豪雨．新潟市で時間あたり過去最大雨量．1 万 5000 棟以上が床下・床上浸水．JR6 在来線が区間運休，道路不通も続出，都市機能麻痺（～8.4） 8.26 台風 4 号による影響で福島・栃木県境で集中豪雨．土砂崩れで死者 7 人．被害は北海道・関西の 22 都道府県に広がり死者・行方不明 22 人を追加．水戸市，ひたちなか市の住民に避難勧告（～8.31） 8.一 中国長江流域の洪水被害，被害額 3 兆円，死者 3000 人以上 9.6 インド北部からバングラデシュへ流れるガンジス川，60 年ぶり大洪水．死者 2400 人 9.20 ガンジス川流域で 60 年ぶりの大洪水．インドでは 18 村が水没．1000ha が浸水，死者 1625 人．バングラデシュでは死者 800 人 9.22 近畿地方を直撃した台風 7 号，奈良県室生寺で国宝の五重塔の屋根を破壊．県内だけで国宝 6 件，重文 41 件が被害 9.24 秋雨前線の移動に伴い高知県各地に豪雨．高知市で床上浸水 6900 棟，床下浸水 1 万 6100 棟 1000 人以上避難．JR 土讃線一部不通 9.30 動力炉・核燃料開発事業団が解散．10.1 より新法人・核燃料サイクル開発機構が事業引継ぎ． 9.一 9 月中・下旬に 5 台風が上陸・接近．全国的に被害 10.1 札幌市の重文・時計台が 3 年 9 ヶ月ぶりに改修終了 10.13 台風 10 号により全国的に住宅被害 700 棟，浸水 1 万 2000 棟．道路損壊 3200 ヲ所，崖崩れ 900 ヲ所，堤防損害 400 ヲ所，農林水産被害 404 億円，死者・行方不明者 15 人（～10.20） 10.15 環境庁・秋田県，白神山地世界遺産センターとして藤里町に藤里館を開館．1997 年の西目屋館に続くもの． 10.18 台風 10 号の影響で中国地方に豪雨．津山市を中心に床上浸水 2500 棟，床下浸水 2200 棟など 10.22 国鉄精算事業団が解散．債務 28 兆円は国の一般会計へ引継ぎ． 10.25 北海道渡島半島の駒ヶ岳 1131m が小規模噴火

1998（平成 10）年

土木一般	社会一般
7.ー 九州電力，新大分火力発電所（LNG）229 万 5000kW完成 7.ー 北陸電力，七尾大田火力発電所（石炭）120 万 kW完成 8.6 京都市，パリ市提案によるセーヌ川の芸術橋をモデルとした三条～四条大橋間の鴨川歩道橋の計画を市民団体の反対などで一時中断と決定 8.18 建設省，3 月に公共事業の再評価システムの導入に伴い，矢作川河口堰の中止（8.14 決定）などダム 21 件を再評価の対象に指定 8.20 環境省，名古屋市の藤前干潟の埋立式ゴミ処分場計画に対し反対を表明．代替地案が浮上 10.2 関西国際空港第 2 期工事の 4,000m 滑走路工事で漁業交渉まとまる． 10.12 岡山県，高梁川上流の新見市に建設中の多目的・千屋ダム完成．堤高 97.5m，総貯水量 2800 万 m³ 10.18 道路公団，山形自動車道・寒河江～西川間 14km 開通．総延長 158km のうち 62%，98.3km が開通 10ー 鉄道公団，開業 10 周年を迎えた青函トンネルを 5 年以内に改修の必要と判断，1999 年度予算に 4 億 9000 万円を盛り込み． 10.ー 東北電力，原町火力発電所（石炭）200 万 kW完成 11.5 石川県，輪島市など 3 市町にまたがる能登空港 142ha，滑走路 2000m に着工，2003 年開港予定 11.16 電源開発，長野県天竜川水系に計画中のダムと揚水式発電所 200 万 kW を凍結と発表 11.18 東京の多摩都市モノレール（第 3 セクター）・立川北～上北台間 5.4km 開通． 11.18 京浜急行空港線，都心～品川～空港間のアクセスとして延長工事が完成．成田～羽田間の空港間快速特急電車も運転 12.3 福島空港，滑走路を 2000m から 2500m に延長 12.8 東京都，小田急電鉄小田急線・東北沢～梅ヶ丘間 1.6km の複々線化について高架案より地下案を進めたいと発言 12.9 建設省，建設業の経営改善に対する緊急対策の指標を発表 12.13 東海北陸自動車道 185km のうち，一宮 JC～尾西間 3.9km 開通し，名神高速と一体化 12ー デンマークのシェラン島とユトランド諸島をつなぐスーアベルト海峡横断道路（グレートベルトリンク）開通．道路・鉄道 併列橋ウエスト橋（6.6km），イーストトンネル（鉄道 8km），イースト橋（6.8km，吊橋支間 1.6241km）など総延長 19 km，本土と北欧が一体化，総経費 4000 億円	11.2 中南米各国，カリブ海に発生したハリケーンにより洪水，土石流で死者・行方不明者 7000 人と発表 11.3 第 60 回文化勲章，芦原義信ら 5 人受賞 12.2 世界遺産京都会議，古都奈良の文化財（東大寺など 6 社寺を含む）を世界遺産に登録 12.7 環境庁，名古屋市が名古屋港の藤前干潟にゴミ埋立処分場を計画していることが不適切と認定．代替地の検討を求め通達．2000.1.15 を断念 12.12 タイ航空のエアバス，豪雨のためタイ南部スラダニ空港への着陸に失敗し墜落．死者 100 人，生存者 45 人 【その他】 発掘ブームで発掘された遺跡は日本全国で 3518 件に達する．

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

1999（平成 11）年

会長 岡村 甫 副会長 川合 勝, 佐藤 信彦, 道上 正規, 三浦 尚, 山本 卓朗

会員数 32,755 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.22 「アジア土木技術国際会議実行委員会」に関する指定型寄付受入れと「原田静男氏」よりの一般型寄付受入れを承認 また「水工学論文賞及び水工学論文奨励賞記念メダル」の指定型助成金については「山本三郎氏」の寄付金 500 万円を充当させると承認 情報化委員会（仮称）を常置委員会として承認 1.22 日本エンジニア教育認定機構（J A B E E）への参画承認 1.22 ヨーロッパ土木技術者協会との協力協定承認 3.19 第 84 回総会（平成 10 年 5 月 29 日開催）で承認された定款の改正について文部省と協議、最終改定案を承認 3.19「企画部門」から、21 世紀における社会基盤整備ビジョン並びに情報発信に関する特別検討委員会（仮称）、社会基盤施設における事業評価に関する特別委員会（仮称）、アクセプタブル・リスクの適用に関する研究特別委員会（仮称）の特別委員会が承認 3.19 学術文化事業の 2 件の助成、1 件の寄付受入を承認 3.19 技術推進機構規定、特別会計を承認 4.23 土木学会職員就業規則改正に関して承認 4.23 学会の新たなロゴマーク募集について承認 5.7 「土木技術者の倫理規定」承認 5.7 功績賞受賞者に決定した加藤 晃氏及び三谷 健氏の名誉会員追加推薦が承認 5.7 土木学会細則の一部改正を承認 5.7 中国土木工程学会との協力協定承認 6.25 学会運営について「学会運営組織図（案）」の承認 6.25 行事企画委員会を全国大会委員会と名称変更することを承認 6.25 学術文化事業に指定型 1 件、茨木龍雄目名誉会員寄付の承認 7.23 理事会各部門の企画運営連絡会議構成（案）が原案通り承認 7.23 「コンクリートのジョイント問題小委員会」活動経費 200 万円の承認 7.23「学会規則等改正検討特別委員会」終了、「土木教育委員会（大学土木と高校土木統合・改組）」の設置承認 7.23 タイ工学会との協力協定承認 9.1「Memorial Conference in TOKYO I」開催に伴う助成申請、およびトルコジャエリ地震被害調査の指定型の助成の承認 9.10 シンガポール工学会との協力協定承認	1.22 「現地における技術紹介と交流事業（建設業国際貢献推進事業）」、「利根川改修記録検討」の受託承認 4.23「国際的技術者資格制度に関する調査業務」の受託承認 6.25 「地震規模評価のための活断層調査法の体系化に関する研究」、「四国における社会資本整備の進め方に関する調査研究」、「ダムによる河川環境変化の総合的調査研究」の受託承認 7.23 「環境負荷低減型土木構造物および施工法の基礎的研究」、「自己充填型高強度高耐久コンクリートを用いた構造物の性能照査方法に関する検討」の受託承認 9.10 「津波評価技術の体系化に関する研究」の受託承認 11.26 「高速道路が四国の社会経済に与える影響調査」、「フライアッシュを原料とする高強度人工骨材を使用したコンクリートの設計施工指針案の作成」、「土木関連博物館（仮称）設置検討」、「都市代謝システムの再構築における下水道のあり方」の受託承認	3.5～6 フィリピン土木学会バシール・ラスマン会長一行、米国土木学会ノエル・ローファスト技術国際部長、アジア土木技術国際会議タスク・フォース・ミーティング 5.9 「E C C E（ヨーロッパ土木技術者評議会）総会」川島国際委員会幹事長 5.12 「中国土木工程学会との協力協定調印式」岡田会長、城国際室長 5.19 中国土木水利工学学会（台湾）Yen－Yi Tseng 会長一行 表敬訪問 8.12～14 第 5 回 A H P 国際シンポジウム（共催）神戸市 9.5～12 トルコ地震調査団派遣 団長濱田政則 9.20 米国土木学会 Daniel S.Turner 会長夫妻 表敬訪問 9.22～24 米 国 土 木 学 会 Daniel S.Turner 会長夫妻 中国土木工程学会（中国）Tang Meishu 秘書長一行 中国土木水利工学学会 J.C.Chern 理事一行 大韓土木学会 Jung－Ho Park 副会長一行 平成 11 年度全国大会およびラウンドテーブル会議出席 9.27～28 米 国 土 木 学 会 Alfred H.S.Ang 国際担当理事一行 中国土木水利工学学会 Yen－Yi Tseng 会長 大韓土木学会 Chang－Ho Park 副会長一行 フィリピン土木学会 Bashir D.Rasuman 会長一行 アジア土木学協会連合協議会（A C E C C）設立会議および第 2 回アジア土木技術国際会議第 1 回 Executive Committee Meeting 9.30～10.3 台湾地震調査団派遣 コンクリート関係者 リーダー 町田篤彦 10.1～8 地震工学関係者 リーダー 濱田政則 10.14 大韓土木学会 Jung－Ho Sonu 会長 表敬訪問 10.17～20 「A S C E（米国土木学会）全国大会」岡村会長、三好専務理事、花村国際委員会副委員長、川島国際委員会幹事長、石井国際委員会アドバイザー、吉川参与 10.22～23 「K S C E（大韓土木学会）全国大会」道上副会長、渡邊国際担当理事、五老海事務局長 12.5 第 3 回 L A W Q（国際水質学会）国際シンポジウム「水環境中の有害物質の評価と制御」（共催）大津市

1999（平成 11）年

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
11.26 新フェロー会員の認定について認定候補者 44 名の認定の承認 11.26 環境賞及び土木遺産顕彰制度設置についての承認 11.26 会長の日本技術者教育認定機構理事就任についての承認 11.26 「台湾地震被害調査」等 4 件指定型助成および「水理委員会 ISO 開水路の流量測定に関する委員会」の指定型寄付の承認 11.26 アジア土木技術国際会議担当委員会がアジア土木学協会連合協議会 (ACECC) 担当委員会に名称変更の承認 11.26 土木教育委員会内規の承認		

1999（平成 11）年

行事・集会

1.7 水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ（発表論文数 17 編） 1.8 第 47 回「定例談話会」 1.13～14 第 4 回地下空間シンポジウム（審査付論文発表 13 件、一般論文発表 22 件） 1.22 第 1 回リアルタイム地震防災シンポジウム（講演 26 題） 1.25～27 第 48 回理論応用力学講演会（共催）（東京都） 1.26～27 第 14 回環境工学連合講演会（共催）（東京都） 1.28～29 第 29 回岩盤力学に関するシンポジウム（審査付論文 10 題、自由投稿論文 47 題、パネルディスカッション 1 題） 1.29 第 12 回建設コンサルタントシンポジウム「プロジェクトマネジメント PFI—土木技術者の役割—」 2.12 第 48 回「定例談話会」 2.16 第 16 回施工体験発表会 講習会（講演 10 題） 2.19 「環境共生・循環とエネルギー土木」シンポジウム（講演 8 題） 2.26 地震災害マネジメントセミナー（講演 11 題） 3.3 応用力学フォーラム「第 10 回乱流フォーラム」（講演 6 題） 3.5 第 49 回「定例談話会」 3.12 安全問題討論会' 99（パネルディスカッション）（発表数 6 題） 3.12 応用力学フォーラム(九州地区)（講演 1 題） 3.15～17 第 43 回水理講演会（発表数 189 編） 3.29 「第 12 回環境システムシンポジウム—化学物質利用に伴うリスクと環境システムの接点課題—」（東京都、講演 4 題） 4.6～7 第 45 回構造工学シンポジウム（講演 177 題） 4.20～21 コンクリート構造物の耐震設計法の国際比較に関する国際セミナー（講演 8 題） 4.28 フライアッシュを用いたコンクリートの施工指針（案）講習会（講演 6 題） 4.30 環境システムシンポジウム—沿岸域における開発と環境保護の調和—（講演 4 題） 5.10 第 6 回「工学教育」連合講演会（共催）（東京都） 5.11 第 37 回 原子力総合シンポジウム（共催）（東京都） 5.14 構造工学委員会講演会（講演 2 題） 5.19 フライアッシュを用いたコンクリートの施工指針（案）講演会（講演 6 題） 5.19～20 第 24 回海洋開発シンポジウム（講演 130 題） 5.20～21「社会基盤整備における事業評価の意義」に関する国内・国際シンポジウム（講演 11 題） 5.20～21「橋梁と地下構造物の免震・制震」講習会 6.1 平成 11 年度 溶接シンポジウム（共催）（東京都） 6.3～4 地域シンポジウム「共生と循環—環境共生のまちづくり社会は循環をめざす」（講演 10 題） 6.10～11 第 5 回河道の水理と河川環境に関するシンポジウム（講演 40 題） 6.15 第 3 回鉄道力学シンポジウム（講演 15 題） 6.15～16 河村瑞賢没後 300 年記念フォーラム・シンポジウム 6.10～11 第 19 回土木史研究発表会（講演 52 題） 6.25 「都市と都市計画—世紀末から新世紀へ—」日本学術会議 50 周年記念第 3 回環境工学サロン」（共催） 7.1～2 第 29 回 安全工学シンポジウム（共催）（東京都）

1999（平成 11）年

行事・集会

- 7.6～7 第 7 回地球環境シンポジウム（講演 51 題，展示 35 点）
7.8 シンポジウム「レベル 2 設計地震動：現状と展望」（講演 20 題）
7.14 平成 11 年度サマーセミナー「土木学会による実務者のための耐震設計入門」（講演 50 題）
7.14～17「CONNECT'99」～平成 11 年度建設機械と新工法展示会～（共催）（東京都）
7.15～16 混相流シンポジウム'99（第 18 回）（共催）（吹田市）
7.16 応用力学フォーラム（第 11 回乱気流フォーラム）（講演 2 題）
7.16 第 2 回 生活環境設計シンポジウム（共催）（東京都）
7.21「第 3 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム」（講演 20 題）
7.28～30 1999 年度（第 35 回）水工学に関する夏期講習会 A，B コース（講演数：A コース 9 題 B コース 9 題）
7.29～31 第 25 回地震工学研究発表会（講演 400 題）
7.30 第 1 回鋼構造物の維持管理に関するシンポジウム（講演 11 題）
8.1～3 テクノパワー体験 SUMMER SCHOOL'99
8.3 水工学における計算機利用の講習会（講演 7 題）
8.18～19 高校土木第 33 回夏期講習会・見学会「21 世紀の社会基盤を考える」（基調講演 1 題，講演 3 題）
8.25～27 第 2 回構造物の診断に関するシンポジウム（講演 31 題）
8.27 杭基礎の耐震設計に関するワークショップ（講演 10 題）
8.31 第 2 回鋼構造と橋に関するシンポジウム－鋼構造の新技术に関するシンポジウム－（講演 7 題）
8.31 日本学術会議 50 周年記念第 3 回環境工学サロン（共催）（東京都）
9.10 「第 5 回レール/車輪の接触力学と摩擦に関する国際会議」「第 46 回風に関するシンポジウム」（共催）
9.21 第 2 回応用力学シンポジウム（特別講演 1 題，講演 1 題，論文発表 75 題）
9.28 コンクリート標準示方書改訂に関する中期ビジョン－コンクリート委員会・示方書委員会幹事会報告－（講演 11 題）
9.30～10.1 第 43 回材料研究連合講演会（共催）（京都市）
10.5 コンクリート構造物の補強指針（案）に関する講習会（講演 11 題）
10.5～6 橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会－耐震設計の現状と今後の展望－（講演 20 題）
10.13～14「土木学会による実務者のための耐震設計入門」（講演 30 題）
10.18～19 交通まちづくりと TDM－合意形成と社会実験－（講演 11 題）
10.21「原子力発電所の立地多様化技術－追補版－」の講習会（講演 7 題）
10.22 鋼構造及び合成構造設計・施工基準の世界の動向と今後の展開に関するシンポジウム（講演 9 題）
10.26～27 第 24 回土木情報システムシンポジウム（講演 80 題）
10.28 資源有効利用の現状と課題の講習会（講演 8 題）
10.30～31 第 27 回環境システム研究論文発表会（講演 102 題）
10.30～11.1 第 22 回土木計画学研究発表会（講演 102 題，スペシャルセッション 9 題）
11.4～5 第 10 回 キャピテーションに関するシンポジウム（共催）福井市
11.8 構造工学委員会講演会（講演 2 題）
11.9 日本学術会議 50 周年記念シンポジウム都市と都市計画一世紀末から新世紀へ（共催）（東京都）
11.10 NATM とシールドの境界領域におけるトンネル荷重に関する研究中間報告会（講演 6 題）
11.11～12 第 4 回複合構造の活用に関するシンポジウム（講演 53 題）
11.12 ワンディセミナー 16「都市内物流の新たな展開」（講演 2 題）
11.15 海岸工学講演会前日シンポジウム「地球環境問題研究／研究レビュー両小委員会の活動」（講演 3 題）
11.15「資源有効利用の現状と課題」講習会（講演 8 題）
11.16～18 第 46 回海岸工学講演会（講演 271 題）
11.17「ISO への対応」に関する第 2 回シンポジウム－ISO と CEN－（講演 8 題）
11.17 応用力学フォーラム（第 12 回乱気流フォーラム）（講演 2 題）
11.18 講演と懇談の会（四国支部共催）
11.25 第 17 回建設用ロボットに関する技術講習会－21 世紀の社会資本整備における建設用ロボットの役割－（講演 7 題）
11.25～26 第 9 回トンネル工学研究発表会（講演 59 題）
11.26 ワンディセミナー 17「交通事故分析と ITS による交通事故低減の可能性について」（講演 16 題）
11.26 Intelligent Bridge/Structure and Smart Monitoring に関する公開講演会（講演 6 題）
11.30「第 8 回新しい材料・工法・機械講習会」（講演 10 題）
12.1～3 第 36 回環境工学研究フォーラム（講演 90 題）
12.2 第 3 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム（講演 70 題）
12.3・9・10・13 「水理公式集改訂版」に関する講習会
12.7～8 第 6 回システム最適化に関するシンポジウム－人工生命の最適化技術の発展－（講演 25 題）
12.8 応用力学フォーラム（関東）（講演 3 題）
12.9 コンクリート構造物の性能設計に関する講習会－研究の現状と LMG 地下タンクの性能照査指針－（講演 12 題）

1999（平成 11）年

行事・集会

- 12.9「ライフサイクルコストに関するワークショップ」（講演 2 題）
- 12.9～10 変革への挑戦－新時代のシビルエンジニア・ビジョン－第 17 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会（講演 35 題）
- 12.10 第 2 回地震災害マネジメントセミナー 一次の大地震で防災計画は機能する－（講演 10 題）
- 12.14 研究報告会「橋梁の空力振動を抑える ー映像で見る現象と対策ー」（講演 14 題）
- 12.15 研究報告会「Bridge Aerodynamics への C F D－橋梁設計実務への適用と評価・将来への展望」（講演 6 題）
- 12.21 第 46 回 風に関するシンポジウム（共催）宇治市
- 12.22 第 4 回舗装工学講演会（講演 29 題）

1999（平成 11）年

支部の動き

- 北海道支部
- 2.4 第 2 回講習会「高流動コンクリート施工指針に関する講習会」
- 2.5 年次技術報告会 講演 283 題
- 2.8 支部活性化中長期ビジョン検討委員会中間報告会
- 2.8～9 年次技術研究発表会 発表数 284 題

- 2.16 講演会 講演数 2 題
- 4.9 支部活性化長期ビジョン検討委員会報告会
- 4.9 第 1 回講習会「北海道・北東北の地域間交流と観光インフラ」講演 6 題
- 5.21 第 2 回講習会「ロックシェッドの耐衝撃設計に関する講習会」講演 7 題
- 10.13～15 第 3 回講習会「土木学会における実務者のための耐震設計入門」講演 12 題
- 12.1.11 第 4 回講習会「コンクリート構造物の補強指針（案）」講演 10 題
- 12.2.23 講演会 講演 2 題
- 「土木の日」行事
- 8.10 見学会（定山溪ダム,札幌北口総合整備事業,JR 学園都市線高架工事現場）
- 11.27 見学会（新千歳空港,北大環状通り「エルムトンネル」,サケのふるさと館
- 11.18 講演会 講演 2 題
- 11.18 地方講演会 講演 1 題

- 東北支部
- 3.8 東北支部技術研究発表会
- ※「コンクリートポンプ施工指針」講習会
- 12.2.18 技術講座と映画の会 講演 3 題
- 12.3.14 東北支部技術研究発表会 講演 440 題
- 「土木の日」行事
- 6.12 野蒜築港 120 年シンポジウム
- 8.27～28 「ランドアート'99」
- 10.12 「庄内・土木技術フォーラム」講演 2 題
- 11.10～24 「各学園参加型関連行事」
- 11.20 第二回野蒜築港 120 年フォーラム
- 関東支部
- 2.23 講習会「第 10 回土木技術者に求められる資質と素養－技術士を目指されている方々のために－」
- 3.17 特別企画講演会（講演数 2 題）
- 3.17 パネル展示
- 3.17 特別鼎談「これからの社会資本整備と建設技術者の果たすべき役割」
- 3.17～18 第 26 回技術研究発表会（発表数 554 題）
- 10.8 講習会「21 世紀のより効率的な社会資本整備に向けて」－建設 CALS&CADD への取り組み状況と課題－ 講演 6 題
- 11.13 学生のための「情報技術（IT）時代における建設産業のすがた」講習会 講演 21 題
- 12.2.23 講習会「土木技術者に求められる資質と素養－技術士を目指されている方々のために－第 11 回」
- 8.28 コンクリートカヌー大会
- 「土木の日」行事
- 9.1～30 第 1 回「土木とくらし」写真コンテスト

1999（平成 11）年

支部の動き

（群馬会）
11.13 土木フェア in Gunma
11.17～21 土木フェア展示会&イベント
11.10 土木の日記念講演会
（栃木会）
11.18 記念講演会

1999（平成 11）年

土木一般	社会一般
1.19 建設省・自治省，各都道府県知事あて指名競争入札の改善につき厳しく通告	1.1 欧州連合（EU）の単一通貨ユーロ発行．流通は 2002.1，導入 11 ヶ国
1.25 名古屋市，環境庁などがゴミ処分場に反対していた藤前干潟干拓計画をほぼ断念	1.12 中央省庁等改革推進本部，2001 年からの行政組織の再編を決定するが一部先送り．
1.26 鉄道公団，九州新幹線・新八代～西鹿児島間の吉尾トンネル 6.040km が貫通．新幹線区間 128km のうち 88km がトンネル	1.19 奈良県明日香村の飛鳥京跡苑池遺跡から 683 年ごろに铸造されたと見られる富本銭が出土
1.ー 福岡県大牟田市に第 3 セクター方式の家庭用ゴミを燃料として使う電力会社が初登場	1.29 国土地理院，1 年間に 8 万 m ² の土地が埋め立てにより増加と発表
2.20 建設省，雲仙普賢岳の災害復旧工事で建設中の島原深江道路 4.6km が全線開通	3.16 大阪に売場面積 4896 m ² のジュンク堂書店が開店．この頃，各地で大型書店の開店が相次ぐ．
2.22 運輸省，環境庁の同意を得て，神戸市が申請中の神戸空港の埋立てを許可．	3.18 横浜みなとみらい 21 地区に高さ 112.5m の観覧車の営業開始．東京のお台場にも高さ 115m の観覧車が登場
3.13 北海道開発局，千歳川放水路計画中止．	3.19 ロシア南西部，北オセチア共和国のウラジカフカズで爆弾テロ．死者 64 人，負傷者 100 人以上
3.16 電源開発，沖縄県国頭村で世界初の沖縄やんばる海水揚水発電所 3 万 kW の試験を開始	4.14 JR 東海，山梨の実験線走行試験で無人リニアモーターカー時速 552km の世界新記録
3.19 建設省・運輸省，所管する公共事業の再評価の結果を公表．本年度中の中止 11 件．予算を要求しない事業休止 50 件を決定	4.28 改正道路交通法成立．走行時の携帯電話の使用禁止
3.24 フランス・イタリア国境のモンブラン道路トンネル内で車両 30 台の衝突・火災事故，死者 42 人	6.14 奈良県明日香村の飛鳥浄御原宮跡（672 頃）と見られる地域から庭園遺跡を発見と発表
3.27 道路公団，千葉県鋸南町～富津市間 11km の富津館山道路開通	6.29 九州・中国地方に豪雨．死者・行方不明者 40 人
3.ー デンマークのコペンハーゲンとスウェーデンのマルメを結ぶオーレスン海峡横断沈埋トンネル部 3.51km が完成．2000.7 総延長 15.84km 開通，両国が直結	7.12 日本原子力発電，敦賀発電所 2 号機の配管に亀裂．大量の冷却水漏れを発見
3.ー 千葉都市モノレール 1 号線・千葉～県庁前間開通し，千葉みなと～県庁前間 3.2km 全通	7.16 JR 東日本，上野～札幌間に新型特急寝台カシオペアの運行開始．2 階建て全室 2 人用の個室でテレビ・トイレつき．
4.1 建設・運輸・農水 3 省の仕事で使用する単位は SI 単位に切り替えと決定	8.2 インドの西ベンガル州で列車が正面衝突．死者 280 人以上
4.17 高知県と愛媛県境の国道 194 号・寒月山道路 6.4km 開通	8.14 神奈川県川北町の玄倉川で，大雨による増水でキャンプ中の 18 人が中州に取り残され濁流により死者 13 人
4.28 建設省・道路公団，中部縦貫自動車道・岐阜県白鳥町～福井県和泉村を結ぶ 11.3km のうち 6.2km が開通(田坂峠道路トンネル部を含む)	8.17 トルコ西部イズミットで M7.4 のコジャエリ地震．死者 1 万 7000 人
4.ー 大分県本耶馬溪町の現在最長の石造アーチ・耶馬溪橋（1923）116m（18m8 連）の修復工事が完了．通行が再開．	9.15 台風 15 号が九州南部から近畿，中部地方を縦断．死者 9 人
5.1 本四公団，西瀬戸自動車道・尾道～今治ルート（通称しまなみ街道）延長 59.4km 開通．2 車線（橋部分 4 車線歩道つき）．鋼斜張橋・多々羅大橋（当時世界最長支間 890m）．3 連続吊橋（第 1 来島大橋 980m，第 2 来島大橋 1465m，第 3 来島大橋 1570m）など合計 10 橋	9.23 台風 18 号が九州，中国地方を縦断．死者 26 人
5.13 川崎市の公害認定患者・車の排気ガスによる大気汚染として遺族が国と首都公団を提訴していた川崎公害訴訟の控訴審に対し，提訴から 17 年ぶりに和解勧告成立	9.21 台湾中部の車籠埔断層が動き M7.7 の地震．死者 2300 人以上
	9.30 茨城県東海村の加工会社 JCO の施設で臨界事故が発生．作業員 100 人が被爆，茨城県は半径 10km の住民 31 万人に退避を呼びかけ，死者 2 人
	10.1 新計量法が施行され，cc という単位が単位記号から外される．
	10.31 米国マサチューセッツ州沖でエジプト航空 990 便が墜落，死者 217 人

1999（平成 11）年

土木一般	社会一般
5.18 水資源公団、岐阜県の徳山ダム周辺で絶滅が近いクマタカの生息を確認、国が調査を行う 5.21 運輸省・新東京国際空港公団、成田空港の平行滑走路を2500mで計画を進めるが困難な場合は2200mの滑走路の建設で対応する方針を決定 5.ー 営団地下鉄13号線・池袋～渋谷間8.9km（2007開通予定）7駅に加え新千駄ヶ谷駅を追加決定 6.2 愛知県瀬戸市の愛知万博会場付近でもオオタカの生息を確認。道路予定地を変更 6.9 千葉県、東京湾内の干潟・三番瀬740haの埋立て計画を100haに圧縮する案を発表。環境庁は見直し案の再検討を指示 6.12 開発事業による環境破壊を軽減するため環境影響調査法（アセスメント法）施行 6.18 建設省、発注する直轄公示に国際規格ISO9000シリーズを導入と決定 6.22 神戸市、ポートアイランド沖に設置する埋立て面積271.6ha、滑走路2500mの神戸空港着工。2005年度開港の予定 6.27 山陽新幹線の福岡トンネル（8.488km）内でコンクリートがはく離しパンタグラフが損傷、送電不能のため14本が運休。落下したコンクリートは200kg。JR西日本では142本ある山陽新幹線の全トンネルで目視検査を実施、93本のトンネルで異常を発見。手抜き工事として補修を開始。運輸省、建設省とも同調 7.15 首都高速湾岸線・並木～杉田間および三溪園仮出入口～本牧阜頭間開通 7.30 神戸市、ポートアイランドと新港埠頭を結ぶ神戸港港島トンネルが完成。1.6km中520mは沈埋、取付部は開削工法で施工。神戸大橋に続く第2のアクセス 8.ー 横浜市営地下鉄1号線・横浜～湘南台間22.5km全通に伴い3号線・横浜～あざみ野間17.9kmと直通運転 11.1 道路公団、中部縦貫自動車道・油坂峠道路9.5km全通 12.4 山形新幹線・山形～新庄間全通し、東京～新庄間421.4kmを3時間30分で連絡 12.28 台湾で計画の中の新幹線プロジェクト、独仏連合を押え日本の企業連合が受注内定 12.31 1914年米国工兵隊により開通以来、米国の強い支配下におかれていたパナマ運河の管理権・運営権がパナマに移還 12.ー 東京電力、山梨県大月市・塩山市に有効落差714mを利用した純揚水式・葛野川発電所1号機40万kW完成。将来160万kWの予定 【その他】 ●スイスにアルプスを横断する延長19.1kmのフェライナ鉄道トンネル完成 ●米国ボストンの幹線道路に世界最大幅8車線、56.4mのチャールス川横断橋	11.1 関西電力、核燃料検査結果のデータ捏造で福井県高浜原子力発電所3号機のプルサーマル運転延期の最終報告。12.16エネルギー庁が4号機にもデータ捏造疑惑を発表 11.3 第61回文化勲章、阿川弘之、梅原猛ら5人が受章 11.12 トルコ北西部でM7.2の地震、死者500、負傷者3000人以上。アンカラ北部でもM7.2の地震、死者705人、負傷者5100人 11.ー 東京の東村山市で生ゴミの堆肥化を開始。この頃、生ゴミの堆肥化に取り組む自治体は10カ所を超える。 12.1 世界遺産委員会、日光の3社寺を世界遺産に登録。 12.15 ベネズエラ北部に集中豪雨。土砂崩れと洪水で死者3万人 12.20 ポルトガルに統治されていたマカオ、450年ぶりに中国 12.20 ポルトガルに統治されていたマカオ、450年ぶりに中国へ返還 12.22 奈良の長屋王屋敷跡から奈良時代の庭池の遺構が出土と発表 12.24 鹿児島県指宿市の水迫遺跡から1万5000年前の後期石器時代の堅穴住居跡、道路状置構が出土と発表

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

2000（平成12）年

会長 鈴木 道雄 副会長 岸 清, 彦坂 熙, 三浦 尚, 森地 茂, 山本 卓朗

会員数 33,559 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.21 土木遺産顕彰制度設置について承認 1.21 土木技術者資格制度検討 WG 設置について承認 1.21 日本学術会議 18 期会員候補者の推薦承認 1.21 JABEE が正式に発足 1.21 土木図書館増改築の承認 1.21 バングラデシュ工学会の協力協定承認 3.17 土木学会ロゴマークを選定 3.17 土木技術者の論理規定（英文）についての承認 3.17 ISO/TC113 の国内審議団体の引き受けについての承認 3.17 ベトナム建設学会との協力協定承認 3.17 支部交付金の新算定方式による算出を承認 4.21 土木学会賞の検討についての承認 4.21 「社会資本と土木技術に関する 2000 年宣言—土木技術者の決意—」標記宣言（案）の承認 4.21 海外支部設置に伴い細則を一部改正 4.21 建設コンサルタント委員会からコンサルタント委員会への名称変更の承認 5.12 土木技術者資格認定制度の承認 6.23 「社会資本整備と技術開発の方向に関する検討委員会」の設置を承認。同時に鈴木会長の委員長就任を承認 6.23 「技術者環境に関する特別委員会」の設置を承認、委員長に岡村 甫前会長 6.23 土木学会技術者資格評議会の規定等及び議長に岡村 甫前会長を承認 6.23 学術文化事業の指定型 1 件の承認 6.23 海外支部規定について承認 7.21 理事会・企画運営連絡会議構成について承認 7.21 固定資産の除却の承認 9.14 表彰規定、学術振興基金規程の変を承認 9.14 学術文化事業の指定型 2 件、一般型の承認 11.22 フィリピン土木学会協力規定の更新について承認 11.22 学術文化事業指定型 2 件の承認 11.27 JABEE・土木工学分野の説明会	3.17 「電気化学的補修工法に関する検討」, 「ベネズエラ洪水・土砂災害調査」の受託承認 6.23 「広域最終処分場計画調査（廃棄物海面埋立環境保全調査）」「歴史的土木構造物等調査」の 2 件受託承認 7.21 「四国における市民参加型公共事業の進め方に関する調査」の受託承認 7.21 「四国の自然災害に関する調査」の受託承認 7.21 神津島近海地震被害調査団の設置 9.14 「新技術教育の外部承定制度導入に関する調査」の受託承認 9.14 「土木施工マニュアルにおける現地における技術交流」の受託承認 9.14 「東海豪雨災害に関する調査団」の派遣 11.22 災害緊急対策部門よりメコン河洪水氾濫調査費用として災害調査費より 200 万を支出 11.22 新世代交通システム用超高性能コンクリート構造物建設施工指針（案）の検討、「土木海岸・海洋環境学」の受託承認	2.29 「バングラデシュ工学会との協力協定調印式および全国大会」古川参与（バングラデシュ・ダッカ） 3.3 ベトナム建設学会 Pham Hong Luan 教授一行 表敬訪問 4.16～18 ベトナム建設協会（VCA）との協力協定調印式 4.18～20 台湾分会設立総会へ岡村会長, Ellen Wang 国際委員会委員, 吉川国際室長が参加 4.24～26 「ACECC 第 2 回 Executive Committee Meeting」へ岡田 ACECC 会長, 日下部同事務総長, 芹野同事務局員, 住吉 2ndCECAR 組織委員会委員長, 寺師司幹事長が参加 5.15 ドイツ工学会 Mr.Franz Biedermann 表敬訪問 7.5～8 「韓国分会設立総会」へ鈴木会長, 花村国際委員会副委員長, 吉川国際室長が参加 9.7～9 第 4 回国際流体力学会議（共催）（横浜市） 9.21～22 中国土木水利工程学会 Dr.John Chien—Chuan Li 会長一行, 大韓土木学会 Dr.Kwang—Il Kim 会長一行, シンガポール工学会 Ms.Lee Bee Wah 副会長一行, 平成 12 年度全国大会出席 9.23～25 シンガポール工学会 Ms.Lee Bee Wah, 学術交流基金 9.25 米国工兵隊 Dr.Dennis Norris 夫妻シンシッピ川リバートレーニング紹介 10.17 「ACECC 第 3 回 Executive Committee Meeting」へ日下部 ACECC 事務総長, 芹野同事務局員, 住吉 2ndCECAR 組織委員会委員長, 寺師司幹事長, 花村同委員, 奥村同委員が参加 10.18 会長の海外出張 ASCE 全国大会（ワシントン州シリトル市） 10.18～21 「ASCE（米国土木学会）全国大会」へ鈴木会長, 三好専務理事, 嘉門国際委員会委員長, 花村同副委員長, 内村土木学会会員, 奥村土木学会会員, 中村土木学会会員, 吉川国際室長が参加 10.26 会長の海外出張 KSCE 全国大会（江原道コンピュンリゾート） 10.26～29 「KSCE（大韓土木学会）全国大会」へ鈴木会長, 花村国際委員会副委員長, 松尾事務局長が参加 10.30 長瀬団長以下 10 名程度の派遣で ISO 欧州調査 11.2 カナダ土木工学会 Dr.Robert Loov 会長, 表敬訪問 12.1 会長の海外出張中国（台湾）土木水利工程学会の全国大会に出席 12.1～3 「CICHE（中国土木水利工程学会）全国大会」へ鈴木会長, Ellen Wang 国際委員会委員長, 吉川国際室長が参加 12.8 大韓土木学会 Dr.Kwang—Il Kim 会長, 表彰制度打ち合わせ。

2000（平成 12）年

行事・集会（本部）

- 1.10 ワンデイセミナー18「ITS－効率的な道路利用に向けて」（講演 15 題）
- 1.14 第 5 回地下空間シンポジウム－環境と共生できる地下空間をめざして－（特別講演 3 題，査読付論文発表 13 題，一般投稿論文発表 18 題）
- 1.14 シンポジウム「国際化時代の橋梁デザイン」（講演 7 題）
- 1.25 平成 11 年度版コンクリート標準示方書〔施工編〕講習会－耐久的なコンクリート構造物の構築を目指して－（講演 14 題）
- 1.25～27 第 49 回理論応用力学講演会（共催）（東京都）
- 1.26～27 第 30 回岩盤力学に関するシンポジウム（講演 74 題）
- 1.27 第 13 回建設コンサルタントシンポジウム「千年紀に考えるコンサルティング・エンジニア－21 世紀社会への良質な資産の創造に向けて－」（講演 3 題）
- 2.1～2 第 15 回 環境工学連合講演会（共催）（東京都）
- 2.5 応用力学フォーラム（北海道支部）（講演 3 題）
- 2.9 コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会（講演 9 題）
- 2.10 コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会（講演 9 題）
- 2.22 最新の施工技術－2000. 2 講習会「トンネル・シールド技術の最前線」（講演 10 題）
- 3.1 応用力学フォーラム（第 13 回乱流フォーラム）（講演 2 題）
- 3.10 応用力学フォーラム（西部支部）（特別講演 1 題，論文提供 3 題）
- 3.15～17 第 44 回水理講演会（講演 211 題）
- 3.22 コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会（講演 9 題）
- 3.22 土木における景観・デザイン教育に関するワークショップ（講演 6 題）
- 3.27 第 1 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム（講演 54 題）
- 3.28 鋼繊維補強コンクリート柱部材の設計指針（案）講習会（講演 7 題）
- 3.29 第 3 回生活環境設計シンポジウム（共催）（東京都）
- 4.4～5 第 46 回構造工学シンポジウム（講演数 200 題）
- 4.18 21 世紀における社会基盤整備のあり方に関するシンポジウム（基調講演 1 題，パネルディスカッション）
- 4.18 第 4 回環境工学サロン（共催）（東京都）
- 4.20 コンクリート構造物の耐震性能調査－検査課題と将来像－（講演数 10 題）
- 4.20～21 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 19「土木計画における公平論を巡って」（パネル 1 件，講演数 16 題）
- 5.8 構造工学委員会講演会（講演数 2 題）
- 5.8～10 地下水に関する国際シンポジウム 2000（共催）（大宮市）
- 5.9・16 ケーブル・スペース構造の基礎と応用に関する講習会（講演数 9 日 11 題，16 日 11 題）
- 5.10 第 7 回工学教育連合講演会（共催）（東京都）
- 5.11～12 第 38 回原子力総合シンポジウム（共催）（東京都）
- 5.12 計算力学フォーラム「日本の計算力学の現状と課題」（特別講演 1 題，活動報告パネルディスカッション）
- 5.12 「土木工学における逆問題入門」講習会（講演数 11 題）
- 5.18～19 第 2 回リアルタイム地震防災シンポジウム（講演数 12 題）
- 5.18 研究報告会「コンクリート構造物のデザイナー－材料特性・プレキャスト・先人のデザイン・マネジメンター」（講演数 5 題）
- 5.19 「阪神淡路大震災の被害分析の基づくコンクリート構造物の耐震性能照査方法の検証－検討課題と将来像－」に関する講習会（講演数 19 題）
- 5.26 感性工学 2000（第 4 回感性工学シンポジウム）
- 6.1 第 2 回ライフサイクルコストに関するワークショップ（講演数 4 題）
- 6.2 第 2 回海洋シンポジウム（共催）（東京都）
- 6.8～9 第 5 回構造物の衝撃問題に関するシンポジウム（講演数 59 題）
- 6.8～9 2000 年度新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム（講演数 72 題）
- 6.9～10 地域シンポジウム「環境まちづくり交流会 in 京都」（基調講演 2 題，講演数 9 題，展示）
- 6.10～11 第 20 回土木史研究発表会（発表 132 件）
- 6.15～16 第 25 回海洋開発シンポジウム（講演数 107 題）
- 6.20 第 5 回環境工学サロン（共催）（東京都）
- 6.21～23 「土木学会による実務者のための耐震設計入門」平成 12 年度東京セミナー（講演数 11 題）
- 6.23 都市と都市計画－21 世紀－（共催）（東京都）
- 6.27 リサイクル工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 6.29 舗装工学研究小委員会講演会（講演数 4 題）
- 6.29 土木情報システム関西セミナー2000「土木分野における IT と情報共有技術」（講演数 9 題）
- 6.30 応用力学フォーラム「第 14 回乱流フォーラム」（講演数 2 題）
- 6.30 土木学会環境システムシンポジウム 2000「自然を利用した都市づくり」

2000（平成 12）年

行事・集会（本部）

- 7.6～7 第 8 回地球環境シンポジウム（講演題数・論文 46 件，パネル 37 件）
- 7.12 第 14 回コンサルタントシンポジウム「国際化と地震防災～構造技術者の役割と育成～」（講演数 8 題）
- 7.13～14 第 8 回建設ロボットシンポジウム（共催）（東京都）
- 7.13～14 第 30 回安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 7.15 土木計画学シンポジウム「災害リスク研究の最前線と社会への提言」（講演数 14 題）
- 7.19 フレッシュコンクリートのコンシステンシー評価指標に関するシンポジウムースランプの次にくるものー（講演数 16 題）
- 7.25～7.27 第 5 回レール/車輪の接触力学と磨耗に関する国際会議（共催）（東京都）
- 7.31～8.2 第 2 回交通・運輸研究に関する国際会議（共催）（北京市）
- 7.27 「連続繊維シートを用いたコンクリート構造物の補修補強指針」に関する講習会（講演数 9 題）
- 7.28 第 4 回耐震補強・補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム（講演数 19 題）
- 7.28 The Second International Summer Symposium（講演数 100 題）
- 8.1～3 2000 年度（第 36 回）水工学に関する夏期講習会
- 8.1～3 国際標準（ISO）の基づく構造物の設計法講習会（講演数・1 日 4 題，3 日 4 題）
- 8.3・9・25 トンネルコンクリート施工指針およびコンクリート構造物のコールドジョイント問題と対策に関する講習会（講演数 3 日 12 題，9 日 12 題，25 日 12 題）
- 8.8 土木工学系高等教育機関における倫理教育に関する講習会（講演数 6 題）
- 8.8～9 第 5 回水シンポジウム 2000 in くまもと（基調対談，テーマ 4 題）
- 8.22～23 第 34 回夏期講習会・見学会「21 世紀の土木を変革する情報技術（IT-Information Technnology）」（講演数 5 題）
- 8.28 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 20「近年の豪雨災害を踏まえた新たな洪水対策の展開ーソフト対策による被害軽減策の新しい流れー」（講演数 18 題）
- 8.30 第 3 回鋼構造と橋に関するシンポー環境に配慮した鋼構造物ー（講演数 8 題）
- 9.1 コンクリート長大アーチ橋の設計・施工技術の現状と将来に関するワークショップ（講演数 7 題）
- 9.12 「コンクリート構造の時間依存変形・ひび割れ評価ー現状と今後の課題ー」に関する報告会（講演数 21 題）
- 9.13～14 第 44 回材料研究連合講演会
- 9.20 第 3 回応用力学シンポジウム（特別講演 1 題，講演数 89 題）
- 9.21～23 第 55 回年次学術講演会（3890 題）
- 9.28 高地震力に対する土構造物の耐震設計法に関する研究報告会（講演数 13 題）
- 10.5～6 「1995 年兵庫県南部地震」5 周年特別企画「日本，地震，あれから，これから」（講演数 55 題）
- 10.11～13 「土木学会による実務者のための耐震設計入門」平成 12 年度福岡セミナー（講演数 11 題）
- 10.11～12 「第 2 回道路橋床版シンポジウム」および「鋼橋床版の調査研究小委員会活動成果報告会」（講演数 57 題）
- 10.13 ローカルサイトエフェクト（地震動の地盤内増幅）の耐震設計への導入に関するワークショップ（講演数 8 題）
- 10.20 橋梁構造等の耐震設計法に関する講習会（講演数 11 題）
- 10.24～25 第 25 回土木情報システムシンポジウム（講演数 100 題）
- 10.26～27 第 28 回環境システム研究論文発表会（講演数 125 題）
- 10.27 ワンデイセミナーシリーズ 21「行動理論と土木計画」（講演数 7 題）
- 11.2 「鋼構造物の性能照査型耐震設計と耐震用高機能鋼材」に関するセミナー（講演数 8 題）
- 11.6 コンクリートのクリープ・乾燥収縮に関する研究成果報告会（講演数 9 題）
- 11.6 風災害フォーラム「21 世紀を前にー強風災害の変遷と教訓ー」（共催）（東京都）
- 11.6～8 第 4 回構造物の安全性および信頼性に関するシンポジウム（共催）（東京都）
- 11.7 橋梁振動モニタリングのガイドラインに関する講習会（講演数 7 題）
- 11.7～9 第 47 回海岸工学講演会（講演数 276 題）
- 11.8～9 第 2 回日本制震シンポジウム（共催）（京都市）
- 11.10 「環境評価・環境コスト」講習会（講演数 5 題）
- 11.13 構造工学委員会講演会（講演数 2 題）
- 11.16 第 2 回免震・制震コロキウム（講演数 42 件）
- 11.17 社会資本のメンテナンスに関するシンポジウムー第 3 回構造物の診断に関するシンポジウムと第 2 回鋼構造物の維持管理に関するシンポジウムーの合同シンポジウム（講演数 8 題）
- 11.20 平成 12 年度土木の日特別行事公開座談会（講演数 2 題）
- 11.23～25 第 23 回土木計画学研究発表会（講演数 2 題，発表 430 件）
- 11.27～28 日本技術者教育認定機構・土木分野の説明会（講演数 10 題）
- 11.28 講習会「都営地下鉄 12 号線（大江戸線）環状部の施工技術」（講演数 10 題）
- 11.29 トンネルの設計における限界状態設計法の適用についての中間報告会（講演数 4 題）
- 11.29 「ISO への対応」に関する第 3 回シンポジウム（講演数 7 題，パネルディスカッション 1 題）
- 11.29～12.1 第 16 回風工学シンポジウム
- 11.29～30 第 37 回環境工学研究フォーラム（講演数 84 件）

2000（平成 12）年

行事・集会（本部）

- 11.30 応用力学フォーラム（第 15 回乱流フォーラム）（講演数 3 題）
- 11.30 ライフサイクルコストに関するワークショップ（講演数 4 題）
- 11.30～12.1 第 10 回トンネル工学研究発表会（講演数 12 題，報告 44 題，パネルディスカッション「21 世紀のトンネル工学を考える」1 題）
- 12.5 「第 19 回土木学会映画・ビデオコンクール」入賞作品発表会・表彰式（上映 3 作品）
- 12.5 「コンクリート構造物の腐食・防食および維持管理」に関する講習会（講演数 19 題）
- 12.6 土木のデザインとコンセプト
- 12.6 第 18 回建設用ロボットに関する講習会 テーマ「災害復旧における無人化施工」－施策の背景と技術の変遷（雲仙から有珠山まで）と将来展望－（講演数 6 題）
- 12.7 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 22「交通事故分析と ITS による交通事故減の可能性について（2）」（講演数 12 題）
- 12.7～8 第 18 回建設マネジメント問題に関する研究発表会（パネル 1 件，講演数 2 題，発表 48 件）
- 12.8 第 4 回地震時保有耐力法に基づく橋梁の耐震設計に関するシンポジウム（講演数 100 件）
- 12.8 第 3 回東京湾海洋環境シンポジウム
- 12.9 コンクリート標準示方書[維持管理編]に関する講習会（講演数 12 題）
- 12.13～15 第 7 回鉄道技術連合シンポジウム（共催）（川崎市）
- 12.22 流体力の評価とその応用に関するシンポジウム（講演数 8 件）

2000（平成 12）年

支部の動き

北海道支部

- 2.9 第 5 回講習会「有効資源利用に関する講習会」講演 6 題
- 5.10 第 1 回講習会 平成 11 年度コンクリート標準示方書（施工編）（講演数 2 題）
- 6.2 第 2 回講習会 水理公式集改訂版に関する講習会（講演数 12 題）
- 7.13 第 3 回講習会 岩盤斜面の調査と対策に関する講習会（講演数 6 題）
- 8.25 第 4 回講習会 仮設構造物の計画と計画と施工「平成 12 年版」に関する講習会（講演数 10 題）
- 12.8 第 5 回講習会 コンクリートのポンプ施工指針に関する講習会（講演数 7 題）
- 「土木の日」行事
- 8.5 一般市民対象（親子）現場見学会（豊平峡ダム、藻岩発電所）
- 8.11 高校教諭対象現場見学会（有珠山噴火の現状、日本道路公団・豊浦間工事現場）
- 11.17 講演会（パネルディスカッション）
- 11.17 映画会（「土木の日」講演会）

東北支部

- * 講習会「仮設構造物の計画と施工」
- * 「技術講座と映画の会」（講演数 3 題）
- 「土木の日」行事
- 8.12 見学会（安積疎水通水から 120 年－今再び郡山を考える－） 安積疎水関連施設
- 9.30～10.1 「ランドアート' 2000」
- 11.1 「庄内・土木技術フォーラム」
- 10.21～22 学園参加型関連行事（東北工業大学）
- 10.21～22 学園参加型関連行事（日本大学工学部）
- 11.18 土木の日フェスティバル' 2000（安積疎水通水から 120 年－今再び郡山を考える－）
- 11.25 野蒜築港 120 年フォーラム

関東支部

- 4.21 第 6 回「KANTO シビックサークル」一産・官・学の技術者交流会－
- 7.17 平成 12 年度中学生記者取材講習会（港湾コース：運輸省第 2 港湾横浜調査設計事務所水理環境実験センター等、空港コース：空港内緒施設見学）
- 8.26 第 6 回土木系学生によるコンクリートカヌー大会
- 8.31 講習会「仮設構造物の計画と施工（平成 12 年版）に関する講習会」（講演数 10 題）
- 11.10 講習会「21 世紀のより効率的な社会資本整備に向けて－PM（プロジェクトマネジメント）への取り組みの現状」（講演数 6 題）
- * 次世代土木技術者育成支援事業（仮称）

2000（平成 12）年

支部の動き

●「土木の日」行事

6.1～9.30 第 1 回「土木とくらし」写真コンテスト

10～12. 第 1 回見学会 技術研究所見学会（各企業体と共催）

11.25 第 2 回見学会 「東京における近代土木遺産」見学会（高校生対象）（東京大学工学部 1 号館）

11.22 第 3 回見学会（首都高中央環状線西新宿シールドトンネル工事,みなとみらい 21 線との相互直通運転に伴う東急東横線地下工事現場見学）

中部支部

5.9 講演会「最近の科学技術の進歩」,「静岡県の土木行政の概要」

5.11 講習会「平成 11 年度版コンクリート標準示方書施工編 ー耐久性照査型ー制定に伴う講習会」

6.28 講習会「仮設構造物の計画と施工〔平成 12 年度版〕

9.13 市民ゼミナール 第 1 回「愛知万博をめぐる最近の動き」

10.6 留学生交歓会

10.11 市民ゼミナール 第 2 回「山の時間と人の時間 ー山国日本の治山・治水ー」

11.18 市民ゼミナール 第 3 回「明治の土木事業に学ぶ ーデ・レイケの業績に見るシビル・サイエンス」

11.30 講習会「渋滞と環境を中心とした欧州の交通政策の最新情報」

12.18 技術講座 第 1 回「土木構造物の耐震設計」

12.19 市民ゼミナール 第 4 回「土木景観をつくる ー風景と土木構造物との融合・調和ー」

＊ 見学会（国 152 号（新鹿島橋）,佐鳴湖公園・佐鳴湖浄化事業,（主）浜松環状線（新川大橋）,東地区区画整理事業）

●「土木の日」行事

10.28 土木の日見学会「名古屋港周辺及びその周辺土木施設及び工事現場の船上見学」（名港トリトン,高潮防波堤,中部国際空港,第 2 名神木曽川揖斐川橋梁架設現場）

11.12 市民見学会「土木施設と海のかかわりを考えよう」（第 2 名神高速道路建設現場,中部国際空港建設現場,四日市港ポートビル,中部電力川越火力発電所）

11.12 市民見学会「鉄道のかこ・げんざい・みらいをたずねる」（地下鉄 4 号線（本山～名古屋大学）,レトロでんしゃ館,HSST 大江実験センター）

11.19 市民見学会「大型橋梁工事,地すべり対策,下水道処理の取り組み」（茂管 2 号橋,下石川地すべり,アクアパル千曲）

関西支部

5.26 トンネル切羽前方探査に関するシンポジウム・講習会

6.27 平成 11 年度版コンクリート標準示方書〔施工編〕講習会

8.21 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会（設計技術者対象研修会）

8.22 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会（施工技術者対象研修会）

9.8 仮設構造物の計画と施工〔平成 12 年度版〕に関する講習会

11.16 これからの社会資本整備に関する講習・研究討論会

●「土木の日」行事

11.11 「環境楽土（エコパラダイス）」（エコランド音羽の杜見学とシルクホールでのイベント開催）

11.11～12 ー 00 土木の日行事「すごいぞ土木 Heart Warming」

中国支部

10.3 技術者向け講習会

10.20 コンクリート講習会

11.1 技術者向け講習会

11.20～21 土木フォーラム

11.25 工事報告会

6.2～3 支部研究発表会（発表数 391 題）

＊ 学生工事見学会（土木の日の見学会と共催）

●「土木の日」行事

10.6～8 みる・きく・ふれる建設技術フェア

10.20～23 こどもミニ土木博（福山会場）

11.1～3 「土木遺産を考える」

11.5 こどもミニ土木博（東広島会場）

11.4～5 こどもミニ土木博（広島会場）

2000（平成 12）年

支部の動き

11.10 土木の日記念講演会
11.11～12 第 7 回くらしと土木展
11.18 土木と環境デザイン
11.18 しまなみ海道橋梁技術勉強会
11.18 親子見学会
11.18 「土木の日」行事
11.18（周辺）山陽道見学会
11.18（周辺）山陰道見学会
10 月 11 月 現地見学会

四国支部

5.22 講演会「APEC エンジニア相互承認の特徴と技術者教育に与えるインパクト」
9.29 「トンネルコンクリート施工指針及びコンクリート構造物のコールドジョイント問題と対策」
10.13 「仮設構造物の計画と施工」に関する講習会
11.14 土木の日記念講演会

西部支部

1.18 「沿岸域・河川域の環境改善技術」講習会
2.16 技術発表会 講演 6 題
3.7 「コンクリートのポンプ施工指針」講習会
4.25 「平成 11 年度版コンクリート標準示方書施工編 ー耐久性照査型ー制定」講習会
5.25 特別講演会（総会）
7.14 「新しい材料,工法・機械」講習会
8.30 見学会（会員）「長崎駅,女神大橋現場等の見学」
9.13 「仮設構造物の計画と施工」講習会
10.14～22 海外研修 アメリカ現場見学等
10.25 見学会（一般市民）「九州電力九重地熱発電所等の見学」
11.25 見学会（会員）「北九州空港連絡橋及び響灘現場見学」
●「土木の日」行事

福岡地区

建設技術フェア 2000 会場の一角にて,土木の日 PR,パネル展示,ビデオ上映会,イベント

北九州地区

「土木学会選奨土木遺産」引渡式,土木重機展示・試乗,ビデオ上映会等

佐賀地区

土木フェア,嘉瀬川河川敷バルーンフェスタ会場,パネル展示,体験コーナー,クイズ他

長崎地区

土木の日「浜町パネル展」浜町アーケード街,パネル及び模型展示他

熊本地区

小学生による絵画コンクール

大分地区

土木の日 PR,見学会,他

宮崎地区

街頭 PR「土木ふれあい」マップやリーフレット等配布,現場見学会

鹿児島地区

’ 00 土木フェスタ in KAGOSHIMA スケッチコンクール表彰式,優秀作品展示・表彰

沖縄地区

「土木の日」パネル展,模型 PR 展示

2000（平成12）年

土木一般	社会一般
1.10 東京の多摩都市レール・立川北一多摩センター間 10.6km 開通し、多摩センター～上北台間 16km が全通 1.22 韓国の大邱市の地下鉄 2 号線の工事現場で長さ 30m、幅 40m にわたり道路と覆工板が崩壊。死者 3 人 1.23 吉野川可動堰計画の賛否を問う住民投票に対し反対票 90.14%（総投票数 11 万 4000 票弱）。計画を白紙に戻し再検討となる。 2.28 運輸省、山陽新幹線、福岡・北九州トンネルのコンクリート崩落事故を受けトンネル安全問題討論会を設置、報告書を公表 3.17 文化財保護審議会、横利根閘門（1921）、船頭平閘門（1902）、など 8 件を重要文化財に指定。109 件の登録文化財を決定 3.22 中部電力、三重県知事の要請を入れ芦浜原子力発電所の建設を断念 3.22 奈良県明日香村教育委員会、日本最大級の導水施設を同村で発見と発表。655～661 年の両槻宮の一部とされる。 3- JR 仙石線・仙台地区地下鉄工事および JR 立体交差化終了。地下鉄南北線と結節 4- 本四公団、神戸鳴門ルートの大鳴門橋の下層鉄道橋部分を廃線、遊歩道として公開 4- 東京電力、千葉県に専用埠頭を持つ富津火力発電所（LNG）200 万 kW 完成 4- 八丈島で日本初の風力発電 500 万 kW の発電開始 5- 建設現場の廃棄物再利用のための建設資材リサイクル法公布 7- 東北電力、秋田県能代市に能代火力発電所（石炭）120 万 kW 完成 7- デンマークとスウェーデン両国を複合沈埋トンネル・人工島、併用橋で結ぶ 15.84km のオーレスン海峡横断路が開通、工費 2700 億円は同距離の東京湾横断道路の 5 分の 1 と野党が批判 8.7 農水省、1988 年以来工事が中断中の島根県中海干拓工事の中止を決定 8.22 国際調査団、ペルー・ボリビア国境のチチカカ湖底に水没していた延長 3km、幅 60m の遺跡群を発見、寺院・石垣・道路などを確認。先インカ期 500～1000 年のものと推定 8.28 政府、予党 3 党の申し入れを受け公共工事 255 件 2 兆 8000 億円の中止勧告に同意、中止確定の 24 件は中海、吉野川河口堰など。11.28 建設・運輸・農水の 3 省で最終決定 9.9 鉄道公団、東北新幹線・盛岡～八戸間に世界最長の陸上鉄道トンネルの岩手一戸トンネル 25.8km 貫通 9.18 朝鮮戦争で分断されていた韓国と北朝鮮間の京義線と沿線道路の連結起工式 9.26 東急目蒲線目黒駅完成。目蒲線の復々線化を行い、営団地下鉄南北線、都営地下鉄三田線が相互乗り入れ開始 9- 香港道路局、九竜からビクトリア湾口を横切り北の新界へつながる道路の一部にストンカッター島橋の競争設計を公開。2006 年の完成時には中央支間 1018m の世界最長支間斜張橋 9- 北陸電力、敦賀火力発電所（石炭）120 万 kW 完成 10.8 土木学会、選奨土木遺産 10 カ所を初指定 10- 中国電力、島根県に三隅火力発電所 1 号機（石炭）100 万 kW 完成。2 号機は出力・期間とも未定 10- 東京都、三宅島噴火をうけ 440ha に火山砂防ダム 28 基の建設に着工（～2001）	1.30 ルーマニア北西部バイアマルの金製錬工場でシアン化合物 100t がドナウ川ティサ川に流入、ハンガリー、ユーゴスラビアの流域一帯で川水の飲料中止、漁業に大被害 1.31 ケニア航空のエアバス A310 アビジャンの空港を離陸後、海に墜落。死者 169 人 1.31 神戸地域、尼崎公害訴訟で国と阪神公団の責任の一部を初認定 2.3 京都の長岡京跡から 13 棟の建物跡を発見 2.22 アフリカ南東部一帯に洪水、モザンビーク南部に壊滅的被害。河川の氾濫で冠水。死者 700 人以上。被害者数十万人 3.8 営団地下鉄日比谷線の中目黒付近で下り電車脱線上り電車と衝突、死者 5 人、重軽傷者 35 人、脱線事故をめぐり議論続出 3.21 大口需要家向けに電力小売り自由化、一般企業・団体も電気の販売が自由となる。 3.27 奈良県桜井市の方後円墳ホケノ山古墳は 3 世紀半ば、この種では最古の古墳と発表 3.28 年金制度改正法が成立、厚生年金の支給年齢 65 歳 3.29 北海道の有珠山、23 年ぶりに噴火し噴煙 3200m に達する、温泉街が長期間閉鎖 4.1 介護保険制度が発足 4.13 平城京跡から奈良時代後半の池や建物などの園池遺跡を発見 4.14 コンゴの首都キンシャサ国際空港で弾薬庫が爆発、死者 10 名 4.28 出雲大社から高層本殿を推測させる直径 3m の柱 3 組を発見 4- 東京都、ビルの屋上 2 割を緑で覆う屋上緑化の指導を強化 5.5 さいたま新都心（大宮、浦和、与野）の街開きを開催 5.23 ヨーロッパ 4 カ国を訪問中の天皇・皇后、オランダ初訪問で第二次世界大戦中の旧日本軍による戦争被害を謝罪 5.30 政府、2001 年 1 月から実施の中央官公庁再編に関する政令を決定。国土交通省は大臣官房、総合政策局、国土計画局、土地・水資源局、都市・地域整備局、河川局、道路局、住宅局、鉄道局、自動車交通局、海事局、港湾局、航空局、北海道局の 13 局 5- 埼玉大学、東京八重洲に国立大学初のサテライト教室を開設 6.1 ドイツのハノーバーで万国博覧会開催（10.31）。入場者は 4000 万人の予測が 1800 万人で大赤字 6.4 インドネシア・スマトラ島南部で M7.3 の地震。ベンクルーやエンガノ島で建物多数が崩壊、死者 120 人以上、負傷者 500 人以上 6.6 公害調停委員会、香川県豊島に違法投棄された産業廃棄物 50 万 t の撤去につき香川県と豊島との間に 2016 年末処理を条件に調停、県が謝罪 6.13 韓国の金大中大統領と北朝鮮の金正日総書記が 1945 年の分断後初会見（～6.15） 6.16 皇太后良子（香淳皇后）97 歳で没 6.26 三宅島に地震多発、緊急火山情報、住民 2300 人に避難勧告、安定したため 29 日勧告解除 7.1 伊豆半島で M6 級の地震多発。神津島・新島・三宅島では火山噴火などで被害多発（～7.17） 7.8 三宅島雄山噴火

2000（平成 12）年

土木一般	社会一般
10.ー 関西電力、大阪市内の電力需要増大策として 11.5km の電力幹線洞道をシールド工法で建設、地下空間の有効利用を推進 11.ー 韓国ソウルと仁川国際空港間に 40km の高速道路開通、併用自走式 2 層吊橋で中央支間 300m の永宗大橋 11.ー ノルウェー、オスロとベンゲルを結ぶヨーロッパ道路 16 号に道路トンネルでは最長の 24.5km のラウダールトンネルが開通、工事費 150 億円 12.12 都営地下鉄大江戸線小径トンネル採用で都庁前～光が丘間 40.7km 全通(環状部 28.8km) 12.12 台湾高速鉄道、日本企業 7 社と台湾新幹線への日本新幹線システム導入につき調印、台北～高雄間 345km を 90 分で結び開通は 2005 年 10 月 12.14 東北新幹線・八戸～青森間の市ノ渡工区で世界最長となる八甲田トンネル 26.5km(2010 年完成)の切羽付近で大量の土砂が流入、エアモルタルを注入して固化、死者 1 名 12.15 チェルノブイリ原子力発電所(1986.4.26 爆発事故)全面閉鎖決定、事故を起こした 4 号機内部はコンクリートで封じられているが内部には 140t の核燃料が放置、嚴重な注意が必要 12.ー 電源開発・四国電力、徳島県阿南市に栈橋を持つ橘湾火力発電所 1、2 号機 210 万 kW、および四国電力橘湾発電所 70 万 kW、合計 280 万 kW 完成、総面積 118 万 k m²、海底ケーブル 50km、送電線 5km で和歌山県へ送電 12.ー 建設省、創設した歴史的ダム保全事業として日本最古のアースダム・狭山池の治水ダムへの改修と旧堤体の全断面(底幅 60m、堤高 15m)を移築し保全、狭山池博物館を建設 〔その他〕 ●1999 年から 2000 年にかけて、1970 年代に建設された新幹線トンネルの内部コンクリートが崩落する事故が頻発、高価な補修工事につながる、 ●三菱横浜造船所(旧横浜船渠)第 1 号ドック、1999 年の第 2 号に続き重要文化財に指定(横浜 MM21 地区に移設)	7.10 フィリピンのマニラ首都圏北東部のパタヤ地区のゴミ集積場で高さ 50～60m のゴミ山が 100m にわたり崩落、死者・行方不明者 200 名以上 7.21 第 26 回サミット、沖縄県名護市で開催 7.25 エールフランスの超音速旅客機コンコルドがシャルル・ドゴール空港離陸後に墜落、死者 113 人 8.10 奈良の方広寺で東大寺大仏をしのぐ規模の仏像台座と見られる最大級の台座跡を出土と発表 8.14 ロシアの原子力潜水艦クルクスがバレンツ海海底で航行不能、救助作業に失敗、死者 118 人 8.18 三宅島で噴煙 8000m 以上に達し島全体に火山灰降下 8.23 カイロ発マナマ行きでカフル航空のエアバス、パーレーン国際空港付近で墜落、死者 143 人 8.27 モスクワのオスタンキノテレビ塔の地上 460m で火災、死者 3 人、30 日から放送開始 9.11 北海道浦河町沖で底引き網漁船・第 5 竜宝丸が沈没、行方不明者 14 人 9.11 台風 14 号が沖縄に接近、名古屋市など東海地方で記録的な大雨、愛知県内の 8 河川で床上・床下浸水 6 万 9000 棟、東海道新幹線も 22 時間ストップ(～9.12) 9.15 第 27 回オリンピック競技大会、シドニーで開催(～10.1)、日本は金 5・銀 8・銅 5 のメダル獲得 10.6 中国地方を中心に M7.3 の鳥取県西部地震、境港市で震度 6、岡山県、香川県で震度 5、家屋崩壊 500 棟以上、地盤の液状化、交通機関の寸断、停電 1 万 7000 棟、負傷者 90 人以上 10.10 大蔵省、国家財政の貸借対照表を初公開、負債総額 776 兆円 10.10 2000 年のノーベル化学賞、白川秀樹筑波大学名誉教授ら 3 人が受賞、化学賞は福井謙一以来 2 人目(1981) 10.17 奈良の元興寺の禅室に 582 年伐採の世界最古と見られる木材が使われていたと発表 10.31 シンガポール航空のボーイング 747-400 機が台北の中正桃園空港で離陸に失敗し炎上、乗客・乗員 179 人中、死亡者 83 人 11.3 第 62 回文化勲章、石川忠雄、白川秀樹、野依良治ら 6 人が受賞 11.5 東北旧石器研究所の藤森純一副理事長、宮城県の上高森遺跡と北海道の総進不動坂遺跡の石器発見を捏造と記者会見、以後調査で捏造続出 11.11 オーストリア・アルプスの登山ケーブルカーの 3.2km のトンネルを通過中に火災、死者 155 人(日本人 10 人) 11.29 秋田県大館市の花岡鉱山で、1945.6.30 中国人労働者が蜂起し 418 人が処刑された事件の中国人側が保証を求めた訴訟で、鹿島組が被害者 986 人に対し 5 億円の基金を設立、中国紅十字会に寄託することで和解、戦後補償裁判での一括救済は初の経験 11.30 世界遺産委員会、琉球王国のグスク及び関連遺産群を世界遺産に登録 12.2 インドのパンジャブ州パティアラ近郊で列車の衝突事故、死者 43 人負傷者 150 人以上 12.8 尼崎公害訴訟で原告側の住民が勝訴し国と阪神公団が控訴していた裁判で、大型車の交通規制の具体化を条件に控訴から 12 年目に和解が成立 12.15 2005 年日本国際博覧会(愛知万博)開催決定、のちオオカの営巣の確認などから開場の森会場位置を移転、敷地も縮小、宅地開発も中止となる、

2000（平成 12）年

土木一般	社会一般
	12.17 福井県松岡町で京福電車の上り線，下り線が正面衝突，死者 1 名，重傷者 25 人 12.25 中国・洛陽市のビルで火災，死者 309 人

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編纂した。

2001（平成13）年

会長 丹保 憲仁 副会長 青山 俊樹, 角田 與史雄, 川嶋 康宏, 富岡 征一郎, 彦坂 熙

会員数 34,420 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.19 土木学会継続教育の実施について承認方法を一部修正することで承認 1.19 海外支部規定等の変更承認 1.19 環境工学、地球環境委員会の内規変更の承認 1.19 学術文化事業指定型 4 件、寄付 岡田 宏元会長の受入承認 4.20 土木技術者資格認定制度について、4 ランクの技術者資格と名称、5 つの資格要件、審査方法、資格分野等の技術者試験の仕組みについて取りまとめることが承認 4.20 技術者登録制度の承認 4.20 基本財産取り崩し承認 4.20 土木学会土木会館増改築工事について、図書館建替に伴い、個人会員から 1 口 5000 円以上寄付の依頼を決定 4.20 土木学会論理規定の運用について、名誉を傷つけ、目的に違反した場合の対応について検討していく旨を承認 4.20 土木学会規程および内規の「緊急災害発生に対する緊急調査派遣にかかわる内規」、「土木学会フェロー制度に関する規程」、「土木学会会計規程」の一部変更が承認 4.20 土木製図 JIS 改正特別委員会の設置が承認 4.20 学術文化事業指定型 1 件助成及び指定型寄付 1 件の受入承認 5.11 土木技術者資格認定制度について、1 級技術者の総合的資格分野は当面 1 つにするなど「資格分野」の欄の改善と 1 級技術者を 9 つの分野に分け承認 5.11 土木学会技術推進機構運営規程の制定に伴い、土木学会の運営規程、事務局就業規則が一部改正 5.11 フェローの認定 5.11 技術者登録制度と技術者環境改善の提言を承認 5.11 パキスタン工学会との協力協定を承認 5.24 土木図書館増改築起工式 6.26 日本中国共同主催、「日本・中国地震防災技術セミナー」承認 6.26 「日本・中国地震防災技術セミナー」への参加者に交通費 50 万円を支給することが承認 6.26 「原子力土木委員会」「地下空間研究委員会」の内規変更 6.26 「継続教育実施委員会」「技術評価制度検討委員会」の新設承認及び土木学会技術者資格委員会、技術者登録委員会内規の承認 6.26 学術文化事業指定型 1 件の助成を承認	1.19 エルサルバドル地震被害調査団の派遣を承認。ただし、調査報告は災害現地へも報告することを条件に承認 3.23 インド西部地震被害調査団の派遣 4.20 平成 12 年度鹿児島学術振興財団研究助成が決定 5.11 「建設技術の研究開発助成制度」の受託承認 5.11 技術者教育プログラム審査委員会の設置 5.11 「電力施設解体コンクリートの利用技術確立に関する研究」の受託承認 6.26 「四国地方の土木遺産八十八カ所調査研究」「宍道湖・中海の水質生態系の評価に関する研究」「神戸文明博物館群構想の中核を担う土木博物館（仮称）の屋外展示等具体化検討調査」3 件の受託承認 7.27 「電気炉酸化スラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針案の作成」「四国的高速道路利用者の将来推定に関する研究」「四国における石炭灰のコンクリートへの適用性に関する調査研究」「平成 13 年度大深度地下利用に関する技術開発ビジョンの検討に関する調査」「基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価手法の体系化に関する研究」5 件の受託承認 11.19 「包括設計コード検討基礎調査」の受託承認	1.19 関西国際空港が ASCE の「ミレニアム・モニュメント」(20 世紀を代表とする土木事業選定プロジェクト) に選定され表彰 2.16～20 IEB (パシフィコデシユ工学会) 全国大会に花村国際委員会副委員長参加 (パシフィコデシユ・クラナ) 3.13 大韓土木学会 Dr.Kwang-Il Kim 会長、学立取得に伴う表敬訪問 4.13 中国土木学会 李逸定 国際連絡部顧問表敬訪問 4.16～19 米国土木学会 Mr.Robert Bein 会長、中国土木水利工程学会 (台湾) Dr.John Chien-Chung Li 会長一行、大韓土木学会 Dr.Kwang-Il Kim 会長一行、フィリピン土木学会 Mr.Ellen H.Sison 会長一行、ベトナム土木学会 Dr.Nguyen Thuong Tien 理事、オーストラリア工学会 Mr.Andrew McIntyre 土木委員長一行、第 2 回アジア土木技術国際会議出席 4.16～20 第 2 回アジア土木技術国際会議 (共催) (東京都) 5.24～29 「パキスタン工学会 (IEP) との協力協定調印式」花村国際委員 5.24 CH2M Hill 社名誉会長、米国土木学会前会長 Dr.James W.Poirrot, 第 87 回通常総会出席 7.11 ベトナム土木学会 Mr.Nguyen Duy Thang 副事務局長、学術交流基金 7.19～20 日本・中国地震防災技術セミナー (共催) (北京市) 8.19～22 第 2 回材料に関する国際会議 (共催) (USA・カリフォルニア州) 9.10～14 第 2 回 IAHR Symposium on River, Coastal and Estuarine Morphodynamics (共催) (帯広市) 9.21 国際委員会において合意を得たトルコ土木学会 (TCCE) との 18 カ国目の協力協定が承認 10.2～4 パキスタン工学会 Engr.Ch.Muhammad Rashid Khan 事務局長、大韓土木学会 Dr.Sung-Pli Chang 会長一行、中国土木水利工程学会 (台湾) Mr.Chi-Shou Hsieh 理事一行、アジア土木協会連合協議会 Dr.Kwang-Il Kim 会長、平成 13 年度全国大会出席 10.18～21 「英国分会設立総会」丹保会長、三木国際委員会委員長 10.29～11.1 「ACECC 第 5 回 Executive Committee Meeting」岡田前会長、日下部 Executive Advisor、住吉 2nd CECAR 組織委員会委員長、寺前司幹事長、奥村 ACECC 担当委員会委員長 10.30 「大韓土木学会創立 50 周年記念全国大会」丹保会長 11.16～18 第 5 回 IWA (国際水学会) 国際シンポジウム「農業関連産業における廃棄物・廃水管理問題：2001」(共催) (彦根市) 11.28～12.28 「フィリピン土木学会全国大会」花村国際委員会委員 12.4～6 第 8 回流れのモデル化と乱流測定に関する国際シンポジウム (共催) (東京都) 12.6～8 「中国土木水利工程学会全国大会」古木専務理事、Ellen Wang 国際委員会委員 12.12～15 EcoDesign2001 (共催) (東京都) 12.20～21 The First Thailand National Convention on Water Resources Engineering (共催) (タイ・Nonthaburi 市)

2001（平成 13）年

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
6.26 「社会との情報受発信の仕組み委員会」の設置承認。委員長は岸 清承認 7.27 論文集投稿要綱の改定承認 7.27 学術文化事業指定型 3 件の助成承認 7.27 「2001 年の日本社会の姿と社会資本整備のあり方」委員会の設置及び委員長丹保 憲仁を承認 9.21 建設技術審査証明実施の 14 機関とは異なった新しい分野での技術評価制度を 10 月からスタートすること、内規を承認 9.21 トルコ土木工学会協力協定の承認 9.21 視聴覚教育委員会から土木技術映像委員会への名称変更が承認 9.21 科学技術振興事業団体の技術者継続的能力開発情報提供事業への参画が承認 9.21 表彰規程の一部改訂、「選奨土木遺産選考委員会」「地球環境委員会」の内規改正、「継続教育実施委員会」内規の承認 9.21 学術文化事業指定型 1 件、一般型 1 件の助成の承認 11.19 平成 14 年度全国大会実施大綱が承認 11.19 平成 15 年度全国大会実施支部を四国支部に決定 11.19 土木学会学術文化事業について、水理委員会からの申請の助成を承認 11.19 フェローの認定（118 名）承認		

2001（平成 13）年

行事・集会（本部）

1.9 土木技術者と歴史感覚－Antoine Picon 教授記念シンポジウム（講演数 3 題，パネルディスカッション） 1.10 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 23「ITS－効率的な道路事情に向けて(2)」(講演数 12 題) 1.12 第 6 回地下空間シンポジウム－21 世紀の都市の創造と再生に向けて－（パネルディスカッション，調査報告，審査付論文発表 8 件，一般論文発表 25 件） 1.16～17 第 16 回環境工学連合講演会(共催)（東京都） 1.17 「原位置岩盤試験法の指針－平板載荷試験法，せん断試験法，孔内載荷試験法－」改訂版発行に伴う主旨説明講演会(特別講演 10 題) 1.23 第 1 回 FRP 橋梁に関するシンポジウム(講演数 19 題) 1.23～25 第 50 回理論応用力学講演会（共催）（東京都） 1.25～26 第 31 回岩盤力学に関するシンポジウム（審査付論文 8 題，自由投稿論文 57 題，パネルディスカッション） 1.30 第 15 回コンサルタントシンポジウム「技術者の復権と新展開－21 世紀に輝く技術者とは－」（講演数 4 題，パネル 1 件） 2.1・8 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 24「交通安全対策のフロンティア－道路安全監査システム－」（講演数 1 日 25 題，8 日 25 題） 2.5 「土木海岸・海洋環境学」第 1 回講演会（講演数 2 題） 2.23 最新の土木技術 14 講習会（講演数 10 題） 3.14 第 2 回ジョイントシンポジウム－沿岸環境の総合的評価と管理－ 3.14 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 25「高齢社会の都市基盤整備と交通システム」（講演数 7 題） 3.15～17 第 45 回水理講習会（講演数 213 題） 3.15 第 13 回アゲールシンポジウム 3.15 河川災害に関するシンポジウム 3.23 安全問題討論会'01 4.2 第 1 回計算力学小講習会「計算力学における均質化法入門」 4.3～4 インテリジェント材料とスマートストラクチャー（講演 262 題）

2001（平成 13）年

行事・集会（本部）

- | |
|---|
| 4.10 海洋施設設計便覧講習会（大阪，講演 6 題） |
| 4.13 海洋施設設計便覧講習会（東京，講演 6 題） |
| 4.16 第 2 回アジア土木技術国際会議 |
| 4.26 土木海岸・海洋環境学第 2 回講演会（講演 2 題） |
| 5.8 構造工学講演会（講演 2 題） |
| 5.8 第 37 回土木計画学シンポジウム「安全かつ円滑な道路空間を ITS は達成できるか？」（講演 34 題） |
| 5.15 これからのメンテナンス技術と市場 |
| 5.15～16 第 39 回原子力総合シンポジウム（共催）（東京都） |
| 5.18 応用力学フォーラム（第 16 回乱流フォーラム）（講演 4 題） |
| 5.22 平成 13 年度「工業教育」連絡講演会（共催）（東京都） |
| 5.26 第 3 回ジョイントシンポジウム「有明海の環境と漁業」（講演 9 題） |
| 6.1 性能照査型システムにおけるコンクリート構造物の補強に関する報告会ならびにシンポジウム（講演 14 題） |
| 6.2～3 第 21 回土木史研究発表会（講演 43 題） |
| 6.7～8 第 7 回河川技術に関するシンポジウム（講演 110 題） |
| 6.8 環境負荷低減のための土木構造物設計ガイドライン講習会（講演 11 題） |
| 6.12 土木海岸・海洋環境学第 3 回講演会 |
| 6.14 第 26 回海洋開発シンポジウム（講演 116 題） |
| 6.19 第 5 回鉄道力学シンポジウム（講演 14 題） |
| 6.21 プレキャストコンクリート部材の力学的特性に関するシンポジウム（講演 23 題） |
| 6.23 第 4 回ジョイントシンポジウム（講演 7 題） |
| 6.26 自己充てん型高強度耐久コンクリート構造物の設計・施工指針（案）に関する講習会（講演 9 題） |
| 7.6 「ダム建設における水理地質構造の調査と止水設計」講習会（講演 7 題） |
| 7.12～13 第 31 回安全工学シンポジウム（共催）（東京都） |
| 7.12～13 第 20 回混相流シンポジウム 2001（共催）（北九州） |
| 7.17 第 5 回耐震補強，補修技術，耐震診断技術に関するシンポジウム（講演 17 題） |
| 7.17 自己充てん型高強度耐久コンクリート構造物の設計・施工指針（案）に関する講習会（講演 9 題） |
| 7.18～19 第 9 回地球環境シンポジウム（講演 48 題，パネル展示 50 件） |
| 7.23 応用力学フォーラム（第 1 回固体の破壊現象フォーラム）（講演 1 題） |
| 7.25～26 第 1 回「木橋技術に関する講習会ならびにシンポジウム」（講演 23 題） |
| 7.30 土木計画学ワンジセミナー26「超長期的展望にもとづく持続可能な都市への再生戦」 |
| 8.1 第 26 回地震工学研究発表会（講演 372 題） |
| 8.3 高強度フライアッシュ人工骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針（案）に関する講習会（講演 8 題） |
| 8.7 第 6 回水シンポジウム in とやま（講演数 1 題） |
| 8.8 国際委員会第 3 回 International Summer Symposium（講演 90 題） |
| 8.20 地層処分と地質環境に関する講習会（講演 4 題） |
| 8.23～24 第 35 回夏期講習会・見学会（講演 4 題） |
| 8.29 第 4 回鋼構造と橋に関するシンポジウム（講演 6 題） |
| 9.6 「ISO への対応」に関する第 4 回シンポジウム”設計標準はどこへ行く”－国際標準の最新動向－ |
| 9.6～7 杭基礎の耐震設計法に関するシンポジウム（講演 30 題） |
| 9.10 第 38 回土木計画学シンポジウム「都市交通調査を考える～新しい技術と展望」（テーマ 17，パネルディスカッション 2 件） |
| 9.18～19 第 45 回材料研究連合講演会（共催）（東京都） |
| 9.20 土木海岸海洋環境学第 4 回講演会（講演 2 題） |
| 9.26～11.28 平成 13 年度シンポジウム「技術者教育認定制度と最近の産業界を取り巻く技術者教育の動向について」（共催） |
| 9.28～29 第 11 回キャビテーションに関するシンポジウム（共催）（東京都） |
| 10.1 第 4 回応用力学シンポジウム（講演発表 75 題） |
| 10.2～4 第 56 回年次学術講演会（熊本大学，講演 3,743 題） |
| 10.22～23 第 4 回橋梁構造物等の耐震設計法に関する講習会（講演 17 題） |
| 10.26 応用力学フォーラム（第 2 回固体の破壊現象フォーラム）（講演 3 題） |
| 10.26～27 橋梁振動コロキウム（講演 36 題） |
| 10.30～31 第 26 回土木情報システムシンポジウム（講演 53 題） |
| 11.1～2 第 29 回環境システム研究論文発表会（講演 101 題） |
| 11.8～9 「土木学会による実務者のための耐震設計入門」平成 13 年度東京セミナー（講演 11 題） |
| 11.12 海岸工学講演会前日シンポジウム「沿岸生態系の機能評価と評価指標」（講演 4 題） |
| 11.13 第 48 回海岸工学講演会（講演 294 題） |
| 11.14 第 16 回コンサルタントシンポジウム「メンテナンスの時代」（講演 4 題） |

2001（平成 13）年

行事・集会（本部）

11.16	土木構造物の耐震設計ガイドラインに関する講習会
11.17	公開シンポジウム よみがえれ砂浜－砂浜再生のための方策－（講演 3 題）
11.22	新しい複合橋梁に関するシンポジウム（講演 9 題）
11.23～25	第 24 回土木計画学研究発表会（講演 422 題）
11.26	電気化学的防食工法設計・施工指針（案）に関する講習会（講演 10 題）
11.26	応用力学フォーラム（第 17 回乱流フォーラム）（講演 2 題）
11.28～29	第 19 回建設マネジメント問題に関する研究発表会・討論会（講演 65 題，パネルディスカッション）
11.28～29	第 38 回環境工学研究フォーラム（講演 88 題）
11.29～30	第 11 回トンネル工学研究発表会（講演 60 題）
12.4	土木計画ワンデイセミナーシリーズ 27「参加型計画への集団意思決定手法の応用」（講演 12 題）
12.4～5	「土木学会による実務者のための耐震設計入門」平成 13 年度大阪セミナー（講演 11 題）
12.6～7	第 7 回システム最適化に関するシンポジウム（講演 33 題）
12.10	電気化学的防食工法設計・施工指針（案）に関する講習会（講演 10 題）
12.11	講習会「土木 ISO 定期セミナー」
12.11	土木学会地震工学委員会数物小委員会講演会
12.12～14	第 8 回鉄道技術連合シンポジウム（共催）（東京都）
12.14	「第 2 回社会資本のメンテナンスに関するシンポジウム」－第 3 回鋼構造物の維持管理に関するシンポジウム－（講演 6 題）
12.14	第 19 回建設用ロボットに関する技術講習会「IT 時代の自動化・情報化技術の現状と展望」（講演 7 題）
12.21	第 6 回舗装工学講演会（講演 28 題）

2001（平成 13）年

支部の動き

北海道支部	
2.3～4	年次技術研究発表会（発表数 304 題）
5.18	第 1 回講習会 コンクリート標準示方書（維持管理編）講演 7 題
9.18	第 2 回講習会 舗装に関する最新の話題 講演 3 題
10.18	第 3 回講習会 自己充てん型高度強度耐久コンクリート構造物設計・施工指針（案） 講演 5 題
11.16	パネルディスカッション
●	「土木の日」行事
8.10	高校教諭対象現場見学会
8.19	一般市民対象（親子）現場見学会 （北見地区）
10.28	「土木の日」クイズ
11.15～18	「土木の日」書道展
10.28	「土木の日」PR イベント
10.13	「土木の日」映画会 ※ 「野付牛大橋」橋名板取付け（昨年橋名を公募したもの） （苫小牧地区）
7.34	土木施設見学会
8.2～3	小・中学生対象トラス模型の作成
10.20～21	環境を配慮した都市模型の展示 （室蘭地区）
10.20～21	土木クイズ・オープンラボ
10.27	自然災害に関する市民シンポジウム （函館地区）
8.2	一日体験学習
10.20～21	高専祭（展示・土木クイズ）
東北支部	
※	継続教育制度創設記念講習会
14.3.9	東北支部技術研究発表会 講演 381 題 「土木の日」及び「くらしと土木の週間」関連行事,その他市民参加行事 ※ 若手技術者育成・若年者啓蒙事業

2001（平成 13）年

支部の動き

※ 東北の土木技術者を語る

3.13 東北支部技術研究発表会（発表数 400 題）

8.3 見学会「奥の細道から三百年～みちのくの玄関福島街道～」

10.20～21 「学園参加型関連行事」

11.17 シンポジウム「奥の細道から三百年～みちのくの玄関福島街道～」

11.10 一般市民見学会「土木遺産と道路建設現場」

11.17 講演会・見学会「大榛第一水源堰堤」

関東支部

2.22 講習会「土木技術者に求められる資質と素養 ー技術士を目指されている方々のために」（第 12 回）（講演数 6 題）

3.14～15 第 28 回技術研究発表会（発表数 449 題）

6.1 講習会「土木技術者に求められる資質と素養」- 技術士を目指している方々のために - （群馬県と共催）講演 3 題

7.17 平成 13 年度中学生記者取材講習会

8.25 第 7 回土木系学生によるコンクリートカヌー大会

8.31 講習会「21 世紀の技術者に求められるマネージメント能力」- 技術士総合技術管理部門を目指している方々のために - 講演 5 題

11.2 講習会「21 世紀のより効果的な社会資本について」- いま、メンテナンスビジネス - 講演 6 題

●「土木の日」行事

10～12 第 1 回見学会 技術研究所見学会（各企業体と共催）

11.10 第 2 回見学会「東京における近代土木遺産」

11.22 第 3 回見学会

（群馬地区）

11.10 土木フェア in Gunma：親子現場見学会

11.16～18 土木フェア in Gunma：土木フェア展示会

11.14 土木の日記念講演会「新しい空間の創造 - 海洋構造、浮体構造、浮体橋 - 」

（栃木地区）

11.16 記念講演会

中部支部

1.23 市民ゼミナール 第 5 回「行政・市民・学識 3 者の役割」

1.30 技術講座 第 2 回「土木構造物の維持・管理、補修・補強」

3.2 研究発表会（講演数 317 題）

4.26 第 1 回「環境負荷低減のための土木構造物設計ガイドライン講習会」

6.19 第 2 回「仮設構造物の計画と施工[平成 12 年版]に関する講習会

9.18 平成 13 年度継続教育制度創設記念講習会「これからの技術者像と地域の安全・安心を考える」

11.30 第 1 回「豪雨災害 都市はどう対応すべきか」

●「土木の日」行事

11.18 市民見学会 <コース 1>

11.17 市民見学会 <コース 2> <コース 3>

11.9 「木曾三川 未来へのかけ橋」記念講演会

11.10 土木の日見学会

11.13 土木学会選奨土木遺産銘板授与式

11.1 自治体、学校イベントの協賛

関西支部

2.22 土木技術者資格に関する講演会

5.22 2001 年制定コンクリート標準示方書[維持管理編]講習会

7.13 緩衝型落橋防止システムに関する調査研究講習会

8.23 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会 第Ⅰ部：設計技術者対象研修会

8.24 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会 第Ⅱ部：施工技術者対象研修会

9.12 シールドトンネルの合理的耐震設計法に関するガイドライン（案）講習会

●「土木の日」行事

11.10「土木の日」関連行事関西地区連絡会及び共催団体合同会議

中国支部

4.2 コンクリート標準示方書講習会 講演 8 題

2001（平成 13）年

支部の動き

- 4.27 特別講演会「絵かきのくらしの中の土木」
- 6.1 特別講演会 講演 2 題
- 6.1～2 支部研究発表会 講演 456 題
- 6.2 現場見学会
- 6.1 学生交流会
- 7.13 コンクリート構造物の時間依存変形・ひび割れに関する講習会 講演 11 題
- 8.31 第 19 回 水環境フォーラム山口 講演 6 題
- 9.14 建設技術者・コンクリート技術者のためのわかりやすいコンクリート講習会 講演 6 題
- 9.16 環境に配慮した社会資本整備に関する講習会 講演 4 題
- 9.21 コンクリート構造物の耐久性とその向上に関する講習会 講演 6 題
- 11.6 第 285 回コンクリートセミナー[セメント・コンクリートに関する最新の技術と話題] 講演 6 題
- 11.7 「環境を考える」講習会 講演 2 題
- 11.1 土木フォーラム「萩地域のまちづくりを考える」
- 11.12 「山岳トンネル工法の設計施工に関する講習会」 講演 3 題
- 11.26 「みらいビジョン中国 21」シンポジウム～中国地方の将来像と今後の地域づくり～
- 12.4 第 3 回 水文・水資源セミナー 講演 6 題
- 12.13 「みらいビジョン中国 21」シンポジウム～中国地方の将来像と今後の地域づくり～
- 「土木の日」行事
- 10.20～21 こどもミニ土木博
- 10.27～28 第 8 回くらしと土木展
- 11.1 現場見学会
- 11.2～3 みる・きく・ふれる 国土建設フェア
- 11.2～4 建設工学展
- 11.4 こどもミニ土木博
- 11.10～11 現場見学会
- 11.14 現場見学会
- 11.17 親子見学会
- 11.18 間伐材でつくるレッサーパンダが遊ぶ橋
- 11.18 こどもミニ土木博
- 11.21,26,27 現場見学会
- 四国支部
- 1.17 学術講演会
- 1.25 「コンクリート標準示方書〔維持管理編〕に関する四国地区講習会」
- 2.20 「豪雨と地震による土砂災害から身を守る」
- 5.11 芸予地震調査緊急報告会
- 5.12 国際問題講演会「四国地区建設系外国人留学生等交流会」
- 7.6 建設マネージメント・フォーラム in 四国
- 9.20～29 海外視察調査
- 10.18 継続教育制度創設記念講習会 共催：土木学会技術推進機構
- 11.21 四国社会資本問題研究会研究フォーラム「市民参加による社会資本整備」
- 12.4 フォーラム「世界における PFI の現状と将来」
- 12.7 土木の日記念講演会
- 12.21 学術講演会 共催：地盤工学会
- 「土木の日」行事
- 11 月 18 日の土木の日を中心にして、一般国民に対する普及啓蒙活動に取り組んだ。

西部支部

- 2.13 技術発表会
- 3.10 研究発表会
- 3.10 特別講演会
- 5.21 特別講演会（総会） 講演 1 題
- 6.1 コンクリート標準示方書 維持管理編 講習会
- 9.26 見学会（一般市民）「九州電力玄海エネルギーパークーほか」
- 10.4 国際交流特別講演会 講演 2 題
- 10.25 見学会（一般市民）「北九州空港連絡橋及び北九州博覧会」

2001（平成 13）年

支部の動き

●「土木の日」行事 （西部支部） シンポジウム ビデオ上映,基調講演,パネルディスカッション
--

2001（平成 13）年

土木一般	社会一般
1.ー 大阪臨海部の埋立地・舞州と夢州を結ぶ旋回式浮体橋で中央支間長 280m の夢舞大橋，旋回開閉テストを開始（2000.7 据付） 2.20 田中康雄長野県知事，県の脱ダム宣言を発表 3.4 ポルトガル北部，ポルト東方の町でドーロ川を渡る長さ 200m の橋（115 年前の架橋）が大雨による増水で崩落，死者 150 人以上 3.4 西武鉄道池袋線，都道目白通りとの交差方式を一夜で上下を逆転 12.15 中村橋～練馬間の復々線化完成 3.18 埼玉県高速鉄道・赤羽岩淵～浦和美園間 14.6 km 開通．トンネル下部に導水管 15 km を新設，荒川の水を綾瀬川・芝川に導入し浄水．東急目黒線・営団地下鉄南北線と相互乗入れ． 3.26 長野県，治水・利水ダム等検討委員会条例を公布・施行 3.28 米国，世界各国に CO₂排出量の制限を求める京都議定書への不支持を表明．米国の離反で議定書の発効は絶望的．7.23 ドイツのボンで開催された国際会議で京都議定書の運用規則主要部分が確認され，大枠で合意 3.29 韓国，ソウル市の西 40km に仁川国際空港第 1 期開港．永宗島など 1521ha の埋立地に滑走路 3750m×2 本 3.ー 南京の長江に鋼斜張橋で支間 628m の南京長江第 2 大橋 3.ー 建設省，神奈川県に多目的重力式の宮ヶ瀬ダム完成．堤高 156m，堤頂長 400m，堤体積 200 万 m³ 3.ー 道路公団，首都圏中央連絡自動車道に NATM による 2 階建て大断面の新青梅トンネル完成 5.ー 中国電力，岡山県・鳥取県境の旭川・日野川に純揚水式の保野川発電所，出力 120 万 kW 完成 5.ー 北九州市，紫川マイタウン・マイリバー準備事業により，緑とウォーターフロントを生かした紫川 10 橋など水景都市をめざす 6.ー 中部電力，神島火力発電所（重油）3 号機が完成，72 万 kW となる 7.8 東北電力，東新潟火力発電所 4 号機・1 系列 80 万 5000kW 完成，381 万 6000kW となる．2006 年の最終出力 460 万 kW（天然ガス+LNG） 9.11 ニューヨークの世界貿易センタービルの崩壊により同地区の郊外鉄道 PATH，地下鉄駅，地下鉄網に重大な被害．地下鉄 1・9 号など一部閉鎖 10.ー 日本政府の開発援助としてアフリカのエジプト本土とアジアのシナイ半島間に側径間 7 運の PC 橋と鋼斜張橋で支間 408m の日本・エジプト友好橋 10.ー 東名高速，第 2 名神に鋼箱桁と PC 合成 5 支間，支間長 275m の木曾川橋および隣接して 6 径間，支間長 272m の揖斐川橋 11.27 政府の特殊法人等改革推進本部，道路公団・首都公団・阪神公団・本四公団など 7 法人の改革と 2005 年までの民営化を決定．また，住宅金融・都市基盤・石油公団なども独立法人化決定	1.1 震災予防協会が中心となり地震工学会を設立 1.6 中央省庁，1 府 22 省庁から 1 府 12 省庁に再編成．運輸省・建設省・国土庁・北海道開発庁が国土交通省．20 局から 14 局に削減 1.13 エルサルバドル南部で M7.7 の地震．中米一帯に大被害．エルサルバドルで死者 800 人以上，負傷者 4500 人 1.17 米国カリフォルニアに電力危機，シリコンバレーを含む 100 万世帯が停電，原因は老朽化 1.26 インド西部グジャラート州で M7.7 のプーージ地震．家屋倒壊 35 万棟，死者 2 万人以上，負傷者 17 万人近く，パキスタン南部に波及 1.28 関東甲信越の雪で高速道路・鉄道に影響．死者 6 人．負傷者 258 人 2.9 愛媛県立宇和島水産高校実習船えひめ丸，米国原子力潜水艦グリーンヒルと衝突し沈没．乗組員 35 人中，行方不明者 9 人，10. 14 船体引上げ終了 2.13 エルサルバドルに M6.6 の地震．死者 300 人以上，150 万人が避難生活 2.26 アフガニスタンの M.M. オマル師，イスラム教以外の文化財を破壊するように命令，3 月末バーミヤンの世界遺産 2 体を爆破 3.24 瀬戸内海の安芸灘で M6.4 の平成 13 年芸予地震．広島県・愛媛県・山口県の一部で震度 5 強，全壊家屋 48 棟，死者 2 人，負傷者 261 人 3.27 有明海のノリ不作で漁師が諫早湾干拓事業の凍結を要求．第三者委員会は早くとも 1 年後に諫早湾の開門を結論づけ 3.31 大阪市此花区の臨海地帯に 54ha のユニバーサルスタジオジャパン（USJ）開場．ハリウッド映画のテーマパークで大阪市 25%出資の第 3 セクター 5.1 埼玉県，県南東部の浦和・与野・大宮の 3 市が合併，2003.4，人口 103 万人の政令指定都市さいたま市 5.18 ユネスコ，日本の能楽など 19 件を無形の第 1 回世界遺産に登録 5.30 奈良の檀原考古学研究所，桜井市東田の勝山古墳を発掘材からみて 211 年，伐採の最古と確定．古墳時代の始まりも 50 年ほど早まると予測 6.23 ペルー南部アレキパ県で M8.4 の地震．建物の倒壊，地すべり，津波など．死者 145 人，負傷者 2734 人 6.24 京福電鉄越前本線，福井県で普通列車と急行列車が正面衝突，重軽傷者 25 人 7.13 IOC 総会，2008 年の第 29 回オリンピック大会を北京で開催と決定．大阪は最下位投票 7.17 イタリア南部シチリア島のエトナ火山噴火．落石によりケーブルカーが炎上 7.21 兵庫県明石市の花火大会で明石海岸と JR 明石駅を結ぶ延長 100m，幅 6m の歩道橋で 6000 人がひしめき，誘導・警備態勢が不十分のために死者 11 人，負傷者 200 人以上

2001（平成 13）年

土木一般	社会一般
10.ー 東京都、荒川区と足立区を結ぶ日暮里～舎人線 10 kmの着工を 2007 年に延期と決定 11.ー 埼京線・大宮～恵比寿～大崎間 36.9 km全通。東京臨海高速鉄道りんかい線と相互乗入れ。 12.11 中部電力、碧南火力発電所（石炭）4 号機 100 万 kW 完成 12.15 ピサの斜塔の修復が完了し 12 年ぶりに一般公開。イタリア北部トスカナ地方のピサの斜塔（1350 完成）、1934 年以来とくに傾斜が加速、1990 年に閉鎖、1998 年から修復作業に入る。傾斜部分の反対側土台下を掘削、頂上部の傾斜を 4.1m にまで戻して公開 12.18 国土交通省、熊本県の川辺川ダム計画で漁業権などの収用を同県収用委員会に申請。2002 年夏頃の裁定までダム本体の着工は見送り 【その他】 ●中国の高速道路、米国に次ぐ世界第 2 位、総計 2 万 5130 kmとなる。ドイツは 3 位 ●中国沿岸部で海峡横断道路（渤海湾・長江口・杭州湾口・珠江など）を計画中。1000m 超の斜張橋、2000m 以上の吊橋など、2008 年の北京オリンピックを控え大規模な計画多数	8.6 自動車排ガスと工場排煙の複合大気汚染で健康被害をうけた原告 328 人、国と企業 10 社を提訴してした名古屋南部公害訴訟が和解 8.10 アンゴラの首都・ルアンダ南東 150 kmで独立派による列車襲撃事件。死者 250 人、負傷者 150 人以上 8.21 台風 11 号、紀伊半島に上陸、近畿から北海道にかけ 27 都道府県に被害。床上・床下浸水 718 棟、重軽傷者 32 人、渇水問題は解決 8.29 宇宙開発事業団、種子島宇宙センターから国産ロケット HA1 号機の打ち上げに成功。1988、1999 年とも 2 回失敗 9.1 東京新宿歌舞伎町の雑居ビル、地上 4 階、地下 2 階の明星五六ビル火災、死者 44 人、重軽傷者 3 人 9.11 ニューヨーク・マンハッタンの世界貿易センタービル（WTC）42 階、高さ 110m2 棟、ハイジャックされた旅客機 2 機が自爆テロにより崩壊。さらにハイジャック機 1 機が米国国防省ビルに突入、別の 1 機がピッツバーク郊外に墜落するなど 4 機の自爆テロによる死者・行方不明者 3250 人以上の重大事故 9.26 千葉県の堂本暁子知事、船橋市沖の三番瀬埋立て 101ha.の計画を中止と表明 9.29 東北旧石器研究所の藤本新一元副理事長、改めて 20 余カ所での石器埋造行為を告白。さらに 10.7、道県 42 遺跡に及ぶことが判明。日本考古学協会が調査を開始、2003 年までに最終結論を出す方針を固める。 10.4 ロシアのシベリア航空ツボルフ 154 機、ウクライナ軍により黒海上空で誤射爆発。死者 78 人 10.8 イタリア・ミラノ空港でスカンジナビア航空 MD - 87 機が小型機と衝突、両機で死者 118 人 10.10 2001 年のノーベル化学賞、野依良治名古屋大学教授ら 3 人が受賞、平和賞はコフィ・アナン国連事務総長が受賞 10- スイスのサンゴットルト・トンネルで大型貨物トラック同士が正面衝突。トンネル閉鎖で貨物輸送網まひ、死者 11 人 11.7 中部電力、浜岡原子力発電所 1 号機で冷却装置の配管破断発見。さらに原子炉停止後、放射能を含んだ水が原子炉格納容量内に洩れていることも確認 11.3 第 63 回文化勲章、中根千枝、井口洋美ら 5 人が受賞 11.12 アメリカン航空 587 便のエアバス A300 - 600 がサントドミンゴへ向け J.F. ケネディ空港を離着後ニューヨークの住宅地へ墜落、死者 265 人 12.1 皇太子夫妻に第 1 子誕生。敬宮（としのみや）愛子と決定 12.29 ペルーのリマ歴史地区で商業ビル 3 棟が炎上、死者 290 人以上、被害総額 1000 万ドルを越す。

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

2002（平成 14）年

会長 岸 清 副会長 角田 典史雄, 川嶋 康宏, 田崎 忠行, 濱田 政則, 村上 仁士

会員数 33,555 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.25 特別上級技術者資格審査について登録者はフェロー会員であること、審査の透明性を図るため原則として試験官の氏名を公表する方針が承認 1.25 マレーシア工学会との協力協定承認 1.25 海岸工学委員会・大蔵海岸陥没事故調査小委員会の設置が承認 1.25 学術文化事業特別型 1 件、指定型 1 件の助成を承認 1.25 支部交付金の算定方式変更承認 1.25 土木図書館増改築工事報告承認 3.15 「技術推進機構運営規程」の変更に伴い細則、運営規程の変更と事務局に「調査役」についての就業規則の一部変更が承認 3.15 インド工学会ならびに香港工程師学会との協力協定承認 4.26 書籍売り上げ大幅増により平成 13 年度決算において約 5,900 万円の黒字 4.26 舗装工学委員会の設置について承認、また「JSC2000」提言を実現するための調査研究部門活動方針（案）の基本方針・支援内容・具体的活動が諮られ承認 4.26 環境賞選考委員会の設置、土木図書館規程、応用力学委員会内規の変更について承認 4.26 フェローの認定（124 名）承認 4.26 モンゴル土木学会との協力協定を承認 4.26 学術文化事業指定型 1 件の助成、指定型 1 件の寄付受入を承認 5.10 土木図書館・会館収支について承認 5.10 技術推進機構運営規程、職員就業規則、事務局分掌規程の変更について承認 5.10 平成 15 年度科学研究費補助金の審査委員候補者について承認 5.13 土木図書館増改築竣工式 6.28 新設の舗装工学委員会の内規案、土木技術映像委員会に内規変更を承認 6.28 土木施工研究委員会を「建設技術研究委員会」に名称変更 6.28 土木情報システム委員会を「情報利用技術委員会」に名称変更 6.28 建設系継続教育連絡協議会準備会設立を承認 7.26 PDE 協議会委員会運営への協力 7.26 学術文化事業指定型 2 件の助成承認 7.26 イランバム地震被害調査団派遣を承認	1.25 「国土政策による温暖化防止効果の定量的予測手法に関する研究」の受託承認 1.25 年次学術講演会のフェロー会員特別セッションの創設承認 3.15 「開水路の流量測定に関する国際規格における基礎資料作成業務」の受託承認 4.26 「舗装工学委員会（仮称）」の新設承認 6.28 海外調査（ISO 対応特別委員会の活動の一環として、欧州における適合性評価・認証制度に関する調査） 6.28 「土木技術者のための合意形成技術の教育方法に関する研究」の受託承認 7.26 「土木耐震分野に関する国際規格共同開発調査」「技術分野別の認定審査試行調査」「公共工事における環境物品の調達品目に関する技術検討業務」「物流関連企業の行動メカニズムを考慮した物流交通対策とその評価手法の体系化に関する研究」の 4 件の受託承認 9.20 「中山間地域等における歴史的砂防施設の保存・整備活用による地域活性化調査」の受託承認 9.20 「原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震安全性評価手法の体系化調査」の受託承認 12.03 「高レベル廃棄物処理における調査技術の体系化に関する研究」の受託承認 12.03 「万年橋架替に伴う「万年橋歴史的調査」」の受託承認 12.03 「表面保護工法に関する研究」の受託承認 12.03 「「ISO/TC 113/SC 5」国際規格回答原案作成」の受託承認 12.03 「2002 年ヨーロッパ水害調査」の受託承認 12.3 「アフガニスタン国土復興ビジョン検討懇談会」（西野文男座長）の国際会議（カプール）の報告	1.17 中国土木工学会 Mr.Yao Bing (姚兵) 常務理事一行、表敬訪問 1.22 アジア土木学会連合協議会 Dr.Kwang-Il Kim 会長、表敬訪問および第 2 回アジア土木技術国際会議最終組織委員会出席 2.7 米国土木学会 Mr.Fredric S.Berger 国際委員会副委員長、表敬訪問 5.30 「香港工程師学会」との協力協定調印式 藤野国際委員会幹事長（香港） 5.31 アジア土木学会連合協議会（ACECC）Dr.Kim Kwang-Il 会長 表敬訪問 6.5 「マレーシア工学会」との協力協定書交換式 吉田好孝会員 マレーシア 6.8～11 第 4 回熱心力に関する国際会議（共催）（大阪市） 6.17～21 第 8 回構造物の安全性および信頼性に関する国際会議（共催）（ニューポートビーチ市） 6.20 「モンゴル土木学会」との協力協定書交換式 嶋津晃臣会員 モンゴル 6.24 ネパール土木学会（NEA）会員 Mr.Rajendra NIRLA Mr.Bodh Prasad POUDYAL 表敬訪問 7.15～19 International Meeting of the Psychometric Society（共催）（吹田市） 7.22～25 イラン北西部 Changrueh 地震被害調査団派遣 団長 小長井 一男 9.3～5 WAVES01（USA・サンフランシスコ市） 9.21～25 「International Conference on Kabul and national Urban Vision」派遣 団長 西野文雄 9.25～27 大韓土木学会 Dr.Kim Kwang-Il 前会長一行 中国土木水利工学会（台湾）Dr.Jenn-Chuan,Chern 会長一行 フィリピン土木学会 Prof.Primitivo C.Cal 代表、インド工学会 Prof.Samiran Choudhuri 会長一行 平成 14 年度全国大会出席 9.2～28 COASTLINES,STRUCTURES AND BREAKWATERS2001（共催）（ロンドン市） 10.7 バングラデシュ工学会 Dr.S.M.Parvaz Mohit 学術交流基金 10.10 タイ工学会 Dr.Tawee Chaisomphob 土木部門長 表敬訪問 11.2 「ACECC 第 6 回 Executive Committee Meeting」岡田 ACECC 前会長、他（米国） 11.3～7 「米国土木学会 150 周年記念全国大会」岸会長、濱田副会長 他（米国） 11.7～17 「2002 年ヨーロッパ水害調査団」派遣 11.8 「大韓土木学会全国大会」古木専務理事、三木国際委員長、山口栄輝国際委員会委員（韓国） 11.12 米国土木学会 Ms.Patricia GalloWay 次期会長 表敬訪問 11.26～29 「中国素朴工学会 90 周年記念全国大会」古木専務理事、大林副委員長、他（中国） 11.28～29 「中国土木水利工学会全国大会」岸会長、天野国際委員会委員、須田国際委員会委員

2002（平成 14）年

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
9.20 「土木分野に関する裁判支援（鑑定人制度）」につき、土木鑑定検討委員会を事例ごとに設置し対応することを承認 9.20 資格制度 2 級技術者の受験要件の変更 9.20 火山工学研究委員会の新設 9.20 表彰規定（国際貢献賞選考委員会、出版文化賞選考委員会）の内規の一部改正を承認 9.20 学術文化事業指定型 1 件の寄付受入を承認 12.3 フェローの認定（71 名）承認 12.3 学術文化事業指定型 1 件の助成、指定型 1 件の寄付受入を承認		

2002（平成 14）年

行事・集会（本部）

1.11～12 第 4 回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム（講演 34 題） 1.16 「減震・免震・制震構造設計ガイドライン」セミナー（講演 14 題） 1.17 応用力学フォーラム（第 3 回固体の破壊現象フォーラム）（講演 3 題） 1.18 第 7 回地下空間シンポジウム（パネルディスカッション、審査付論文 16 件、一般投稿論文 36 題） 1.19～21 第 2 回高専・短大・専門学校土木教育シンポジウム（講演 3 題） 1.21 土木デザインワークショップ 2002 機能空間のデザイナー—その思想と手法—（講演 3 題、パネルディスカッション） 1.21 第 2 回計算力学講習会「計算力学における並列計算法入門」（講演 5 題） 1.22～24 第 51 回理論応用力学講演会（共催）（東京都） 1.24～25 岩の力学国内シンポジウム（共催）（千葉市） 1.25 第 5 回地震時保有耐力法に基づく橋梁構造らの耐震設計に関するシンポジウム（講演 64 題） 1.25 第 48 回風に関するシンポジウム（講演 13 題） 1.29～30 第 17 回環境工学連合会議（共催）（東京都） 2.1 「原子力発電所の津波評価技術」に関する講習会（講演 4 題） 2.8 応用力学フォーラム（関西/中国・四国地方）（講演 2 題） 2.26 第 3 回地震災害マネジメントセミナー「地震リスクマネジメントを考える—その必要性和課題について」（講演 10 題） 3.5 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 28「高齢者・障害者を中心とするコミュニティ交通計画と交通バリアフリー」（講演 5 題、パネルディスカッション） 2.28～3.1 第 3 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム 3.5～6 2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会（東京、講演 9 題） 3.8 応用力学フォーラム（西部支部）（講演 2 題） 3.11 ワークショップ「人口減少下の社会資本の在り方」（講演 1 題） 3.12～13 2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会（大阪、講演 9 題） 3.15 土木計画学ワンデイセミナーシリーズ 29「ITS 社会にむけた交通安全研究の方向性」（講演 16 題） 3.18～20 第 46 回水理講演会（講演 207 題） 3.18 土木学会地震工学委員会数物小委員会講演会 4.2～3 第 48 回構造工学シンポジウム（講演 166 題） 4.17 岩盤力学委員会「深地層における軟岩の評価研究報告会」（講演 5 題） 4.21 公開シンポジウム明日の仙台海岸を考える—（講演 5 題） 5.14 コンクリートの環境自荷評価に関する講習会ならびにシンポジウム（講演 15 題） 5.16 第 4 回 固体の破壊現象フォーラム（講演 3 題） 5.16 特別シンポジウム「土壌汚染対策法」と土壌・地下水保全の今後（共催）（東京都） 5.18 平成 14 年度「工学教育」連合講演会（共催）（東京都） 5.20 「鉄筋コンクリート製地中構造物の耐震性能照査技術」に関する講習会（講演 10 題） 5.21～26 創立 50 周年記念国際研究集会—21 世紀の材料学—（共催）（大阪市） 5.21～22 第 40 回 原子力総合シンポジウム（共催）（東京都） 5.23 土木建設技術シンポジウム 2002（講演 70 題） 5.23 環境システムシンポジウム「環境の評価システムの理論と実践について」（講演 5 題） 5.28～29 設計工学シンポジウム「21 世紀のデザイン・ビジョン」（共催）（東京都）

2002（平成 14）年

行事・集会（本部）

5.26～31 第 12 回（2002）国際海洋極地工学会議—北九州（共催）（北九州市）
5.28 構造工学委員会講演会（講演 2 題）
5.29 George Gazetas 教授講演会（講演 1 題）
6.5～7 第 25 回土木計画学研究発表会（春大会）（講演 223 題）
6.6～7 第 27 回海洋開発シンポジウム（講演 137 題）
6.7 近年の国内で発生した大地震の記録と課題シンポジウム（講演 20 題）
6.13～14 第 8 回河川技術に関するシンポジウム（講演 98 題）
6.21～22 第 22 回土木史研究発表会
7.3 水辺のコンクリート構造物研究小委員会 委員会報告とシンポジウム（講演 18 題）
7.4～5 第 6 回構造物の衝突問題に関するシンポジウム（講演 18 題）
7.11～12 第 32 回 安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
7.16～17 第 10 回地球環境シンポジウム（講演 76 題）
7.16 第 6 回鉄道力学シンポジウム（講演 14 題）
7.19 第 18 回乱流フォーラム（講演 2 題）
7.23 浮体橋の性能照査型に関するシンポジウム（講演 15 題）
7.23～25 第 3 回交通・運輸研究に関する国際会議（共催）（中国）
7.25 第 6 回耐震補強・補修技術・耐震診断に関するシンポジウム（講演 13 題）
7.25～26 第 9 回 建設ロボットシンポジウム（共催）（東京都）
7.29～31 第 21 回 混相流シンポジウム 2002（共催）（名古屋市）
8.2～3 第 6 回 水資源に関するシンポジウム（共催）（東京都）
8.3～4 第 4 回 International Summer Symposium（講演 89 題）
8.6 第 36 回夏期講習会「21 世紀の社会基盤整備の課題と方向（21 世紀の土木を考える）」（講演 4 題）
8.6～7 第 2 回 リサイクル工学シンポジウム（共催）（東京都）
8.9 地震考古学の話題提供と地震痕跡学見学会（講演 1 題）
8.19～20 第 7 回水シンポジウム（講演 5 題）
8.27 第 5 回固体の破壊現象フォーラム（講演 3 題）
8.30 第 5 回鋼構造と橋に関するシンポジウム（講演 7 題）
9.3～4 第 38 回水工学に関する夏期研修会（講演 16 題）
9.10 水理公式集例題プログラム集講習会（東京会場）（講演 6 題）
9.12～13 平成 14 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門 東京セミナー（講演 12 題）
9.13 第 3 回計算力学講習（講演 3 題）
9.13 水理公式集例題プログラム集講習会（福岡会場）（講演 6 題）
9.14 公開シンポジウム 新潟海岸の砂浜再生—その方策と課題—（講演 4 題）
9.18 「美しい国土の創造」に関するシンポジウム国土デザインのビジョン—後世に伝えるべき美しい国土とは—（共催）（東京都）
9.18～19 第 46 回 材料研究連合講演会（共催）（京都市）
9.19 水理公式集例題プログラム集講習会（大阪会場）（講演 6 題）
9.20 第 18 回環境工学連合講演会（共催）
9.20 シンポジウム「放射性物質による環境汚染の予防に向けて」（共催）
9.24 第 5 回応用力学シンポジウム（講演 103 題）
10.9～13 シェル・空間構造の理論 設計および実現に関する国際シンポジウム（共催）（名古屋市）
10.10～11 平成 14 年度「土木学会による実務者のための耐震設計入門」（仙台セミナー）（講演 12 題）
10.18 第 5 回橋梁構造等の耐震設計に関する講習会（講演 10 題）
10.23～25 第 49 回海岸工学講演会（講演 308 題）
10.25 「山岳トンネル覆工の現状と対策」講習会（講演 6 題）
10.25 土木計画学ワンデイセミナー シリーズ 30「効率・環境改善に向けた I T S—現状と課題」（講演 15 題）
10.25～27 「ESR 放射線量計測と年代測定の新戦略」国際シンポジウム（豊中市）
10.26～27 第 30 回環境システム研究論文発表会（講演 94 題）
10.29～30 第 27 回土木情報システムシンポジウム（講演 50 題）
11.1 シンポジウム「放射性物質による環境汚染の予防に向けて」（共催）（東京都）
11.6 シンポジウム「道路交通騒音低減のための総合取り組み」（共催）（東京都）
11.15 第 4 回地震災害マネジメントセミナー（神戸開催）地震リスクマネジメントを考える—その必要性と課題について—（講演 10 題）
11.2～4 第 26 回土木計画学研究発表会（講演 353 題）
11.8 既設構造物の耐震補強に関するシンポジウム（講演 20 題）
11.14～15 第 39 回環境工学研究フォーラム（講演 98 題）
11.26～27 変革への挑戦～新しい公共工事システムを考える～ 第 20 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会（講演 43 題）
11.27～29 鉄道技術連合シンポジウム[J-Rail '02]（講演 193 題）
11.28～29 第 12 回トンネル工学研究発表会（講演 98 題）
11.28～30 アジア太平洋安全シンポジウム（共催）（京都市）

2002（平成 14）年

行事・集会（本部）

11.29	土木計画ワンデイセミナー シリーズ 31「効率的で環境にやさしい物流システムー道路交通を中心とした物流施策ハンドブック策定に向けてー」（講演 8 題）
12.02	複合構造物の性能照査指針（案）に関する講習会（講演 7 題）
12.03	第 2 回地震防災技術懇談会（講演 1 題）
12.03	応用力学フォーラム（東北支部）（講演 2 題）
12.03	日本学術会議シンポジウム「エコトピア社会の構築をめざして」（共催）（東京都）
12.03	平成 15 年度工学教育連合講演会（共催）
12.03	「エコトピア社会の構築をめざして」（共催）
12.03	第 18 回環境工学連合講演会（共催）
12.03	ロングライフ鋼橋のための先端工学（共催）
12.04	「建設リサイクル技術」講習会（講演 6 題）
13.4～6	第 17 回 風工学シンポジウム（共催）（東京都）
12.05	「コンクリート耐久性データベースフォーマット」に関する委員会報告とシンポジウム（講演 15 題）
12.06	「化学混和材の性能評価」に関する講習会ならびにシンポジウム（講演 15 題）
12.12	第 20 回建設用ロボットに関する技術講習会「最近の環境問題に関連した自動化・IT 化の現状と展望」（講演 8 題）
12.12	2002 年制定コンクリート標準示方書〔耐震性能照査編〕の発刊ならびに「阪神・淡路大震災の被害分析」に関する講習会（東京都）（講演 16 題）
12.19	「アフガニスタン国土復興ビジョン検討懇談会」報告会～《復興ビデオ試案》現地発表と調査の報告～（講演 2 題）
12.20	第 7 回舗装工学講演会（講演 38 題）

2002（平成 14）年

支部の動き

北海道支部	
1.28～29	年次技術研究発表会 講演 287 題
6.17～18	第 1 回講習会 2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会 講演 8 題
8.26	第 2 回講習会 交通解析におけるマイクロ交通シミュレーションの理論と実践 講演 3 題
12.6	第 3 回講習会 土木遺産から発想する土木の将来 講演 5 題
●「土木の日」行事	
（札幌地区事業）	
8.3	親子現場見学会
8.9	高校教諭現場見学会
11.18	「土木の日」記念シンポジウム
（北見地区事業）	
9.8	土木クイズ
10.27	PR イベント
11.15～18	書道展
11.17	映画会
（苫小牧地区事業）	
8.22	市民のための見学会
10.19～20	土木構造物模型展示
（室蘭地区事業）	
10.20	室蘭港クルージング
10.19～20	オープンラボの開催
10.19～20	缶バッチの配布
（函館地区事業）	
7.31	1 日体験学習会
10.18～20	土木クイズ
10.17	土木公開講座
東北支部	
※	コンクリート標準示方書講習会
※	コンクリート技術講習会
※	東北支部技術研究発表会 講演 398 題
※	技術講座と映画の会（技術推進機構 共催）
※	海外技術調査（都市再開発）

2002（平成 14）年

支部の動き

※ 講演会「上下水道と環境ホルモン&新幹線八戸八甲田トンネル」

●「土木の日」行事

※ 野蒜築港 120 年ワークショップ 計 2 回

※ 東北の土木技術を語る会 計 3 回

8.12 見学会「ふるさとの歴史を訪ねる」土木の魅力」

10.19～20 「学園参加型関連行事」

11.16 シンポジウム「福島の水環境を考える～水環境を支える人々～」

11.9 一般市民見学会「摺上川ダム建設現場」

11.2 講演会と土木遺産顕彰式

関東支部

2.22 講習会「土木技術者に求められる資質と素養」－技術士を目指されている方のために－ 講演 6 題

3.14～15 技術研究発表会 講演 536 題

6.7 「都市再生とこれからの技術者像を考える」－（継続教育制度創設記念講習会・共催） 講演 3 題

7.12 平成 14 年度中学生記者取材講習会

8.24 第 8 回土木系学生によるコンクリートカヌー大会

8.30 講習会「21 世紀の技術者に求められるマネージメント能力」－技術士総合技術管理部門を目指されている方のために－ 講演 5 題

●「土木の日」行事

10～12 第 1 回見学会 技術研究所見学会（各企業体と共催）

11.22 第 2 回見学会

6.1～9.30 第 4 回「土木とくらし」写真コンテスト

中部支部

1.22 第 2 回「土木技術者に求められる姿－技術士取得のために－」

4.25 第 1 回「2002 年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会」

7.30 第 1 回「土木をとりまく最新のシミュレーションとビジュアル評価」

10.11 留学生交換会

●「土木の日」行事

11.10 市民見学会 <コース 1>「見て、聞いて、ふれて知る 西美濃水源地の旅」

11.16 市民見学会 <コース 2>「未来を拓くとやまの土木」

11.16 市民見学会 <コース 3>「水の流れをめぐる旅」

11.27 講演会「人々の暮らしにいくづく土木シンポジウム」

11.9 土木の日見学会 「環境にやさしい高速道路 見学会」

11.27 土木学会選奨土木遺産

関西支部

8.5 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会 第Ⅰ部：設計技術者対象研修会

8.6 コンクリート構造の設計・施工の基本に関する研修会 第Ⅱ部：施工技術者対象研修会

9.13 地下水制御が地盤環境に及ぼす影響評価に関する講習会

10.11 LRT による都市づくりに関する講習会

●「土木の日」行事

「土木の日」関連行事関西地区連絡会及び共催団体合同会議

中国支部

4.30 特別講演会「酒を造りて思うこと」

5.31～6.1 支部研究発表会 講演 369 題

4.22 建設 VE のポイントと動向

7.24 日本の近代土木を築いた人びと

7.25 2002 年制定コンクリート標準示方書改訂の概要と解説に関する講習会

8.23 講演会「水系環境の保全と創造をめざして」

8.29 「擁壁の新しい設計法－片持ちばり式擁壁と大型ブロック積み擁壁－」

8.29 2002 年版コンクリート標準示方書に関する講習会

9.3 2002 年版コンクリート標準示方書に関する講習会

10.18 コンクリートの環境負荷評価に関する講習会

2002（平成 14）年

支部の動き

●「土木の日」行事

9.27～28 みる・きく・ふれる 国土建設フェア 2002

10.26～27 こどもミニ土木展

11.2～3 土木工学科展

11.3 こどもミニ土木展

11.3 山口大学工学部文化祭「常盤祭」における研究室展示

11.3～4 建設工学科展

11.9～10 秋の塔頂体験ツアー

11.16 建設工事現場の親子見学会

11.17 土木工学に関する展示とイベント,体験学習

11.17 親子で作るレッサーパンダの遊び場

11.18 ハイウェイちびっこセミナー

11.18 選奨土木遺産顕彰式・手づくり郷土賞伝達式・特別講演

11.18 産業副産物の建設材料への有効利用

11.6 現場見学 江島大橋,中国横断自動車道,出雲バイパス

11.12 現場見学 宇部港,小野田港,高山バイパス

11.14 現場見学 苫田ダム,岡山自動車道

11.19 現場見学 八田原ダム,生口島道路

11.19 現場見学 国営備北丘陵公園,灰塚ダム

11.20 現場見学 市内電線共同溝,殿ダム

11.20 現場見学 徳丸防災工事,市内電線共同溝,殿ダム

11.20 現場見学 殿ダム

11.20 現場見学 八田原ダム,生口島道路

11.22 現場見学 東広島バイパス工事,出島地区岸壁工事,護岸災害復旧

11.22 現場見学 岡南共同溝,金剛川

11.25 現場見学 河川防災 ST,河川環境整備事業,両国トンネル

11.26 現場見学 苫田ダム,米子自動車道

11.26 現場見学 東広島バイパス工事,出島地区岸壁工事,護岸災害復旧

11.26 現場見学 島バイパス工事,出島地区岸壁工事,護岸災害復旧

11.28 現場見学 灰塚ダム

四国支部

5.18 国際問題講演会[CPD プログラム] 四国地区建設系外人留学生等交流会

10.25 特別講演会「21 世紀の水環境を考える」[CPD プログラム]

●「土木の日」行事

11.22 土木の日記念講演会「CPD プログラム」

西部支部

5.24 「最近のアスファルト舗装と IT（情報化施工）」 講演 1 題

6.7 「2002 年制定コンクリート標準示方書」講習会

8.2 土砂災害に関するシンポジウム

9.19 見学会（会員）有明湾岸道路および九州新幹線高田,三池トンネル工事現場

10.23 見学会（一般市民）九州電力榑天山揚水力発電所および展示館

11.29 見学会（会員）長崎自動車道（長崎～長崎多良見間）中里とトンネル,日見橋建設現場

12.10 「社会基盤構造物の維持・管理と技術開発」講習会

土木一般	社会一般
1.6 兵庫県明石市の人工海浜・大蔵海岸で2001.12.30におきた死者1人の陥没事故をうけ、明石市は国土交通省に対策を要望 1.一 5年間の空白期間をへて東北電力、宮城県の女川原子力発電所3号機82万5000kW完成、総出力217万4000kWで事業完了 1.一 英国企業が同国が施工する工事へ対応のため、中国人やインド人技術者を雇用する計画を発表 3.11 愛知県半田市発注の雨水管内の堆積物しゅんせつ作業中、硫化水素が原因とみられる事故で死者5人 3.31 1953.1.15 交換した山口県岩国市の木造アーチ錦帯橋の支間35.5m5連の中央部第3橋が在来工法で架替え。2004.3最終完了、岩国市が保有している地元産材を活用 3.一 道路公団・圏央道に2階建ての青梅トンネル開通。N A T Mによる超大型道路トンネル 3.一 建設省、広島県太田川支流滝山川に日本第2位の多目的アーチ式、堤高156m、堤頂長382mの温井ダム完成 4.18 新東京国際空港（成田空港）に2180mの第2滑走路供用開始。用地買収難航のため2500mを短縮 4.24 長崎県諫早湾の水門を2ヶ月間開放。有明海と諫早湾の一部を締め切る潮受け堤防の排水門が明けられ5年ぶりに海水流入、短期間の調査は無意味との批判あり 4.一 マレーシアのクアラルンプール空港～中央駅間57km開業 4.一 上海の浦東国際空港と市内の龍陽路間30kmにドイツの指導で磁気浮上式鉄道の試験走行開始 5.10 首都公団、鋼製橋脚にひびわれが多数発生している問題で本格的な措置として4号新宿線、253基の橋脚を順次補修工事を進めて2003年度までに終了の予定。道路公団705基、阪神公団1199基の点検も2003年度までに補修工事を完了。 5.22 国土交通省、社会資本整備事業部会道路部会において高規格幹線道路の基準緩和を決定。片側2車線以上を原則としている基準を改め片側1車線道路も認めることを内定 5.22 土壌汚染対策法案が成立。11.18施行を閣議決定 5.31 三井観光開発、国道135号に併行して所有する熱海ビーチライン6km（1965）を証券化し、126億円の資金を調達、利子負債の返却にあてる。有料道路の証券化は初の試み。 6.24 政府の道路関係4公団民営化推進委員会が発足。今井 敬新日本製鉄会長のもとに7人の委員で構成。土木関係では中村英夫武蔵工業大学教授が就任。以後の会合では道路公団側の資料をめぐり紛糾が続く。 6.一 国土交通省、2003年度～2007年度にわたる道路整備5ヶ年計画、港湾整備5ヶ年計画に政策評価を導入、年度ごとの予算項目に反映させることを決定 6.一 国土交通省、首都圏郊外放水路事業として水害常襲地帯の中川流域の治水対策を実施、流入施設、5ヶ所の立坑、シールドトンネル、排水施設で構成。深度50m～60m。6月に試験通水を実施、効果を確認 7.5 国土交通省、2001.12.30の兵庫県明石市大蔵海岸の陥没事故を分析、復旧工法を発表。2002年中に復旧工事を完了予定。事故後の点検で発見したアジュール舞子などの人工海浜についても手直し工事を実施 7.17 道路関係4公団民営化推進委員会、高速道路40路線中27路線が累積赤字となることを認め、関係者の意見を聞きながら厳しい対応を示す。7.30までに9回開催 8.1 国土交通省、直接工事に使用するアルカリ骨材反応制御対策を改正。各地方整備局に通知、現場における運用方法を示した実施要領も改正	1.1 30年の歳月をかけヨーロッパ12か国でユーロ貨幣が流通開始 1.9 国内の石炭産業、輸入産業に依存し最後まで残った釧路市の太平洋炭鉱が操業を終了。1.30閉山と決定。以後は既に閉山した長崎の池島炭鉱とともに技術を開発途上国に伝承 1.17 コンゴ東部のニイラコンゴ火山が噴火。山麓の都市ゴマが壊滅的被害。死者40人、家屋1万2000戸破壊。ガソリンスタンド爆発で死者50人前後 1.27 ナイジェリアのラゴス郊外イケジャの軍弾薬庫が爆発。死者1000人以上 2.8 米国ソルトレイクシティで厳重なテロ対策をとった第19回オリンピック冬季大会開催（～2.24）。日本は銀1、銅1のみ 2.20 エジプトのカイロ郊外アラヤト付近でカイロ発アスワン行き旅客列車10車両中7車両が全壊。食堂車のガスボンベに引火したのが原因。死者373人、負傷者75人 2.27 インド西部グジャラート州で列車放火事件、放火され58人を失ったヒンズー教徒が暴徒化しイスラム教徒に報復、死者295人 3.3 アフガニスタン北部でM7.2の地震。死者150人 3.25 アフガニスタン北東部にM6.1の地震。最大被害地はバグラーン州ナフラン。通信・交通事情が劣悪のため死者800～1210人、被害者10万人以上と推定 4.15 韓国釜山市近郊に中国国際航空のボーイング767機が墜落。乗客166人のうち死者128人 5.1 2001.9.11ニューヨークの同時爆破テロで崩壊したワールドトレードセンターの崩壊原因を調査していた米国土木学会など調査チームは調査報告書を発表。旅客機の衝突だけではビルは崩壊せず。原因は旅客機に蓄えられていた大量の燃料が爆破した火災が原因と分析 5.7 中国北方航空のボーイングMD-82機が大連沖の海中に墜落。死者112人 5.14 インド北部のカシミール州ジェム付近で路線バスとインド軍駐屯地が襲撃され死者37人、負傷者50人以上 5.25 中華航空ボーイング747機、台湾海峡の澎湖島近くに空中分解で墜落。死者225人 5.25 モザンビークのマプト近郊で客車と貨車が衝突。死者196人、負傷者400人 5.28 経済団体連合会と日本経営団体連盟が合併。日本経済団体連合会（日本経団連）が発足、会長 奥田 碩 5.31 サッカーのFIFAワールドカップ第17回大会。日本・韓国で開催（～6.30）ブラジル5回目の優勝。韓国ベスト4、日本ベスト16に入る。 6.4 閣議、地球温暖化防止のため京都議定書の批准を決定 6.22 イラン北西部のテヘラン西でM6.3の地震、日干煉瓦の家屋倒壊で2万5000人が家を失い、死者300人、負傷者1000人 7.1 ロシアのバシキール航空ツポレフ154機と国際宅配のボーイング757貨物機がドイツ南西部上空で空中衝突。死者72人 7.10 台風6号、東海・東北地方に暴風雨。長良川の堤防決壊。大垣市、岩手県釜石市などに浸水被害（～7.12）7.16引き続き台風7号により全国に被害。土砂災害150か所、道路崩壊1400か所など。 7.27 ウクライナ西部リビアで開かれていた航空ショーで演技飛行中の戦闘機が観客の中に墜落。死者82人、負傷者100人 8.10 三重県鈴鹿市の東名阪自動車道路で7台の追突事故。4台炎上、死者5人、負傷者6人

土木一般	社会一般
8.1 各省庁 2003 年度の概算要求を決定。国土交通省は、2003 年～2007 年度の道路整備 5 カ年計画を現行計画から 25%減らし総投資額を 58 兆 5000 億円と予定。 8.1 ドイツのケルン～フランクフルト間 177km に高速鉄道が開通 8.6 道路関係 4 公団民営化推進委員会、8.7 にかけて集中審議を行い 4 公団民営化する場合の新設建設など具体的な仕組みを論議。道路管理費も審議 8.22 道路関係 4 公団民営化推進委員会、8.23 にかけて 2 回目の集中審議を行い、同意した事項を 8.30 首相に提出。委員会での審議が一本化せず、10 月、11 月に各 3 回の委員会でも結論はまとまらないまま調整の上 12 月に最終意見をまとめる予定 9.7 栃木県日光市にある国道 120 号の上り専用道路第 2 いろは坂で谷川の斜面が道路とともに崩落、路面の長さ 30m、すべり面の深さは 6m、原因は降雨とみられ、9.28、1 車線が復旧 10.27 千葉県の芝山鉄道・東成田～芝山千代田間 2.2km 全通、京成電鉄本線と連絡 10.29 道路関係 4 公団民営化推進委員会、建設中の路線すべてを作る場合のコストダウン額を試算 10.ー 蘇州と南通を結ぶ世界最長の鋼斜張橋、中央支間 1088m の蘇通長江公路大橋定礎式、2008.8 完成 10.ー 米国ワシントン州タコマに現吊橋と平行して中央支間 840m の第 2 タコマナローズ橋着工。2007 年完成予定 11.14 東京水道局、埼玉県所沢市の堤高 35m、堤長 691m、有効貯水量 1953 万 m³ のアース式山口貯水池(狭山湖 1934)の耐震強化工事終了。村山貯水池は 2003.3 着工 11.ー 東京港区の再開発地・汐留シオサイト 31ha 開場、大江戸線とゆりかもめ接続 11.ー 中部電力、愛知県に碧南火力発電所（石炭）5 号機完成で合計 410 万 kW 工事完了 11.ー 日本土木工業協会、100 万人の市民現場見学会の計画。会員会社、土工協本部・支部がそれぞれ計画。2004.7 までの総参加者 56 万人 12.1 東北新幹線、盛岡～八戸間 96.6km が開業。岩手一戸 25.8km（世界 1 位）、金田一（8.7km）、三戸（8.2km）など各トンネル完成。東京～八戸間 2 時間 56 分で連絡 12.6 道路関係 4 公団民営化推進委員会、最終報告を答申、水資源公団、鉄道公団、交通営団など 10 法人の民営化や独立行政法人化する法律も成立 12.13 農水省、島根県～鳥取市にまたがる中海・宍道湖淡水化を中止（1963～1988 凍結）両事業の投資額 851 億円 12.15 首都高速板橋足立線・板橋 JCT～江北 JCT 間開通。JR をくぐる飛鳥山トンネル（内回り 482m、外回り 745m）および荒川を渡る 2 層ニールセンアーチ式の五色桜大橋、支間 142 m。 12.ー 東京臨海高速鉄道 新木場～臨海副都心～大崎間 12.2km 開通 12.ー 熊本県球磨川の荒瀬ダム、堤高 23m、頂長 210.8m（1995）を初めて撤去決定。撤去は水利権の消失する 2010 年 12.ー スペインのマドリッド～レリダ間 450km の高速新線開通 12.ー シベリア鉄道 9280km の全線電化完成 12.ー ベルギーのブリュッセルからドイツ国境を結ぶ 139km の高速鉄道のうちルーフェン～リエージュ間が開通 〔その他〕●韓国のプサンに中央支間 500m の吊橋・広安大橋 ●首都高速中央環状線・板橋 JCT～葛西 JCT 間開通。中央環状新宿線 11km に NATM による幅 16m、高さ 19m、直径 13m の大断面シールドトンネルを掘削中（～2006） ●横浜港南本牧埠頭、水深 16m の高規格 24 時間コンテナターミナル完成	8.14 チェコのプラハを流れるブルタバ川の水位が大雨により上昇。中心市街地ほぼ浸水。歴史的建造物・遺産に甚大な被害。エルベ川流域のドレスデンなどドイツ東部、南部地方のドナウ川地域も冠水。1 月末以来 2 週間以上続いた大雨がロシアの黒海沿岸部に大規模な洪水をもたらす（～8.18） 8.ー 東京都千代田区丸の内に三菱地所により丸の内ビルディング建替え。地上 37 階、高さ 180m 9.17 日朝首脳会議のため小泉純一郎首相、金正日総書記と会談 9.26 セネガル南部から首都ダカールに向かっていたフェリー・ジュラ号が大西洋で沈没。定員 550 人に対し 1000 人以上が乗船。死者 900 人以上 9.ー 3 年前に飛行機テロで倒壊したニューヨークの世界貿易センター跡地に 6 チームによる複合施設の設計案を委託 9.ー 6～9 月まで大阪で気温 30℃以上の猛暑が続く。 10.6 イエメン沖で爆発物を積んだボートのテロのためタンカーランブル号爆発炎上。40 万バレルの原油流出 10.8 2002 年ノーベル物理学賞、小柴昌俊東京大名誉教授ら 3 人が受賞。9 日、島津製作所分析計測事業部の田中耕一研究員ら 3 人が化学賞受賞。日本の化学賞受賞は白川英樹（2000）、野依良治（2001）に続く 3 年連続の記録 10.12 インドネシアのバリ島南部クタの繁華街のナイトクラブで爆発。爆弾テロとみられ死者 190 人以上 10.23 モスクワの劇場にチェチェン共和国のイスラム派武装勢力が 800 人を人質に立てこもる。ロシア軍の武装グループが攻撃、人質の死者 128 人 11.3 第 64 回文化勲章、田中耕一、近藤次郎ら 6 人が受賞 11.3 米国アラスカに M7.9 の地震、高速道に崩壊 11.19 スペイン北西部ガリシア地方沖でバハマ船籍のタンカー・プレステイジの船体中央部が 2 つに折れ沈没。7 万 7000 t の重油中 9000 t が流出。沿岸漁業に打撃。ヨーロッパ連合老化タンカーの航行規制を強化 11.21 高田宮憲仁。47 歳で没 12.3 博覧会国際事務局総会、2005 年愛知万博に次ぎ 2010 年の万国博覧会を上海で開催を決定 〔その他〕●東京駅、明治生命館、三井本館、日本工業倶楽部など、一部を保存、再現した上で再開発中、旧新橋駅の復元をはじめ汐留地区、東京駅丸の内地区も全面的に再開発が進行中

注：「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・為国孝敏が原案を作成して編集した。

2003（平成 15）年

会長 御巫 清泰 副会長 伊佐治 敏, 草柳 俊二, 田崎 忠行, 濱田 政則, 増田 光男

会員数 32,635 名

(社) 土木学会の動き		
組織・運営	調査・研究	表彰・海外交流
1.24 土木学会選奨土木遺産選考委員会内規の変更 1.24 土木学会技術者資格審査結果の報告承認 1.24 学会誌英文名「Civil Engineering」に変更承認 1.24 ネパール技術者協会との協力協定承認 1.24 選奨土木遺産選考委員会内規の改正承認 3.20 創立 90 周年記念事業準備委員会と委員長を濱田副会長に依頼することが承認 3.20 技術開発推進委員会の設置を承認 委員長には濱田政則副会長を承認 3.20 学術文化事業の指定型 2 件の助成を承認 3.20 地下空間研究委員会内規の変更 3.20 最高裁よりの「調停委員候補者の推薦」依頼につき、「土木鑑定人検討委員会」を改組し「土木分野最高裁判所支援協議会」として承認 4.25 水理委員会を「水工学委員会」に名称変更 4.25 出版規程および内規の変更が承認 4.25 フェローを認定（60 名）承認 4.25 学術文化事業の指定型 1 件、特別型 1 件の助成を承認 5.9 役員候補者選考委員会内規の変更 5.9 J S C E 2 0 0 5 「学会の改革策」を承認 6.20 トンネル工学委員会の相談役に關する内規の一部改正 6.20 土木学会が日本圧接協会と相互入会することを承認 6.20 会長特別委員会「土木技術者の気概について（仮称）」の報告承認 7.25 「岩盤力学委員会」「海洋開発委員会」の内規改正を承認 9.19 調査研究企画委員会（調査研究部門）の設置と「調査研究委員会の活動度評価要領（案）」を承認 9.19 表彰委員会の 5 選考委員会の内規改正を承認 11.21 フェロー認定（48 名）承認 11.21 土木学会細則の変更「教育企画部門」も新設承認 11.21 会長特別委員会「巨大地震災害への対応検討特別委員会（委員長：濱田政則）」設置承認	1.24 「超高強度繊維補強コンクリート構造物の設計・施工指針」の受託承認 3.20 「吹き付けコンクリートの設計施工技术に関する指針」の受託承認 5.29～6.6 地震工学会からのトルコ地震被害調査団派遣申請 6.20 「海域活構造評価の高度化に関する研究（海域活構造評価技術の体系化に関する研究）」「四国の地盤情報に関する研究」「地域づくりの視点を考慮した社会整備評価システムの研究」の 3 件の受託承認 7.25 「道路関係 P F I 事業のリスクに関する分析調査研究」「北海道における社会基盤施設の資産価値調査業務」の 2 件の受託承認 9.19 「都市域と森林域・海洋域との連携をもとにする資源循環システムの構築に関する研究」「沿岸環境における鋼・複合構造物の防食および耐久性評価に関する研究」「平成 15 年度台風 1 0 号災害関係調査業務」の 3 件の受託承認 11.21 「建設マネジメントに係る近年の動向に関する調査研究」「勝どき橋の再跳開技術に関する調査研究」「社会資本の管理（アセットマネジメント）システムの研究」の 3 件の受託承認	1.7～8 大韓土木学会 Dr.Park Kyung-Boo 韓国分会長, 他 視察団 1.15 アジア土木学協会連合協議会 (ACECC) Dr.Kim Kwang-Il 会長 表敬訪問 1.25 ヨーロッパ土木技術者協会との協力協定調印式 3.26 Norwegian University of Science and Technology(NTNU) 表敬訪問 Mr.Pederssen Viggo Borg 5.28 大韓土木学会 Dr.Kyung-Boo Park 副会長 (兼土木学会韓国分会長) 一行 表敬訪問 5.28～30 IS-Okayama2003 (共催) (岡山市) 5.29～6.6 「トルコ地震被害調査団」派遣 団長：宮島 昌克 6.12 ネパール技術者協会日本支部 Mr.Laxman Sunuwar 表敬訪問 6.22～27 「アルジェリア地震被害調査団」派遣 団長：後藤 洋三ほか 6.23 「ACECC 第 7 回 Executive Committee Meeting」岡田 ACECC 担当委員会顧問他 (豪州) 6.30～7.11 第 23 回国際測地学・地球物理学連合 2003 年総会 (共催) (北海道) 7.23 タイ工学会との協力協定の承認 8.12 米国土木学会 Mr.Fredrick S.Berger 国際委員会 副委員長 表敬訪問 9.1～2 橋梁の構造健全度モニタリングに関する国際ワークショップ 橋梁振動コロキウム '03 (講演 52 題) 《主催》(北海道) 9.18 モンゴル土木学会 Mr.Gantumur Tulga 学術交流基金助成研修 9.24～26 中国土木水利工程学会 (台湾) Dr.Kyung-Chuan Chern 会長一行 大韓土木学会 Dr.Soo-Sam Kim 会長一行 モンゴル土木学会 Dr.Ganzorig Eredene 会長一行 平成 15 年度全国大会出席 10.1 英国土木学会 Prof.Tan Qinglian 会長一行 表敬訪問 10.16 米国土木学会 Ms.Patricia Long 時期会長 建設マネジメント国際会議出席 10.23～26 「大韓土木学会年次大会および J S C E-K S C E 共同セミナー」古木専務理事他 (韓国) 10.31 中国土木工学学会 Prof.Tan Qinglian 会長一行 表敬訪問 11.5～7 「フィリピン土木学会年次大会」古木専務理事 (比国) 11.10～15 第 2 回日中舗装技術に関する国際ワークショップ (講演 50 題) 《主催》(名古屋) 11.11～15 「米国土木学会年次大会」石井弓夫国際委員会顧問ほか (米国) 11.26 米国土木学会 Ms.Patricia Galloway 会長一行 表敬訪問 12.3～6 「中国土木水利工程学会創立 30 年記念大会および ACECC Forum」御巫会長他 (台湾) 12.8～11 エコデザイン 2003 (共催) 東京都 12.19 大韓土木学会 Dr.Kyung-Boo Park 副会長 (兼韓国分会長) 一行 視察団表敬訪問

2003（平成 15）年

行事・集会（本部）

- 1.15～16 第 2 回流体力学の評価とその応用に関するシンポジウム（講演 25 題）
- 1.15 土木デザインワークショップ 2003「歴史の創造性」（講演 3 題）
- 1.17 コンクリート構造物の非線形解析技術に関する研究成果報告会－非線形解析の信頼性向上を目指して その現状と課題－（講演 6 題）
- 1.17 第 8 回地下空間シンポジウム「ストック & メンテナンス時代の地下空間利用」（審査付論文発表 10 題，一般投稿論文発表 25 題）
- 1.17 計算力学フォーラム（計算力学の可能性）（講演 6 題）
- 1.17 第 6 回固体の破壊現象フォーラム（講演 3 題）
- 1.20 第 1 回日本－台湾国際シンポジウム 環境管理における膜技術（講演 10 題）
- 1.23～24 第 6 回地震時保有耐力法に基づく橋梁構造等のシンポジウム（講演 76 題）
- 1.23～24 第 32 回岩盤力学に関するシンポジウム（講演 64 題）
- 1.24～25 環境工学委員会 40 周年記念シンポジウム「環境工学の新世紀」（講演 10 題）
- 1.27 平成 14 年度シンポジウム人口物の寿命と再生－構造・機器のリニューアルに果たす溶接・接合技術－（共催）（東京都）
- 1.28～30 第 52 回 理論応用力学講演会（共催）（東京都）
- 1.30 2002 年制定コンクリート標準示方書〔耐震性能照査編〕の発刊ならびに「阪神・淡路大震災の被害分析」に関する講習会（大阪府）（講演 16 題）
- 2.4 「岩盤斜面防護用吹付けコンクリート」に関する講習会（講演 8 題）
- 2.6～7 第 18 回 環境工学連合講演会（共催）（東京都）
- 2.21 土木学地球環境委員会シンポジウム「ヨハネスブルグ環境サミット後の地球環境問題と日本の土木界」（講演 3 題）
- 2.24 「ISOへの対応」に関する第 5 回シンポジウム－動き出したユーロコードと我が国の対応－（講演 3 題）
- 3.6～7 第 4 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム（講演 47 題）
- 3.11～13 第 47 回水理講演会～河川技術に関するシンポジウム（講演 222 題）
- 3.13 土木計画ワンドイセミナー シリーズ 32「大規模社会基盤施設の計画史評価」（講演 7 題）
- 3.13 土木学地震工学委員会数物小委員会講演会
- 3.14 第 9 回新しい材料・工法・機械講習会－最新の土留め工法の現状と設計・施工ポイント－（講演 6 題）
- 3.17 歴史的鉄橋の保存・利活に関する講演会（講演 3 題）
- 3.18 計算力学フォーラム－土木工学における計算力学の新展開－（講演 5 題）
- 3.19 土木計画学ワンドイセミナー シリーズ 33 「ITS 社会にむけた交通安全研究の方向性 2」（講演 14 題）
- 3.20 土木計画学ワンドイセミナー シリーズ 34 「規制緩和後のバスサービス－現状と課題」（講演 14 題）
- 3.26 応用力学フォーラム（関東地区）（講演 2 題）
- 4.3～4 第 49 回構造工学シンポジウム（講演 142 題）
- 4.7 第 1 回土木学会トークサロン（講演 1 題）
- 4.16 鋼構造物の性能照査型設計体系に関するシンポジウム（講演 7 題）
- 4.22 第 3 回地震防災技術懇話会（講演 1 題）
- 5.6 シンポジウム「21 世紀におけるものづくりのシステムデザイン」（共催）（東京都）
- 5.14 第 16 回環境システムシンポジウム「沿岸域の賢明な利用に向けた複眼的アプローチ」（講演 5 題）
- 5.16 土木計画ワンドイセミナー シリーズ 35「土木技術者の新しい地平 交通バリアフリー実現に向けて」（講演 7 題）
- 5.20～21 第 41 回原子力総合シンポジウム（共催）（東京都）
- 5.27 デザイン賞受賞式（講演 13 題）
- 5.27 「美しい国土の創造」に関するワークショップ（共催）（東京都）
- 6.3～4 2003 年度・河川技術に関するシンポジウム－新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム－（講演 91 題）
- 6.5～6 第 3 回道路橋床版シンポジウム（講演 55 題）
- 6.6～8 第 27 回土木計画学研究発表会（春大会）（講演 311 題）
- 6.10 第 4 回地震防災技術懇話会（講演 1 題）
- 6.11 波浪荷重に関する講演会（講演 1 題）
- 6.11 「波浪荷重」に関する ISO 基準 WG の報告書原案説明会（講演 1 題）
- 6.12 「PC 構造物の現状の問題点とその対策」に関するシンポジウム（講演 18 題）
- 6.13 土木学会・地盤工学会合同 2003 年宮城県沖地震被害調査団速報・報告会
- 6.13 「社会基盤メンテナンス工学」講習会（講演 7 題）
- 6.14 平成 15 年度工学教育連合講演会（共催）（東京都）
- 6.17～18 レベル 2 地震動による液状化に関するシンポジウム（講演 27 題）
- 6.18～19 第 23 回土木史研究発表会（講演 68 題）
- 6.20 「コンクリートの化学的侵食・溶脱」に関するシンポジウム（講演 9 題）
- 6.27 第 2 回土木学会トークサロン（講演 1 題）

2003（平成 15）年

行事・集会（本部）

- 6.27 橋の動的耐震設計に関する講習会（東京会場）（講演 7 題）
- 6.27 土木計画ワンデイセミナー シリーズ 36「関西からの復権！都市計画に未来はあるのか？」（講演 5 題）
- 7.5～6 第 7 回 J A B E E 審査員研修会（講演 6 題）
- 7.7 「電気炉酸化スラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針（案）」に関する講習会（講演 5 題）
- 7.7 「都市地域計画シンポジウムー自然環境共生の大都市像ー」（共催）（東京都）
- 7.10～11 第 33 回安全工学シンポジウム（共催）（東京都）
- 7.12～13 第 8 回 J A B E E 審査員研修会（講演 6 題）
- 7.15 第 7 回鉄道力学シンポジウム（講演 15 題）
- 7.16～17 第 28 回海洋開発シンポジウム（講演 152 題）
- 7.17 第 17 回コンサルタントシンポジウム（講演 4 題）
- 7.22～23 第 11 回地球環境シンポジウム（講演 61 題）
- 7.23～24 第 8 回水シンポジウム（講演 4 題）
- 7.23～25 第 22 回混相流シンポジウム（共催）（豊中市）
- 7.25 土木建設技術シンポジウム 2003（講演 80 題）
- 7.25 「フレッシュコンクリートの今システムー評価指標」に関するシンポジウム（講演 13 題）
- 7.26 第 5 回インターナショナルサマーシンポジウム（講演 91 題）
- 7.29 第 2 回木橋技術に関するシンポジウム（講演 25 題）
- 8.1 第 37 回夏期講習会（講演 4 題）
- 8.5 「水循環シンポジウム：21 世紀の研究課題と展望」（共催）（東京都）
- 8.6 社会資本へのアセットマネジメントの適用に関するワークショップ（講演 5 題）
- 8.6～7 第 39 回水工学に関する夏期研修会（講演：A コース 8 題，B コース 8 題）
- 8.9～10 第 9 回 J A B E E 審査員研修会（講演 6 題）
- 8.19～22 鉄道技術シンポジウム（STECH´03）（共催）（東京都）
- 8.21 宮城県沖の地震・アルジェリア地震被害調査報告会（共催）（東京都）
- 9.1～2 橋梁の構造健全度モニタリングに関する国際ワークショップ 橋梁振動コロキウム´03（講演 52 題）
- 9.2 第 6 回鋼構造と橋に関するシンポジウムー鋼構造と橋の耐久性ー（講演 6 題）
- 9.9 「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と基準化が望まれる試験方法の動向」および「コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題」に関する講習会（講演 11 題）
- 9.9～10 土木学会による実務者のための耐震設計入門平成 15 年度東京セミナー（講演 20 題）
- 9.11 「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会（講演 9 題）
- 9.12 応用力学フォーラム（変形の局所化不安定と数値解析ー地盤材料と金属材料ー）（講演 2 題）
- 9.12 第 9 回新しい材料・工法・機械講習会（講演 5 題）
- 9.14～15 第 10 回 J A B E E 審査員研修会（講演 2 題）
- 9.23 第 6 回応用力学シンポジウム（講演 135 題）
- 9.24 平成 16 年度全国大会（徳島大学）
- 9.29 土木学会トークサロン（講演 1 題）
- 10.2～3 平成 15 年度土木学会による実務者のための耐震設計入門名古屋セミナー（講演 20 題）
- 10.9 講習会「土木技術者の論理」（講演 2 題）
- 10.10 「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会（講演 9 題）
- 10.14 I S O 23469 に関する公開討論会（講演 5 題）
- 10.23 環境システム地域シンポジウム「地域と環境のエコデザインー北九州市の取り組みを題材に考えるー」（講演 7 題）
- 10.24 第 8 回固体の破壊現象フォーラム（講演 3 題）
- 10.24～25 第 31 回環境システム研究論文発表会（講演 144 題）
- 10.25 土木学会ー大韓土木学会共同セミナー ``Durability Concern on Concrete Structures for the Future ``（共催）（韓国）
- 10.28～29 第 28 回情報利用技術シンポジウム（講演 60 題）
- 10.29～30 第 47 回材料研究連合講演会（共催）（京都市）
- 10.31 「都市 N A T M とシールド工法の境界領域ー荷重評価の現状と課題ー」講習会（講演 8 題）
- 11.4 液状化による地盤流動と構造物の挙動，設計法に関するシンポジウム（共催）（東京都）
- 11.6～7 第 5 回複合構造の活用に関するシンポジウム（講演 55 題）
- 11.7 「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会（講演 9 題）
- 11.10 「コンクリート標準示方書[維持管理編]に標準した維持管理マニュアル（その 1）および関連資料の発刊」ならびに「エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針の改定」に関する講習会（講演 12 題）
- 11.10 第 4 回計算力学講習会「有限要素の性質とその評価」（講演 3 題）
- 11.12 橋梁の耐風設計に関する講習会（講演 3 題）
- 11.13～15 第 1 回「構造ヘルスマニタリング及び知的インフラストラクチャ」に関する国際会議

2003（平成 15）年

行事・集会（本部）

- 11.14～15 第 40 回環境工学研究フォーラム（講演 144 題）
- 11.17 第 50 回海岸工学講演会記念シンポジウム「海岸工学の新たな発展に向けて」（講演 7 題）
- 11.18～20 第 50 回海岸工学講演会（講演 286 題）
- 11.25 十勝沖地震被害調査報告会（講演 5 題）
- 11.25～26 建設マネジメント問題に関する研究発表会・討論会（講演 71 題）
- 11.26 応用力学フォーラム（東北地区）（講演 2 題）
- 11.26～28 第 5 回構造物の安全性および信頼性に関するシンポジウム（共催）（東京都）
- 11.27～29 第 28 回土木計画学研究発表会（講演 335 題）
- 11.28 これからの舗装評価方法に関する講習会（新潟）（講演 3 題）
- 12.1 第 5 回地震防災技術懇話会（講演 1 題）
- 12.2 「水理公式集例題プログラム集」講習会（講演 6 題）
- 12.2 第 21 回建設用ロボットに関する技術講習会（講演 7 題）
- 12.4 土木計画学ワンデyseminar シリーズ 37「バスサービスの課題と処方箋」（講演 12 題）
- 12.4～5 第 8 回設計工学に関するシンポジウム（講演 35 題）
- 12.5 これからの舗装評価方法に関する講習会（大阪）（講演 5 題）
- 12.5 「トンネル変状メカニズム」発刊に伴う主旨説明講習会（講演 9 題）
- 12.5 2003 年十勝沖地震被害調査報告会（共催）（東京都）
- 12.6～7 第 3 回高専・短大・専門学校土木教育シンポジウム（講演 4 題）
- 12.8 応用力学フォーラム（第 19 回乱流フォーラム）（講演 2 題）
- 12.9～10 安全で経済的な施工計画を行うための講習会「仮設構造物の計画と施工に関する講習会」「鋼構造物架設の設計と施工に関する講習会」（講演 10 題）
- 12.9～11 第 10 回鉄道技術連合シンポジウム（J-Rail）（共催）（川崎市）
- 12.9～12 第 27 回地震工学研究発表会（講演 281 題）
- 12.12 第 50 回風に関するシンポジウム（共催）（仙台市）
- 12.19 第 8 回舗装工学研究発表会（講演 27 題）

2003（平成 15）年

支部の動き

- 北海道支部
- 2.1～2 年次技術研究発表会 講演 267 題
- 7.1 第 1 回講習会 2002 年制定コンクリート標準示方書「耐震性能照査編」の発刊ならびに「阪神淡路大震災の被害分析」に関する講習会（講演数 4 題）
- 7.2 第 2 回講習会「複合構造物の性能照査指針（案）」及び「技術者倫理」に関する講習会（講演数 6 題）
- 8.22 第 3 回講習会 橋の動的耐震設計に関する講習会（講演数 14 題）
- 「土木の日」行事
- 札幌地区
- 8.2 親子現場見学会（厚真火力発電所,白鳥大橋,国道 230 号復旧工事（三豊トンネル））
- 11.18 「土木の日」記念シンポジウム
- 北見地区
- 11.10～16 写真展
- 11.13～16 書道展
- 11.16 土木のあれこれ無料相談所
- 11.17 映画会
- 苫小牧地区
- 8.1 市民のための見学会
- 10.18～19 映画及び土木に関する展示
- 室蘭地区
- 10.9～10 現場見学会（室蘭港,三豊トンネル,錦多摩川遊水地）
- 10.18 オープンラボの開催
- 10.18 「土木の日記念蛍光ペン」の配布
- 11.18 トラスコンテスト
- 函館地区
- 8.1 一日体験学習会（函館港, えとも大橋, 赤川浄水場, 新中野ダム）

2003（平成 15）年

支部の動き

- 8.2 身近な川の水質を調べよう
- 8.19 都市のアイデンティティの発見
- 9.6 身近な微生物を調べよう
- 9.20 身近な微生物を調べよう
- 10.17～19 土木クイズ
- 11.16 橋を作ってみよう

東北支部

- * 「複合構造物照査基準（案）」に関する講習会
- * 講演会「青森の暮らしと建設材料」
- * 技術講座と映画の会（技術推進機構 共催）

3.8 東北支部技術研究発表会（発表数 421 題）

●「土木の日」行事

- 8.11 見学会「今迎る,ファン・ドールンが安積疎水計画の現地を歩いた道」
- 10.19 学園参加型関連行事（東北工業大学）
- 10.25 一般市民見学会「北上川改修の今昔探訪」
- 10.25 現場見学会「東北新幹線八甲田トンネル」
- 11.8 シンポジウム「今,ファン・ドールン氏を振り返る」
- 11.14 現場見学会「東北新幹線八甲田トンネル」
- * 野蒜築港 120 年ワークショップ
- * 東北の土木技術を語る会

関東支部

2.28 講習会「土木技術者に求められる資質と素養」－技術士を目指されている方のために－

3.10～11 技術研究発表会 講演 505 題

4.18 第 8 回「KANTO シビックサークル」－産・官・学の技術者交流会－

7.8 講習会「土木技術者に求められる資質と素養」－技術者倫理の涵養第 1 回－（講演 3 題）

7.16 平成 15 年度第 12 回中学生記者取材講習会（ケーソンヤード,大黒ふ頭側臨海道路現場見学,ベイブリッジ下国道現場見学）

8.20 第 4 回「談話会」－清宮理先生を囲んで－「公共事業のリスクマネジメント」

10.10 講演会「水とのたたかい・水からの恩恵－新潟の水と酒の話－」（講演数 2 題）

11.20 講習会「都市再生」－都市再生事業が動き出した・・・取り組みの現状－（講演数 4 題）

2.26 講習会「土木技術者に求められる資質と素養」－技術士を目指している方のために 第 15 回－

3.5～6 第 31 回技術研究発表会（発表数 521 題）

●「土木の日」行事

10～12 月 第 1 回見学会（土木の日行事）（技術研究所見学会）

11.18 第 2 回見学会（土木の日行事）（滝沢ダム建設工事現場）

11.22 第 3 回見学会（土木の日行事）（山梨県リニア見学センター（リニア実験線施設見学およびリニア試乗）,東京電力葛野川水力発電所見学）

中部支部

2.5 「中部地方の土木プロジェクトと新たな土木のパラダイス」

3.3 第 2 回 「2002 年制定コンクリート標準示方書〔耐震性能照査編〕の発刊ならびにコンクリート構造物の耐震設計法に関する講習会」

4.22 第 1 回技術講座「都市防災に関する技術講座シリーズ」－（1）地震動と被害予測・防災計画

5.20 第 2 回技術講座「都市防災に関する技術講座シリーズ」－（2）耐震診断と補強

6.24 第 1 回講習会 「複合構造物の性能照査指針（案）に関する講習会」

9.5 第 2 回講習会 「コンクリート製長大アーチ橋の設計手法に関する講習会」

2.20 第 3 回講習会 技術士講習会「土木技術者に求められる姿」－技術士資格取得のために－

3.6 研究発表会（発表数 313 題）

●「土木の日」行事

10.4～5 中部国際空港連絡鉄道新線高架橋ウォーク

10.11 シンポジウム「土木のプロジェクトを支えた戦士たち」

10.26 市民見学会「見てみよう自然と共生する土木事業」（釜ヶ淵砂防堰堤,新釜トンネル）

2003（平成 15）年

支部の動き

- 10.25～26 学校イベントの協賛・講演 工嶺祭（長野工業高等専門学校環境都市工学科）
- 10.30～11.2 学校イベントの協賛・講演 岐阜大学学園祭（岐阜大学工学部社会基盤工学科）
- 11.1～2 学校イベントの協賛・講演 こうよう祭（豊田工業高等専門学校環境都市工学科）
- 11.2～3 学校イベントの協賛・講演 高専祭（岐阜工業高等専門学校環境都市工学科）
- 11.15 市民見学会「新しい中部の玄関口”セントレア”を見に行こう」（中部国際空港）
- 11.16 市民見学会「未来へつながる道づくり,環境づくり」（第 2 名神自動車道,亀山サンシャインパーク,関塾）
- 11.17 土木出前講座
- * 見学会「金沢外環状道路 山側新幹線はどこまでできた？」

関西支部

- 1.31 第 2 回継続教育制度講習会
- 5.31 関西支部年次学術講演会（一般講演数 434 題）
- 5.14～7.2 学生映画会「地域と自然との共生をめざす道づくり」,「土のクリーニング」,「大断面メガネトンネルへの挑戦 大代古墳トンネル」
- 6.6 複合構造物の性能照査指針（案）に関する講習会
- 6.9 浅層大断面トンネル工法に関する講習会
- 7.26 小中高生対象対象見学会「世界一高い明石海峡大橋の’てっぺん’に登ろう！ ー明石海峡大橋塔頂体験会ー」（明石海峡大橋,橋の科学館,北淡町震災記念公園見学）
- 8.19 フェロセメントカヌー競技大会（共催）
- 9.19 TDM を活用した持続可能性な交通システムに関する講習会
- 9.27 一般市民見学会「琵琶湖疏水散策と工事中の地下鉄線路を歩こう」（京都市地下鉄東西線延伸工事の見学,琵琶湖疏水散策）
- 10.7 高専学生対象講演会
- 10.26 地方見学会「世界一の技術！琵琶湖の水はこうして守られている！！」（湖南中部浄化センター,山寺川市街地排水浄化施設,守川河川浄化施設,琵琶湖再生施設の見学）
- 11.21 全会員対象見学会（南阪奈道路）
- 11～12 月 土木文化講座〈一般講演会〉「大地のようす」（松原市立布忍小学校,全 6 年生対象の総合学習授業）
- 12.4 コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本に関する研修会（第Ⅰ：設計に関する研修会）
- 12.5 コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本に関する研修会（第Ⅱ：施工・維持管理に関する研修会）
- * 関西支部会員海外派遣研修
- * インターンシップ関西
- 「土木の日」行事
- 11.15 「海に浮かぶ人工島へ遊びに行こう！！」（関西国際空港 2 期工事現場,空港消防隊他の見学）
- * 「土木の日」関連行事関西地区連絡会及び共催団体合同会議

中国支部

- 1.10 土木鋼構造物の性能照査設計法に関する講習会
- 1.31 降雨および地震による斜面災害の防止と軽減
- 5.16 2002 年コンクリート標準示方書「耐震性能照査編」制定に伴う講習会
- 5.30 工事見学会
- 5.30 特別講演会（テーマ 1：福山市の将来の夢（中核都市福山の活性化）,テーマ 2：環境バイオテクノロジー）
- 5.30 交流会
- 5.31 支部研究発表会（発表数 315 題）
- 8.22 コンクリートのクリープ・収縮に関する研究調査
- 9.12 水環境の保全と創造を目指して ー環境に関する技術ー
- 12.5 橋の動的耐震設計に関する講習会
- 「土木の日」行事
- 11.1 映画上映会
- 11.1～2 土の造形と魅力
- 11.2～3 建設工学科展
- 11.2 秋の建設・環境ジュニアサイエンス
- 11.2 映画上映会
- 11.8 鳥取県自動車道路建設現場見学会
- 11.8 秋の塔頂体験ツアー
- 11.14～15 しまね建設技術展
- 11.16 環境都市工学展

2003（平成 15）年

支部の動き

11.19 選奨土木遺産顕彰式・手づくり郷土賞伝達式

* 土木の日親子見学会

四国支部

2.4 2002 年制定コンクリート標準示方書「耐震性能照査編」の発刊ならびに「阪神大震災の被害分析」に関する四国地区講習会[CPD プログラム]

2.24 国際問題講演会[CPD プログラム] フォーラム「諸外国の公共事業における官民リスク分担の動向」

3.18 学術講演会[リモートセンシングと GIS の土木工学・地盤工学への応用]（地盤工学会共催）

6.19 フライアッシュを細骨材補充混和剤として用いたコンクリートの施工指針（案）講習会（徳島県会場）

6.24 フライアッシュを細骨材補充混和剤として用いたコンクリートの施工指針（案）講習会（高知県会場）

7.1 フライアッシュを細骨材補充混和剤として用いたコンクリートの施工指針（案）講習会（愛媛県会場）

7.8 フライアッシュを細骨材補充混和剤として用いたコンクリートの施工指針（案）講習会（香川県会場）

* 「四国のインフラの将来と課題に関する」に関する講演会

* 四国の自然災害に関するフォーラム（CPD プログラム）

* 学術講演会（CPD プログラム）

●「土木の日」行事

9.26 現場見学会（三島川之江港ケーソンヤード及び港周辺）

10.1 現場見学会（三島川之江港ケーソンヤード）

10.9 仁淀川第 3 発電所佐川制御所見学

10.14 第 3 回四国の港湾空港技術を考えるセミナー

10.17 ケーソン築造工事現場見学会（徳島小松島港明石地区）

10.21 本川発電所見学会

10.22 薩平発電所小見野々ダム見学

10.25～26 土木専門展と子供実験（阿南工業高等専門学校）

11.1～2 土木・環境パネル展（愛媛大学）

11.4 現場見学会（伊予港ケーソンヤード）

11.7 現場見学会（海洋環境整備事業サンポート高松）

11.7 名野川発電所中津川取水ダム見学

11.7～8 土木パネル展（高知工業高等専門学校）

11.9 新四国の道ハイキング

11.3 パネル展 大洲まつり

11.8～9 サイエンスフェスタ 2003 in 高松高専（高松工業高等専門学校）

11.10 那賀川バスツアー

11.15～21 梁瀬ダムパネル展

11.16 パネル展 三里まつり

11.16 新四国の道ハイキング

11.17 道路清掃（高知県一円）

11.17～21 鉄道土木写真展

11.18～19 パネル展（高知工科大学）

11.18 現場見学会えひめの土木体験プログラム（今治市中堀（街）中堀樋口前線道路改良事業）

11.18 現場見学会えひめの土木体験プログラム（伊予市上三谷（二）大谷川河川改修事業）

11.18 「吉野川橋の博物館」現場見学会

11.19 薩平発電所小見野々ダム見学

11.20 橘湾発電所見学会

11.21 現場見学会えひめの土木体験プログラム（西条市禎端（主）壬生川新居浜野田線,新兵衛大橋）

11.21 土木の日記念講演会（CPD プログラム）

11.21～22 パネル展 くらしと技術の建設フェア（松江市）

11.21～22 パネル展 くらしと技術の建設フェア（松山市）

11.21～22 くらしと技術の建設フェア（松山市）

11.21～22 くらしと技術の建設フェア（一般市民 松山市）

11.21～22 くらしと技術の建設フェア（地元の小学生 松山市）

11.22 土木の日体験ツアー

11.23 水力発電所設備見学会

11.26 惣川発電所見学会

11.27 パネル展（香川大学）

2003（平成 15）年

支部の動き

11 月～12 月 高知県内の工事見学会

12.3 現場見学会えひめの土木体験プログラム（宇和島市柿原須賀川ダム及び柿原浄水場）

西部支部

1.11 都市水害に関するシンポジウム

2.14 技術発表会 講演 7 題

3.8 研究発表会 講演 585 題

※ 特別講演会「青年乃木希典日記」一島探勝記抜粋一

●「土木の日」行事

（福岡地区）

※ 2002 年制定コンクリート標準示方書「耐震性能照査編」講習会

※ 見学会（会員）九州電力小丸川発電所建設

※ 特別講演会「中国における大型土木プロジェクト」（講演数 1 題）

※ 「複合構造物の性能照査指針」講習会

※ 「橋の動的耐震設計」講習会

※ 「コンクリート製長大アーチ橋の設計手法」講習会

※ 見学会（外国人留学生）雲仙現場

※ 見学会（会員）関門自動車道関門橋・関門トンネル

※ 見学会（一般市民）九州電力八丁原地熱発電所

※ 海外研修視察

※ 支部独自主催「九州の将来像と今後の社会資本整備について」講習会

※ 技術発表会（発表数 7 題）

※ 研究発表会（発表数 595 題）

※ 特別講演会「沈み込み帯の温泉 一陸域と海域の物質循環系一」（講演数 1 題）

※ 特別講演会「土木技術者の気概と高揚を目指して」（講演数 1 題）

●「土木の日」行事

福岡地区

※ 国営海の中道海浜公園「土木の日」ファミリーフェスタ 2003（建設機械展示,土木工作教室,土木クイズ,キャラクターショー,焼き芋作り体験他）

北九州地区

※ 土木フェア in 北九州 2003（建設重機展示・試乗会,土木今昔パネル展示,土木スタンプラリー・〇×クイズ,小学生絵画コンテスト表彰式）

※ 土木フェア in 北九州 2003 Part II（到津の森公園キャラクターショー,パネル展示他）

※ 土木パネル展,北九州市庁舎周辺 パネルによる PR

※ 土木の日記念シンポジウム（武蔵工業大学教授 中村英夫氏による基調講演等）

佐賀地区

※ 土木フェア（パネルによる土木の PR,体験コーナー他）

※ 土木の日展示会（パネル展示）

長崎地区

※ テクノパワーおもしろ探検隊（土木工学に関する科学実験について体験学習）

※ 子供に夢を与える講演（春山幸男氏による「宇宙へ飛び出そう」）

※ 旧国鉄近代遺産見学ツアー（旧国鉄の長崎本線・大村の鉄道に関わる近代遺産を臨時貸切列車で見学）

※ 映画「伊能忠敬」上映会

※ 「魅力ある活力あるまちを未来に」DOVOC フェア 2003 浜の町ベルナード,観光通 パネル展,長崎土木新発見ウォークラリー,模型展示,土木クイズラリー他

※ 長崎港クルージングツアー（女神大橋及び港湾施設等を会場より見学）

※ 土木現場見学会長崎地区（長崎芒塚 IC ランプ,日見 BP 新妙相寺橋梁工事,出島バイパストンネル島原地区,雲仙岳災害記念館,大野木場砂防みらい館,水無川 2 号砂防堰堤 他）

熊本地区

※ 絵画・写真コンクール展示

※ 親子バスツアー

※ 子供シンポジウム

※ 土木フェア熊本 in2003 Do!工房（原点「つくるヨロコビ」!）

※ 土木遺産めぐりバスツアー

大分地区

2003（平成 15）年

支部の動き

大分

- * 土木の日 PR,ポスター・横断幕・マスコミ等への広報
- * 親子と土木のふれあい見学会（大分市内の土木施設見学ツアー）
- * 土木の日写真コンテスト（写真コンテスト,表彰式）

宮崎地区

宮崎

- * 「土木の日」広報,ラジオ PR「土木で働く女性たち」,県内向け広報誌による PR,新聞社等への「土木の日」投げ込み PR 他
- * 「土木の日」イベント（パネル展,建設機械展示・試乗,測量機器・案内表示板,展示,現場見学会,ゲーム他）

日南

- * ふれあい土木祭,油津堀川まつり（パネル展,測量機器展示・展示,建設機械展示・試乗,模型展示,現場見学会,ゲーム他）

串間

- * 市民秋祭り（建設機械展示・試乗,パネル展,バザー,ミニ盆栽,苗木配布,現場見学 他）

都城

- * 「土木の日」イベント（建設機械試乗,パネル展示,ゲーム,造形教室,測量機械展示,上映会）

小林

- * 「土木の日」イベント（パネル展,建設機械展示・試乗,盆栽教室他,スーパー6 店舗チラシ配布測量機械展示,草花配布,各種ゲーム他）

高岡

- * 「土木の日」総合町民祭（パネル展示,ブロック橋梁組立て,土木の日 PR,クイズ等イベント,事業 PR 等）

西都市

- * 「土木の日」（パネル展,建設機器展示,土木クイズ,造景コンテスト 他）

高鍋

- * 「土木の日」イベント（リーフレット配布,花の苗配布等）

日向

- * 「土木の日」日向産業商業まつり（塩見橋パネル展,建設機械試乗,測量機器展示,木工教室,花の種配布）
- * 各町文化祭（パネル展,建設機械試乗,チラシ配布,花の種配布,学童作品展示他）

延岡

- * のぼりざるフェスタ（チラシ配布,パネル展,建設機械展示他）
- * 現場見学会（延岡工業高等学校生徒）
- * カルチャープラザ延岡（パネル展）

鹿児島地区

鹿児島

- * 土木パネル展（土木関連パネル展）
- * 土木フェスタ in Kagoshima（北埠頭：建設機械展示・試乗,災害関係対策車展示,パネル展示,スケッチコンクール他 見学会：新幹線及び武岡トンネル）

大隈

- * 土木フェスティバル in Kanoya（建設機械展示・試乗,パネル・模型展示,災害対策車展示他）

沖縄地区

- * やんばるの産業祭り「土木建築展」
- * 沖縄県土木建築部「研究発表会」
- * 那覇港湾施設巡りバスツアー
- * 電光広報（県民広場「土木の日」にちなんで電光掲示板による PR）
- * 「土木の日」パネル展
- * 八重山「パネル展」
- * 宮古「パネル展」
- * 第 11 回「沖縄の道路」写真コンテスト表彰式
- * シンポジウム
- * 写真展

土木一般	社会一般
1.14 国土交通省，設計の総点検要領に従い 2007 年度の公共事業コストを 2002 年度に比較し 15%削減する構造改革実施のため点検項目を定義，施行 1.21 東京電力，1972～97 年にかけて PC ウェルの基礎を使って建設した同社管内の鉄塔 16 基のうち 4 基の基礎支持力が 6～9 割しかなかったことを発表 1.23 三菱重工業など 7 社，台湾新幹線の最終工区を正式受注，2005 年開通予定 1.28 1995.1 の阪神・淡路大震災で阪神高速神戸線が崩壊した事故で，損害賠償を求める訴訟が，設計震度を上回る地震力と判断され敗訴 2.8 英仏海峡トンネル連絡線・フォークストン～ロンドン間 113km のうち 74km の開通区間中，ロンドンのアベンダー通りでシールド掘削が原因で直径 10m，深さ 20km が陥没 3.11 閣議，特定都市河川浸水被害対策法案を決定．都市部の河川 30～40 を特定箇所指定する予定 3.16 第 3 回世界水フォーラム，琵琶湖・淀川をテーマに京都・滋賀・大阪で開催．170 カ国，48 機関，来場者 2 万 4000 人（日本人 1 万 8000 人）が参加．皇太子夫妻参列し皇太子が記念講演． 3.19 国土交通省，道路橋のアルカリ骨材反応に対する維持管理要綱（案）を作成，国道・高速道路の橋脚や橋台 1465 基の調整と補修を関係機関に通達 3.25 政府，高速道路のコスト削減計画を決定，道路関係 4 公団民営化推進委員会に報告．委員会はさらなるコスト削減と公団首脳陣の刷新を要求 3.一 営団地下鉄半蔵門線・渋谷～押上間 16.8km 全通，東急田園都市線，東武伊勢崎線・日光線と相互乗入れ． 4.11 国土交通省，韓国大邱市の地下鉄火災事件をうけ 684 駅を調査．火災対策基準 268 駅，排煙設備 200 駅，誘導設備 122 駅で大半が不備と発表 4.15 東京電力，管内 17 基の原子力発電所を検査のためすべて停止 4.15 道路関係 4 公団民営化推進委員会，首都高速と阪神高速の予算削減路線を要求 4.15 環境省，ダイオキシンを含む水底土砂の排出基準を設定と発表 4.21 国土交通省，施工体制等調査指導団（2000.9）発足により建設業法違反の疑いが浮上した 77 社中 44 社の調査を終了し 20 社を処分 4.一 山陽新幹線の高架橋や橋の橋脚 6 基でアルカリ骨材反応が原因と見られる主鉄筋の破断発生を発見，JR 西日本で対策 5.1 青森県風間浦村の国道 279 号で南側の斜面から重さ 170t の岩石が崩落，約 130m の高さから落下した岩石は国道をふさぎ路面が 50m 陥没 5.2 経済産業省，PC ウェルを使って建設した鉄塔 913 基の強度を調査した結果を発表．東京電力の 4 基と住友共同電力 3 基の計 7 基の鉄塔基礎で支持力不足と発表，補強を行う予定 5.一 首都高速，鋼製の橋脚にひび割れ多数発見，集中しているのは鋼製橋脚の柱と桁が接合する隅角部．2000 年に 2011 基のうち 566 基のひび割れ修理に続き 4 号新宿線 253 基を 2003 年度末までに補修．阪神高速にも波及	1.21 メキシコ南西部のコリマ州で M7.6 の地震．死者 25 人，負傷者 500 人以上 2.1 米国航空宇宙局のスペースシャトル・コロンビアが空中分解し墜落．死者 7 人 2.18 韓国の大邱市で放火と見られる地下鉄火災，防災設備の不備から 12 両全焼，死者 198 人，負傷者 150 人に達する． 2.24 中国西部の新彊ウイグル自治区カシュガル市近郊で M6.8 の地震．公共施設・民家などの倒壊 8000 棟，死者 216 人 2.28 閣議，99 の国立大学を独立法人化することに決定 3.6 アルジェリア南部のタマンラセットでアルジェリア航空ボーイング 739 機が墜落，死者 97 人 3.13 静岡県富士市吉原でビル解体中にコンクリートと鉄骨が落下，車 2 台が下敷き．死者 4 人 3.19 米英軍，イラクに対し攻撃を開始 3.一 西東京市田無の東京大学農場 22ha が千葉県検見川へ移転決定．跡地利用をめぐり諸計画があるが未定 4.1 日本郵政公社が発足．民営化に向け多くの検討課題が山積． 4.1 浦和・与野・大宮が合併．103 万人の新政令都市さいたま市が発足 4.9 米英両軍，イラクのバグダットを制圧 4.13 イラクのバグダットで国立博物館などの所蔵文化財が多数略奪され一部は国外へ持ち出される 4.21 イラクのフセイン政権崩壊 4.25 森ビル，東京都港区に再開発ビル六本木ヒルズを開館．11 万㎡の敷地に森ビル 54 階建をはじめ事務所・住宅・ホテル・公園などを整備．総事業費 2700 億円 5.1 米国の G.H.W ブッシュ大統領，イラク戦争の終結を宣言 5.12 サウジアラビアのリアド郊外で連続爆破テロ．死者 34 人，負傷者 200 人 5.16 モロッコのカサブランカで連続爆破テロ．死者 45 人，負傷者 100 人 5.22 アルジェリア北部に M6.8 の地震．被害はアルジェリアのほか地中海沿岸部に集中．全半壊家屋 1200 棟，死者 2200 人以上，負傷者 1 万 2000 人以上 5.26 宮城県南部を震源に M7.1 の三陸南地震．岩手県南部，宮城県北部で被害．道路 154 ケ所，橋 10 ケ所，河川 30 ケ所，大船渡港など港湾 30 ケ所 5.26 米国オクラホマ州のアンカーソー川に架かる州間道路の橋の橋脚にはしけが激突．自動車 10 台が川に転落，死者 14 人．はしけは長さ 150m，幅 15m の石油輸送用 6.一 インド南部など連続熱波の影響で死者 1000 人 7.20 九州各地で集中豪雨による土石流や崖崩れが発生．熊本県水俣市では集川沿川の土石流で死者 15 人，深川地区で 4 人，鹿児島県，長崎県でも死者 3 人．福岡市の中心部が浸水 7.26 宮城県北部に M6.2 の連続地震．震源に近い鹿島台町，南郷町，矢本町，河南町，鳴瀬町には災害救助法が適用された．山形県，岩手県を加え全半壊住宅 5000 棟，道路 162 ケ所，河川 23 ケ所，急傾斜地 25 ケ所など，公共土木施設の被害額 33 億 6570 万円 8.1 ロシア南部北オセチア共和国の陸軍病院で自爆テロ，死者 50 人 8.8 台風 10 号が，沖縄列島を通過後 8 日夜半に四国へ上陸し，日本列島を縦断，10 日終息．暴風，高潮により全国で建物被害 3200 棟，死者・行方不明者 19 人（北海道平取町の河川で 11 人）

土木一般	社会一般
6.3 5.26 の地震被害を重視した国土交通省、JR 東日本、JR 東海、JR 西日本に対し新幹線高架橋の橋脚耐震補強について整備計画を要求。特に阪神・淡路大震災後の補強対策に入っていなかった JR 東日本は 1 万 5000 本の橋脚柱の耐震補強を表明。工費 200 億円 6.14 韓国のソウルと北朝鮮の新義州を結ぶ京義線および東海岸の東海線、国境付近の復旧工事を終了、連結式を開催 6.18 国土交通省、東京国際空港に 4 本目の滑走路 2500m を 6900 億円（総事業費 9000 億円）で建設する入札手続きを公表。2005.3 入札、2009 開業予定 6.25 国土交通省、5.22 開催の委員会の内定を受け、道路構造令の改正案を発表。渋滞解消のため小型専用道路、車線数の減少（中央分離帯を設けたまま片側 1 車線、あるいは 1.5 車線）など弾力的な運用を決定 6.26 尼崎公害訴訟、2000.12 後の和解成立後も国と阪神公団は和解成立条件を履行していないと住民 21 人が公害等調整委員会に斡旋を依頼。国土交通省は国道 43 号と阪神高速 3 号神戸線につき対策を強化することで斡旋案が成立 6.一 電源開発、奥只見発電所（1962.6、36 万 kW を 20 万 kW 増設）、大島発電所（1963.10、9 万 5000kW を 8 万 7000kW 増設）の再開発増設工事終了。特に天然記念物イヌワシの繁殖に成功するなど自然保護を重視 6.一 中国長江の三峡ダム、三峡発電所湛水開始。堤高 181m、堤頂長 2.3km、出力 1820 万 kW の世界最高、2009 年完成予定 6.一 環境省、2003.4 時点の産業廃棄物は全国で 1100 万 t と発表、うち 586 万 t は生活環境に影響するとし処理費用 3500 億円と推定。 6.一 営団地下鉄 13 号線、池袋～渋谷間 8.9 km 着工、2008.3 完成予定 6.一 上海の黄浦江に世界最大の鋼アーチ、支間 550m の盧浦大橋 7.17 国土交通省道路事業評価手法検討委員会、直接事業で建設する高速道路の着工順位を決定する評価手法 16 項目を選定。同省は 15 年間で 3 兆円を投入し通行料無料で直接高速道路を建設する予定 7.一 阪神高速神戸山手線に神戸長田トンネル 2.1km 完成。住宅密集市街地に NATM 工法を採用した難工事 7.一 舞浜リゾートライン、跨座式のディズニーリゾート・ラインを循環する一周 5km 開通 7.一 東京電力、横須賀火力発電所 280.4 万 kW 増設 8.10 沖縄都市モノレール、那覇空港～首里間に 12.9km の沖縄モノレール開通 9.28 英国とフランスを結ぶ 109km の英仏海峡連絡鉄道、第 1 期 74km 開通 9.一 仙台市、地下鉄東西線 13.9km の免許取得。開業は早くて 2015 年 10.1 東海道新幹線、品川駅開業（総事業費 950 億円）。周辺地区再開発、汐留・錦糸町駅前地区など大規模開発進行中 11.1 国土交通省、有料道路の料金値下げ実験で通行料が 1.5 倍になったと発表 11.27 北海道電力、泊原子力発電所 32 号機 91 万 2000kW 着工。合計 207 万 kW の完成予定は 2009.12 11.28 国土交通省、道路公団など 4 公団を民営化する枠組みについて複数案を政府与党協議会に提示 11.一 東京電力、富津火力発電所（LNG）325kW に増設	8.25 インドのムンバイ（旧ボンベイ）市内 2 ヶ所で爆弾テロ、死者 50 人、重軽傷 150 人 8.一 欧州各地で 30 年ぶり、40 度を越す異常気象を記録 9.26 農水省 1993 年以来 10 年ぶりの米不足と発表 9.26 北海道太平洋沿岸部に M8.0 の平成 15 年十勝沖地震。津波も発生、特急列車の脱線、釧路空港の天井落下など、住宅、停電、断水などで負傷者 849 人 9.28 9.26 の十勝沖地震による石油タンク火災に続き石油タンク火災が続発。鎮火は 30 日、苫小牧西港 43 時間閉鎖 10.16 環境省・林野庁、北海道の知床を世界自然遺産に推挙 10.17 ユネスコの無形文化財の保護に関する条約が採決され、能楽（2001）に続き人形浄瑠璃文楽など 28 件を宣言 10.26 カリフォルニア州の山火事発生、南部 4 郡に対し非常事態宣言。27 日災害地域に指定。10.21 の出火以来、焼失面積 3000 m²、焼失家屋 3500 棟、死者 21 人以上、炎はロサンゼルス的高速道路に迫る。 10.27 イラクのバグダットで赤十字国際委員会など 3 ヶ所で連続自爆テロ。双方合わせて死者 30 人、負傷者 450 人 11.3 第 65 回文化勲章、緒方貞子・森亘ら 5 人が受賞 11.12 イラク南部ナージラヤのイタリア警察軍駐屯地でトラックによる自爆テロ。死者 28 人、負傷者 80 人 11.20 トルコのイスタンブールの英国総領事館、英国系銀行の 2 ヶ所で自動車爆弾テロ。両方で死者 30 人、負傷者 450 人以上 12.13 米国急襲部隊、イラクのサダム・フセイン元大統領を拘束 12.23 重慶市開県の天然ガス田で掘削作業中にガス噴出。6 万 4000 人が緊急避難、1 万人が中毒症状を訴え死者 243 人 12.26 イラン南東部で M6.2 の地震発生。ケルマン州の古都バム付近に壊滅的被害。日干煉瓦の家屋 85%以上が倒壊。死者 4 万人以上と発表。古都城塞アルゲ・バム崩落、原形なし

2003（平成 15）年

土木一般	社会一般
12.13 名古屋地下鉄名城線（4 号線）・砂田橋～名古屋大学間開通. 2004.10 名古屋大学～新端橋間開通し地下鉄環状線となる 12.22 道路関係 4 公団民営化案が決定. 実施は 2005 年予定 12.24 東北電力, 新潟県巻町の巻原子力発電所の建設を中止 12.25 国土交通省・水資源開発機構が群馬県片品村に建設中の戸倉ダムの事業中止を決定. 水需要予測をもとに関係 4 機関が撤退をきめた直接工事の第 1 号, 2008 年完成予定で 271 億円を投入済み. 12.ー 東京港埠頭公社, 1965 年代に借用を開始した既存の大井コンテナ埠頭再整備事業を実施. 既設機能を保全しつつ推進 15m, 連結 7 パースに再編成. 予算 800 億円 12.ー 東京都西部の青梅・羽村・福生市を結び延長 7.3km, 内径 4～6m の多摩川流域下水道雨水幹線をシールド工法で施工 〔その他〕●台湾の高速鉄道, 台北～高雄間 345km, 日本の新幹線技術の協力のもとに 2005.10 開業に向け工事中 ●九州新幹線, 熊本～新矢代間の 2004.3 開業に向け最終調整中 ●京都市交通局, 高速鉄道東西線・醍醐～六地蔵間延伸工事 (2004.12 開通) にあたり複線断面矩形シールド (縦 6.5m, 横 9.5m) 753.2m を施工 ●北九州空港, 滑走路 2500m に延長工事中, 2006.3 完成予定	

注: 「土木一般」「社会一般」は、岡本義喬・为国孝敏が原案を作成して編纂した。